

所見 一見、掘立柱建物跡の柱穴覆土に近似するが、覆土中層に暗褐色土が入ることから、早期・条痕文期の土坑と判断した。

D256

検出地区 L5-96gにて検出した。

遺構 長軸1.20m×短軸1.20m×深さ0.28m、方位はN-5°-Wを測る。平面形は略円形で、トライ状である。坑底は比較的平坦であり、壁の立上りは垂直に近い。覆土は暗褐色土と黒褐色土が交互に、自然堆積していた。

遺物 条痕文片が若干出土する。1は胴部片で、外面斜位の条痕文を、内面は斜位の擦痕が認められる。2は口唇が円頭状で、外面の口縁部を剥ぐものである。3は尖底部で縦位の貝殻条痕文を施す。

所見 早期・条痕文片が主体を占めるが、遺構の形状や覆土色調などから早期の所産とは捉えにくい土坑である。所謂「トライ」状であり、覆土の色調が黒色味を示すことから、縄文時代でも新しい時期の所産ではないかと思われる土坑である。

D257

検出地区 L5-96gにて検出した。

遺構 4基の土坑の重複である。aは、長軸(1.12)m×短軸1.04m×深さ0.28m、方位はN-31°-Wを測る。平面形は楕円形である。

bは、長軸2.80m×短軸0.76m×深さ0.12m、方位はN-58°-Wを測る。平面形は隅丸長方形である。

cは、長軸1.28m×短軸0.92m×深さ0.44m、方位はN-57°-Eを測る。平面形は不整楕円形である。覆土中層にハイガイなどの貝ブロックを検出した。

dは、長軸(0.99)m×短軸0.72m×深さ0.20m、方位はN-57°-Eを測る。平面形は楕円形である。

遺物 全体から条痕文片を主体として30点余出土している。

所見 遺構の新旧関係は、覆土よりa・b・d→cと捉えられた。調査時においては4基とも早期・条痕文期と捉えた。

D258

検出地区 L6-6gにて検出した。

遺構 長軸1.20m×短軸0.84m×深さ0.12m、方位はN-2°-Wを測る。平面形は楕円形である。南壁から北壁に向かって緩やかに下る坑底であり、壁は丸みをもって立上っている。ロームを包含した覆土は、色調として2層に分けられ、暗褐色土と黒褐色土の自然堆積であった。

遺物 条痕文片が出土したが、稀であった。1は微隆起によって区画した中に沈線を施す条痕文片である。内面は斜位の条痕文を施文している。

所見 遺物から早期・条痕文期の所産と捉えるが、1層が黒褐色土であり判断に迷う土坑であった。形状としては炉穴に近いが、黒褐色土の覆土を有する条痕文期の遺構がほとんど本地区では検出されていないため、判然としない土坑であった。

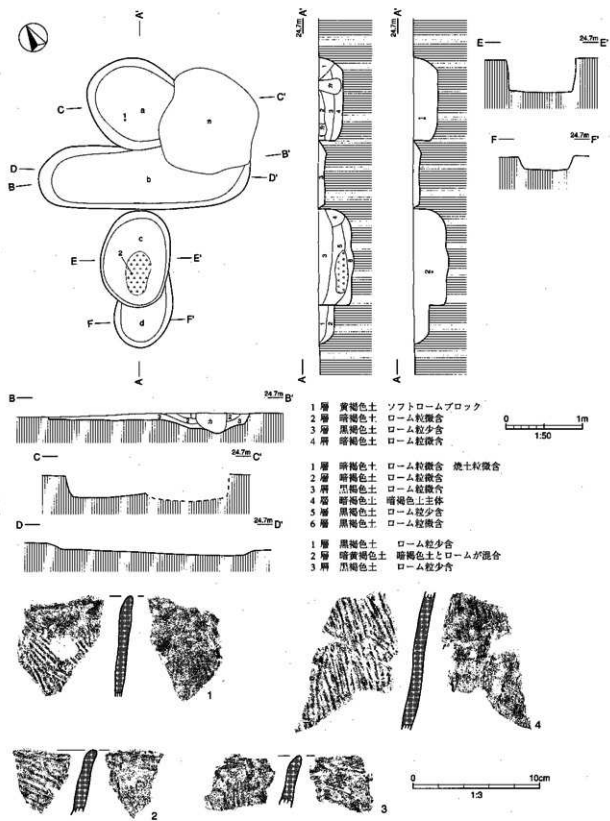
D259

検出地区 L6-16gにて検出した。

遺構 長軸0.76m×短軸0.60m×深さ0.16m、方位はN-25°-Eを測る。平面形は卵形である。坑底は平坦で、壁は斜めに立上っている。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 時期を知る遺物が出土しないため判然としないが、周辺の遺構状況などから早期・条痕文期の所産と捉えた。



- 1層 黄褐色土 ソフトロームブロック  
 2層 暗褐色土 ローム粒混含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含  
 4層 暗褐色土 ローム粒混含

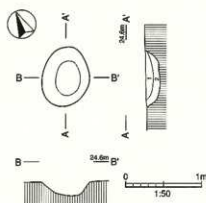


- 1層 暗褐色土 ローム粒混含 焼土粒混含  
 2層 暗褐色土 ローム粒混含  
 3層 黒褐色土 ローム粒混含  
 4層 暗褐色土 暗褐色土主体  
 5層 黒褐色土 ローム粒少含  
 6層 黒褐色土 ローム粒混含

- 1層 黒褐色土 ローム粒少含  
 2層 暗黄褐色土 暗褐色土とロームが混含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含

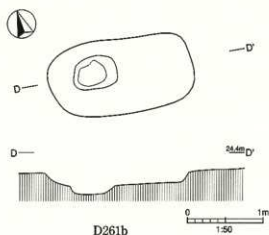


図125 D257

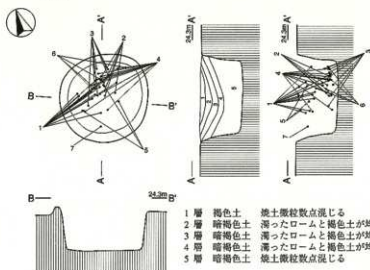


- 1層 暗褐色土 ローム粒微含  
2層 暗褐色土 ローム粒少含

D259

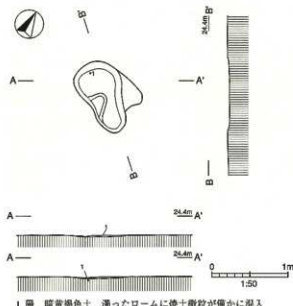


D261b



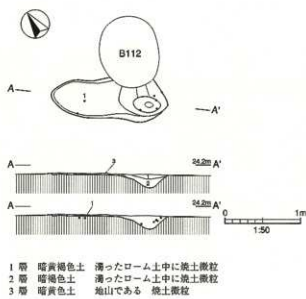
- 1層 褐色土 焼土微粒数点混じる  
2層 暗褐色土 濡ったロームと褐色土が均一に混合 焼土微粒数点混じる  
3層 暗褐色土 濡ったロームと褐色土が均一に混合 焼土微粒数点混じる  
4層 暗褐色土 濡ったロームと褐色土が均一に混合 焼土微粒数点混じる  
5層 暗褐色土 焼土微粒数点混じる

D263



- 1層 暗黄褐色土 濡ったロームに焼土微粒が僅かに混入

D266



- 1層 暗黄褐色土 濡ったローム土中に焼土微粒  
2層 暗褐色土 濡ったローム土中に焼土微粒  
3層 暗黄褐色土 地山である 焼土微粒

D267

図126 D259・D261b・D263・D266・D267

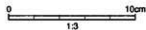
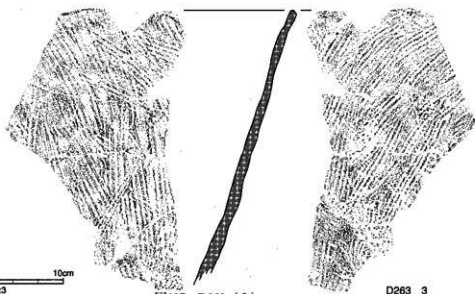
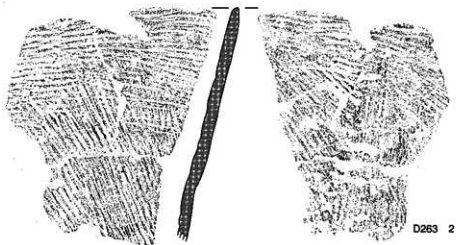
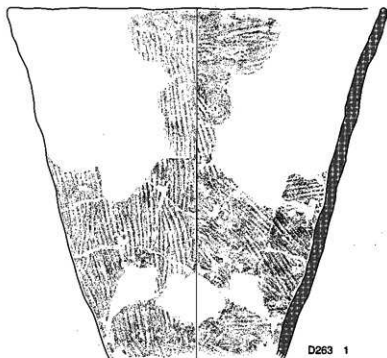
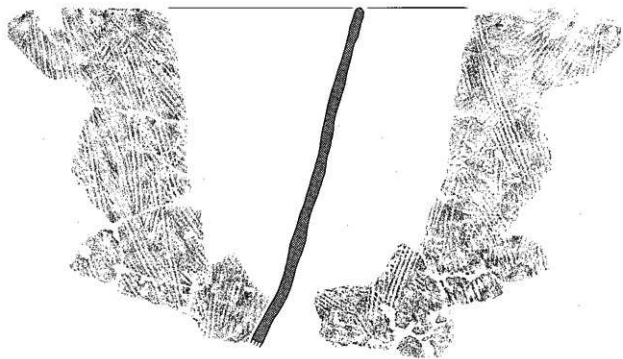


图127 D263 (2)



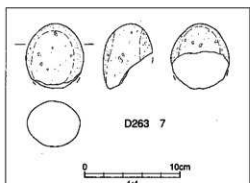
D263 4



D263 5



D263 6



D263 7



D266 1

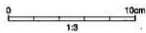


图128 D263 (3) · D266

## D260ab

検出地区 L6-16gにて検出した。

遺構 炉穴と重複した土坑である。

D260aは、長軸1.16m×短軸1.08m×深さ0.40m、方位はN-0°-Eを測る。平面形は不整形である。

D260bは、長軸1.56m×短軸1.15m×深さ0.32m、方位はN-45°-Wを測る。平面形は不整形である。

遺物 F242と混在しているが、ともに条痕文片を出土している。

所見 遺構の新旧関係はF242a・D260b→D260a→F242bと捉えられた。また、覆土などから時間差のあまりない土坑と捉えられ、D260abともに早期・条痕文期の土坑と判断した。

## D261b

検出地区 L5-89gにて検出した。

遺構 長軸1.88m×短軸1.00m×深さ0.20m、方位はN-85°-Wを測る。平面形は長方形である。遺物 出土しなかった。

所見 奈良・平安時代のD261aと重複している。調査時の把握では覆土がD261aと異なり、それ以前の遺構と把握されていた。また、縄文時代の遺構覆土に近似することから早期・条痕文期の所産と捉えた。

## D263

検出地区 L5-77gにて検出した。

遺構 長軸1.16m×短軸1.12m×深さ0.56m、方位はN-27°-Eを測る。平面形は略円形である。遺構検出面においてソフトロームに滲むように焼土を認めた土坑である。坑底は平坦であり、壁は垂直に近い立上がりであった。覆土は坑底直上層が、厚く堆積しており、中層から暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 150点余出土であり、出土状況は覆土下層と上層に大きく分かれていた。1～4は器形が窺える大型接合片であり、これら条痕文が出土の主体を占めていた。

所見 出土した遺物から早期・条痕文期の土坑と捉えた。しかしやや深みのあるタイ状の土坑であり、当該時期の所産であるか疑問の残るものでもあった。覆土5層が人為的投入土か自然堆積かは捉えきれなかったが、出土遺物から下層と上層に時期的な差は殆どないものと考えられる。

表11 D263遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	(300)×-(280) 外側 縦位 内面 不定方向の条痕文		外暗赤褐 内暗赤褐 青	繊維	口縁～ 胴部片	内面胴部下部に コゲ状付着物
2	縄文 深鉢	-×-×- 波状1線 内外面 縦位斜位の条痕文		全暗褐 青	繊維	口縁～ 胴部片	
3	縄文 深鉢	-×-×- 内外面 斜位の条痕文		外暗褐 内暗赤褐 青	繊維	口縁～ 胴部片	
4	縄文 深鉢	-×-×- 外面 斜位縦位の条痕文		全暗褐色 暗褐 青	繊維	口縁～ 胴部片	
5	縄文 深鉢	-×-×- 尖底 外面胴部 斜位縦位の条痕文 内面胴部 斜位の条痕文?		全暗褐 青	繊維	胴部～ 底部片	

6	縄文 深鉢	-×-×- 尖底 内外面 斜位縦位の条痕文	全蓋褐 暗褐色 良	繊維	胴部～ 底部片	
7	石器	長軸52×短軸46×厚さ36 重量96.1g 卵状を呈する一部に鋭い稜痕			1/2	磨石?

#### D264

検出地区 L5-67gにて検出した。

遺構 長軸(0.26)m×短軸0.44m×深さ0.04m、方位はN-17°-Eを測る。平面形は楕円形である。遺構の重複により、大きく損壊した土坑である。覆土は焼土が若干混入した、暗黄褐色土である。

遺物 F253と同一取り上げであり、条痕文片が若干出土している。

所見 炉穴と捉えきれないため、土坑としたものである。早期・条痕文期の所産と捉えている。

#### D266

検出地区 L5-77gにて検出した。

遺構 長軸1.00m×短軸0.60m×深さ0.02m、方位はN-51°-Wを測る。平面形は不整形である。遺構検出面のソフトロームに不明瞭だが、滲むように焼土が散布していた遺構である。完掘後は、僅かな凹みの土坑であった。覆土も、焼土の包含によって捉えたものである。

遺物 条痕文片が若干出土しており、1は丸頭状の口唇部を有する条痕文片である。太い貝殻条痕文を施し、外面は斜位に、内面は横位に施文している。

所見 土坑の基底のみが遺存した遺構である。遺物から早期・条痕文期の土坑と捉えた。

#### D267

検出地区 L5-68gにて検出した。B112と重複する。

遺構 長軸1.52m×短軸0.52m×深さ0.02～0.10m、方位はN-37°-Eを測る。平面形は長楕円形状である。やはり遺構検出面のソフトロームにおいて、滲むように焼土が広がっていた。全体は凹み状であるが、東壁側に坑底を掘込んだピットが検出された。覆土は、ソフトロームとの識別が難しかったが、焼土の混入などで捉えた。自然堆積である。

遺物 条痕文片が若干出土している。

所見 遺構確認状況から炉穴とすか、判断に迷った遺構である。しかし火床も検出されず、土坑として扱うこととした。出土遺物から早期・条痕文期の土坑と捉えた。

#### D269

検出地区 L5-91gにて検出した。

遺構 長軸1.16m×短軸0.76m×深さ0.28m、方位はN-60°-Eを測る。平面形は不整形円形である。坑底は波打つように凹凸があり、壁の立上がりは垂直に近くなっている。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

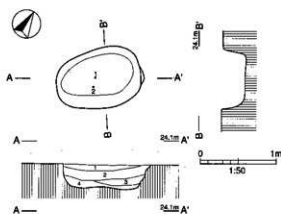
遺物 燃糸文・条痕文片が若干出土している。1は口縁が肥厚し、狭いが無文部をもつ燃糸文片であり、内面はケズリを行っている。2は外面は斜位、内面は縦位の貝殻条痕文を施文している。

所見 遺構検出面において滲むような焼土を認めたが、火床などは検出されなかった。遺物から早期・条痕文期の土坑と捉えた。

#### D270

検出地区 M6-1gにて検出した。

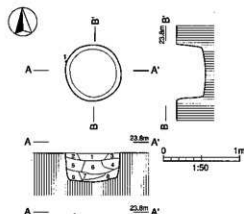
遺構 長軸0.72m×短軸0.72m×深さ0.32m、方位はN-5°-Eを測る。平面形は円形である。坑底は



- 1層 褐色土 褐色土と暗褐色土がほぼ均一に混合
- 2層 暗褐色土 褐色土と暗褐色土上混合
- 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の黒褐色土混合
- 4層 暗褐色土 暗褐色土と濁ったローム混合



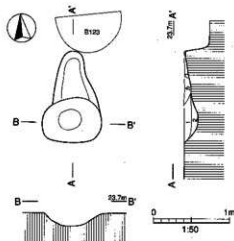
D269



- 1層 褐色土 褐色土主体
- 2層 褐色土 濁ったローム主体
- 3層 褐色土 濁ったローム主体
- 4層 褐色土 濁ったロームが少量の暗褐色土が混入
- 5層 褐色土 濁ったロームに若干の暗褐色土が混入
- 6層 暗褐色土 暗褐色土と濁ったローム少量が混入
- 7層 黒褐色土 暗褐色土に濁ったローム少量が混入
- 8層 褐色土 ロームと若干の暗褐色土が混入
- 9層 褐色土 濁ったローム主体



D270



- 1層 暗褐色土 濁ったローム少量 暗褐色土がほぼ均一に混合
- 2層 暗褐色土 濁ったローム主体

D271

図129 D269・D270・D271

平坦であり、壁はほぼ垂直に立上っていた。覆土はローム主体であり、人為的な堆積状況である。遺物 条痕文片が若干と、火熱を被った礫が出土している。1は、内外面とも斜位の条痕文を施したものである。

所見 掘立柱建物跡の柱穴か、縄文時代の土坑か判断に迷った遺構である。覆土の複雑な堆積状況から、柱を引抜いた柱穴かとも考えられるが、本地区の掘立柱建物跡の柱穴覆土はロームの多量の混在があまりないことなどから、縄文時代の土坑と捉えた。条痕文片が出土しているが、流込みと判断される。時期は不明である。ただ、奈良・平安時代の遺構の可能性あることを指摘しておきたい。

D271

検出地区 M5-92 gにて検出した。



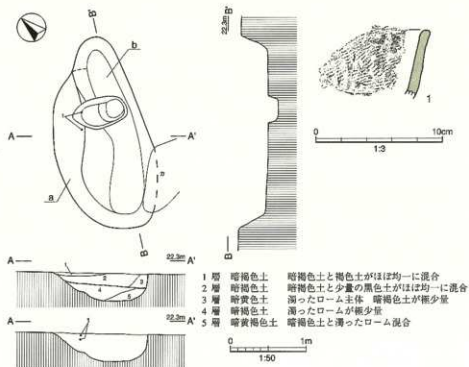


図130 D274

**遺構** 長軸1.16m×短軸0.56m×深さ0.16m、方位はN-5°-Eを測る。平面形は不整形である。掘込みは浅く、なだらかに北から南にむかって下る坑底であり、壁と坑底の区別がつかない土坑である。覆土は、黄褐色土主体の自然堆積であった。

**遺物** 条痕文片が出土しているが、稀であった。

**所見** 用途不明の土坑である。遺物や覆土から早期・条痕文期と捉えたが、形状から炉穴である可能性も指摘しておきたい。

#### D272

**検出地区** M6-11gにて検出した。(図はF292参照)

**遺構** D272 aは、長軸1.04m×短軸0.68m×深さ0.42m、方位はN-67°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

**遺物** 条痕文片が若干出土している。

**所見** 坑底に火熱痕も認められないなど炉穴として捉えられず、土坑とした。遺物や覆土の状況から、早期・条痕文期の土坑と捉えた。

#### D274

**検出地区** M6-32gにて検出した。

**遺構** 長軸2.56m×短軸1.20m×深さ0.36~0.48m、方位はN-36°-Eを測る。平面形は長楕円形である。2基の土坑の重複である。坑底は南北平坦であるが、東西は丸底状で、西壁の立上がりは垂直に近かった。覆土は、1~3層がa坑であり、4・5層がb坑に伴うものである。b坑の覆土はa坑によって掘込まれるが、いずれも基本は暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

**遺物** 条痕文片が若干と、弥生や土師器小片が出土している。1は、弥生の甕口縁片で外面は口唇から頸部にかけて附加条縄文を施文している。内面はナデが行われ、指頭圧痕が残る。頸部の括れの弱いものであった。

**所見** 埋没過程において掘込んだ土坑であり、覆土は1~3層、4・5層となっている。

## 第2節 弥生時代

上谷遺跡の弥生時代の遺構は、同一の舌状台地の北西側に所在する栗谷遺跡に比して少ない。これから報告する上谷遺跡Ⅳ地区においても9軒の竪穴住居跡の検出にとどまる。『上谷遺跡-第3分冊』にて報告したⅢ地区の4軒に比べれば増加しているものの、縄文時代早期の炉穴や奈良・平安時代の各遺構の検出数として見劣りがするものである。また、先述したようにⅣ地区北側に入り込む谷頭と南側の谷津に下り始める傾斜面との間に東西に帯状に広がる台地平坦面に、縄文時代早期の炉穴と奈良・平安時代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡と重複して存在するため、掘込みの浅く、規模の小さな遺構は失われた可能性も考慮しなければならないが、それでも全体として遺構検出が少ないことを指摘しておきたい。

弥生時代のⅣ地区における検出した遺構配置は図131に示したとおりである。主に標高23.4~24.4mにあり、一見、直線的に併行して竪穴住居跡が連なっているものである。平坦部でも高い地点からずれて、南側に下る谷頭に挟まれ地区に主に所在している。その中ではA221とA224が離れて所在している。

上谷遺跡では弥生時代の遺構は各地区とも少ないながらも、その地区ごとに纏まりを見せており、それぞれが隔絶した感の立地を選択しているようにも見える。Ⅳ地区の東側調査区であるⅢ地区との当該時期の遺構としての最短距離は、Ⅳ地区において最も東に位置するA207とは約65m離れている。Ⅱ地区とⅢ地区においては約270m離れており、この傾向を顕著に指摘できるものである。一方、今後に報告する予定であるⅤ地区においては竪穴住居跡を含めて弥生時代の遺構が検出されており、当該地区と関連する集落として捉えることが可能であると想定している。

なお、本地区では竪穴住居跡の検出のみで、土坑や方形周溝墓などの他の遺構は確認されなかった。以下、弥生時代の遺構について報告することとしたい。

### A184B

検出地区 L6-25gにて検出した。

遺構 長軸4.28m×短軸3.92m×壁高0.18m、主軸方位はN-71°-Wを測る。平面形は掘立柱建物跡や炉穴との重複が著しいため不明瞭であるが、円形であると捉えられた。これらの遺構との重複のため、遺構の遺存状況は悪く、規模の計測等は意識的に行っている。

本竪穴住居跡はソフトロームを浅く掘込み床としているが、住居跡の炉を中心に北西から南東にかけて帯状に床としての硬化面が認められる。また、床は住居跡中央にかけてやや低くなる傾向が窺えた。遺構の重複が著しいだけではなからうが、柱穴や厩津は検出できなかった。炉は住居跡中央からやや北西寄りに検出した。

覆土は、ローム・焼土を含む黒色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 本住居跡は炉穴が東壁に所在し、また、奈良・平安時代の掘立柱建物跡によって西壁から南壁側が失われており、遺構の掘込みも浅いこともあってか、遺物の出土は極端に少なかった。その中でも炉穴を壊しているためか、貝殻条痕文土器片が主体を占めている。

報告できる当該時期の遺物は、附加条縄文を施す甕の胴部片である4のみであった。

所見 本住居跡が縄文時代の炉穴を壊してつくられたように、奈良・平安時代の掘立柱建物跡によって住居跡西側の損壊を被り、壁の南側は検出不可能であった。このため調査時であっても、意識的に規模・形状を捉えた。遺物が少なく詳細な時期決定は難しく、弥生時代後期の住居跡であると報告しておく。



图131 上海崧泽遗址新石器时代遗存平面位置图

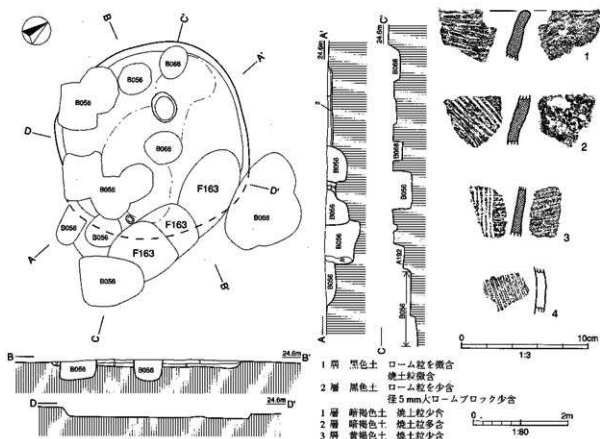


図132 A185

表12 A185遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	外面 撥痕状の条痕 内面 横方向を主とする貝殻条痕 口唇部形態は内削ぎ気味の角張状 平縁	明褐色 青	赤色スコ リア細粒 繊維	口縁片	早期後半 条痕文系土器 野島式か
2	縄文 深鉢	外面 斜め方向(右下がり)を主とする貝殻条痕 内面 僅かに条痕が見える(風化目立つ)	淡褐色 灰褐色 青	スコリア 細粒繊維	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野島式
3	縄文 深鉢	外面 条痕の上に縦位の集合沈線を引く 内面 横方向中心の貝殻条痕	外黒褐色 内茶褐色 青	スコリア 細粒繊維	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野島式
4	弥生 壺	外面 附加条縄文を施す 内面 ヘラナデ	淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒	胴部片	後期

A186

検出地区 L6-36gにて検出した。

遺 構 長軸5.81m×短軸4.76m×壁高0.47m、主軸方位はN-35°-Wを測る。平面形は丸みの強い隅丸方形状である。

ハードローム上部まで掘込み、床は暗褐色土が若干混入しているが、地床である。住居跡中央である4本の主柱穴間内は、良好な硬化面が残されていた。柱穴はP1~P4であり、調査において柱は立腐れているものと捉えられた。P5は出入口施設に伴うものと捉えた。壁柱穴は16基検出し、その他に浅い皿状のピットも認めた。周溝は検出されなかった。炉は、P1・P2の中間に設けられていたが、不整楕円形の

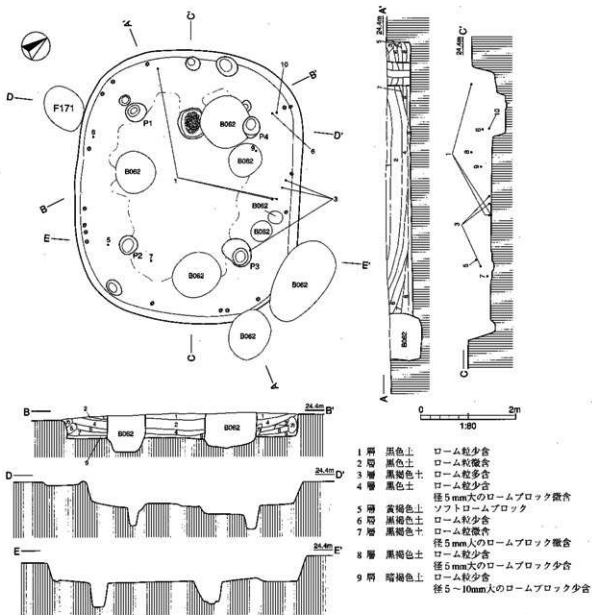


図133 A186

凹凸ある掘込みをもつ炉跡であった。火床の赤化は強く、長期間の使用が窺われた。

覆土は、大きく床直上に暗褐色土、覆土下層は黒褐色土、中層～上層は黒色土が自然堆積したものであった。

遺物 全出土量が30点余りと少ないが、住居跡南西側がやや多く出土する傾向が窺われた。そのなかでも、縄文時代早期の条痕文片の出土が比較的多かった。また、須恵器の小片等も出土している。図示した遺物の中で本遺構に関わるものは4である。1は一部が床面から出土しているが、奈良・平安時代の掘立柱建物跡の柱穴によって混入した遺物である。

所見 B002と重複するため、遺構の遺存状況は悪かった。出土する遺物は少なかったが、弥生時代後期の所産と捉えた。

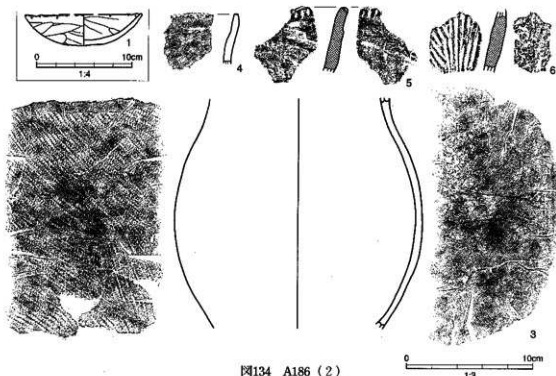


図134 A186 (2)

表13 A186遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色 素 成	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	(8.4) × - × 3.4 手づくねに近くやや扁平な半球形 体部外面はヘラ削り後ヘラナデ 内面はヘラナデ	淡褐色 暗褐色 青	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 1/4	
3	弥生 甕	- × (196) × - 胴中に最大径 外面 附加条縄文を施文 オコゲが付着 内面 ハケナデ 彫削剥落目立つ	外淡褐色 内暗褐色 良	花崗岩 スコリア 粗粒	胴部 の大破片	後期
4	弥生 甕	外面 口縁はナデ頸部はヘラ削り 輪襷痕 内面 ナデ 口唇上にキザミあり	外黒褐色 内淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁片	後期
5	縄文 深鉢	内外面 棒痕状の条痕 口唇部形態は角頭状 口唇上にキザミ波状線か	暗褐色 青	繊維 スコリア 細粒	口縁片	早期後半 条痕文系土器 了母口式か
6	縄文 深鉢	外面 斜め方向(右下がり)を主とする貝殻条痕 内面 棒痕状の条痕	橙褐色 暗褐色 青	繊維 スコリア 粗粒	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野鳥式か

#### A191

検出地区 L6-48・58gにて検出した。

遺構 長軸4.84m×短軸3.98m×壁高0.63m、主軸方位はN-54°-Wを測る。平面形は丸みの強い隅丸形状である。

ハードルームまで掘込み地床としている。住居跡中央である4本の主柱穴間内の床は、良好な硬化面が残されていた。主柱穴はP1～P4である。柱は調査において引抜かれたものと捉えられた。また、引抜くために、柱穴跡の床を掘込んだためか、柱穴の断面形は坑底から住居跡床にかけて大きく開口するものとなっていた。壁柱穴は12基検出された。炉はP1・P4の中間に設けられ、極めて浅い凹み状のものであ

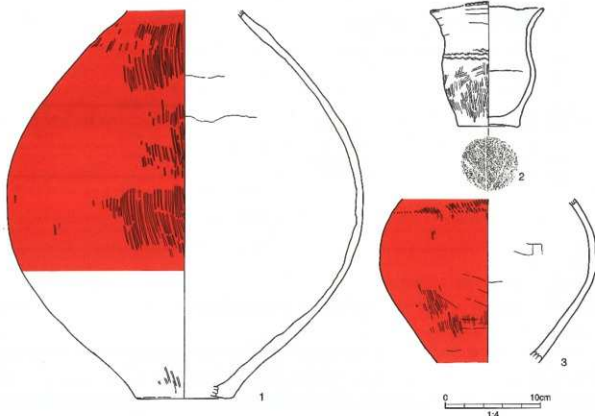
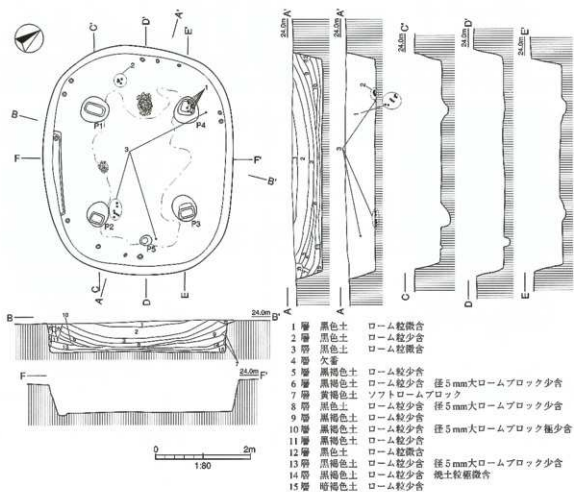


图135 A191

火床の状態になったものを検出した。掘込みもなく床面上で比較的長期にわたって火の使用を行っていたようである。

覆土は、ローム粒の包含などで分層した。覆土下層から中層は黒褐色土、上層は黒色土をそれぞれ主体とした自然堆積であった。

遺物 40点余と出土は少なく、主に覆土中層から下層にかけての出土である。弥生土器片とともに縄文時代早期・条痕文片も少量出土している。1はP4の覆土中層から出土した。2の小型甕は横倒しの状態で床面から出土している。

所見 出土遺物から弥生時代後期の所産と捉えた。

表14 A191遺物観察表

(単位mm)

No	種別	法量	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 壺	-	×(102)×(412) 輪積み 胴やや下半に膨らみをもつ 外面 胴部-ナデ後ヘラミガキ 内面 胴部上半ナデ? 下半-器面磨耗 ト灌-輪積み痕有り	暗褐色 悪	粗砂粒	1/2	赤彩 胴下半まで
2	弥生 小型甕	118×63×133	輪積み 底部 不要痕 外面 口縁-口唇組み口 輪積み痕3段 胴部-ナデ 胴部上半 結節(位置により) 2~4段 下半下端ヘラケズリ後一部ヘ ラミガキ 内面 口縁ナデ 胴部上半ヘラナデ 下半一部輪積み痕 -×-×(175)	暗褐色 善	砂粒	略完形	外面 コゲ状付着物
3	弥生 壺	-	胴中位が膨らみ下端に向けてすぼまる 外面 胴部 上半R L単筋縄文 下半ヘラケズリ 下端ヘラミガキ 内面 ヘラナデ	外橙褐色 内明褐色 善	砂粒	胴部片	外面少量 スス付着

#### A192

検出地区 L6-57・58gにて検出した。

遺構 長軸3.24m×短軸2.93m×壁高0.15~0.18m、主軸方位はN-40°-Wを測る。平面形は略円形である。

ソフトロームに暗褐色土か混入しているが、ロームの地床である。床面には硬化面を捉えることはできなかった。主柱穴は不明瞭であるが、P3・P4が柱穴の様子を示していた。壁柱穴や周溝は検出できなかった。P1・P2も浅いものであるが、配列上柱穴と考えられる。炉は、住居跡中央よりやや西壁寄りのP3・P4の中間に設けられていた。炉跡には焼土粒が認められたが、火熱痕も認められず、火床は確認できなかった。

覆土は、黒色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 出土遺物は極めて少なかった。少ない出土遺物であるが、覆土中層から上層が多く、また、全て住居跡西半からの出土であり、東半からの出土は認められなかった。本遺構に関わる遺物は1~3であり、いずれも附加条縄文を施した甕の胴部片であった。住居廃絶後の埋没過程において4の上師器高台付坏や5の縄文早期条痕文片が出土している。

所見 P3・P4の中間に炉跡が検出されたことや掘込みなどから、調査時においてP3・P4を主柱穴とした堅穴住居跡であり、P1を出入口施設に伴うピットと捉えた。柱穴配置上、不規則ではあるがP1・P2・P3・P4を柱穴とした方が妥当かと思われる。



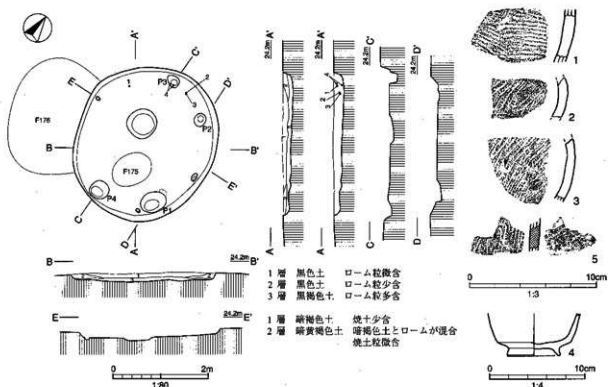


図136 A192

表15 A192遺物観察表

(単位:mm)

No	種別 器形	法量 11径×底径×器高	色調 焼成	胎上	遺存	備考
1	弥生 壺	-X(102)×(412) 輪積み 胴や下丁に影らみをもつ 外面 胴部一ナア後ヘラミガキ 内面 胴部上下ナア? 下キ一器割磨耗 下端一輪積み痕有り 118×63×133 輪積み 底部 木葉痕	暗褐色 墨	粗砂粒	1/2	赤影 胴下半まで
2	弥生 小型壺	外面 11縁一門割刻み目 輪積み痕3段 頸部一ナア 胴部上半 結節(位置により) 2~4段 下半下端ヘラケズリ後一部ヘ ラミガキ 内面 口縁ナア 胴部上半ヘラナア 下半一器輪積み痕	暗褐色 青	砂粒	略定形	外面 コグ状付着物
3	弥生 壺	-X-X(175) 胴中位が影らみ下端に向けてすはまる 外面 胴部 上半R.L.単節縄文 下半ヘラケズリ 下端ヘラミガキ 内面 ヘラナア	外橙褐色 内暗褐色 青	砂粒	胴部片	外面少量 スス付着

A205

検出地区 L5-64・65・74・75gにわたって検出した。

遺 構 長軸8.00m×短軸6.44m×壁高0.61m、主軸方位はN-35°-Eを測る。平面形は丸みの強い大型の隅丸長方形である。

床はハードロームの地床であり、住居跡中央の主柱穴間内に硬化する面を認めた。柱穴はP1~P4が主柱穴であり、P8・P9は支柱穴となっている。P5は出入口に伴うビットであり、P6・P7は用途不明である。主柱穴の覆土は暗褐色土中にロームを微含しており、調査において柱は引抜かれたものと捉えられた。周溝・壁柱穴などは確認できなかった。炉はP1・P4との中間に設けられ、凹み状の浅いビットであり、坑底には赤化した火床が検出された。

覆土は、黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺 物 130点余の出土であり、弥生時代の住居跡としては出土した遺物は多かった。しかし縄文時代早期の捺糸文や条痕文片が多く、当該時期に関わる遺物は少なかった。

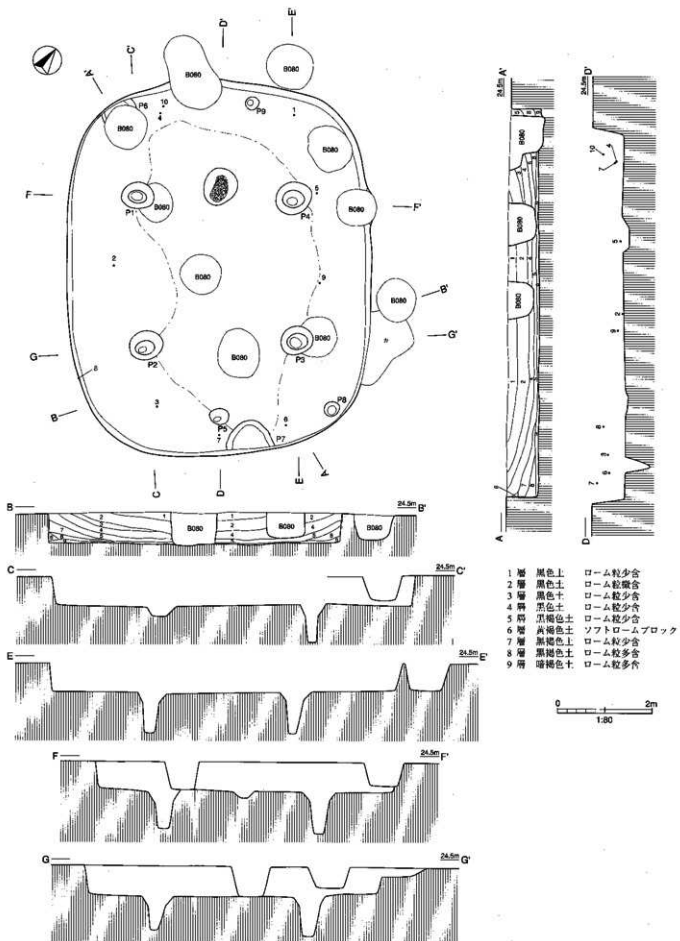


図137 A205

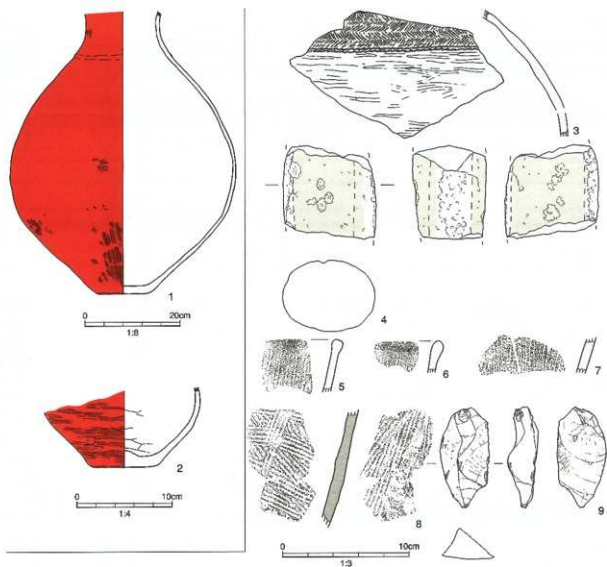


図138 A205 (2)

1は、重複する掘立柱建物跡から出土しているが、掘立柱建物跡による攪乱によって移動したものであろう。所謂、南関東系の壺である。2は大型壺の底部であり、床面から正位で出土している。5～9は流れ込みの遺物である。5～7は燃糸文、8は条痕文片である。8は黒曜石の剥片であった。  
 所見 住居跡としては、大型の竪穴住居跡である。

表16 A205遺物観察表

(単位mm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 大型甕	一×104×(608) 最大径 胴部中位(480) 器面の摩耗剥離が著しい 口縁一部部にヘラミガキ一部残存 胴下部はハケ後ヘラミガキか 内面 胴部上半ナデ?	橙褐色 黒	砂粒 小石	3/4	赤彩 外面全体?
2	弥生 甕	一×700×(890) 底部内面中央が盛り上がる 内面 胴部下半ヘラナデ 外面 胴下半～下端 ヘラケズリ 後ヘラミガキ	外暗褐 内明褐 良	屑 底部片 1/2		赤彩外面 外面スス付着
3	弥生 甕	外面 上半 結節1段残存・RL+LRの羽状縄文→結節2段→ハケ のちヘラミガキ 内面 ヘラナデ	橙褐 やや黒	粗砂粒多	胴部片	
4	石器	長軸75×短軸73×厚さ57 重量471.9g 断片のため全体として長楕円形 を呈するのか棒状であるのか不明 体部内面に複数の凹みを有する 両 側面にも顕著な敲打痕を有しており、また体部の一部に摩痕がみられる など他面的な用途をうかがわせる			断片	凹石

## A208

検出地区 L6-49gにて検出した。

遺構 長軸8.84m×短軸6.72m×壁高0.60～0.64m、主軸方位はN-60°-Wを測る。平面形は小判形であり、規模の大きな竪穴住居跡である。覆土最上層と南壁には、奈良・平安時代の土坑が重複している。

床は、ハードルームの地床であるが、主柱穴間内は暗褐色土が若干混入しており、全体としてやや軟弱な床となっていた。主柱穴はP1～P4であり、P5は出入口の施設に伴うものと捉えた。主柱穴は床面から0.64～0.72mと深さは一様ではないが、0.66～0.68mが近似的な柱穴の深さであった。壁柱穴・周溝は検出されなかった。炉は、P1・P4のおおよそ中間に設けられ、凹み状の浅いものであった。床面での炉の検出確認では焼土を認められなかったが、坑底中央から炉の北壁側にかけて赤化した火床を検出した。

覆土は、床から大きく捉えると暗褐色土、黒褐色土と黒色土の順に自然堆積によって形成されていた。

また、規模不明であるが、本住居跡の覆土最上層に奈良・平安時代の土坑が重複している。

遺物 110点余の出土である。出土傾向については、特に傾向はみられなかった。奈良・平安時代の竪穴住居跡と重複するため、土師器・須恵器片の混入も認められた。また、縄文時代早期の条痕文片や石器が出土している。当該時期の遺物の出土は少なかった。

1は炉と西コーナーの中間において、床からやや高く横位で出土している。2は東壁際に床から少し浮いて横位で出土している。

所見 大形の竪穴住居跡である。時期を捉えるための土器片の出土が極めて少なく、不明確とならざるを得ないが、大型蛤刃石斧などの出土から、弥生時代中期・宮ノ台期の所産であろうか。また、奈良・平安時代の土坑などの新旧関係は、A208→D239→D240と捉えられた。

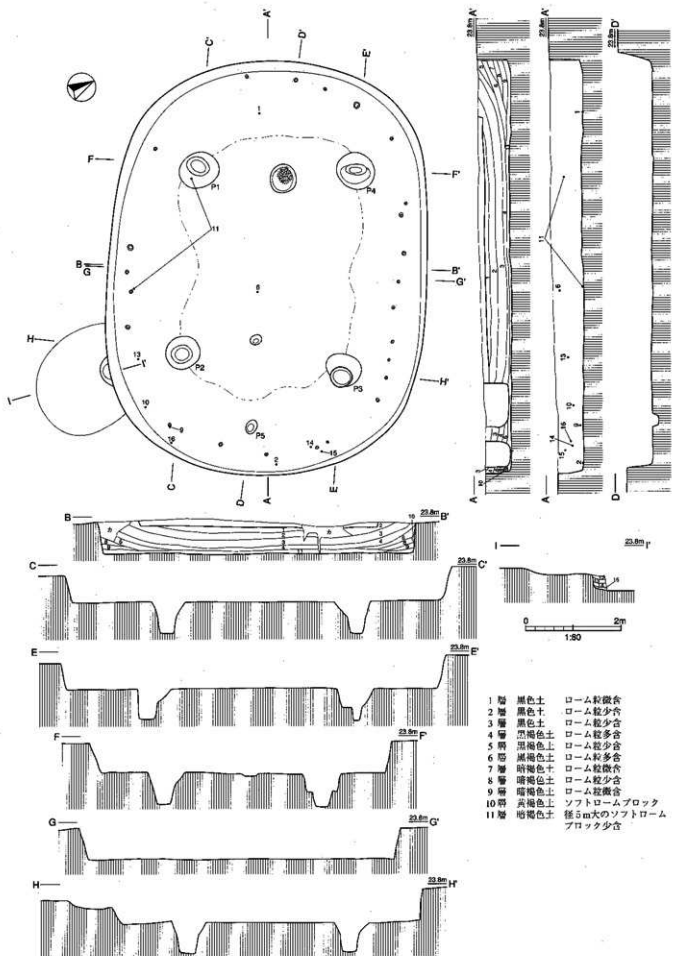


図139 A208

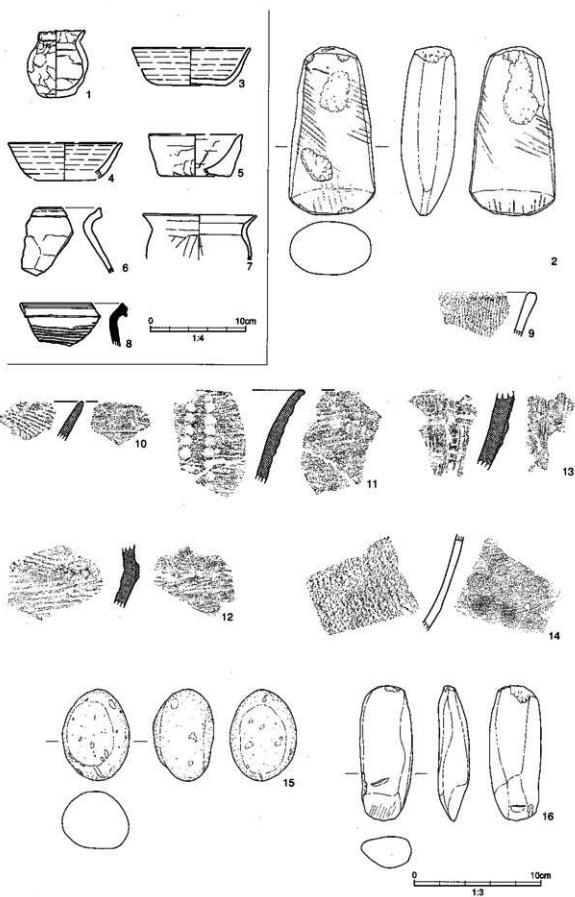


图140 A208 (2)

表17 A208遺物観察表

(単位mm)

No.	種別 器形	法蓋 成・形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土 遺存	備考
1	弥生 ミニチュ ア 甕	(46)×35×72 外面 口縁輪痕を残す 頸部上端に刻み目 胴上半一指及びヘラによるナデ 内面 指及びヘラによりナデられるが輪痕の跡が残される	暗褐色 良	砂粒	略完形
2	石器 大型鉾 刃石芥	長軸135×短軸66×厚さ31 重量642.0g 基部が円基 刃部が幅広い長台形状を呈す大型鉾刃石芥 断面は随円形を呈し厚手の作りである 基部一側縁を中心に敲打痕が顕著 刃部磨耗			略完形
3	土師器 環	(123)×70×40 ロクロ成形 体部下端に丸みもち外傾 底部中央回転糸切り後回転ヘラケズリ	明褐色 普	砂粒	2/3
4	土師器 環	(118)×(60)×(40) ロクロ成形 体部下端に丸みもち 口縁一上頰やや外反	橙褐色 普	砂粒	口縁～ 体部片
5	土師器 鉢	(98)×(70)×44 手づくね 外面 口縁-ヨコナデ 頸部 体部-ヘラ及び指源によるナデ 上半ナ デ 内面 口縁-ヨコナデ 頸部 体部-ヘラナデ 底部木葉痕	暗褐色～ 橙褐色 良	砂	1/4
6	土師器 甕	-X-X- 口縁上端つまみ上げられる 口縁外面凹線状の調整 外面 口縁 頸部-ヨコナデ 上半-ヘラナデ 内面 口縁 頸部-ヨコナデ 上半-ヘラナデ	暗褐色～ 橙褐色 やや悪	粗砂粒 多	口縁片
7	土師器 小型甕	(118)×-(48) 口縁外反 頸部「く」の字状 外面 口縁 頸部-ヨコナデ 胴部上半-ヘラケズリ 内面 口縁 頸部-ヨコナデ 胴部上半-ヘラナデ	橙褐色 普	砂粒	口縁片
8	須恵器 甕	-X-X(46) 口縁外反 外面 口縁 頸部-ヨコナデ 胴上半-平行タタキ 内面 口縁 頸部-ヨコナデ 胴上半-ヘラナデ	暗灰褐色 良	粗砂粒 多	口縁片
9	縄文 深鉢	-X-X- 口唇 肥厚し内削ぎ状を呈する 燃系文	外褐色 内明褐色 普	粗砂粒 多	口縁片
10	縄文 深鉢	-X-X- 外面 口縁斜位 縦位の条痕文 内面 口縁ナデ	橙褐色 普	繊維	口縁片
11	縄文 深鉢	-X-X- 口唇刻み? 縦位の条痕文施文後ナデか、のち貝殻の殻表による圧痕文を縦位に残存で2列配される。 内面の横位の条痕文施文後にナデか。	橙褐色 普	繊維	胴部片
12	縄文 深鉢	-X-X- 横位の条痕文施文後屈曲部に貝殻に殻表片痕を連続施文した隆帯を張り付ける 内面は横位の条痕文	暗褐色 普	繊維	胴部片
13	縄文 深鉢	-X-X- 胴部縦位の条痕文施文後、後縁状に刻みを施す 隆帯と縦位に貼り付け隆帯に沿って及び隆帯から横に竹管状工具による押し引きがされる 内面は縦位の条痕文	暗褐色 普	繊維	胴部片
14	縄文 深鉢	-X-X- 外面 燃系文 内面 ヘラミガキ	暗褐色 良	砂粒	胴部片
15	石器 磨石?	長軸71×短軸53×厚さ47 重量247.4g 随円形を呈し厚手の作り 全体に弱い磨痕がみられる			完形
16	石器 片刃磨石 石芥	長軸108×短軸41×厚さ20 重量177.3g あまり定型的とは言えないが棒状の礫の一端に片刃がつけられている 刃部は磨痕が顕著であるが弱い磨痕はほぼ全面に及んでいる 基部には敲打痕を残す			完形

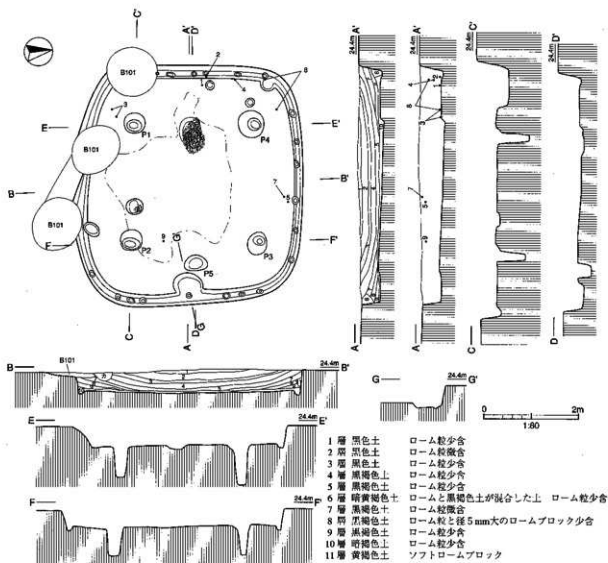


図141 A213

#### A213

検出地区 L6-7・17gにて検出した。

遺構 長軸5.08m×短軸4.68m×壁高0.36m、主軸方位は-83°-Wを測る。平面形は丸みの強い隅丸方形である。また、B101と重複している

床はハードロームの地床であり、主柱穴間には良好な硬化面が残されていたが、硬化面の中央は損壊していた。また、住居跡西側の炉脇から壁まで、床面は一段高くなっていた。主柱穴はP1・P2・P3・P4の4本を検出し、出入口施設に伴うものとしてP5を捉えた。柱穴は坑底に比し、床面上が開くものである。主柱穴の平均的な深さは0.60~0.66mであり、P4のみ0.84mと深かった。周溝は、全周していたが、壁柱穴は確認できなかった。炉は、P1・P4の中間に検出した。凹凸のある凹み状の炉で、坑底から炉の南側床面まで赤化した火床であった。覆上は、黒色土主体の自然堆積であった。

遺物 約60点の出土をみた。出土は縄文時代早期の条痕文片の出土が多く、土師器・須恵器片や鉄滓も出土している。覆土中層から上層にかけての出土が多い傾向があった。1・2は壺の口縁部片で輪積み痕を残したものである。3~7は壺の胴部片であり、附加条縄文を施文しているものである。

所見 重複する遺構との新旧関係は、A213→B101と捉えられた。



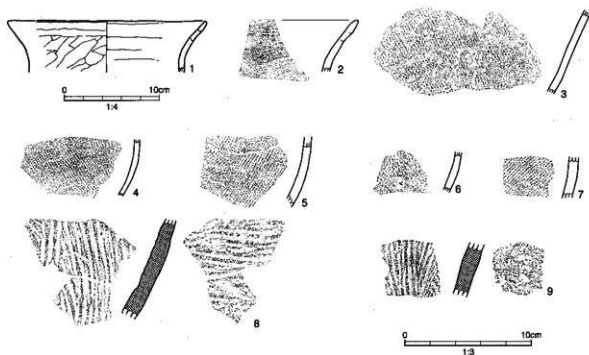


図142 A213 (2)

表18 A213遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 甕	-X-X- 口縁は外反して立ち上がり口唇上にキザミを有する 口縁外面はケズリ後ナデ輪積痕を残す胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデか	外茶褐色 内淡褐色 良	花崗岩 スコリア 細粒	口縁~ 胴上部	
2	弥生 甕	-X-X- 口縁外反して立ち上がる口唇上にキザミを有する 口縁外面はケズリ後ナデ 輪積痕を残す 内面はナデか	外茶褐色 内淡褐色 良	花崗岩 スコリア 細粒	口縁片	
3	弥生 甕	-X-X- 外面はケズリ後付加条縄文を施文 内面はケズリ後ミガキ オコゲ等付着	外暗褐色 内黒褐色 良	長石類 スコリア 細粒	胴部片	
4	弥生 甕	-X-X- 外面は付加条縄文を施文 オコゲ等付着 内面は極めて細かいヘナデ	外淡褐色 内茶褐色	長石類 赤色スコリア	胴部片	
5	弥生 甕	-X-X- 外面は付加条縄文を施文 内面は器面剥落多く不明	暗褐色 青	砂多量 赤色スコリア 細粒	胴部片	
6	弥生 甕	-X-X- 外面は付加条縄文を施文 オコゲ付着 内面は器面剥落多く不明	外黒褐色 内橙褐色 良	砂多量 赤色スコリア 細粒	胴部片	
7	弥生 甕	-X-X- 外面は付加条縄文を施文 内面は器面剥落多くしている	暗褐色 青	長石類 スコリア 粒	胴部片	
8	縄文 深鉢	内外面 斜め方向(右下がり)が主の貝殻条痕 照体はアナタラ属でも大形種(アカガイ等)	外赤褐色 内橙褐色 良	砂多量 赤色スコリア 細粒	胴部片	
9	縄文 深鉢	外面 縦方向を主とする貝殻条痕 内面 器面剥落及び荒れ目立ち不明	外橙褐色 内暗褐色 良	長石類 スコリア 細粒	胴部片	

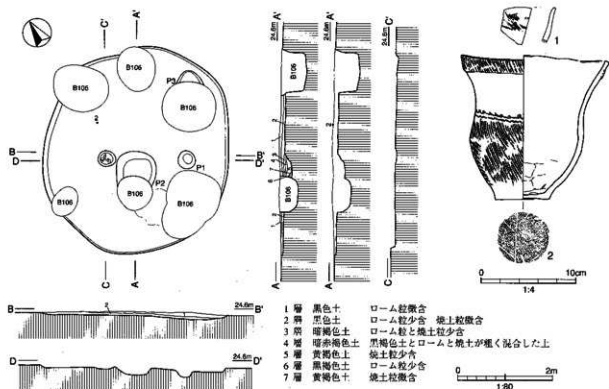


図143 A214

A214

検出地区 L5-6・7gにて検出した。

遺構 長軸4.48m×短軸4.32m×壁高0.16m、主軸方位はN-51°-Eを測る。平面形は不整楕円形である。B106と重複しているため、壁及び床面の損壊が大きい遺構である。

床はソフトロームに少量、黒色土が混入したものである。全体的に硬化面を有していたと考えられるが、重複のため、住居跡南東コーナーに硬化面が残されているのみであった。床にピットが3基検出されたが、いずれも床から0.13mの深さであり、柱穴と捉えられなかった。また、壁柱穴・周溝も検出されなかった。炉は住居跡中央よりやや西寄りに、凹み状の炉として検出された。若干凹凸のある坑底には強く赤化した火床が認められた。覆土は、黒色土主体の自然堆積であった。

遺物 出土は極めて少なかった。縄文時代早期の条痕文や土師器などの小片も出土している。2は炉の北側の床から横位の状態で出土した。また、土師器の黒書土器はB106に伴うものかもしれない。

所見 床面から出土した壺から、弥生時代後期の竪穴住居跡と捉えた。

表19 A214遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	注記 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	雲母 スコリア 細粒	口縁片	黒書 「竹野」 体部外面
2	弥生 小型壺	154×57×154 折り返し口縁 外面 口縁、口もと付加条縄文 頸部-ヨコナデ 胴部-上半結節2段 ~付加条縄文 下端-ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 底部-木葉痕	外暗橙褐色 内橙褐色 善	砂粒	略完形	

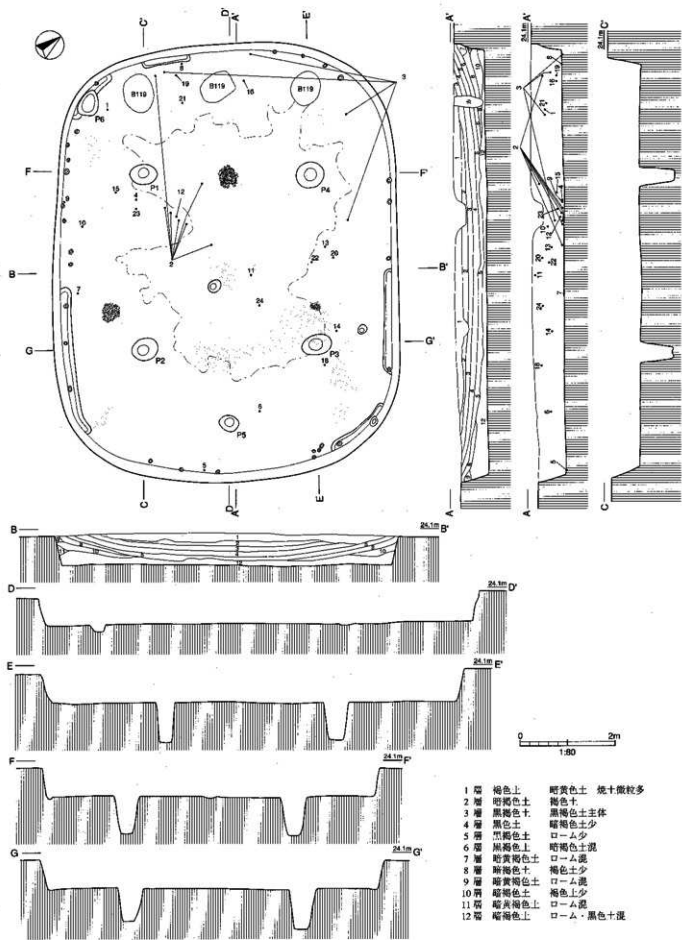


图144 A221

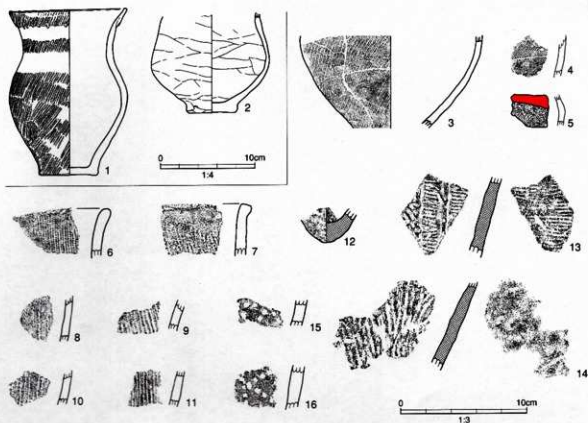


図145 A221 (2)

A221

検出地区 M5-71・81gにて検出した。

遺構 長軸9.28m×短軸7.28m×壁高0.40～0.48m、主軸方位はN-54°-Wを測る。平面形は丸みの強い隅丸長方形である。B119と重複する、大形の竪穴住居跡である。

床はハードロームの地床で、全体的に硬化はするが特に硬化が強いところは認められなかった。主柱穴はP1～P4の4基が検出され、出入口施設としてP5を捉えた。壁柱穴は30基を検出し、壁際に断続的な周溝を捉えた。炉はP1・P4の中間に凹み状のものとして検出した。赤化した火床は、炉の坑底から床周囲に広がっていた。また、P2の西側に床面が赤化したものが認められた。床面に火熱を被り、火床化したものである。床面状には住居跡壁際を中心に、焼土が堆積していた。

覆土は、下層から中層は暗褐色土、中層から上層は黒褐色土を主体とする自然堆積であった。なお、覆土上層には、焼土が含まれていた。

遺物 200点余の出土であったが、弥生土器の出土は少なかった。本住居跡に係わるものとしては1～5である。しかし1は覆土中層から出土していた。2・3は器形を窺えるものであるが、大半は小片であった。6～11は燃糸文であり、12は尖底部、13・14は条痕文片であった。15・16は所謂ネガティブ押型文である。

所見 本地区でも当該時期の竪穴住居跡としては、大型の住居跡である。B119との新旧関係はA220→B119となっている。

表20 A221遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 壺	125×63×176 外組し折り返し口縁胴中位が張り底部に向けてすぼむ 外面 口縁口唇とも附加糸縄文 下端刻み目 頸部上位に付加糸を残しナデ 胴部附加糸縄文 内面 口縁ヨコナデ胴部上半ヘラナデ	暗褐色 良	粗砂粒多 雲母	4/5	
2	弥生 小形壺	—X—54×(105) 胴部上半が膨れる底部は台状をなす 外面 頸部一部輪横痕?胴部上半ヘラナデ胴部下端底部ヘラケズリ 内面 胴部上半ヘラナデ	暗褐色 普	砂粒 雲母	胴部～ 底部片	外面少量の コゲ状付着物
3	弥生 (後期) 壺	—X— 外面 付加糸第一種 内面 ヘラケズリ後 ヘラナデ下部にスス状のこびり付きあり	淡褐色 良	砂粒 スコリア	胴部片	
4	弥生 壺	—X— 外面 胴部羽状縄文 赤彩を施す 内面 胴部ミガキ	淡褐色 普	長石類粒	胴部片	
5	弥生 壺	—X— 外面 胴部中位赤彩と縄文を帯状施文 内面 胴部中位ミガキもしくはヘラナデ(撫でつけ)	淡褐色 普	長石 雲母類粒	胴部片	
6	縄文 深鉢	—X— 尖底上唇 外面 口縁頸部胴部上半11線直下より施文 内面 器面荒れている	外茶褐色 内暗褐色 良	砂粒 スコリア	11線片	
7	縄文 深鉢	—X— 外面 口唇部外厚し口縁下に狭少な無文帯を形成する頸部以下は2段R Lを縦位に密接施文する 内面 ヘラケズリ ケズリ調整	外橙褐色 内淡褐色 良	細砂長石 微細粒 赤色 スコリア	胴部片	
8	縄文 深鉢	—X— 糸周の疎らな熟赤R施文後にミガキ 外面 胴部中位熟赤R 内面 胴部中位ヘラケズリ	外橙褐色 内橙褐色 良	細砂長石 微細粒	胴部片	
9	縄文 深鉢	—X— 外面 胴部上半熟赤Rの条間密接施文 内面 胴部上半ケズリか	茶褐色 良	細砂赤色 スコリア	胴部片	
10	縄文 深鉢	—X— 外面 胴部上半R Lの縦位施文 内面 胴部上半ケズリ後ミガキ	暗褐色 良	細砂 微密	胴部片	
11	縄文 深鉢	—X— 外面 胴部熟赤Rの条間密接施文 内面 胴部ケズリ後ミガキか	暗褐色 良	細砂 スコリア 微粒	胴部片	
12	縄文 深鉢	—X— 外面 底部底縁熟赤R	外茶褐色 内黒褐色 普	砂スコリア ア長石類 微細粒やや 日立つ	底部片	
13	縄文 深鉢	—X— 外面 頸部胴部上半横方向の糸痕隆帯付 内面 頸部横方内の貝殻条痕	淡褐色 良	細砂 繊維少	胴部片	
14	縄文 深鉢	—X— 外面 胴部下半下縁斜め方向の主の貝殻条痕のみ 内面 貝殻条痕後ナデで滑す	橙褐色	長石類ス コリア黒 色粒了や や日立つ	胴部片	
15	縄文 深鉢	—X— 外面 ネガティブ押型文による意匠(ユニオンジャック状か) 胴部 内面 胴部縦方向のヘラケズリ後にミガキ	外橙褐色 内暗褐色 良	砂スコリア ア細粒	胴部片	ネガティブな押 型文を施文
16	縄文 深鉢	—X— 外面 ネガティブ押型文による意匠(ユニオンジャック状か) 胴部 内面 胴部縦方向のヘラケズリ後にミガキ	外橙褐色 内暗褐色 良	砂スコリア ア細粒	胴部片	ネガティブな押 型文を施文

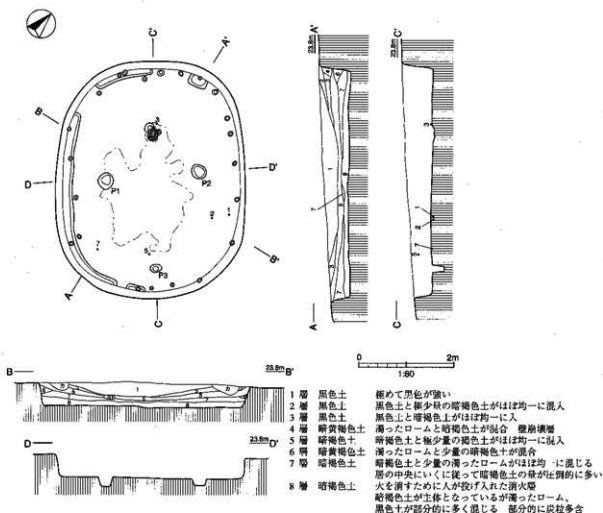


図146 A223

A223

検出地区 M6-1gにて検出した。

遺 構 長軸6.03m×短軸3.99m×深さ0.48m、方位はN-48°-Wを測る。平面形は小判形である。床はハードロームの地床で、全体的に硬化していた。柱穴はP1・P2を主柱穴として捉えた。調査において、主柱穴の柱は引抜かれていたことを捉えた。P3は出入口に伴うものであろう。壁柱穴は22基を認めた。周溝は、住居跡の南西壁側にのみ断続的に検出し、東半にはなかった。炉跡は、住居跡中央から北西壁寄りに1/2程度寄って設けられていた。坑底凹凸があるが、凹み状の炉であった。

覆土は、住居跡絶時に不材の焼却が窺え、消火によるものなのか床直上層は人為投入土であった。それ以降は暗褐色土及び黒色土の自然堆積である。床面には炉跡以外に火熱痕が残っていた。また、若干であるが、焼上の散布も認められた。

遺 物 70点余の遺物が出土したが本住居跡に関する遺物は少なく、縄文の燃糸文や条痕文片が多かった。1の壺は床直から横倒して、2の小型壺はやはり床面から倒置の状態で出土している。2点とも底部を欠き、人為的に抜かれているようであった。3～6は縄文早期・条痕文片であり、流込みと捉えた。また、7の石皿は当該時期のものか捉えられなかった。

所 見 住居跡の略中央に、東西2基の柱穴を配した住居跡である。床面からの掘込みが浅く、主柱穴となるかは判然としなかったが、柱穴とは捉えた。

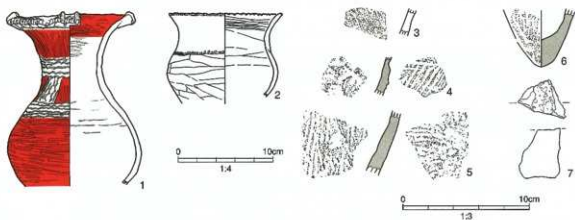


図147 A223 (2)

表21 A223遺物観察表

(単位mm)

No	種別形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	弥生 壺	120××(187) 縁口複合部 結節縄文施文後側面に刻み下縁にhは指 測による? 押圧を加える 棒状貼付2本1組4単位 頸部ヘラミガキ →結節5~6段 胴部上半一赤彩されたヘラミガキ部と縦位の結節縄文 を交互に施す→結節6段 下半は横位のヘラミガキ 内面は口縁→頸部 横位ヘラミガキ 胴部ナデ	黄褐色 良	砂粒	4/5	輪積み 複合口縁
2	弥生 小煎薬	118××(96) 外面 口縁→押圧 胴部と胴部の境に輪積み 胴部上半痕を残し刺突を加える 胴部下半ハラケズリ 内面 口縁ヘラミガキ 頸部ヘラナデ 上半ヘラナデ	暗褐色~ 橙褐色 善	砂粒	3/4	スス付着
3	縄文 深鉢	-×-×- 器糸文	外暗橙褐色 内暗褐色 良	砂粒	胴部片	
4	縄文 深鉢	-×-×- 外面 斜位 縦位の糸痕文 内面 縦位の糸痕文? ナデ	全体 暗褐色 善	繊維	胴部片	
5	縄文 深鉢	-×-×- 外面 斜位 縦位の糸痕文 内面 横位の糸痕文	外暗橙褐色 内橙褐色 良	繊維	胴部片	
6	縄文 深鉢	-×-×- 内面 斜位 縦位の糸痕文	外橙褐色 善	繊維	底部片	尖底
7	石器 石皿?	-×-×- 極一部が残存するだけであるが石材質から見て大型の石皿の断片であっ た可能性も否定出来ない 表面にわずかに磨痕			断片	安山岩?

图148 上谷遗址平地区 秦墓·平谷时代遗址平面示意图





### 第3節 奈良・平安時代

上谷遺跡Ⅳ地区における奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡38軒、掘立柱建物跡106棟、土坑32基を検出した。掘立柱建物跡は主に6・11～14調査区に集中しており、密集した感じを与えるものである。また、竪穴住居跡も当該地調査区に集中している。第15調査区北側に栗谷遺跡から入り込む谷津の谷頭が所在し、第7調査区は南に谷津を望む位置にあり、ちょうど東西に帯状に台地平坦面が形成される場所に集中している傾向が窺えた。

遺物は主として竪穴住居跡から出土しており、掘立柱建物跡や土坑からの出土はやはり少なかった。一方、破片数が5,000点を超える竪穴住居跡があり、井戸状遺構でも出土点数が多かった遺構もあった。

#### 第1項 竪穴住居跡

今回ここに報告する上谷遺跡Ⅳ地区からは、竪穴住居跡は38軒が検出された。それらは主に台地上の平坦地に営まれ、掘立柱建物跡と複雑に重複していた。

上谷遺跡が南に望む谷津に対して、今回報告する調査区北側には栗谷遺跡から入り込む谷津の谷頭が存在し、それを避けるように台地上平坦部をそれぞれの時代・時期の遺構が形成されたかのような感じで、集中しているかのようであった。このため掘立柱建物跡のみではなく、縄文時代の早期の炉穴とも重複したらしく、覆土中から条痕文片やそれ以前の捻糸文系土器片も比較的多く出土させていた。

このようななかで奈良・平安時代の竪穴住居跡は38軒検出したが、中には5,000点をこえる土器片が出土した竪穴住居跡もあり、住居廃絶後に「穴」として残った遺構が廃棄場所として使われたと想定できる住居跡も検出している。また、平坦面を欲したのか住居廃絶後一気に埋め戻されていた遺構もあった。一方、掘立柱建物跡の柱穴を壊して竪穴住居をつくり、竈をその柱穴覆土上に構築した住居もあり、互いに平坦面を求めていたような地区であった。

遺物は、土師器・須恵器を中心に、鉄器なども出土している。特に、墨書土器が破片を含めて140点余が出土し、集団の「共有する文字」として「竹」「西」がⅢ地区からの継続として認められた。また、国郡郷名と名前や目的・紀年名が一緒に記された人面紀年銘墨書土器や人面刻書土器も出土し、上谷遺跡を考える上での検討資料を与えてくれた。

以下、奈良・平安時代の竪穴住居跡について報告していきたい。

#### A185ab

検出地区 L6-25gにて検出した。

遺 構 拡張した竪穴住居跡である。A185aは長軸3.01m×短軸2.48m×深さ0.12m、主軸方位はN-37°-Eを測る。平面形は横幅のある隅丸方形である。拡張前のA185bは長軸が(2.78)mであり、また幅のある竪穴住居跡となっている。床はソフトロームの地床で、竈から出入口にかけて帯状に硬化面を認めた。掘立柱建物跡の柱穴部の床はやや軟弱であり、住居跡の床としては凹みが認められた。主柱穴は検出されず、壁柱穴が3基確認された。東壁中央にピットを検出したが、掘方かもしれない。周溝は、北東壁のみ認められなかった。竈は北東壁中央に設けられ、竈袖は白色粘土に黒褐色土が混合したもので築いていた。竈ピットの坑底中央に、赤化した火床を検出した。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積であるが、流入時に炭化物・焼土の混入が認められた。

遺 物 60点余の出土であり、住居跡としては多くはなかった。4は竈の最奥部に倒置の状態でも

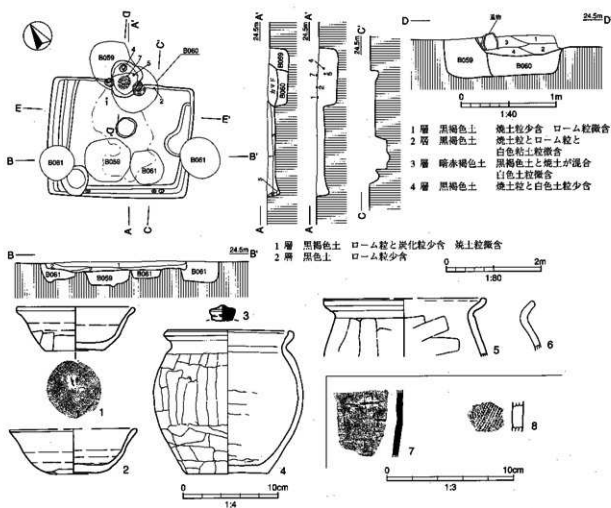


図149 A185a・b

土した。また、7の須恵器甕は格子目のタキが施されていた。

所見 B061との重複が著しく、住居の南が半分は軟弱な状態であった。新旧関係はB061→A185と捉えられた。A185bからの拡張では甕の改替も認められず、主軸に対して横の拡張に止まっていた。

表22 A185ab遺物観察表

(単位:mm)

No	種別形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	126×62×46 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ内面はロクロナデ 底部は静止ヘラ切り部分的に周縁はヘラケズリ	淡褐色 良	砂多量 赤色スコ リア細粒	体部の 一部欠	全体に厚手 で雑な作り
2	土師器 坏	136×49×45 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 1/2強 欠く	口縁重みあり
3	須恵器 甕	一×一×(16) ロクロ成形 外面 溝状の凹縁が回る 下面に接着のための「螺旋状」の切り込みが 切られている	灰色 普	細砂白色 白色粒子	宝珠部 のみ	
4	土師器 小形甕	130×84×153 口縁受け口状上端内外面は積を持つ胴中位よりやや上に影らみを持つ 外面 口縁部横ナテ胴部上半縦ヘラケズリ下半斜めヘラケズリ 内面 口縁部胴部上半横ナテ下半ヘラナテ	橙褐色 良	砂粒	完形	

5	土師器 甕 (174)××(61) 口縁は外反し隆部はつまみ上げる 口縁は内外面ともナデ胴部外面はヘラケズリ部分的にヘラミガキ 内面はヘラナデ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁 ～ 胴上半 の一部	
6	土師器 甕 ×××× 口縁外反し全体にタタキ彫り口縁は内外面ともナデ 胴上半外面はタ タキ彫り後ナデ 内面はヘラナデ	暗褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 胴上部 片	タタキ彫りを行 っているが 土師器
7	須恵器 甕 ×××× タタキ彫り胴部外面は格子タタキ目が見られる 内面にはあて具痕	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	胴部片	格子目タタキ のある須恵器
8	弥生 甕 外面 附加柔縄文を繪文 内面 ナデか (器面荒れている)	淡褐色 良	砂多量 長石類 スコリア 粒	胴部片	後期

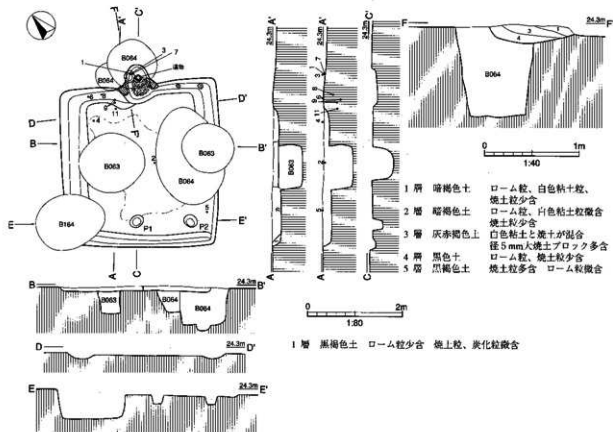


図150 A187

#### A187

検出地区 L6-36gにて検出した。

遺 構 長軸3.44m×短軸(3.28)m×深さ0.19m、方位はN-42°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。掘込みの浅い堅穴住居跡である。

床はソフトロームの地床で、住居跡中央部に硬化面を認める。主柱穴は検出できず、壁柱穴は2基確認された。P1は出入口に伴うものと捉えられた。P2の用途は不明である。周溝は南東壁中央から南側を欠く以外、竈袖下まで巡っていた。竈は北東壁中央に設けられ、袖は黒褐色土を少量混入した白色粘土によって築かれていた。竈ピットは掘立柱建物跡の柱穴覆土上を掘込み、その略中央に赤化した火床が検出された。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺 物 20点余の出土であり、住居跡としては少なかった。また、出土傾向を窺わせることもなかった。7は床と同レベルの周溝上から倒置で出土していた。6は筥書、7は「西」が記された墨書が出土している。

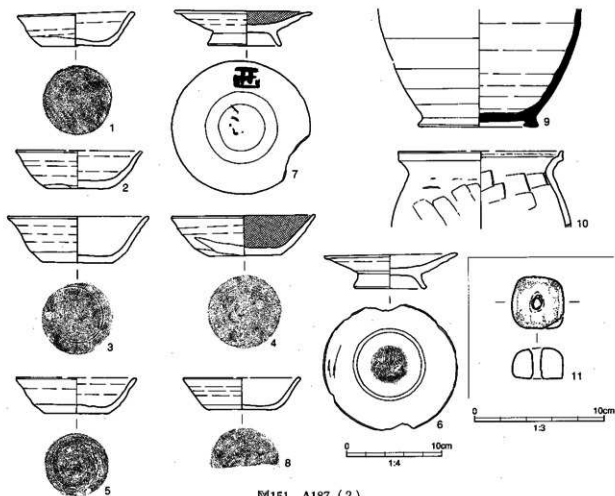


図151 A187 (2)

所見 掘立柱建物跡の真上に建てたような住居跡であり、中央部は軟弱であり不明瞭な遺構であった。重複する遺構との新旧関係は、B064→B063→A187と捉えられた。遺物から奈良・平安時代の堅穴住居跡である。

表23 A187遺物観察表

(単位:mm)

No.	種別 器形	法 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	土師器 杯	123×73×34 ロクロ成形 外面の体部ド端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナダ底部は回転ヘラ切り	淡褐色 良	雲母長石 類スコリア 微粒	ほぼ 完存品	
2	土師器 杯	(133)×64×39 ロクロ成形 外面の体部ド端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナダ底部は静止ヘラ切り後周縁手持ちヘラケズリ	茶褐色 良	雲母少量 長石類 スコリア 微粒	体部の 3/5及 び口唇 欠火く	
3	土師器 杯	149×74×49 ロクロ成形 外面 体部ド端回転ヘラケズリその後部分的にヘラミガキ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭底部回転ヘラ切り後底縁回 転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母長石 類赤色 スコリア 微粒	口縁の 一部を 欠く のみ	
4	土師器 杯	152×76×42 ロクロ成形 外面の体部ド端は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭 底部回転ヘラケズリ	茶褐色 良	雲母少量 赤色スコ リア微粒	口縁の 1/3 欠く	
5	土師器 杯	(126)×67×38 ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナダ 底部は回転ヘラケズリ	淡褐色 良	長石類 赤色スコ リア微粒	口縁～ 体部の 3/4 欠損	

6	土師器 高台付皿	139×76×38 ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭か 底部は回転糸切り後付高台	橙褐色 茶褐色 良	袋母長石 類赤色 スコリア 細粒	口縁端 を欠く	遺書「二」 体部外面
7	土師器 高台付杯	144×77×36 ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリロクロ成形ロクロ目を消すようにヘラミガキ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭か底縁は回転糸切り後付高台	茶褐色 良	袋母長石 類赤色 スコリア 細粒	口唇端 の一部 を欠く	遺書「西」 「□」体部外面 底部外面
8	土師器 杯	124×73×33 ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ底部は回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ	暗褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 底部の 2/3を 欠く	灯明風転用か
9	須恵器 長頸壺	—×(125)×21 ロクロ成形 側下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形 底部に付高台 側下半～ 高台にかけて自然釉 内面にも自然釉	暗灰色 良	白色粒 黒色粒	側下半	
10	土師器 壺	(174)×—×(81) 口縁は外反し肩部をつまみ上げる 最大径は肩部付近か 口縁は内外面ともナデ刷上部外面はヘラケズリ後 ヘラナデ 内面はヘラナデ	淡褐色 良	袋母少量 花崗岩 細粒	口縁～ 側上半 の一部	常盤型壺
11	石製品 紡錘車	41×—×24.5 ?g 打ち欠きながら六面体を形作り穿孔した後に研磨して仕上げる 穿孔した後に研磨して仕上げる穿孔は管状鑿で固くない五面穿孔し 貫通する		流紋岩製 か	一部 欠く	孔辺の修正 研磨無し

#### A188

検出地区 L6-36・37gにて検出した。

遺構 長軸3.36m×短軸3.34m×深さ0.12～0.16m、方位はN-60°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。横幅のある堅穴住居跡である。

床は暗褐色土が少量混入しているがソフトロームの地床であり、硬化面はP3脇のみに残っていた。床面にピットは5基検出されたが、主柱穴は不明であった。配置上ではP2・P3・P5・P7が相当するが、柱穴とは判断できなかった。壁柱穴が3基確認された。P4は出入口に伴うものと捉えた。周溝は北壁中央で一部途切れるが、それ以外は竈袖下まで巡っている。竈は東壁中央からやや南寄りに設けられ、大きく壁を掘込んでいた。その掘込みの中央に、床と同レベルで赤化した火床を検出した。竈の遺存は悪く、竈袖の基底も失われていた。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

なお、床全体に炭化粒や焼土の散布が認められ、住居跡中央は炉跡の火床のような赤化が認められた。この赤化のためか若干は浅くピット状となっており、床面での火の使用のため、硬化面が失われたのみと捉えられた。

遺物 100点余の出土があった。3は正置で床面から出土している。また、鉄残の若干の出土をみている。出土傾向は特に示せなかった。

所見 堅穴住居跡の床全体から焼土や炭化粒が検出され、炭化材も少量の出土をみた。住居跡の四隅を中心に焼土の堆積も認められ、住居跡の中央の床は赤化した火床の様な状態であった。また、この火床状の赤化のため住居跡の床面中央は浅く凹んでおり、ピット状となっていた。このように床面での火の使用の痕跡を、著しく残した住居跡である。この火の使用において、調査時には床面の硬化面が失われたと捉えたが、単に遺構廃絶後の不用材の焼却行為とは思えず、この堅穴住居跡の本来の使用目的が「火の使用」に関わるものではなかったかと考えられる遺構であった。

なお、重複する遺構との新旧関係はB069→A188であった。

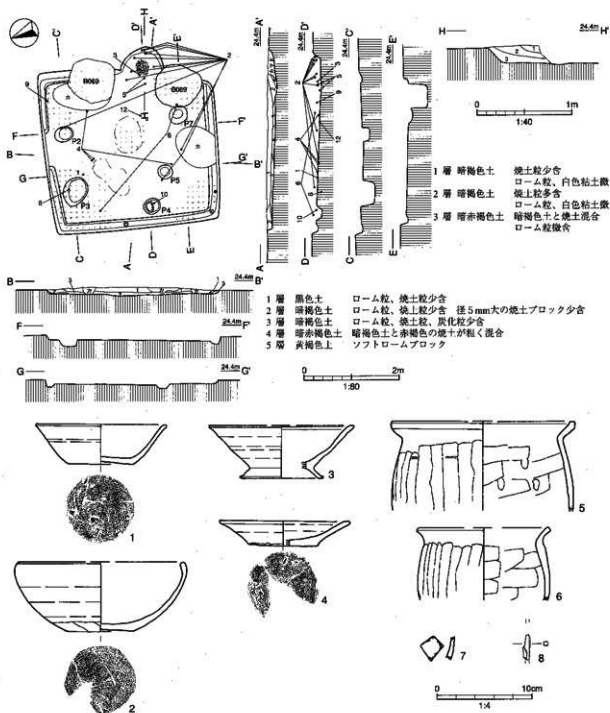


図152 A188

表24 A188遺物観察表

(単位:mm)

No	種別 器形	法量 LI径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	138×70×42 ロクロ成形 外面 調整痕無し 内面 ロクロナデ 底部一回転糸切り	橙褐色 良	細砂 長石類 赤色スコリア	略完形	
2	土師器	(166)×(72)×(73) ロクロ成形 外面 LI縁-ロクロナデ 体部成形痕のみ 下通-手持ちヘラケズリ 底部一回転糸切り 内面 成形後部分的にヘラミガキ	橙褐色 良	細砂 長石類 赤色スコリア	1/4	磁鉢、鉄鉢を模すか?
3	土師器 高台付坏	(152)×(80)×(56) ロクロ成形やや脚高気味の器形 坏部成形後高台 貼り付け 内面 高台内圍-ロクロナデ	橙褐色 良	砂粒目立 長石類 赤色スコリア	1/4	
4	土師器 皿	137×74×27 ロクロ成形 底部厚い LI縁やや外反 外面 ロクロナデ 底部一回転糸切り	橙褐色 良	砂粒目立 長石類 赤色スコリア	3/4	
5	土師器 壺	192×-×94 輪横直からタケギ成形 外面 成形後ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 当て具痕残る	茶褐色 良	細砂 長石類 赤色スコリア	口縁- 胴上半	酸化炎焼成
6	土師器 甕	136×-×76 輪横 外面 LI縁-頸部-ナデ 体部-ヘラケズリ 内面 ナデ	橙褐色 良	細砂 長石類 赤色スコリア	口縁- 胴上半 部分	
7	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 ロクロ成形 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	細砂 長石類 スコリア 細粒	体部片	墨書「□」
8	鉄器	23×3			断片	

## A189

検出地区 L6-37・47・48gにて検出した。

遺構 拡張した竪穴住居跡である。新住居のA189aは、長軸7.48m×7.10短軸m×深さ0.77~0.79m、方位はN29°Eを測る。平面形は隅丸方形である。A189bは短軸のみ確認でき(6.64)程度であった。

床は暗褐色土が少量混入するが、ハードロームの地床である。極めて良好な硬化面が竈前から支柱穴間内と出入口にかけて帯状に大きく広がって認められた。しかし住居跡中央は赤化した火床状となっており、床面は劣化し凹みとなっている。P1~P4が支柱穴であり、柱は引抜かれた様子を示していた。P5は出入口に伴うものである。また、支柱穴が10基検出された。P6は貯蔵穴かもしれない。周溝は、竈袖下まで全周している。東壁側には2条検出されている。竈は、北東壁中央に設けられ、略白色粘土のみを使用して袖を築いていた。粘土は煙道部の奥壁まで充填されていた。袖の内壁から煙道部まで赤化は強く、皿状の竈ビット内に検出された火床も強く赤化したものであった。覆土は床から中層までは自然堆積であるが、最上層は人為的に一気に埋戻した状態であった。

遺物 2,900点近くの遺物の出土をみた。遺構内全体から出土しており、特に遺物出土の分布傾向というもののはつかめなかった。

所見 上谷遺跡全体でも最大級の竪穴住居跡である。遺物は本住居跡に伴うと言うより、廃棄場所として廃絶住居を使用した観がある。また、東壁側に周溝が2条検出したことから、竪穴住居の拡張と判断した。拡張は床面積の増加に止まり、竈の改替などを行っていないものであった。

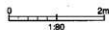
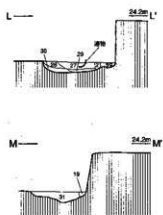
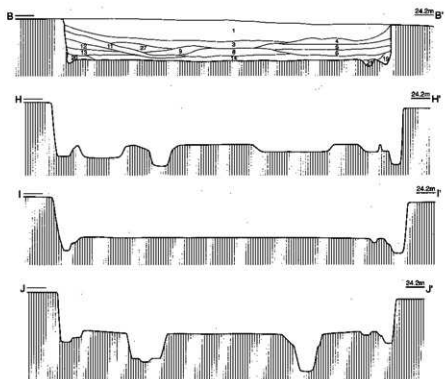
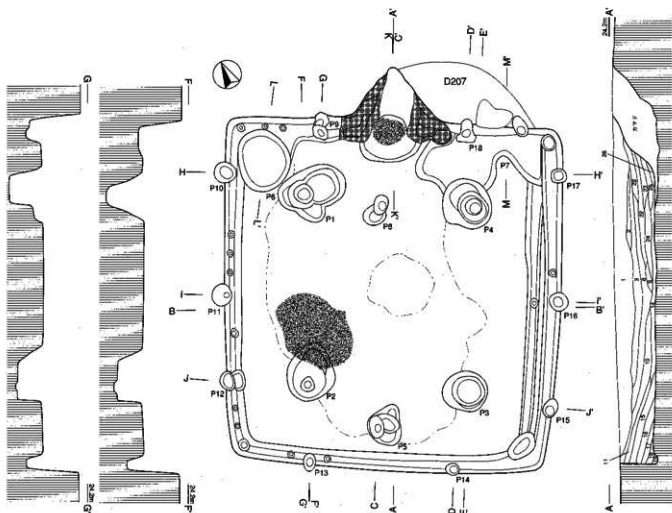


图153 A189



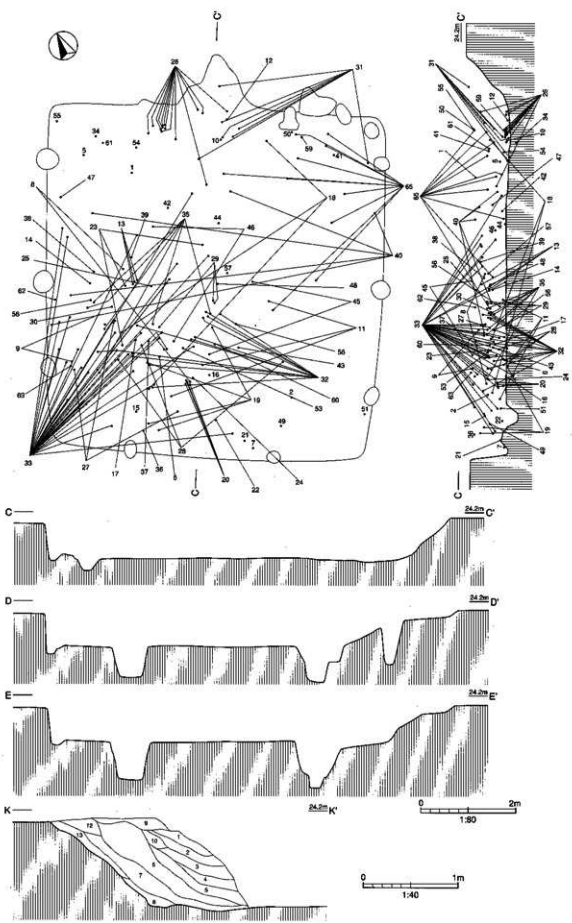


图154 A189 (2)

- 1層 黒色土 ローム粒、焼土粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒少含、白色粘土微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒微含 焼土粒微含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含 白色粘土微含  
 5層 黒褐色土 白色粘土、ローム粒少含 焼土粒微含  
 6層 黒褐色土 白色粘土、ローム粒少含  
 7層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒、焼土粒微含  
 8層 黒色土 白色粘土と炭化粒微含 ローム粒少含  
 9層 灰白色土 白色粘土主体 黒褐色土が少量混入  
 10層 黒褐色土 ローム粒少含  
 11層 暗褐色土 ローム粒少含  
 12層 黒褐色土 ローム粒、焼土粒少含 白色粘土、炭化粒微含  
 13層 黒褐色土 ローム粒少含 焼土粒少含  
 14層 黒褐色土 ローム粒少含、白色粘土、焼土粒微含  
 15層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土微含  
 16層 黒褐色土 ローム粒少含  
 17層 黒色土 ローム粒少含  
 18層 黒褐色土 ローム粒少含 白色粘土、炭化粒微含  
 19層 暗褐色土 ローム粒少含  
 20層 黄褐色土 ソフトローム 黒褐色土少含  
 21層 暗褐色土 ローム粒少含  
 22層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含  
 23層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含  
 24層 黒色土 ローム粒、焼土粒少含  
 25層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含  
 26層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 ローム粒少含  
 27層 暗赤褐色土 黒褐色土と多量の焼土が粗く混合 炭化粒微含  
 28層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含 炭化粒微含

- 1層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒、焼土粒少含  
 2層 暗褐色土 ロームが少量混入 ローム粒、白色粘土少含  
 3層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒 焼土粒少含  
 4層 暗灰褐色土 3層と同層 径10~20mm大ロームブロック多含  
 1層 暗灰褐色土 暗褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 径10~30mm大ロームブロック多含 ローム粒 焼土粒少含  
 2層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒、焼土粒微含  
 1層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含 炭化粒微含  
 2層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含  
 3層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含  
 4層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 焼土粒、ローム粒少含  
 5層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土多含 ローム粒少含  
 6層 灰褐色土 白色粘土主体 焼土粒、炭化粒微含  
 7層 黒色土 焼土粒、径5mm大の焼土ブロック多含 ローム粒、白色粘土粒少含  
 8層 灰白色土 白色粘土主体 焼土粒、炭化粒少含  
 9層 黒色土 焼土粒少含 ローム粒、白色粘土粒微含  
 10層 暗灰白色土 白色粘土主体に黒褐色土が少量混入 焼土粒、ローム粒少含  
 11層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 焼土粒、ローム粒少含 径5mm大の焼土ブロック多含 白色粘土多含  
 12層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 焼土粒少含 ローム粒微含 白色粘土粒、焼土粒少含  
 13層 暗黄褐色土 黒褐色土とロームが混合 焼土粒、白色粘土少含

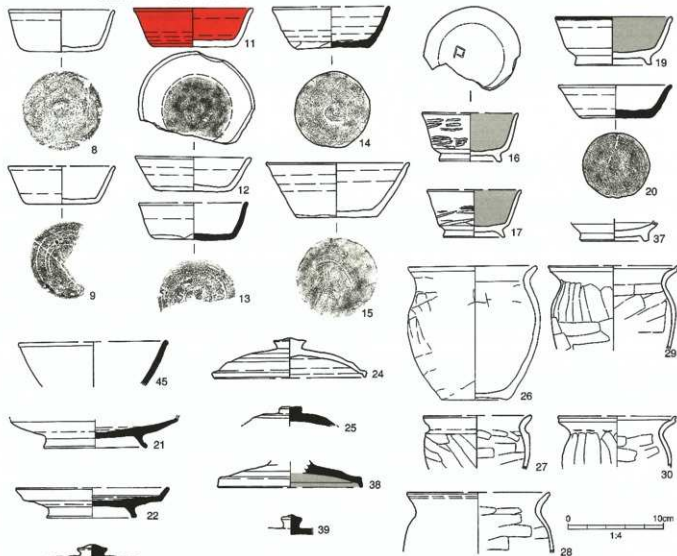


図155 A189 (3)

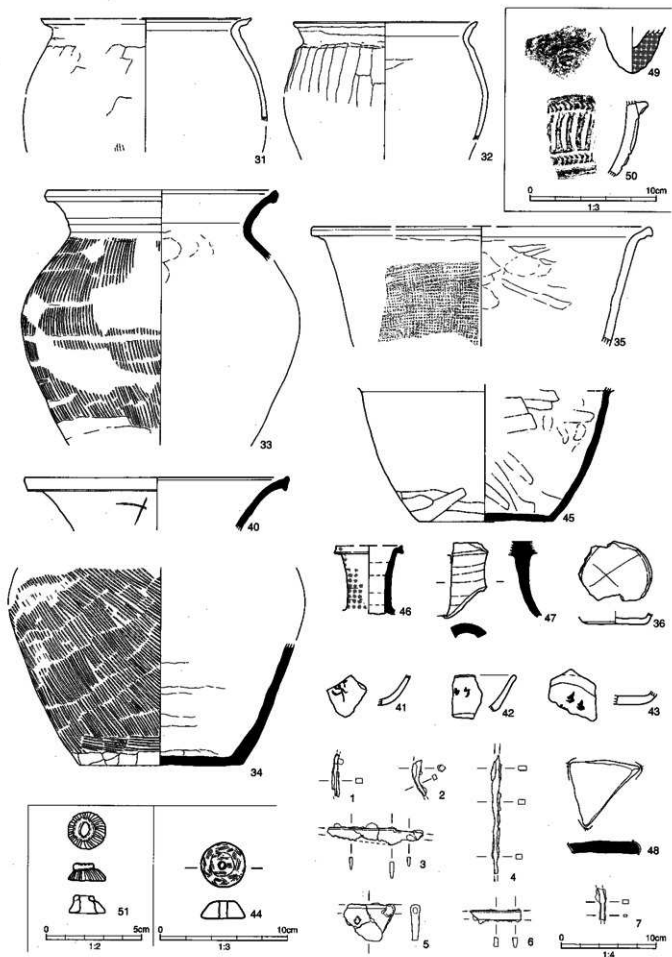


图156 A189 (4)

表25 A189遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 釘?	46×7×5 重量4.3g			断片	
2	鉄器 釘	38×9×7 4×5 重量4.1g			断片	
3	鉄器 刀子	100×13×3 17×4 9×3 重量13.9g			刃→茎	鐵の茎か?
4	鉄器 鉄鍔	125.5×13×3 7×5 7×5 重量12.8g			断片	穂道具か?
5	不明 鉄製品	54×38×10 重量49.5g			断片	
6	鉄器 刀子	54×10×4.5 54×38×10 重量9.5g			刃部	
7	鉄器 鉄鍔	34×6×4 34×4×2 重量3.1g			茎	
8	土師器 環	112×83×44 ロクロ成形 体部内面はロクロナデ 底部静止回転ヘラズリか 器面の摩滅が目立つ 箱形に近い器形	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁→ 体部の 1/3	
9	土師器 環	113×83×44 ロクロ成形 体部内面はロクロナデ 底部は回転ヘラズリか 器面荒れている 箱形に近い器形	橙褐色 普通	長石類 スコリア 粒	全体の 半分強 残存	
10	土師器 環	120×82×41 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラズリ 内面はロクロナデ底部は回転ヘラ ズリ後 周縁その他はヘラズリ 器面荒れ口縁赤み	橙褐色 良	長石類赤 色スコリ ア細粒	口縁の 一部を 欠く	未掲示
11	土師器 環	126×88×41 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラズリか 内面はロクロナデ 底部は回転ヘ ラズリ 焼成後内面とも赤彩	橙褐色 良	雲母長石 類赤色 スコリア 細粒	口縁の 3/5を 欠く	加熱の形跡あり 風化目立つ
12	土師器 環	122×82×36 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラズリ 内面はロクロナデ底部は回転ヘラ ズリ後 周縁は手持ちヘラズリ	暗茶褐色 良	砂長石類 赤色スコ リア	口縁→ 体部の 1/2 欠損	ヘラ書「□」 見込面 記号か
13	須恵器 環	114×86×39 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラズリ 内面はロクロナデ底部は回転ヘラ ズリ後 周縁は手持ちヘラズリ	灰色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁→ 底部の 1/2強 欠損	
14	須恵器 環	124×79×43 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘ ラズリ 周縁のみ手持ちヘラズリ	灰褐色 良	白色粒 スコリア 粒	口縁→ 体部の 1/2弱 欠損	ヘラ書「□」 底部外面 記号か
15	土師器 環	151×85×57 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラズリ 内面はロクロナデ底部回転赤切り後 周縁は手持ちヘラズリ	橙褐色 良	雲母長石 類赤色 スコリア 細粒	略完形	
16	土師器 高台付環	101×65×51 ロクロ成形 外面体部下端回転ヘラズリロクロ目の凸凹を消すようにヘラミガキ内 面はロクロ成形後密なヘラミガキ 底部回転ヘラズリで付高台	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁→ 高台の 1/4 欠損	ヘラ書「□」 見込面 記号か ミガキ後吸炭
17	土師器 高台付環	100×65×50 ロクロ成形 外面体部下端回転ヘラズリロクロ目の凸凹を消すようにヘラミガキ内 面はロクロ成形後密なヘラミガキ 底部回転ヘラズリで付高台	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁→ 体部の 大半 欠損	16と双子の ような土器

18	土師器 坏	ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 部分的にミガキ 内面はロクロ成形 密なヘラミガキ この後吸炭 底部は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	赤色ス コリア 織粒 緻密	全体の 1/2 残存	墨書「？」 体部外面正位
19	土師器 高台付坏	124×80×51 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 部分的にヘラミガキ 内面はロクロ 成形後密なヘラミガキこの後吸炭 底部は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色 スコリア 織粒緻密	口縁の 一部	外面に「縁状」 の付着物 螺旋を切って 付高台
20	須恵器 坏	118×70×34 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリか 内面はロクロナデ 底部は回転 ヘラケズリ器内外面ともよく磨減している	灰色 良	細砂 白色粒 含む緻密	1/3 欠く	ヘラ書「×」 底部外面
21	須恵器 高台付坏	175×107×29 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘ ラケズリで付高台	灰色 良	細砂 長石類 花崗岩粒	口唇端 及び全 体の1/ 2欠損	常陸産か
22	須恵器 高台付数	(160)×××(32) ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘ ラケズリで付高台	灰色 良	雲母少量 長石類 花崗岩	口縁の 大半 欠損	常陸産
23	須恵器 壺	(150)×××28 ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 宝珠部をジョイント	灰色 良	細砂長石 類花崗岩	全体の 1/2	常陸産
24	須恵器 壺	162×××42 ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 宝珠部をジョイント	灰色 良	砂長石類 花崗岩	全体の 1/4	常陸産か
25	須恵器 壺	×××21 ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ宝珠部をジョイント する宝珠部の頂部は窪み 欠くか磨った可能性あり内面磨れている	淡褐色 良	雲母 長石類 織粒	天蓋部と 宝珠部	小形品 常陸産
26	土師器 小形壺	135×70×141 口縁外反頸部ゆるい「く」の字状 外面 口縁頸部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面 口縁頸部横ナデ 胴部ヘラケズリ	橙褐色 普通	砂粒	4/5	器面磨耗
27	土師器 小形壺	114×××(57) 肩部が張り段を有する 口縁は外反する 口縁は内外面ナデ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ	外橙褐色 内暗褐色 良	長石類 赤色ス コリア 織粒	口縁 2/5 胴上半 の1/2	
28	土師器 小形壺	(150)×××(64) 最大径は胴中位か 口縁は「く」の字状に強く外反し端部は若干つまみ 上げる 口縁部内外面ともナデ胴部外面ヘラケズリか内面ヘラナデ	橙褐色 良	砂多量 赤色ス コリア 織粒	口縁半 胴上半	器外面は剥落 が目立つ
29	土師器 小形壺	136×××76 口縁は強く外反し端部はつまみ上げる 口縁は内外面ともナデ胴部外面 ヘラケズリ 内面はヘラナデ	茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁1/ 2胴中 位までの 1/3	
30	土師器 小形壺	124×××53 29に似た器形口縁は強く外反し端部はつまみ上げる 口縁は内外面と もナデ 胴部外面はヘラケズリ後ヘラナデ 内面ヘラナデ	暗茶褐色 良	長石類 スコリア 織粒緻密	口縁半 胴上半 の一部	
31	土師器 壺	(217)×××(143) 口縁は外反し上端はつまみ上げられる 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデか一部ヘラミガキ 内面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ	外橙褐色 内暗褐色 普通	粗砂粒多	口縁半 胴部片	器面磨耗
32	土師器 壺	(192)×××(146) 口縁外反頸部と胴部の境に段状をなす 外面 口縁頸部横ナデ 輪痕あり胴部上半縦ヘラケズリ 内面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ	橙褐色 普通	砂粒	口縁半 胴部片	
33	須恵器 壺	238×××(273) 口縁外反 胴上半に膨らみを持つ 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半下半タタキ 下端ヘラケズリ 内面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ及びナデ一部指差止痕	灰白色 普通	砂粒	2/3	
34	須恵器 壺	××168×(212) 肩部が張る 外面 胴部上半下半タタキ下端ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ及びナデ	灰白色 普通	砂粒	胴部 底部	
35	須恵器 壺	(353)×××(128) 口縁外反し折り返す 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半タタキを一部格子状に 内面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ及びナデ 一部指差止痕	暗褐色 良	粗砂粒多	口縁半 胴部片	

36	土師器 坏	-×62×(14) ロクロ成形 外面の体部下端 ヘラケズリ	褐 青	砂 雲母	底部	線刻「×」 底部外面
37	土師器 高台付坏	-× × (24) ロクロ成形	暗褐 青	砂 雲母	底部 高台	
38	須恵器 蓋	-×-× ( ) ロクロ成形・内外面ともロクロナデ	青灰 青	砂粒 雲母		
39	須恵器 蓋	-×-×- 宝珠状の肥手	青灰 青	長石類 雲母	肥手	
40	須恵器 蓋	265×-× (54) 外面ロクロナデ	暗青灰 青	長石類 雲母	口縁	線刻「×」 顔部
41	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐色 青	雲母	破片	墨書「新」か? 外面
42	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	暗褐色 青	砂粒	口縁片	墨書「竹」 外面
43	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	暗褐色 青	砂粒	底部	墨書「竹口」 底部外面
44	石器 紡錘車	36×34×14 船型状の擦痕 孔径6			完存	
45	須恵器 蓋	-×138× (145) 胴下端 ヘラケズリ 胴内 ヘラナデ	青灰 青	長石類	胴下半 底部	
46	須恵器 長頸壺	68×-× (71) ロクロ成形	青灰 良	長石類 雲母	頸部 1/3	
47	土師器 高盤	-×-× (79) ロクロ成形 胴内 成形痕、外 ロクロナデ	青灰 良	長石類 雲母	脚部	
48	石器 砥石	(68) × (74) × 13			断片	
49	縄文 深鉢	-×-×- 条痕を粗く施す	褐色	繊維	尖底部	
50	縄文 深鉢	-×-×- 沈線で区画し中は梯子状に竹管による沈線 隆帯には半蔵竹管によるキザミ	褐色	雲母	口縁 直下	
51	副製品 不明	9×19×9 肥手の飾りか?			完存	流込み

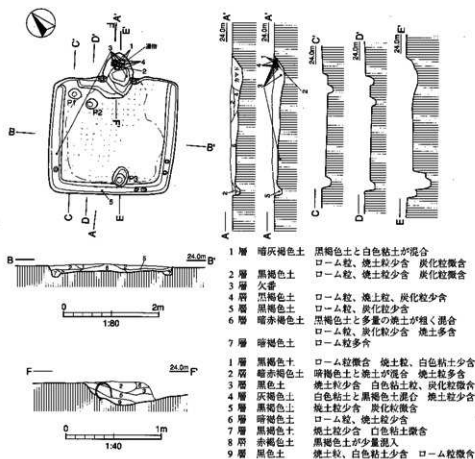


図157 A192

A192

検出地区 L6-47・57gにて検出した。

遺構 長軸2.46m×短軸2.46m×深さ0.12~0.16m、方位はN48°Eを測る。平面形は隅丸方形である。

床は、ソフトロームを浅く掘込み、ロームブロックと黒褐色土との混合した貼床であった。主柱穴は検出されなかったが、壁柱穴は5基確認された。P3は出入口に伴うものである。周溝は住居跡の壁下をめぐるものの、竈壁のみ途切れていた。竈は北東壁の中央に設けられていたが遺存は悪く、袖は壁際に若干残っていたのみであり、袖は黒褐色土と白色粘土によって築かれていた。竈ビット内に火熱痕を認め、火床と捉えた。赤化はしていなかった。また、火床上に炭化材を検出したが、直接竈に伴うものではなかった。

本住居跡では、壁から住居跡床中央にむかって炭化材が放射状に検出された。火災住居跡とは認められず、住居廃絶後の不用材の焼却によるものと捉えた。また、このため覆土中に焼土と炭化物が多かったが、消火行為が覆土下層に窺われる。竈火床上の炭化材も、この焼却行為に伴うものである。

遺物 40点弱の出土であり、本住居跡のような小規模な住居跡としても少ない出土である。

所見 堅穴住居跡としては、規模の小さな遺構である。検出された炭化材などを、住居廃絶後の不用材の焼却行為と捉えた。また、住居廃絶時に土器などは持ち去ったのか、小規模な堅穴住居跡としても出土した遺物は少なかった。

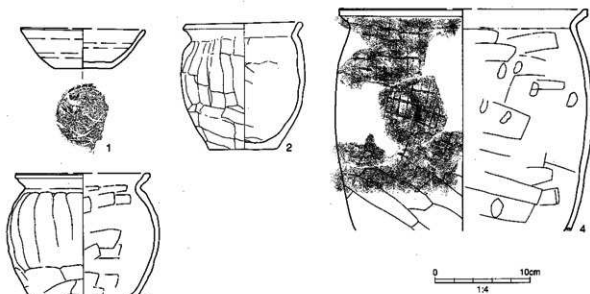


図158 A192 (2)

表26 A192遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(131)×62×42 ロク口成形 内面はロクロナデ底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	茶褐色 良 堅緻	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 1/4 欠く	酸化炭焼成の 須恵器のような 土師器
2	土師器 小形甕	120×70×135 口縁受け口状 外面輪を持つ 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半縦ヘラケズリ 下半斜めヘラケズリ 内面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ 下端ヘラケズリ	暗橙褐色 昔	砂粒多	完形	
3	土師器 小形甕	142× - ×(139)×160 最大径を胴中に有し口縁は短く外反して端部をつまみ上げる 口縁内外面ともナデ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ	茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁1/ 3 胴部 2/3 底部 欠く	
4	須恵器 甕	262× - ×(244)×270 最大径を胴中に有し口縁は短く外反して端部をつまみ上げる タタキ成形で外面に格子目タタキ目 内面はヘラナデであて具痕	茶褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 胴部片 の一部	酸化炭焼成に 近い須恵器



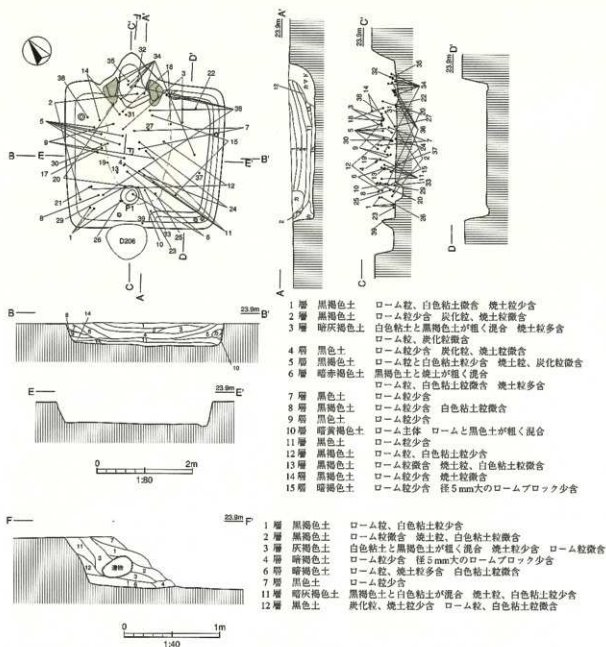


図159 A193

### A193

検出地区 L6-5で検出した。

遺 構 長軸3.28m×短軸3.16m×壁高0.48m、主軸方位はN-38°-Eを測る。平面形は、やや横幅のある隅丸方形である。

床は暗褐色土が若干混合し貼床状に調査時には捉えたが、基本的にはハードロームの地床である。竈前から出入口部にかけて、住居跡中央の床に硬化面を認めた。床面では柱穴など精査したが検出できず、出入口のP1のみ検出した。周溝は住居跡の東側のみ巡っていた。竈は北東壁中央に設けられ、袖は白色粘土を主体として築かれ、内壁は赤化していた。竈ピットは浅いが坑底は凹凸があり、坑底に火熱痕を認めた。赤化はしていなかった。煙道部は壁をやや大きく掘込んでいた。覆土は、黒色土・黒褐色土を基本とした自然堆積であった。また、下層から上層にかけて焼土の混入が認められた。

遺 物 480点余が出土している。覆土各層から出土しており特にその出土傾向は窺えないが、平面的には壁際がやや少なく住居跡中央が多かった。

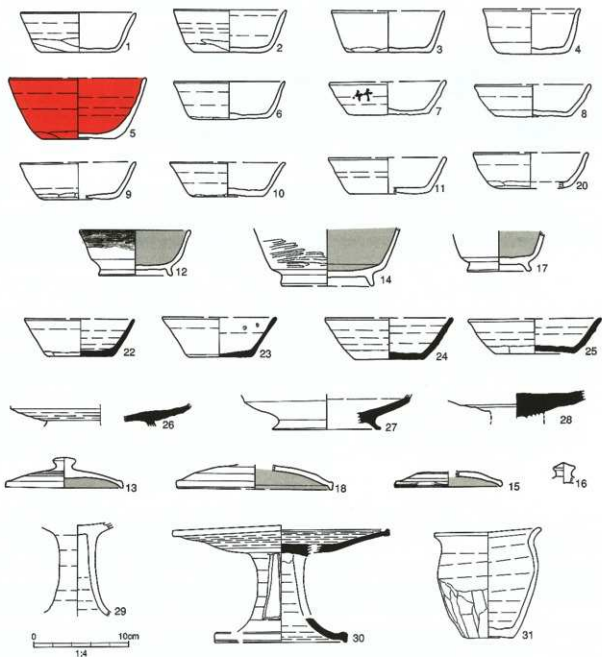


図161 A193 (2)

36の常総型甕は、竈の右袖脇を中心に、床面よりやや高く横位の状態で出土している。口縁部は欠損し、底部は人為的に打抜き、その破断面を磨いて「甕」状にされた土器である。胴部外面に「下総國印播磨村神郷ノ丈マ廣刀自呼召代進上ノ延暦十年十月廿二日」と三行にわたって墨書されており、その右脇には人面も墨で描かれていた。文字は正位に記されていた。

所見 調査時には2軒の拡張住居跡の可能性もあったが、覆土や遺構資料にその痕跡は残っていないかった。このため、疑問は残るが単独の竈穴住居跡として扱った。

所謂、人面墨書土器の36の土器であるが、本住居跡に伴うものかは明確にしえなかった。しかし床面から若干高くても、竈右袖脇の出土位置から本竈穴住居跡に伴うものと捉えている。甕の甕への転用後の墨書なのか、墨書するために甕状としたかは現状では捉えきれなかった。

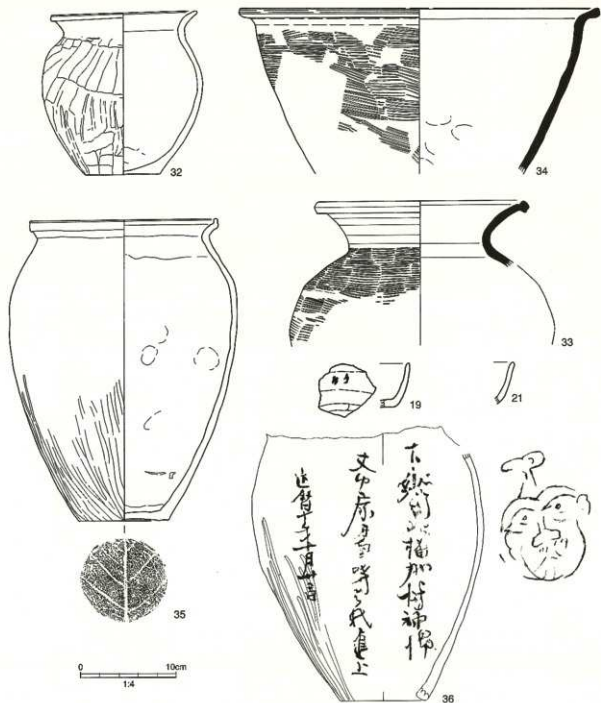


図161 A193 (3)

表27 A193遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	120×80×42 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデで部分的にヘラミガキ 底部は静止糸切り後全体に手持ちヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁と 体部の 1/4欠損	
2	土師器 坏	121×79×45 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデで部分的にヘラミガキ 底部は静止ヘラ切り後 周縁は手持ちヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁の 一部を 欠く	
3	土師器 坏	120×86×44 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後ヘラケズリ	橙褐色 普	長石類赤 色スコ リア細粒	全体の 1/2弱	器外面は 摩滅目立つ

4	土師器 坏	101×72×48 ロクロ成形 外面の体部下端はヘラケズリか 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後ヘラケズリ	橙褐色 普	長石類 赤色スコ リア細粒	全体の 1/3弱	二次焼成 が目立つ
5	土師器 坏	144×78×64 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ (モミ痕あり) 焼成後内外面赤影	橙褐色 普	長石類 赤色スコ リア細粒	底部完 存口縁 ～体部 1/3	
6	土師器 坏	118×82×40 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後 周縁は手持ちヘラケズリ	淡褐色 普	長石類 赤色スコ リア粒	口縁～ 体部の 1/2 欠く	
7	土師器 坏	123×87×35 ロクロ成形 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切りで周縁は回転ヘラケズリ	淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒	全体の 1/2弱	墨書「竹」 体部外面正位
8	土師器 坏	122×80×34 ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転ヘラ切りで周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	細砂多量 赤色スコ リア細粒	口縁～ 底部付 近の1/ 2欠損	
9	土師器 坏	120×82×35 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後 周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア粒	1/2弱 が残存	外面に二次焼成 あり
10	土師器 坏	120×74×36 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は全体に手持ちヘラケズリ	橙褐色 普	紫母長石 類赤色 スコリア 細粒	全体の 約1/2	あるいは赤影が あったかもしれ ない
11	土師器 坏	124×86×38 ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転ヘラ切り後周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 普	長石類 スコリア 粒多量	1/2弱 が残存	外面に二次 焼成あり
12	土師器 高台付坏	116×76×48 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 部分的にヘラミガキ この後吸炭 底部は回転ヘラケズリ後付高台	淡褐色 良吸微	スコリア 微細粒等 緻密	約1/3 を欠損	
13	土師器 蓋	124×-×32 ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリその後宝珠部をジョイントし部分的にヘラミガキ 内面は密なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	赤色スコ リア細粒 雲母少量	天蓋部 完全彫 削一部	
14	土師器 高台付坏	-×98×61 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面は密なヘラミガキこの後吸炭 底部は回転ヘラケズリ付高台	茶褐色 良	長石類 スコリア 粒含む	体部の 一部と 底部大 半	
15	土師器 坏	(114)×-×(17) ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリこの後部分的にヘラミガキ 内面密なヘラミガキこの後吸炭	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	天蓋部 の3/5 が残存	
16	土師器 蓋	-×-×(21) ロクロ成形 天蓋部の内面は密なヘラミガキこの後吸炭	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	宝珠部 完存 天蓋部	
17	土師器 高台付坏	-×68×(42) ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面は密なヘラミガキこの後吸炭 底部は回転ヘラケズリ後付高台後高台部の内外面を中心にロクロナデ	外橙褐色 内暗褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	体部下 半～ 高台の 1/2	外面その他に二 次焼成の跡あり
18	土師器 蓋	(166)×-×(27) ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ この後部分的にヘラミガキ 内面は密なヘラミガキ この後吸炭	橙褐色 良	長石類 スコリア 微細粒	天蓋部 の1/4	
19	土師器 坏	-×-×47 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り	淡褐色 良	長石類 赤色 スコリア		墨書「竹」 口縁外面
20	土師器 坏	(122)×-×37 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部切り離し後手持ちヘラケズリ	淡褐色 普	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 底部一 部	墨書「口」 体部外面
21	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部周縁はヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 一部	墨書土器か

22	須恵器 坏	113×70×39 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ	灰色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 1/3 欠く	常陸産
23	須恵器 坏	121×68×42 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後手持ち ヘラケズリ 焼成後体部に穿孔1 未穿孔1	灰色 青	長石類 花崗岩粒 雲母少量	口縁～ 体部の 一部 欠く	常陸産
24	須恵器 坏	135×65×44 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ 底部は静止ヘラ切り	灰色 青	長石類 花崗岩粒 雲母少量	口縁～ 体部と 底部 残存	常陸産
25	須恵器 坏	(140)×82×37 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロ成形 底部は静止ヘ ラ切り	灰色 青	長石類 花崗岩粒	口縁～ 底部の 1/3	常陸産
26	須恵器 高台付盤	—×—×(22) ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転ヘラケズリで高台部をジョイントする	灰色 青	長石類 雲母細粒	盤部の 1/4が 残存	常陸産
27	須恵器 高台付盤	—×(112)×(36) ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリか 内面はロクロナデ底部は回転ヘ ラケズリで付高台	灰色 良密微	雲母細粒 3mm大 の花崗岩 粒	体部～ 高台部 の一部	常陸産か
28	須恵器 高盤	—×—×(28) ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ脚部をジョイントし てから透孔を穿つ	灰色 良	長石類 花崗岩粒 雲母細粒	盤の体 部下半	透孔は3孔 常陸産か
29	須恵器 高坏	—×—×(99) ロクロ成形 坏部内面ロクロ	灰色 青	雲母細粒	脚部	
30	須恵器 高坏	(225)×(135)×125 ロクロ成形 角状の透孔の3ヶ所 体部下半 回転ヘラケズリ	暗灰色 良	粗砂粒多	1/2	
31	土師器 小形甕	108×52×112 ロクロ成形 口縁外反 胴上半に影らみを持つ 胴部下半下端ヘラケズリ 底部中央回転糸切り	橙褐色 青	砂粒	略完形	
32	土師器 甕	152×80×173 口縁は外反し上端は立ち上がる 外面凹線状に調整 胴上半に影らみ 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラケズリ 下半下端ヘラケズリ縁ら にヘラミガキ 内面 口縁頸部横ナデ胴部ヘラナデ	橙褐色 青	砂粒多 雲母	完形	
33	須恵器 甕	215×—×(154) ロクロ成形 外反する折り返し口縁 外面 タタキ 内面 一部指頭圧痕あり	暗灰色 良	粗砂粒 雲母	口縁～ 胴部片	
34	須恵器 甕	(373)×—×(177) 口縁外反 外面 口縁横ナデ 胴部上半タタキ目 下半ヘラケズリ 内面 全体横ナデ 胴部上半指頭圧痕?	灰色 青	砂粒 雲母	口縁片	
35	土師器 甕	197×94×319 口縁は外反し上端はつまみ上げられる 頸部「く」の字状 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ナデ下半ヘラケズリ後下端ヘラミガキ 底部木葉痕 内面 口縁頸部横ナデ胴部ヘラナデ?一部指頭圧痕?	橙褐色 青	砂粒 雲母	完形	胴～底部外面 スス及び コゲ状着物
36	土師器 甕	—×88×(289) 外面 頸部横ナデ 胴部上半ヘラケズリ後ヘラミガキ 底部穿ち 瓶状とする 墨書 人面/下総國印播郡村神郷丈マ廣刀自呼召代通上/延暦十年十月廿二日	暗褐色 青	砂粒 雲母	頸部～ 底部	人面墨書

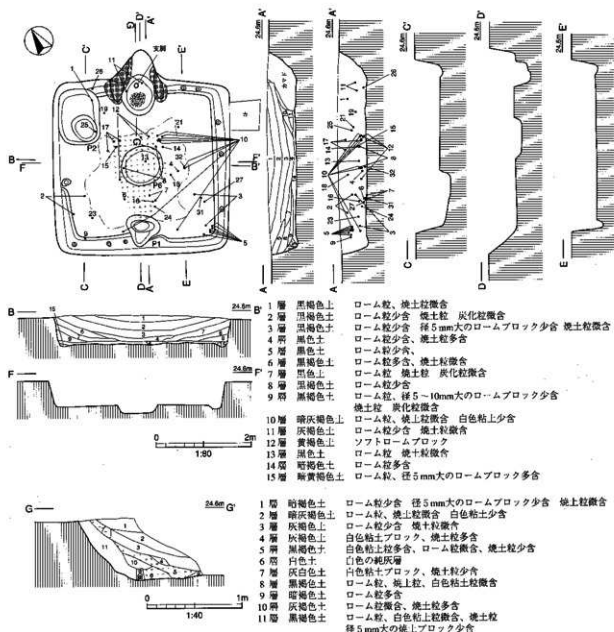


図162 A194

A194

検出地区 L5-73・83gにて検出した。

遺 構 長軸3.72m×短軸3.72m×壁高0.48~0.54m、主軸方位はN-10°Eを測る。平面形は隅丸方形である。

床はハードロームと暗褐色土が混合したものが、比較的硬い床であった。竈から出入口にかけての住居跡中央部は硬化面を残している。また、床は全体的に凹凸があった。主柱穴は不明であり、壁柱穴は9基確認した。P1は出入口に伴い、P3は貯蔵穴と捉えた。P6は用途不明であるが、調査時には柱穴と捉えていた。周溝は竈左袖脇から北西壁半ばまでのみ、巡っていた。竈は北東壁中央に設けられ、袖は白色粘土を主体として築かれ、内壁は赤化していた。竈ビット中央に、若干赤化した火床が検出された。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積が基本であったが、覆土中層において黒褐色土と焼土が混合しており、住居跡埋没過程においての凹みの段階で火の使用が窺えた。

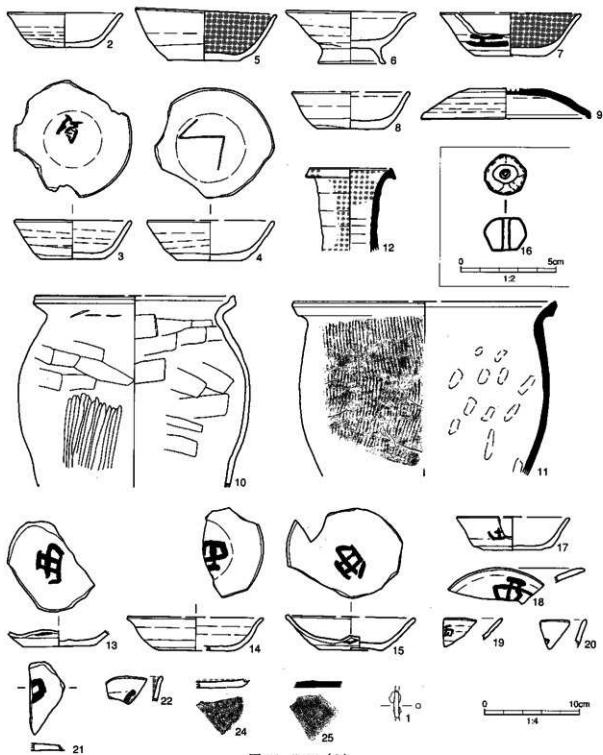


図163 A194 (2)

遺物 400点余が出土している。住居跡全体から出土しており、出土傾向を窺うことは出来なかった。流込みではあるが、縄文時代早期・撚糸文片が比較的多く、条痕文片も少量出土している。支脚は、竈ピットに正位で出土していた。また、紡錘車は竈脇から床より0.10m程高い位置から出土した。罽書・罽書土器は、比較的多く15点が出土している。多くは判読不能であったが、「西」の文字が多くなっている。

所見 本地区では、罽書土器が比較的多く出土している堅穴住居跡である。Ⅲ地区においてやや目立ってきた「西」の文字が5点出土し、主体となる文字の変更が窺える遺構であった。

表28 A194遺物観察表

(単位:mm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄製品 釘	29.5×5×5 重量2.2g			断面	
2	土師器 坏	120×60×36 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母長石類スコリア繊維	口縁～体部の一部を欠く	
3	土師器 坏	122×66×40 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母長石類スコリア繊維	口縁～体部の2/5を欠損	墨書「□」 見込面
4	土師器 坏	(134)×70×43 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ 胎土その他が須恵器と近似	茶褐色 良堅緻	細砂 長石類	口縁～体部の1/2欠損	ヘラ書「□」 見込面
5	土師器 坏	(144)×75×52 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面は密なヘラミガキ その後吸込底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	暗灰色 良	雲母少量 スコリア 繊維	口縁～体部の1/4を欠く	器外面及び口唇端に手ずれが目立つ
6	土師器 高台付坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ後 部分的にヘラミガキ底部は回転ヘラケズリで付高台	淡褐色 良	スコリア 雲母微粒 含む緻密	口縁～体部の1/2を欠く	
7	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面は密なヘラミガキ この後吸込底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 普	スコリア 雲母粒	口縁～体部の3/4欠く	墨書「？」か 体部外面
8	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ	橙褐色 普	赤色 スコリア 雲母粒	全体の1/3程	器外面に 二次焼成 内外面とも磨減 目立つ
9	須恵器 壺	-X-X- ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 宝珠部は螺旋状の切り込みを入れてからジョイントしたが割れている	灰色 良	反石類 赤色スコリア繊維	宝珠部ののみ欠く	内面が家城しており観として使用
10	土師器 坏	-X-X- 口縁は短く外反し滑部はつまみ上げ 口縁内外面ともナデ 胴上部外面はヘラケズリ後ヘラナデ 胴中位以下はヘラミガキ 内面はヘラナデ	橙褐色 普	雲母 花崗岩 スコリア 繊維	口縁～胴下半の2/3残存	常総型壺
11	須恵器 壺	-X-X- タタキ整形 口縁は内外面ともナデ 胴部外面は平行タタキ目 内面はあて具痕残る	黒褐色 良	長石類 スコリア 繊維	口縁～胴下半の1/3周	
12	須恵器 壺	-X-X- ロクロ成形 口縁端部はつまみ上げ 外面の口縁～頸部のほぼ全体に自然釉 内面は頸部の中程まで自然釉	灰色 自然釉は濃緑色	細砂 白色粒 黒色粒	口縁の一部と胴以下欠く	
13	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ その後部分的にヘラミガキ 底部は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母少量 赤色スコリア繊維	底部3/5 体部の一部	墨書「西」 「□」 見込面体部外面
14	土師器 壺	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母少量 赤色スコリア繊維	全体の1/4余	墨書「西」 見込面
15	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	淡褐色 良	赤色 スコリア 雲母粒	底部完存口縁～体部一部	墨書「西」 見込面 もう一つ所
16	土製品 土玉	重量g 板の1などで転がしたと思われるフラットかつくばった面あり 穿孔は棒状工具を片側から突き刺し反対側からこじり気味に抜く	橙褐色 普	長石類 赤色スコリア繊維	完存品	
17	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後周縁は手持ちヘラケズリ	橙褐色 淡褐色 普	長石類 赤色スコリア繊維	全体の1/3強	墨書「□」 体部外面



18	土師器 罎	-X-X- ロクロ成形 内面は部分的にヘラミガキ	淡褐色 良	雲母少量 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 一部	墨書「西」 体部外面
19	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ	橙褐色 普通	雲母少量 スコリア 細粒	口縁片	墨書「西」か 口縁外面
20	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ	橙褐色 普通	雲母少量 スコリア 細粒	口縁片	墨書「口」 口縁外面
21	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面は密なヘラミガキ この後吸炭か あり 本例は黒色処理をしたかは不明である	暗褐色 微褐色 良	スコリア 雲母微量 細密	底部片	墨書「口」か 見込面
22	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面は密なヘラミガキこの後吸炭	橙褐色 良	スコリア 雲母細粒	口縁片	墨書「口」 口縁外面
23	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラズリ 内面は密なヘラミガキこの後吸炭	淡褐色 良	スコリア 雲母細粒	口縁片	墨書「口」 体部外面 未提示
24	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 底部外面は切り離し後ヘラズリ 密なヘラミガキ この後吸炭	橙褐色 良	スコリア 雲母細粒 細密	底部片	ヘラ書「X」 底部外面
25	須恵器 坏	-X-X- ロクロ成形 底部外面は静止ヘラ切り 内面はロクロナデ	暗灰色 良	珉石類 スコリア 細粒	体部片	ヘラ書「X」 底部外面

#### A195

検出地区 L5-83・84gにて出土した。

遺 構 長軸3.24m×短軸3.20m×壁高0.20m、主軸方位はN-37°-Eを測る。平面形は隅丸方形である。比較的掘込みの浅い住居跡である。

床はハードルームに暗褐色土が混合したもので、竈前から竈対面壁の中央にかけて硬化面を認めた。明瞭な柱穴は不明であり、壁柱穴を5基礎確認した。P2・P4は用途不明であり、P5は出入口に伴うものであろうか。周溝は、竈袖下まで全周する。竈は北東壁のやや北コーナー寄りに設けられ、袖は暗褐色土を主体として粘土が混合したもので築かれていた。竈は他の住居跡に比して貧弱であった。皿状に浅い竈ピットの床面側に火床を検出した。煙道部では火熱痕を認めた。覆土は、黒褐色土の自然遺跡であった。

遺 物 130点弱の出土をみている。出土破片には、常総型甕が認められなかった。1は火床と煙道の境界で床より0.20m高く正位で、2は竈前の床面からやはり正位で出土している。

所 見 本遺跡の遺構出土に多い土師器・常総型甕の出土を見ない、稀な堅穴住居跡となっている。全体的に本遺跡では武蔵型甕の出土は少なく、常総型甕が圧倒的な量を占めている。その様な土師器甕の出土傾向の中で、本住居跡の廃絶時に持ち去られたものかは判断できなかった。

なお、重複する遺構との新旧関係は、B074→A195と捉えられた。

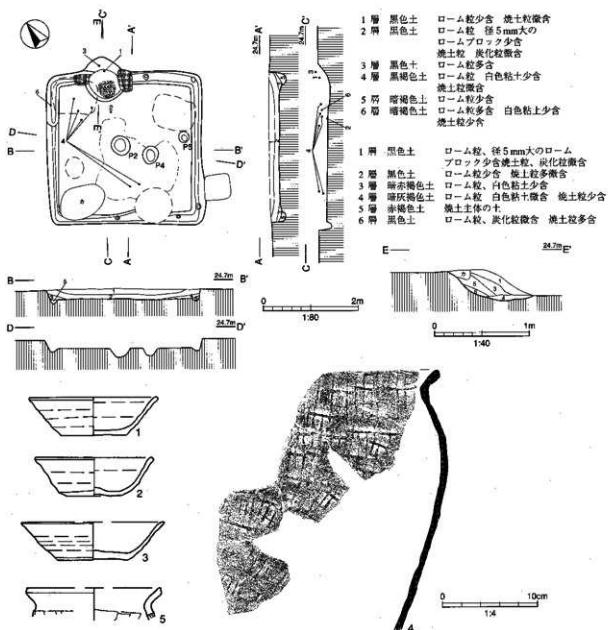


図164 A195

表29 A195遺物観察表

(単位:mm)

No	種別形	法象 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	136×69×41 ロクロ成形 内面はロクロナデ 底部は回転糸切りの無調整	赤褐色 良	細砂多量 長石類 スコリア 細粒	完存品	
2	土師器 坏	125×59×42 ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転糸切り後周縁部は回転ヘラケズリ	淡褐色 普通	長石類 赤色スコ リア細粒 欠く	体部の 一部を	全体に器壁が 厚く粗野な印象 を与える
3	土師器 坏	150×74×40 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後周縁部は回転ヘラケズリ	黒褐色 悪	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 2/3を	一次焼成等の 大熱でひしゃげ て歪む
4	須恵器 壺	—×—×— タタキ整形 口縁は短く外反して端部はつまみ上げ 口縁部内外面ともナデ 胴部 外面は格子目タタキ 下半はヘラケズリ 内面はヘラナデ	茶褐色 普通	細砂長石 類スコ リア細粒	口縁～ 胴下部 の一部	ほとんど 酸化炎焼成
5	土師器 壺	(140)×—×(30) 口縁部は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁部内外面ともナデ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ	茶褐色 普通	長石類 細粒スコ リア粒	口縁～ 胴上部 の1/2	

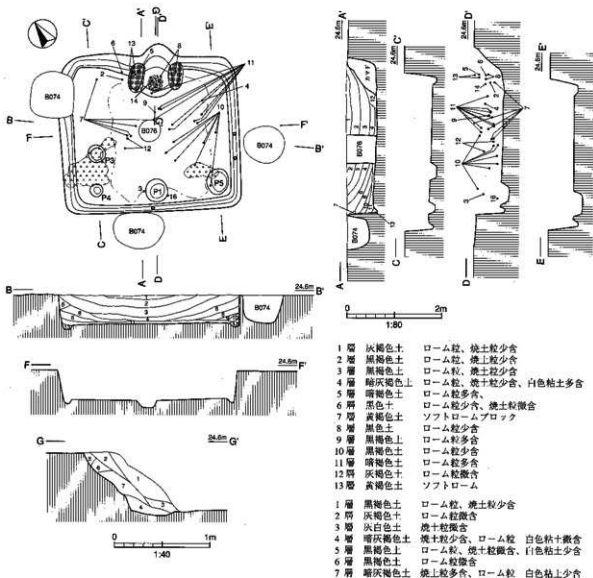


図165 A196

A196

検出地区 L5-94gにて検出した。

遺構 長軸3.72m×短軸3.28m×壁高0.52~0.62m、主軸方位はN-33°Eを測る。平面形は、横幅のある隅丸方形である。

床はハードロームと暗褐色土を混合した貼床で。住居跡中央の床面に硬化を認めた。柱穴はP3~P5の3基を検出したが、やや不明瞭な柱穴であった。壁柱穴は3基を確認し、P1は出入口に伴うものと捉えた。周溝は竈袖下まで全周している。竈は北東壁中央に設けられ、白色粘土主体の袖が築かれ、袖の内壁は赤化していた。凹凸ある浅い竈ピット内に、赤化した火床を床寄りに検出した。竈ピットから煙道中位まで赤化はしていないが、底部となるロームに火熱痕を認めた。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積であったが、鹹水種の貝の廃棄が行われていた。アサリなどを主体としている。

遺物 280点余の出土であった。16点を図示したが、土師器・坏の出土が少なかった。2・5・14は竈出土ではなく、覆土中である。断片であるが、支脚や鉄滓も出土している。

所見 B074・B076と重複するが、重複した遺構との新旧関係は、本住居跡がもっとも新しい遺構となっている。

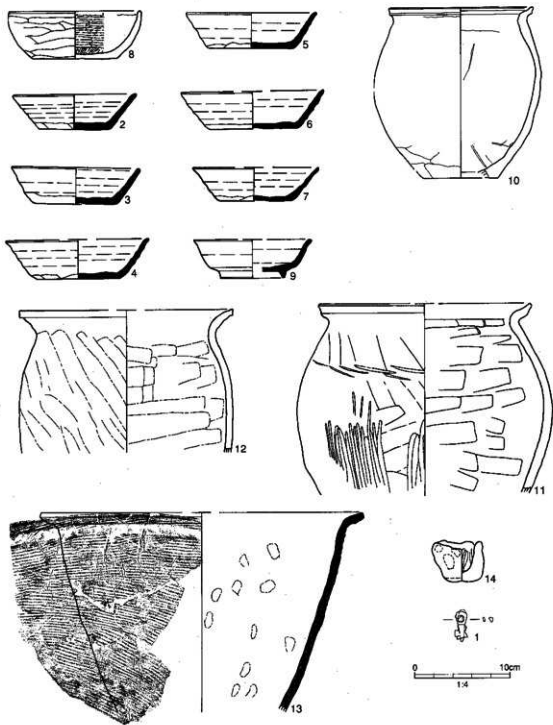


图166 A196 (2)

表30 A196遺物観察表

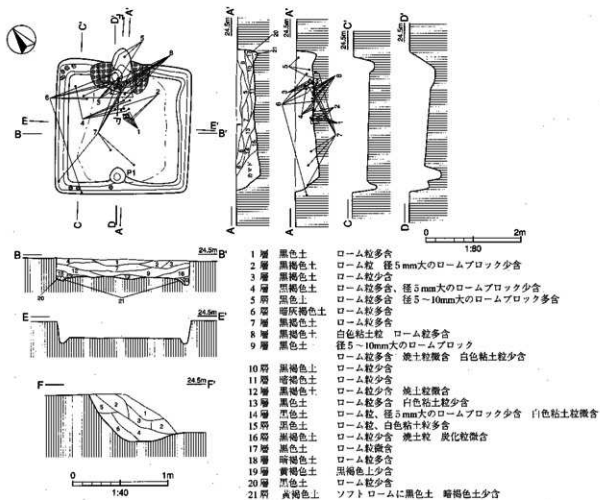
(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 不明	31.5×11×4.5 重量5.0g			断片	孔を有する
2	須恵器 坏	131×75×39 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後静止状態でのヘラケズリ	灰色 良	雲母少量 花崗岩 スコリア 細粒	口縁- 体部の 1/5を 欠く	器内面とも ロクロ目が明瞭 常陸産
3	須恵器 坏	135×89×39 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ	灰色 良	雲母 白色粒子	口縁- 体部の 1/3欠損	口唇端底面 及び内面に 手ずれ目立つ
4	須恵器 坏	150×86×42 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘラ切り	灰色 普	雲母 花崗岩粒 長石類 細粒	口縁- 底部の 1/2弱 が残存	常陸産
5	須恵器 甕	137×90×38 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部切り後し手持ちヘラケズリ	灰色 普	雲母 スコリア 細粒 花崗岩粒	口縁- 底部の 2/5を 欠く	刻書「×」 底部内面
6	須恵器 坏	150×90×40 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後周縁は手持ちヘラケズリ 内面はススのこびり付き	暗灰色	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁1/3 底部1/2 残存	灯明皿に転用か 常陸産
7	須恵器 坏	133×77×36 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 底部回転ヘラ切り後 周縁は手持ちヘラケズリ	灰色 良	雲母少量 花崗岩 細粒	口縁- 体部の 2/3を 欠く	常陸産
8	土師器 坏	139×89×50 非ロクロ成形 口縁外面ナデ 体部～底部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はナデのち密なヘラミガキ 丸底気味で碗に近い器形	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁の 半分弱 を欠く	
9	須恵器 高台付坏	122×68×41 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ付高台	灰色 普	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	1/3	器内外面とも 磨れ目立つ 常陸産
10	土師器 甕	(151)×(80)×181 口縁は外反し上端はつまみ上げられる外面は凹線状の調整 外面 口縁頸部胴部上半横ナデ 下半横ヘラケズリ 底部木葉痕 内面 口縁頸部横ナデ 胴部ヘラナデ	橙褐色 普	粗砂粒多 雲母	1/2	常陸型甕
11	土師器 甕	(224)×-(203) 最大径(268) 口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 最大径は胴中位よりやや上部に持つ 口縁内外面ナデ 胴部外面上半ヘラナデ下半ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はヘラナデ	橙褐色 普	雲母 花崗岩細 粒含む	口縁一 部胴上 半～中 位2/3	常陸型甕
12	土師器 甕	225×-(203) 口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁内外面ナデ 胴部外面はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ 内面はヘラナデ	暗褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁- 胴中位 の1/4	
13	須恵器 瓶	340×-(210) タタキ壺形 口縁は強く外反し端部はつまみ上げ 口縁内外面ナデ 胴部外面は平行タタキ目 内面はナデであて具痕	灰色 普	雲母スコ リア細粒 花崗岩(3 ～5mm)	口縁- 胴下半 の1/4	常陸産
14	手づくね 土器	465×385×35 外面は指頭痕目立ち指ナデも行う 内面は基本的に指ナデで部分的にはヘラを用いたササエを行う	外橙褐色 内茶褐色 黒	長石類 赤色スコ リア細粒		略完形 一部焼成不良

## A197

検出地区 L5-94gにて検出した。

遺 構 長軸2.80m×短軸2.76m×壁高0.32～0.36m、主軸方位はN-42°-Eを測る。平面形は横幅がややある隅丸方形であり、北コーナーがやや張っている。暗褐色土が少量混合するが、ハードロームの地床である。全体にやや軟らかいが、竈前から出入口にかけてはそこでは硬化面を認める。そして住居跡中央の床は、周囲に比しやや低くなっていた。主柱穴は検出されず、壁柱穴を住居跡北コーナーと南西壁西寄りに7基確認した。P1は出入口に伴うピットである。周溝は、竈袖下まで全周している。竈は



- 1層 黒色土 ローム粒 径5mm大のロームブロック少含  
2層 黒褐色土 土粒微含  
3層 黒褐色土 ローム粒 炭七粒少含 白色粘土粒多含  
4層 暗褐色土 ローム粒 白色粘土粒少含  
5層 暗灰褐色土 ローム粒 炭土粒 白色粘土粒微含  
6層 黒褐色土 ローム粒 土粒 白色粘土粒微含

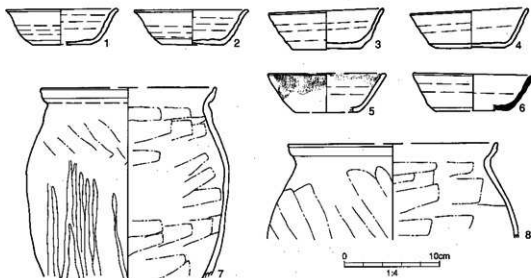


図167 A197

北東壁中央に設けられ、白色粘土を主体として築き、袖の内壁は部分的に赤化していた。竈ピットの坑底は全体に火熱痕を認めたが、赤化した火床は検出されなかった。覆土は殆どが量の多寡はあるもののロームを含むもので、人為的投入によって堆積していると捉えられた。

遺物 70点余の出土であり、竈穴住居跡としては出土量は少ない。中でも、竈周辺からの出土が多い傾向が窺えた。

所見 竈穴住居跡や掘立柱建物跡が集中する地区であるためなのか、遺構廃絶後に人為的に埋戻された住居跡である。本遺跡の竈穴住居跡の人為的埋戻しの例は多いが、本住居跡も平坦面をつくるために埋戻された様な状態であった。

表31 A197遺物観察表

(単位mm)

No	種別形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	118×60×37 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後、周縁は回転ヘラケズリ	明褐色 良(堅緻)	長石類 赤色スコリア凝粒	体部の一部を欠く	紐づくりの痕跡を残す
2	土師器 坏	120×65×37.5 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後、周縁は回転ヘラケズリ	明褐色 良(堅緻)	長石類 赤色スコリア凝粒	口縁～体部の一部を欠く	
3	土師器 坏	120×70×43 ロクロ成形 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後、周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 普通	雲母赤色スコリア凝粒	口縁～底部の1/2を欠く	
4	土師器 坏	124×70×41 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後、周縁は回転ヘラケズリ	外橙褐色 内暗褐色 普通	雲母赤色スコリア凝粒	口縁～底部の1/2を欠く	3よりも雲母の含有が少ない
5	土師器 坏	124×65×41 ロクロ成形 内面はロクロナデ 底部は回転糸切りのまま器内外面にスス付着	橙褐色 良	長石類 スコリア凝粒	全体の2/5残存	転用灯明皿
6	須恵器 坏	126×74×41 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ	灰色 良	長石類 スコリア凝粒	全体の2/3	
7	土師器 壺	188××198 最大径212 口縁端部はつまみ上げ 最大径は胴上部 胴部外面はヘラケズリ後 上半はヘラナデ 下半はヘラミガキ 内面ヘラナデ	淡褐色 普通	雲母 花崗岩 スコリア 凝粒	口縁1/2 胴部1/3	常総型壺
8	土師器 壺	230××(100) 口縁端部はつまみ上げ 最大径は胴上部か 口縁部内外面ともナデ 胴部外面はヘラケズリ後ナデまたはヘラナデ 内面はヘラナデ	茶褐色 普通	雲母花崗 岩スコリア 凝粒	口縁～胴上部の1/4弱	常総型壺

#### A198

検出地区 L6-5gにて検出した。

遺構 長軸4.85m×短軸4.56m×壁高0.56～0.66m、主軸方位はN-45°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

床は暗褐色土とハードロームが混合した床であり、硬化面を認める。P1・P2・P4・P5の4基が主柱穴であり、壁柱穴は16基確認した。主柱穴の床からの深さは0.52～0.68mであり、P4は特に深く0.86mであった。柱が引抜かれているかは捉えられなかった。P3は出入口に伴うピットである。周溝は、竈袖下まで全周していた。竈は北西壁中央に設けられ、白色粘土を主体として築かれていた。袖の内壁は赤化していた。凹み状の竈ピットの床寄りに赤化した火床が検出された。また、煙道部の壁への掘込みはやや深かった。覆土は、黒色土を主体として自然堆積であった。主柱穴内及び出入口にかけて床面に白色粘土が散布し、特に住居跡中央の床面上には、焼土も含まれていた。

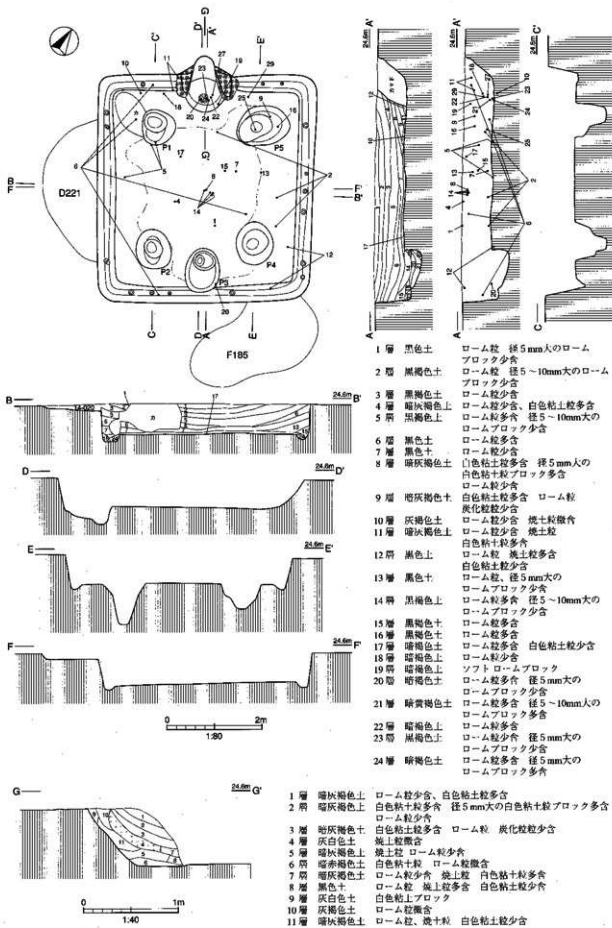


図168 A198



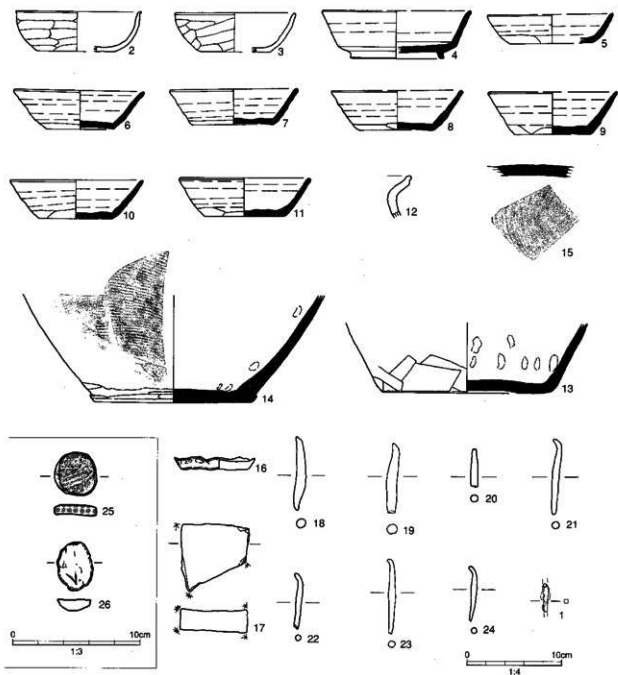


図169 A198 (2)

遺物 遺物は全体としては遺構に散在して出土し、160点余の出土があった。本住居跡からは「耳搔き状」の用途不明の棒状土製品が7点が出土している。18・19・21～24の6点は本来の竈天井付近から、20がP5近くで出土しており、検出位置の高さは一様ではなかった。また、流込みではあるが縄文早期・条痕文も少ないが出土しており、黒曜石剥片や被熱した礫も出土している。

所見 主柱穴の平面及び断面形から、柱は住居廃絶後、柱の脇を掘返して引抜かれた可能性がある堅穴住居跡である。「耳搔き状」の棒状土製品については、寡聞して類例を知らない。資料の増加を待って検討すべきであろう。

表32 A198遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 釘	30×4×4 重量2.0g			断片	
2	土師器 坏	(130)×(80)×42 非ロクロ成形 口縁外面ナデ外面の体部から底部はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ 内面はナデのちヘラミガキ丸底で体部は半球状	褐色 青	雲母花崗 岩スコリア ア細粒	1/3	
3	土師器 坏	(126)×(73)×41 非ロクロ成形 口縁外面ナデ 外面の体部から底部はヘラケズリ 内面はナデ後密なヘ ラミガキ裏手で口縁下はを沈線状に窪ませる	褐色 青	雲母花崗 岩スコリア ア細粒	1/3	
4	土師器 高台付坏	ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ ケズリで付高台(螺旋状の溝を磨る)	灰色 青	雲母花崗 岩スコリア ア細粒	坏部 2/5 高台部 の1/2	常陸産
5	須恵器 坏	ロクロ成形 外面 体部下半は回転ヘラケズリ	灰色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁1/ 4 底部 の大半 を欠く	常陸産
6	須恵器 坏	ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘラ 切り	灰色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 2/5を 欠く	常陸産
7	須恵器 坏	ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ ケズリ	黄灰色 青	雲母花崗 岩長石類 細粒	全体の 1/2	常陸産
8	須恵器 坏	ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘ ラ切り後手持ちヘラケズリ	灰色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 2/5を 欠く	常陸産
9	須恵器 坏	ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘ ラ切り後 周縁は手持ちヘラケズリ	灰色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 2/5を 欠く	常陸産
10	須恵器 坏	ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘラ 切り	灰色 良	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	全体の 1/2 残存	常陸産
11	須恵器 坏	ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部静止ヘラ 切り後部分的に手持ちヘラケズリ	灰色 良	花崗岩 スコリア 細粒	充存品	口縁及び底面に 手ずれあり
12	土師器 壺	口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁内外面ともナデ 胴部外面は ヘラケズリ後ナデ 内面はヘラナデ	茶褐色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁片	常陸型壺
13	須恵器 壺	タタキ整形 胴部外面は平行タタキ目 胴下半はヘラケズリ 内面はナデであて具痕あり	灰色 青	雲母 花崗岩 長石類 細粒	口縁片	常陸型壺
14	須恵器 壺	タタキ整形 胴部外面は平行タタキ目で底部付近はヘラケズリ自然輪かかる タタキ整形後ナデ	外明灰褐色 内暗灰色 良型鉄	細砂 白色 微粒子	胴下半 ～底部	
15	須恵器 不明	ロクロで仕上げている 外面に「ロクロ目」ないし「カキ目」あり	青灰色 良型鉄	細砂 白色 微粒子	破片	あるいは 「提瓶」 になるか
16	手ずくね 土器	手ずくね 内外面とも最終調整は粗い指ナデ 器形的には極めてながら 「皿状」か	外茶褐色 内黒褐色 悪	長石類 赤色スコ リアア細粒	全体の 2/5	
17	石製品 砥石	台形状 表面及び側面を使用面とする 欠損後再生し再度欠損している			1/2	砂岩製

18	棒状 土製品	77×9 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	橙褐色 普	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	完存品
19	棒状 土製品	73×5 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	暗褐色 普	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	片方の 端部を 欠く
20	棒状 土製品	(41)×4 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	茶褐色 普	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	1/2 残存
21	棒状 土製品	40×3 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	暗褐色 普	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	ほぼ 完存品
22	棒状 土製品	55×3 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	橙褐色 普	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	両端を 欠損す る
23	棒状 土製品	75×4 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	橙褐色 普	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	片方の 端部を 欠く
24	棒状 土製品	58×3 棒状の両端を折り曲げた形状 調整は特になし	茶褐色	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒	片方の 端部を 欠く
25	土製品 土製円盤	35×34×8 奈良文土器片の再利用 破断面をスル	暗褐色	繊維	完存
27	土製品 焼成粘土 塊	51×36×6 重量g 粘土塊を指で平たくつぶして乾燥して焼いたもの 特に調整は無し	暗褐色 普	細砂スコ リア細粒	完存品

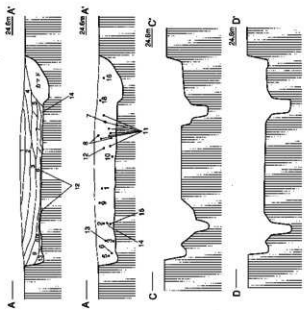
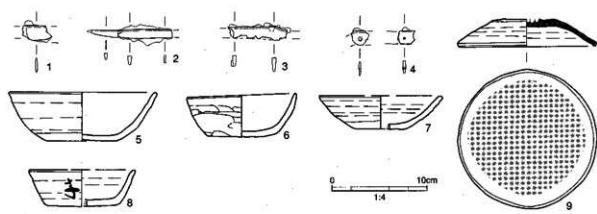
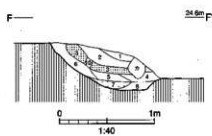
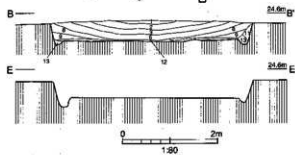
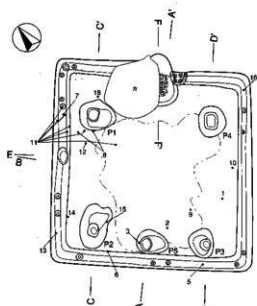
#### A199

検出地区 L5-85・94gにて検出した。

遺構 長軸4.28m×短軸4.24m×壁高m0.32~0.36、主軸方位はN-40°-Eを測る。平面形は、方形に極めて近い隅丸方形である。床はハードロームと暗褐色土の混合したもので、住居跡中央の床は強く硬化していた。一方、硬化面内では、出入口付近は火熱痕が認められ床面が損壊していた。主柱穴はP1~P4の4基が検出され、壁柱穴は15基を確認した。主柱穴の床面からの深さは0.52~0.60mであり、比較的掘込みの深さは均一化していた。柱穴覆土は、ロームを多く含んだ黒褐色土であった。P5は出入口に伴うものである。周溝は竈袖下まで、住居跡壁際を全周している。竈は北東壁中央に設けられ、白色粘土主体によって袖を築いていた。竈は大きく攪乱を被り左側を欠いているが、竈ビット内に赤化した火床を検出した。覆土は黒褐色土と黒色土を主体とした自然堆積であるが、西コーナーに本住居跡の廃絶後に伴う、投入土としての焼土と黒褐色土の混合層が認められた。

遺物 240点余の出土であった。9は須恵器蓋であるが天蓋部内面に墨痕が残り、転用硯として使用されている。刀子の断片が3点出土し、穂摘具と考えられる小断片も出土した。

所見 平面形はしっかりした方形の堅穴住居跡であり、柱材を引抜いたと捉えられる遺構としては遺存状態の良好な住居跡である。また、自然堆積で埋没している遺構であるが、遺構の集中地区で「廃棄場所」としても使用されたとは捉えられない遺物量から、「穴」として放置されえた時間的な誤差がもしかしたら有るかもしれない遺構であった。



- |          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 1層 黒色土   | ローム粒微含                      |
| 2層 黒色上   | ローム粒 焼十粒微含                  |
| 3層 黒色上   | ローム粒微含                      |
| 4層 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含、焼土粒微含          |
| 5層 暗灰褐色土 | ローム粒少含、焼土粒微含 白色粘土粒多含        |
| 6層 白色土   | ローム粒少含、焼土粒微含                |
| 7層 暗灰褐色上 | ローム粒少含、焼十粒微含 炭化粒粒少含 白色粘土粒多含 |
| 8層 黒褐色上  | ローム粒少含                      |
| 9層 黒褐色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 炭化粒微含  |
| 10層 灰白色土 | 白色粘土ブロック                    |
| 11層 黒色土  | ローム粒微含                      |
| 12層 黒褐色土 | ローム粒多含                      |
| 13層 暗褐色土 | ローム粒多含                      |
| 14層 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含                |
- 
- |           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 1層 暗灰褐色土  | ローム粒少含、焼土粒微含 白色粘土粒多含        |
| 2層 暗灰褐色上  | ローム粒少含、焼十粒微含 炭化粒粒少含 白色粘土粒多含 |
| 3層 暗灰白色土  | 焼土粒微含                       |
| 4層 黒褐色土   | ローム粒、白色粘土粒少含                |
| 5層 灰褐色土   | 焼土粒多含                       |
| 6層 黒褐色土   | 焼土粒多含 白色粘土粒少含               |
| 7層 赤褐色土   | 火床の焼土層                      |
| 8層 灰褐色土   | 焼十粒 ローム粒微含                  |
| 9層 欠番     |                             |
| 10層 暗灰褐色土 | 焼土粒微含                       |

図170 A199

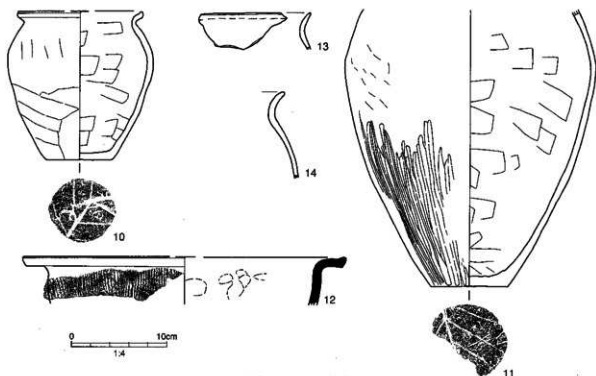


図171 A199 (2)

表33 A199遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 刀子	31×15×2 重量3.0g	刃部			
2	鉄器 刀子	84×6.5×3 —×9×4 —×8×2 重量10.5g	刃先			
3	鉄器 刀子	62×11×3 62×14×4 重量6.7g	刃~莖			
4	鉄器 穂摘具	19×14.5×2 重量1.5g 19×13.5×3 重量1.9g	断片			
5	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ 底部は回転糸切り 後周縁は回転ヘラケズリ外面は二次焼成	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁~ 体部の 1/3 欠損	
6	土師器 坏	—×—×— 鼻ロクロ成形 外面の体部はヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はヘラケズリ 後ナデ 底部はヘラケズリ後ヘラミガキ	暗褐色 善	長石類細 粒赤色 スコリア 細粒	1/2強 の残存	
7	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリその後ヘラミガキ 内面はヘラミガキ その後吸炭か 底部は回転ヘラケズリ後部分的にヘラミガキ	橙褐色 良	赤色スコ リア雲母 細粒緻密	口縁~ 底部の 1/2	内黒か
8	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 内面はロクロナデ 底部は切り離した後ヘラミガキ	淡褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁~ 底部の 1/4	器書「?」か 体部外面
9	須恵器 釜	—×—×— ロクロ成形 外面の大蓋部は回転ヘラケズリ 宝珠部をジョイントする 内面はロク ロナデ 内面は全面が使用面となっている 常陸産	灰色 良	雲母花崗 岩粒スコ リア細粒	宝珠部 を欠く スコリア 細粒	「蓋」としては ともかく「転用 碗」としては 完存品

10	土師器 小形甕	-X-X- 最大径を胴上半に持ち口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁内外面 ナデ 胴上半はヘラズリ後ナデ下半はヘラズリ 内面はヘラズリ 後ヘラナデ	橙褐色 青	雲母花崗 岩細粒	底部完 存口縁 ~胴下 半2/5	底部木炭痕 常総型甕
11	土師器 甕	-X-X- 最大径を胴上半に持ちやや長胴 外面胴上半はヘラズリ後ナデ 中位~下半はヘラズリ後ヘラミガキ 内面はヘラナデ 底部外面は木 炭痕	茶褐色 青	雲母花崗 岩スコ リア細粒	肩~底 部の1/ 3底部 3/5	常総型甕
12	須恵器 甕	-X-X- 口縁は器壁に対して垂直気味に開き端部はつまみ上げ 口縁内外面とも ナデ 胴部外面は平行タキ目 内面はナデであて具痕残る	濃灰色 良	雲母花崗 岩粒スコ リア細粒	口縁~ 胴上部 片	常陸産
13	土師器 甕	-X-X- 口縁は外反する 口縁内外面ともナデ 胴部外面ヘラズリ 内面はヘ ラナデ 極薄出の作り 器外面は剥落日立つ	赤褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁~ 胴上部 片	武蔵型甕
14	土師器 甕	-X-X- 口縁は強く外反する 口縁内外面ともナデ 胴部外面ヘラズリ 内面はナデ	暗褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁~ 胴上部 片	

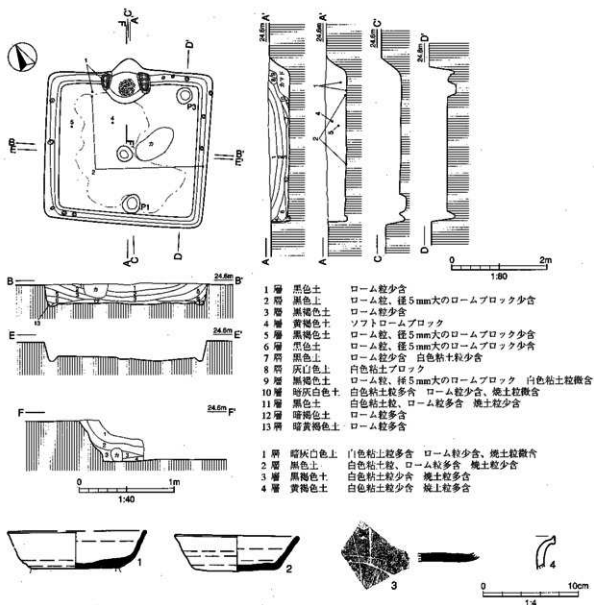


図172 A200

表34 A200遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	146×94×40 ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転ヘラケズリ後付高台(剥落)	灰色 青	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	高台部 を欠く 体部一 部欠く	高台剥落後は 坏として使用
2	須恵器 坏	130×85×37 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ -×-×-	灰色 青	雲母少量 2~3mm 人程の 花崗岩粒	全体の 1/2強	常陸産
3	須恵器 坏	ロクロ成形 底部は静止ヘラ切り 内面はロクロナデ -×-×-	灰色 青	雲母花崗 岩長石類 細粒	底部片	刻書「×」 底部外面 常陸産
4	土師器 壺	-×-×- 口縁端部はつまみ上げ 口縁部に内外面ともナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 微細粒	口縁片	

## A200

検出地区 L5-95g、L6-4gにて検出した。

遺構 長軸3.44m×短軸3.20m×壁高0.36m、主軸方位はN-33°-Eを測る。壁柱穴、横幅のある隅丸方形である。

床は暗褐色土が少量混入しているが、ハードロームの比較的良好な地床である。しかし住居跡の中央部は、若干凹凸があった。床面にピットを3基検出したが、主柱穴は捉えられなかった。P1は出入口に伴うものであろうが、P3は床から0.18mと浅く柱穴とは捉えにくかった。また、住居跡中央に浅いピットが掘込まれていた。壁柱穴は11基確認されている。周溝は、竈袖下まで全周していた。

竈は北東壁中央に設けられ、白色粘土に黒褐色土を混合させて竈袖を築いている。その混合土は視認では、きれいな状態ではなかった。袖の内壁は部分的に赤化していた。また、凹み状の竈ピット坑底の中央に、赤化した火床が検出された。覆土は黒色土・黒褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 40点余の出土であり、竈穴住居跡としては出土点数は少ない。また、整理においても土師器・坏の出土が確認できなかった住居跡であった。1は竈左袖上に伏せた状態で出土した。3は「×」が刻書された須恵器・坏底部片である。

所見 竈前から出入口にかけて、帯状に広く床面が凹んでいる竈穴住居跡である。

## A201

検出地区 L5-86・96gにて検出した。

遺構 長軸6.08m×短軸5.96m×深さ0.35~0.44m、主軸方位はN-55°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。やや大型の竈穴住居跡である。

床はハードロームに暗褐色土が少量混入しているが、ロームの地床と捉えた。全体的に硬い床面である。竈前から出入口にかけての住居跡中央に不定形に硬化面を認めた。主柱穴はP1~P4の4基が検出され、壁柱穴は8基確認した。P7a~c・P8・P10の5基は支柱穴と捉えた。P1~P4はロームを多く含んだ覆土であったが、柱は引抜かれていた。床からの深さは0.78~0.88mであり、0.80m前後で均一化していた。また、主柱穴内に柱の移動が認められた。P5は出入口施設に伴うピットと捉えた。周溝は、竈袖下まで全周している。

竈は北西壁に設けられ、白色粘土を主体として袖は築かれ、袖の内壁は赤化していた。また、緩やかに掘込んだ竈ピットの坑底に、範囲の広い赤化した火床を検出した。竈穴住居跡の規模に応じて竈の規模も大きくなっているが、煙道部の壁への掘込みは浅いものであった。覆土は、黒色土と黒褐色土を主体とした自然堆積であった。

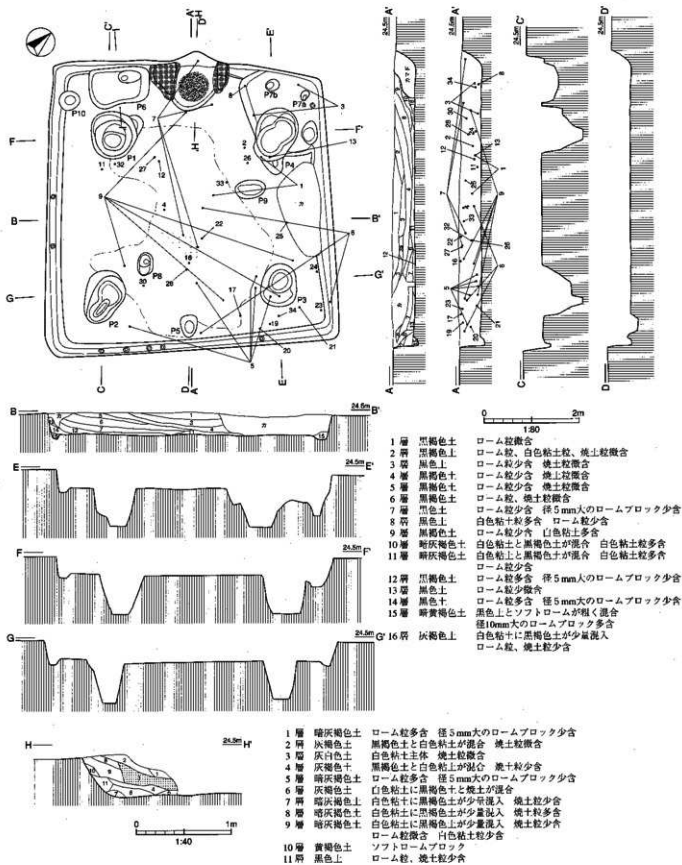


図173 A201



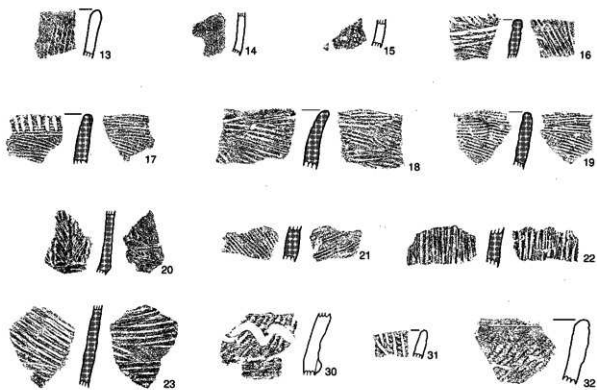
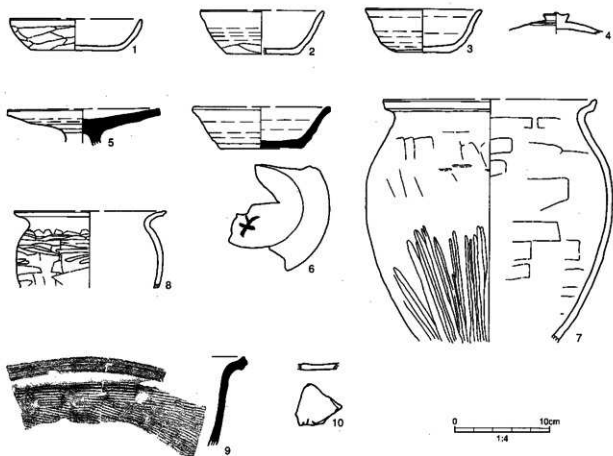


图174 A201 (2)

遺物 440点余の出土をみている。土師器及び須恵器片を主体として出土しているが、縄文早期・条痕文片や黒曜石剥片なども出土している。覆土中層・上層に出土が多い傾向が窺えた。しかし図示できる当該時期の遺物は少なかった。墨書土器は2点出土しているが、6は「大」か「丈」か判読が分かれるところである。11は小破片であり、判読できなかった。5は硯に転用していた。

13以降は縄文時代早期の土器片である。13~15は捺糸文を施文する。16~23、30~32は条痕文を施す。30~32は中期の土器である。

所見 本地区においても、比較的、規模の大きな堅穴住居跡である。調査時に柱穴内覆土により、柱の改替が行われていたことを捉えた。出入口方向から竈方向へ移動していた。しかし住居跡全体からは拡張及び建替えが行われたことは捉えられず、柱の改替のみである可能性が高いものである。また、北コーナーは一段の凹みは掘方である。

表35 A201遺物観察表

(単位mm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(140)×92×34 全体段み上げか 外面 1線ナデ 頸部頸部ヘラケズリ 内面 丁寧なヘラミガキ	淡褐色 良	細砂 長石類 スコリア	口縁~ 底部の 1/4	
2	土師器 坏	(130)×(75)×46 全体ロクロ成形 外面 ロクロ成形で体部下半は手持ちヘラケズリ 内面 頸部頸部ロクロナデ	橙褐色 善	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒含む	全体の 1/3強	
3	土師器 坏	122×55×46 口径と底径の比は2:1に近い 全体ロクロ成形 外面 ロクロ成形で体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒含む	口縁の: 1/3周 程度欠損	
4	土師器 蓋	—×—×残存22 全体ロクロで仕上げ 外面 ロクロ天蓋部は回転ヘラケズリその後宝珠部を接合する 内面 ロクロ成形後ヘラミガキか	茶褐色 良	細砂長石 類赤色 スコリア 細粒含む	大蓋部 の一部 宝珠部 残存	器面は 荒れている
5	須恵器 (転用硯) 高盤	160×—×35 全体 ロクロ成形で脚部と盤部をジョイント 外面 ロクロ成形 内面 ロクロナデ破として使用	銀ねず色 善	細砂長石 類花崗岩 スコリア 細粒含む	盤部の 1/2強の 脚部が 残存	脚の取れた 高盤の内面を 硯として転用
6	須恵器 坏	(145)×(87)×44 ロクロ成形 外面 ロクロ成形で体部下端は回転ヘラケズリ 底部静止ヘラ切り 内面 ロクロナデ	灰色 善	細砂雲母 花崗岩粒 長石細粒 含む	口縁~ 底部の 1/4	墨書「大」 1文字? 底部外面 常陸産
7	土師器 堿	225×—×残存258 外面 口縁ナデ 頸部頸部上半ヘラケズリ後ヘラナデ 胴部中位下半ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ナデ頸部~胴部下半ヘラナデ	橙褐色 善	細砂長石 類雲母 赤色スコ リア細粒	口縁脚 下半の 1/2弱	常陸型堿
8	土師器 小形堿	(160)×—×残存81 外面 口縁頸部ナデ 頸部頸部中位ヘラケズリ後部分的なヘラミガキ 内面 口縁頸部ナデ 頸部頸部中位ヘラナデ	灰褐色 良	細砂 長石類 スコリア 細粒含む	口縁~ 胴中位 の1/4	常陸産「飯」 の可能性もなく はない
9	須恵器 堿	全体 紐づくりで積み上げる タタキ壺形 外面 口縁頸部ナデ 胴部平行タタキ目「椎状のヘラによるナデ痕」 内面 口縁頸部頸部ナデ及び部分的にケズリ入る あて具痕顕著	灰色 良堅微	細砂長石 類花崗岩 スコリア 細粒含む	口縁上~ 胴上半 の1/4	
10	土師器 坏	—×—×— 全体ロクロ成形 外面 底部回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	外黒灰色 内淡褐色 善	細砂雲母 長石類 花崗岩 細粒含む	底部片	墨書「□」 底部外面 常陸産

A202a・b

検出地区 L5-75・85む・86gにて検出した。

遺構 建替えを行った竪穴住居跡である。

A202aは、長軸7.40m×短軸6.60m×深さ0.60～0.66m、KAの主軸方位はN-35°-Wを測る。平面形は、横幅のある隅丸方形である。竈は北西壁に設けられ、図示できなかったが、白色粘土を使用して袖は築かれていた。赤化した火床は周溝を跨いで検出された。

A202bは、長軸(6.30)m×短軸(5.90)m×深さ—m、KBの主軸方位はN-36°-Eを測る。平面形は隅丸方形である。竈KBはA202aによって壊され、竈ピットと火床の一部が遺存するのみであった。煙道部も失われていた。

周溝は2条検出されたが、3条となる部分もあった。この周溝とKBの損壊から、最低2軒の重複住居跡と判断した。

覆土はA202aのものであるが、ソフトロームを多く含む黒褐色土の人為的堆積である。埋没後、西側が掘返されている。

遺物 1,380点余の出土であり、竪穴住居跡としても極めて多い出土である。住居跡全体から出土しており、遺物出土の傾向は無かったと言えよう。遺物は多かったが、墨書土器などの文字資料の出土は稀であり、6の宛書1点のみであった。丸斬は覆土上層から出土し、15は床面にて横位で出土している。揭示はできなかったが、覆土下層から巻貝の芯も出土している。

所見 1,000点を越える破片の出土と実測対象遺物の少なさ、そして雑多な遺物の出土は、本住居跡が廃棄場所の「穴」として放置・使用されていたことを窺わせるものであった。本地区にはいと多量に破片が出土する竪穴住居跡が多くなるが、遺構集中地区と関わりがあるのかは全体の整理の中で明らかにしていきたい。

なお、重複する住居跡の新旧関係は、KAの遺存と周溝上に築かれていることから、A202aを新しい住居跡と判断した。床面積の拡大を伴った建替えと捉えた。

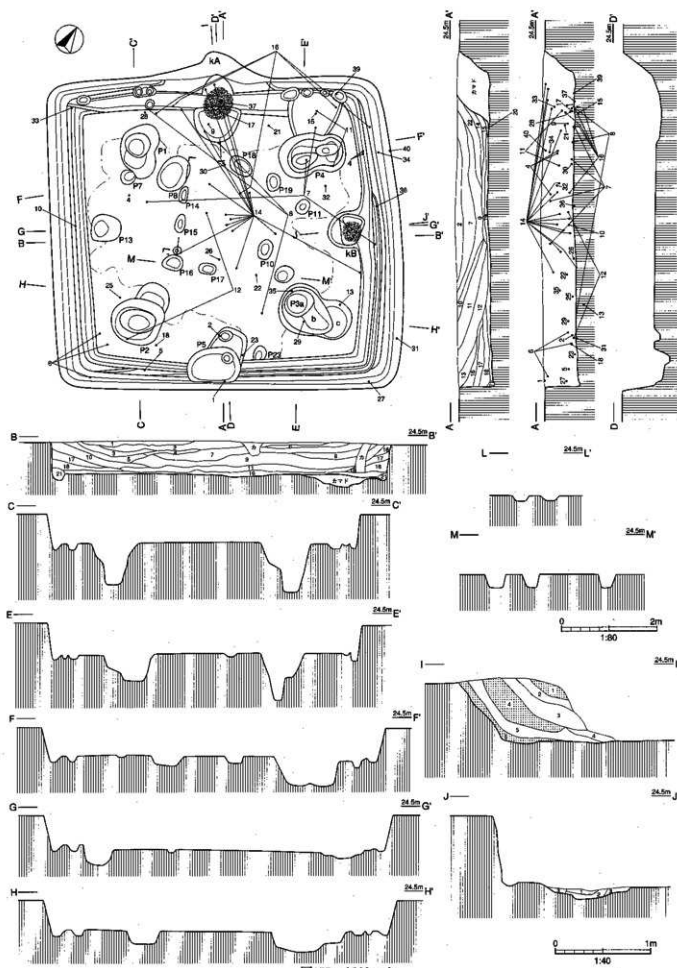
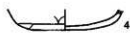


图175 A202a · b

- 1層 黒色土 ローム粒少量 焼土粒少量
- 2層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混く混合 ローム粒多量含  
径10mm大のロームブロック多量含
- 3層 黒褐色土 ローム粒多量含 白色粘土粒少量
- 4層 暗赤褐色土 赤褐色の焼土と黒褐色土が混く混合 ローム粒、白色粘土粒多量含
- 5層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少量 焼土粒微含
- 6層 黒褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒、白色粘土粒多量含  
径5~10mm大のロームブロック、白色粘土ブロック多量含
- 7層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒、白色粘土粒少量
- 8層 黒褐色土 ローム粒多量 焼土粒、白色粘土粒少量
- 9層 灰褐色土 白色粘土と黒褐色土が混合 径5~10mm大の白色粘土ブロック多量含
- 10層 黒色土 ローム粒、焼土粒、白色粘土粒少量
- 11層 黄褐色土 ソフトローム主体 径5~10mm大のロームブロック多量含
- 12層 暗褐色土 ローム粒多量 径5~10mm大のロームブロック多量含
- 13層 黒色土 ローム粒多量
- 14層 暗灰褐色土 白色粘土と黒褐色土が混合 径5mm大の白色粘土ブロック少量含
- 15層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒多量
- 16層 黒色土 ローム粒少量含
- 17層 黒褐色土 ローム粒少量含 焼土粒微量
- 18層 黒褐色土 ローム粒少量含 焼土粒微量
- 19層 暗褐色土 ローム粒多量含
- 20層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 径5mm大の白色粘土ブロック多量含
- 21層 黒褐色土 ローム粒多量
- 22層 灰白色土 白色粘土主体 ローム粒、焼土粒少量



- KA
- 1層 灰褐色土 白色粘土主体 ローム粒、焼土粒少量
- 2層 暗灰褐色土 白色粘土と暗褐色土が混合 径5mm大の白色粘土ブロック少量含
- 3層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒多量
- 4層 灰白色土 焼土粒、径10mm大の焼土ブロック少量含
- 5層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 焼土粒多含
- 6層 灰白色土 白色粘土と黒褐色土が混合 焼土粒多含



- KB
- 1層 赤褐色土 火床の焼土層 白色粘土微含
- 2層 黒褐色土 黒褐色土に多量のロームが混合 焼土粒少量 白色粘土微含
- 3層 暗褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック多含 白色粘土少量 焼土粒微含

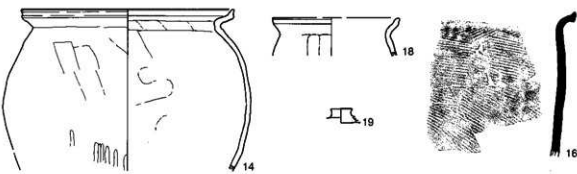
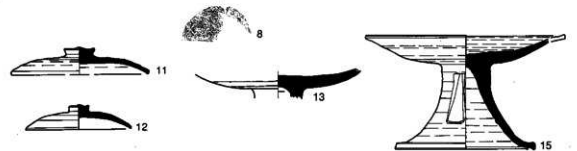


図176 A202a・b (2)

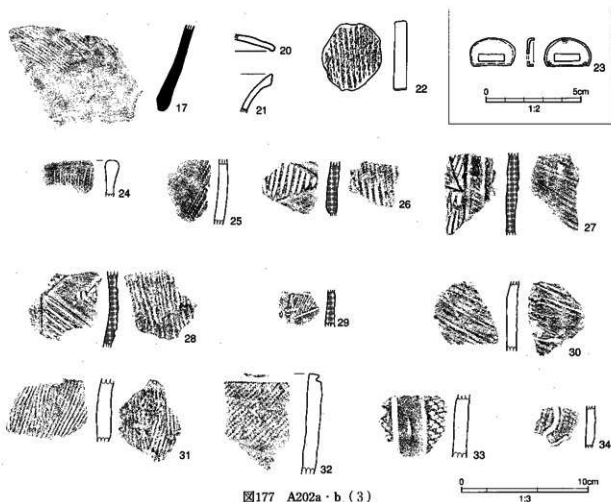


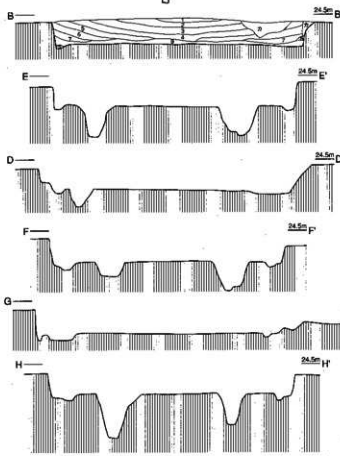
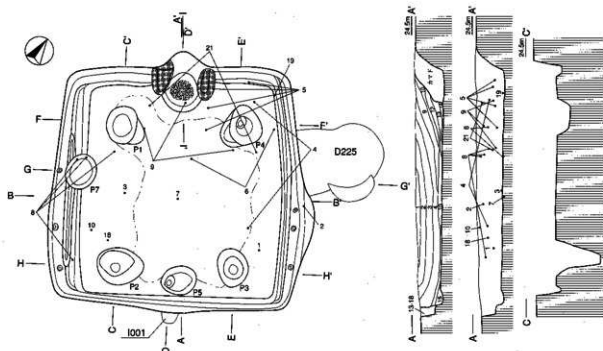
図177 A202a・b (3)

表36 A202a・b遺物観察表

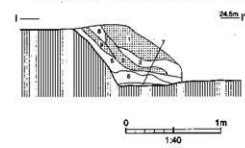
(単位:mm)

No.	種別 器形	法 蓋 口径×底径×器高 成形・調整 等の 特徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	鉄器 角釘	(40)×4 断面輪定形			断片	
2	鉄器 刀子	(31)×13×3 重量4.1g (49)×2~3			刃部 ~蓋	
3	鉄器 刀子	(22)×17×2 重量2.8g			刃部 ~蓋	
4	土師器 坏	—×—×— 赤ロクロ成形 外面の体部はヘラケズリ 内面はナデのちヘラミガキ底部はヘラケズリ で部分的にヘラミガキ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア凝粒	体部の 部と 底部 3/5	
5	土師器 坏	(124)×(46)×(38) 赤ロクロ成形か 外面の口縁部はナデ 体部はヘラケズリ後 部分的にヘラミガキ 内面 はヘラミガキ 底部はヘラケズリ (部分的にヘラミガキあり)	茶褐色 良	長石類 赤色スコ リア凝粒	口縁~ 底部の 1/4	
6	土師器 坏	(130)×(86)×(37) ロクロ成形 外面の体部下半回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は手持ちヘラ ケズリ 内面は赤彩か 見込箇中央に手ずれがある	茶褐色 良	長石類 赤色スコ リア凝粒	全体の 1/3が 残存	ヘラ書「口」 体部外面
7	土師器 高台付坏	(136)×(90)×51 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ ケズリで高台	橙褐色 普	長石類 赤色スコ リア凝粒	口縁~ 体部の 1/4	

8	須臾器 坏	(138)×(78)×37 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は手持ちヘラケズリか ヘラケズリか	黒灰色 青	雲母花崗 岩細粒	口縁～ 底部の 1/2部	常陸産
9	須臾器 坏	(135)×82×37 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘラ 切り後 唇縁は手持ちヘラケズリ 器内外面に「火だすき」あり	灰色 青	雲母花崗 岩細粒	口縁～ 体部 1/4	常陸産
10	須臾器 高台付坏	(184)×84×51 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ 切り後付高台	灰色 良	雲母少量 花崗岩 細粒	全体の 1/2部	常陸産
11	須臾器 蓋	(144)×—×25 ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 宝珠部をジョイン トする 内面に磨けが見られる	灰色 青	雲母花崗 岩細粒	全体の 3/5	覆として転用か 常陸産
12	須臾器 蓋	(110)×—×26 ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 宝珠部をジョイン トする 上縁等全体に塗られている	灰色 青	雲母 花崗岩 細粒	全体の 2/3	常陸産
13	須臾器 高盤	—×—×(30) ロクロ成形 外面の天蓋部体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 脚部ジョ イント後に鉄製刀丁で透孔を一つ穿つ	灰色 青	雲母花崗 岩細粒	盤部の 大部 脚部	常陸産
14	土師器 坏	220×—×(173) 口縁外反し上端はつまみ上げられる 外面凹線状に調整 外面 口縁部横ナデ 胴部上平ヘラケズリ後ナデ 下半ハラミガキ 内面 口縁部横ナデ 胴部上平ヘラケズリ	橙褐色 青	砂粒 雲母	1/3	器面剥離磨耗 が見られる
15	須臾器 高坏	(211)×(149)×122 ロクロ成形 角状の透孔3ヶ所	灰色 青	砂粒 雲母多	3/4	常陸産
16	須臾器 蓋	—×—×— タタキ整形 口縁部は内外面ともナデ 胴部外面は平行タタキ日 内面はタタキ整形 後ナデ	暗灰色 青	雲母花崗 岩細粒	口縁～ 胴中部 の一部	常陸産
17	須臾器 蓋	—×—×— タタキ整形 外面は平行タタキ日 下半はヘラケズリ 内面はヘラナデ	暗茶褐色 橙褐色 青	雲母花崗 岩細粒	胴下部 の一部	常陸産
18	土師器 小形壺	(124)×—×(40) 口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁内外面ともナデ 胴部外面は ヘラケズリ 内面はヘラナデ	橙褐色 黒褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 胴上部 の一部	
19	土師器 蓋	—×—×(15) ロクロ成形で宝珠部をジョイントする 器面が荒れているため調整は不 明	淡褐色 青	雲母赤色 スコリア 細粒	宝珠部 天蓋部 の一部	
20	土師器 壺	—×—×— ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 口縁は塗っていて 風化と摩滅が目立つ	淡褐色 青	長石類 スコリア 細粒	天蓋の 一部	
21	土師器 壺	—×—×— 口縁は外反し端部はつまみ上げ内外面ともナデ 風化と摩滅が著しい	灰褐色 青	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁片	
22	土製品 土鉢	53×45 撫糸文土器片使用 やや丸味を持つ トド中央に浅く溝を切る	暗褐色 青	砂	略丸形	
23	銅製品 丸帯	24×15×4 透孔を穿つ 縁部が目立つ	濃緑		底板を 欠く	



- |     |       |                                                      |
|-----|-------|------------------------------------------------------|
| 1層  | 黒色土   | ローム粒微含                                               |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム粒少含                                               |
| 3層  | 黒褐色土  | ローム粒少含                                               |
|     |       | 径5~10mm大のロームブロック少含                                   |
| 4層  | 黒色土   | ローム粒少含                                               |
| 5層  | 黒褐色土  | ローム粒少含                                               |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒 径5mm大のロームブロック少含                                 |
| 7層  | 黒色土   | ローム粒少含 焼土粒微含                                         |
| 8層  | 灰褐色土  | ソフトロームブロック                                           |
| 9層  | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含 焼土粒微含                                   |
| 10層 | 暗褐色土  | ローム粒少含 焼土粒微含                                         |
| 11層 | 黒色土   | ローム粒、白色粘土粒少含                                         |
| 12層 | 暗灰褐色土 | 黒色土と白色粘土が粗く混合<br>ローム粒少含                              |
| 13層 | 灰褐色土  | 白色粘土に黒褐色土が少量混入<br>ローム粒、焼土粒微含                         |
| 14層 | 暗灰褐色土 | 黒色土と白色粘土が粗く混合<br>径5~10mm大の白色粘土ブロック少含<br>ローム粒少含 焼土粒微含 |
| 15層 | 暗褐色土  | ローム粒多含                                               |



- |    |       |                                                           |
|----|-------|-----------------------------------------------------------|
| 1層 | 灰白色土  | 白色粘土主体 焼土粒微含 黒褐色土少量混入                                     |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒色土と白色粘土が粗く混合<br>白色粘土の径5~10mm大の白色粘土ブロック少含<br>ローム粒少含 焼土粒微含 |
| 3層 | 灰白色土  | 白色粘土主体 焼土粒微含 黒褐色土少量混入                                     |
| 4層 | 黒色土   | 焼土粒、白色粘土粒少含                                               |
| 5層 | 灰褐色土  | 白色粘土と黒褐色土が混合 焼土多含                                         |
| 6層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土が混合 焼土多含                                         |
| 7層 | 灰褐色土  | 白色粘土と黒褐色土が混合 焼土多含                                         |
| 8層 | 灰褐色土  | 白色粘土と黒褐色土が混合 焼土多含                                         |
| 9層 | 灰白色土  | 白色粘土主体 焼土粒微含 黒褐色土少量混入                                     |

図178 A203



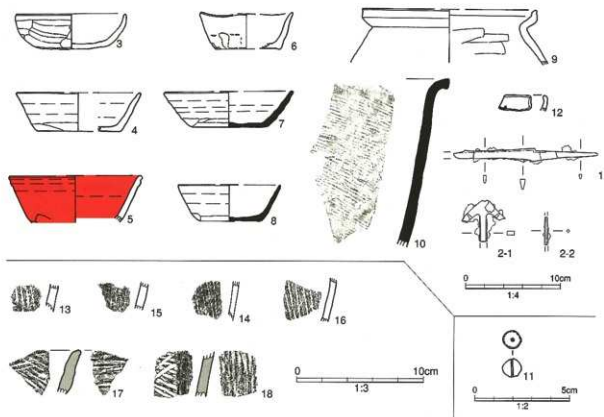


図179 A203 (2)

#### A203

検出地区 L5-74・75・84・85gにわたって検出した。

遺構 長軸5.28m×短軸5.16m×深さ0.40～0.48m、方位はN-33°-Eを測る。平面形は隅丸方形である。単独の竪穴住居跡であるが、周溝からみると拡張を行っている遺構である。

床はハードロームの地床で、主柱穴間内は良好な硬化面を認めた。主柱穴はP1～P4で、壁柱穴は7基確認した。P5は出入口に伴うものである。P7は用途が不明である。周溝は竈袖下まで全周する。北東壁、南西壁の2壁において周溝は2条となっている。内側の溝底は、外側の周溝底より低くなっていた。竈は1基のみであり、北西壁中央に設けられ、白色粘土を主体として築かれていた。袖の内壁は赤化が強かった。斜めに掘込まれた竈ビット中央から、やはり赤化して火床が検出された。覆土は黒褐色土・黒色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 410点余が出土している。流込みみであるが縄文早期・条痕文片が比較的多かった。3は床面から倒置で出土している。支脚片なども出土している。13～16は縄文・燃赤文、17・18は条痕文片である。

所見 I002・D225と重複する竪穴住居跡である。更に、本住居跡は周溝が2条巡る部分があることから、調査当初は2軒の竪穴住居跡の重複と捉えた。しかし竈や柱穴が重複しないことから、東西への床面積の拡大を目的とした拡張と判断したが、柱の改替が伴ったかは捉えられなかった。

表37 A203遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 刀子	152×7×3 -×10.5×5.5 -×4.5×3 重量14.9g				刃先欠
2	鉄器 鉄鍔	42×7.5×4 重量10.4g 29.5×3×3 重量0.7g				先端部 ~茎
3	土師器 坏	116×80×37 縦づくりか 半球状を呈する体部に丸底風の底部が付く 外面はヘラケズリの底部が付く外面はヘラケズリの部分的にヘラミガキ 内面はナデのちヘラミガキ	橙褐色 良	長石類赤 色スコリア 細粒	完存品	胎土は緻密
4	土師器 坏	(131)×(90)×41 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は切り離し後手持ちヘラケズリ 内面は使用による磨れが円立つ	暗茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒	全体の 1/3 残存	
5	土師器 坏	(140)×-×(49) ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ焼成後 内外面赤彩	赤褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁~ 体部の 1/2	胎土は緻密
6	手づくね 土器	(96)×(70)×37 手づくね 外面の口縁はナデ 体部は指痕度 内面は指ナデ 底部は木業痕	橙褐色 悪	長石類 スコリア 細粒		焼成不良気味
7	須恵器 坏	(136)×(79)×38 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り後全体的に手持ちヘラケズリ	灰色 普	雲母花崗 岩細粒	全体の 2/3強	転用視か 常陸産
8	須恵器 坏	(108)×65×38 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 底部は停止ヘラ切り	灰色 良	花崗岩粒 スコリア 細粒	底部完 存性は 1/4残	常陸産か
9	土師器 壺	(184)×-×(56) 口縁は短く反し 肩部はつまみ上げ 口縁は内外面ともナデ 胴部外面はヘラケズリ後ヘラナデ 内面はヘラナデ	淡褐色 普	雲母花崗 岩スコリア 細粒	口縁~ 胴部の 1/4	常陸型壺
10	須恵器 壺	-×-×- 口縁は短く反し胴部以下はすはまりながら底部に至る 口縁外面はナデ 胴部外面は平行タタキ目 内面はナデ	黒褐色 灰色 普	雲母 花崗岩 細粒	口縁~ 胴下半 の一部	常陸産
11	土製品 土玉	20×19×1.5 (孔径) 粘土をこねて作る 穿孔は小枝あるいは「竹葉」状の棒を挿ねるようにして抜いている	橙褐色 良	雲母スコ リア細粒 緻密	完存品	
12	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 口縁外面はナデ 胴部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はナデ後ヘラミガキ	淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	悪書「口」 口縁外面

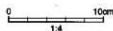
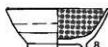
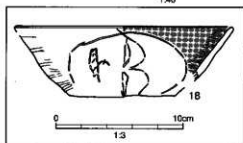
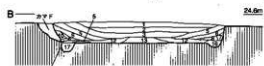
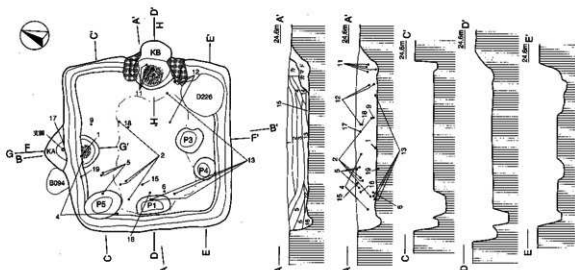
## A204

検出地区 L5-74gにて検出した。

遺構 竈が2基築かれている堅穴住居跡である。長軸3.60m×短軸3.48m×深さ0.38~0.40m、それぞれの竈の主軸方位は、KAがN-25°-W、KBがN-67°-Eであった。

床はハードロームの地床で、KBからP11にかけて帯状に硬化面を認めた。住居跡中央の床硬化面で白色粘土が密着していた。主柱穴も壁柱穴も検出できなかった。P1はKBに、P3はKAに伴う出入口施設のものとなつた。P5は貯蔵穴と判断した。周溝は1条のみで、KB袖下まで全周する。

旧竈のKAは北西壁中央に設けられ、周溝によって竈ピットが中央で失われていた。また、袖も遺存していなかった。ただ、煙道部から支脚片が出土し竈と捉えられたものである。KBは北東壁中央に設けられ、袖は白色粘土を主体として築かれていた。袖の内壁は赤化していた。緩やかに坑底に傾斜する竈ピ



- |     |       |                       |
|-----|-------|-----------------------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム粒少含                |
| 2層  | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土が混入          |
| 3層  | 黒色土   | 白色粘土に少量混入             |
| 4層  | 灰褐色土  | 白色粘土に黒褐色土少量混入         |
| 5層  | 暗褐色土  | 白色粘土にローム粒少含           |
| 6層  | 黄褐色土  | ローム粒少含                |
| 7層  | 黄褐色土  | ソフトロームブロック            |
| 8層  | 黒色土   | ローム粒微含                |
| 9層  | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土が混入          |
| 10層 | 黒褐色土  | 白色粘土と焼土粒微含            |
| 11層 | 黒色土   | 白色粘土とローム粒少含           |
| 12層 | 暗灰褐色土 | 黒色土に白色粘土が少量混入         |
| 13層 | 黒色土   | ローム粒、白色粘土粒微含          |
| 14層 | 黒褐色土  | ローム粒、径5mm程度のロームブロック少含 |
| 15層 | 黒褐色土  | ローム粒少含                |
| 16層 | 暗褐色土  | ローム粒、径5mm程度のロームブロック少含 |
| 17層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とソフトロームが粗く混合       |

- |    |       |                |
|----|-------|----------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少含         |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土が少量混入 |
| 3層 | 黒褐色土  | 白色粘土と焼土粒微含     |
| 4層 | 黄褐色土  | ソフトロームブロック     |
| 5層 | 暗褐色土  | ローム粒、焼土粒少含     |

- |    |       |                |
|----|-------|----------------|
| 1層 | 灰白色土  | 白色粘土主体         |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が少量混入 |
| 3層 | 灰褐色土  | 黒褐色土と白色粘土が混合   |
| 4層 | 灰褐色土  | 黒褐色土と白色粘土が混合   |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒少含         |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒、焼土粒少含     |
| 7層 | 黒色土   | ローム粒、焼土粒微含     |

図180 A204

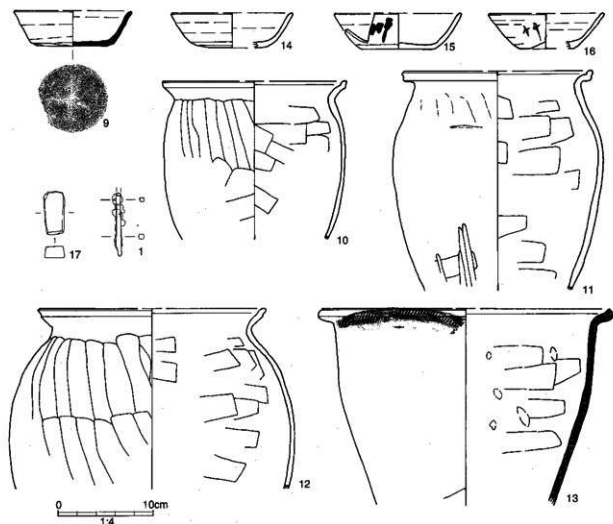


図181 A204 (2)

ットに、赤化が強い火床を検出している。煙道部は竈の規模に比し、壁を大きく掘込んでいる。覆土はA204aのものとなるが、黒褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 160点余が出土している。「竹」の墨書土器が3点出土している。しかし本住居跡からは、21の「人面刻書土器」が出土した。焼成前に耳のない人面を窠書している。内黒の土器器坏である。

所見 拡張を伴わない、竈の改替を行った住居跡と捉えている。人面刻書土器であるが、焼成前に刻書することで、製作当初から土器使用の目的の限定性を持たせているとみられる。この点が日常使用する土器を、墨書することにより転用できる人面墨書土器との違いとなろう。類例の増加をまって検討が必要となってこよう。

表38 A204遺物観察表

(単位:mm)

No	種別 器形	法 址 成形・調整等の 特徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	鉄器 釘	66×4.5×4 —×5×5 重量6.7g				
2	土師器 坏	120×65×41 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底際は回転糸切り後回転ヘラケズリ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 織紋	口縁の スコリア 部を 欠く	

3	土師器 坏	122×64×39 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁～ 底部の 1/3	墨書「口」か 体部外面
4	土師器 坏	132×84×37 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ 器内外面とも平滑化している	茶褐色 善	長石類 赤色スコ リア微粒	口縁～ 底部の 1/2 残存	
5	土師器 坏	(150)×72×58 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面は密なヘラミガキこの後吸炭器外面にスズ状のこびり付き	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁～ 体部の 2/3 欠く	比較的緻密な 胎上だがまれに 大粒スコリア
6	土師器 坏	(134)×70×38 ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ 内外面スズ付着	茶褐色 善	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 2/3 欠損	
7	土師器 坏	(112)×(68)×40 紐づくり 外面の口縁部はナデ 体部から底部はヘラケズリ後部分的ヘラミガキ 内面はナデのち部分的にヘラミガキ	淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒	底部欠 口縁～ 体部1/ 2欠く	
8	土師器 高台付坏	106×64×45 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面は密なヘラミガキこの後吸炭底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリで付高台	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒 微細粒	口縁部 の2/3 欠	
9	須恵器 甕	(122)×72×37 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘラケズリ	灰色 良	白色粒 スコリア 微粒	口縁～ 体部の 2/3 欠く	ヘラ書「×」 底部外面
10	土師器 甕	(192)××(167) 口縁は短く外反し端部つまみ上げ 口縁部は内外面ナデ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ	橙褐色 善	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁 2/5 胴中位 まで	
11	土師器 甕	(196)××(232) 口縁は短く外反し端部つまみ上げ口縁部は内外面ナデ 胴部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はヘラナデ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁～ 胴下半 の大破 片	常総型甕
12	土師器 甕	(238)××(150)×(300) 口縁は短く外反し端部つまみ上げ口縁部は内外面ナデ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ	橙褐色 善	スコリア 細粒含む 雲母少量	口縁～ 胴下半 の1/4	胎上的には 常総型甕と 近似する
13	須恵器 甕	(302)××(207) 口縁は短く外反し端部つまみ上げタタキ整形で胴部外面は平行タタキ 目様状ヘラによる横ナデが密に入る 内面はナデまたはヘラナデ あて具度	灰色 善	雲母 長石類 細粒	口縁1/ 3 胴 下半ま で	あるいは瓶か 常陸産
14	土師器 坏	(126)×(76)×37 ロクロ成形体部下半は織く段上になる 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ	淡褐色 善	雲母赤色 スコリア 細粒	全体の 1/4強	
15	土師器 坏	(132)×74×38 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 善	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁1/ 6 底部 にはほ ろく残 存	墨書「竹」 体部外面正位
16	土師器 坏	×××× ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒緻密		墨書「竹」か
17	石製品 甌石	90×41×24 重量171g 角柱状に切り出した石材を素材に表裏及び内側面を使用面とする欠損後 も欠損面を軽く磨いで使用している 再出品			完成品	内生成の欠損は 認められず 完成品と認定
18	土師器 坏	169×83×56 ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリこの直後「人面刻書」を描きすくに粗い ヘラミガキ 内面は密なヘラミガキこの後吸炭底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリこの後に「刻書」ないし「記号」を描いている	淡褐色 良	スコリア 微細粒 雲母少量	口唇端 及び体 部の 一部欠 く	ヘラ書人面 体部外面人面 底部外面ヘラ 書人面刻書は 眉目鼻口と輪 郭の表現が沈 んで描かれて おり口は開 けた状態で沈 線により歯の 表現が見られ る

## A206

検出地区 L5-64・65・74・75-1gにて検出した。

遺構 拡張した竪穴住居跡(A206a1・a2)とそれより新しいA206bの2軒の竪穴住居跡と、A206aの覆土中に掘込まれたD222a・bの2基の土坑が重複したものである。

### A206a

遺構 本住居跡は北西壁に周溝が2条巡ることから、竈の改替を伴わない拡張住居である。

A206a1は長軸6.36m×短軸6.32m×深さ0.76m、主軸方位はN-20°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

A206a2は長軸6.04m×短軸(5.88)m×深さ—mを測る。平面形は隅丸方形である。

両者は混在し、調査時はA206a1が最後の現状を残していたと捉えられる。床はハードルームと暗褐色土の混合した貼床であり、住居跡中央は硬化面を認めた。主柱穴はP1～P4であり、P11が出入口に伴うものと捉えた。A206a2との柱穴は不明瞭であった。周溝は竈袖下まで全周するが、北西壁及び南西壁は2条となっており、内側の周溝がa2住のものとなる。竈は1基であり、周溝の検出状況から、竈の改替は行われなかったと判断した。竈は北東壁中央にあり、袖は白色粘土主体で築かれていた。袖内壁は赤化が強かった。浅く掘込まれた竈ピット内に、赤化した火床を検出した。

覆土は、ロームを含む暗褐色土を主体として基本的には自然堆積であった。A206a2の覆土は無かったものと思われる。

遺物 A206から出土した遺物は560点を超えるが、重複した遺構にしては少ない出土であった。遺物は散在して出土しており、その傾向は捉えることはできなかった。所見 A206bと西コーナー付近で重複するが、本住居跡が古いものと覆土から捉えられた。新旧関係はA206a2→A206a1→A206b・D222a(→D222b)であり、D222a→A222bと捉えられよう。また、床面からも縄文早期・条痕文片が多く出土しており、覆土は自然堆積とは捉えたが、人為的な堆積の可能性もある。

### A206b

遺構 長軸3.76m×短軸3.74m×深さ0.64m、主軸方位はN-53°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

床はハードルームの地床であるが、A206aとの重複部はa住の覆土を貼床として使っていた。柱穴は検出されず、P14が出入口のピットである。周溝は竈袖下まで全周する。竈は北西壁中央に設けられ、袖は白色粘土のみで築かれていた。内壁は赤化していた。竈ピットは浅く斜めに掘込まれていたが、赤化した火床は無く、火熱痕のみの火床であった。

覆土は、黒色土・黒褐色土を基本とした自然堆積であった。

遺物 重複部で混在しているため、点数把握はできなかった。図示した3の土師器坏と11の土師器甕(常総型)が本住居跡に伴うものである。

所見 A206aが大形の竪穴住居跡のため視覚的に小規模な住居跡となってしまうが、通常規模よりやや小さいものである。竈袖の内壁の赤化に比し火床が火熱痕のみというのは、竈内の焼却残滓の掻出しを行った結果かもしれない。

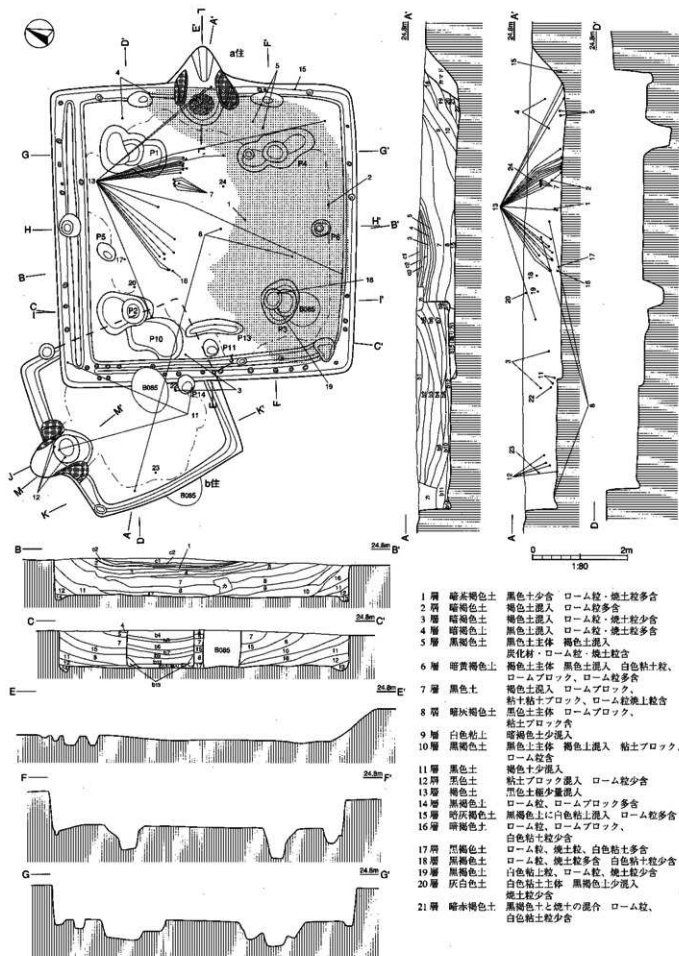


図182 A206a・b

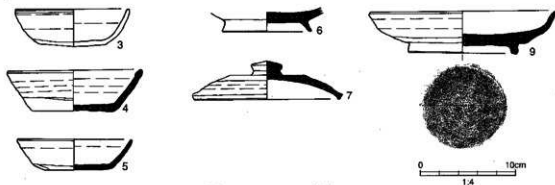
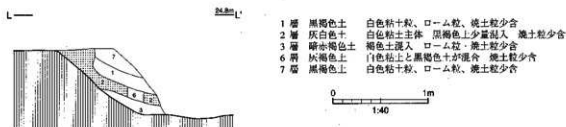
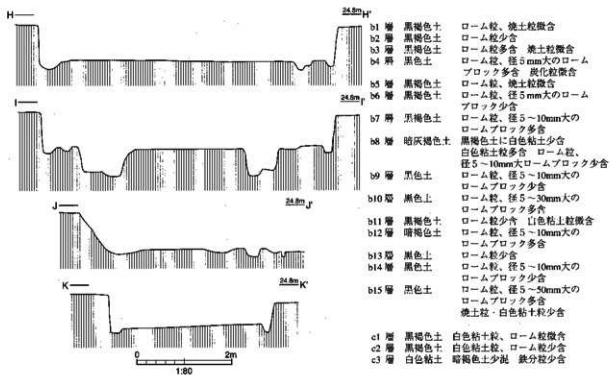


図183 A206a・b (2)



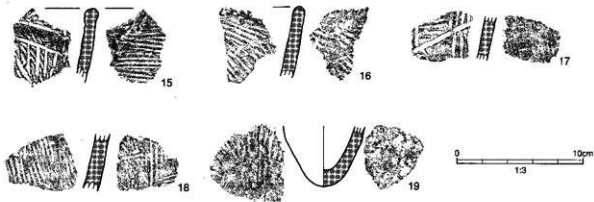
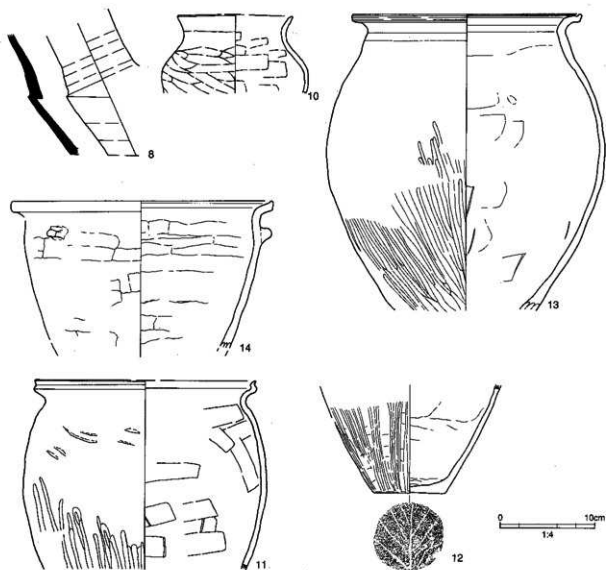


图184 A206a · b (3)

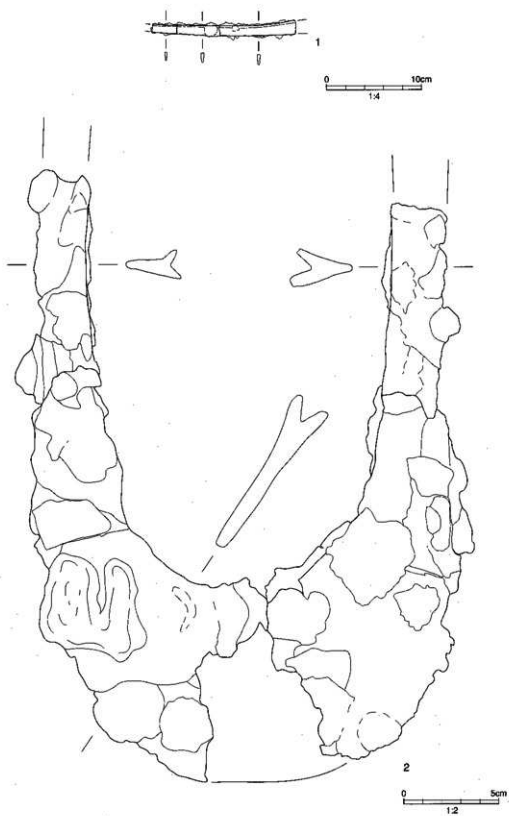


图185 A206a·b(4)

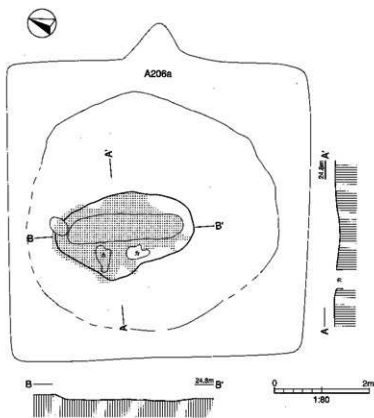


図186 A206a・b (5)

表39 A206遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 刀子	152×8.5×2 —×10×3 —×10.5×3 重量17.7g				刃部	
2	鉄器 鋸先	324×29.5×15 —×90×20.5 —×32×20 重量807.7g				略究形	
3	土師器 坏	121×70×40 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ L1線下を沈線状に窪ませる		橙褐色 良	雲母少量 スコリア 細粒	口縁の 一部を 欠損	あるいは内面 赤彩か
4	須恵器 坏	142×85×44 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ		灰色 善	花崗岩細 粒含む 雲母少量	L1線～ 体部の 1/2 欠く	常陸産か
5	土師器 坏	122×57×73 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面は丁寧なロクロナデ底部は回転承切り		青灰色 良堅緻	白色粒子 スコリア 微粒混入	L1線～ 底部の 1/3 欠損	一見して判る 常陸地域以外の 製品
6	須恵器 高台付盤	—×93×26 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリで付高台 内面はよく磨かれている		灰色 善	雲母鈍石 類花崗岩 細粒多量	高台部 ほぼ 完存体 部ト半	転用現か 常陸産か
7	須恵器 甕	(118)×—×41 ロクロ成形 外面の胴部は回転ヘラケズリ 宝珠部をジョイントする 内面はロクロナデ		灰色 善	長石類 雲母細粒	胴部 の1/4 宝珠部	常陸産

8	須恵器 罌	-X-X- ロクロ成形 本体天蓋口部把手を各々別作りジョイントする 外面には縦位に帯状口部内面に部分的に自然軸	灰色 良	白色粒の 微細粒	口部～ 本体の 一部	本体下部及び底 部にスス
9	須恵器 高台付坏	197×114×44 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底都は回転ヘラケズリで付高台	灰色 普通	雲母 花崗岩 細粒	口縁の 1/3 周 欠損	ヘラ書「X」 底部外面中央 常産産
10	土師器 小形甕	(122)×-×(84) 胴部は球状に膨らみ口縁は外反する 口縁部内外面ともナデ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ 全体に薄手の作りで乾燥が進んだ段階でヘラケズリ	暗灰色 良	細砂多量 スコリア 細粒	口縁～ 胴中位 の1/2	外面スス付着 武器形差 (小形台付罌)
11	土師器 罌	(232)×-×(201)× 最大径(256) 最大径を胴中位に有し口縁は短く外反して端部はつまみ上げ 口縁は内外面ナデ胴部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はヘラナデ	橙褐色 普通	雲母赤色 スコリア 粒	口縁～ 胴中位 の1/3 周	常産型罌
12	土師器 罌	-×75×(115) 外面 胴部下下端ヘラケズリ後ヘラミガキ 底部小葉痕 内面 胴部下下端ヘラナデ	橙褐色 普通	粗砂粒多	胴部～ 底部片	
13	土師器 罌	(243)×-×(314) 口縁は外反し上端はつまみ上げられる 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ 下半ヘラケズリ後下端ヘラミガキ 内面 口縁頸部横ナデ胴部上半ヘラナデ	橙褐色 普通	粗砂粒多	2/3	
14	土師器 甌	(270)×-×(165) 角状の突起3ヶ所残存 外面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ 内面 口縁頸部横ナデ 胴部上半ヘラナデ	橙褐色 普通	粗砂粒多	2/3	外面器面磨耗

A208

検出地区 L6-28・29gにて検出した。

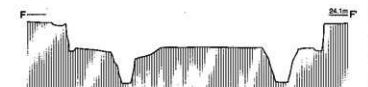
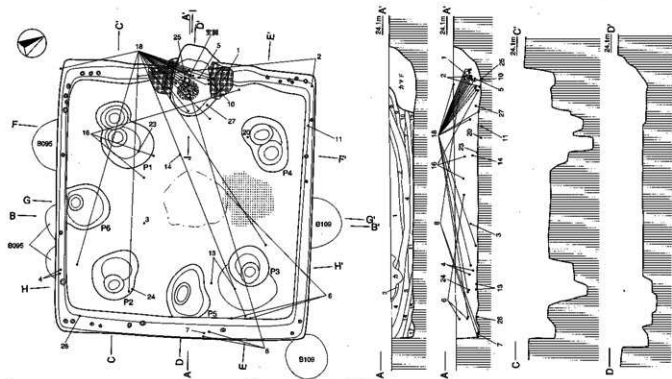
遺 構 長軸5.76m×短軸5.36m×深さ0.48～0.54m、主軸方位はN-60°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

床はハードロームと暗褐色土の混合した貼床であるが、竈前から出入口にかけて硬化面を認める。中央部は焼土によって損壊している。主柱穴はP1～P4の4基を検出し、壁柱穴は29基確認した。P5は出入口に伴い、P6は用途を捉えられなかった。各主柱穴及びP5は、覆土から柱替えが捉えられた。床面からの深さは、0.36～0.52mの段階と、0.68～0.84mの段階があった。周溝は甕袖下まで全周している。竈は北西壁中央に設けられ、白色粘土を主体として袖は築かれていた。両袖とも外側が一段低くなり、テラスを残していた。風状の竈筆とに赤化した火床を検出した。覆土は床面から中層までは黒褐色土主体の自然堆積であり、覆土上層はロームを混在させた、人為堆積であった。

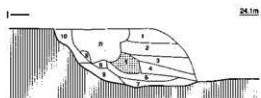
遺 物 土師器・須恵器を主体として、460点余が出土した。墨書土器は6点であり、「竹」は3点出土している。11は甌に転用した土師器高台付坏である。

所 見 調査当初は単独の堅穴住居跡と捉えていたが、調査を進めていく過程で柱替えを行った住居跡と判断された。柱穴の深さが浅い段階が古いかは判断できなかった。また、住居跡の拡張や建直しも捉えられず、竈の改修を伴わない柱替えと捉えた。

また、覆土の人為堆積であるが、覆土上層において行われていることは、凹みとして認めず、平坦面を造りだそうとしているようであった。



- |     |       |                |                           |
|-----|-------|----------------|---------------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | ロームと黒褐色土が粗く混合  | ローム粒多含<br>白色粘土少含          |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム粒少含         | 白色粘土少含<br>径5mm大のロームブロック多含 |
| 3層  | 黒褐色土  | ロームが少量混入       | ローム粒少含<br>白色粘土少含          |
| 4層  | 黒色土   | ロームが少量混入       | ローム粒少含<br>白色粘土少含          |
| 5層  | 黒褐色土  | ローム粒少含         | 白色粘土少含                    |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒少含         |                           |
| 7層  | 黒褐色土  | ローム粒少含         | 白色粘土微含                    |
| 8層  | 暗褐色土  | ローム粒少含         | 白色粘土少含                    |
| 9層  | 黒褐色土  | ローム粒少含         | 白色粘土多含                    |
| 10層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が粗く混合 | ローム粒少含<br>炭化物と焼土粒微含       |
| 11層 | 暗褐色土  | ローム粒多含         |                           |
| 12層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が粗く混合 | ローム粒多含<br>炭化物と焼土粒微含       |
| 14層 | 黒色土   | ロームが少量混入       | ローム粒多含<br>白色粘土微含<br>焼土粒微含 |
| 15層 | 黒色土   | ローム粒多含         | 白色粘土微含                    |
| 16層 | 暗褐色土  | ローム粒多含         | 径5mm大のロームブロック少含           |
| 17層 | 暗黄褐色土 | ロームが粗く混合       | ローム粒多含<br>径5mm大のロームブロック多含 |



- |     |       |                |                     |
|-----|-------|----------------|---------------------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム粒少含         | 白色粘土多含              |
| 2層  | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が粗く混合 | ローム粒少含<br>炭化物と焼土粒微含 |
| 3層  | 暗褐色土  | ローム粒多含         |                     |
| 4層  | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が粗く混合 | ローム粒多含<br>炭化物と焼土粒微含 |
| 5層  | 灰白色土  | 白色粘土主含         | 焼土粒少含               |
| 6層  | 黒色土   | 白色粘土と焼土粒少含     |                     |
| 7層  | 灰褐色土  | 黒色土と黒褐色土が混合    | 焼土粒多含               |
| 8層  | 黒褐色土  | 黒色土と黒褐色土が混合    | 焼土粒多含               |
| 9層  | 暗灰褐色土 | 黒色土と黒褐色土が混合    | 焼土粒多含               |
| 10層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土とローム粒混合    | 焼土粒少含<br>白色粘土微含     |

図187 A208

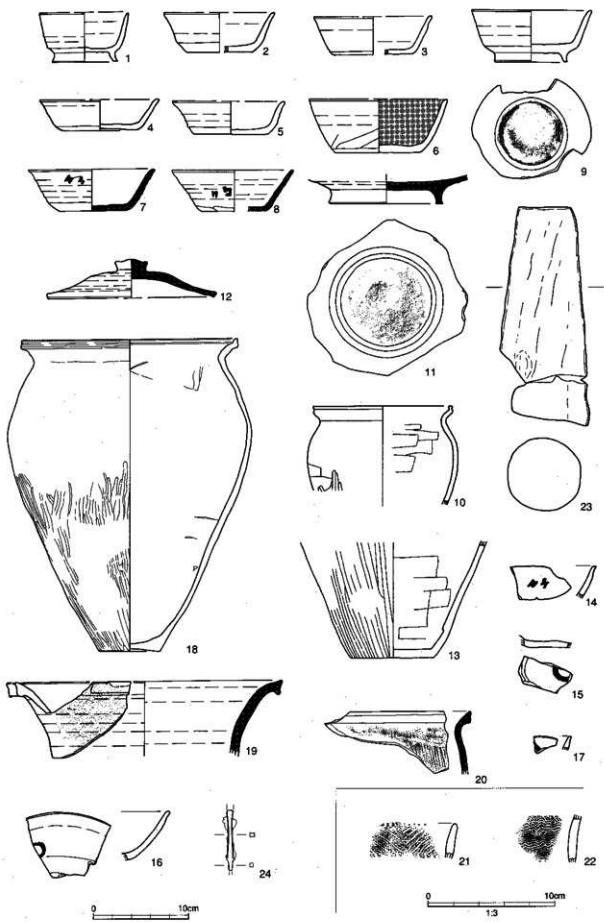


图188 A208 (2)

表40 A208遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	-X-X-X- 体部は箱形に近い ロクロ成形で付高台 外面 口縁ロクロ成形 胴部下端回転ヘラケズリ 底部全体回転ヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形	橙褐色 青	細砂長石 赤色スコ リア繊維		内外面ともに器 面は荒れている
2	土師器 坏	-X-X-X- 口径と底径の比は1:1.2程か ロクロ成形 外面 口縁頸部上位中位下ロクロ成形下端底部回転ヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形(ロクロナデ)	外橙褐色 内淡褐色 良	粗砂赤色 スコリア 繊維 目立つ		
3	土師器 坏	-X-X-X- 箱形に近い ロクロ成形 外面 ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	橙褐色 青	砂目立っ スコリア 繊維 目立つ		器面の荒れ 黒化目立つ
4	土師器 坏	-X-X-X- 口径と底径比が1:1.5または1:1.2かロクロ成形後回転糸切り右回転 外面 全体ロクロ成形底部全体回転糸切り 底縁回転ヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形	橙褐色 青	粗砂 赤色スコ リア粒		
5	土師器 坏	-X-X-X- 口径と底径の比は1.5:1または1.2:1位ロクロ成形 外面 口縁頸部上平中位下ロクロ成形下端回転ヘラケズリ底部全体切 り離し後手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形	淡褐色 青	細砂雲母 長石細粒		
6	土師器 坏	-X-X-X- やや箱形で深い ロクロ成形 外面 口縁頸部ロクロ成形後やや密なヘラミガキ胴部ロクロ成形後ヘラ ケズリ 底部回転ヘラケズリ 内面 密なヘラミガキを施す	外橙褐色 内黒色 青	長石類 黒色粒 赤色スコ リア粒		吸炭による 黒色処理 内黒
7	須恵器 坏	-X-X-X- 口径と底径の比は2:1位 全体ロクロ成形 外面 底部回転糸切り ヘラケズリありか 内面 ロクロナデ	灰色 良	細砂長石 類微細白 色針状粒 子目立つ		墨書「竹」か
8	須恵器 坏	-X-X-X- 口径と底径の比は2:1に近い 全体ロクロ成形 外面 手持ちヘラケズリ 底部静止口縁切り	灰色 青	雲母黒色 粒花崗岩 目立つ		墨書「竹」 常陸産
9	土師器 高台付坏	-X-X-X- 坏部はやや箱形 全体ロクロ成形 外面 ロクロ成形後部分的にヘラミガキ胴部下端回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ 内面 密なヘラミガキ 吸炭による黒色処理	外橙褐色 内黒色 良	細砂 スコリア 微細粒 緻密		内黒 高台内面を 「硯」として 転用する
10	土師器 壺	-X-X-X- 口縁部端をつまみ上げる 最大径は胴上部 外面 口縁頸部ナデ上半中位ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 口縁頸部ナデ上半中位ヘラナデ	淡褐色 良	雲母 長石類 花崗岩 細粒		常陸型壺
11	須恵器 高台付 大皿坏	-X-X-X- 外面 ロクロ成形 底部全体回転ヘラケズリ 高台内面は墨が付着 内面 全体ロクロ成形	灰色 青	雲母 長石類 花崗岩 細粒		高台内面「硯」 として転用する 常陸産
12	須恵器 蓋	-X-X-X- 天蓋部の中央にやや扁平な宝珠部取り付ける 外面 天蓋部は回転ヘラケズリ 部分的に二次焼成ありか 内面 ロクロ成形	淡褐色 青	雲母 花崗岩粒		全体として増れ が認められる 常陸産
13	土師器 壺	-X-X-X- 外面 底面全体ヘラケズリ後縦方向のヘラミガキ 内面 底面全体ヘラナデ	橙褐色 青	細砂長石 類花崗岩 粒緻密		常陸型壺
14	土師器 坏	-X-X-X- ロクロ成形 外面 ロクロ成形後ロクロナデ体部中に墨書「竹」 内面 ロクロ成形後ロクロナデ	淡褐色 良	細砂雲母 スコリア 細粒緻密		墨書「竹」
15	土師器 坏	-X-X-X- ロクロ成形 外面 底部全体回転糸切り 中央墨帯底縁ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母 スコリア 微細粒	底部片	墨書「□」 底部外面
16	土師器 坏	-X-X-X- 大形の坏 ロクロ成形 外面 ロクロ成形体部下端ヘラケズリ底縁ヘラケズリ 内面 ロクロ成形後ヘラミガキ(口縁内面にスズ状の付着物有り)	淡褐色	細砂雲母 スコリア 微細粒 緻密	口縁一 底部	墨書「□」 体部外面
17	土師器 坏	-X-X-X- ロクロ成形 外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	橙褐色 良	細砂スコ リア繊維	口縁片	墨書「□」 体部外面

18	土師器 甕	(228)×(63)×331 口縁外反し上端はつまみ上げられる 頸部「L」の字状胴上半に膨らみを持つ 外面 口縁頸部ヨコナテ胴部上半ナテ下半ヘラケズリ後下端ヘラミガキ底部木炭痕 内面 口縁頸部ヨコナテ胴部上半ヘラナテ	橙褐色 青	粗砂粒多 雲母	1/2	器面剥離磨耗が見られる 外面 凹縁状の調整
19	須恵器 甕	(290)×—×(80) 「大甕」で水甕として用いたもの 外面 自然釉がかかる回転台で仕上げる 内面 回転台で仕上げる	外暗灰色 内灰褐色 良堅緻	砂長石類 細粒	口縁～ 頸部	
20	須恵器 甕	—×—×— 残存部分では甕か甔か決めかねる 外面 口縁頸部ナテ タタキ成形 (平行タタキ目) 内面 ナテ タタキ成形後ナテ	灰色 良	雲母 長石類花 崗岩細粒		常陸産
21	弥生 甕	—×—×— 口縁複合口縁 外面 複合口縁で口唇上及び口縁下端にキザミを施す附加条縄文を羽状に施文 内面 ナテ モミ庄痕あり	淡褐色 良	細砂スコ リア細粒		
22	弥生 甕	—×—×— 外面 頸部縄文状文 上半附加条縄文 内面 ナテ	淡褐色 良	細砂 スコリア 細粒緻密		
23	土師器 支脚	—×—×— 指頭及びヘラで仕上げる	橙褐色 劣	砂 スコリア 粒日立つ		
24	鉄器 鉄鏝	64×4.5×4 —×3.5×3.5 重量7.0g				

#### A209

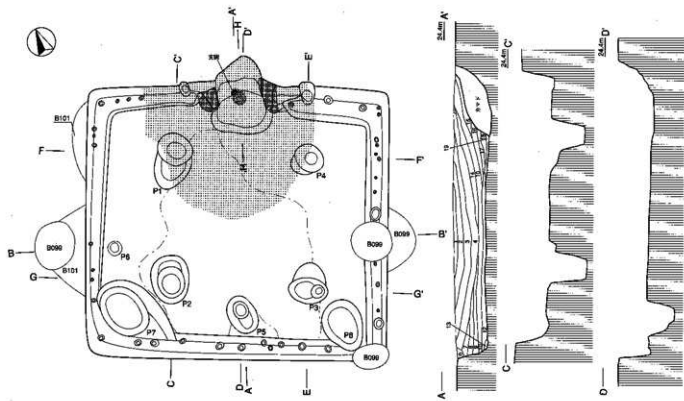
検出地区 L6-28 gにて検出した。

遺 構 長軸6.40m×短軸5.76m×深さ0.64m、主軸方位はN-27°Eを測る。平面形は、横幅のある隅丸方形である。床は貼床であった。竈前から帯状に出入口にかけて硬化面を認めた。また、床全体に粘土の散布がみられた。支柱穴はP1～P4の4基、壁柱穴は37基剣土湯津下。P5は出入口と捉えた。周溝は竈手前まで巡っている。竈は北壁中央で、白色粘土主体で袖を築いている。内壁は赤化し、やはり皿状のビット内に小さな赤化した火床を検出した。竈を構築した粘土が大きく住居へ流れ込んでいた。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺 物 2,900点余が出土した。出土傾向は捉えられないが、土師器坏・須恵器甕が主体を占めていた。また、墨書土器が21点、線刻が1点出土している。「竹」が10点出土していた。

所 見 極めて遺物の出土の多い遺構である。住居跡は自然堆積による埋没であり、住居廃絶後は「穴」として残された遺構であった。その中に破損した土器を中心として、廃棄場所として廃絶住居を利用したような住居跡である。そのために2,900点に上る破片などの出土が認められたと、考えられた遺構である。その遺構集中地区なのか、他地区からの廃棄かは第5分冊の整理をまって再検討したいが、本遺跡では人為的投入土による竈穴住居跡の埋戻しの例が多いなか、意識的に廃棄場所として遺存させた遺構とも捉えたい。





- |     |       |                                            |
|-----|-------|--------------------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム粒と焼土粒微含                                 |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム粒少含 焼土粒微含                               |
| 3層  | 黒褐色土  | 径5mm大のロームブロックとローム粒少含 焼土粒微含                 |
| 4層  | 黒褐色土  | 径5mm大のロームブロックとローム粒少含 焼土粒と白色粘土粒微含           |
| 5層  | 暗赤褐色土 | 径5mm大のロームブロックとローム粒少含 焼土粒多含 白色粘土粒微含         |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒少含 焼土粒微含                               |
| 7層  | 黒褐色土  | 径5mm大のロームブロックとローム粒少含 焼土粒と白色粘土粒微含           |
| 8層  | 黒褐色土  | ローム粒少含 焼土粒と白色粘土粒微含                         |
| 9層  | 黒褐色土  | 径5mm大のロームブロックとローム粒と白色粘土粒少含 焼土粒と炭化物粒微含      |
| 10層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土粒が混合した土 ローム粒と白色粘土粒多含 焼土粒少含 炭化物粒少含 |
| 11層 | 黒褐色土  | ローム粒と白色粘土粒少含                               |
| 12層 | 暗褐色土  | ローム粒多含 白色粘土粒少含                             |
| 13層 | 暗褐色土  | 径5mm大のロームブロック少含 ローム粒多含                     |
| 14層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に多量の粘土が混合した土 焼土粒少含 白色粘土粒多含             |
| 15層 | 灰褐色土  | 黒褐色土と白色粘土と強く混合した土 ローム粒と焼土粒少含 白色粘土粒多含       |
| 16層 | 黒褐色土  | ローム粒と焼土粒少含 白色粘土粒多含                         |
| 17層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土と混合した土                            |
| 18層 | 黒褐色土  | ローム粒と焼土粒少含 白色粘土粒多含                         |
| 19層 | 黒褐色土  | ローム粒微含 焼土粒と白色粘土粒少含                         |

- |     |       |                                        |
|-----|-------|----------------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム粒と焼土粒少含 白色粘土粒多含                     |
| 2層  | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土と混合した土 ローム粒と焼土粒少含 白色粘土粒多含     |
| 3層  | 暗灰白色土 | 白色粘土粒に黒褐色土が混入した土 焼土粒多含 径20mm大の焼土ブロック少含 |
| 3b層 | 暗灰白色土 | 3層よりやや粘土の量が少なく色調が暗い                    |
| 4層  | 暗灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土が混合した土 焼土粒多含 ローム粒少含           |
| 5層  | 赤褐色土  | 火床の焼土層                                 |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒微含 焼土粒少含 白色粘土粒と炭化物粒少含              |
| 7層  | 黒褐色土  | ローム粒微含 焼土粒少含 白色粘土粒と炭化物粒少含              |
| 8層  | 黄褐色土  | 焼土粒少含                                  |
| 9層  | 黒色土   | 焼土粒少含 白色粘土粒多含                          |

図189 A209

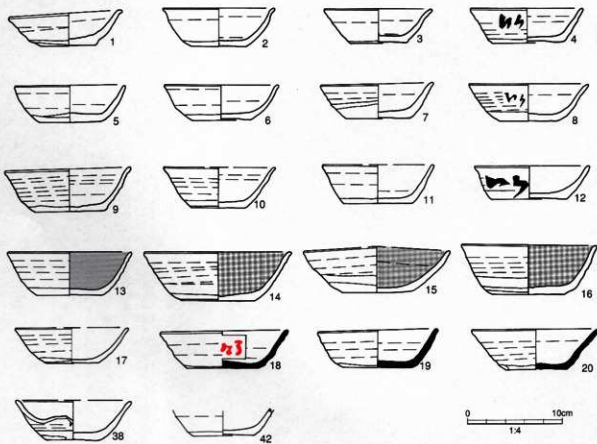
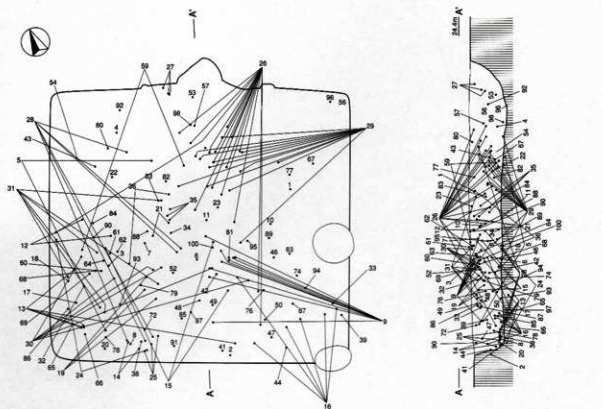


图190 A209 (2)



图191 A209 (3)



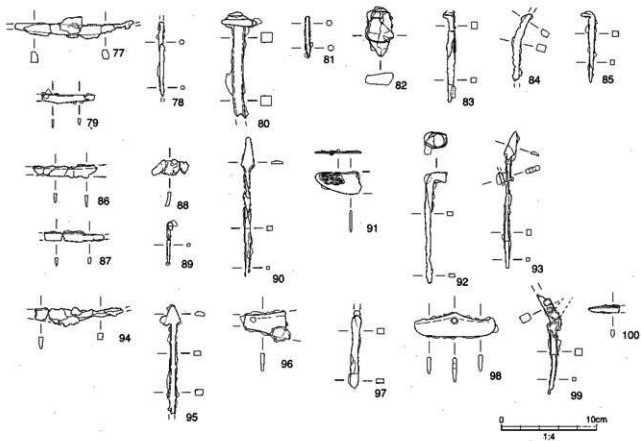
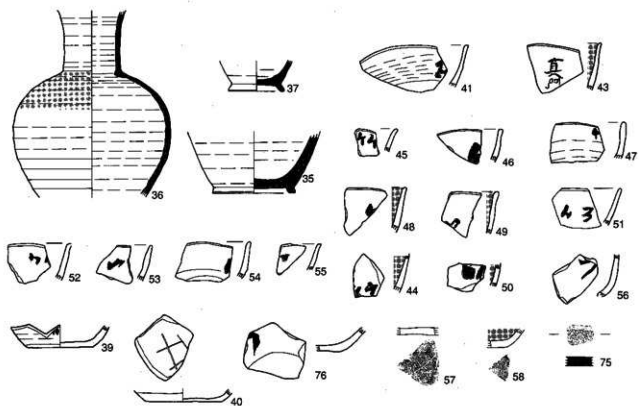


图192 A209 (4)

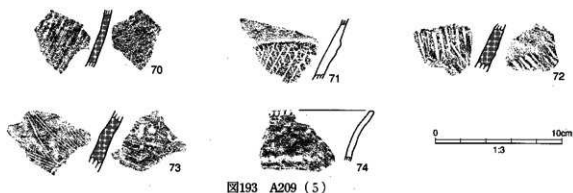


図193 A209 (5)

表41 A209遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	120×58×35 ロクロ成形 外面 体部下端回転ヘラケズリ底部回転糸切り後周縁回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	淡褐色 良	長石類 スコリア 微粒	ほぼ 完存品	
2	土師器 坏	118×58×41 ロクロ成形 外面 体部下端ヘラケズリ 底部回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	ほぼ 完存品	底面などの 「手ずれ」 目立つ
3	土師器 坏	115×60×36 ロクロ成形 外面 体部下端はわずかに回転ヘラケズリ底部回転糸切り後回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁の 2/5周 を欠損	破損面は 増減している
4	土師器 坏	119×73×37 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	外淡褐色 内橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の 3/4 残存	墨書「竹」 体部外面
5	土師器 坏	116×65×39 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部は回転糸切り後周縁は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	ほぼ 完存品	口縁と底面付近は 「手ずれ」が 目立つ
6	土師器 坏	121×62×38 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部は回転ヘラケ切り 内面 ロクロナデ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の 4/5	磨減が目立つ
7	土師器 坏	120×68×37 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部は回転ヘラケズリまたは回転ヘラケ切り 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁の 一部を 欠く	破損面は 増減している
8	土師器 坏	126×62×39 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部は回転ヘラケズリまたは回転ヘラケ切り 内面 ロクロナデ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁の 一部を 欠く	墨書「竹」 体部外面
9	土師器 坏	133×74×45 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部は回転ヘラケ切り	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の 4/5 残存	
10	土師器 坏	(118)×57×43 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリロクロ目とケズリ部分を消すようにヘラミガキ 底部回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後ヘラミガキ	橙褐色 良	赤色 スコリア 微粒緻密	口縁 2/3 欠く	内黒か
11	土師器 坏	(118)×75×41 ロクロ成形 外面 体部下端は手持ちヘラケズリ 底面は回転糸切り後 内面 ロクロナデ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁～ 体部の 2/3 欠く	
12	土師器 坏	120×78×35 ロクロ成形 外面 体部下半は回転ヘラケズリ底部回転糸切り後回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁～ 体部の 2/5を 欠く	墨書「竹」 体部外面
13	土師器 坏	(132)×70×46 ロクロ成形 外面 体部下半回転ヘラケズリ底部回転糸切り後周縁回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁～ 体部の 3/5を 欠く	底面内面に 墨書きありか

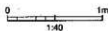
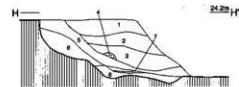
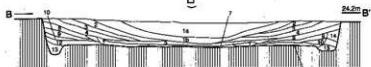
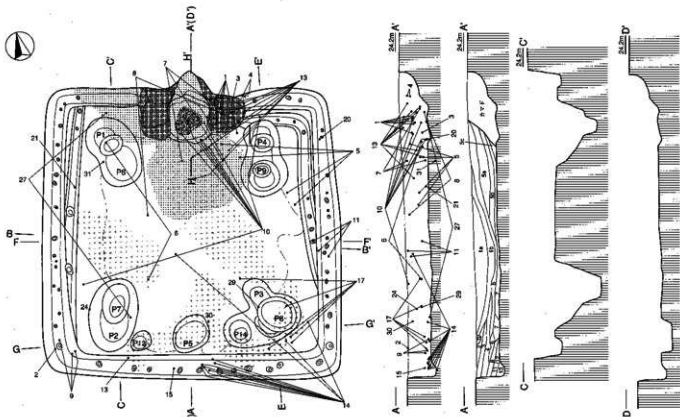
14	土師器 坏	155×76×52 ロクロ成形 外面 体部下半回転ヘラケズリ底部回転ヘラ切りまたは回転ヘラ切り 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキ	橙褐色 良堅微	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁の 一部を 欠損	
15	土師器 坏	156×75×49 ロクロ成形 外面 体部下半は回転ヘラケズリ 底部回転ヘラ切り 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキを行い吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の スコリア 3/5 が残存	
16	土師器 坏	143×75×52 外面 体部下半は回転ヘラケズリその後部分的にヘラミガキ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキを行い吸炭底部は回転ヘラ切り後ヘラミガキ ロクロ成形	橙褐色 良	赤色スコ リア微粒 雲母少量	口縁～ 体部の 2/5 欠く	
17	土師器 坏	(120)×56×38 ロクロ成形 外面 体部下半は手持ちヘラケズリ底部切り難し後手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキ	橙褐色 青	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の 1/3 残存	内黒の 可能性あり
18	須恵器 坏	136×74×40 ロクロ成形 外面は体部下端は手持ちヘラケズリ内面はロクロ成形後密なヘラミガキ 底部は切り難し後手持ちヘラケズリ (倒位の状態)	灰色 青	雲母長石 類粒	一部を 欠く	朱書「竹」 体部外周 常盤産か
19	須恵器 坏	127×72×39 ロクロ成形 外面体部下端は手持ちヘラケズリ内面はロクロナデ静止ヘラ切り後周縁 は手持ちヘラケズリ	暗灰色 良堅微	赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部一 部欠く	器内外面とも 「手ずれすれ」 目立つ
20	須恵器 坏	135×65×43 ロクロ成形 外面 体部下端は手持ちヘラケズリ内面ロクロナデ静止ヘラ切り後部分 的に手持ちヘラケズリ	黒褐色 良	赤色スコ リア細粒	全体の 3/4 残存	完全に還元炭焼 成になってない
21	土師器 高台付坏	(136)×(69)×31 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ内面はロクロ成形後密なヘラミガキ底部 切り難し後付高台	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の 1/3 残存	基本的には 内黒か
22	土師器 皿	—×64×24 ロクロ成形内面はロクロナデ底面は回転糸切りによる切り難し底は厚底 気味	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	体部～ 底部 残存	墨書「竹」 見込面中央
23	土師器 皿	(134)×53×16 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ内面はロクロ成形後密なヘラミガキ底部 回転ヘラ切り	暗褐色 良 堅微	雲母赤色 スコリア 微粒	全体の 3/5 残存	内面に傷あり
24	土師器 皿	148×85×13 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ内面はロクロナデ底部は回転ヘラケズリ 全体に「蓋」を逆にしたような器面	橙褐色 良	赤色スコ リア微粒 雲母少量	全体の 1/2強	墨書「竹」 見込面中央
25	土師器 皿	(134)×68×17 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ内面ロクロナデ底部回転ヘラケズリ	橙褐色 良	赤色スコ リア微粒	全体の 2/3強	墨書「竹」 見込面中央
26	土師器 壺	203×—×残存(227) 口縁は外反し上端つまみ上げられる胴上半に膨らみを持つ 外面 口縁頸部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁ヨコナデ 胴部ヘラナデ —×160×(275) 肩部が張る	橙褐色 青	砂粒雲母	1/2	器面磨耗 が著しい
27	須恵器 壺	外面 胴上半下タタキ 下端ヘラケズリ 内面 ヘラナデ及びナデ一部指頸圧痕	灰褐色 青	砂粒多	1/3	
28	須恵器 壺	(319)×156×180 口縁屈曲 外面口縁頸部ヨコナデ胴部上半下タタキ下端ヘラケズリ 口縁ヨコナ デナデ 蓋指頸圧痕	灰褐色 悪	粗砂粒 雲母	1/2	
29	須恵器 壺	—×(158)×残存(219) 肩部が張る 外面 胴上半下タタキ目 下端ヘラケズリ 内面 ヘラナデ及びナデ指頸圧痕が見られる	外帯褐色 ～茶褐色 内褐色 青	砂粒雲母	1/3	
30	須恵器 壺	210×218×137 タタキ成形 口縁端部はつまみ上げ胴部外面平行タタキ目 内面 あて貝痕	茶褐色 青	細砂 長石類	口縁～ 胴上半 の1/3	
31	須恵器 壺	(220)×—×残存(210) 外反する折り返し口縁 外面 口縁頸部ヨコナデ胴部上半タタキ目 内面 口縁ヨコナデ胴部上半指頸痕	赤褐色 青	砂粒雲母	口縁片	

32	土師器 甕	(200)×-×67 口縁はつまみ上げ口縁部内外面ナデ 外面 胴上半ヘラケズリ内面ヘラナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 織粒	口縁～ 肩部の 1/3が 残存	
33	須恵器 甕	-×-×- 口縁は玉縁状頸部に4本1単位の襷指波状文	黒褐色 良	長石類 織粒 小塵	口縁片	
34	須恵器 甕	-×-×- 口縁は大きく外反し端部をつまみ上げられるタキ整形で口縁内外面ナ デ胴部外面は平行タキ目内面にあて貝痕あり	灰色 良	長石類花 崗岩粒を 含む	口縁～ 胴上部 片	常陸産
35	須恵器 長頸壺	-×(86)×65 ロクロ成形で外面の胴下半は回転ヘラケズリ内面はロクロナデ底部は回 転ヘラ切りで付高台	灰色 良	白色ス コリア 微粒	胴下半 ～底部 1/2	常陸産
36	須恵器 長頸壺	- - 残存(200) 頸部は上位が開く 外面 回転ヘラケズリ胴部やや上半に膨らみを持つ	灰色 良	砂粒	1/4	外面少量 自然釉がかかる
37	須恵器 長頸壺	-×(60)×33 ロクロ成形で外面の胴下半は回転ヘラケズリ内面はロクロナデ底部は回 転ヘラ切りで付高台	暗赤褐色 良	白色	胴下半 から 高台部 残存	高台部外面 内面自然釉
38	土師器 坏	(12.2)×58×42 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ その他部分的にヘラミガキ 内面は ロクロナデで底部回転ヘラ切り	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	胴下半 ～高台 部残存	墨書「□」か 体部外面正位
39	土師器 坏	-×70×22 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリこの後部分的にヘラミガキ内面はロクロ 成形後密なヘラミガキ 底部は回転糸切り後周縁回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	底部片	墨書「□」 体部外面
40	土師器 坏	-×(80)×13 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	赤色ス コリア 微粒 雲母少量	底部片	墨書「井」 底部内面
41	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラケズリ 口縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁～ 体部片	墨書「□」か 体部外面
42	土師器 坏	-×64×28 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り 後周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	体部～ 底部片	
43	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁～ 体部片	墨書「真□」 体部外面
44	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 織粒	体部片	墨書「竹」 皿か
45	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面はロクロ成形後密なヘラミガキ 吸炭の痕跡は見られ ないが内黒	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「竹」 口縁外面
46	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「竹」 口縁外縁
47	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「竹」 口縁外面
48	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面はロクロ成形後丁寧なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「竹」
49	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後丁寧なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	赤色ス コリア 微粒 雲母少量	口縁片	墨書「□□」 口縁外面
50	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後丁寧なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	体部片	墨書「□□」 体部外面

51	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「□□」 口縁外面
52	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形後体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「竹」 口縁外面
53	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形後体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「□」 口縁外面
54	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形後体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	橙褐色 普	雲母赤色 スコリア 微粒	口縁片	墨書「□」 口縁外面
55	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ	淡褐色 良	長石類 スコリア 微粒	口縁片	墨書「□」 口縁外面
56	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形後 体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	体部片	墨書「因」か 体部外面
57	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 底部外面に糸切り痕見える 内面ロクロナデ	茶褐色 良	赤色スコ リア微粒 雲母少量	底部片	墨書「×」 底部外面
58	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 底部内面はロクロナデ	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 微粒	底部片	墨書「×」 底部外面
59	土師器 小形甕	156×-×61 口縁部は軽くつまみ上げられる 口縁部は内外面ナデ胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	茶褐色 良	長石類 スコリア 微粒	口縁～ 胴部の 1/2	
75	土製品 転用砥石	須恵器の胴部片を利用し破片の周面を打ち欠いて不整な四辺形を形作り 使用面とする	灰色 良	長石粒 雲母粒	完存品	須恵器製転用品
76	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	赤色スコ リア微粒 雲母少量	体部下 端～底 部片	墨書「□」か 体部外面
77	鉄器 刀子	(125)×5×3 ×4×3				刃～茎
78	鉄器 釵?	(78)×4 ×4				茎? 紡錘車?
79	鉄器 刀子	(56)×9×1 ×4×3				刃～茎
80	鉄器 釘?	(112)×12×11 ×11×10				1/2
81	鉄器 釘	(42)×6×4				1/2
82	鉄器 不明	53×29×12				断片
83	鉄器 釘	182×7×7 ×5×4				完存



84	鉄器 釘?	(142)×8×5 ×10×7			断片	
85	鉄器 釘	143×9×6 ×6×4			完形	
86	鉄器 刀子	(59)×10×2 ×12×2			刃部	
87	鉄器 刀子	(62)×9×2 ×7×2			刃~茎	
88	鉄器 不明	19×14×2			断片	刀子刃部か?
89	鉄器 釘?	(14)×1×1			断片	
90	鉄器 鏝	(142)×-×-			略完形	
91	鉄器 穂搦具	(47)×23×1			略完形	
92	鉄器 釘	(115)×6×5 ×7×4			1/2	
93	鉄器 鏝	(143)×-×-			略完形	
94	鉄器 刀子	(91)×13×4 ×7×6			刃~茎	
95	鉄器 鏝	(115)×-×-			略完形	
96	鉄器 不明	(47)×18×3			断片	
97	鉄器 鏝	(83)×8×6 ×9×4			茎	
98	鉄器 穂搦具	85×26×2 ×8×2			略完形	
99	鉄器 鏝	(68)×12×8 ×8×7 ×3×2			茎	
100	鉄器 刀子	(33)×8×3			刃先	



- |     |       |                 |           |           |
|-----|-------|-----------------|-----------|-----------|
| 1a層 | 黒褐色土  | ローム多量混入         | ローム粒多含    | 径5-50mm   |
|     |       | 大のロームブロック多含     | 焼土粒少含     |           |
| 2b層 | 黒色土   | ローム粒多含          | 径5-20mm大の |           |
|     |       | ロームブロック多含       | 焼土粒少含     |           |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム粒少含          | 炭化物、焼土粒、  | 白色粘土微量    |
| 3層  | 黒褐色土  | ローム粒少含          | 炭化物、焼土粒、  | 白色粘土少量    |
| 4層  | 黒褐色土  | ローム粒少含          | 炭化物、焼土粒、  | 白色粘土微量    |
| 5層  | 暗灰褐色土 | 白色粘土、           | 焼土粒、      | ローム粒少含    |
|     |       | 径5mm大のロームブロック少含 |           |           |
| 5a層 | 灰褐色土  | 白色粘土と           | 黒褐色土が少量混入 |           |
|     |       | 焼土粒、            | ローム粒少含    |           |
| 5b層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と           | 黒褐色土が少量混入 |           |
|     |       | 焼土粒混含           | ローム粒少含    |           |
| 5c層 | 黒褐色土  | 焼土粒混含           | ローム粒少含    | 白色粘土粒少含   |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒少含          | 炭化物、      | 焼土粒少含     |
| 7層  | 暗赤褐色土 | 黒褐色土と           | 焼土が粗く混含   | 白色粘土少量    |
| 8層  | 黒褐色土  | ローム粒少含          |           |           |
| 9層  | 黒褐色土  | ローム粒少含          | 径5mm大の    | ロームブロック少含 |
| 10層 | 黒褐色土  | ローム粒少含          | 径5mm大の    | ロームブロック少含 |
| 11層 | 黒褐色土  | ローム粒多含          | 径5mm大の    | ロームブロック多含 |
| 12層 | 暗赤褐色土 | 黒褐色土と           | ロームが混含    | ローム粒多含    |
|     |       | 径5mm大の          | ロームブロック少含 |           |
| 13層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色土と           | ロームが混含    | ローム粒多含    |
|     |       | 径5mm大の          | ロームブロック少含 |           |
| 14層 | 黄褐色土  | ロームブロック         | ローム粒少含    |           |

- |    |       |       |           |          |        |
|----|-------|-------|-----------|----------|--------|
| 1層 | 灰褐色土  | 白色粘土と | 黒褐色土が少量混入 | 焼土粒、     | ローム粒少含 |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と | 黒褐色土が少量混入 | 焼土粒混含    | ローム粒少含 |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と | 黒褐色土が少量混入 | 焼土粒混含    | ローム粒少含 |
| 4層 | 灰褐色土  | 白色粘土に | 黒褐色土が少量混入 | 焼土粒少含    |        |
| 5層 | 黒色土   | 焼土粒径  | 10mm大     | 焼土ブロック多含 | 白色粘土多含 |
| 6層 | 黒色土   | 焼土粒少含 | 白色粘土混含    |          |        |
| 7層 | 黒褐色土  | 焼土粒、  | ローム粒      | 白色粘土粒が多含 |        |
| 8層 | 灰褐色土  | 黒色土と  | 白色粘土と     | が混含      | 焼土粒多含  |

図194 A210

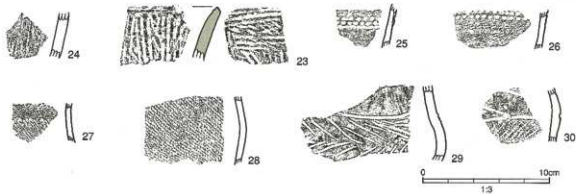
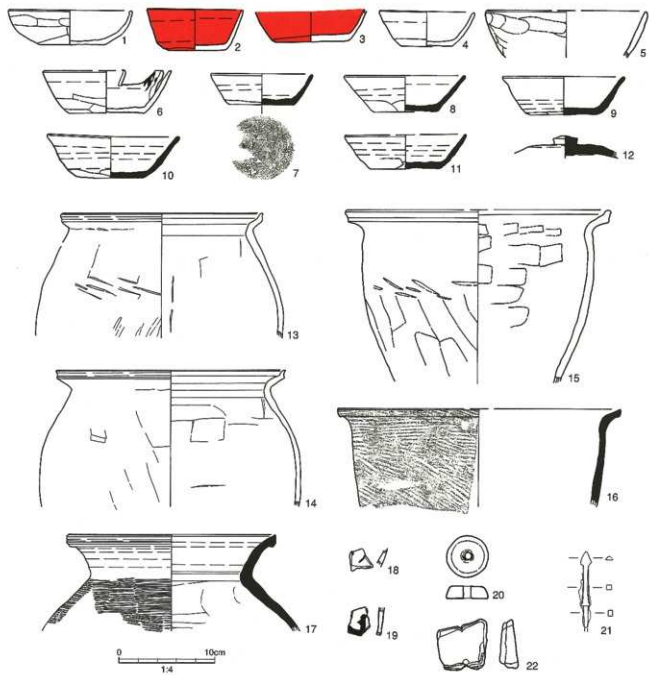


图195 A210 (2)

## A210

検出地区 L5-17・18・27・28gにわたって検出した。

遺 構 周溝から、竈の改替はないが柱替えを行った拡張住居跡と捉えられた。

A210aは、長軸6.32m×短軸6.12m×深さ0.52～0.60m、主軸方位はN-14°-Eを測る。平面形は、横幅のある隅丸方形である。

A210bは、長軸(5.71)m×短軸(5.30)m×深さ1mを測る。平面形はは隅丸方形である。

床は、ハードルームに暗褐色土が混入し、主柱穴間内から出入口にかけて硬化面を認めた。中央部は火熱のため劣化し凹んでいる。主柱穴は4基検出した。P1・P2・P4・P8は深さ0.84～0.98mのA210aの主柱穴であり、P3・P6・P7・P9は深さ0.44～0.68mのA210bの主柱穴と捉えた。P5はa住居跡の為のようであるが、兼用される位置であった。周溝は東西の2壁で2条となるが、南北壁では1条であった。竈は1基であり、兼用したものと捉えた。北壁中央に、白色粘土を主体として築かれていた。袖は下部のみ遺存していた。赤化した火床が検出された。覆土は自然堆積後、覆土上層は人為堆積であった。

遺 物 540点余が出土した。条痕文片が比較的多かった。

所 見 柱替えと拡張を行った竪穴住居跡であり、竈の改替はなかった。

表42 A210遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 構成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	130×70×37 赤ロクロ成形 外面の体部はヘラケズリ後ヘラミガキ 内面はナデ後ヘラミガキ 体部球状 底部は丸底状態でヘラケズリ後ヘラミガキ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 1/4周 を欠く	
2	土師器 坏	100×57×44 ロクロ仕上げ 外面の体部下端はヘラケズリ内面はロクロナデ底部は回転ヘラ切り 焼成後器内外面赤彩	赤地は 橙褐色	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁を 1/4周 を欠く	小形で プロポーション は箱形に近い
3	土師器 坏	100×(74)×(31) ロクロ仕上げ 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ 切り 焼成後器内外面赤彩	赤地は 橙褐色	長石類 赤色スコ リア細粒	体部～ 底部 残存	
4	土師器 坏	100×54×37 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ内面はロクロナデ底部は切り離し後手持 ちヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 2/5周 欠く	
5	土師器 坏	(170)××(50) 紐づくりか 器形は半球状 外面口縁はナデ胴部ヘラケズリ内面はヘラミガキ	橙褐色 青	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 1/4周 残存	縄あるいは鉢か
6	土師器 坏	(134)×(80)×45 ロクロ成形 外面の体部下は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部静止ヘラ 切り 内面に油濁の跡あり	橙褐色 良堅微	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 底部の 2/5 残存	転用灯明皿
7	須恵器 坏	(107)×69×33 ロクロ成形外面の体部下は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ底部は静止ヘラ切り	灰色 善	雲母花崗 岩粒	口縁～ 体部の 2/5周 欠く	宛書「口」 底部外面 常陸産
8	須恵器 坏	128×67×39 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面ロクロナデ底部は回転ヘラ切 り後周縁は手持ちヘラケズリ	灰色 良	雲母花崗 岩粒	充貯品	常陸産
9	須恵器 坏	129×72×41 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部静止ヘラ 切り	灰色 善	雲母少量 花崗岩粒	口縁の 1/4周 欠く	常陸産
10	須恵器 坏	138×69×44 ロクロ成形 外面の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部静止ヘラ 切り	灰色 善	雲母 少量の 花崗岩粒	口縁の 2/5周 欠く	常陸産

11	須恵器 坏	(128)×(74)×36 外面の体部下半は手持ちヘラケズリ内面はロクロナダ底部回転ヘラ切り 後周縁は手持ちヘラケズリ	灰色 青	蚕母 花崗岩粒 目立つ	1/2 残存	常陸産
12	須恵器 壺	—×—×(24) ロクロ成形 外面の穴蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナダ 宝珠部を取り付ける	暗灰色 長良黄	長石類 白色粒 細粒含む	穴蓋部 の一部 宝珠部	
13	土師器 甕	(210)×—×(134) 口縁外反上端はつまみ上げられる外面は凹線状に調整 外面 口縁頸部ヨコナダ 胴部上半ヘラナダ下半ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁頸部ヨコナダ 胴部上半ヘラナダ	橙褐色 青	粗砂粒多 長石類	口縁～ 胴部片	
14	土師器 甕	(237)×—×(134) 口縁外反上端はつまみ上げられる外面は凹線状に調整 外面 口縁頸部ヨコナダ 胴部上半ヘラケズリ後ナダか？ 内面 口縁頸部ヨコナダ 胴部上半ヘラナダ	橙褐色 青	粗砂粒多	口縁～ 胴部片	外面コグ状 付着物 器面消耗多
15	土師器 甕	(280)×—×(184) 口縁外反上端はつまみ上げ口縁は内外面ともナダ胴部外面はヘラケズリ 後ヘラナダ 内面はヘラナダ	茶褐色 良	花崗岩粒 蚕母粒	口縁～ 胴中部 の1/4	常陸型甕
16	須恵器 甕	300×—×(100) タタキ壺形口縁は外反し端部はつまみ上げる 口縁内外面ナダ胴部外面 は平行タタキ目 内面はあて具痕	橙褐色 青	雲母赤色 スコリア 粒	口縁～ 胴上部 の一部	酸化炭焼成 に近い 常陸産
17	須恵器 甕	(217)×—×(103) 口縁は外反する折り返し口縁 ロクロ成形 外面 胴部上半タタキ目 内面 胴部上半ヘラナダ及びナダ一部に指痕圧痕	暗灰色 青	粗砂少塵	口縁片	
18	土師器 坏	—×—×— 全体ロクロ成形 外面 口縁頸部ロクロ成形で回転ヘラケズリ	橙褐色 良	細砂長石 類スコリア 粒含む	体部片	墨書 1文字か「□」 体部外面下端
19	土師器 甕？	—×—×— 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ	外赤褐色 内灰褐色 良	細砂長石 類粒含む 胎上	胴部片	墨書1文字か 「□」 胴部外面
20	石製品 紡錘平	上径37×F形44×器厚13×軸口径8 全体表裏及び側面に研磨痕あり 外面 表裏は軸穴の周囲に「螺旋痕」が見える	淡褐色		完存品	やや扁平 材質は滑石製
21	鉄器 鏃	(80)×8×4 ×5.5×6 ×4×6			1/2	
22	石製品 石錘	—×—×— 全体 岩片を適度な大きさに整え茶搦を刻む 内外面 打ち欠いて磨って整形か	橙褐色		完存品	断面「ラミナ」 が見られる 材質砂岩
23	縄文 深鉢	—×—×— 鋭角な尖底深鉢か 外面 縦を主にややランダムな貝殻条痕 内面 横を主にややランダムな貝殻条痕	暗灰色 良	粗砂長石 類スコリア 粒含む	口縁片	早期後半 縄文系土器 野島式
24	縄文 深鉢	—×—×— ゆるやかな尖底浅鉢形 外面 条痕がやや疎らな熱系R 内面 ケズリ後ミガキ	外橙褐色 内暗褐色 良	砂長石類 赤色スコリア 粒含む	胴部片	草創期後半 稲荷台式
25	弥生 甕	—×—×— 外面 段的部分的に円形竹管の刺突列結節縄文 内面 ナダ後ミガキ	外茶褐色 内橙褐色 良	粗砂 長石類 スコリア 粒含む	胴部片	
26	弥生 甕	—×—×— 外面 段的部分的に円形竹管の刺突列結節縄文 内面 ナダ後ミガキ	外茶褐色 内橙褐色 良	粗砂 長石類 スコリア 粒含む	胴部片	
27	弥生 甕	—×—×— 外面 頸部に結節縄文無文部をはさんで附加条縄文 内面 ナダ	淡褐色 良	粗砂 長石類 スコリア 粒含む	胴部片	
28	弥生 甕	—×—×— 外面 口縁頸部附加条縄文 内面 ナダ	外黒褐色 内暗褐色 良	粗砂 長石類 スコリア 粒含む	胴部片	
29	弥生 壺	—×—×— 外面 文様帯は綾形状の沈線底部全体かなりランダム 内面 ミガキ	外橙褐色 内暗褐色 良	粗砂 長石類 スコリア 粒含む	胴部片	

30	発生源 外面 意匠の基点に円形竹筒による刺突 内面 ミガキ	茶褐色 良	細砂 長石類 スコリア 細粒含む	銅部片
----	-------------------------------------	----------	---------------------------	-----

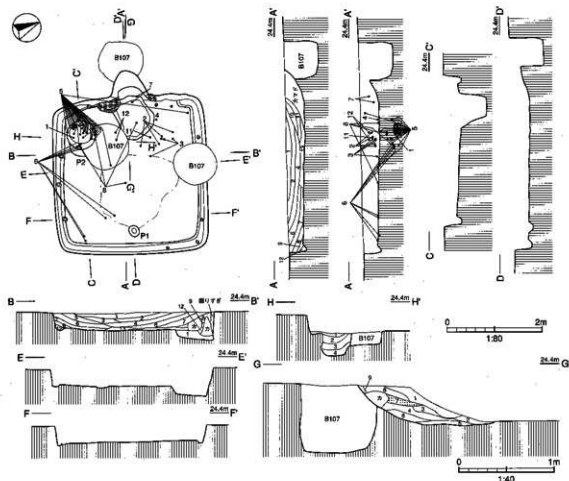


図196 A211

A211

検出地区 L6-77gにて検出した。

遺構 長軸3.32m×短軸3.20m×深さ0.32~0.40m、方位はN-70°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

床は、ハードロームと暗褐色土とが混合したものであった。住居跡中央は壁際より硬さを有するが、明瞭な硬化面は認められなかった。主柱穴は検出されなかったが、壁柱穴は10基確認された。P1は施設に伴うものである。P2は貯蔵穴と捉えた。周溝は竈手前の北コーナーで止まっていた。竈は遺存は不良であるが北壁中央に設けられていた。袖は壁際の地山を残して基礎としていた。そのローム上に白色粘土を積んで築いていた。右袖は地山が残るのみであった。粘土には黒色土が多く混合していた。皿状の竈ピットには火床は検出されず、火熱痕も認められなかった。煙道部はB023の柱穴を掘込んで作られていた。覆土は遺構廃絶の当初は自然堆積であるが、中層以上の層の複雑さから、ロームをやや多く含んだ黒褐色土主体の人為堆積と捉えた。

遺物 土師器・須恵器を主体として、150点余の出土であった。墨書土器が3点出土している。2点は小片のため判読不能だが、1点は「山」と記されていた。

- |     |       |                                      |
|-----|-------|--------------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム粒微含                               |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム粒少含 径5mm人のロームブロック微含               |
| 3層  | 黒褐色土  | ローム粒少含                               |
| 4層  | 暗黄褐色土 | ローム粒多含 径5~20mm次のロームブロック多含            |
| 5層  | 黒褐色土  | 黒褐色土とロームが粗く混合 ローム粒少含 径5mm人のロームブロック微含 |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒少含                               |
| 7層  | 黒褐色土  | 6層よりややローム粒多含                         |
| 8層  | 黒褐色土  | ローム粒少含 径5mm次のロームブロック少含               |
| 9層  | 黒褐色土  | ローム粒微含                               |
| 10層 | 黒褐色土  | ローム粒及び白色粘土粒少含                        |
| 11層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土混合 白色粘土粒、ローム粒を少含 炭上粒炭化材微含        |
| 12層 | 黒褐色土  | ローム粒少含                               |
| 13層 | 暗黄褐色土 | ロームと黒褐色土混合                           |

- |    |    |       |               |
|----|----|-------|---------------|
| P2 | 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少含        |
|    | 2層 | 黒褐色土  | ローム粒多含        |
|    | 3層 | 暗褐色土  | ローム粒多含 炭化粒少含  |
|    | 4層 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土とロームが粗く混合 |

- |    |       |                           |
|----|-------|---------------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土混合<br>ローム粒少含 焼土粒炭化材微含 |
| 2層 | 暗黄褐色土 | ロームと黒褐色土混合                |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土混合 焼土粒多含         |
| 4層 | 暗赤褐色土 | 白色粘土と焼土混合 黒褐色土少量混         |
| 5層 | 黒色土   | ローム粒、焼土粒少量含               |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒、焼土粒少量含               |
| 7層 | 灰白色土  | 白色粘土主体                    |
| 8層 | 黒褐色土  | ローム粒少含                    |
| 9層 | 赤褐色土  | 焼土ブロック                    |

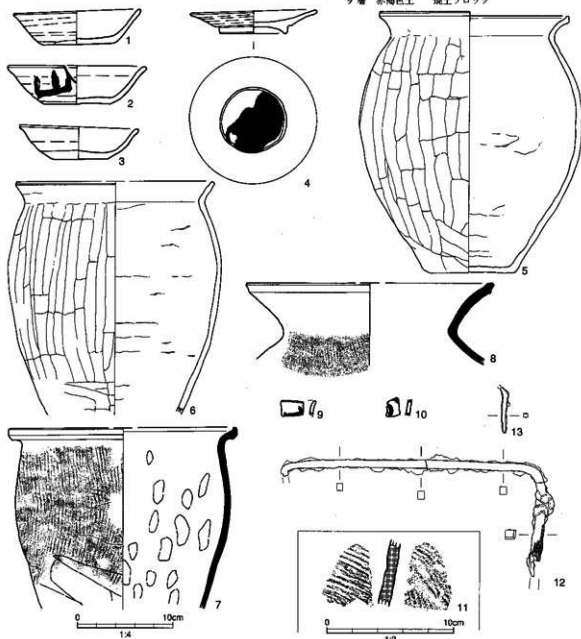


図197 A211 (2)

所見 住居跡の埋没過程は、黒褐色土の自然堆積(6~12層)後、覆土下層近くまでロームを多く含んだ黒褐色土(4・5層)を投入している。掘返しの目的は不明である。しかし掘立柱建物跡が多く検出された上谷遺跡Ⅱ地区でも似た傾向があり、掘立柱建物跡が多い本地区でも同じ傾向が窺われる遺構であった。

表43 A211遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	粘土	遺存	備考
1 土師器 坏	132×75×35 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	茶褐色 良	雲母スコ リア細粒	口縁の 2/5を 欠損	
2 土師器 坏	142×68×41 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部回転ヘラ切り 内面 ロクロ成形後ヘラミガキその後吸炭か	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 1/2 欠損	墨書「山」 体部外面正位
3 土師器 坏	124×55×35 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 底部回転ヘラ切り 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	雲母スコ リア細粒 長石類	口縁の 1/2周 を欠く	
4 土師器 高台付坏	129×70×24 ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキ 底部 回転ヘラ切りで付高台	橙褐色 良	雲母スコ リア細粒 長石類	欠存品	高台の内側に墨 もしくはス の付着
5 土師器 甕	198×95×277 口縁やや受け口状上端はつまみ上げられる 胴部上半に膨らみを持ち底 部にかけてすぼまる 外面 口縁頸部ココナデ胴部上半下半縦ヘラケズ リ下端斜めヘラケズリ 内面 口縁頸部ココナデ 胴部ヘラナデ	橙褐色 甚	砂粒 雲母	4/5	
6 土師器 甕	(205)×—×(247) 口縁受け口状 頸部「く」の字状 胴上半に膨らみを持ち底部にかけす ぼまる 外面 口縁頸部ココナデ胴部上半縦ヘラケズリ下端斜めヘ ラケズリ 内面 口縁頸部ココナデ 胴部ヘラナデ 一部輪痕	褐色～ 橙褐色 甚	砂粒 白色粒	1/3	内外面 少量のスス付着
7 須恵器 甕	(240)×—×(191) 口縁部はつまみ上げ内面は蓋受け状となる タタキ整形 口縁は内外面 ナデ胴部外面は平行タタキ日下半はヘラケズリ 内面はあて具痕	灰色 良	細砂 白色粒	口縁～ 胴下の 1/5	
8 須恵器 甕	(240)×—×(191) 口縁部は軽くつまみ上げる タタキ整形 口縁は内外面ナデ 胴部外面は平行タタキ日	橙褐色 甚	雲母 長石類 花崗岩粒	口縁～ 胴部の 1/5	
9 土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁片	墨書「口」 口縁外面
10 土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	体部片	墨書「口」 体部外面 9と同一個体か
11 縄文 深鉢	外面 斜め方向の貝殻条痕 内面 斜め方向の貝殻条痕 原体はアナグラ属のうち人形體(アカガイ等)を用いている	外淡褐色 内暗褐色 良	スコリア 粒繊維 少量	胴部片	早期後半条 痕文系土器 野島式
12 鉄器 釵	280×7.5×6 —×9×7 —×8.5×7 —×11×10 重量90.0g			部分	
13 鉄器 釘	47×5×4 重量3.2g			断片	

## A212

検出地区 L6-17・16gにて検出した。

遺 構 長軸4.28m×短軸4.24m×深さ0.40～0.48m、方位はN-40°Wを測る。平面形は隅丸方形である。床はハードロームの地床で、支柱穴間内は良好な硬化面を認める。支柱穴はP1～P4、壁柱穴は19基検出した。P5は出入口である。柱穴の深さは平均0.40m前後である。周溝は竈左及び北東コーナーで途切れる。竈は北東壁中央であり、B107によって一部が失われている。袖は白色粘土を主体として紫き、内壁は赤化している。火床は重複により不明である。覆土は黒色土を主体とした自然堆積であった。

遺 物 40点余と少なかった。縄文・条痕文が比較的多く出土している。

所 見 新旧関係は、A212→B107と捉えられた。本地区では中規模の竪穴住居跡である。



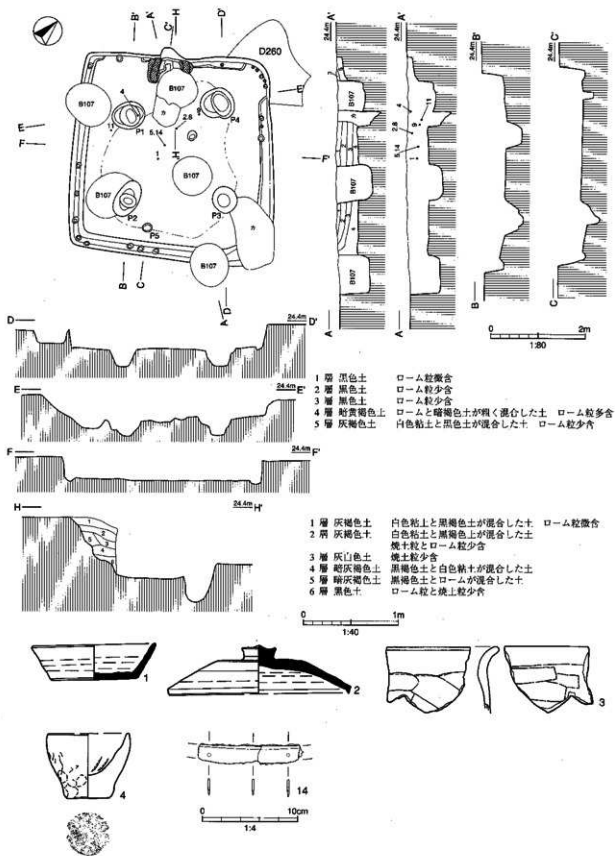


图198 A212

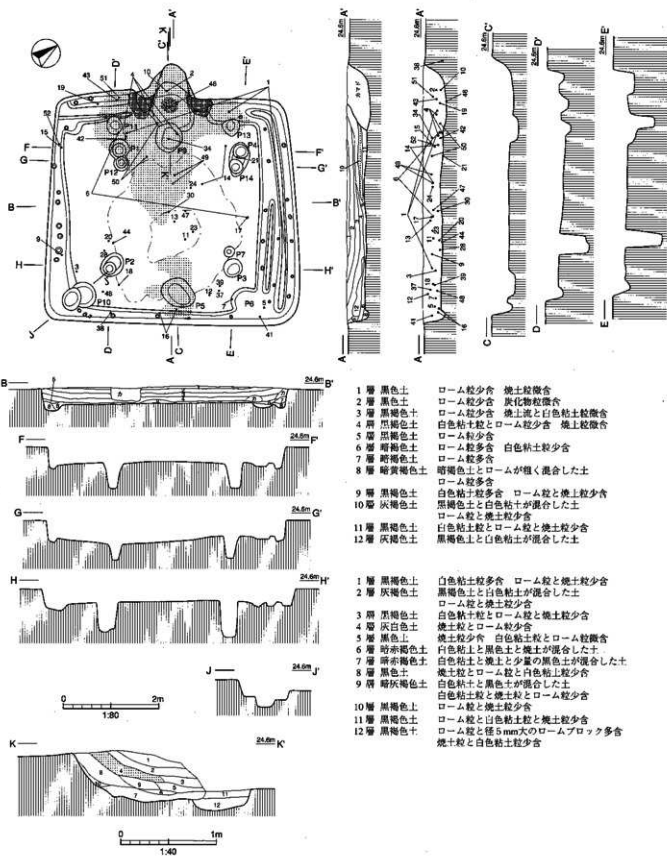


図199 A212 (2)

表44 A212遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	131×90×37 ロクロ成形 外面は体部下端回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り	灰色 良	長石類 緑粒 白色粒	口縁～ 体部の 1/3 欠損	全体「手ずれ」 が目立つ内外面 「火障」あり
2	須恵器 壺	190××52 ロクロ成形 外面天蓋部は回転ヘラケズリ内面はロクロナデ宝珠部を取り付ける	暗灰色 良	白色粒子	全体の 2/3 残存 宝珠部	
3	土師器 壺	—×—×— 口縁は外反気味に立ち上がる口縁部内外面ナデ胴部外面はヘラケズリ内面はヘラナデ	茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 同上部 片	胴上部に横方向 のヘラケズリが 入る
4	手ずくね 土器	(85)×45×69 口縁はやや内湾気味に立ち上がり全体に鉢形を呈する 口縁外面はナデ 全体に指頭痕及び割れが目立つ 内面はヘラケズリ後ナデ	橙褐色 普通	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 1/2 欠損	底部外面には木 葉痕が見られる
5	土製品 紡車	52×(46)×(29) 重量63.5g 殆ど手ずくね状で部分的に笥調整 極めて粗製	茶褐色 普通	長石類 赤色スコ リア粒	長石類 一部を 欠損	ある種の上部器 壺と全く同じ 胎土
7	縄文 深鉢	外面 縦方向に近い条痕文 内面 横方向を主とした条痕文	茶褐色 普通	繊維スコ リア細粒	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野鳥式
8	縄文 深鉢	外面 斜め方向主の貝殻縄文 内面 横方向主の貝殻条痕 外面に二次焼成が見られる	外橙褐色 内淡褐色	繊維スコ リア細粒	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野鳥式
9	縄文 深鉢	外面 沈線で重匠を描き 沈線を充填 内面 縦方向の貝殻条痕	外茶褐色 内暗褐色	繊維 スコリア 細粒	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野鳥式
10	弥生 壺	外面 口縁下に刺突列を施文 内面 口縁は内厚し 内縁を持つ	茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁片	弥生後期と あるが?
11	弥生 壺	外面 頸部と肩部の境にギザミ列 内面 ナデ	外暗褐色 内淡褐色 良	赤色スコ リア細粒	胴部片	弥生後期
12	弥生 壺	外面 頸部に櫛栞波状文を施す 胴部は付加条縄文 内面 ナデ 櫛状工具は6本1組	淡褐色 良	砂多 スコリア 細粒	胴部片	弥生後期
13	弥生 壺	外面 付加条縄文を施文する 内面 外面にススなしいソコゲ状のこびりつきあり	暗褐色 普通	長石類 細粒	胴部片	弥生後期
14	鉄器 徳柄具	107×17×2 —×17×2 —×18×2 重量17.7g				



- |          |                  |             |
|----------|------------------|-------------|
| 1層 黒色土   | ローム粒少含           | 焼土粒微含       |
| 2層 黒色土   | ローム粒少含           | 炭化物粒微含      |
| 3層 黒褐色土  | ローム粒少含           | 焼土流と白色粘土粒微含 |
| 4層 黒褐色土  | 白色粘土粒とローム粒少含     | 焼土粒微含       |
| 5層 黒褐色土  | ローム粒少含           |             |
| 6層 暗褐色土  | ローム粒多含           | 白色粘土粒少含     |
| 7層 暗褐色土  | ローム粒多含           |             |
| 8層 暗黄褐色土 | 暗褐色土とロームが粗く混合した土 |             |
|          | ローム粒多含           |             |
| 9層 黒褐色土  | 白色粘土粒多含          | ローム粒と焼土粒少含  |
| 10層 灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が混合した土  |             |
|          | ローム粒と焼土粒少含       |             |
| 11層 黒褐色土 | 白色粘土粒とローム粒と焼土粒少含 |             |
| 12層 灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が混合した土  |             |

- |          |                      |              |
|----------|----------------------|--------------|
| 1層 黒褐色土  | 白色粘土粒多含              | ローム粒と焼土粒少含   |
| 2層 灰褐色土  | 黒褐色土と白色粘土が混合した土      |              |
|          | ローム粒と焼土粒少含           |              |
| 3層 黒褐色土  | 白色粘土粒とローム粒と焼土粒少含     |              |
| 4層 灰白色土  | 焼土粒とローム粒少含           |              |
| 5層 黒色土   | 焼土粒少含                | 白色粘土粒とローム粒微含 |
| 6層 暗赤褐色土 | 白色粘土と黒色土と焼土とが混合した土   |              |
| 7層 暗赤褐色土 | 白色粘土と焼土と少量の黒色土が混合した土 |              |
| 8層 黒色土   | 焼土粒とローム粒と白色粘土粒少含     |              |
| 9層 暗黄褐色土 | 白色粘土と黒色土が混合した土       |              |
|          | 白色粘土粒と焼土粒とローム粒少含     |              |
| 10層 黒褐色土 | ローム粒と焼土粒少含           |              |
| 11層 黒褐色土 | ローム粒と白色粘土粒と焼土粒少含     |              |
| 12層 黒褐色土 | ローム粒と径5mm次のロームブロック多含 |              |
|          | 焼土粒と白色粘土粒少含          |              |

図200 A215a・b

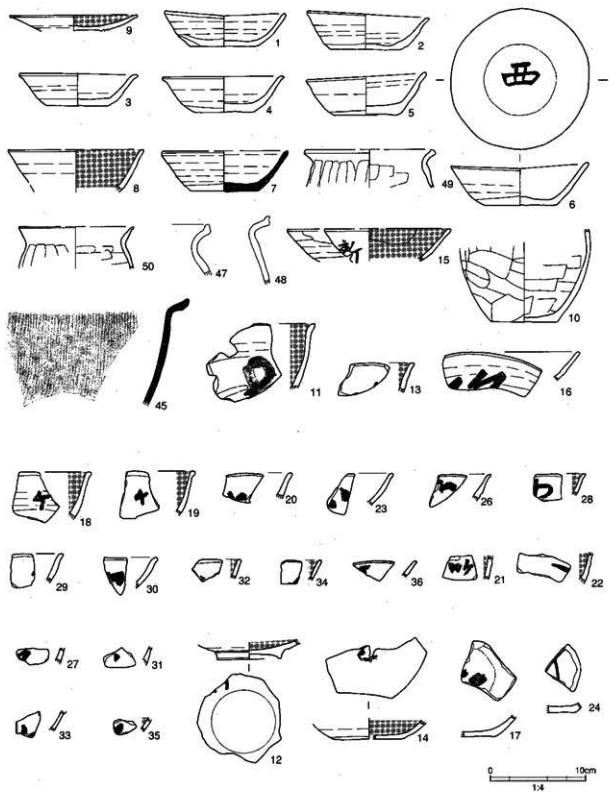


图201 A215a·b(2)

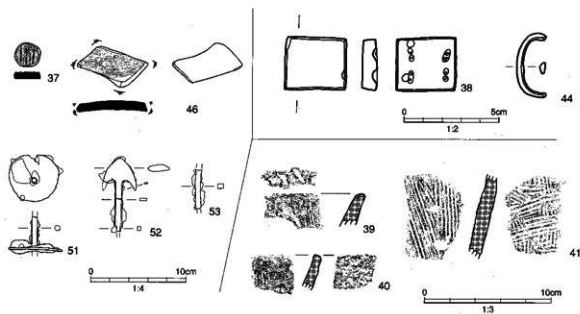


図202 A215ab (3)

#### A215ab

検出地区 L5-96・97gにて検出した。

遺構 周溝より、拡張された堅穴住居跡と捉えた。

A215aは新住居跡であり、長軸5.20m×短軸4.80m×深さ0.28～0.36m、主軸方位はN-55°-Wを測る。平面形は、横幅のある隅九方形である。

A215bは旧住居跡であり、長軸(4.98)m×短軸(4.49)m×深さ1mを測る。平面形は、横幅のある隅九方形である。床は、ハードルームに黒色土が混入した固められた床である。竈前から出入口にかけて良好な硬化面を認める。中央部は焼土により劣化していた。柱穴はP12→P11→P1、P14→P13→P4と3度の柱替えを行っていた。P2・P3は再使用であった。P5は出入口施設に伴うものである。遺存は不良であるが、周溝は西コーナーで一部途切れるが、略竈袖下まで巡っている。周溝は北壁では3条となっていた。竈は北西壁中央に設けられ、白色粘土のみで袖を築いていた。内壁は赤化しており、赤化した火床が竈ピット内に検出された。P9は竈構築時に埋戻されていたが、旧住居跡の竈ピットと捉えられた。覆土は黒褐色土主体の自然堆積であった。

遺物 土師器・須恵器を主体として、710点余が出土している。破片が主体であるが、墨書土器の出土が多い「竹」の文字が多く、7点出土している。また、「西」がともに出土している。また、石帯巡方及び銅器の鈎鋸も出土している。

所見 北東壁側において周溝を3条検出し、拡張は1度か2度か迷う住居跡である。主柱穴の調査時の判断では2度の建替えとなるが、その事実だけを報告しておきたい。

また、建替えによっても竈の位置はほぼ同じ場所に構築されたものと思われ、調査時には他の位置からは竈の痕跡は見いだせなかった。

表45 A215ab遺物観察表

(単位mm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土 遺存	備考	
1	土師器 環	127×70×32 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	ほぼ 完存品	やや歪みあり 器内外面に 鼠の齧り跡
2	土師器 環	129×74×37 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ底部は回転糸切り後	外赤褐色 内橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁の 1/4周 を欠損	器外面に 二次成器内面 に磨れ目立つ
3	土師器 環	124×64×34 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁の 2/5周 を欠損	器外面に鼠 の齧り跡
4	土師器 環	127×62×38 ロクロ成形 外面体部下半回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 1/2 欠損	器内外面とも 摩滅目立つ
5	土師器 環	127×68×41 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り 後周縁は回転ヘラケズリ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 粗粒	完存品	
6	土師器 環	145×76×39 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ 内面ロクロ成形後密なヘラミガキ	淡褐色 良	長石類 雲母 微細粒	完存品	墨書「西」 見込面中央
7	須恵器 環	133×70×42 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り	外硝褐色 内灰褐色 良	赤色スコ リア粒多 白色粒	口縁～ 体部の 3/5 欠損	
8	土師器 環	142×—×(45) ロクロ成形 外面体部下端は手持ちヘラケズリ ロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭	茶褐色 良	長石 微細粒 緻密	口縁及 び口縁 の1/4 欠く	
9	土師器 高台付環	134×—×27 ロクロ成形 外面体部下端は回転ヘラケズリ ロクロ成形後密なヘラミガキ 底部は 回転ヘラ切りで付高台(剥落)	淡褐色 良	長石類 雲母 微細粒	高台部 欠損	高台部剥落 内黒か
10	土師器 小形甕	—×70×(84) 底部から球脚状となり胴中に最大径を持つ 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナデ 器内外面に「こびり付き」あり	茶褐色 良	細砂多 スコリア 粗粒	胴中位 ～下平 及び 底部	
11	土師器 環	—×—×— ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭	橙褐色 良	雲母赤色 スコリア 粗粒	口縁～ 体部片	墨書「□」 体部外面
12	土師器 高台付皿	—×66×20 ロクロ成形 内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭 底部は回転糸切り後付高台	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 粗粒	体部下 半～底 部片	墨書「□」か 体部外面
13	土師器 環	—×—×— ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭	灰褐色 良	長石類ス コリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁部外面
14	土師器 環	—×—×— ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキ底部回転ヘラ切り	淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	体部下 半～ 底部片	墨書「□」 見込面中央
15	土師器 環	(176)×—×— ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキ吸 炭の痕跡は消えている 器内面に粘土貼り付けて補修の跡	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁～ 体部の 1/5 残存	墨書「新」 体部外面中央
16	土師器 環	—×—×— ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
17	土師器 環	—×—×— ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラ切り	橙褐色 良	長石類	底部片	墨書「□」 見込面中央

18	土師器 坏	-X-X- 外面 体部下半は回転ヘラケズリ 底は不明 底部は回転ヘラ切り	内面はロクロ成形後密なヘラミガキ吸	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁- 体部片	墨書「□」か 体部外面
19	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキおそらくはこの後吸炭		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」か 口縁外面
20	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキおそらくはこの後吸炭		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
21	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	体部片	墨書「竹」 体部外面
22	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
23	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロナデ		淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁- 体部片	墨書「□」 体部外面
24	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ底部は回転ヘラ切りか		橙褐色 良	スコリア 細粒 雲母少量	底部片	墨書「□」 見込面中央
26	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロナデ		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面
27	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ		橙褐色	長石類 スコリア 細粒緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
28	土師器 皿	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキこの後に吸炭か		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面
29	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面 体部下半は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面
30	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面
31	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロナデか(器面荒れている)		暗褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
32	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なミガキこの後吸炭		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面
33	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキ		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
34	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロナデ		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面
35	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭か		橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
36	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ		淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片	墨書「□」 口縁外面

37	土製品 土製円盤	26×25×8 周縁を打ち欠いて丸く整える	茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒	充存品	須恵器焼胴部片 を素材とした 再生器具
38	石帯 端方	22×19×8 表側と凹側面は「鏡面仕上げ」表側にベルトに装着するための2個1組の穴（内部で貫通）を4ヶ所穿つ 研磨は錐で擦れ残す	黒褐色	滑石か	ほぼ 充存品	
39	縄文 深鉢	内外面 条痕（貝殻条痕ではない）施文  唇部はやや内削ぎ気味の角頂状でキザミあり	淡褐色 良	スコリア 細粒繊維	口縁片	早期後半 条痕文系土器 子母口式か
40	縄文 深鉢	内外面 貝殻条痕（擦痕状に見える） 口縁は平縁	茶褐色 普通	スコリア 細粒繊維	口縁片	早期後半 条痕文系土器 野島式
41	縄文 深鉢	外面 縦に近い斜め方向を主とする貝殻条痕 内面 ランダムな方向の貝殻条痕 表裏ともかなりくつきりした条痕	橙褐色 良	スコリア 細粒繊維	胴部片	早期後半 条痕文系土器 野島式
44	銅器 錠鐙	34×-×3 金具部分の一部	青緑色		全体の一部	緑錆に覆われている
45	須恵器 要	-×-×- タタキ整形 口縁部内外面ナテ胴部外面ナテ胴部外面は平行タタキ目 内面はあて具痕	灰色 良	白色粒 スコリア 粒	口縁～ 胴中位 の1/6	瓶の可能性 がある
46	土師器 転用砥石	56×35×9 破片の凹側面及び裏面を使用面としている	灰色 良	白色粒	充存品	須恵器薬頭部片 を素材とした 再生器具
47	土師器 壺	-×-×-  口縁部はつまみ上げる 口縁は内外面 外面頸部から胴部上半はヘラケズリのちヘラナデ 内面 ヘラナデ	橙褐色 普通	長石類雲 母花崗岩 細粒	口縁～ 胴上部 片	常輪型壺
48	土師器 壺	-×-×-  口縁部はつまみ上げる 口縁は内外面ナテ 外面胴上部はヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ヘラナデ	淡褐色 良	長石類 雲母花崗 岩細粒	口縁～ 胴上部 片	常輪型壺
49	土師器 小形壺	(138)×-×40 口縁は外反して立ち上がる 口縁は内外面ナテ胴部外面縦ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	茶褐色 良 堅微	長石類 スコリア 微細粒	口縁～ 胴部片	緻密な胎土
50	土師器 小形壺	(120)×-×44 口縁外反気味に立ち上がり胴部は球胴状に膨らむ  口縁内外面ナテ 外面 胴上部縦ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	茶褐色 良	長石類 スコリア 微細粒	口縁～ 胴部片	緻密な胎土 器内外面 剥落目立つ
51	鉄器 紡錘車	39.5×5.5×5 重量24.9g				
52	鉄器 鉄線	77.5×23×7 -×3.5×1.5 -×7×2.5 -×4×4 重量13.9g				
53	鉄器 釘?	40.5×6×5 重量4.7g				

## A216

検出地区 L5-69・79gにて検出した。

遺 構 長軸3.64m×短軸3.48m×深さ0.63～0.66m、主軸方位はN-20°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。

床は少量黒色土が混入するが、ハードロームの地床で、全体的に硬い床である。竈前から出入口にかけて硬化面を認めた。柱穴は検出されず、壁柱穴が2基確認された。出入口に伴うピットも検出されなかった。周溝は竈袖下まで全周する。竈は北西壁中央に設けられ、白色粘土を主体として袖を築いてい



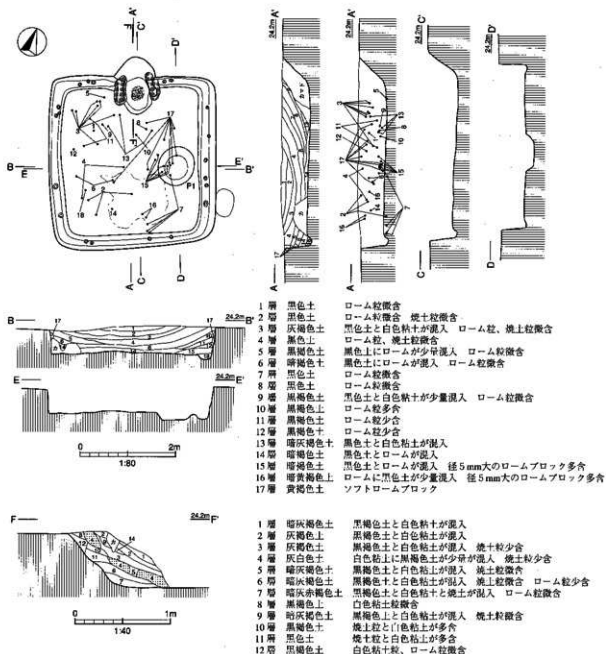


図203 A216

る。内壁は赤化していた。極めて浅く凹み状の竈ピットには赤化が不明瞭な火床が検出された。覆土は4層以下の自然堆積層と、1から3層の人為的投入土に分かれる。3層は白色粘土が多く含まれた層である。

遺物 600点余の出土をみた。土師器片を主体として、小破片が多く出土している。壁際に少なく、住居跡中央から出とするものが多かった。しかし図示できるものは須恵器が多かった。出土遺物が多い割に、墨書土器片は確認できなかった。

所見 住居跡の規模の割には、出土点数が多い遺構である。しかし点数の割には復元実測できるような遺物も少なく、周辺の廃棄場所とされたような住居跡である。また、自然堆積による埋没を待ちながらも、浅い凹みとなった状況において粘土の投棄と人為投入土による平坦化が意識されるように行われていた遺構である。

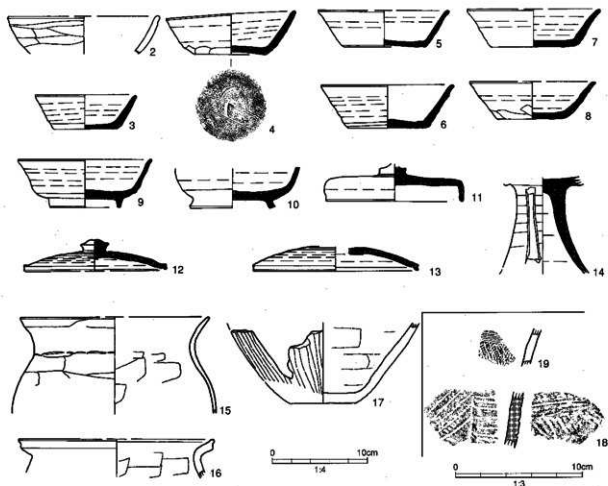


図204 A216 (2)

表46 A216遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
2	十部器 坏	(160)×—×(40) 外面 ロクろ調整後体部ヘラケズリ 内面 ロクろ調整後やや緩なヘラミガキ	淡褐色 良	細砂目だ ち赤色ス コリア微 細粒含む	1/3	外面部分的 に黒塵有り
3	須恵器 坏	106×68×36 外面 ロクろ成形後体部下端手持ちヘラケズリ 底部切り離し後手持ち ヘラケズリ 内面 ロクろ成形のみ	灰色 良	雲母 花崗岩 細粒含む	略定形	常陸産
4	須恵器 坏	137×77×43 全体 ロクろ成形 外面 ロクろ成形後体部下端手持ちヘラケズリ 底部切り離し後手持ち ヘラケズリ	灰色 良	黒色粒子 含む	略定形	筑前 底部外面
5	須恵器 坏	(138)×88×39 全体 ロクろ成形 外面 ロクろ成形後体部下端に僅かに手持ちヘラケズリ 底部中央静止 ヘラ切り	灰褐色 良	雲母 花崗岩 細粒含む	略定形	破損面は 摩滅が目立つ 常陸産
6	須恵器 坏	(139)×85×46 全体 ロクろ成形 外面 ロクろ成形後体部下端手持ちヘラケズリ 底部全体静止ヘラ切り 内面 ロクロナデ	灰色 良	雲母微細 粒花崗岩 微細粒含 む	口縁 1/3 体部 -底部残存	常陸産
7	須恵器 坏	(140)×90×40 全体 ロクろ成形 外面 ロクろ成形後体部下端は回転ヘラケズリか底部切り離し後手持ち ヘラケズリ 内面 全体ロクロナデ	灰褐色 良	細砂黒色 微細粒 含む	1/2 崩	ある種の転用 (磁石や硯等) により底部外面 は磨かれている

8	須恵器 坏	(132)×74×40 全体 ロクロ成形 外面 体部ト端手持ちヘラケズリ 底部全体静止ヘラ切り	灰色 良	雲母花崗 岩微細粒 目立つ	1/2 弱	外面体部下端から 底部にかけて磨かれ 目立つ
9	須恵器 高台付坏	141×台部(74)×51 全体 ロクロ成形後回転ヘラ切りによる切り難しを行い付高台をする 外面 底部全体回転ヘラ切り後付高台 内面 磨れ跡目立つ転用説か？ただし顕者ではない	灰色 良	雲母花崗 岩微細粒 目立つ	2/3	常産 地帯底部外面
10	須恵器 高台付坏	一×89×残存42 全体 ロクロ成形後回転ヘラ切りによる底部切り難しを行い付高台 外面 坏部の体部ト端は回転ヘラケズリ	灰色 良	雲母 花崗岩 細粒含む	坏部下 平～高 台部の 残存	口縁端部を意図 的に打ち欠いた 可能性あり？
11	須恵器 蓋	143×一×(40) 全体 ロクロ成形天蓋部を切り難し宝珠部を取り付けるツーピースジョ イント式 外面 ロクロ成形天蓋部は回転ヘラケズリ	灰色 良	雲母細粒 黒色粒子 含む	宝珠部 ～天蓋 部の一 部欠く	短頸蓋の 蓋と思われる 常産
12	須恵器 蓋	(150)×一×34 全体 ロクロ成形後切り難し宝珠部を取り付ける ツーピースジョイン ト式 外面 ロクロ成形天蓋部は回転ヘラケズリ	濃灰色 良	雲母花崗 岩粒かな り目立つ	宝珠部 頂部 口縁部 欠損	外面体部下端から 底部と内面に かけて磨かれが 目立つ
13	須恵器 蓋	172×一×(25) 外面 ロクロ成形天蓋部は回転ヘラケズリ(宝珠部欠損) ツーピースジョ イント式 内面 成形痕のみ	濃灰色 良	白色粒子 黒色粒子 含む	宝珠部 ～天蓋 部の一 部欠く	内面は完全に 還元焼成には なっていない
14	須恵器 高坏	一×一×(102) 全体 ロクロ成形 外面 ロクロ成形後脚部に刀で長台形の透孔を3ヶ所穿つ 内面 脚部内面にヘラによる「線状の傷」が認められる	濃灰色 良	雲母細粒 目立つ	脚部の 残存	
15	土師器 壺	(200)×一×(102) 全体 極めて器壁が薄い 口縁頸部輪積痕あり 外面 口縁頸部ナド胴部上半ヘラケズリ(横方向) 内面 口縁頸部ナド胴部上半ヘラケズリ後ヘラミガキ	橙褐色 普	砂赤色 スコリア 微粒含む	口縁～ 胴部 中位の 1/3	武蔵型壺
16	土師器 壺	(206)×一×(36) 口唇端はつまみ出される(常総型) 外面 口縁ナド頸部ヘラケズリ後ヘラナド 内面 口縁ナド頸部ヘラナド	淡褐色 普	雲母 花崗岩細 粒目立つ	口縁～ 胴部片	常総型壺
17	土師器 壺	一×70×(86) 外面 胴部上半～下端ヘラミガキ 底部全体木炭痕残る 内面 胴部ヘラナド 底部全体静止ヘラナド	淡褐色 普	雲母 花崗岩細 粒目立つ	口縁～ 胴部片	常総型壺
18	縄文 深鉢	外面 微隆帯を貼付して意匠を描き区画内に沈線を充填する 内面 貝殻乗痕	淡褐色 普	砂目立ち 繊維を 少量含む	胴部片	
19	弥生 甕	外面 附加糸文を施文後擦描文を施す 内面 部分的に研磨	外壁褐色 内淡褐色	スコリア 長石細粒 含む	胴部片	

A217

検出地区 L5-89gにて検出した。

遺 構 長軸2.84m×短軸2.80m×深さ0.44～0.48m、主軸方位はN-79°-Eを測る。平面形は隅丸方形である。

床はハードロームの地床であり、竈前から出入口にかけて硬化面を認める。また、住居南側の床に粘土が散布していた。柱穴は検出避けず、壁柱穴が16基確認された。床面上のピットは出入口に伴うP2と、用途不明のP1だけであった。周溝は住居跡の壁際を全周しており、竈下まで巡っていた。竈は東壁中央に設けられ、床面付近までの低さの袖の下部のみ遺存していた。住居廃絶時に壊されたものと捉えられた。袖の下部は白色粘土のみを使用して築かれていた。竈ピットは認められず床面と同じ高さの竈内に、僅かに火熱痕を認めたため火床と判断した。火床範囲は小さく、使用期間の短さを感じさせていた。

覆土は5層以下は黒褐色土を主体とした自然堆積であるが、覆土上層は4層のような粘土の投入層から人為堆積と捉えた。

遺 物 140点余の出土であったが、復元できるものは少なく、図示できる遺物は少なかった土師

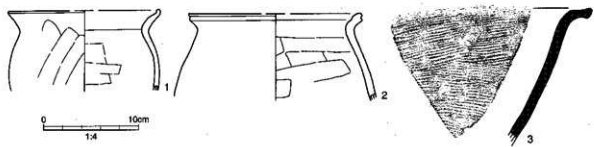
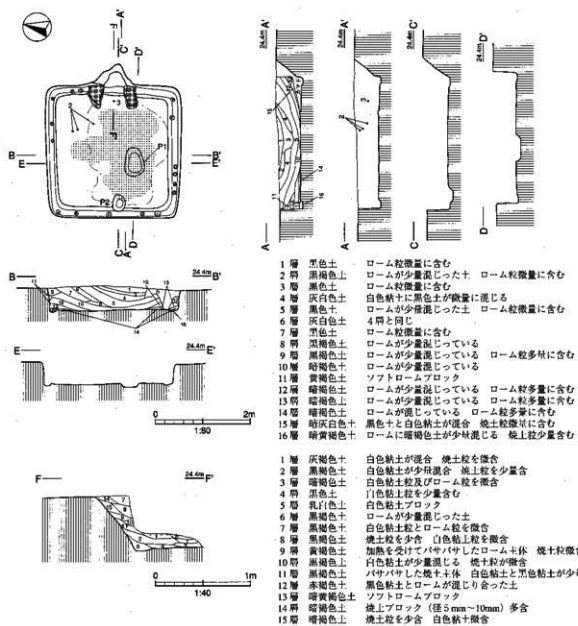


図205 A217

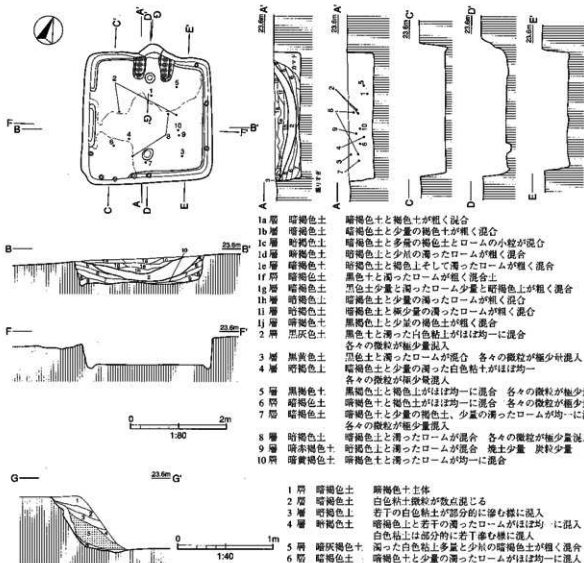
器小片が主体であり、出土は覆土上・中層が多かった。下層や床面からは遺物の出土は、殆どみられなかった。投入された4層の粘土包含層からは、3片のみの出土であった。

所見 2度にわたって粘土の投入が行われていた。4・6層は粘土の投入が行われているにも係わらず、層に硬度を持たず、投げ込んだだけの状態であった。遺物の状況及び粘土の投入から、住居廃絶後、廃棄場所と選択されたような遺構であった。

表47 A217遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法 量 口徑×底徑×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	上師器 壺	—X—X— 外反して立ち上がる口縁 端部は短くつまみ上げる 変受け状になる 外面 口縁頸部ヨコナデ割部ヘラズリ(縦位)後ヘラナデ 内面 口縁ヨコナデ 上半ヘラナデ	外淡褐色 内暗褐色 青	砂目立ち ざらついで いる	口縁— 頸部片	
2	土師器 壺	—X—X— 口縁部は短く外反して立ち上がり端部をつまみ上げる 外面 口縁頸部ヨコナデ 頸部上半ヘラズリ後ヘラナデ 内面 口縁頸部ヨコナデ胴部上半	外淡褐色 内暗褐色 青	雲母長石 花崗岩粒 目立つ	口縁— 頸部片	常総型差
3	須恵器 壺	—X—X— タタキ整形後ロクロないし回転台で仕上げ 外面 口縁頸部ナデ 胴部上半タタキ整形 内面 口縁頸部ナデ 胴部タタキ整形後ヘラナデ(斜方向)	灰(銀ネズ ミ)色 良	雲母長石 梨花崗岩 微細粒	口縁— 体部片	口縁部穿孔あり 常陸産



- 1a層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が粗く混合  
1b層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が粗く混合  
1c層 暗褐色土 暗褐色土と多量の褐色土とロームの粒が混合  
1d層 暗褐色土 暗褐色土と少川の濡ったロームが粗く混合  
1e層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土そして濡ったロームが粗く混合  
1f層 暗褐色土 黒色土と濡ったロームが粗く混合  
1g層 暗褐色土 黒色土と少量の濡ったローム少量と暗褐色土が粗く混合  
1h層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったロームが粗く混合  
1j層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったロームが粗く混合  
1k層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が粗く混合  
2層 黒灰色土 黒色土と濡った白色粘土がほぼ均一に混合  
3層 黒黄色土 各々の微粒が極少量混入  
4層 暗褐色土 頂色土と濡ったロームが混合 各々の微粒が極少量混入  
暗褐色土と少量の濡った白色粘土がほぼ均一  
各々の微粒が極少量混入  
5層 黒褐色土 黒褐色土と褐色土がほぼ均一に混合 各々の微粒が極少量混入  
6層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土がほぼ均一に混合 各々の微粒が極少量混入  
7層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土、少量の濡ったロームが均一に混合  
各々の微粒が極少量混入  
8層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったロームが混合 各々の微粒が極少量混入  
9層 暗赤褐色土 暗褐色土と濡ったロームが混合 焼土少量 炭粒少量  
10層 暗赤褐色土 暗褐色土と濡ったロームが均一に混合

図206 A218

A218

検出地区 M5-51gにて検出した。

遺 構 長軸2.72m×短軸2.70m×深さ0.50~0.52m、主軸方位はN-19°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。床は住居跡北側から南西コーナー付近はハードルームの地床であり、中央はクラック帯を床としていたが、全体として硬化は弱いものであった。ピットは出入口のみの検出であった。壁柱穴は8基確認された。周溝は、西壁と南西コーナーで途切れていた。竈は北壁中央に設けられ、白色粘土を主

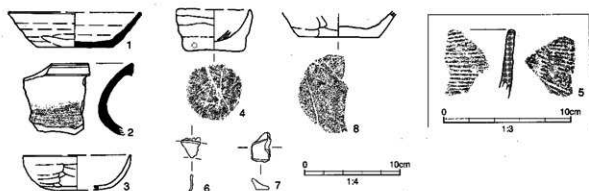


図207 A218 (2)

表48 A218遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 壺	-X-X- ロクロ成形 口径と底径の比率が1.5位 外面 胴部下端手持ちヘラケズリ 底部切り離し後底縁は手持ちヘラケズリ	青灰色 良	雲母微細 粒花崗岩 細粒 目立つ	口縁～ 体部片	底部外面に磨れ 常陸産
2	須恵器 壺	-X-X- 菱形に近い小形の菱タキ整形後ロクロ成形ないし回転台を用いて整える 外面 口縁頸部回転台なしロクロによるナゲ胴部上半 内面 口縁頸部回転台なしロクロによるナゲ胴部上半あて具痕あり	灰色 普	雲母 花崗岩粒 目立つ	口縁～ 体部片 1/3	
3	土師器 坏	-X-X- ロクロ水使用で丸底に近く口縁は内湾気味に立ち上がる 外面 口縁ヨコナデ 体部はヘラケズリ後縁線を消すように部分的なヘラミガキ 底径ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 密なヘラミガキ	橙褐色 良	細砂スコ リア細粒 含み載密	口縁～ 底部片	
4	土師器 ミニチュア 上器	-X-X- 碗形を呈する底部門板上に粘土紐を2段積んで口縁部はひねる 外面 口縁胴部全体軽くナデ 内面 ヘラケズリ後ナデ(放射状にヘラの単位残す)	淡褐色 黒斑 普	砂 スコリア 細粒	略完形	
5	縄文 深鉢	-X-X- 内外面 横方向の貝殻条痕口唇上に棒状痕によるキザミカ	橙褐色 良	砂目立つ 繊維少量	破片	
6	鉄器 刀子	(20)×19×2			刃部	
7	鉄器 不明	(31)×20×8			-	鐵か?
8	土師器 壺	-X-X- 外面 底縁ヘラケズリ 内面 底部全体ヘラナデまたはナデ	淡褐色 普	雲母花崗 岩細粒 目立つ	底部	底部木炭痕 常陸産

体として袖を築いていた。竈入り口に小ビットが認められる。しかし竈内は床と同レベルであり、そこに火熱痕を検出した。火床と思われる。覆土は住居廃絶後は自然堆積(5～10層)であったが、掘返されて粘土混合層が投棄され、更にロームと暗褐色土の混合層が埋戻されていた。

遺物 200点余の出土をみたが、大きく接合できるものは少なかった。鉄滓も数点出土している。  
所見 規模の割には、掘込みの深い堅穴住居跡であった。竈火床などの遺存から、使用期間が短かった可能性のある遺構である。廃絶後、掘り返され、人為的に埋戻されている。上谷遺跡では掘立柱建物跡が集中している地点においてその傾向が窺えるものであり、本地区では人為的な堆積が多い遺構が指摘できるものである。

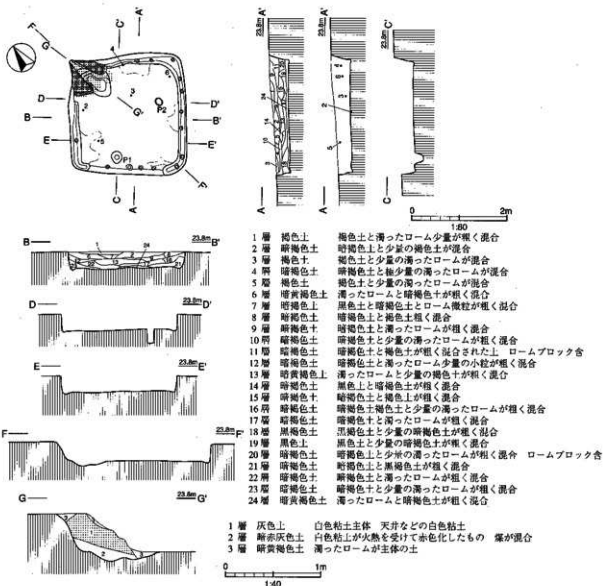


図208 A219

A219

検出地区 LS-60・70g, M5-61gに検出した。

遺構 長軸2.48m×短軸2.44m×深さ0.30~0.32m、方位はN-11°Wを測る。平面形は隅丸方形である。コーナーに竈を設ける堅穴住居跡である。

床はハードロームの地床で、床面全体は硬くなっているが、硬化面は認められなかった。また、壁際においては軟弱な床が一部に認められた。支柱穴は検出されなかったが、壁柱穴は14基確認された。P1は出入口に伴うものである。P2は用途不明であった。周溝は、南西壁のみ巡らせず、それ以外は竈袖付近まで巡っている。竈は北コーナーに設けられていた。袖は白色粘土を主体として築き、内壁は淡く赤化していた。凹凸ある坑底の浅い竈ピットが掘込まれ、坑底には火熱痕と極めて淡い赤変が認められた。これが火床となるが、火の使用は短期であったことを窺わせていた。

覆土は暗褐色土とロームが混合した投入土によって、乱雑に埋戻されて人為堆積であった。

遺物 20点余の出土であり、堅穴住居跡としては極めて少なかった。出土は覆土層が中心となり、床面からの出土は殆どなかった。土師器片が中心となるが、縄文早期・条痕文片も流込んでいた。

所見 所謂、コーナー竈をもつ堅穴住居跡である。この種の住居跡は規模が比較的小さいが、本



図209 A219 (2)

遺構もまたその例に属するものである。そして竈の使用状態から、本住居跡の使用期間は短かったのではないかと想定できるものであった。更に、自然堆積による埋没を一切待たずに人為的に埋戻している遺構であり、遺物の出土も少ないことなどから、人為的に廃絶させた遺構ではないかと想定されるものである。

表49 A219遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 1種×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 壺	-×-×- タタキ成形 外面 胴部中位平行タタキ目 内面 胴部中位あて具痕	黒褐色 青 内部は酸化 焼成	砂白色粒 子やや 目立つ	胴部 破片	または瓶か
2	縄文 深鉢	-×-×- 外面 胴部中位斜め方向主な貝殻条痕 内面 胴部中位ランダムな貝殻条痕	外橙褐色 内淡褐色 青	細砂含み 繊維含む	破片	外面は 二次焼成か
3	縄文 深鉢	-×-×- 外面 微隆起帯により区画して意匠を描く交差部分に刺突を施す 内面 横方向の貝殻条痕	淡褐色 青	細砂繊維	破片	

A222

検出地区 M5-92・M6-2gにて検出した。

遺 構 長軸3.80m×短軸3.58m×深さ0.51m、主軸方位はN-41°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。床はハードロームの地床であり、中央がやや凹む床面である。やや硬化する床の部分と、コーナーなどの軟弱部部がはっきり分かれる床面であった。主柱穴は検出されず、壁柱穴が17基確認された。竈に対向するピットは、出入口に伴うものである。周溝は断続的であった。竈は北西壁中央に設けられ、白色粘土主体で袖は築かれていた。袖の内壁は、火熱痕とともに淡く赤化していた。凹み状の竈ピット内に、火熱痕のみの火床が認められた。煙道部の上部は一段段差を有し、テラス状となっていた。覆土は、暗褐色土及び黒褐色土を互層させるように自然堆積であった。

遺 物 土師器・須恵器を主体として、130点余が出土している。しかし完形遺物はなく、小破片が多かった。鉄滓も数点出土している。また、流込みであるが、縄文早期・条痕文片も出土している。

所 見 覆土はきれいなレンズ状の自然堆積を示しており、近接する人為的に埋戻された堅穴住居跡との落差を示す遺構である。



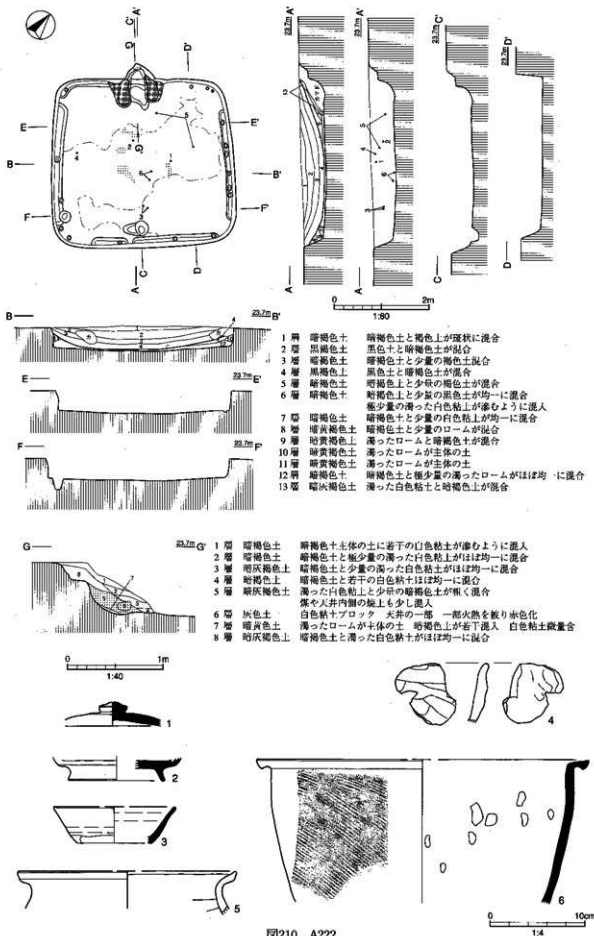


図210 A222

表50 A222遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 甕	-X-X- ロクロ成形 外面 宝珠部の頂部に磨れがある 天蓋部回転ヘラケズリ 内面 「磨れ」が顕著	灰色 青褐色 尖焼成	雲母長石 類花崗岩 の細粒	天蓋部 及び 玉縁部	転用破石あるいは 転用破として の使用の可能性 がある
2	須恵器 高台付杯	-X-X- ロクロ成形 回転ヘラケズリ 外面 胴部下端回転ヘラケズリ 底部全面が回転ヘラケズリとなり切り 離し不明 高台部ナデ	灰色 良 還元尖焼 成による	砂黒色 粒子	杯部 底部～ 高台部 1/5	
3	須恵器 杯	-X-X- 口径と直径の比は1.5:1 ロクロ成形 外面 胴部下端手持ちヘラケズリ底面切り離しは不明底縁ヘラケズリ	灰色 良	細砂長石 類細粒 を含む	口縁～ 体部 1/4	
4	土師器 鉢	-X-X- 外面 口縁ナデ ヘラケズリ 内面 ナデヘラケズリ後ヘラナデ	暗褐色 青	細砂赤色 スコリア 細粒 口立つ	口縁～ 胴部片	前代(鬼高式) 的なものに近い
5	土師器 甕	-X-X- 口縁つまみ上げ外面に凹面を形成し直立 外面 ナデヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ナデヘラナデ	淡褐色 青	長石類 花崗岩 粒目立つ 雲母少	口縁～ 胴上半 部片	常盤型甕
6	須恵器 甕(瓶)	-X-X- タタキ整形後回転台に載せてなでつけている あて具痕残る 外面 口縁頸部ナデ 胴部上半位下半平行タタキ目 内面 口縁頸部ナデ 胴部上半位下半回転台を用いてナデつけ	暗灰色 青	雲母長石 類花崗岩 細粒目立 つ	口縁～ 胴部片	瓶の可能性が高い 底部が残存し ないため甕とは 断定できない

## A224

検出地区 M6-12・13gにて検出した。

遺 構 長軸3.56m×短軸2.68m×深さ0.19～0.20m、主軸方位はN-29°-Wを測る。平面形は、横幅のある隅丸方形である。床はハードロームの地床で、竈前より住居跡中央は良好な硬化面を認めた。しかし、東壁際はソフトロームの地床であった。主柱穴は検出されず、壁柱穴は12基確認された。P1は出入口に伴うもので、P2・P3は用途不明であった。周溝は竈袖下まで全周する。竈は北壁中央に設けられ、白色粘土を主体として袖を築いていたが、内壁の赤化は弱かった。竈ビット内に赤化した火床を検出しているが、袖内壁の赤化と対照的であった。煙道部は殆ど壁を掘込みず、壁を利用する感をもつ竈であった。覆土は暗褐色土と黒褐色土を主体として、自然堆積によって住居跡は埋没している。

遺 物 竈穴住居跡としては全体に少なく、土師器・須恵器を中心に50点余の出土であった。時期決定の為に、意識的に提示している。

所 見 竈主軸方向ではなく、横長が目立つ竈穴住居跡である。出土遺物から、奈良・平安時代の竈穴住居跡と捉えた。当該時代の住居跡としては、竈煙道部の壁への掘込みが浅い遺構でもある。

## A225

検出地区 M6-13・23gにて検出した。

遺 構 長軸4.36m×短軸4.28m×深さ0.16～0.20m、主軸方位はN-70°-Wを測る。平面形は、横幅のある隅丸方形である。床はハードロームの地床を基本とするが、壁際はクラック帯が床面となっている。全体的に硬化していた。主柱穴はP1～P4の4基が検出され、壁柱穴は13基が確認された。P5は出入口に伴うビットである。この他に床面上にビットが5基検出されているが、目的・用途は捉えられなかった。周溝は南コーナーにて一部途切れるだけで、竈袖下及び脇まで巡るものであった。竈は北西壁の中央に設けられ、袖は白色粘土を主体として築かれていた。袖内壁には火熱痕は確認できたが、赤化はしていなかった。また、竈ビット内では火熱痕の火床を検出したが、赤化した火床ではなかった。覆土は、黒色土・暗褐色土・黒褐色土を基本とした自然堆積であった。

遺 物 土師器・須恵器を中心に出土しているが、竈穴住居跡としてはその出土は少なく、50点余

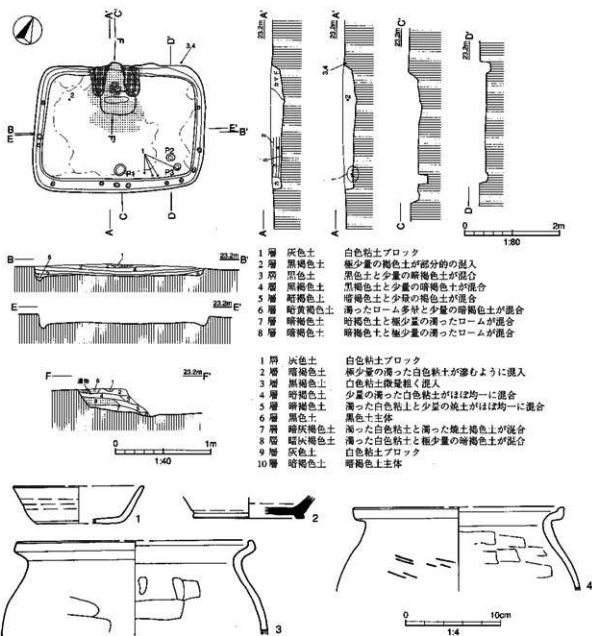


図211 A224

表51 A224遺物観察表

(単位mm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色 調成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(134)×(84)×40 やや箱形に近い形状 全体ロクロ成形 外面 下端ヘラケズリか底部切り離し後手持ちヘラケズリ	茶褐色 良 堅緻	白色粒黒 色粒赤色 スコリア 微粒緻密	1/3	器内外面に ススを被る
2	須恵器 壺	一×(114)×22 長頸壺長頸瓶?	灰色(銀 木ズミ) 良	白色粒 黒色粒	底部	意図的に損壊 底部外面に 磨れありか?
3	土師器 壺	(244)×一×(100) 口縁部短く外反して立ち上がりつまみ上げて輻端な垂受け状となる 外面 口縁部ナデヘラケズリ後ヘラナデ 内面 口縁ナデ 頸部胴部上半ヘラナデ	淡褐色 良	雲母 長石類 花崗岩細 粒目立つ	口縁 ~ 胴部	常総型壺 外面一部 スス付着
4	土師器 壺	(220)×一×(89) 口縁部は短く外反して立ち上がりつまみ上げて蓋受け状となる 最大径は胴上半 外面 口縁部ナデヘラケズリ後ヘラナデ 内面 口縁ナデ 頸部胴部上半ヘラナデ	外赤褐色 内橙褐色 曇	雲母少量 長石類花 崗岩細粒 目立つ	口縁 ~ 胴部	器外面は二次 焼成を受ける 常総型壺

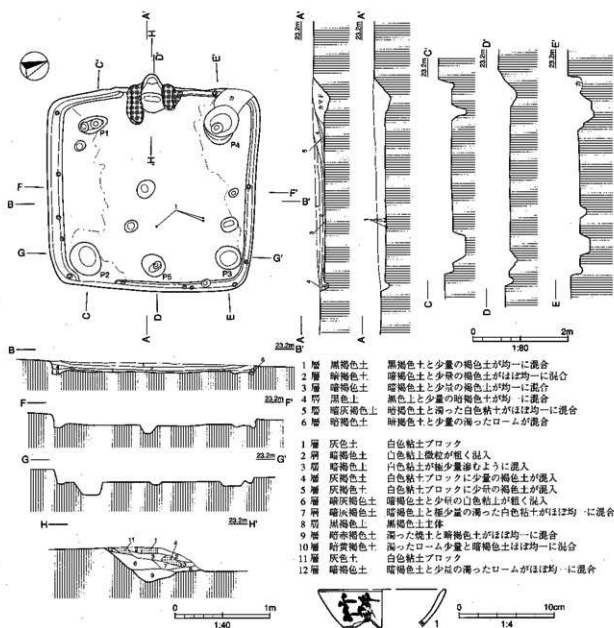


図212 A225

表52 A225

(単位mm)

No	構器形	法蓋 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 構成	胎土	遺存	備考
1	上師器 坏	(132)×××(40) ロクロ成形 1径と底径の比は2:1程 内外面 ロクロ成形(ロクロナデ)	橙褐色 良	長石類 白色粒黒 色粒微細 粒緻密	口縁 ~ 体部	墨書「竹野」 体部外面

であった。いずれも小破片であった。1は土師器坏であり、体部外面に「竹野」と横位で記された墨書土器である。

所見 「竹」「竹野」はⅢ地区から増加する「特徴的」な文字であり、本住居跡の出土は、Ⅲ地区からの集団の流れを示していると考えられる。また、本型穴住居跡は住居の規模に対して、掘込みの浅い遺構であった。

## 第2項 掘立柱建物跡

本地区の東西に広がる台地平坦面に建てられた掘立柱建物跡は密集しており、棟数の把握は困難を極めた。正確に把握できなかったと言うべきかもしれない。大きく東西2群と捉えられるが、数度の重複により、密集したことが窺えた。

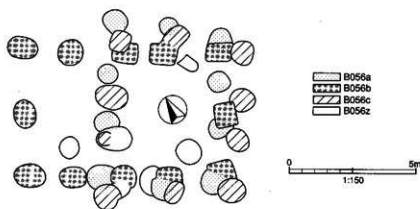


図213 B056a・b・c・z配置図

### B056

検出地区 L6-5・6・15・16にて検出した。

遺構 基本的には、3棟の重複した掘立柱建物跡である。炉穴群と重複するため、覆土に縄文時代早期・条痕文片が混入することが多い。B056の新旧関係は覆土より、B056a→b→cと捉えられた。

#### B056a

遺構 2×4間の掘立柱建物跡である。長軸7.92m×短軸4.92m、方位はN-63°-Wを測る。柱穴はP1～P12の12基であり、深さは0.38～0.60mである。柱痕はP1・P2・P4・P8・P9・P12の6基で検出された。覆土は各柱穴で異なりを見せるが、ロームを含んだ黒色土・黒褐色土を基本とし、P2・P4の柱痕覆土上層には白色粘土が充填されていた。

遺物 土師器壺・坏や須恵器坏の破片が出土している。縄文早期・条痕文片の出土が比較的多く、弥生後期壺片も出土している。また、鉄滓が掘立柱建物跡としては多く出土する。

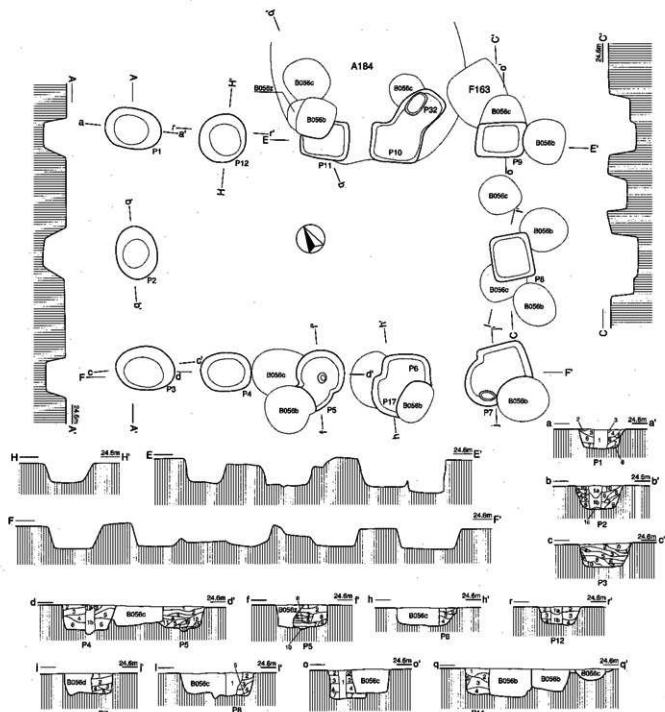
所見 白色粘土を「充填」するように包含する柱痕から、柱の立腐れが想定された。柱痕も乱れは認められず、白色粘土の充填の意味は捉えられなかった。また、各柱穴の規模は長径1.00mを超えるものが多いが、本来は0.72～0.80m程度ではなかったろうか。

#### B056b

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.48m×短軸5.24m、方位はN-29°-Eを測る。柱穴はP16・P23～P25・P27～P32の10基であり、深さは0.36～0.68mであった。柱痕は3基で検出されたが、P28は覆土の乱れから引抜かれたものと判断した。覆土はロームを包含する黒色土・黒褐色土が基本だが、P24・P25・P27・P28においては柱痕部に白色粘土が混入していた。

遺物 全体としては若干量の出土であり、その中で縄文時代早期・条痕文片が比較的多かった。弥生後期も1点出土している。また、鉄滓も掘立柱建物跡としては多い出土であった。P27覆土より鉄器の紡錘車が出土している。

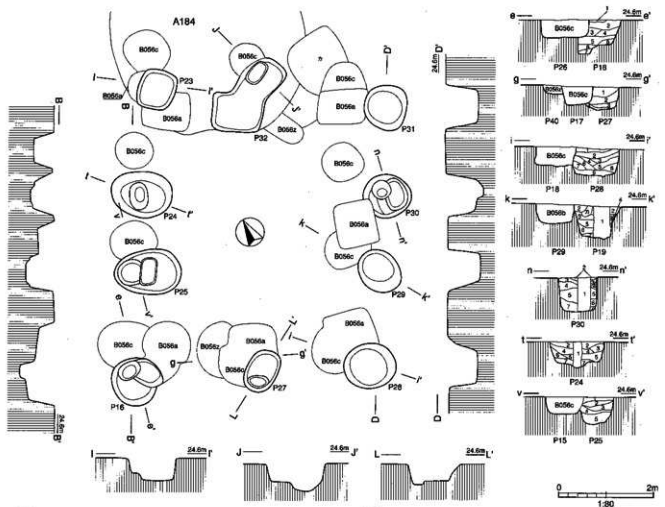
所見 柱痕への白色粘土の混入はB056aとは異なり、僅かな量が混合した状態であった。



- P1**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒微含 径5mm大のロームブロック少含
  - 3層 茶褐色土 ローム粒少含
  - 4層 暗黄褐色土 黒褐色土とロームが粗く混合
  - 5層 暗褐色土 ローム粒少含
  - 6層 黒色土 ローム粒少含 径5~20mm大のロームブロック少含
  - 7層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 8層 黒色土 ローム粒微含
- P2**
- 1a層 灰白色土 ローム粒微含
  - 1b層 黒色土 ローム粒微含 白色粘土粒多含
  - 1c層 黒色土 柱状
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 5層 黒色土 ローム粒微含
  - 6層 黒色土 ローム粒多含 白色粘土粒少含
  - 7層 黒色土 ローム粒少含
  - 8層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 9層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 10層 黒色土 ローム粒少含

- P3**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒少含
  - 5層 黒褐色土 焼土粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 6層 黄褐色土 ソフトローム 黒褐色土少量混入
  - 7層 暗黄褐色土 黒褐色土とソフトロームが粗く混合
  - 8層 黒色土 ローム粒目含
  - 9層 黄褐色土 ソフトロームブロック
  - 10層 暗黄褐色土 黒褐色土とソフトロームが粗く混合
- P4**
- 1a層 灰褐色土 白色粘土土体に黒色土少量混入
  - 1b層 暗灰褐色土 黒色土に白色粘土が少量混入 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 褐色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含

図214 B056a



- P16**
- |    |      |                               |
|----|------|-------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微含                        |
| 2層 | 褐色土  | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含        |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 白色粘土少含                 |
| 4層 | 褐色土  | ローム粒多含 白色粘土少含                 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含 白色粘土微含 |
| 6層 | 褐色土  | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含        |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含        |

- P24**
- |    |      |                               |
|----|------|-------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含 焼土粒微含            |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含                  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 白色粘土粒多含                |
| 4層 | 灰褐色土 | 白色粘土に黒褐色土が少量混入 ローム粒少含 白色粘土粒多含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒多含                  |
| 6層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含                  |
| 7層 | 灰褐色土 | 白色粘土に黒褐色土が少量混入 ローム粒 白色粘土粒少含   |

- P25**
- |    |       |                                       |
|----|-------|---------------------------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土が少量混入 ローム粒 白色粘土粒少含                |
| 2層 | 暗褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含                          |
| 3層 | 暗灰褐色土 | ローム粒、白色粘土粒多含                          |
| 4層 | 灰褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含                          |
| 5層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土に少量混入 ローム粒多含径10mm大のロームブロック多含 |

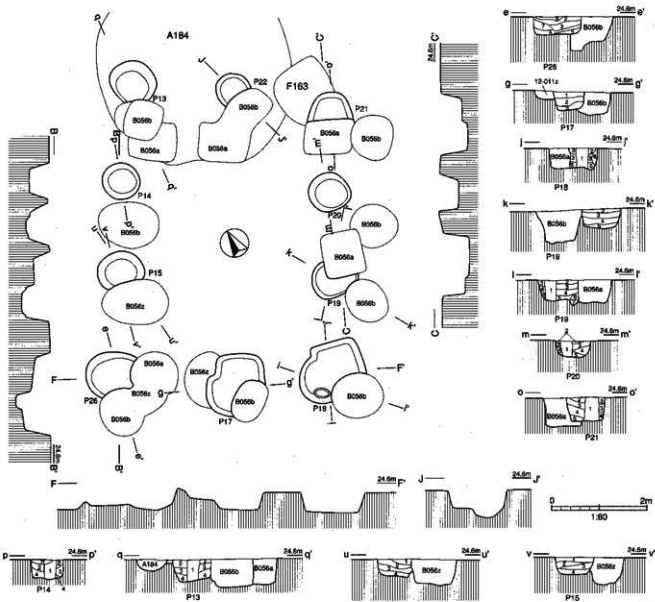
- P27**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 灰褐色土 | 白色粘土主体に黒褐色土が少量混入 ローム粒少含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒多含            |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒少含            |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 白色粘土粒少含          |

- P28**
- |    |       |                                           |
|----|-------|-------------------------------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に少量の白色粘土が混入 ローム粒少含 白色粘土粒多含            |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少含                                    |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に少量の白色粘土が混入 ローム粒少含 径10mm大のロームブロック少含   |
| 4層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に少量の白色粘土が混入 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含    |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒少含 白色粘土粒微含                            |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含 径10mm大のロームブロック少含             |
| 7層 | 灰褐色土  | 白色粘土に黒褐色土が少量混入 ローム粒少含                     |
| 8層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土が混入 ローム粒多含                       |
| 9層 | 黒色土   | 径5~10mm大のロームブロック多含 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含 |

- P29**
- |    |      |                    |
|----|------|--------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含             |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒微含       |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含 炭化粒微含 |
| 4層 | 黄褐色土 | ソフトロームブロック         |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含             |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含       |
| 7層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体           |

- P30**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微含                  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                  |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒多含 径10mm大のロームブロック多含 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒多含            |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                  |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含  |

図215 B056b



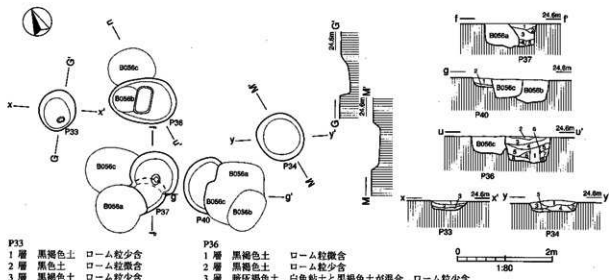
- P13**
- |    |       |              |              |
|----|-------|--------------|--------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒微含 |              |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土が混入 | ローム粒、白色粘土粒少含 |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含 |              |
| 4層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土が混入 | ローム粒、白色粘土粒少含 |
- P14**
- |    |      |                        |  |
|----|------|------------------------|--|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微含                 |  |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含                 |  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含           |  |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含 |  |
- P15**
- |    |      |                  |  |
|----|------|------------------|--|
| 1層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含     |  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒、焼土粒微含 |  |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒少含           |  |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含     |  |
- P17**
- |    |       |                |                |
|----|-------|----------------|----------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土少量が混合 | ローム粒少含 白色粘土粒多含 |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含   |                |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土少量が混合 | ローム粒、白色粘土粒少含   |
- P18**
- |    |       |              |                |
|----|-------|--------------|----------------|
| 1層 | 黒褐色土  | 白色粘土粒微含      |                |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土が混合 | 白色粘土粒多含 ローム粒少含 |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含 |                |
| 4層 | 黒褐色土  | ローム粒微含       |                |
| 5層 | 黒色土   | ローム粒、白色粘土粒少含 |                |
| 6層 | 黄褐色土  | ソフトロームブロック   |                |

- P19**
- |    |      |                                |  |
|----|------|--------------------------------|--|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                         |  |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒少含                         |  |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含                   |  |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒少含 径5mm大のロームブロック多含 白色粘土粒微含 |  |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム粒多含                         |  |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒多含                         |  |
| 7層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体                       |  |
- P20**
- |    |       |                |  |
|----|-------|----------------|--|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒微含   |  |
| 2層 | 暗褐色土  | ローム粒、白色粘土粒微含   |  |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒微含 白色粘土粒少含 |  |
| 4層 | 暗黄褐色土 | 白色粘土とロームが粗く混合  |  |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土粒少含   |  |
- P21**
- |    |      |              |  |
|----|------|--------------|--|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微含       |  |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒微含 |  |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒微含 |  |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒少含 |  |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒多含 |  |
- P22**
- |    |      |                        |  |
|----|------|------------------------|--|
| 1層 | 褐色土  | ローム粒少含                 |  |
| 2層 | 褐色土  | ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含 |  |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含 |  |
| 4層 | 褐色土  | ローム粒少含                 |  |
| 5層 | 褐色土  | ローム粒少含                 |  |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含           |  |
| 7層 | 暗褐色土 | ローム粒多含                 |  |

図216 B056c



<b>P5</b>	1層 褐色土	ローム粒少含		<b>P8</b>	1層 黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒少含
2層 黒褐色土	ローム粒少含		2層 黒色土	ローム粒少含			
3層 褐色土	ローム粒少含		3層 黒色土	ローム粒、白色粘土粒少含			
4層 黒褐色土	ローム粒少含		4層 暗褐色土	ローム粒少含	径5mm大のロームブロック少含		
5層 褐色土	ローム粒多含	径5mm大のロームブロック少含	5層 黒褐色土	ローム粒少含			
6層 黒褐色土	ローム粒少含						
7層 褐色土	径5mm大のロームブロック少含	白色粘土粒、ローム粒少含		<b>P9</b>	1層 黒色土	ローム粒微含	
8層 黒色土	ローム粒少含		2層 黒褐色土	ローム粒少含	焼土粒微含		
11層 黒色土	ローム微含		3層 黒色土	ローム粒微含			
12層 黒色土	ローム粒、白色粘土粒少含	径5mm大のロームブロック少含	7層 黒色土	ローム粒微含			
13層 黒色土	ローム粒少含						
<b>P6</b>	1層 黒色土	ローム粒少含		<b>P11</b>	1層 黒色土	ローム粒少含	
2層 暗褐色土	ローム粒少含		2層 黒色土	ローム粒少含	径5mm大のロームブロック少含		
3層 黒褐色土	ローム粒少含		3層 黒色土	ローム粒多含	径5~20mm大のロームブロック多含		
4層 黒褐色土	ローム粒少含		4層 暗褐色土	ローム粒多含			
			5層 暗褐色土	ローム粒多含			
<b>P7</b>	1層 黒色土	白色粘土粒微含		<b>P12</b>	1a層 灰褐色土	白色粘土主体	黒色土が少量混入
2層 黒色土	白色粘土粒、ローム粒少含		1b層 黒色土	白色粘土粒微含			
3層 暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	白色粘土粒微含	2層 暗褐色土	ローム粒少含			
4層 黒褐色土	ローム粒微含		3層 黒色土	ローム粒微含			
5層 黒色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含	4層 黒色土	白色粘土とロームが粗く混合			



<b>P33</b>	1層 黒褐色土	ローム粒少含		<b>P36</b>	1層 黒褐色土	ローム粒微含	
2層 黒色土	ローム粒微含		2層 黒褐色土	ローム粒少含			
3層 黒褐色土	ローム粒少含		3層 暗褐色土	白色粘土と黒褐色土が混合	ローム粒少含		
				径5mm大のロームブロック少含			
<b>P34</b>	1層 黒色土	ローム粒少含		4層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含		
2層 黒色土	ローム粒多含		5層 暗褐色土	黒褐色土に白色粘土が混入	ローム粒、白色粘土粒多含		
3層 黒褐色土	ローム粒少含			径5~10mm大のロームブロック少含			
4層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含		6層 黒褐色土	ローム粒少含			
5層 黒色土	ローム粒少含		7層 黒褐色土	ローム粒微含			
			8層 暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	径30mm大のロームブロック多含		
<b>P37</b>	1層 暗灰褐色土	黒褐色土に少量の白色粘土が混合	ローム粒少含	白色粘土粒多含			
2層 暗灰褐色土	1層と同じだが白色粘土微含						
3層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含	径5mm大のロームブロック少含					
4層 暗灰褐色土	黒褐色土とソフトロームが粗く混合						
5層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒微含						
<b>P40</b>	1層 暗褐色土	ローム粒微含					
2層 暗褐色土	ローム粒少含						

図217 B056c

### B056c

**遺構** 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.32m×短軸4.52m、方位はN-24°Eを測る。本遺構の柱穴はP13～P15・P17～P22・P26の10基であり、柱の深さは0.38～0.48mと均一化し、0.40m台が8基を占めている。P18～P21において柱痕を検出した。P17・P18・P20においては柱痕部に白色粘土の混入が認められた。

**遺物** 出土遺物は少ないが、P21覆土から門鉈の差込金具とみられる鉄器が出土している。

**所見** B056bと同じ2×3間の遺構であるが、規模が大きい掘立柱建物跡である。

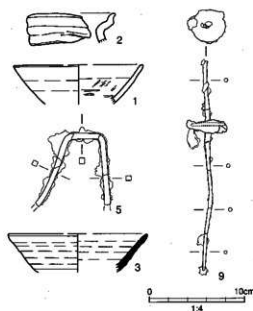


図218 B056

B056z

遺構 B056a～c柱穴のうち、配置上いずれにも属さないものを一括した。P33・P34・P37・P40の5基である。P36においては柱痕を検出した。

遺物 P34の覆土からは、3の須恵器坏が出土している。

所見 P36のように柱痕が検出されてもおり、本来は他の掘立柱建物跡に属しているかとも思われる遺構である。

表53 B056遺物観察表

(単位mm)

No	類別形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高 等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(135)×-×(42) ロクロ成形 内面は一部ヘラミガキ		褐色 普	長石類 砂	口縁～ 体部	
2	土師器 要	-×-×- 口縁は外反し、上端はつまみ上げる。外面は凹線状の調整		褐色 普	雲母 花崗岩粒	口縁片	常総型要
3	須恵器 坏	(147)×-×(42) ロクロ成形 体部下端はヘラケズリ		青灰 普	雲母 花崗岩粒	口縁片	
4	鉄器 紡錘車	26×3 37×3				略定形	
5	鉄器 不明	75×45×5				不明	カンヌキ鏡?

B057

検出地区 L6-4・5・14・15gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡と捉えたが、変則的な遺構である。長軸5.77m×短軸1.59m、方位はN-50°Eを測る。短軸側の北東側柱列は間に1本の柱穴が入り2間となるが、南西側柱列は1間となっている。9基の柱穴で構成される遺構である。柱痕は5基検出し、P7は坑底から埋戻して覆土中に柱をおいていた。覆土は各柱穴で異なるが、基本的にはロームを含んだ黒色土、黒褐色土で埋められていた。

遺物 土師器・須恵器片や縄文時代早期・条痕文が若干出土している。

所見 調査当初は、南半の1間四方と北半の1×2間とを別個に捉えた。調査を進める過程において統合した掘立柱建物跡である。P2～P3列、P3～P6列を直線とすると、北東側柱列のP6～P8は斜めとなり過ぎている。なお、P1・P2・P9は、縄文時代早期・条痕文期の炉穴や土坑と重複している。

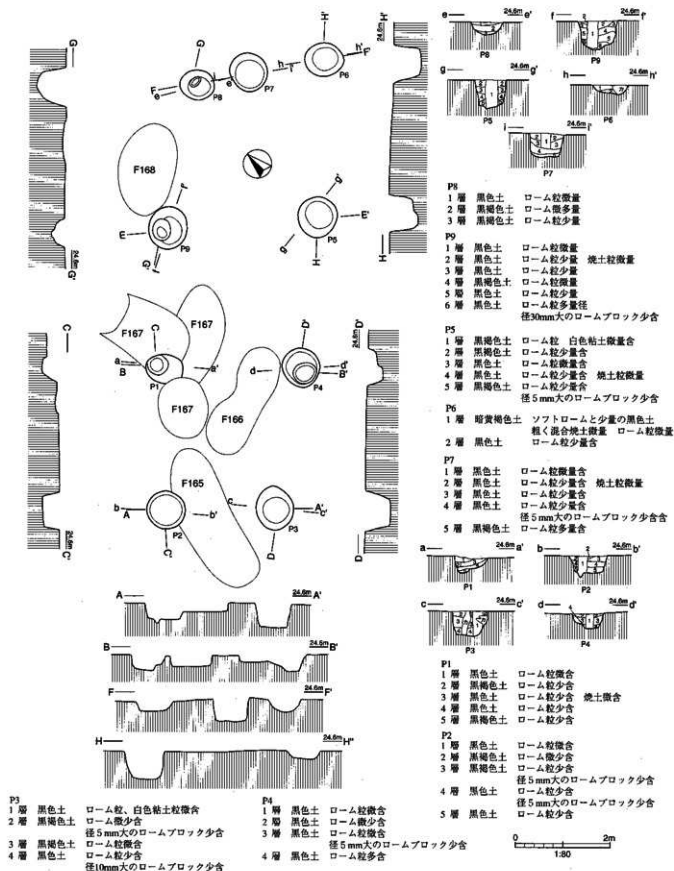
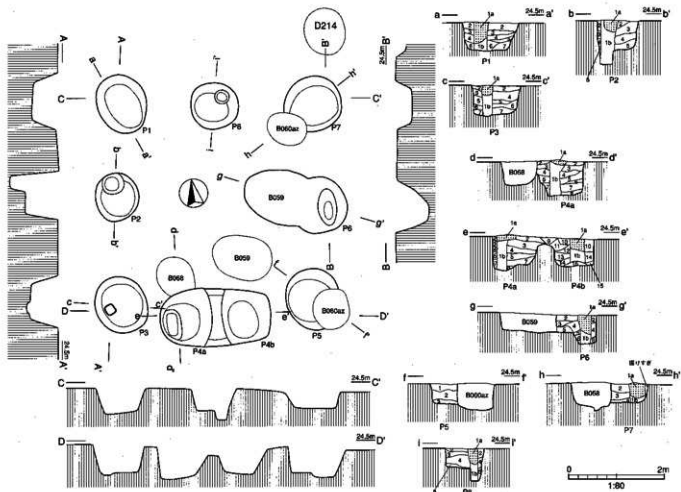


図219 B057



**P1**  
 1a層 灰褐色土 白色粘土と黒褐色土が混合 焼土粒微含  
 1b層 暗灰褐色土 黒褐色土に白色粘土が少量混入 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒褐色土 径5~10mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 4層 黒色土 径5mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 5層 黒褐色土 径10mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 6層 黒色土 径5mm大のロームブロック多含 白色粘土、ローム粒少含  
 7層 黒褐色土 径5~30mm大のロームブロック多含 ローム粒多含

**P2**  
 1a層 灰白色土 白色粘土主体 黒褐色土が少量混入 ローム粒微含  
 1b層 暗灰褐色土 黒褐色土に白色粘土が少量混入 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 白色粘土微含 ローム粒少含  
 3層 黒色土 白色粘土微含 径5~30mm大のロームブロック少含  
 4層 黒褐色土 径5mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 5層 黒褐色土 径5~30mm大のロームブロック多含 ローム粒多含

**P3**  
 1a層 灰褐色土 白色粘土と黒褐色土が混合 ローム粒微含  
 1b層 暗灰褐色土 黒褐色土に白色粘土が少量混入 ローム粒少含  
 2層 暗黄褐色土 黒褐色土とロームが粗く混合 ローム粒少含  
 3層 黒褐色土 ソフトローム 多含  
 4層 黄褐色土 ソフトローム 黒褐色土が少量混入  
 5層 黒色土 ローム粒多含  
 6層 黒褐色土 ローム粒多含  
 7層 黒色土 径5~10mm大のロームブロック多含 ローム粒多含

**P7**  
 1a層 灰白色土 ローム粒微含  
 1b層 黒褐色土 ローム粒微含 白色粘土粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径10mm大のロームブロック多含  
 3層 黒色土 径10mm大のロームブロック多含 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 径5mm大のロームブロック少含 ローム粒多含

**P4ab**  
 1a層 灰褐色土 白色粘土主体 黒褐色土が少量混入  
 1b層 黒色土 ローム粒、焼土粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土少含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 径5~30mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 5層 黒色土 径5~10mm大のロームブロック少含 ローム粒多含  
 6層 黒褐色土 径30mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 7層 暗黄褐色土 ロームと黒褐色土が粗く混合  
 8層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒褐色土少量混入  
 9層 褐色土 ローム粒少含  
 10層 黒色土 ローム粒多含  
 11層 黒褐色土 ローム粒多含  
 12層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含  
 13層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含  
 14層 黒色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含  
 15層 褐色土 ローム粒少含  
 16層 暗褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含

**P5**  
 1層 黄褐色土 ソフトローム主体 径5~30mm大の  
 ロームブロックが混雑  
 2層 黒色土 ローム粒多含 径10mm大のロームブロック多含  
 3層 黄褐色土 ソフトローム主体に黒色土少量混入

**P6**  
 1a層 暗灰白色土 白色粘土に黒色土が混合 ローム粒少含  
 1b層 黒褐色土 白色粘土少含 ローム粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒多含  
 3層 黒色土 径5~10mm大のロームブロック少含 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 径5mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 5層 暗黄褐色土 径5~10mm大のロームブロック多含 黒褐色土が粗く混合  
 6層 黒色土 径5mm大のロームブロック多含 ローム粒多含

**P8**  
 1a層 灰褐色土 白色粘土と黒褐色土が混合 ローム粒微含  
 1b層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が少量混合 ローム粒微含  
 2層 黒色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 径5mm大のロームブロック多含 ローム粒多含  
 4層 黒色土 径5mm大のロームブロック少含 ローム粒少含  
 5層 黒色土 径5~10mm大のロームブロック多含 ローム粒多含

図220 B058

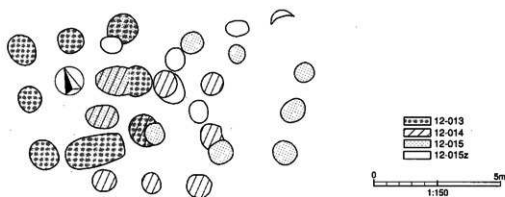


図221 B058・B059・B060az配置図

#### B058

検出地区 L6-14・15・24・25gにわたって検出した。

遺構 2×2間を基本とする掘立柱建物跡である。南側柱列は中間は2本となっている。長軸4.48m×短軸4.44m、方位はN-78°-Eを測る。8基に柱痕が検出された。柱痕覆土は充填されたように、白色粘土が主体となっていた。

遺物 土師器・須恵器及び縄文時代早期・条痕文片が出土している。また、鉄器・鎌の刃部断片が出土している。

所見 本遺跡で検出される独特な掘立柱建物跡である。掘立柱建物跡群が検出されたⅡ地区においても検出されているが、倉庫跡とするか住居跡とするか判断に迷う遺構である。

なお、本遺構と重複する遺構の新旧関係は、B058・B060a→B059→A185と捉えられた。B058・B060の新旧は不明である。

#### B059

検出地区 L6-25gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.08×短軸3.97m、方位はN-78°-Eを測る。柱痕は6基で検出され、柱痕覆土は白色粘土が混合したものであった。P5・P6はA185aと重複している。

遺物 土師器・須恵器片、縄文早期・条痕文片が若干出土している。

所見 調査時には2×2間の総柱式の建物跡と捉えていたが、重複するB058・B060との柱穴規模から東柱をB060の柱穴と捉えなおし、側柱のみの掘立柱建物跡となった

#### B060a

検出地区 L6-25gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸7.32m×短軸3.68m、方位はN-57°-Eを測る。柱穴配列が複雑だが、P1・P7・P8・P13・P14・P10・P4～P6・P11の10基と捉えた。

遺物 B060と合わせ、土師器・須恵器片と縄文早期・条痕文片が若干出土している。

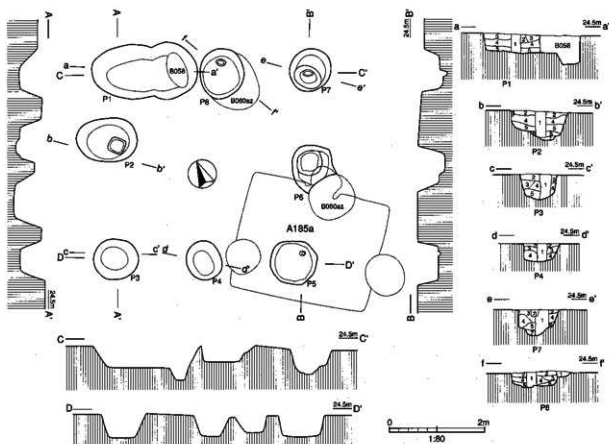
所見 長軸に対して幅がなく、細身の掘立柱建物跡である。

#### B060z

検出地区 L6-25gにて検出した。

遺構 B060aに柱穴配置上で遺漏する、P2・P3・P8・P9・P12の5基である。

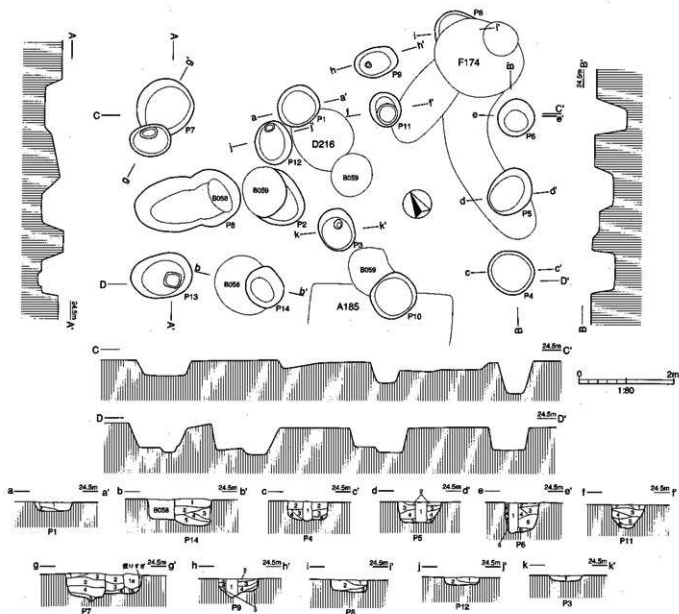
所見 P2・P3・P8・P9は直線的に並ぶが、対応して配列される柱穴が存在していなかった。柱列なのか、掘立柱建物跡か判断に迷う遺構である。



- P1**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含 白色粘土、焼土粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含 白色粘土、焼土粒微含
  - 3層 暗灰褐色土 黒褐色土に少量の白色粘土が混入  
ローム粒、焼土粒微含
  - 4層 暗灰褐色土 黒褐色土に少量の白色粘土が混入  
ローム粒少含 焼土粒微含
  - 5層 暗灰褐色土 黒褐色土に少量の白色粘土が混入 焼土粒微含
- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含 焼土粒微含  
径5mm大のロームブロック微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 3層 黄褐色土 ソフトロームブロック
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少含 白色粘土粒、焼土粒微含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土主体
- P3**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒少含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含  
径5~20mm大のロームブロック少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含

- P4**
- 1層 黒色土 ロームが少量混入 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ロームが少量混入 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 径5mm大のロームブロック少含 ローム粒少含
  - 4層 暗黄褐色土 黒色土とロームが混合
- P7**
- 1層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 灰褐色土 白色粘土に少量の黒色土混入 ローム粒少含
  - 4層 黒褐色土 白色粘土粒少含
  - 5層 灰褐色土 白色粘土に少量の黒色土混入  
径5mm大のロームブロック少含
  - 6層 黒色土 白色粘土粒微含
  - 7層 暗黄褐色土 黒色土とロームが混合
- P8**
- 1層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒微含  
焼土粒少含
  - 2層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒、焼土粒少含
  - 3層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒少含
  - 4層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 径5mm大のローム  
ブロック少含 焼土少含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含 焼土粒微含

図222 B059



- P1**  
 1層 黒色土 ローム粒多量含  
 2層 暗褐色土 ローム粒多量含 黒色土少量混

- P3**  
 1層 黒色土 ローム粒多量含

- P4**  
 1層 黒褐色土 ローム粒微含  
 2層 暗褐色土 黒褐色土とロームが粗く混合  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒色土 ローム粒少含

- P5**  
 1層 黒褐色土 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含 焼土粒微含  
 3層 黒色土 ローム粒少含  
 4層 黒色土 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム粒少含

- P6**  
 1層 黒褐色土 ローム粒微含  
 2層 黒色土 ローム粒少含 焼土粒微含  
 3層 黒色土 ローム粒微含  
 4層 暗褐色土 暗褐色土上にロームが少量混入 径10mm大のロームブロック少含  
 5層 暗褐色土 暗褐色土とロームが粗く混合 径10mm大のロームブロック多含  
 6層 暗褐色土 ローム粒多含

- P7**  
 14層 灰白色土 ローム粒微含  
 15層 黒褐色土 ローム粒微含 白色粘土粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径10mm大のロームブロック多含  
 3層 黒色土 径10mm大のロームブロック少含 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 径5mm大のロームブロック少含 ローム粒多含

- P8**  
 1層 暗褐色土 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含  
 3層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒褐色土が少量混入

- P9**  
 1層 黒色土 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒微含  
 4層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含  
 5層 黒色土 ローム粒少含

- P11**  
 1層 黒褐色土 ローム粒少量含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多量含 径5mm大のロームブロック多量含 焼土粒微量  
 3層 黒色土 ローム粒多量含  
 4層 黒色土 ローム粒多量含  
 5層 黒色土 径5mm大のロームブロック多量含  
 6層 黄褐色土 ローム粒少量含 焼土粒微含  
 7層 黄褐色土 黒色土少量混

- P12**  
 1層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒少含 色粘土多含  
 2層 暗褐色土 黒褐色土とソフトロームが混合 白色粘土少含

図223 B060az

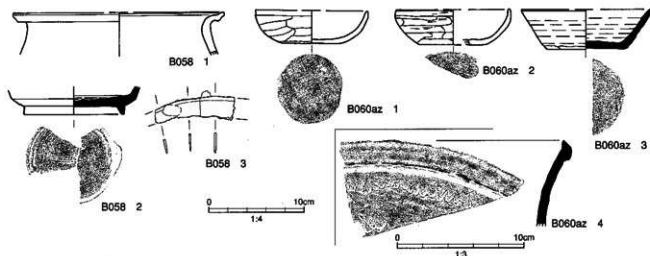


図224 B058・B060az

表54 B058遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	(222)×-(46) 外面 ナデ 上半部はケズリ後ヘラナデ 内面 ナデ 上半部ヘラナデ	橙褐色 良	細砂粒 長石類 雲母 花崗岩	口縁片	常態型甕
2	須臾器 高台付盤	-(102)×(27) ロクロ成形体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	外暗灰色 内灰色 良	細砂粒 雲母 スコリア 細粒	体部～ 底部 及び 高台部	黒書「×」
3	鉄製品 鎌	84×15×2 -×19×1.5 -×21×2 重量14.5g				

表55 B059遺物観察表

(単位mm)

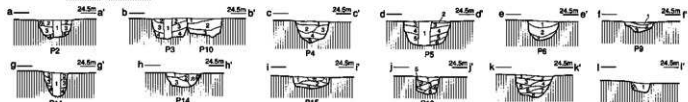
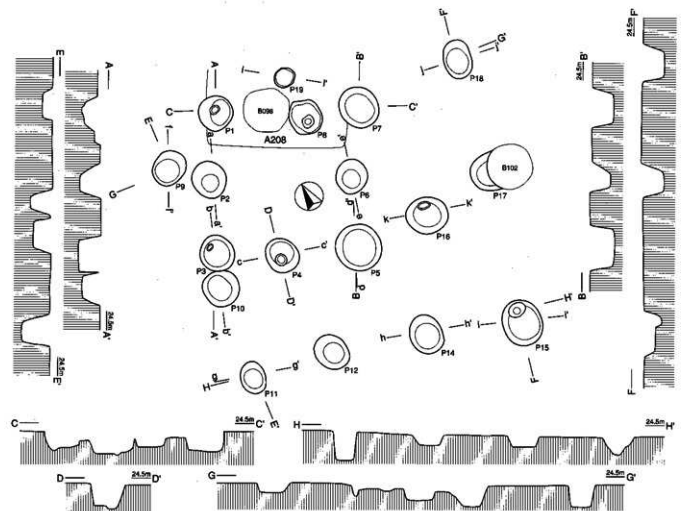
No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(140)×-(48) ロクロ成形 外面体部下端は手持ちヘラケズリ 内面ロクロ成形後ていねいなヘラミガキを行い、その後吸炭	外暗褐色 内黒色 良	細砂粒 雲母 スコリア 粗粒	口縁～ 底部片	内黒か

表56 B060az遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(130)×(65)×(38) 輪轆等で形づくりロクロないし回転台で仕上げた 外面 ナデ端部のみヘラケズリ 内面 ナデ 回転台ないしロクロを用いた	橙褐色 良	細砂粒 長石類 赤色スコ リア粒	口縁～ 底部の 半分 欠損	黒書「□」
2	土師器 坏	(122)×(74)×37 輪轆あるいはひも作りによって形作られ回転ないしロクロで仕上げた 口縁ナデ 体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 底部ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	淡褐色 良	細砂粒 長石類 赤色スコ リア粒	口縁～ 底部片	
3	須臾器 坏	(137)×(82)×42 ロクロ成形 外面 ロクロ成形で体部下端手持ちヘラケズリ底部静止未切り 内面 ロクロ ナデ 火だすきあり	灰色 善	細砂粒 雲母 長石類 花崗岩	口縁～ 底部片 1/2	常陸産
4	土師器 甕	(520)×-×- 外面 頸部瓣指状文を施文 内面 回転台を用いたナデ	灰色 良	細砂粒 長石類 赤色スコ リア粒	口縁～ 胴部片	





- P2**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒、焼土粒混合
  - 4層 暗褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含
- P3**
- 1層 黒色土 ローム粒多含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
- P4**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含 炭化粒粒混合
  - 4層 黒色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒多含
- P5**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒色土が少混入
- P6**
- 1層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
- P10**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含

- P11**
- 1層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土層含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少含
- P14**
- 1層 黒色土 ローム粒多含
  - 2層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒色土少量混入
  - 3層 黒色土 ローム粒と径10mm大のロームブロック多含
- P15**
- 1層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒褐色土が少量混入 炭化粒混合
  - 2層 暗黄褐色土 ソフトロームと黒褐色土が粗く混合 炭化粒混合
  - 3層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒褐色土が少量混入
- P16**
- 1層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 3層 暗黄褐色土 黒褐色土とロームが粗く混合
  - 4層 黒色土 ローム粒多含
  - 5層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒色土が少量混入
  - 6層 黄褐色土 ソフトローム主体
  - 7層 黒色土 ローム粒多含
  - 8層 暗黄褐色土 黒色土とロームが粗く混入
- P18**
- 1層 黒色土 ローム粒多含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒色土 ローム粒多含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 6層 黒色土 ローム粒多含
- P19**
- 1層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 2層 黄褐色土 ソフトロームブロック

図225 B06lab

B061a・b・z

検出地区 L6-25・26gにて検出した。

遺構 2棟の重複した掘立柱建物跡と、配置上いずれにも属さない柱穴である。

B061a

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.04m×短軸2.92m、方位はN-58°-Wを測る。略方形の建物跡である。属する柱穴はP1～P8の8基であると捉えた。柱痕はP1・P3・P5の3基にて検出した。柱穴の掘込みは0.32～0.48mとなっており、0.40～0.44mが5基と深さは平均化していた。覆土はロームを包含した黒色土を主体としている。

遺物 土師器小片などが少量出土している。

所見 2間四方の、しかも方形の掘立柱建物跡である。重複するB061b戸の新旧関係は、P3・P10の覆土よりB061b→b061aと捉えられた。

B061b

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.12m×短軸6.00m、方位はN-76°-Wを測る。属する柱穴はP8・P9～P12・P14・P15・P17・P18の9基と捉えた。柱痕はP11のみで捉え、立上りの柱穴は覆土堆積の乱雑さから、柱材の引抜きが行われたものと判断した。柱穴の掘込みの深さは0.24～0.48mで、四隅の柱穴のうちP11とP18は深くなっていたが、全体的に平面規模に比べ浅くなっていた。覆土はロームを包含する黒色土・黒褐色土が主体であった。

遺物 土師器小片などが少量出土している。

所見 西側柱列より、東側柱列が開く台形状の建物跡となっている。また、北側柱列はP8と捉えたためこの柱列のみ2間となった。P7・B098が兼用したと捉えると2間となるが、本建物跡に使用されたかは判然とせず、本遺跡に類例の多い片側2間の建物跡と捉えた。

B061z遺構 B061a・bのいずれにも配置上属さない、P16・P19を一括した。P16の覆土は、立上りの覆土に対して黄褐色土が中心となっていた。

所見 P16は覆土堆積の乱雑さから、柱材が引抜かれた柱穴と判断した。B061a・bのいずれにも軸線上も配置できなかった。

B062

検出地区 L6-26・27・36・37gにて検出した。

遺構 1棟とそれに配置上で属さない柱穴である。

B062a

遺構 3×3間の総柱式の掘立柱建物跡と捉えた。長軸7.48m×短軸6.96m、方位はN-6°-Eを測る。本建物跡に属する柱穴はP1からP13aであり、柱痕はP1・P2・P5・P8・P11～P13の7基に検出された。た覆土堆積の乱雑さや、柱痕と想定される覆土上層の広がりから柱材は引抜かれたものと判断した。柱穴の掘込みは0.21～0.47mと全体的に浅いものであった。

遺物 土師器・須恵器片を主体として出土しているが、遺物量は多くはなかった。

所見 平面規模に比し、掘込みの浅い柱穴を有する総柱式の掘立柱建物跡である。本遺跡では多くの掘立柱建物跡を検出しているが、その遺構数は多くはなく、本地区における特殊な位置を占めるものとなろう。

B062b

遺構 P21・P22・P14～P26を一括した。

遺物 土師器小片などが少量出土している。

所見 掘立柱建物跡となりうるか検討したが、配置上で独立する1棟とはならなかった。

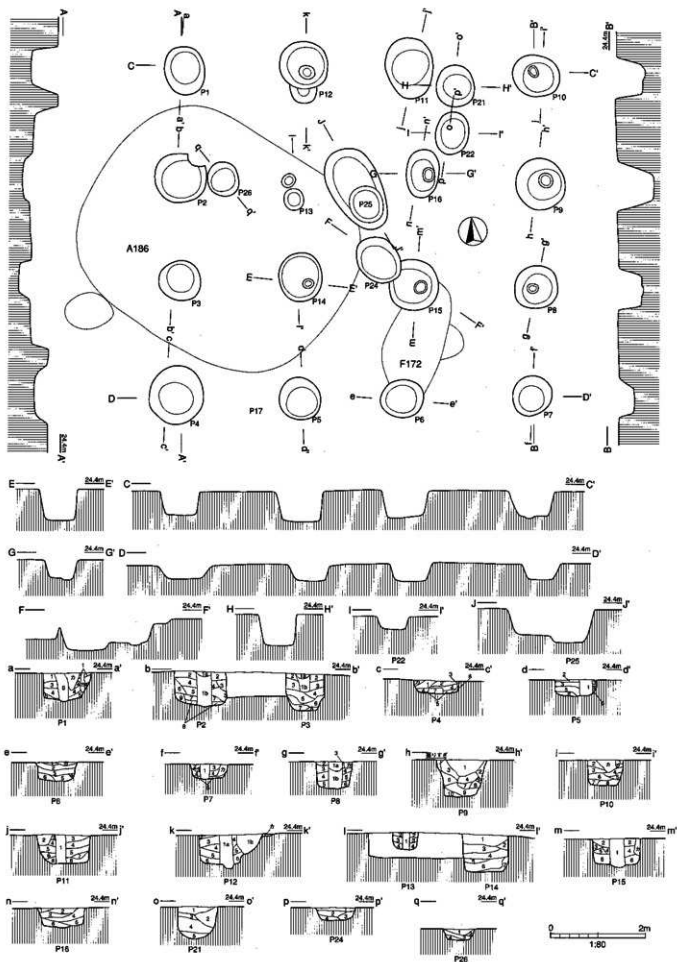


图226 B062

P1	1層	黒色土	ローム粒少含	
	2層	黒色土	ローム粒微含	径10mm大のロームブロック多量
	3層	黒色土	ローム粒多含	径5mm大のロームブロック微含
	4層	黒色土	ローム粒少含	
	5層	黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒微量混
P2				
1a層	1層	灰褐色土	黒色土少量混入	
	1b層	暗灰褐色土	白色粘土少量混入	ローム粒と白色粘土粒少含
	2層	黒色土	白色粘土粒微含	ローム粒と径5mm大のロームブロック少含
	3層	黒色土	ローム粒微含	
	4層	黒色土	ローム粒と径5mm大のロームブロック少含	
	5層	黒色土	白色粘土粒少含	ローム粒微含
	6層	暗灰褐色土	白色粘土少量混入	ローム粒微含
	7層	黒色土	ローム粒少含	
	8層	黒色土	ローム粒と径5mm大のロームブロック少含	
	9層	黒色土	ローム粒と白色粘土粒少含	
P3				
1a層	1層	灰褐色土	黒色土と白色粘土が混合	ローム粒少含
	1b層	暗灰褐色土	白色粘土粒微含	ローム粒少含
	2層	黒色土	白色粘土粒と径5mm大のロームブロック少含	
	3層	黒色土	ローム粒微含	
	4層	黒色土	ローム粒少含	
	5層	黒色土	ローム粒少含	
	6層	黒色土	ローム粒少含	
	7層	黄褐色土	黒色土とロームが粗く混合	
	8層	黒色土	ローム粒微含	
P4				
1層	1層	黒褐色土	ローム粒多含	
	2層	黒褐色土	ローム粒少含	
	3層	黄褐色土	ソフトロームブロック粒多含	ローム粒少含
	4層	黒色土	ローム粒少含	径10mm大のロームブロック多量
	5層	黒褐色土	ローム粒少含	
	6層	暗褐色土	ローム粒少含	
	7層	黒色土	ローム粒微含	
P5				
1層	1層	黒色土	ローム粒少含	
	2層	黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒微含
	3層	黒褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒微含
	4層	黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒微含
	5層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
	6層	黒色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含
P6				
1層	1層	黒色土	ローム粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
	3層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
	4層	黄褐色土	5~10mm大のロームブロック多量含	
	5層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含
	6層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
P7				
1層	1層	黒色土	ローム粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒少含	
	3層	暗褐色土	ローム粒少含	
	4層	黒色土	ローム粒少含	
	5層	暗黄褐色土	黒色土とロームが粗く混合	
P8				
1a層	1層	灰褐色土	白色粘土主体の土に黒色土が少量混	
	1b層	黒色土	ローム粒と白色粘土粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒多含	径5mm大のロームブロック多含
	3層	黒色土	ローム粒多含	
	4層	黒色土	ローム粒多含	
	5層	黒色土	ローム粒少含	
	6層	黒褐色土	ローム粒多含	
P9				
1層	1層	灰白色土	ローム粒多量含	径5mm大のロームブロック少量含
	2層	暗褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微含
	3層	暗黄褐色土	ローム粒く混合	径10mm大のロームブロック多量含
	4層	暗褐色土	ローム粒多量含	径10mm大のロームブロック多量含
	5層	黒色土	ローム粒多量含	径10mm大のロームブロック多量含
	6層	黒褐色土	ローム粒多量含	径5~10mm大のロームブロック多量含
	7層	黒褐色土	ローム粒多量含	径10mm大のロームブロック多量含
	8層	黒褐色土	ローム粒多量含	径10mm大のロームブロック多量含
	9層	暗褐色土	ローム粒多量含	径5~50mm大のロームブロック多量含
	10層	黒褐色土	ローム粒多量含	
P10				
1層	1層	暗灰白色土	黒褐色土主体の土に白色粘土少量混	
	2層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
	3層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土微含
	4層	黒色土	ローム粒多量含	径5mm大のロームブロック少量含
	5層	黒色土	ローム粒多量含	径5mm大のロームブロック少量含
	6層	黒褐色土	ローム粒多量含	径10mm大のロームブロック多量含
	7層	黒褐色土	ローム粒少量含	
	8層	黒褐色土	ローム粒少量含	径5mm大のロームブロック少量含
P11				
1層	1層	黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒少含
	2層	灰白色土	白色粘土ブロック	
	3層	暗灰褐色土	白色粘土と黒色土が混合	ローム粒少含
	4層	黒褐色土	ローム粒少含	径5~30mm大のロームブロック少含
	5層	黒色土	ローム粒少含	
	6層	黒色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含
	7層	暗黄褐色土	黒色土とロームが粗く混合	
	8層	暗褐色土	径5~30mm大のロームブロック多含	ローム粒多含
P12				
1層	1層	黒色土	ローム粒微含	
	1b層	黒褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒微含
	2層	黒褐色土	ローム粒多含	
	3層	黒色土	ローム粒多含	径5~10mm大のロームブロック多含
	4層	黒色土	ローム粒多含	径5~10mm大のロームブロック多含
	5層	黒褐色土	ローム粒多含	径5~20mm大のロームブロック少含
	6層	黒褐色土	ローム粒多含	
P13				
1層	1層	黒褐色土	ローム粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含
	3層	黒色土	ローム粒多含	
	4層	黒色土	ローム粒多含	径5mm大のロームブロック少含
	5層	暗褐色土	ローム粒少含	
	6層	黒色土	ローム粒少含	
P14				
1層	1層	黒褐色土	ローム粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒多含	
	3層	黒色土	ローム粒多含	径5~10mm大のロームブロック多含
	4層	黒色土	ローム粒多含	径5~10mm大のロームブロック多含
	5層	黒褐色土	ローム粒多含	径5~20mm大のロームブロック少含
	6層	黒褐色土	ローム粒多含	
P15				
1層	1層	黒褐色土	ローム粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含
	3層	黒色土	ローム粒多含	
	4層	黒色土	ローム粒多含	径5mm大のロームブロック少含
	5層	暗褐色土	ローム粒少含	
	6層	黒色土	ローム粒少含	
P16				
1層	1層	黒褐色土	ローム粒少含	
	2層	黒褐色土	ローム粒多含	
	3層	黒褐色土	ローム粒多含	
	4層	黒色土	ローム粒微含	
	5層	黒色土	ローム粒多含	径5~10mm大のロームブロック多含
	6層	黄褐色土	ソフトロームブロック	ローム粒少含
P17				
1層	1層	黒褐色土	ローム粒少含	
	2層	黒色土	ローム粒多量含	径5mm大のロームブロック多量含
	3層	黒色土	ローム粒少含	
	4層	黒褐色土	ローム粒多量含	径5~20mm大のロームブロック多量含
	5層	黒色土	ローム粒多量含	
P18				
1層	1層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土微量
	2層	黒色土	ローム粒少量含	径5mm大のロームブロック少量含
	3層	暗褐色土	ローム粒多量含	径5~10mm大のロームブロック多量含
	4層	黒褐色土	ローム粒多量含	径5mm大のロームブロック多量含
P19				
1層	1層	黒色土	ローム粒微量含	
	2層	黒色土	ローム粒微量含	径5~10mm大のロームブロック多量含
	3層	黒色土	ローム粒少量含	
	4層	黒褐色土	ローム粒多量含	

図227 B062 (2)

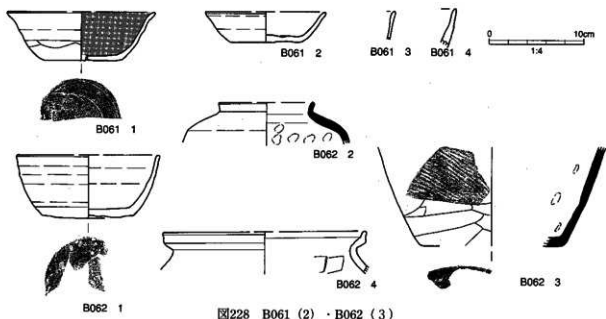


図228 B061 (2)・B062 (3)

表57 B061遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(155)×(81)×51 ロクロ成形 体部外面下端手持ちケラケズリ 内面 ロクロナデ後、黒色砂磨 底部外面ヘラケズリ	外暗褐色 内黒色 青	長石類 雲母	2/3	内照
2	土師器 坏	(127)×73×33 ロクロ成形 体部外面ロクロナデリ 底部外面ヘラケズリ	褐色 青	長石類 雲母	1/3	
3	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 ロクロナデ	褐色 青	長石類 雲母	口縁片	
4	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 ロクロナデ	褐色 青	長石類 雲母	口縁片	

表58 B062遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 鉢	(150)×(96)×66 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ後部分的にヘラミ ガキ 底部は磨止糸切り後刷縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 青	長石類 赤色スコ リア繊維	全体の 1/2弱	あるいは柄か
2	須恵器 長頸壺	(101)×-×45 ロクロ成形 内面はロクロナデで指頭痕が見られる	灰色 青	雲母長石 類微細粒 緻密	口縁～ 肩部の 1/4 残存	常陸産か
3	須恵器 甕	-×(152)×(104) タタキ成形 外面は平行タタキ目で胴下半はヘラケズリ 内面はあて具痕あり 底部 は5孔式か	灰色 青	雲母 長石類 花崗岩粒	胴下半 の一部	常陸産
4	土師器 甕	(212)×-×(45) 口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁部内外面ナデ 胴部外面は ヘラケズリ後ヘラナデ 内面はヘラナデ	暗茶褐色 青	花崗岩粒 含み 雲母少量	口縁～ 胴上部 片	常陸型甕

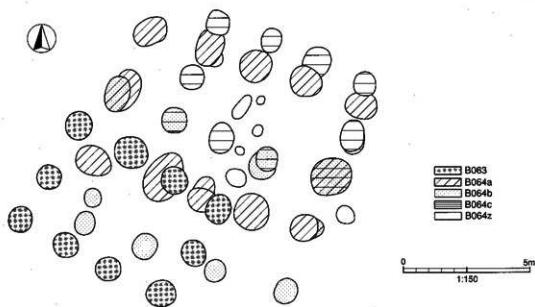


図229 B063・B064a・b・c・z配置図

### B063

検出地区 L6-25・26・35・36gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.40m×短軸4.40m、方位はN-56°-Eを測る。坑底には、更に、小ビットが掘込まれた柱穴が多い建物跡である。掘り込みの深さは0.56~1.04mとなっているが、0.80m前後の深さを有するものが多かった。

柱痕はP1・P3・P6・P7の4基に検出された。覆土は、ロームを包含した黒褐色土を主体としていた。P6においては柱痕覆土に白色粘土が混入し、P5においては覆土上層にて混入を認めた。

遺物 土師器片などが若干出土している。1は小片であるが、常総型の土師器甕であった。出土遺物が少ないため、時期決定のために意識的に掲示した。

所見 包含する柱穴は少ないが、柱痕覆土に白色粘土を包含する掘立柱建物跡である。A187・B061・B064と重複し、新旧関係はB064→B063→A187と捉えられた。A187内に位置するP10が柱穴規模として大きすぎるが、竅穴住居跡との重複で不明瞭であったことに起因している。本来は小規模ものではなかろうか。

また、本建物跡の柱穴も径1.00mを越えるものがあるが、調査時と測量時の時間差と考えている。

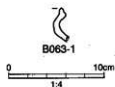
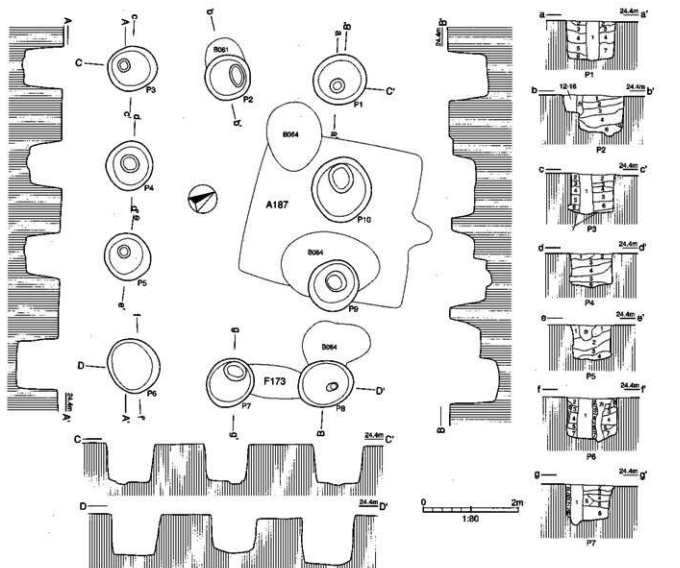


図230 B063

表59 B060遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	-X-X- 口縁は短く外反し端部はつまみ上げ 内面の頸部はヘラナデ	淡褐色 青	花崗岩粒 赤色スコ リア細粒	口縁片	常総型甕



- P1**
- |    |      |          |                     |
|----|------|----------|---------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入 |                     |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒少量混入 |                     |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒多量混入 | 径10~30mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入 | 径5~10mm大のロームブロック多含  |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 | 径20~50mm大のロームブロック多含 |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 |                     |
| 7層 | 暗褐色土 | ローム粒多量混入 |                     |
- P2**
- |    |      |          |                     |
|----|------|----------|---------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入 |                     |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒少量混入 | 径5~10mm大のロームブロック少含  |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒多量混入 | 径10~30mm大のロームブロック多含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒多量混入 |                     |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少量混入 |                     |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 |                     |
- P3**
- |    |      |          |                    |
|----|------|----------|--------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入 |                    |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入 |                    |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入 |                    |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒多量混入 | 径5~10mm大のロームブロック多含 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒多量混入 |                    |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒多量混入 | 径5~10mm大のロームブロック少含 |
| 7層 | 暗褐色土 | ローム粒多量混入 | 径5~10mm大のロームブロック多含 |
- P4**
- |    |      |          |                    |
|----|------|----------|--------------------|
| 1層 | 褐色土  | ローム粒少量混入 |                    |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 | 径20mm大のロームブロック多含   |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 | 炭化粒、白色粘土微含         |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 | 径5~10mm大のロームブロック多含 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒多量混入 | 径10mm大のロームブロック多含   |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入 | 径20mm大のロームブロック多含   |
- P5**
- |    |      |              |                  |
|----|------|--------------|------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入     | 白色粘土粒少含          |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒多量混入     | 径50mm大のロームブロック少含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒少含 |                  |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒、白色粘土粒少含 | 径5mm大のロームブロック少含  |
- P6**
- |    |      |             |               |
|----|------|-------------|---------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入    | 白色粘土粒少含 焼土粒微含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入    | 白色粘土粒少含       |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒少量混入    | 白色粘土粒微含 焼土粒少含 |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒多量混入    | 白色粘土粒少含       |
| 5層 | 暗褐色土 | ソフトロームが強く混入 | 白色粘土粒微含       |
| 6層 | 黄褐色土 | ソフトロームブロック  |               |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム主体       | 白色粘土粒少含       |
- P7**
- |    |      |                 |                    |
|----|------|-----------------|--------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入        | 径5mm大のロームブロック微含    |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入        | 径20mm大のロームブロック少含   |
| 3層 | 黄褐色土 | ローム主体に黒褐色土が多量混入 |                    |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多量混入        | 径10mm大のロームブロック多含   |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入        |                    |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入        |                    |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入        | 径5mm大のロームブロック少含    |
| 8層 | 暗褐色土 | ローム粒少量混入        | 径5~20mm大のロームブロック多含 |

図231 B063 (2)

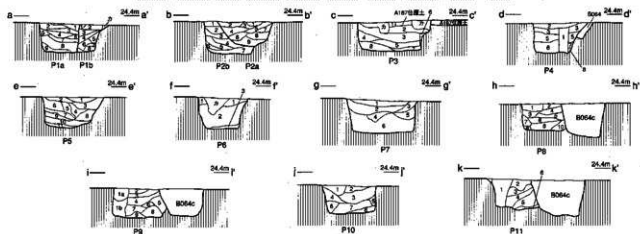
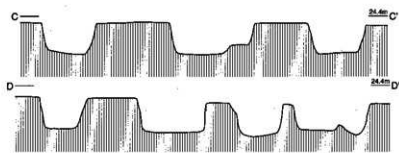
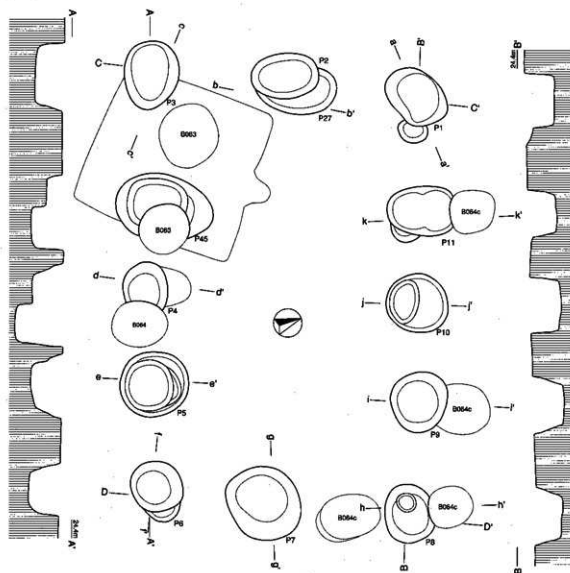
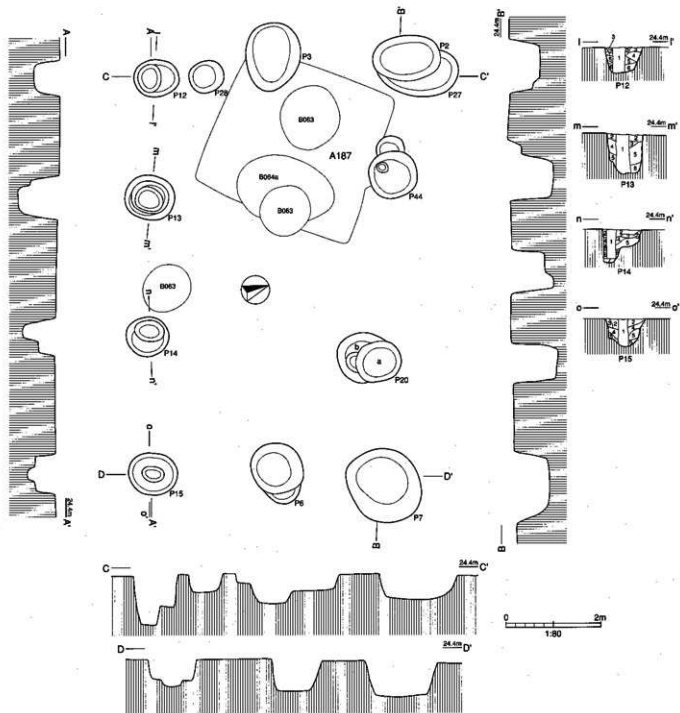


图232 B064a



<b>P1a</b>	1層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含	<b>P6</b>	1層 黒褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含
	2層 黒褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含		2層 暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合 径5mm大のロームブロック多含
	3層 黒色土	ローム粒多含		3層 黒色土	ローム粒多含
	4層 黒色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック多含	<b>P7</b>	1層 黒褐色土	ローム粒少含
	5層 黒色土	ローム粒少含		2層 暗灰褐色土	黒褐色土と白色粘土が混入 白色粘土粒多含 ローム粒少含 径5~10mm大のロームブロック少含
	6層 黒色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック多含		3層 黒褐色土	ローム粒多含
	7層 黒色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック少含		4層 黒褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含
	8層 暗黄褐色土	ソフトローム 径10mm大のロームブロック多含		5層 黒色土	ローム粒多含 径5から10mm大のロームブロック多含
	9層 黒色土	ローム粒多含		6層 黄褐色土	ソフトローム 径100mm大のロームブロックの集合体
<b>P1b</b>	1層 黒褐色土	ローム粒微含	<b>P8</b>	1層 黒色土	ローム粒微含
	2層 黒褐色土	ローム粒少含		2層 黒褐色土	ローム粒少含
	3層 黒褐色土	ローム粒少含 径5~10mm大のロームブロック少含		3層 黒色土	ローム粒少含
	4層 黒色土	ローム粒多含 径5~30mm大のロームブロック多含		4層 黒褐色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
	5層 黒色土	ローム粒少含		5層 黒色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
	6層 黒色土	ローム粒多含 径5~30mm大のロームブロック多含		6層 黒色土	ローム粒少含 白色粘土粒微含
	7層 黄褐色土	ソフトロームブロック		7層 黒褐色土	ローム粒少含
	8層 黒褐色土	ローム粒少含		8層 黒褐色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック少
				9層 黒色土	ローム粒少含
				10層 黒色土	ローム粒少含 径10mm大のロームブロック少含
<b>P2a</b>	1層 灰色色土	ローム粒、焼土粒微含	<b>P9</b>	1a層 灰褐色土	白色粘土と黒褐色土が混合 ローム粒少含
	2層 黒褐色土	ローム粒少含		1b層 黒褐色土	白色粘土粒微含 ローム粒少含
	3層 暗灰褐色土	白色粘土混入 ローム粒少含		2層 暗褐色土	ローム粒少含 5mm大のロームブロック少含
	4層 黒褐色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック多含		3層 暗褐色土	ローム粒多含 5~10mm大のロームブロック多含
				4層 黒褐色土	ローム粒少含 径5~10mm大のロームブロック少
	5層 黒褐色土	ローム粒少含		5層 黄褐色土	ソフトロームに黒褐色土が混入 径5~10mm大のロームブロック多含
	6層 暗褐色土	ローム粒、白色粘土粒多含		6層 黄褐色土	ソフトローム 径50mm大のロームブロック多含
	7層 暗褐色土	ローム粒、白色粘土粒多含		7層 暗褐色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック多
	8層 黒色土	ローム粒、白色粘土粒多含		8層 黒褐色土	ローム粒少含 径20mm大のロームブロック少含
				9層 暗褐色土	ローム粒少含 径10mm大のロームブロック少含
	9層 黒褐色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック多含	<b>P10</b>	1層 暗灰褐色土	黒褐色土と白色粘土が混合 白色粘土粒多含 ローム粒少含
<b>P2b</b>	1層 黒褐色土	ローム粒少含		2層 暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合 ローム粒少含 径20mm大のロームブロック少含
	2層 黒褐色土	ローム粒多含 径10mm大のロームブロック多含		3層 黒褐色土	ローム粒多含
	3層 黒色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック多含		4層 暗褐色土	ローム粒多含
	4層 黒色土	ローム粒微含		5層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含
	5層 黒褐色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含		6層 黒色土	ローム粒、径5~20mm大のロームブロック少含 白色粘土粒少含
	6層 黒色土	ローム粒少含		7層 黒褐色土	ローム粒、径5~20mm大のロームブロック多含
	7層 暗黄褐色土	ローム粒		8層 黒褐色土	ローム粒、径50mm大のロームブロック多含
<b>P3</b>	1層 黒褐色土	ローム粒少含	<b>P11</b>	1層 暗灰褐色土	黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒少含 白色粘土粒多含
	2層 黒褐色土	ローム粒少含 径20mm大のロームブロック少含		2層 暗褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含 白色粘土粒微含
	3層 暗褐色土	ローム粒多含 径30mm大のロームブロック多含		3層 暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合 径20mm大のロームブロック多含
	4層 黒色土	ローム粒多含		4層 黒色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
	5層 黒褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含		5層 黄褐色土	ソフトローム
	6層 黄褐色土	ソフトロームブロック		6層 暗灰褐色土	黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒少含
	7層 黒色土	ローム粒少含			
	8層 黒褐色土	ローム粒少含			
<b>P4</b>	1層 黒色土	ローム粒微含			
	2層 黒褐色土	ローム粒少含			
	3層 暗灰褐色土	少量の白色粘土が混入 ローム粒、白色粘土粒少含			
	4層 黒褐色土	ローム粒少含			
	5層 黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含 径5mm大のロームブロック多含			
	6層 黒褐色土	ローム粒多含 径5~30mm大のロームブロック多含			
	7層 暗灰褐色土	少量の白色粘土が混入 ローム粒白色粘土粒少含			
	8層 黒色土	ローム粒少含 白色粘土粒少含			
<b>P5</b>	1層 黒色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含			
	2層 黒色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含			
	3層 黒色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含 白色粘土粒少含			
	4層 黒褐色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含			
	5層 暗褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含			
	6層 黒褐色土	ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含			
	7層 黒色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック多含			
	8層 暗褐色土	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含			
	9層 黒色土	ローム粒多含 径50mm大の大型ロームブロック多含			
	10層 暗黄褐色土	ロームと黒色土が混合 ローム粒多含 径10mm大のロームブロック多含			
	11層 黒色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック多含			

図233 B064a (2)



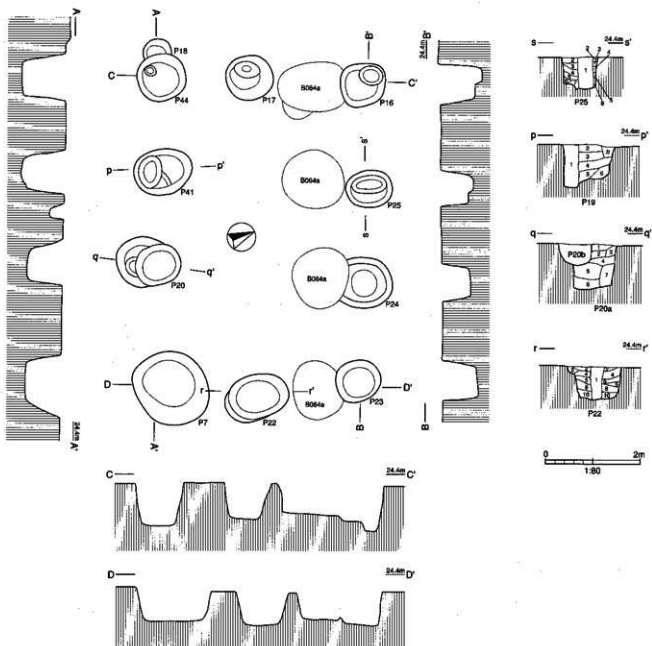
- P12**
- |    |      |        |                 |
|----|------|--------|-----------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 | 径5mm大のロームブロック微含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 |                 |
| 3層 | 褐色土  | ローム粒少量 |                 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 | 径5mm大のロームブロック微含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 |                 |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 | 径5mm大のロームブロック微含 |

- P13**
- |    |       |                 |                 |
|----|-------|-----------------|-----------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少量          |                 |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒多量          |                 |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色とソフトロームが軽く混合 |                 |
|    |       | ローム粒多量          | 径5mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黒褐色土  | ローム粒少量          | 径5mm大のロームブロック少含 |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒少量          | 径5mm大のロームブロック少含 |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒少量          |                 |

- P14**
- |    |       |                 |                    |
|----|-------|-----------------|--------------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含         |                    |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含         | 径5mm大のロームブロック少含    |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色とソフトロームが軽く混合 |                    |
| 4層 | 暗褐色土  | ローム粒少量含         |                    |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒多量含         | 径5~10mm大のロームブロック少含 |
| 6層 | 暗褐色土  | ローム粒少含          |                    |
| 7層 | 暗褐色土  | ローム粒少含          | 径5mm大のロームブロック少含    |

- P15**
- |    |      |        |                   |
|----|------|--------|-------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 |                   |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 | 径5mm大のロームブロック少量含  |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒微量 |                   |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多量 | 径5mm大のロームブロック少量含  |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム粒多量 | 径5mm大のロームブロック多量含  |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 | 径20mm大のロームブロック少量含 |

図234 B064b



**P25**

- |    |       |                  |                  |
|----|-------|------------------|------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土混合      | ローム粒微量           |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土混合      | ローム粒多量           |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土混合      | 径10mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土混合      | ローム粒多量           |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒、白色粘土少量含     |                  |
| 6層 | 暗灰褐色土 | 径20mm大のロームブロック少含 |                  |
| 7層 | 暗褐色土  | ローム粒、白色粘土混合      | ローム粒少量           |
| 8層 | 暗褐色土  | 暗褐色土に白色粘土混合      | 径10mm大のロームブロック少含 |
| 9層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土混合      | ローム粒微量           |

**P19**

- |    |       |                   |        |        |
|----|-------|-------------------|--------|--------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土混合       | 白色粘土少量 | ローム粒少量 |
| 2層 | 灰褐色土  | 白色粘土と黒褐色土混合       | 白色粘土多量 | ローム粒少量 |
| 3層 | 黒褐色土  | 黒褐色土に白色粘土混合       | ローム粒多量 |        |
| 4層 | 灰褐色土  | 径10mm大のロームブロック多含  |        |        |
| 5層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土混合       | ローム粒少量 |        |
| 6層 | 黄褐色土  | 黒褐色土に白色粘土混合       | ローム粒少含 |        |
|    |       | 全体的にポロポロしてしまりのない土 |        |        |

**P20a**

- |    |       |                    |        |
|----|-------|--------------------|--------|
| 1層 | 灰褐色土  | 白色粘土と黒褐色土混合        | ローム粒微量 |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土と白色粘土混合        | ローム粒少量 |
| 3層 | 黄褐色土  | ローム主体 径5~50mm大の    |        |
| 4層 | 灰褐色土  | ロームブロックが強く混合       |        |
| 5層 | 黒褐色土  | 白色粘土少量             | ローム粒少量 |
| 6層 | 黒褐色土  | 径5~10mm大のロームブロック少含 |        |
| 7層 | 暗褐色土  | 白色粘土少量             | ローム粒少量 |
| 8層 | 黒褐色土  | 暗褐色土主体             | ローム粒多量 |
| 9層 | 黒褐色土  | 径20mm大のロームブロック多含   |        |

**P22**

- |     |      |                     |
|-----|------|---------------------|
| 1層  | 黒褐色土 | ローム粒少量含             |
| 2層  | 黒褐色土 | 白色粘土少量含             |
| 3層  | 黒褐色土 | 白色粘土少量含             |
| 4層  | 暗褐色土 | 白色粘土少量含             |
| 5層  | 黒褐色土 | ローム粒少量含             |
| 6層  | 黒褐色土 | 白色粘土少量              |
| 7層  | 欠乏   | ローム粒少粒              |
| 8層  | 黒褐色土 | ローム粒多量              |
| 9層  | 欠乏   | 径5~10mm大のロームブロック少量含 |
| 10層 | 黒褐色土 | ローム粒、白色粘土少量含        |

図235 B064c

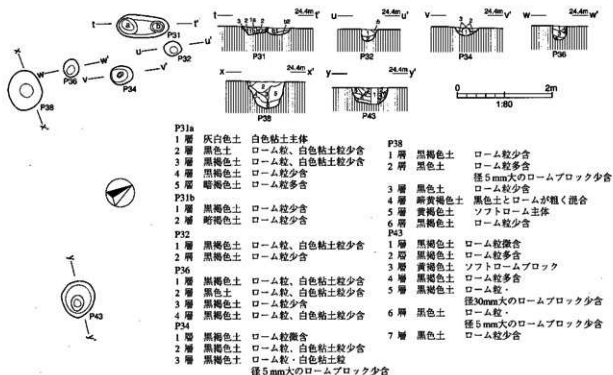


図236 B064z

B064a

検出地区 L6-26・35・45gにて検出した。

遺構 2×4間の掘立柱建物跡である。長軸8.56m×短軸5.52m、方位はN-67°-Wを測る。B064bと柱穴を共有する、建替えの建物跡である。本遺構はP1~P11・P45を配する掘立柱建物跡であるが、多くの柱穴を共有し、覆土からみると僅かな移動であったようである。柱穴の掘込みの深さは0.28~0.72mと極端であるが、0.28mが例外であり、0.60~0.72mの範囲内が11基となり、殆どの柱穴は均一な深さとなっていた。覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土を基本としている。P9は柱痕の覆土が上下2層に分かれ、上層は白色粘土の割合が高くなっている。

遺物 土師器片などが若干出土している。

所見 覆土から建替えが捉えられた遺構である。そして殆どの柱穴で重複して使用するため、柱穴規模はやや大きくなっている。P4のみで柱痕を検出しており、他は覆土の乱雑さから柱の引抜きがあったと捉えられた。

B064b

検出地区 L6-26・35・45gにて検出した。

遺構 2×4間の掘立柱建物跡である。長軸8.04m×短軸5.04m、方位はN-71°-Wを測る。B064aと柱穴を共有する、建替えの掘立柱建物跡である。本遺構に属する柱穴は配列順に、P2・P3・P12・P13~P15・P6・

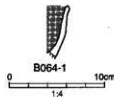


図237 B064

表60 B064遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	-X-X- ロクロ成形 外部の体部下端は手持ちヘラケズリ 内面は密なヘラミガキの後に吸炭	暗褐色 良	雲母スコ リア粗粒 緻密	口縁へ 底部の 一部	

P7・P20a・P20b・P44・P27・P28となっている。B064aと同様であるが、僅かな移動の建替えのため、柱穴規模は大きなものとなっている。柱穴の掘込みの深さは0.32～0.88mとなっているが、0.60m前後が平均的な深さであった。柱穴の殆どが柱の引抜きが行われていた。覆土は、ロームを包含した黒色土及び黒褐色土が主体となっていた。柱痕には白色粘土の混入が認められた。

遺物 土師器片を中心に出土しているが、少なかった。

所見 B064aと僅かな移動の重複して建替えられた掘立柱建物跡であるが、本遺構が新しいものとP2で捉えられた。

#### B064c

検出地区 L6-26・35・45gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.52m×短軸4.40m、方位はN-68°-Wを測る。柱痕は5基で検出されている。B064a・bとはP7・P27を共有していた。覆土は、ロームを包含した黒褐色土が主体であった。柱穴の深さは0.10～0.23mと極めて浅いものもあるが、0.56～0.96mとなっている。0.60～0.76mが平均的な深さの柱穴であった。

遺物 土師器を中心に若干の出土である。

所見 重複する3棟の掘立柱建物跡である。本建物跡は長軸である桁行に対し、短軸である梁行きが短く、やや細身の遺構となっている。柱穴覆土から新旧関係をB064a→B064b→B064cと捉えた。

#### B064z

検出地区 L6-26・35・45gにて検出した。

遺構 柱穴の配置上、B064a～cのいずれからも遺漏する柱穴を一括した。P31a・P31b・P32・P34・P36・P38・P43の7基であるが、P34のみ柱痕を検出した。

遺物 土師器片が僅かに出土している。

所見 配置上、遺漏した柱穴は7基と多く、しかも近接して検出している。調査では捉えられなかった、別の建物跡が1棟があったかもしれない。また、補助柱穴の役割も考慮すべであらう。

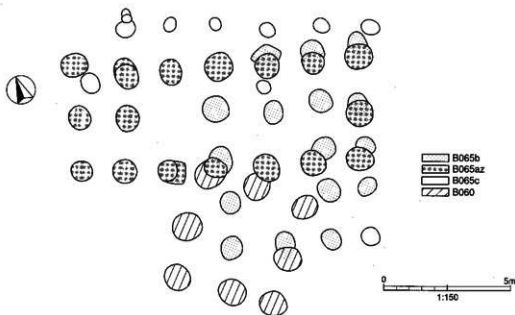


図238 B065abcz・B066配置図

#### B065a

検出地区 L6-45・46・55・56gにわたって検出した。

遺構 2×6間の掘立柱建物跡である。長軸11.12m×短軸4.18m、方位はN-67°Eを測る。柱痕はP2～P5、P7・P9・P12・P15・P16の9基で検出した。重複する柱穴もあり柱痕が残ったかは不明瞭であるが、P44は覆土の乱雑さから引抜きと捉えた。柱穴の深さはP1の0.12mと例外的なものもあるが、0.40～0.84mと均一ではなく、0.56～0.76mが平均的な柱穴の深さであった。覆土は、ロームを含んだ黒色土及び黒褐色土が主体となっており、本遺構では黒色土の覆土が全体的に多かった。P7・P11・P13～P16・P44の7基に白色粘土が混入しており、特にP4・P7の2基は柱痕覆土上層に充填したように入っていた。

遺物 土師器片など出土するが少なかった。

所見 上谷遺跡としては、例外的な長大な掘立柱建物跡であった。P44を西側柱と捉えると2×5間の片面庇の建物跡となるが、柱穴の掘込みが0.12mと浅く、長大な桁方向の側柱と捉えることはできなかった。また、四隅の柱穴を直線的に結ぶと長軸の桁方向の柱穴には若干のブレがあり、2×3間の2棟の重複の可能性もあった。長大な掘立柱建物跡であるため倉庫跡と捉えた場合、P44のように掘り込みが浅くてもかまわないが、P44が遺存するにも関わらず、他の東柱が検出されなかったことに疑問が残っている。このように判然としない掘立柱建物跡であるが、2×6間の遺構として報告する。

#### B065b

検出地区 L6-45・46・55-2g、56gにわたって検出した。

遺構 3×4間の掘立柱建物跡と捉えた。長軸7.54m×短軸5.56m、方位はN-12°Eを測る。殆どの柱穴において柱痕を検出した。柱穴の深さを0.10m単位で区切ると、0.20m台3基、0.40m台6基、0.50m台3基、0.60m台2基とまとまりがない。平均的な柱穴の深さは0.40～0.60とmということになろうか。覆土はロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体となっている。

遺物 土師器片を中心に、若干出土している。

所見 B065aと同様、判然としない掘立柱建物跡である。更に、B065aと重複する遺構であり、B066とも重複する遺構にあっては捉えにくい建物跡であった。また、柱穴にも重複があり、2棟乃至3棟の重複が考えられた建物跡である。東柱を1基欠くが総柱式であろうか。疑問も残るが、そのように報告したい。

#### B065c

検出地区 L6-45・46・55-2g、56gにわたって検出した。

遺構 A～A'では3.34m、B～B'では4.16m、全体で9.68mを測る。柱穴6基による柱穴列である。一見、B065aの北側柱列に並行して検出されている。柱穴の深さは0.20～0.32mが4基、0.52が2基と深さが分かれている。覆土は掘立柱建物跡と同様であり、ロームを含む黒色土・黒褐色土が主体となっている。

遺物 出土しなかった。

所見 柱列とするか、掘立柱建物跡に伴うものとするか判然としないものであった。P17～P19とP20～P22では若干建物跡の軸線上にのりやすいものであり、2基の柱列の可能性もある。ただ、B065aと並行するように検出されており、柱列とは扱わずに掘立柱建物跡の一部として扱うこととした。



P1		P11			
1層	黒褐色土	ローム粒多含	黄褐色土	ソフトロームブロック	
2層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック多含	黒褐色土	ローム粒・白色粘土・径5mm大ロームブロック少含	
3層	黒褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含	3層	黒褐色土	ローム粒少含 径5-10mm大ロームブロック少含
4層	暗褐色土	ローム粒・径20-30mm大ロームブロック多含	4層	黒褐色土	ローム粒・白色粘土少含
5層	黒色土	ローム粒・径10mm大ロームブロック多含	5層	黒褐色土	ローム粒多含 径5mm大ロームブロック少含 白色粘土微含
P2		P12			
1層	黒色土	ローム粒少含	1層	黒褐色土	ローム粒少含
2層	黒褐色土	ローム粒少含	2層	暗褐色土	ローム粒・径5-20mm大ロームブロック多含
3層	黒褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含	3層	暗褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック多含
4層	黒色土	ローム粒・径5-10mm大ロームブロック少含	4層	黒褐色土	ローム粒少含 径5mm大ロームブロック多含
P3		P13			
1層	黒色土	ローム粒少含	1層	暗灰褐色土	白色粘土と黒色土混合 白色粘土多含
2層	暗褐色土	ローム粒少含	2層	黒色土	ローム粒・白色粘土・径5mm大ロームブロック少含
3層	黒褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含	3層	黒色土	ローム粒少含 白色粘土少
4層	黒褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック多含	4層	黒色土	ローム粒少含 白色粘土少
5層	黒色土	ローム粒少含 径5mm大ロームブロック多含	5層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
6層	黒褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック多含	6層	黒色土	ローム粒少含 白色粘土少
P4		P14			
1a層	暗褐色土	白色粘土・ローム粒少含	1層	黒色土	ローム粒微含
1b層	黒色土	ローム粒・白色粘土粒・炭化粒を微含	2層	黒色土	白色粘土・白色粘土少
2層	黒色土	ローム粒・白色粘土粒を微含	3層	黒褐色土	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム粒・径5-10mm大のロームブロック少含 白色粘土粒を微含	4層	黒色土	ローム粒・白色粘土少
4層	黒色土	ローム粒少含 径10mm大ロームブロック2,3点含	5層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
5層	黒褐色土	ローム粒少含	6層	黒色土	ローム粒少含 白色粘土少
6層	黒褐色土	ローム粒多含	7層	暗褐色土	ローム粒少含
P5		P15			
1層	黒色土	ローム粒微含	1層	黒色土	ローム粒・径5mm大のロームブロック少含
2層	暗褐色土	ローム粒多含	2層	暗灰褐色土	白色粘土・黒褐色土が混合 白色粘土少含
3層	黒褐色土	ローム粒微含 径5-10mm大のロームブロック少含	3層	黒褐色土	ローム粒・白色粘土少含
4層	黒色土	ローム粒・径5-10mm大のロームブロック少含	4層	黒褐色土	ローム粒少含
5層	黒色土	ローム粒微含 径5mm大のロームブロック微含	5層	黒色土	ローム粒・白色粘土少含
6層	黒色土	ローム粒多含	6層	黒色土	ローム粒少含
7層	黒色土	ローム粒少含	7層	黒色土	ローム粒・白色粘土少含
8層	暗褐色土	ローム粒少含	8層	暗褐色土	ローム粒少含
9層	暗褐色土	ローム粒少含	P16		
P6		P17			
1層	黒褐色土	ローム粒少含 径5mm大ロームブロック少含	1層	黒色土	ローム粒・白色粘土微含
2層	暗褐色土	ローム粒少含	2層	黒褐色土	ローム粒・白色粘土・径5-20mm大のロームブロック少含
3層	黒色土	ローム粒少含	3層	暗灰色土	黒色粘土と白色粘土混合
4層	黒色土	ローム粒多含	4層	黒褐色土	径5-20mm大のロームブロック少含
P7		P18			
1a層	暗灰褐色土	黒色土主体に白色粘土混合	1層	黒褐色土	径20-20mm大のロームブロック少含
1b層	黒色土	黒色土主体にローム粒少含	2層	暗褐色土	黒色粘土と白色粘土混合
2層	黒色土	黒色土主体にローム粒・径5mm大ロームブロック少含	3層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	黒色土主体にローム粒少含	4層	黒色土	ローム粒少含
4層	暗褐色土	黒色土主体に白色粘土混合	5層	暗褐色土	ローム粒少含
5層	黒色土	黒色土主体に白色粘土混合	6層	暗褐色土	ローム粒少含
6層	暗褐色土	白色粘土主体	P40		
7層	黒色土	ローム粒少含	1層	黒褐色土	ローム粒多含
8層	黒色土	ローム粒・白色粘土少含	2層	黒色土	ローム粒少含
9層	暗褐色土	ローム粒少含 白色粘土微含	3層	黄褐色土	ソフトロームブロック 黒色土混合
P8		P44			
1層	黒褐色土	ローム粒・径10mm大ロームブロック多含	1層	黒褐色土	ローム粒多含 白色粘土少含
2層	黒色土	ローム粒・径5-10mm大ロームブロック多含	2層	黄褐色土	ソフトロームブロックに黒色土少混含
3層	暗褐色土	ローム粒・径5-10mm大ロームブロック多含	3層	黒色土	ローム粒多含
4層	黒色土	ローム粒多含 径5mm大ロームブロック少含	4層	暗黄褐色土	黒色土とローム粒が強く混合
5層	暗褐色土	ローム粒・径5-30mm大ロームブロック多含	5層	黒色土	径10mm大ロームブロックとローム粒多含
6層	黒色土	ローム粒少含	6層	黒色土	ローム粒少含
P9		P45			
1層	黒色土	ローム粒・白色粘土を微含	1層	黒褐色土	ローム粒・径20mm大ロームブロック多含
2層	黒褐色土	ローム粒少含 径5mm大ロームブロック少含	2層	暗褐色土	ローム粒微含
3層	黒色土	ローム粒・白色粘土・径5mm大ロームブロック少含	3層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒少含 径30mm大ロームブロック少含	4層	黄褐色土	ローム主体 径20mm大ロームブロック少含
5層	暗褐色土	ローム粒多含 径5-20mm大ロームブロック少含			
6層	黒色土	ローム粒少含			
P10					
1層	暗褐色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含			
2層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含			
3層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含			
4層	黒色土	ローム粒・径5mm大ロームブロック少含			

図240 B065a (2)



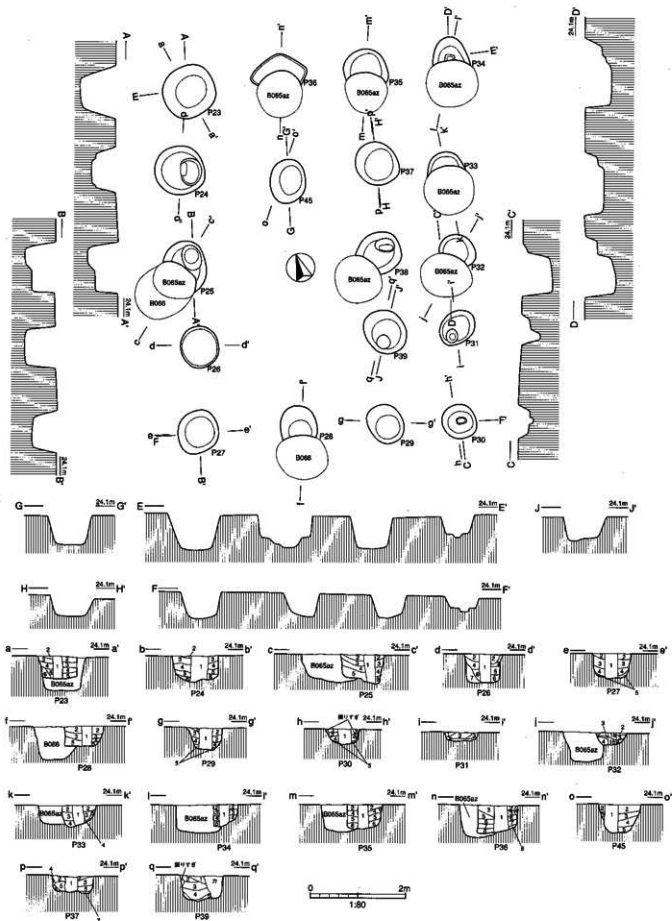


图241 B065b

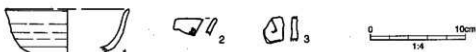
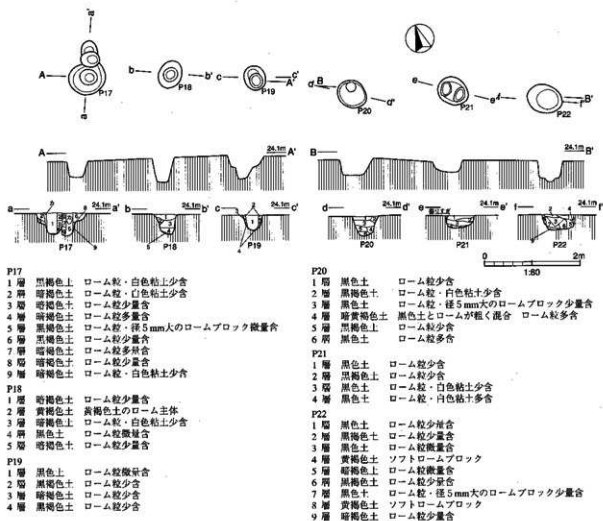


図242 B065c

表61 B065c遺物観察表

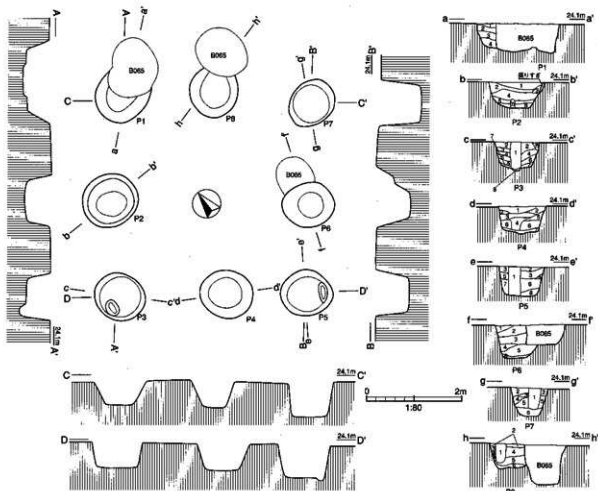
(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 調成 胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	(130)×-×(45) ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	外黒褐色 内茶褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁～ 体部の 一部
2	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面はロクロ成形ナデ	橙褐色 并	長石類 スコリア 細粒緻密	口縁片 墨書「□」か 口縁外面
3	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	橙褐色 良	花崗岩 スコリア 細粒	体部片 墨書「□」か 体部下端

B066

検出地区 L6-46gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.08m×短軸4.04m、方位はN-39°Eを測る。略方形の建物跡である。比較的小規模な建物跡であるが、柱穴の規模は大きなものである。柱痕は、P2～P8の7基に検出した。P1・P2はB065との重複のため、捉えられなかった。



- P1**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒・径10mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒・径5~10mm大ロームブロック多含
  - 4層 暗黄褐色土 黒色土とロームが粗く混合  
径5~20mm大ロームブロック多含

- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒・径5~10mm大ロームブロック少含  
炭化粒少含
  - 3層 黄褐色土 ソフトロームブロック主体 ローム粒少含  
径5~10mm大ロームブロック少含
  - 4層 黒色土 ローム粒・径5~10mm大ロームブロック多含  
径10mm大ブロック少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~10mm大ロームブロック少含
  - 6層 黄褐色土 径20mm大ロームブロックが粗く混合

- P3**
- 1層 黒色土 ローム粒少含 径5~10mm大ロームブロック少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大ロームブロック多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大ロームブロック多含
  - 4層 黒色土 ローム粒多含 径5mm大ロームブロック多含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒多含 黒色土とロームが粗く混合  
径5mm大ロームブロック多含
  - 7層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 8層 黄褐色土 ローム主体

- P4**
- 1層 黒色土 ローム粒多含 径5mm大ロームブロック少含
  - 2層 黒色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含 径5mm大ロームブロック・炭化粒少含
  - 4層 黄褐色土 ローム粒・径5~20mm大ロームブロック多含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含 焼土粒微含
  - 6層 黒色土 ローム粒微含
  - 7層 暗褐色土 ローム粒少含

- P5**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黄褐色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
  - 4層 黄褐色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
  - 5層 黒色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック少含
  - 6層 黒色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック多含
  - 7層 黒色土 ローム粒微含
  - 8層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒色土も微含

- P7**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒・径5~10mm大ロームブロック少含
  - 4層 黄褐色土 ローム粒少含
  - 5層 黒色土 ローム粒微含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多含

- P8**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック多含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒・径5mm大ロームブロック多含
  - 4層 黒色土 ローム粒・径5~10mm大ロームブロック多含
  - 5層 暗黒色土 ローム粒多含  
径5mm大ロームブロック少含
  - 6層 黄褐色土 暗褐色土が少含  
径5~20mm大ロームブロック多含

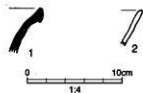


図243 B066

柱穴の深さは0.52~0.96mであり、全体として掘込みが深い柱穴である。覆土は、ロームを包含した黒褐色土・黒色土であり、柱穴により覆土の色調に若干の差があった。覆土はよく突固められており、黒色土主体の柱痕である。

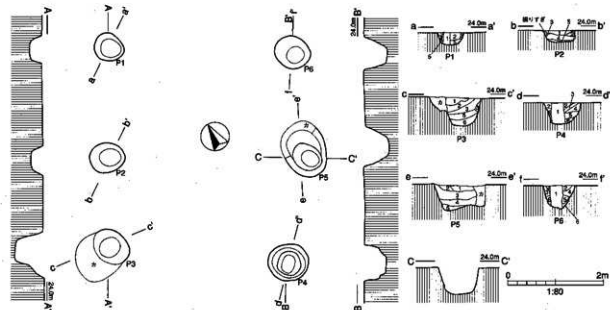
遺物 土師器・須恵器・縄文早期・条痕文片が若干出土している。

所見 B065と重複するが、覆土より本遺構が古いことが捉えられた。建物跡の規模の割に柱穴が大きい、調査時と測量時の間の壁の崩壊に関わり、本来は0.60~0.76m程度ではなかったかと想定している。

表62 B066遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 要	-X-X- 恐らくタキ型 外面ともナデ	暗灰色	雲母花崗 岩細粒	口縁片	常陸産
2	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 内面はロクロナデ	黄褐色	赤色スコ リア細粒	口縁片	雲母少量



- P1**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒微含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大ロームブロック少含

- P2**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黄褐色土 ソフトロームブロック
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒多含

- P3**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ロームが少量混入 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大ロームブロック少含
  - 4層 黄褐色土 ソフトロームブロック 黒色土少量混入
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒少含

- P4**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 暗黄褐色土 黒褐色土とソフトロームが混合
  - 4層 暗褐色土 ロームが少量混入 ローム粒少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多含

- P5**
- 1層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~20mm大ロームブロック少含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含 径20mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含 径20mm大ロームブロック多含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含 径20mm大ロームブロック少含
  - 5層 暗黄褐色土 黒色土とロームが粗く混合

- P6**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黄褐色土 ソフトロームブロック多含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 黒色土 ローム粒微含 径5mm大ロームブロック微含

図244 B067

#### B067

検出地区 L6-56・57gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.48m×短軸3.84m、方位はN-36°-Eを測る。柱痕はP1・P4・P6の3基で検出された。柱穴の深さは0.22~0.60mであるが、0.48~0.60mが平均的な柱穴であった。覆土はロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体である。

遺物 土師器小片が2点のみ出土している。

所見 1×2間の建物跡とした場合、四隅の柱穴となるP1の掘込みが浅く、建物の荷重を支えられるか疑問が残る遺構である。単純に考えるならば長軸方向を2.24mで支え、短軸は3.84mで荷重を支えることとなる。P1を中間柱と考えるならば調査では検出できなかったが、北東側に1列存在したかもしれない。

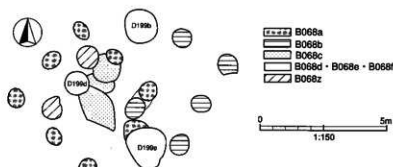


図245 B068a・b・c・d・e・f・z配置図

#### B068a

検出地区 L6-15gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.92m×短軸3.84m、方位はN-36°-Eを測る。略方形の小規模な建物跡である。柱痕は、捉えることはできなかった。覆土はロームを若干包含した黒色土・黒褐色土が主体であった。柱穴は0.22~0.46mと比較的浅く、0.20m台が深さの主体であった。

遺物 炉穴と重複するため、縄文早期・条痕文片が出土するが出土量は少ない。

所見 本遺構は炉穴や堅穴住居跡と重複するため、遺構検出がしづらいためであった。南東側柱列の中間にP4を当てたが、比較的整然とした本遺構において配置がずれたものとなってくる。A184やF163との重複が重なる所であり、本来は失われているかもしれない。

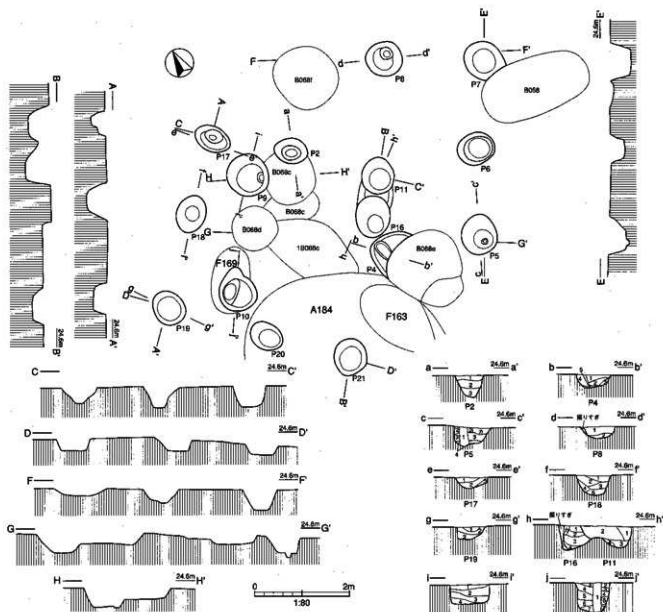
#### B068b

検出地区 L6-15gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.06m×短軸3.70m、方位はN-63°-Eを測る。小規模な建物跡であり、B068bに比べてやや大きくなる遺構である。重複が著しく、北西側柱列はP2のみの検出であった。柱痕はP10のみで捉えられたが、他の柱穴において柱痕が遺存したか、柱の引抜きかは捉えられなかった。柱穴の掘込みの深さは0.23~0.46mと、B068aと同程度であった。覆土は、ロームを若干含む黒色土・黒褐色土が主体である。

遺物 出土しなかった。

所見 B068aとP2を共用する掘立柱建物跡である。このP2に相当する柱穴が他の遺構の重複によって失われている可能性もあったが、P2を使用することにより2間四方と捉えた。そしてこの捉え方により、建替えられた掘立柱建物跡と判断した。



- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大ロームブロック少含
- P4**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大ロームブロック少含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒微含
- P5**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒微含
- P6**
- 1層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含
  - 2層 黄褐色土 ソフトロームブロック ローム粒、白色粘土粒少含 黒褐色土が少量混入
- P9**
- 1層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大ロームブロック少含
  - 2層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大ロームブロック多含
  - 4層 黄褐色土 ソフトローム 白色粘土粒少含

- P10**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒、径5mm大ロームブロック少含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 7層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大ロームブロック少含
- P11**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黄褐色土 暗褐色土少量混入 径5mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大ロームブロック少含
- P16**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒、径5mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒、径5~10mm大ロームブロック少含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒、径5~30mm大ロームブロック多含
- P18**
- 1層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒、径5mm大ロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 暗褐色土 黒色土少量混入 ローム粒微含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒多含
- P19**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒微含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含

図246 B068a・b・z

B068z

検出地区 L6-15gにて検出した。

遺構 B068a・bから、柱穴配置上で遺漏した柱穴を一括した。P9・P10・P16が相当する。

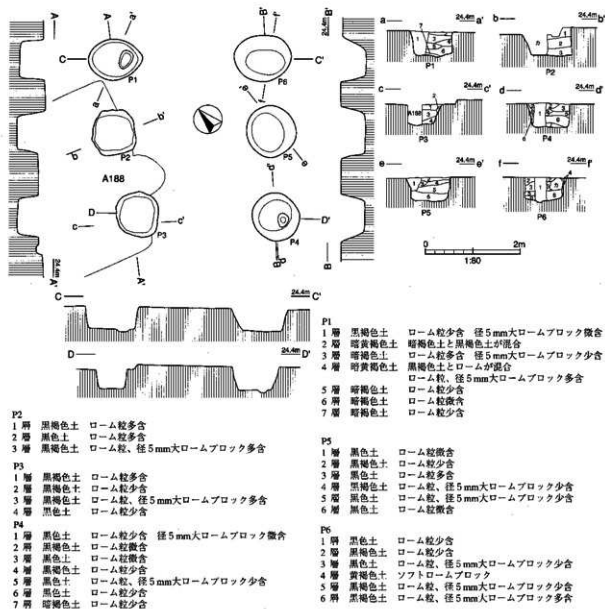


図247 B069

B069

検出地区 L6-36・37gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.28m×短軸3.12m、方位はN-42°Eを測る。柱痕はP1・P4・P6の3基において検出した。P2は攪乱のため、P3は重複のため不明であり、P5は捉えられなかった。柱穴の掘込みの深さは、0.48~0.56と略均一化していた。覆土はロームを含んだ黒色土・黒褐色土であり、柱穴によってロームの包含の多寡と色調に差があった。

遺物 土師器・須恵器、縄文早期・条痕文片が微量出土している。

所見 1×2間の比較的小規模な建物跡であるが、南西に比べ、北東側が開いている遺構となっている。

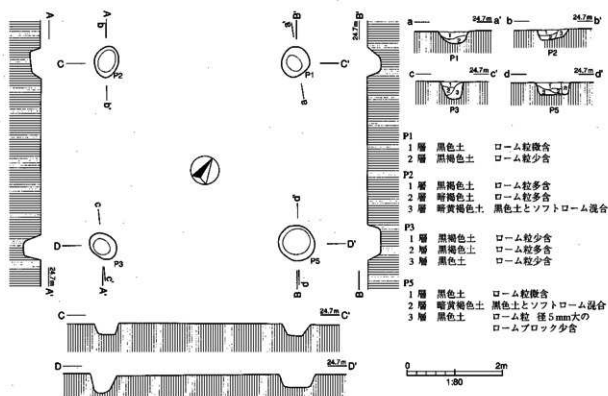


図248 B070

#### B070

検出地区 L5-71・72にて検出した。

遺構 1×1間の掘立柱建物跡である。長軸4.08m×短軸3.84m、方位はN-59°Eを測る。長軸方向の柱間が、やや長い建物跡となっている。

柱痕は検出されず、掘込みの深さも0.24~0.36mであり、0.24~0.28mに3基が入ることから全体的に浅い柱穴である。覆土は、黒褐色土が主体となっている。

遺物 縄文時代早期・条痕文が若干出土しているが、柱穴の覆土充填に伴う流込みである。

所見 調査時には2間四方と捉えていたが、中間の柱は検出されなかった。まるでヤグラを建てたような建物跡である。柱間距離が大きく、また、柱穴の掘込みも浅く、建物が建ったか疑問を呈した遺構でもある。中間の柱の掘込みは極め浅く、遺構検出面では失われていた可能性も指摘しておきたいが、掘込みの浅い竪穴住居跡の柱穴の可能性もあった。

#### B071

検出地区 L5-62・63・75にて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.52m×短軸3.88m、方位はN-75°Eを測る。比較的正然とした建物跡である。P3に相当する柱穴は、攪乱のために失われていた。

各柱穴とも浅く、柱痕は検出できなかった。かろうじてP2が柱痕であろうか。柱穴の掘込みの深さは、P10の0.04mは例外として、0.12~0.52mであった。0.40~0.52mが4基あった。覆土は、ロームを含んだ黒色土が主体となっている。

遺物 須恵器坏や縄文早期・撚糸文、条痕文片が若干出土している。

所見 掘立柱建物跡として規模、形状とも正然とした遺構であるが、柱穴の掘込みは浅いものであった。あるいは上谷遺跡IV地区の、掘立柱建物跡の本来の柱穴の大きさかもしれない。



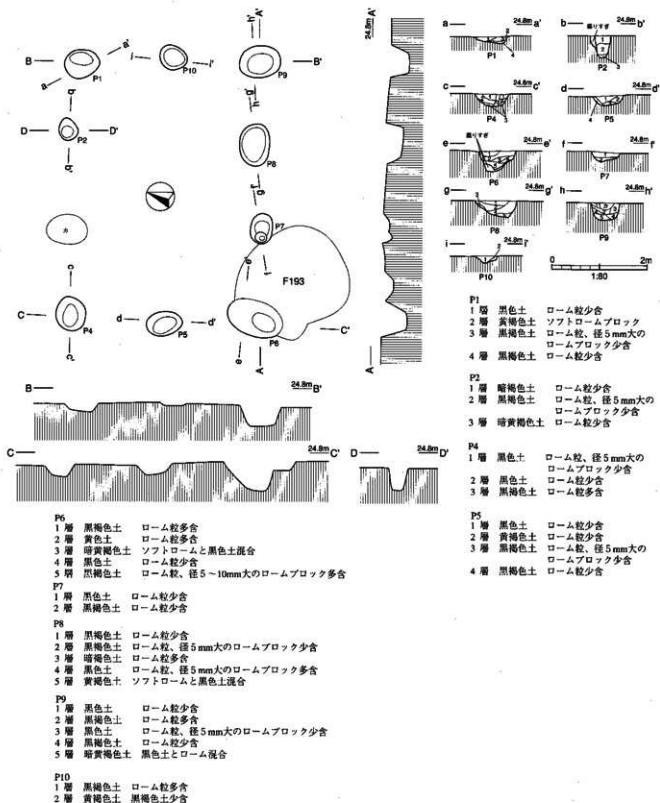


図249 B071

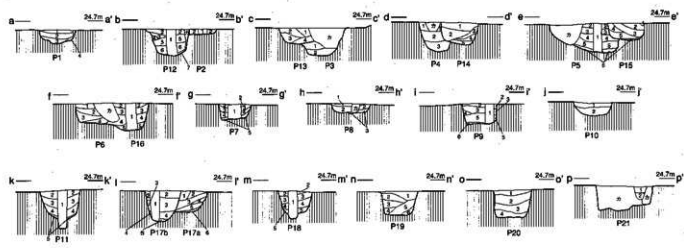
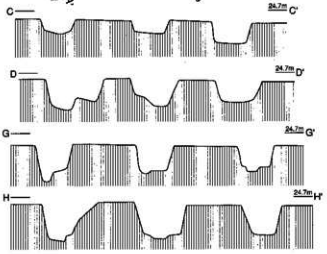
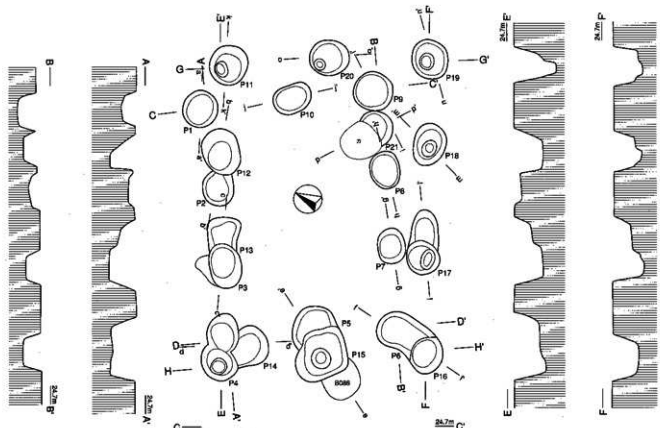


图250 B072ab

P1	1層 黒色土	ローム粒少量含
	2層 黒色土	ローム粒微量含
	3層 黒褐色土	ローム粒少量含
	4層 黄褐色土	ソフトローム主体 黒色土少量
P2	1層 黒色土	ローム粒微量含
	2層 黒色土	ローム粒少量
P3	1層 黒色土	ローム粒微量含
	2層 黒色土	ローム粒少量 径5m大のロームブロック少量含
P4	1層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック少量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック少量含
	3層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック多量含
	4層 黒褐色土	ローム粒少量含
P5	1層 黄褐色土	ソフトロームブロック
	2層 黒褐色土	ローム粒少量含
	3層 黒色土	ローム粒少量含
	4層 黒褐色土	ローム粒少量含 白色粘土微量
	5層 黒色土	ローム粒少量含 白色粘土少量
	6層 黄褐色土	フトローム 黒色土少量混
P6	1層 黒褐色土	ローム粒少量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含
	3層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック多量含
	4層 暗褐色土	ローム粒多量含
P7	1層 黒褐色土	ローム粒微量含
	2層 黄褐色土	ソフトローム 径20m大のロームブロックが粗く混含
	3層 黒色土	ローム粒多量含
	4層 黒色土	ローム粒少量含
	5層 黒褐色土	ローム粒多量含
P8	1層 黒褐色土	ローム粒多量含
	2層 黒色土	ローム粒多量含
	3層 黒褐色土	ローム粒多量含
P9	1層 黒褐色土	ローム粒少量含
	2層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	3層 黒色土	ローム粒多量含
	4層 黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	5層 黒色土	ローム粒少量含
	6層 暗褐色土	ローム粒多量含
P10	1層 暗褐色土	ローム粒少量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含
P11	1層 棕色土	ローム粒微量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含
	3層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	4層 黒色土	ローム粒微量含
	5層 黒褐色土	ローム粒少量含
P12	1層 黒色土	ローム粒微量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含
	3層 黒色土	ローム粒微量含
	4層 黄褐色土	ソフトローム主体
	5層 黒色土	ローム粒少量 径5m大のロームブロック少量
	6層 黒色土	ローム粒微量含
	7層 黒色土	ローム粒少量 径5m大のロームブロック少量
P13	1層 黒色土	ローム粒多量含
	2層 黒褐色土	ローム粒多量含 径5~20m大のロームブロック多量含
	3層 黒色土	ローム粒多量含 径10m大のロームブロック多量含
	4層 黒褐色土	ローム粒少量含
P14	1層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5~20m大のロームブロック少量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含 径5~20m大のロームブロック少量含
	3層 黄褐色土	ソフトローム主体 黒褐色土少量含
	4層 黒褐色土	ローム粒少量含
	5層 暗褐色土	ローム粒少量含
P15	1層 黒色土	ローム粒微量含
	2層 黒褐色土	ローム粒少量含
	3層 黒色土	ローム粒少量含
	4層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	5層 黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	6層 黒褐色土	フローム粒少量含
P16	1層 黒色土	ローム粒少量含
	2層 黒色土	ローム粒微量含
	3層 黒色土	ローム粒少量含
	4層 黒色土	ローム粒微量含
	5層 黒褐色土	ローム粒多量含
	6層 欠香	
P17a	1層 黒色土	ローム粒微量含
	2層 暗褐色土	ローム粒少量含
	3層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	4層 黒褐色土	ローム粒多量含
	5層 黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	6層 暗褐色土	ローム粒多量含
P17b	1層 黒色土	ローム粒少量含
	2層 暗褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック多量含
	3層 黒色土	ローム粒少量含
	4層 黒色土	ローム粒多量含 径5m大のロームブロック少量含
	5層 暗褐色土	ローム粒少量含
P18	1層 黒色土	ローム粒少量含
	2層 黒褐色土	ローム粒少量含
	3層 黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少量含
	4層 黒色土	ローム粒少量含
	5層 黒色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック少量含
P19	1層 黒褐色土	ローム粒多量含
	2層 黒褐色土	ローム粒少量含
	3層 黒色土	ローム粒多量含
	4層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック多量含
	5層 黒色土	ローム粒少量含
	6層 暗褐色土	ローム粒少量含
P20	1層 黒褐色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック少量含
	2層 黒褐色土	ローム粒少量含 径10m大のロームブロック多量含 径5m大のロームブロック少量含
	3層 黒色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック少量含
P21	1層 黒褐色土	ローム粒多量含
	2層 黒色土	ローム粒少量含

図251 B072ab (2)

## B072a

検出地区 L5-73gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸4.96m×短軸3.60m、方位はN-58°Eを測る。近接してB072bと重複するため柱穴配置が不明瞭となるが、P1～P10・P21の11基である。柱痕はP5・P7・P9にて検出し、P6とP8は調査では攪乱としたが柱痕かもしれない。柱穴の掘込みは0.26～0.60mと不均一であった。覆土は、ロームを包含した黒褐色土・黒色土を主体としていた。覆土中には白色粘土の混入は認められなかった。

遺物 土師器・須恵器片を中心に、若干出土する。

所見 B072bと重複するため、調査では本建物跡に属する柱穴を把握しづらい遺構であった。また、B072bに比し遺構規模は若干小規模となっている。新旧関係は覆土より、本遺構が古いものと捉えられた。

## B072b

検出地区 L5-73gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.24m×短軸4.36m、方位はN-57°Eを測る。近接してB072aと重複するため、柱穴配置の把握が調査では把握しづらい遺構であった。本建物跡に属する柱穴は、P11～P20までの11基である。柱痕はP11・P12・P16・P17a・P18の5基において検出した。柱穴の掘込みの深さは0.36～0.88mと不均一であるが、0.48～0.68mに平均的に収まるものである。P11は坑底内に段差があり、0.56mと0.88mとなっている。覆土は、ロームを包含した黒色土と黒褐色土を主体としている。覆土に、白色粘土の混入は認められなかった。

遺物 土師器・須恵器片などが若干出土している。

所見 B072aと重複しているが、本建物跡がやや規模が大きくなっている。また、北西側柱列及び南西側柱列において柱穴が重複するが、南東及び南西側柱列では重複はしていなかった。

この2棟はP4・P14においてさほど移動せずに、この柱穴をもとに桁方向を僅かにずらして、B072aから建替えが行われたようである。

## B072z

検出地区 L5-73gにて検出した。

遺構 P21・P4b・P17bは、B072a・bの柱穴の配置上でいずれにも属せず、遺漏するものであった。このため一括して扱うこととした。また、本来はP4bにあつては、B072aに属するものかもしれない。

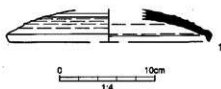
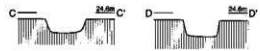
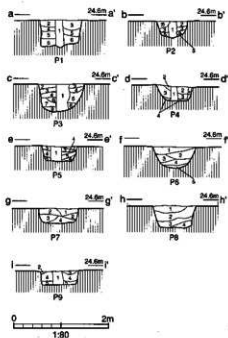
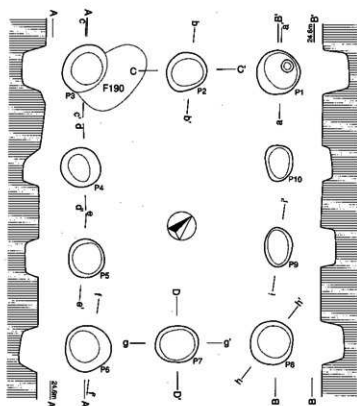


図252 B072ab (3)

表63 B072ab遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の 特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 蓋	(208)×-(33) ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ	灰色 青	雲母 花崗岩粒 スコリア 細粒	口縁～ 天蓋の 1/4 残存	常勝産



- P1**
- |    |      |         |
|----|------|---------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少量含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少量含 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少量含 |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少量含 |
- P2**
- |    |       |                     |
|----|-------|---------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土主体の土に少量の白色粘土が混入 |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含 白色粘土が微量     |
| 3層 | 黒色土   | ローム粒少量含             |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒微量含             |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含             |
- P3**
- |    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土主体の土に少量の白色粘土が少量混 |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒多量含              |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 黒色土とソフトロームが粗く混入      |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒多量含              |
| 5層 | 黒色土   | ローム粒少量含              |
| 6層 | 黄褐色土  | ソフトローム               |
| 7層 | 黒褐色土  | ローム粒多量含              |
| 8層 | 暗褐色土  | ローム粒多量含              |
- P4**
- |    |       |                                |
|----|-------|--------------------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土主体の土に少量の白色粘土が混入<br>ローム粒微量含 |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土主体の土に少量の白色粘土が混入            |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含                        |
| 4層 | 暗褐色土  | ローム粒多量含                        |

- P5**
- |    |       |                             |
|----|-------|-----------------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土主体の土に白色粘土少量混<br>ローム粒少量含 |
| 2層 | 黄褐色土  | ローム粒主体                      |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含                     |
| 4層 | 暗褐色土  | ローム粒少量含                     |
| 5層 | 黒色土   | ローム粒少量含                     |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒多量含                     |
- P6**
- |    |      |         |
|----|------|---------|
| 1層 | 暗褐色土 | ローム粒多量含 |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒多量含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒多量含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒多量含 |
| 5層 | 黄褐色土 | ソフトローム  |
- P7**
- |    |      |                               |
|----|------|-------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含<br>径5~10m大のロームブロック少量含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少量含<br>径5m大のロームブロック少量含    |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多量含                       |
| 4層 | 黒褐色土 | 径5~20m大のロームブロック少量含<br>ローム粒少量含 |
- P8**
- |    |      |                               |
|----|------|-------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含<br>径5~10m大のロームブロック少量含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少量含<br>径5m大のロームブロック少量含    |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多量含                       |
| 4層 | 黒褐色土 | 径5~20m大のロームブロック少量含<br>ローム粒少量含 |
- P8**
- |    |      |                            |
|----|------|----------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含                    |
| 2層 | 黄褐色土 | ソフトローム                     |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒多量含                    |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少量含<br>径5m大のロームブロック少量含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                    |

図253 B073

**B073**

検出地区 L5-72・73・82・83gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸m5.78×短軸m4.41、方位はN-44°-Wを測る。柱痕はP1～P5・P9で検出した。P2・P3・P5の柱痕には、白色粘土が若干混入していた。柱穴の掘込みの深さは0.24～0.54mであるが、不均一であった。覆土はロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体であるが、柱穴によって黒色土と黒褐色土の異なりがあった。

遺物 土師器片なども若干出土しているが、縄文早期・条痕文片が比較的多く出土している。しかし全体の出土量は少なく、いずれも小片である。

所見 長軸に対して横幅があり、一見、がっしりした掘立柱建物跡である。柱穴によってその規模に異なりがあるが、調査と測量日の時差であり、P9・P10のような長径は0.75m前後ではなかったかと考えられる。

**B074a**

検出地区 L5・84・94gにわたって検出した。

遺構 2×4間の掘立柱建物跡である。長軸8.60m×短軸5.00m、方位はN-41°-Wを測る。本建物跡に属する柱穴は、P1～P12の12基であった。このうち柱痕はP1～P8・P11・P12において検出した。柱穴の掘込みの深さは0.68～0.88mであり、0.72～0.80mの深さの柱穴が中心となっている。覆土は、ロームを含む黒色土・黒褐色土が主体であるが、柱痕内には白色粘土の混入した柱穴が多かった。

遺物 須恵器付・土師器壺（常総型）等の破片が出土している。また、縄文早期・条痕文片が比較的多かった。しかし全体の出土量は少ないものである。

所見 上谷遺跡での掘立柱建物跡は2×3間を基本としている。また、2間四方だが、1柱列のみ3間となる建物跡も目立つものであるが、2×4間以上の建物跡は少ない。そのなかで本建物跡は稀な2×4間の掘立柱建物跡である。Ⅳ地区においてはこの間数の建物跡が増えてはいるが、独特の建物跡となっている。なお、柱穴の長径が1.00mを越えるものが多いが、調査と測量の時間差と捉えている。本来は0.76m～0.80m程度であったかもしれない。

**B074b**

検出地区 L5-83・84・94gにわたって検出した。

遺構 1×2間の小規模な掘立柱建物跡である。B074a内に入ってしまう建物跡である。属する柱穴は、P13～P16・P25・P24の6基である。柱痕はP15のみで検出している。柱穴の掘込み深さは0.24～0.44mであり、0.40～0.44mがその中心となっており、深さについては均一化がとられていた。覆土は、ロームを包含した黒色土が中心となっていた。

遺物 遺物は少ないが、出土している。

所見 P16とB074aP6が重複しているが、重複状況を捉えられず、新旧関係は不明である。桁方向の長軸の軸線や配置状況から、B074b→B074aと想定している。また、P16の平面形が他の柱穴に比し大きく、壁の崩れも認められるところからも古いものと判断した。

**B074z**

検出地区 L5-83・84・94gにわたって検出した。

遺構 B074a・bに柱穴配置上、いずれにも属さないものを一括した。P10・P18・P19・P22・P23の4基である。P10・P22は軸線からズレるが、B074bに伴うかもしれない。また、P22・P25もまた、軸線からズレるがB074aの東柱と捉えられるかもしれない。いずれにしても明確ではなく、配置できない柱穴として扱っている。

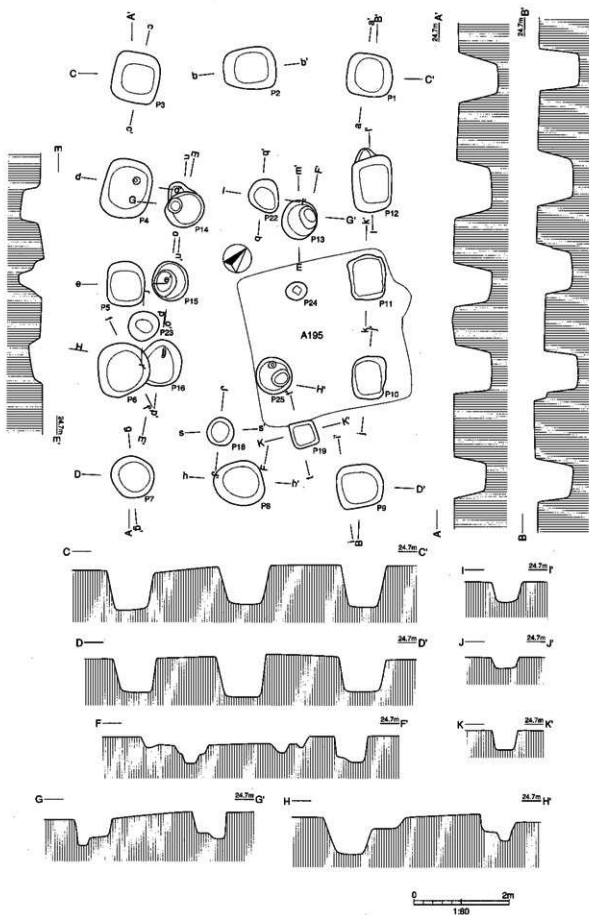
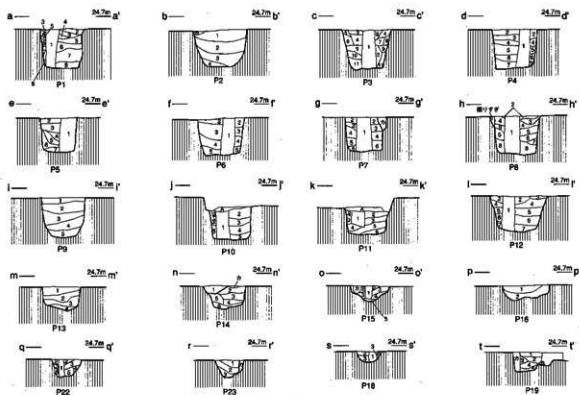


图254 B074abz



P1 1層 黒色土 ローム粒少量含 白色粘土少量含

- 2層 黒色土 ローム粒多量含  
 3層 黒色土 ローム粒少量含  
 4層 黒褐色土 ローム多少量含  
 5層 黒色土 ローム粒少量含  
 6層 黒褐色土 ローム粒多量含  
 7層 灰色土 ローム粒多量含  
 8層 黒色土 ローム粒少量含

- P2 1層 暗灰褐色土 黒褐色土主体の土に少量の白色粘土が混入  
 2層 黒褐色土 ローム粒少量含 白色粘土少量  
 3層 黒色土 ローム粒少量含  
 4層 黒色土 ローム粒少量含  
 5層 黒褐色土 ローム粒少量含

- P3 1層 暗灰褐色土 黒色土主体 ローム粒少量含 白色粘土少量  
 2層 暗灰褐色土 ローム粒少量含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少量含  
 4層 黒褐色土 ローム粒多量含  
 5層 暗黄褐色土 ソフトロームと黒褐色土が混入  
 6層 黒色土 ローム粒多量含  
 7層 黒色土 ローム粒少量含  
 8層 黒色土 ローム粒少量含  
 9層 黒褐色土 ローム粒多量含  
 10層 暗褐色土 ローム粒多量含  
 11層 暗褐色土 ローム粒多量含

- P4 1層 暗灰褐色土 褐色土主体の土 白色粘土少量混  
 2層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土少量混  
 3層 暗黄褐色土 黒褐色土とロームが軽く混入 ローム粒多量  
 4層 黒色土 ローム粒多量  
 5層 暗褐色土 ローム粒多量  
 6層 黒色土 ローム粒多量  
 7層 暗褐色土 ローム粒少量

- P5 1層 暗灰褐色土 黒色土主体の土 白色粘土少量  
 2層 黒褐色土 ローム粒、硬土粒少量  
 3層 黒色土 白色粘土少量混 ローム粒少  
 4層 黒褐色土 白色粘土少量混 ローム粒少  
 5層 黒色土 径5m大のロームブロック多  
 6層 黒褐色土 白色粘土少量混 ローム粒多  
 7層 黒色土 白色粘土少量混 径5~30m大のロームブロック多  
 8層 黒色土 白色粘土少量混 ローム粒少  
 9層 黒色土 白色粘土少量混 径5m大のロームブロック少

- P9 1層 黒色土 ローム粒多量含  
 2層 黄褐色土 ソフトローム径10~30m大のロームブロック粗く混入  
 3層 暗褐色土 径5~30m大のロームブロック粗く混入 ローム粒多  
 4層 暗黄褐色土 黒褐色土とソフトロームが軽く混入  
 5層 黒色土 径5~30m大のロームブロック多量含  
 6層 黒色土 ローム粒少量含

- P10 A層 暗黄褐色土 暗褐色土とロームが混入  
 1層 黒褐色土 ローム粒散  
 2層 黒色土 ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック多  
 3層 黄褐色土 ソフトローム主体 径10m大のロームブロック多  
 4層 黒色土 ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック多  
 5層 黒褐色土 ローム粒多量

- P6 1層 暗灰褐色土 黒色土主体の土 白色粘土少量混 ローム粒少  
 2層 黒色土 径5~20m大のロームブロック混入  
 3層 暗褐色土 白色粘土少量混 ローム粒多量  
 4層 黒褐色土 径30m大のロームブロック混入 ローム粒多  
 5層 黒色土 径10m大のロームブロック少量 ローム粒多  
 6層 黒褐色土 ローム粒多量

- P7 1層 暗灰褐色土 黒色土主体の土 白色粘土混含 ローム粒少  
 2層 暗褐色土 黒色土主体の土 白色粘土混含 ローム粒少  
 3層 暗褐色土 白色粘土混含 ローム粒少  
 4層 黒色土 ローム粒少  
 5層 暗褐色土 ローム粒多  
 6層 黒色土 ローム粒散

- P8 1層 暗灰褐色土 黒色土主体の土 白色粘土混含 ローム粒少  
 2層 暗褐色土 径10m大のロームブロック少 ローム粒多  
 3層 灰赤褐色土 白色粘土と塊土が混入  
 4層 暗褐色土 径5~10m大のロームブロック少  
 5層 黒褐色土 径5m大のロームブロック多  
 6層 黒色土 硬土粒散混 ローム粒少量  
 7層 暗褐色土 ローム粒散混 径5~10m大のロームブロック多  
 8層 黒色土 ローム粒少量  
 9層 暗褐色土 ローム粒少量 径5~10m大のロームブロック少  
 10層 暗褐色土 白色粘土少量

図255 B074a・b・z (2)



P11		
A層	暗黄褐色土	ローム粒少含
1層	黒褐色土	ローム粒微含 径5m大のロームブロック多含
2層	黒色土	ローム粒少量含 径5~10m大のロームブロック多
3層	暗褐色土	ローム粒多含
4層	黄褐色土	ローム粒多含 径5m大のロームブロック多含
5層	黒色土	ローム粒多含 径5m大のロームブロック多含
6層	黒褐色土	ローム粒多含 径5m大のロームブロック多含

P12		
1層	暗灰褐色土	黒褐色土主体の土に白色粘土少量含 ローム粒微
2層	黒褐色土	径5~20m大のロームブロック少含 ローム粒少含
3層	黒褐色土	径50m大のロームブロック散点 ローム粒少含
4層	黒褐色土	径5~10m大のロームブロック少量 ローム粒少含
5層	黒色土	径20m大のロームブロック散点 ローム粒少含
6層	黒褐色土	径1.5~20m大のロームブロック少量 ローム粒少含
7層	黒色土	径5m大のロームブロック少量 ローム粒少含

P13		
1層	黒色土	ローム粒少量含
2層	黒色土	ローム粒多量含 径5~10m大のロームブロック多
3層	黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少
4層	暗褐色土	ローム粒少量含

P14		
1層	黒褐色土	黒色土主体 ローム粒少量含
2層	黒色土	ローム粒少量含
3層	黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック多
4層	黒色土	ローム粒多量含
5層	黒褐色土	ソフトローム 黒色土混合
6層	暗褐色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック多

P15		
1層	黒色土	ローム粒少量含
2層	黒色土	ローム粒多量含
3層	黒色土	ローム粒多量含 径20m大のロームブロック少含
4層	黒褐色土	ローム粒多量
5層	黒褐色土	ローム粒少含

P16		
1層	黒褐色土	ローム粒多量含 径5m大のロームブロック少含
2層	暗褐色土	ローム粒多量含

P18		
1層	黒褐色土	ローム粒微量含 白色粘土微量
2層	黒褐色土	ローム粒少量含
3層	黒褐色土	ローム粒少量含

P19		
1層	黒褐色土	ローム粒少量含 白色粘土微量
2層	黒色土	ローム粒少量含
3層	黒褐色土	ローム多量
4層	黒色土	ローム粒微量含 径5m大のロームブロック少含
5層	黒色土	ローム粒少量含

P22		
1層	黒色土	ローム粒微量含
2層	黒色土	ローム粒少量含
3層	黒色土	ローム粒少量含 径5m大のロームブロック少
4層	黄褐色土	ソフトブロック
5層	黒褐色土	ローム粒多量含 径5~20m大のロームブロック多

P22		
1層	黒褐色土	ローム粒微量含
2層	黒色土	ローム粒微量含
3層	黄褐色土	ソフトローム主体

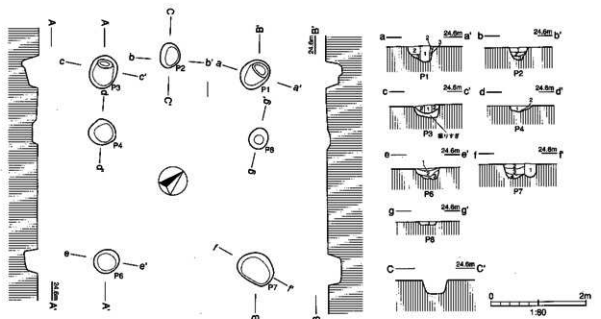


図256 B074a・b・z(3)

表64 B074遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	濃存	備考
1	須惠器 坏 転用碗	-×-×(9) ロクロ成形 外面体部下端は手持ちヘラケズリ	灰色 良	長石類 スコリア 細粒	全体の 1/2	坏の体部～ 底部片を用いて 復とする
2	土器器 甕	-×-×- 口縁は短く外反し踵部はつまみ上げ 口縁内外面ともナデ 胴部外面 はヘラケズリ後ヘラナデ 内面はヘラナデ	茶褐色 普	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁片	常態型甕



- |                                                                                                                     |                                                                                                                        |                                                                                     |                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <p><b>P1</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 黒色土と白色粘土混合<br/>ローム粒微量 焼土粒微量</p> <p>2層 黒褐色土 白色粘土微量 ローム粒少量</p> <p>3層 黒色土 ローム粒 白色粘土微量</p> | <p><b>P4</b></p> <p>1層 黒褐色土 ローム粒多量</p> <p>2層 暗褐色土 ローム粒多量</p>                                                           | <p><b>P6</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒少量</p> <p>2層 黒褐色土 ローム粒多量</p> <p>3層 黄褐色土 ソフトローム主体</p> | <p><b>P8</b></p> <p>1層 黒褐色土 白色粘土主体<br/>焼土粒 ローム粒微量</p> |
| <p><b>P2</b></p> <p>1層 黒褐色土 ローム粒少量</p> <p>2層 暗褐色土 ローム粒少量</p> <p>3層 黒色土 ローム粒多量</p>                                   | <p><b>P7</b></p> <p>1層 灰褐色土 白色粘土主体<br/>焼土粒 ローム粒微量</p> <p>2層 黒色土 ローム粒多量</p> <p>3層 黒褐色土 ローム粒多量</p> <p>4層 黒褐色土 ローム粒少量</p> |                                                                                     |                                                       |
| <p><b>P3</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 黒色土主体<br/>白色粘土少量</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少量</p>                                              |                                                                                                                        |                                                                                     |                                                       |

図257 B075

**B075**

検出地区 L5-84・94gにて検出した。

遺構 一部の柱穴が失われているが、本来は2×3間の掘立柱建物跡である。遺構の規模は小さかった。長軸4.24m×短軸3.20m、方位はN-43°-Wを測る。柱痕はP1・P3・P7で検出した。柱穴の掘込みの深さは0.08～0.38mであり、0.28m以上が4基であった。柱穴としてはやや浅い掘込みである。

覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体であり、柱痕覆土には白色粘土が入っていた。特にP7・P9の柱痕は白色粘土が主体を占め、充填されているようであった。

遺物 土師器・須恵器の小片が少量出土している。

所見 遺構検出面での遺構確認では2×3間の掘立柱建物跡と捉えられ、本来ある(P8)の位置にからうじて柱穴らしきものを捉えていた。調査の進行にともない消失した柱穴であり、掘込みは極めて浅いものと想定された。しかしP5・P7に相当する柱穴は、遺構検出時でも捉えられなかった。このようななかから、変則的な建物跡ではなく2×3間の掘立柱建物跡と捉えた。

**B076a**

検出地区 L5-84・94gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸7.10m×短軸5.00m、方位はN-48°-Eを測る。本建物跡に属する柱穴は、P1～P3・P5・P7・P9・P11・P13・P14の9基であった。柱痕はP5・P9の2基で検出されている。柱穴の掘込み深さは0.44～0.60mで差はあまりなかった。覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土であった。

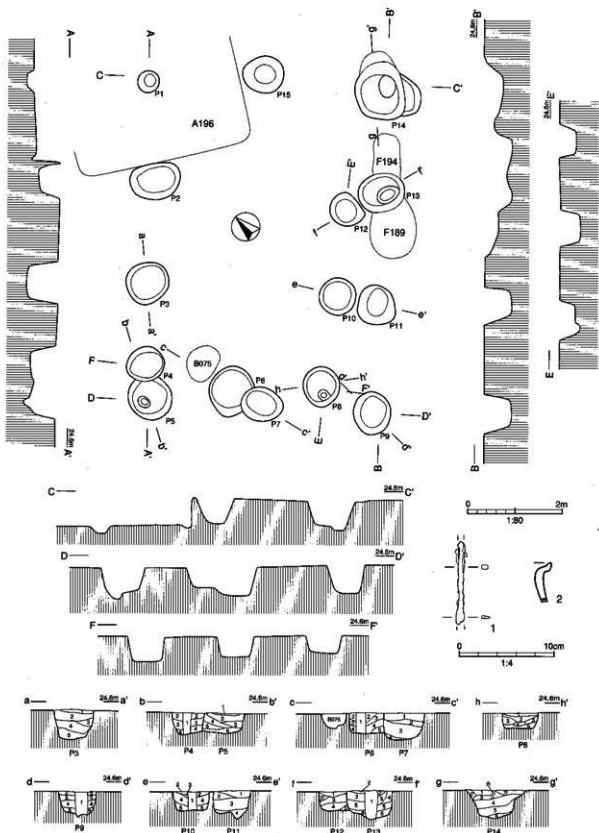


图258 B076a · b

P3		P9		
1層	黒色土	ローム粒	白色粘土微量	
2層	黒褐色土	白色粘土多量	ローム粒	焼土粒少量
3層	黒色土	白色粘土	ローム粒少量	
4層	黒褐色土	白色粘土	ローム粒少量	
5層	黒色土	ローム粒少量		
P4		P10		
1層	灰褐色土	白色粘土主体	黒褐色土少量混	
		ローム粒	焼土粒少量	
2層	暗灰色土	黒褐色土に白色粘土少量		
3層	黒褐色土	ローム粒少量		
4層	黒褐色土	ローム粒	白色粘土少量	
P5		P11		
1層	黒色土	ローム粒少量		
2層	黒褐色土	ローム粒	白色粘土少量	
			径5m大のロームブロック多量	
3層	黒色土	ローム粒少量		
4層	黒色土	ローム粒	白色粘土少量	
5層	黒色土	ローム粒微量		
6層	黒褐色土	ローム粒少量		
P6		P12		
1層	暗灰褐色土	黒褐色土主体	白色粘土少量	
2層	黒色土	ローム粒	白色粘土少量	
3層	暗灰褐色土	第1層と同じような土質		
			径5m大のロームブロック少量	
4層	黒色土	ローム粒	白色粘土少量	
5層	暗褐色土	ローム粒少量	径5~10m大のロームブロック少量	
P7		P13		
1層	黒褐色土	ローム粒少量	白色粘土少量	
			径20m大のロームブロック多量	
2層	黒色土	ローム粒少量	白色粘土少量	
3層	暗灰褐色土	黒褐色土に白色粘土が混	焼土粒微量	
		白色粘土多量		
4層	暗褐色土	ローム粒多量		
P8		P14		
1層	黒色土	ローム粒多量	焼土粒微量	
2層	黒褐色土	ローム粒多量	径5~30m大のロームブロック多量	
3層	黒色土	ローム粒多量	径5~30m大のロームブロック多量	
4層	灰褐色土	白色粘土主体	黒色土少量	
5層	黒色土	ローム粒少量		
1層	暗灰褐色土	黒褐色土に白色粘土少量	ローム粒少量	
2層	暗灰褐色土	第1層と似たような土	ローム粒少量	
3層	黒褐色土	ローム粒少量	白色粘土微量	
4層	黒色土	ローム粒少量	白色粘土微量	
5層	黒褐色土	ローム粒少量	焼土粒微量	
1層	暗灰褐色土	黒褐色土に白色粘土混合	ローム粒少量	
2層	黒褐色土	ローム粒多量	白色粘土少量	
3層	黒色土	ローム粒少量	径5m大のロームブロック少量	
4層	暗褐色土	ローム粒少量	径5m大のロームブロック多量	
5層	黒褐色土	ローム粒多量	径5~10m大のロームブロック多量	
6層	黒褐色土	ローム粒多量	径5~10m大のロームブロック多量	

図259 B076a・b(2)

遺物 B076としては土師器甕(常総型)片や須恵器片、縄文早期・条痕文片が少量出土している。

所見 B076bと共に、P1~P3・P14・P15を利用した掘立柱建物跡である。新旧関係は本建物跡がB076bより新しいものであった。2棟の重複であるが、建替えと捉えた方がよい建物跡である。

B076b

検出地区 L5-84・94にて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.34m×短軸3.84m、方位はN-54°Eを測る。柱痕はP6・P10で検出されており、柱痕覆土は白色粘土を充填している。柱穴の掘込みの深さは0.36~0.66mであり、やや不均一であった。覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体となっている。

遺物 土師器・須恵器、縄文早期・条痕文片が少量出土している。

所見 P3などは重複するB076aへ再利用されたため、柱穴の規模が大きくなったものと捉えている。当初は2×2間の建物跡と捉えていたが、北コーナーの柱穴がA196によって失われたものと考え、2×3間の掘立柱建物跡と判断した。

表65 B076遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	鉄器 不明	87.5×7×4.5 —×9×3 重量7.5g			断片	刀子か?
2	土師器 壺	—×—×— 口径は短く外反し端部はつまみ上げ 口縁内外面ナデ 胴部外面はヘラケズリ後ヘラナデ 内面はヘラナデ	外橙褐色 内茶褐色 黄	雲母 花崗岩 スコリア 細粒	口縁へ 胴上部 片	常総型壺

## B077

検出地区 L5-94・95g、L6-5gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.36m×短軸4.16m、方位はN-45°-Wを測る。上谷遺跡Ⅳ地区でも、やや大形の掘立柱建物跡となっている。柱痕はP1～P5・P6・P8～P10にて検出され、P6・P10では柱痕覆土に白色粘土が混入していた。柱穴の掘込みの深さはP7の0.14mは例外として、0.32～0.68mである。0.60m台が3基、0.40m台が4基となっている。P4は坑底に柱をのせるのではなく、掘込んだ後、黒色土・黒褐色土を投入し柱を置いた様子が窺えた。四隅の柱穴の深さはP1が0.48m、P3が0.60m、P6が0.56m、P8が0.48mとなっており、P4・P5に比べ深くなっているわけではないが、加重を支えるであろう深さは持っていた。覆土は、ロームを包含する黒色土・黒褐色土を主体として突固められたものであった。

遺物 出土遺物は少なく、小片が多かった。須恵器蓋の破片を確認している。また、縄文早期・条痕文片も少量出土している。

所見 上谷遺跡の中でも所謂「通常」の掘立柱建物跡である。本遺跡では2×3間の掘立柱建物跡が最も多く検出されているが、その中でもやや規模が大きい建物跡である。P2で時代の異なるとF188と重複する以外は、掘立柱建物跡としては単独のものであり、上谷遺跡Ⅳ地区においてはわかりやすい遺構であった。

P4・P6・P10の柱痕覆土に白色粘土を認めたが、「充填」と言うより混合したものであり、他の柱穴覆土が分層される建物跡とはやや異なっている。しかしⅣ地区に入って掘立柱建物跡の柱痕覆土に、白色粘土の混入及び「充填」が始まっていることを捉えられたことは調査の成果の一つである。「充填」と「混合」は分けて捉えた方がよいのかもしれない。意識的に白色粘土を柱痕に入れていることは、今後「柱の立腐れ」と言われてきた柱痕を再検討すべきことかもしれない。

また、重複する掘立柱建物跡のそれぞれ柱穴に柱痕が残ることが多い本遺跡において、どのように建物跡が建ったのかも疑問が生じている。今後報告することとなるⅤ地区においても、Ⅳ地区から続く掘立柱建物跡群が継続しており、併わせて検討していきたい。

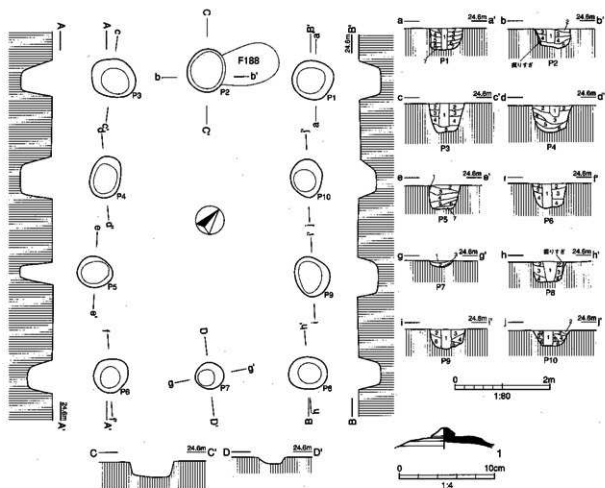
## B078

検出地区 L6-3・4gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.52m×短軸2.48m、方位はN-45°-Eを測る。規模に比して柱穴が大きくなっている。柱痕はP2・P4・P5・P6の4基で検出した。柱痕覆土には、白色粘土の混入は認められなかった。柱穴の深さは0.32～0.56mである。覆土はロームを包含する黒色土・黒褐色土であった。

遺物 土師器・須恵器片を中心に、小片が若干出土している。

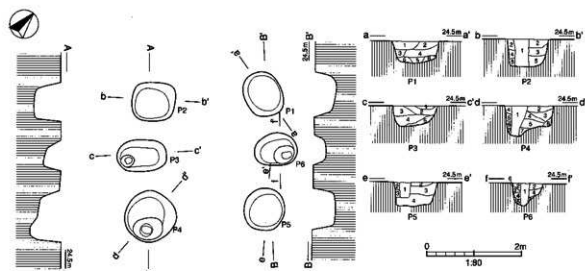
所見 1×2間の掘立柱建物跡であり、遺構規模も大きくない建物跡にしては柱穴規模が極めて大きく不自然であった。



- P1**
- |    |      |        |       |
|----|------|--------|-------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量 | 含     |
| 2層 | 黒色土  | 焼土粒微量  | 含     |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少量 |       |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多量 |       |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒   | 焼土粒少量 |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少量 |       |
| 7層 | 黒色土  | ローム粒少量 |       |
- P2**
- |    |       |                     |        |
|----|-------|---------------------|--------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黄褐色土に多量の白色粘土混合      | ローム粒少量 |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒多量              |        |
| 3層 | 黒色土   | ローム粒多量径5m大のロームブロック少 | 欠      |
| 4層 | 暗褐色土  | ローム粒多量径5m大のロームブロック少 | 欠      |
| 5層 | 黄褐色土  | ソフトローム主体            |        |
- P3**
- |    |       |                      |   |
|----|-------|----------------------|---|
| 1層 | 暗灰褐色土 | ローム粒少                | 含 |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少径5m大のロームブロック    | 含 |
| 3層 | 黒色土   | ローム粒少径5~10m大のロームブロック | 少 |
| 4層 | 暗褐色土  | ローム多                 | 含 |
| 5層 | 黄褐色土  | ローム多                 | 含 |
- P4**
- |    |      |        |                  |
|----|------|--------|------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微量 | 白色粘土微量           |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒多量 | 径5~10m大のロームブロック少 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多量 | 径5~10m大のロームブロック少 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多  | 含                |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒多  | 径5m大のロームブロック多    |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒多  | 含                |
- P5**
- |    |      |         |                |
|----|------|---------|----------------|
| 1層 | 黄褐色土 | ロームブロック |                |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少   |                |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少   | 径10m大のロームブロック少 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少   | 含              |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒多   | 含              |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少   | 量              |
| 7層 | 黄褐色土 | ソフトローム  |                |

- P6**
- |    |      |        |              |
|----|------|--------|--------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微量 | 白色粘土微量       |
| 2層 | 黄褐色土 | ローム粒微量 | 径5m大のロームブロック |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多  | 含            |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少  | 量            |
- P7**
- |    |      |            |   |
|----|------|------------|---|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒多      | 量 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少      | 量 |
| 3層 | 黄褐色土 | ソフトロームブロック |   |
- P8**
- |    |      |       |   |
|----|------|-------|---|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少 | 量 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒多 | 量 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少 | 量 |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒多 | 含 |
- P9**
- |    |      |          |               |
|----|------|----------|---------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少    | 量             |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒多    | 量             |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少    | 含             |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多    | 径5m大のロームブロック少 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少    | 量             |
| 6層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体 | 黒色土少量         |
- P10**
- |    |       |              |               |
|----|-------|--------------|---------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 黒褐色土に白色粘土が混合 | ローム粒          |
| 2層 | 黒色土   | 白色粘土少        | 含             |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒多        | 量             |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒多        | 量             |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒多        | 量             |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒多        | 径5m大のロームブロック少 |

図260 B077



- P1**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含 径5~10m大のロームブロック少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多含
- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含 径5m大のロームブロック少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~20m大のロームブロック少含
  - 3層 黄褐色土 ローム粒少含 径5~10m大のブロックの集合体のような土
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含 径5~30m大のロームブロック少含
- P3**
- 1層 暗褐色土 ローム粒多含 径5m大のロームブロック多含
  - 2層 暗褐色土 ローム粒多含 径5m大のロームブロック少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~20m大のロームブロック多含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 黄褐色土 ソフトローム主体 黒色土少含

- P4**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 5層 黒色土 ローム粒多含
  - 6層 黒色土 ローム粒少含
  - 7層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 8層 黄褐色土 ソフトローム主体
- P5**
- 1層 黒色土 ローム粒多含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~20m大のロームブロック多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒少含 径20m大のロームブロック少含
- P6**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 6層 黄褐色土 ソフトロームブロック
  - 7層 黄褐色土 黒色土とソフトロームが混じり

図261 B078

表66 B077遺物観察表

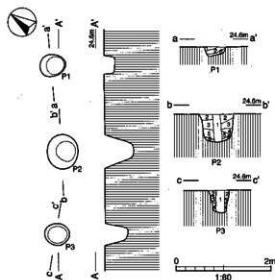
(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 蓋	-×-×(22) ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 宝珠部をジョイントする	灰色 香	雲母 花崗岩 細粒	天蓋部 の大手 と宝珠 部	常陸産

表67 B078遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 蓋	-×-×(21) ロクロ成形 外面の天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ宝珠部をジョイントする	灰色 香	スコリア 細粒 花崗岩粒	天蓋部 完存 宝珠部	常陸産 未揭示



- P1
- |    |      |        |
|----|------|--------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含 |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒少含 |
- P2
- |    |      |                              |
|----|------|------------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒限含                       |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                       |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含                       |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含 径5~30m大の<br>ロームブロック少含 |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム少含                        |
| 6層 | 暗褐色土 | ローム少含                        |
- P3
- |    |       |                           |
|----|-------|---------------------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒少含 径5m大の<br>ロームブロック少含 |
| 2層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とソフトロームが粗く混合           |
| 3層 | 黒色土   | 黒色土とソフトロームが粗く混合           |
| 4層 | 黒褐色土  | 黒褐色土とソフトロームが粗く混合          |

図262 B079

B079

検出地区 L5-95gにて検出した。

遺構 図262では横列のように見えるが、掘立柱建物跡の欄柱列の片側だけの検出であると捉えた。長軸3.6m×短軸1m、方位は不明である。また、間数も捉えられなかった。柱痕はP2・P3にて捉えられた。柱穴の掘込みの深さはP1の0.20mという浅さは例外として、P2は0.62m、P3は0.48mと、他の建物跡にも劣らない深さを有していた。柱痕覆土及び柱穴の覆土はロームを包含した黒色土が主体であり、どちらにも白色粘土の混入は認められなかった。

遺物 縄文早期・条痕文片が少量出土したのみで、土師器・須恵器片などは出土しなかった。

所見 調査時も判断に迷う遺構であったが、柱痕の太さや掘込みの深さなどから、掘立柱建物跡の柱穴と判断した。規模が1×2間になるのか、それ以上の規模をもつものかは不明であるが、2×3間の建物跡が多く柱穴を失う可能性は低く、恐らく1×2間の建物跡であろうと考えている。

当該時期の遺物は出土せず、縄文時代の遺物のみであったが、早期・条痕文期の炉穴群もあるIV地区において、流込みと捉えた。

B080

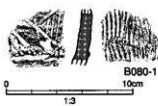


図263 B080

検出地区 L5-75・76gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.82m×短軸3.64m、方位はN-58°Eを測る。弥生時代のA205と重複している。A205の覆土に掘込んだ柱穴は、住居跡の床までは達していなかった。A205の覆土との色調が異なることから、柱穴の存在を確認できたものである。柱痕は、P1・P7～P10の5基に検出した。柱痕覆土には、白色粘土認められなかった。柱

穴の掘込みは0.48～0.72mであり、0.50m台が5基であった。四隅の柱穴は、中間の柱穴に比し深い傾向を示している。

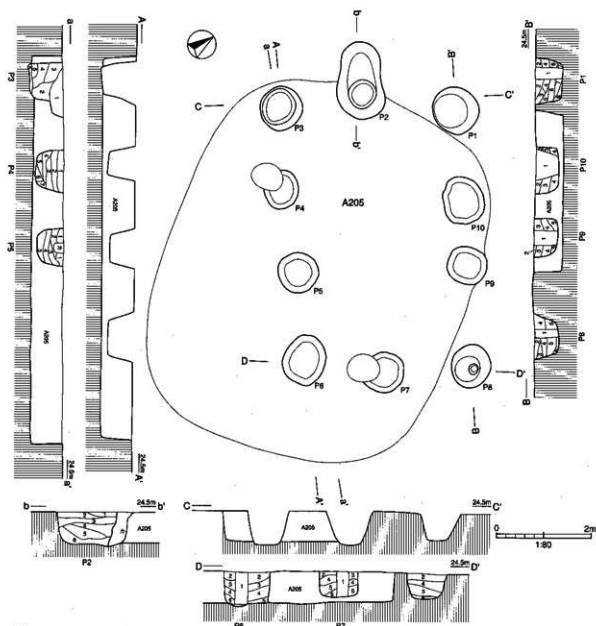
覆土はロームを包含した黒色土・黒褐色土であった。

遺物 土師器・須恵器小片が出土し、また、縄文早期・条痕文片も出土している。出土量は少なかった。1は外面、沈線区画した中に集合沈線を施し、内面は縦位に条痕文を施文している縄文早期・条痕文片である。

所見 やや整然とした掘立柱建物跡であるが、柱穴の大半が堅穴住居跡の覆土中であり、意識的な捉え方をしているかもしれない。



柱痕が確認できない柱穴もあったが、覆土の堆積が整然としていることから、柱の引抜きは行われなかったのではなかろうか。一方、P10は柱痕と見られる覆土が上に広がっていることから、引抜きが行われているかもしれない。調査では捉えられなかった。



- P1**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微含                  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含    |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含    |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含    |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含 |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含    |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含 |
| 8層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
- P2**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含     |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含     |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒、径5~20mmの大ロームブロック多含 |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含    |

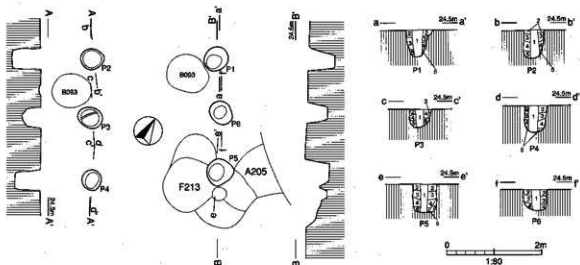
- P3**
- |    |      |                      |
|----|------|----------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | ローム粒、焼土粒少含           |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒少含               |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含               |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含               |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少含               |
- P4**
- |    |      |                        |
|----|------|------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 径5mm大のロームブロック微含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒微含                 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 焼土粒微含           |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒微含                 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                 |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒微含                 |
| 7層 | 黒色土  | ローム粒少含                 |

図264 B080 (2)

P5		
1層	黒褐色土	ローム粒少含 焼土粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含 焼土粒微含
3層	黒褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒微含
5層	黒褐色土	ローム粒多含
P6		
1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
3層	黒褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含
5層	黒色土	ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含
6層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
P7		
1層	褐色土	ローム粒微含
2層	黒褐色土	ローム粒多含
3層	黒色土	ローム粒少含
4層	黒褐色土	ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック少含
5層	黒色土	ローム粒、径10mm大のロームブロック少含
6層	黒色土	ローム粒少含

P8		
1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム粒少含
4層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
5層	黒褐色土	ローム粒少含
6層	暗褐色土	ローム粒微含
P9		
1層	黒褐色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム粒少含
4層	黒色土	ローム粒少含
5層	黒褐色土	ローム粒少含 焼土粒微含
P10		
1層	黒褐色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒微含
3層	黒色土	ローム粒、白色粘土粒少含
4層	黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒、径5mm大のロームブロック少含

図265 B080 (3)



P1		
1層	黒色土	ローム粒、白色粘土粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	暗褐色土	ローム粒少含
4層	黒色土	ローム粒少含
5層	黒色土	ローム粒多含
P2		
1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒微含
4層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
5層	暗褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
P3		
1層	黒色土	ローム粒微含
2層	暗褐色土	ローム粒多含
3層	黒色土	ローム粒少含
4層	黒色土	ローム粒少含
5層	黒褐色土	ローム粒多含

P4		
1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒微含
5層	暗褐色土	ローム粒少含
P5		
1層	黒色土	ローム粒、白色粘土粒少含 焼土粒微含
2層	暗褐色土	ローム粒多含
3層	黒色土	ローム粒少含 白色粘土粒微含
4層	黒色土	ローム粒少含
6層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
7層	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
P6		
1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒少含

図266 B081

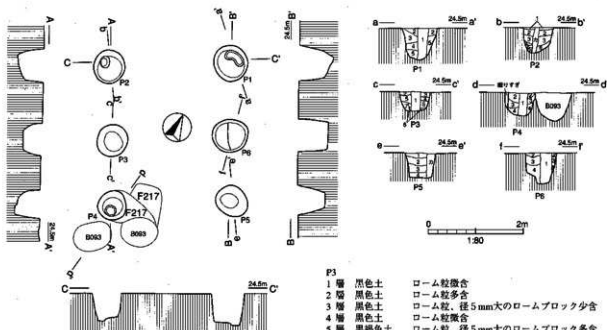
B081

検出地区 L5-76gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.62m×短軸2.52m、方位はN-32°Eを測る。全ての柱穴で、柱痕を検出した。P1の柱痕では、白色粘土が混入していた。柱穴の掘込みは、0.40~0.62mとなっていた。覆土は、ロームを包含した黒色土が主体となっている。

遺物 出土は稀であり、主に流込んだ縄文時代の遺物であった。黒曜石剥片も出土している。

所見 掘立柱建物としては、小規模な建物跡であった。



- P1**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                  |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含                  |

- P2**
- |    |      |                        |
|----|------|------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒多含                 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含                 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黒褐色土 | ソフトローム主体 黒色土少量混合       |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少含                 |
| 6層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体 黒色土少量混合       |

- P3**
- |    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒微含               |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒多含               |
| 3層 | 黒色土   | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒微含               |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック多含 |
| 6層 | 黒色土   | ローム粒少含               |
| 7層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とソフトロームが粗く混合      |

- P4**
- |    |     |                         |
|----|-----|-------------------------|
| 1層 | 黒色土 | ローム粒微含 白色粘土粒多含          |
| 2層 | 黒色土 | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含    |
| 3層 | 黒色土 | ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含 |
| 4層 | 黒色土 | ローム粒多含                  |

- P5**
- |    |      |                        |
|----|------|------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒多含                 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含                 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多含                 |

- P6**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                  |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒、径5mm大のロームブロック多含    |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒多含                  |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含 |

図267 B082

**B082**

検出地区 L5-65・66・76gにわたって検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.08m×短軸2.56m、方位はN-28°Eを測る。細身の建物跡である。柱痕は1・P3・P4・P6で検出した。P4の柱痕には、白色粘土が混入していた。柱穴の掘込みは0.44~0.68mであり、0.60m前後が多かった。柱穴覆土は、ロームを包含した黒色土が主体であった。

遺物 土師器・須恵器片が若干出土している。また、流込みの縄文時代の遺物も出土している。

所見 1×2間の掘立柱建物跡としても、長軸に対して短軸がない細身の建物跡である。また、長軸方向を2間とすると柱間は1.50m前後と、短軸2.56mよりも更に柱間距離が短いものとなっている。これはB081にも言えたが、1×2間の建物跡を中心に窺える傾向であった。

上谷遺跡Ⅳ地区にはいると、1×2間の掘立柱建物跡が増加している。狭い範囲に掘立柱建物跡群が集中していて把握が困難な面も否定できないが、この傾向が、V地区にも続くのか今後の整理の中で検討していきたい。

なお、本建物跡B093・F217と重複している。重複関係を覆土などから、F217→B082→B093と捉えられた。

B083a

検出地区 L5-65gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.18m×短軸3.16m、方位はN-40°-Eを測る。また、本建物跡に属する柱穴はP1a~P4・P10・P11の6基である。柱痕はP1a~P4で検出し、P1とP5は柱痕覆土に白色粘土が混入していた。柱穴の掘込みの深さは0.32~0.88mと一定ではなかった。しかし0.80~0.88mが3基あり、北西及び南西側柱列が深い傾向が窺えた。覆土はロームを包含した黒色土であり、黒褐色土は少なかった。

遺物 土師器・須恵器小片が若干出土している。また、縄文早期・条痕文片も少量出土している。

所見 B083は当初、2間四方の総柱式とするか判断に迷った掘立柱建物跡である。しかし調査を進める中で、P1・P5・P6において柱穴が重複することを捉え、1×2間の建物跡の2棟の重複と判断した。新旧関係は不明瞭であるが、本建物跡が新しいかもしれない。

B083b

検出地区 L5-65gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.72×短軸2.48m、方位はN-42°-Eを測る。また、本建物跡に属する柱穴はP1b・P5・P6・P12・P13の5基があり、P14に相当する柱穴は掘乱のため、失われていた。柱痕は、P1bとP6において検出した。柱痕覆土には、白色粘土は認められなかった。柱の掘込みの深さは0.40~0.66mであった。柱穴覆土はB083bと近似し、ロームを包含した黒色土であり、黒褐色土は少なかった。

遺物 柱穴が混在したため、B083aと一括で取り上げている。

所見 本掘立柱建物跡は南側に対して、北側が広がる建物跡である。このため一見、平面形は台形状となっている。

B084

検出地区 L5-54・55・65gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.98m×短軸4.00m、方位はN-39°-Wを測る。やや短軸に比して、長軸が長くなる建物跡でもある。柱痕はP8を除き検出した。柱痕覆土はP1・P4では、白色粘土の混入を認めた。柱穴の掘込みの深さは0.22~0.62mと差が大きく、

0.2m台2基、0.30m台が1基、0.40m台が4基、0.50m台が2基、0.60m台が1基と一様ではなかった。しかも四隅の柱穴が、全て深いということもなかった。柱穴覆土はロームを包含した黒色土であり、黒褐色土は少なかった。

遺物 土師器小片が、少ないが出土している。その他に縄文早期・条痕文片や中期土器片、礫等も出土している。1は口唇に刻み目を有する条痕文片である。2は横走沈線による区画内に梯子状に施文している。

所見 柱穴配置から「がっしり」した掘立柱建物跡である。北東側柱列は、中間の柱となるP9~P11の3基が建物跡の柱穴に比べ浅くなっている。そしてこのことから、P11のみ本建物跡から遺漏する柱穴となるが、P12が浅いための補助柱穴であろうか。あるいは東柱の未検出から、倉庫跡より北東側柱列を出入口とする住居跡と捉えるべきかもしれない。

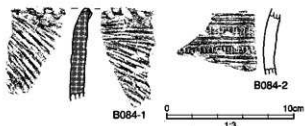
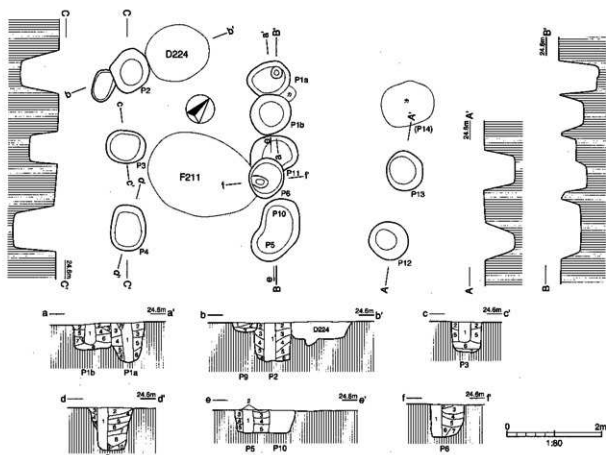


図268 B084



**P1a**

- |    |      |                     |
|----|------|---------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒微含        |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含              |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 |
| 4層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体 黒褐色土少混     |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少含              |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少含              |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒少含              |
| 8層 | 暗褐色土 | ローム粒少含              |

**P1b**

- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含     |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含     |
| 3層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体 径5mm大ロームブロック多含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少含 径5mm大ロームブロック多含   |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少含                  |

**P2**

- |    |      |                       |
|----|------|-----------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含   |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 径5mm大ロームブロック多含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含   |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大ロームブロック多含   |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少含                |

**P3**

- |    |      |                           |
|----|------|---------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含                    |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒多含                    |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含       |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含       |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 焼土粒微含 |
| 7層 | 黒色土  | ローム粒微含                    |

**P4**

- |     |      |                     |
|-----|------|---------------------|
| 1層  | 黒色土  | ローム粒微含              |
| 2層  | 黄褐色土 | ソフトローム主体 黒色土少混      |
| 3層  | 黒色土  | ローム粒少含              |
| 4層  | 黒色土  | ローム粒少含 焼土粒微含        |
| 5層  | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 |
| 6層  | 黒色土  | ローム粒少含              |
| 7層  | 黒色土  | ローム粒微含              |
| 8層  | 黒色土  | ローム粒多含              |
| 9層  | 黒色土  | ローム粒微含              |
| 10層 | 黒色土  | ローム粒少含              |

**P5**

- |    |      |                     |
|----|------|---------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含 白色粘土少含       |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含              |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含              |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 |

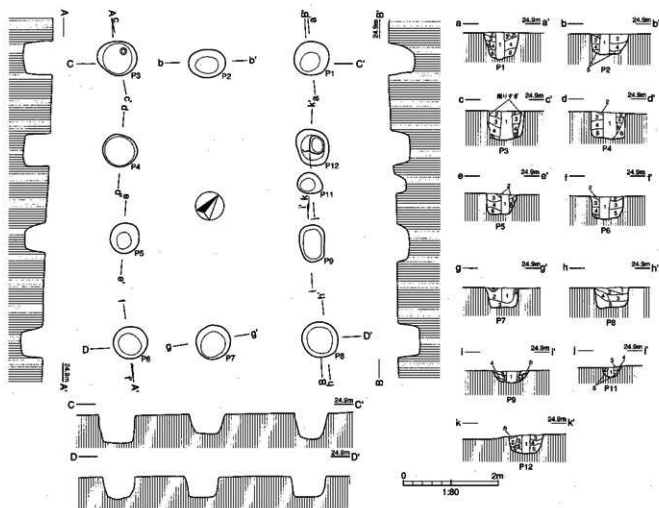
**P6**

- |    |      |                     |
|----|------|---------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含              |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含              |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含              |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含              |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含              |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒少含              |

**P9**

- |    |     |                     |
|----|-----|---------------------|
| 1層 | 黒色土 | ローム粒微含              |
| 2層 | 黒色土 | ローム粒少含              |
| 3層 | 黒色土 | ローム粒、径5mm大ロームブロック少含 |

図269 B083a・b



**P1**

1層	黒色土	ローム粒、白色粘土粒少含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒、径5mmの大ロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒少含
5層	黒褐色土	ローム粒少含
6層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック多含

**P2**

1層	黒色土	ローム粒少含
2層	黒褐色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒微含
4層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
5層	暗褐色土	ローム粒少含

**P3**

1層	黒褐色土	ローム粒少含
2層	黒褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
3層	暗褐色土	ローム粒多含
4層	黄褐色土	ソフトローム主体、径5mm大のロームブロック多含
5層	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合

**P4**

1層	黒色土	ローム粒、白色粘土粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム粒多含
4層	黒色土	ローム粒多含
5層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック多含
6層	黒褐色土	ローム粒多含

**P5**

1層	黒色土	ローム粒少含
2層	黒褐色土	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム粒多含
4層	黒褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
5層	暗褐色土	黒褐色土とソフトロームが粗く混合

**P6**

1層	黒色土	ローム粒少含
2層	黒褐色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームのブロック少含
4層	黒褐色土	ローム粒少含
5層	黒色土	ローム粒、径5~20mm大のロームブロック多含

**P7**

1層	黒褐色土	ローム粒微含
2層	黒褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
3層	暗褐色土	ローム粒少含

**P8**

1層	黒褐色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック多含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒少含、径5mm大のロームブロック多含
4層	黄褐色土	ソフトローム、黒色土少量混入
5層	黒色土	ローム粒少含

**P10**

1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黒色土	ローム粒少含
3層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
4層	黒褐色土	ローム粒少含
5層	黄褐色土	ソフトローム、ローム粒少含

**P11**

1層	黒色土	ローム粒微含
2層	黄褐色土	ソフトローム、黒色土少量混入
3層	黒色土	ローム粒少含
4層	暗褐色土	ローム粒微含
5層	黒色土	ローム粒、径5mm大のロームブロック少含

**P12**

1層	灰色土	ローム粒微含
2層	黒褐色土	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム粒多含
4層	暗褐色土	ローム粒少含
5層	ローム土	ローム粒少含

図270 B084 (2)

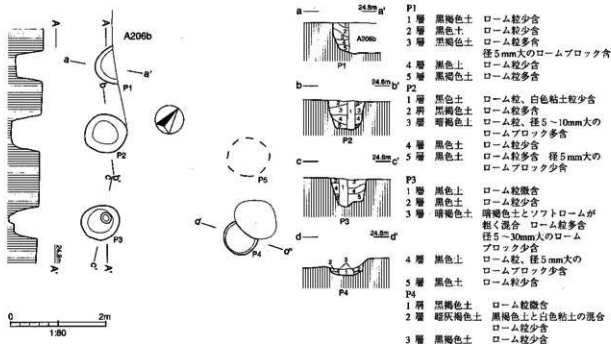


図271 B085

#### B085

検出地区 L5-65gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.44m×短軸(3.00)m、方位はN-34°Wを測る。A206bと重複し、P6相当の柱穴を欠いている。また、遺構検出時には確認できたP5相当の柱穴は、検出作業において消失するほど浅いものであった。柱痕はP2・P3・P4で検出した。P2の柱穴覆土には、白色粘土の混入を認めた。柱穴の掘込みの深さは0.52~0.60mと、深さを計測できる柱穴では均一化していた。覆土はロームを含む黒色土・黒褐色土が主体であり、柱穴によって覆土の色調に差が生じている。

遺物 一括の取り上げであったが、全重量は少なかった。その中では、縄文早期・条痕文片の出土は多かった。

所見 1×2間の掘立柱建物跡と捉えたが、A206との重複で失われた柱もあるかもしれない、規模は不明瞭である。しかしP5相当の柱穴の浅さは、柱列の間中としても浅すぎるものであり、東側柱列を出入口と捉えれば住居跡の可能性もあることを指摘しておきたい。

#### B086

検出地区 L5-53・54・64gにて検出した。

遺構 B086は3棟の掘立柱建物跡と楕円の重複と捉えた。集中して存在するため、遺構検出時には全てを把握できなかったが、調査の過程で柱穴の重複が確認され、最終的に4棟と捉えたものである。一括図とすると判然としないうため、分離することとした。また、楕円は本書の報告体裁では別図とすべきだが、関連する遺構であり、大きく本建物跡に含めることとした。

遺物 本建物跡からの出土は重複するため、全体としては掘立柱建物跡としては多いが、各建物跡になると出土量は少なく平均的である。土師器・須恵器の小片がやはりその主体を占めるが、炉穴群もあり、縄文時代早期の土器も混入している。

以上を基に、次に各遺構について報告していきたい。

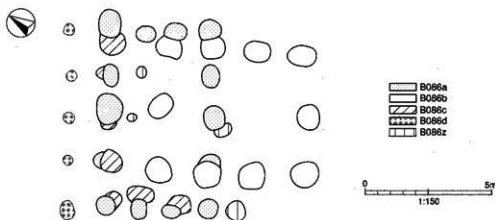


図272 B086a・c・d・z配置図

#### B086a

**遺構** 3×4間の掘立柱建物跡である。長軸7.20m×短軸4.20m、方位はN-32°-Eを測る。本建物跡に属する柱穴は、配置順にP37・P9・P11・P12・P12a・P5a・P6a・P23～P30である。B086aのなかで最も規模の大きな建物跡である。柱痕の検出状況は表87を見ていただきたい。柱痕の覆土には、白色粘土は認められなかった。柱穴の掘込み深さは0.44～0.66mとなっており、そのうち0.52～0.56mが主体をしめていた。これから、柱穴の深さは均一化していたといえよう。四隅の柱穴であるP37・P5a・P24・P28もそれぞれ0.56m、0.48m、0.56m、0.54mであり深いわけではなかった。覆土は、ロームを包含する黒色土と黒褐色土を基本としている。

**遺物** 出土遺物は多くはなかった。土師器・須恵器小片を主体としているが、縄文早期の土器片も出土する。図示した1は須恵器杯であり、底部を欠損している。P9から出土した。2は縄文早期・弥生文土器である。P30から出土している。

**所見** 遺構図を分離すると、整然とした2×4間の掘立柱建物跡であることがわかる。P37・P11・P26等の柱穴規模が大きくなることは、B086cとの柱穴の重複・拡張使用と捉えた。

#### B086b

**遺構** 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.84m×短軸4.88m、方位はN29°-Eを測る。本建物跡に属する柱穴はP13～P21・P33である（柱痕検出柱穴は表84を参照）。柱痕覆土に、白色粘土の混入は認められなかった。柱穴の掘込み深さは0.22～0.64mとなっているが、0.44～0.60mが主体を占め、P33の0.22mが例外的な浅さとなっている。また、四隅の柱穴はP13が0.60m、P16が0.60m、P18が0.50m、P21が0.64mと近似する深さではあったが、特に深いという傾向は無かった。柱穴の覆土は、ロームを包含する黒色土・黒褐色土が主体となっている。

**遺物** 土師器・須恵器小片を主体として、少量が出土している。

**所見** 上谷遺跡の2×3間の建物跡は多くの場合、当然ながら長軸方向に長方形の平面形状となっているが、本建物跡は方形に近似する形状となっている。例外的な建物跡であろうか。

一方、B086aと大きく交差する建て方から時期的に差があるとみれるが、時期を決定する資料が無く判然としない。Ⅳ地区のこの掘立柱建物跡群はⅤ地区に継続されており、その整理をまって合わせて検討していきたい。



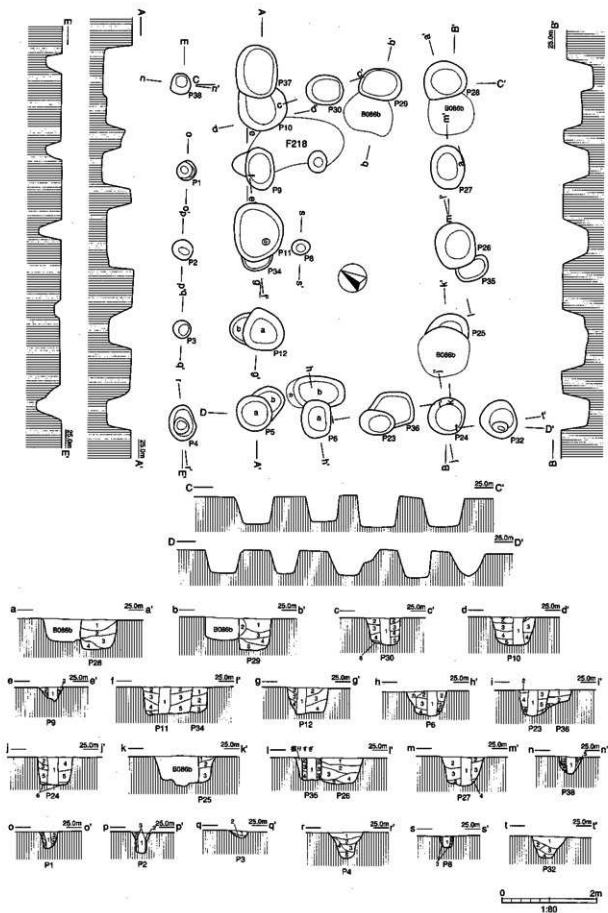


图273 B086a·c·d·z

- P1  
 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土粒微含  
 3層 黒色土 ローム粒少含
- P2  
 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒多含
- P3  
 1層 黒色土 ローム粒少含  
 2層 暗褐色土 ローム粒少含
- P4  
 1層 黒色土 ローム粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒微含  
 3層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含  
 5層 黒色土 ローム粒少含
- P6  
 1層 灰色土 ローム粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒色土 ローム粒、径5-10mm大のロームブロック少含  
 4層 黒色土 ローム粒微含
- P8  
 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
- P9  
 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土粒微含  
 3層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
- P10  
 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒少含  
 4層 黒色土 ローム粒微含  
 5層 黒褐色土 ローム粒少含
- P11  
 1層 黒色土 ローム粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含  
 3層 黒褐色土 ローム粒、径5-10mm大のロームブロック少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大のローム粒含  
 5層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
- P12  
 1層 灰色土 ローム粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含  
 3層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含  
 4層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
- P23  
 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 暗褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒褐色土 ローム粒微含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含 炭化物微含  
 5層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大のブロック少含  
 6層 黒色土 ローム粒多含  
 7層 暗褐色土 ローム粒多含
- P24  
 1層 灰色土 ローム粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒微含  
 3層 黒色土 ローム粒多含  
 4層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含  
 5層 黒色土 ローム粒少含  
 6層 暗褐色土 ローム粒少含
- P25  
 1層 黒褐色土 ローム粒多含  
 2層 暗褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含  
 4層 暗褐色土 ローム粒多含  
 5層 黒褐色土 ローム粒少含  
 6層 暗褐色土 ローム粒少含
- P26  
 1層 黒褐色土 ローム粒多含  
 2層 黒色土 ローム粒多含  
 3層 黒褐色土 ローム粒多含  
 4層 灰色土 ローム粒少含  
 5層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
- P27  
 1層 黒褐色土 ローム粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒多含  
 3層 暗褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含
- P28  
 1層 灰色土 ローム粒少含  
 2層 暗褐色土 黒色土とソフトロームが混く  
 3層 暗褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含
- P29  
 1層 黒色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含  
 3層 暗褐色土 ローム粒少含  
 4層 灰色土 ローム粒多含  
 5層 暗褐色土 ローム粒多含 径10-20mm大のロームブロック多含
- P30  
 1層 灰色土 ローム粒微含  
 2層 灰色土 ローム粒少含  
 3層 黒褐色土 ローム粒多含  
 4層 黒色土 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム粒少含  
 6層 暗褐色土 ローム粒少含
- P32  
 1層 黒褐色土 ローム粒少含  
 2層 暗褐色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒少含  
 4層 暗褐色土 ローム粒少含
- P34  
 1層 黒褐色土 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒色土 ローム粒少含
- P35  
 1層 黒褐色土 ローム粒微含  
 2層 暗褐色土 ローム粒微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含  
 4層 暗褐色土 ローム粒少含
- P36  
 1層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含  
 2層 黒色土 ローム粒多含  
 3層 暗褐色土 ローム粒少含
- P38  
 1層 灰色土 ローム粒微含  
 2層 暗褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒色土 ローム粒微含  
 4層 黒色土 ローム粒多含  
 5層 黄褐色土 ソフトロームブロック 黒色土が少量混入

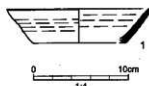
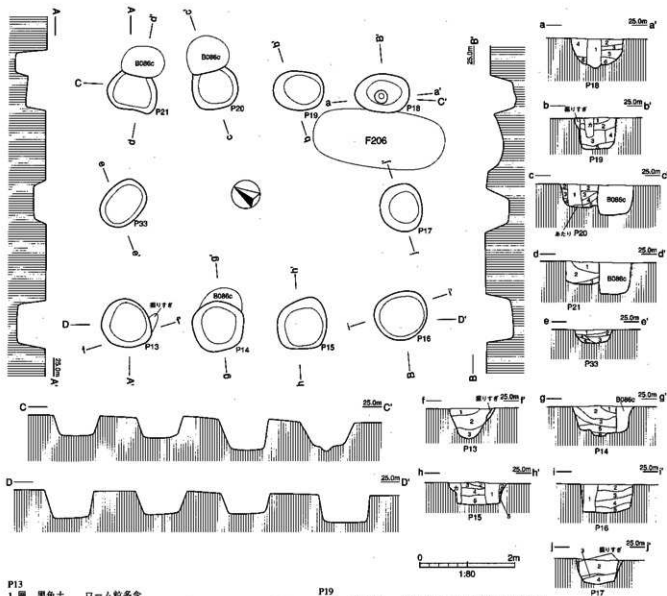


図274 B086a・c・d・z (2)



- P13**
- 1層 黒色土 ローム粒多含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒多含
- P14**
- 1層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒多含
- P15**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含
  - 5層 暗褐色土 ソフトロームと黒褐色土が粗く混合
- P16**
- 1層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒、径10~20mm大のロームブロック多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 5層 暗褐色土 ソフトロームと黒褐色土が粗く混合
- P17**
- 1層 暗褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒多含 径5~50mm大のロームブロック少含
- P18**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒多含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒多含 径20mm大のロームブロック少含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多含

- P19**
- 1層 黄褐色土 ソフトロームに暗褐色土が少量入
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黄褐色土 ソフトロームに黒色土が少混入 径10mm大のロームブロック少含
  - 4層 暗黄褐色土 ソフトロームと黒色土が粗く混入
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
- P20**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
- P21**
- 1層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 2層 黄褐色土 ソフトロームに暗褐色土が粗微混入
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
- P33**
- 1層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 2層 黒色土 ローム粒多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒多含

図275 B086b

## B086c

遺構 3×4間の掘立柱建物跡である。長軸6.72m×短軸4.24m、方位はN-35°Eを測る。本建物跡に属する柱穴は、配列順にP10・P9・P34・P12b・P5b・P6b・P23～P25・P35・P27～P30である。このうちP9・P24～P30がB086aと重複して使用していることとなる（柱痕検出柱穴は表87を参照）。一方、柱痕覆土には白色粘土の混入は認められなかった。柱穴の掘込みの深さは例外的浅さはあるものの、0.48～0.60mであった。覆土はロームを包含する黒色土・黒褐色土が主体となっている。

遺構 土師器・須恵器小片を主体として、少量が出土している。

所見 B086aの北側柱列及び西側柱列の柱穴において重複が認められ、1棟を設定した。この時、南側柱列及び東側柱列は、殆どB086aと同じ柱穴を用いることとなる。規模は若干小さいが、建直しと捉えた。P11・P34の重複した覆土から、B086cが古く、B086aが建直されたものと捉えられた。

## B086d

遺構 B086aの長軸方向である、北側柱列に併行して検出された柱列である。P38・P1～P4の5基が直線的に並び、一見、B086aの北側柱列の庇状となっている。直線的に測る長さは7.40mとなっている。これらの柱穴のうち、P1・P2・P38において柱痕が検出された。また掘込みは0.12～0.52mを測り、0.50m前後が2基、0.32mが2基となっている。覆土は、ロームを含む黒色土である。現段階で掘立柱建物跡に伴う庇か、あるいは建物跡群を区切る櫛列なのか判然としない。柱穴の掘込みの深さは、庇とした場合には妥当な深さではないかと考えるが、掘立柱建物跡に対して柱穴規模が小さすぎると見えるものである。

## B086z

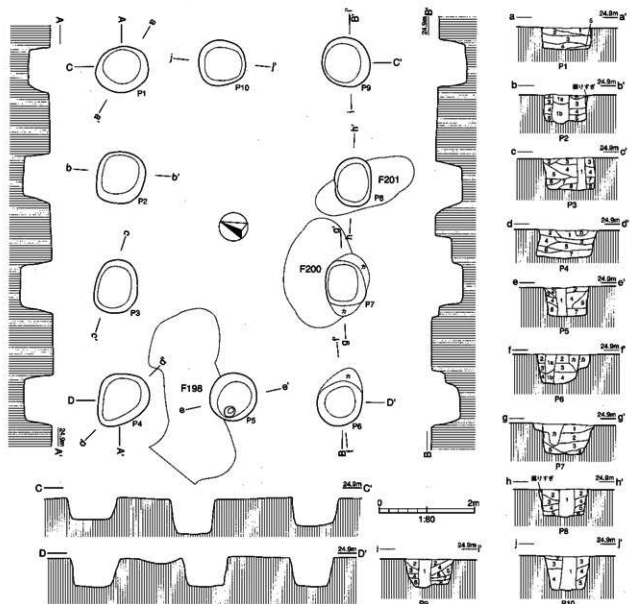
遺構 柱穴配置上で、B086a・b・c・dのいずれからでも遺漏したものを一括した。P8・P32・P35・P39の4基が配置できなかった。しかしP32・P35において、柱痕を検出した。

所見 狭い地区に掘立柱建物跡として3棟の重複で、柱穴の検出状況は複雑であった。このため、恣意的に建物跡を「設計」してしまったところがあるかもしれない。しかしそれでも遺漏する柱穴の存在は、調査では把握できなかった建物跡の存在を想定させられるものであった。

表68 B086a・c・d・z遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	151×(97)×37 口クロ成形		青灰 青	長石類	2/3 底部片	



- |           |          |               |                    |           |          |                      |                     |
|-----------|----------|---------------|--------------------|-----------|----------|----------------------|---------------------|
| <b>P1</b> | 1層 黒色土   | ローム粒多含        |                    | <b>P5</b> | 1層 黒色土   | ローム粒、白色粘土粒少含         |                     |
|           | 2層 黒褐色土  | ローム粒多含        | 径5mm大のロームブロック多含    |           | 2層 黒色土   | ローム粒多含               |                     |
|           | 3層 黒色土   | ローム粒少含        | 径5~30mm大のロームブロック多含 |           | 3層 暗黄褐色土 | 黒色土にロームが混合           | 径5mm大のロームブロック多含     |
|           | 4層 黒色土   | ローム粒少含        | 径5mm大のロームブロック多含    |           | 4層 黄褐色土  | ソフトロームブロック           | 白色粘土少量混入            |
|           | 5層 黒褐色土  | ローム粒少含        | 径5mm大のロームブロック多含    |           | 5層 黒色土   | ローム粒多含               | 径5~10mm大のロームブロック多含  |
| <b>P2</b> | 1a層 暗褐色土 | 白色粘土多量混合      | ローム粒少含             |           | 6層 黒褐色土  | ローム粒多含               |                     |
|           | 1b層 黒色土  | ローム粒少含        | 白色粘土粒混含            |           | 7層 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが細く混合         |                     |
|           | 2層 黒褐色土  | ローム粒少含        | 白色粘土粒少含            | <b>P6</b> | 1a層 灰褐色土 | 白色粘土主体               | 黒色土少量混入             |
|           | 3層 黒色土   | ローム粒少含        | 径5~10mm大のロームブロック多含 |           | 1b層 黒色土  | ローム粒少含               | 白色粘土粒少含             |
|           | 4層 黒褐色土  | ローム粒少含        | 径5~10mm大のロームブロック少含 |           | 2層 黒褐色土  | ローム粒少含               | 白色粘土粒少含             |
|           | 5層 黒褐色土  | ローム粒少含        | ローム粒少含             |           | 3層 黒色土   | ローム粒少含               | 白色粘土粒少含             |
| <b>P3</b> | 1層 黒色土   | ソフトローム        | 白色粘土粒少含            |           | 4層 黄褐色土  | ソフトローム               | 黒色土が極少量混入           |
|           | 2層 黒褐色土  | ローム粒多含        |                    | <b>P7</b> | 1層 暗黄褐色土 | 暗褐色土とソフトロームが混合       | ローム粒少含              |
|           | 3層 黒褐色土  | ローム粒少含        | 白色粘土粒少含            |           | 2層 暗黄褐色土 | 暗褐色土とソフトロームが混合       | ローム粒少含              |
|           | 4層 黒色土   | ローム粒少含        | 径5~10mm大のロームブロック少含 |           |          | 焼土粒混含                | 径10mm大のロームブロック多含    |
|           | 5層 黒褐色土  | ローム粒多含        |                    |           | 3層 黄褐色土  | ソフトローム               | 黒色土が少量混入            |
|           | 6層 暗褐色土  | ローム粒多含        | 径5mm大のロームブロック多含    |           |          | 焼土粒少含                | 径10mm大のロームブロック多含    |
|           | 7層 黒色土   | ローム粒多含        |                    |           | 4層 黒色土   | ローム粒多含               |                     |
|           | 8層 黒褐色土  | ローム粒多含        |                    |           | 5層 暗褐色土  | ローム粒多含               | 径10mm大のロームブロック多含    |
| <b>P4</b> | 1層 黒褐色土  | ローム粒多含        | 径5~50mm大のロームブロック多含 | <b>P8</b> | 1層 黒色土   | ローム粒、白色粘土粒少含         |                     |
|           | 2層 黒褐色土  | ローム粒多含        | 径5~30mm大のロームブロック多含 |           | 2層 黒色土   | ローム粒多含               | 径5~10mm大のロームブロック少含  |
|           | 3層 黒色土   | ローム粒多含        | 径5~30mm大のロームブロック多含 |           | 3層 黒色土   | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 |                     |
|           | 4層 黒色土   | ローム粒少含        | 径5~50mm大のロームブロック多含 |           | 4層 黒色土   | ローム粒多含               | 径5~10mm大のロームブロック多含  |
|           | 5層 暗褐色土  | ローム粒多含        | 径5mm大のロームブロック少含    |           | 5層 黒褐色土  | ローム粒多含               |                     |
|           | 6層 黒色土   | ローム粒少含        | 径5mm大のロームブロック少含    |           | 6層 黒色土   | ローム粒少含               | 焼土粒、径5mm大のロームブロック少含 |
|           | 7層 黄褐色土  | 黒色土、暗褐色土が少量混入 |                    |           |          |                      |                     |

図276 B087

P9	
1層	黒色土 ローム粒、白色粘土粒、焼土粒微含
2層	黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含
3層	黒色土 ローム粒少含
4層	黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
5層	黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック多含
6層	黒褐色土 ローム粒多含
7層	黒色土 ローム粒少含
8層	黒色土 ローム粒多含

P10	
1層	黒色土 ローム粒少含
2層	黄褐色土 ソフトローム 黒色土少量混入
3層	黒褐色土 ローム粒、径5~30mm大のロームブロック多含
4層	黒色土 ローム粒、径5~40mm大のロームブロック少含
5層	暗褐色土 ローム粒、径5~20mm大のロームブロック多含

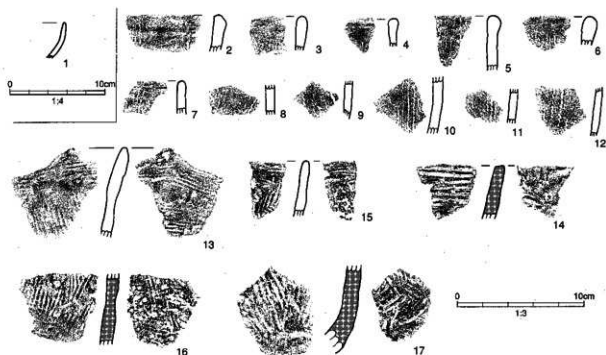


図277 B087 (2)

#### B087

検出地区 L5-53・62・63gにて検出した。

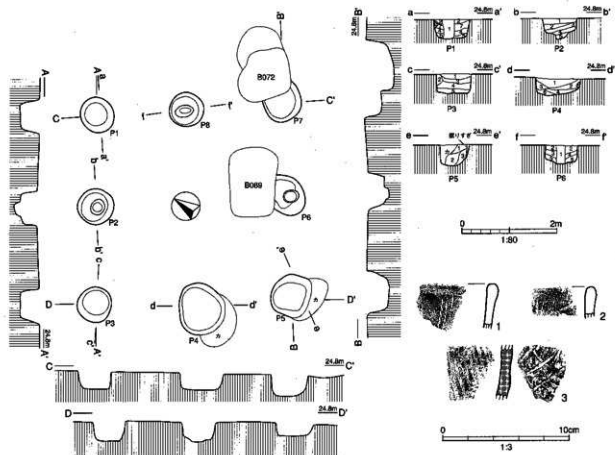
遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸7.16m×短軸4.76m、方位はN-67°-Eを測る。上谷遺跡としては、やや規模の大きな2×3間の建物跡である。柱痕はP4・P7を除いて、他の柱穴ではすべて検出された。柱痕覆土に、白色粘土が検出されたのは、P2・P3・P5・P6・P8の5基であった。そのうちP2・P6は白色粘土が多く、柱痕覆土が粘土層と分層できた。

柱穴の掘込みの深さは0.48~0.66mであり、0.60~0.66mが6基を占めている。柱穴の深さは、比較的均一化していると言えよう。覆土は、ロームを包含した黒色土と黒褐色土を主体としていた。

遺構 出土遺物は多くはなかった。また、当該時期の遺物は少なく、縄文早期・燃糸文及び条痕文片が多かった。燃糸文の比率は高かった。1は土師器杯の断片である。2~12は燃糸文で、13~17は条痕文片である。

所見 本掘立柱建物跡も、柱痕に白色粘土が入った遺構である。しかしP1・P4・P7などの柱穴では、覆土にも混入を認めない柱穴もあった。また、白色粘土を含む柱穴も、P3・P5・P8のように少量含み混合するものと、P2・P6のように柱痕の覆土上層に充填しているような状態の柱穴もある。同一掘立柱建物跡のなかで混在する場合、どのように捉えたらよいか不明である。

P6の場合、柱痕の覆土は認められておらず、一見、柱は立腐れと考えられる。柱の位置を同一建物跡で選択するかの問題もあるが、本建物跡では殆どが柱痕によれば立腐れとなるはずであり、選択して白色粘土を充填することが、寡聞にして不明となっている。



- P1**
- |    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒微含               |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少含               |
| 3層 | 暗黄褐色土 | ソフトロームが粗く混合          |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒少含               |
| 5層 | 黒褐色土  | ローム粒多含               |
| 6層 | 黒色土   | ローム粒少含               |
| 7層 | 黒色土   | ローム粒、径5mm大のロームブロック微含 |
- P2**
- |    |      |                      |
|----|------|----------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 焼土粒微含         |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含 焼土粒微含         |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含               |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム粒少含               |
- P3**
- |    |      |                      |
|----|------|----------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含               |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含               |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒多含               |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒微含               |

- P4**
- |    |       |                 |
|----|-------|-----------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒多含          |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒少含          |
| 3層 | 黒色土   | ローム粒多含          |
| 4層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とソフトロームが粗く混合 |
| 5層 | 黄褐色土  | ソフトロームブロック      |
| 6層 | 黒褐色土  | ローム粒少含          |
- P5**
- |    |      |        |
|----|------|--------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多含 |
- P6**
- |    |      |                      |
|----|------|----------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含               |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含               |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含               |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多含               |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒、径5mm大のロームブロック少含 |

図278 B088

**B088**

検出地区 L5-63・73gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.08m×短軸4.04m、方位はN-54°-Eを測る。略方形の建物跡である。柱痕はP1・P6の2基出検出した。柱穴の掘込みの深さは0.32~0.62mとなるが、0.32~0.36mが6基と均一化していた。四隅が特に深いことは無かった。柱穴の覆土は、ロームを包含した黒色土が主体である。

遺物 若干出土しているが、流込みによる縄文時代早期の土器である。1は捺糸文、2は条痕文片である。

所見 遺構の重複関係は、B189b→B189a→B088であり、また、B072b→B072a→B088となっていた。B072とB189の新旧関係は不明であった。

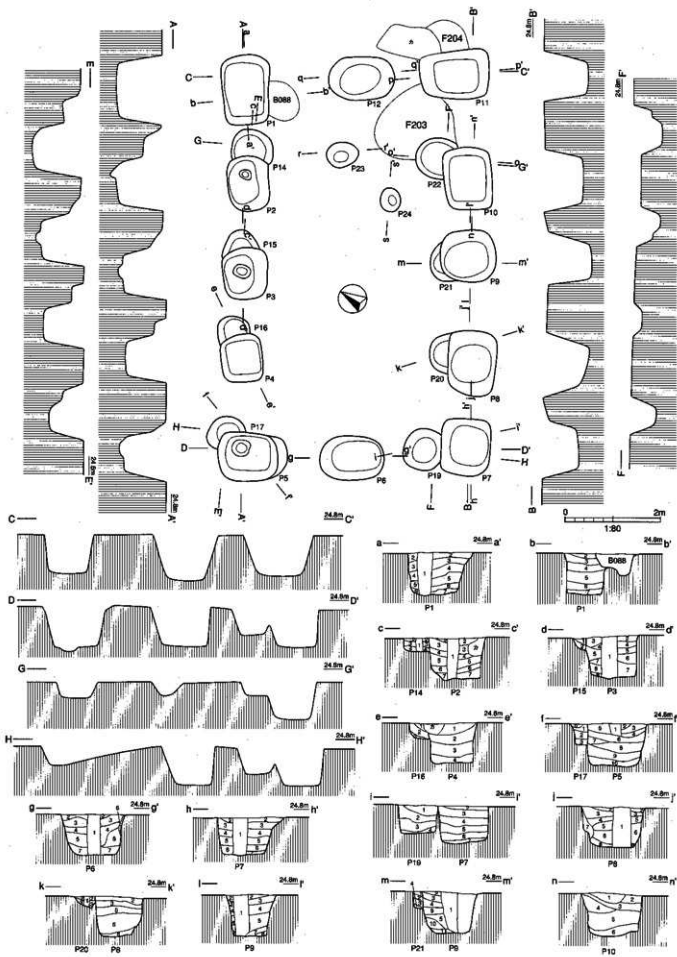
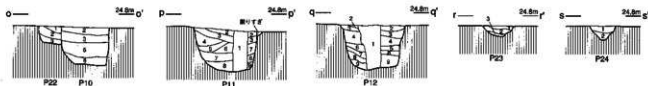


图279 B089a · b · z





- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>P1</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 黒色土に白色粘土が少量混入 ローム粒、白色粘土少含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒、白色粘土少含</p> <p>3層 黒褐色土 ローム粒、径5~20mm大のロームブロック少含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒、径5~30mm大のロームブロック多含</p> <p>5層 黒褐色土 ローム粒少含 径5~10mm大のロームブロック多含</p> <p>6層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>7層 暗黄褐色土 黒色土とソフトロームが粗く混合</p> <p><b>P2</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 黒色土に白色粘土が少量混入 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>3層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>4層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>5層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~20mm大のロームブロック少含</p> <p>6層 黒褐色土 ローム粒、ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>7層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p><b>P3</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>2層 黒色土 白色粘土粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック多含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒多含</p> <p>5層 暗褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含</p> <p>6層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>7層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>8層 黒褐色土 ローム粒少含</p> <p>9層 暗褐色土 ローム粒少含</p> <p><b>P4</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p>2層 黒褐色土 ローム粒、径5~30mm大のロームブロック多含</p> <p>3層 黒褐色土 白色粘土粒微含</p> <p>4層 黒褐色土 ローム粒、径5~50mm大のロームブロック多含</p> <p>5層 黄褐色土 ソフトロームに黒褐色土が少量混入</p> <p><b>P5</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 黒色土に白色粘土が少量混入 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>2層 暗灰褐色土 黒色土に白色粘土が少量混入 ローム粒、白色粘土粒微含</p> <p>3層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>4層 黒褐色土 ローム粒少含</p> <p>5層 暗黄褐色土 黒褐色土にソフトロームが粗く混入</p> <p>6層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>7層 黒褐色土 ローム粒多含</p> <p>8層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>9層 黒褐色土 ローム粒多含</p> <p>10層 黒褐色土 ローム粒多含</p> <p><b>P6</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 白色粘土粒多含 ローム粒微含</p> <p>2層 黒色土 白色粘土粒微含 ローム粒少含</p> <p>3層 暗褐色土 白色粘土粒微含 ローム粒、径5~30mm大のロームブロック多含</p> <p>4層 黒色土 白色粘土粒、ローム粒少含</p> <p>5層 黒褐色土 ソフトロームブロック</p> <p>6層 黄褐色土 ローム粒多含</p> <p>7層 黒色土 ローム粒多含</p> <p><b>P7</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 ローム粒微含 白色粘土粒少含</p> <p>2層 黒褐色土 ローム粒微含</p> <p>3層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p>4層 黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>5層 黒色土 白色粘土粒微含</p> <p>6層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>7層 黒褐色土 ローム粒、径5~50mm大のロームブロック多含</p> <p>8層 黒色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含</p> <p><b>P8</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒微含 白色粘土粒少含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>3層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>4層 暗黄褐色土 黒色土とソフトロームが粗く混合 白色粘土粒微含</p> <p>5層 黒褐色土 ローム粒多含</p> <p>6層 暗褐色土 ローム粒、径10~30mm大のロームブロック多含</p> <p>7層 黄褐色土 ソフトロームブロック</p> <p>8層 黒色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含</p> | <p><b>P9</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>2層 黒褐色土 ローム粒微含</p> <p>3層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p>4層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>5層 黒色土 ローム粒多含 白色粘土粒、径5~20mm大のロームブロック少含</p> <p>6層 黄褐色土 ソフトロームブロック</p> <p>7層 暗黄褐色土 黒色土とソフトロームが粗く混合</p> <p>8層 黒色土 黒色土にソフトロームが多量に混入</p> <p>9層 暗褐色土 ローム粒少含</p> <p>10層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p>11層 黄褐色土 径10mm大のロームブロック微含</p> <p>ソフトローム 径10mm大のロームブロック多含</p> <p><b>P10</b></p> <p>1層 暗灰褐色土 黒色土に白色粘土が少量混入 白色粘土粒、焼土粒少含 ローム粒微含</p> <p>2層 黒褐色土 白色粘土粒微含 焼土粒、ローム粒少含</p> <p>3層 黒色土 白色粘土粒、焼土粒、ローム粒少含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>5層 暗褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>6層 黒色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p><b>P11</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土粒微含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック多含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含</p> <p>5層 黒褐色土 白色粘土粒微含</p> <p>6層 黒褐色土 白色粘土粒微含 径20mm大のロームブロック少含</p> <p>7層 黒色土 ローム粒多含</p> <p>8層 黒褐色土 白色粘土粒微含 径5~20mm大のロームブロック少含</p> <p>9層 黒色土 白色粘土粒微含</p> <p>10層 黒褐色土 ローム粒多含</p> <p>11層 黒色土 ローム粒少含</p> <p><b>P12</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含 径5mm大のロームブロック多含</p> <p>5層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>6層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒微含</p> <p>7層 暗褐色土 ローム粒少含</p> <p>8層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>9層 暗褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p><b>P14</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒微含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒、径5~20mm大のロームブロック少含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒少含</p> <p><b>P15</b></p> <p>1層 暗褐色土 ローム粒微含</p> <p>2層 暗褐色土 ローム粒少含</p> <p><b>P16</b></p> <p>1層 暗褐色土 ローム粒微含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック微含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒少含</p> <p><b>P17</b></p> <p>1層 黒褐色土 ローム粒多含</p> <p>2層 黒色土 ローム粒少含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒多含</p> <p>4層 黒色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含</p> <p><b>P20</b></p> <p>1層 黒色土 ローム粒、焼土粒微含 白色粘土粒少含</p> <p>2層 暗褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含</p> <p>3層 暗褐色土 ローム粒少含</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図280 B089a・b・z (2)

P21	
1層	黒褐色土 ローム粒少含
3層	黒色土 ローム粒少含
2層	黒褐色土 ローム粒少含
4層	黒色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含
P22	
1層	黒褐色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含 焼土粒微含
2層	黒色土 ローム粒少含
3層	黒色土 ローム粒、白色粘土粒少含

P23	
1層	黒色土 ローム粒微含
2層	黒色土 ローム粒、白色粘土微含
3層	黒褐色土 ローム粒少含

P24	
1層	暗褐色土 ローム粒微含
2層	暗褐色土 ローム粒少含

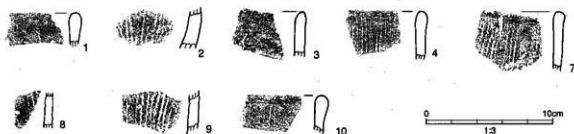


図281 B086a・b・z (3)

### B089a

検出地区 L5-63・64・73・74gにわたって検出した。

遺構 2×4間の掘立柱建物跡である。長軸8.04m×短軸4.84m、方位はN-64°Eを測る。本建物跡に属する柱穴はP1~P12である。柱痕はP1~P3・P6~P9・P11・P12で検出した。全ての柱痕覆土に、白色粘土が混入していた。柱穴の掘込みの深さは0.68~0.96mであるが、0.82~0.92mが11基を占めており、均一化した深さとなっている。

覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体を占めていた。

遺物 縄文早期の燃糸文が比較的多く出土している。しかし全体量は少量であり、当該時期の土師器片などは殆ど認められなかった。1~8は縄文早期・燃糸文である。

所見 B089bと重複し、本掘立柱建物跡が新しい遺構である。B089bとは略同じ柱穴位置を使っていることや方位が略同一であることなどから、本建物跡への拡張・建替えと捉えた。なお、各柱穴規模が大きくなっているが、調査と測量の時間差と捉えている。

### B089b

検出地区 L5-63・64・73・74gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.20m×短軸4.40m、方位はN-62°Eを測る。本建物跡に属する柱穴はP14~P17・P6・P19~P23である。柱穴はP23を除く柱穴はB089aと重複しており、殆ど覆土を失い、柱痕も確認できなかった。かろうじてP14とP20で、柱痕を検出したのみである。柱穴の掘込みの深さは0.10~0.40mとなっているが、0.30m前後が中心となっている。

覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体を占めていた。

遺物 B089aと混在している。

所見 B089aと略同一位置に所在した建物跡である。P6は柱穴規模が大きいため、建替え時に柱穴の拡張があったと想定している。柱穴覆土が失われていることから、本建物跡が古いものであるが、時間差は殆どないと捉えられよう。

### B089z

遺構 P24のみ柱穴配置上、どちらにも配置できず遺漏したものである。柱痕は確認できなかった。

所見 東柱とも検討したが判然とせず、分離して扱うこととした。

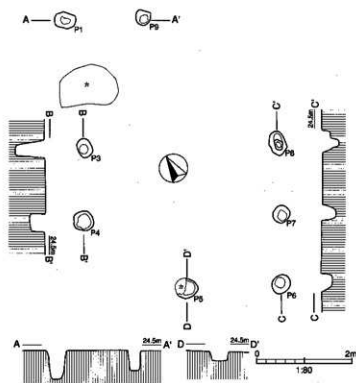


図282 B090

#### B090

検出地区 L5-74gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡と想定されるものである。長軸5.68m×短軸(4.24)m、方位はN-31°-Eを測る。柱痕・覆土は不明である。柱穴の掘込みの深さは、0.20~0.60mとなっている。しかし北東及び北西側の柱列は0.32~0.60mとやや深く、南側の柱列は0.20~0.36mと浅くなっている。特に南側は0.20m台が中心であった。

遺物 出土しなかった。

所見 掘立柱建物跡の規模が、2×2間、2×3間の捉え方で判然としない建物跡であった。北西側柱列が直線的ならず、南東側柱列と大きくひしゃげる形となる。また、北東と南西の中央柱穴の軸線にズレが生じてしまっている。東隅柱は住居跡によって失われており、西隅柱も検出できなかった。

2×3間の場合、北東側柱列は中間にもう1本入る変則的な建物跡となってこよう。

また、2間四方と捉えたときに、P3とP8の中間に柱穴がないことが欠点となってくる。(2間四方の建物跡の場合4.2m×2.98m、方位はN-61°-Wを測る。)

本遺跡の場合、2間四方で片側3間の例も多く、その例から変則的な2×3間の掘立柱建物跡もおかしくはないが、判然としない建物跡である。今回は、2×3間の建物跡と捉えておきたい。

#### B091

検出地区 L5-53gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.60m×短軸2.76m、方位はN-71°-Eを測る。1×2間の建物跡であるが、西側のP3・P4の柱列に比し、東側のP1・P6柱列は開き、やや歪んだ方形となっている。

柱痕はP2・P5・P6の3基で検出された。P1・P3・P4は、覆土から柱の引抜きがあったかもしれない。なお、柱痕には、白色粘土は認められなかった。柱穴の掘込みの深さは0.42~0.60mであるが、0.52~0.56mが3基と多く、0.50m前後が求められた柱穴の深さであろう。

柱穴覆土はロームを包含した黒色土と黒褐色土が主体となっているが、本建物跡の場合、黒色土が目立つようである。

遺物 出土した遺物の量は少ない。また、当該時期の遺物は殆どなかった。縄文早期の熱糸文や条痕文片が出土しているが、少ない出土量の中で条痕文片は比較的多かった。1は口縁部が若干肥厚する熱糸文である。2は内外面とも縦に近い、斜位の条痕文を施文する。

所見 1×2間の掘立柱建物跡であるが、やや掘込みは深い柱穴であった。また、先述したが、西側に比べ東側が開く形状である。

上谷遺跡IV地区に入り2×4間、3×4間などのやや大形の掘立柱建物跡が増えているが、一方、1×2間の掘立柱建物跡が目立ってきている。この傾向がIV地区及びV地区に広がる掘立柱建物跡群の整理進行に伴い、明らかになってくると考えている。

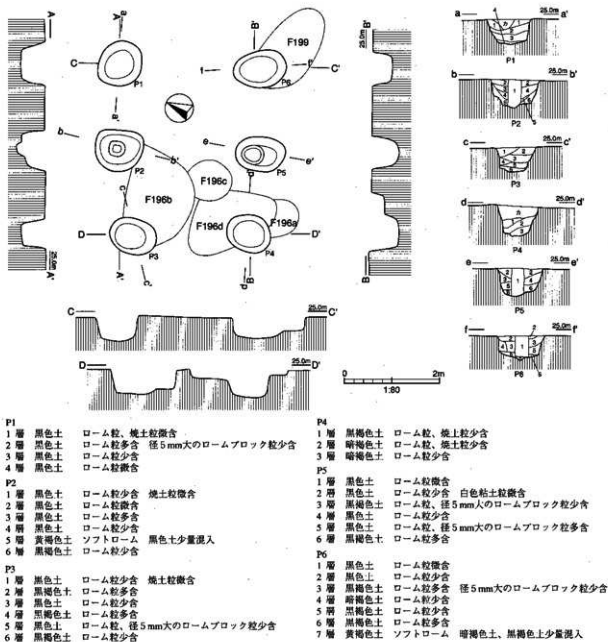
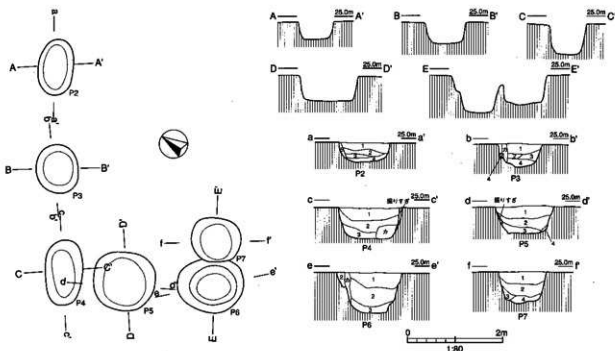


図283 B091



- P2**
- 1層 黒色土 褐色土混入 ローム粒多含
  - 2層 黒褐色土 褐色土混入 ローム粒少含
  - 3層 暗褐色土 黒色土混入 ローム粒少含
  - 4層 褐色土 黒色土多量に混入 ローム粒含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒、ローム粒ブロック含
- P3**
- 1層 黒色土 褐色土混入 ローム粒多含
  - 2層 黒褐色土 褐色土混入 ローム粒多含 焼土粒微含
  - 3層 暗褐色土 褐色土混入 ローム粒多含 焼土粒微含
  - 4層 褐色土 黒色土混入 ローム粒含
- P4**
- 1層 黒色土 褐色土斑状に混入 ローム粒多含
  - 2層 黒色土 褐色土混入 ローム粒含 焼土粒微含
  - 3層 褐色土 黒色土混入 ローム粒含

- P5**
- 1層 黒褐色土 褐色土混入 ローム粒微含
  - 2層 暗褐色土 褐色土混入 ローム粒少含 径10~20mm大のロームブロック含
  - 3層 褐色土 黒色土混入 ローム粒多含 径50mm大のロームブロック多含 極少量の黒色土混入
  - 4層 明褐色土 極少量の黒色土混入
- P6**
- 1層 黒褐色土 暗褐色土混入 ローム粒微含 径2~3mm大のロームブロック多含
  - 2層 暗褐色土 黒色土混入 ローム粒、ロームブロック少含
  - 3層 褐色土 黒色土少量混入 ローム粒含
- P7**
- 1層 黒褐色土 暗褐色土混入 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 暗褐色土混入 ローム粒微含
  - 3層 暗褐色土 黒色土少量混入 ローム粒含
  - 4層 褐色土 ローム粒含

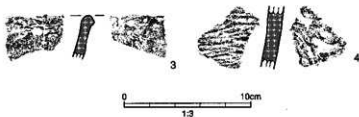
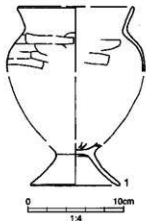


図284 B092

表69 B092遺物観察表

(単位:mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 台付甕	(122)×-(190)×95 (台部径) 最大径を胴部上半に持ち口縁は短く外反する 台部は短く開いた形状 口縁部内外面ともナガ胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナア 全体に薄手	赤褐色 良	長石類 赤色スコ リア	口縁~ 胴中位 の1/3 台部	1と2は 同一個体 武藏形甕

**B092**

検出地区 L5-43gにて検出した。

遺構 2×2間と想定される掘立柱建物跡である。長軸(4.66)m×短軸(3.23)m、方位はN-58°-Eを測る。2間四方とした場合、3基の柱穴が失われている。残った柱穴からは柱痕は検出できなかった。柱穴の掘込みの深さは0.36~0.79mであったが、P2~P4は0.36~0.44mとやや浅く、南側の柱穴は0.52~0.79mと深くなっている。

覆土は、ロームを包含した黒色土と黒褐色土が主体であった。

遺物 土師器片を中心に少量の出土であった。1は土師器台付甕であり、胴部は失われているが、口縁部と台部が出土している。口縁はナデ、頸部~ヨコのヘラケズリ調整を行う。2・3は縄文早期・条痕文片である。

所見 2間四方とした場合、短軸に比しやや長軸が長くなり、長方形となる細身の掘立柱建物跡である。

**B093**

検出地区 L5-66・76gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.81m×短軸2.81m、方位はN-35°-Eを測る。平面は略方形となっている。南側柱列の中間柱穴は検出できなかった。柱痕は、P1・P4~P6の4基において検出したが、柱痕覆土に白色粘土の混入は認められなかった。P7は覆土がやや乱雑になっていること、柱穴の上場が広がることなどから、柱は引抜かれたものと捉えた。柱穴の掘込みの深さは0.36~0.62mであった。

柱穴覆土はロームを包含する黒色土・黒褐色土を主体とするが、本遺構では黒色土が多かった。

遺物 須恵器や縄文時代早期・燃糸文や条痕文が出土するが、出土量は少なかった。

所見 2間四方の建物跡であるが、やや小型の遺構である。南側柱列の中間の柱穴が検出されなかったが、他の柱穴の深さから検出されなかったのではなく、元々、柱穴が無かったのではないかと想定されるものである。

また、本建物跡はP2においてB082・F217と重複する。F217はともかく、B082との新旧関係は捉えきれなかった。

**B094**

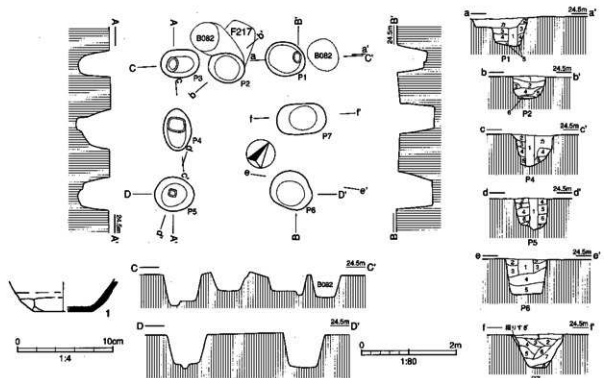
検出地区 L4-73・74・84gにて検出した。

遺構 2×3間と想定される掘立柱建物跡である。長軸5.36m×短軸4.38m、方位はN-53°-Wを測る。A194・A204などと重複するため想定される3基が失われており、7基の検出にとどまっている。柱痕はP7~P9の3基に検出され白色粘土を含んでいたが、柱痕が確認できない柱穴においても白色粘土が混合していた。柱穴の掘込みの深さは、最浅のP3は0.12m、最深のP6は0.58mとなっているが、他は0.32~0.44mの範囲の中であった。

覆土は、ロームを包含した黒色土が主体であり、黒褐色土が少なかった。

遺物 遺物は少なく、縄文早期・燃糸文・条痕文片が少量出土していた。

所見 P1・P5・P10・P11に相当する柱穴のうちP10以外は窪穴住居跡との重複のため不明瞭で検出されにくかったと考えられるが、P10のみ確認できなかった。重複する遺構との新旧関係は、A194・A204→B094と捉えられた。本建物跡の柱穴の長径は0.44~0.88mであった。大半が0.50m前後であり、この長径が、上谷遺跡IV地区所在する掘立柱建物跡本来の規模の一端を表していると考えている。



- P1**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒多含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
- P2**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒、焼土粒微含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒多含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含
  - 6層 黄褐色土 ソフトローム 黒色土微量に混入
- P3**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 2層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒多含
- P4**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒多含
  - 5層 黒色土 ローム粒少含

- P5**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒微含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 6層 黒色土 ローム粒微含
  - 7層 黒褐色土 ローム粒少含
- P6**
- 1層 黒色土 ローム粒少含
  - 2層 黄褐色土 ソフトローム 黒色土、黒褐色土少量混入
  - 3層 黒色土 ソフトローム 黒色土、黒褐色土少量混入
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒多含
- P7**
- 1層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 2層 黄褐色土 ソフトローム 黒色土微量混入
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 暗褐色土 ローム粒多含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 7層 黒色土 ローム粒少含
  - 8層 黒褐色土 ローム粒少含

径5~20mm大のロームブロック微含

径5mm大のロームブロック微含

径5mm大のロームブロック少含

径5mm大のロームブロック多含

黒色土微量混入

径5mm大のロームブロック微含

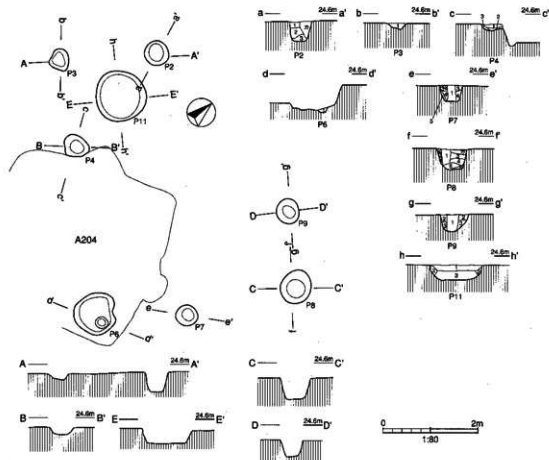
径5~10mm大のロームブロック微含

図285 B093

表69 B093遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須臾器 坏	-×(60)×(32) ロクロ成形 外面 体部下端は手持ちヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は静止ヘ ラ切り	灰色 普	雲母含み 3mm大の 花瓣岩粒	体部~ 底部の 1/5	常胎産



- P2**  
 1層 暗褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含  
 2層 暗褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含
- P3**  
 1層 黒褐色土 ローム粒微含 白色粘土粒少含
- P4**  
 1層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒多含  
 3層 暗褐色土 ローム粒少含
- P6**  
 1層 黒褐色土 ローム粒、白色粘土粒少含
- P7**  
 1層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒微含  
 2層 黄褐色土 ソフトローム  
 3層 黒色土 ローム粒少含  
 4層 黒色土 ローム粒微含  
 5層 暗褐色土 ローム粒多含

- P8**  
 1層 黒色土 ローム粒微含 白色粘土粒少含  
 2層 黒色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含  
 4層 暗褐色土 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック多含  
 6層 暗褐色土 ローム粒少含
- P9**  
 1層 黒色土 ローム粒、白色粘土粒微含  
 2層 暗褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含  
 3層 暗褐色土 ローム粒、径5mm大のロームブロック少含
- P11**  
 1層 暗褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック少含  
 2層 黄褐色土 ソフトロームブロック  
 3層 黒色土 ローム粒多含 白色粘土粒少含 径5~10mm大のロームブロック少含

B095a

図286 B094

検出地区 L6-28・29gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸4.64m×短軸(3.04)m、方位はN66°Wを測る。柱痕はP1~P3・P7・P8・P10・P12にて検出した。P3・P12の柱痕では、上部に白色粘土が充填されたように入っている。柱穴の掘込みは0.08~0.24mと浅く、0.20m前後の深さである。覆土はロームを含んだ黒色土が主体であり、他の掘立柱建物跡には多い黒褐色土は少なかった。

遺物 土師器小片が少量出土しており、混じる、縄文時代早期・条痕文片も混入している。1の墨書土器片は小破片のため判読は難しいが、「竹野」であろうか。

所見 A208・B096などと重複する掘立柱建物跡があるが、新旧関係はB095a→A208・B096→B097と捉えられた。



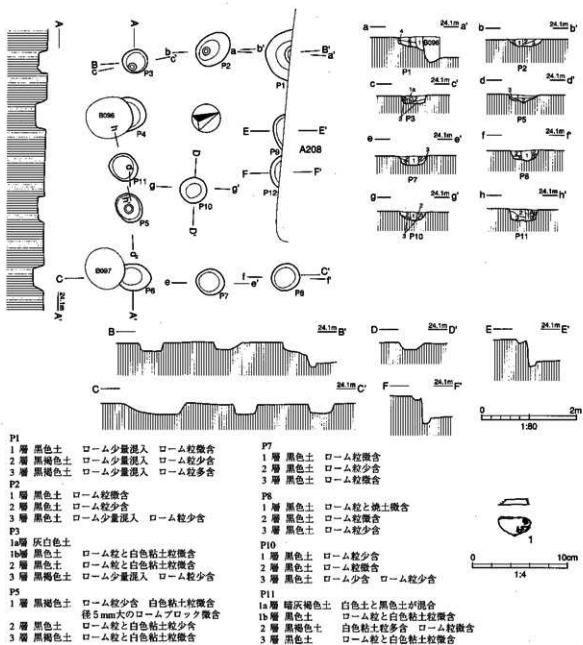
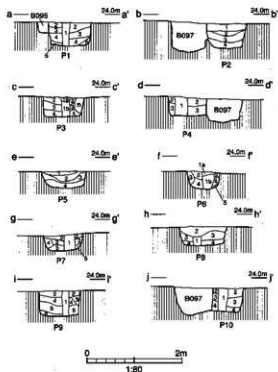
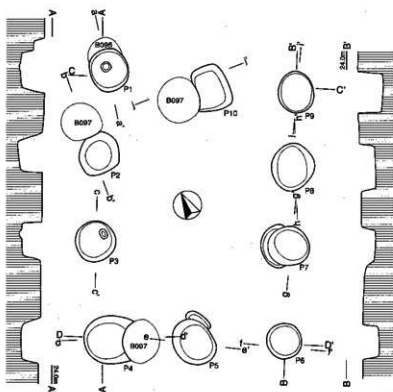


図287 B095a・z

表70 B095遺物観察表

(単位:mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	-X-X- □クロ成形 底部外面は手持ちヘラケズリ 内面 □クロナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	底部片	墨書「??」 底部外面



- P3**
- 1層 黒褐色土 白色粘土と黒褐色土が混合 ローム粒少含  
 1a層 暗灰褐色土 ローム粒多含 白色粘土粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒少含 白色粘土粒微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒多含  
 4層 黒褐色土 ローム粒多含 白色粘土粒微含
- P4**
- 1層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒微含  
 2層 暗灰褐色土 少量の黒色土混り混合  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含
- P5**
- 1層 黒褐色土 ローム粒と白色粘土粒微含  
 2層 黒褐色土 ロームと黒色土が少量混入 白色粘土粒と径5~10mm大のロームブロックとローム粒少含  
 3層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒と径10mm大のロームブロック少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含 径10mm大のロームブロック多含
- P6**
- 1a層 暗灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合  
 1b層 黒褐色土 白色粘土粒とローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含  
 3層 暗褐色土 ソフトロームブロック  
 4層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒微含  
 5層 黒褐色土 ローム粒と白色粘土粒微含

- P1**
- 1層 黒色土 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒多含  
 3層 黒色土 ローム粒少含  
 4層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土粒微含  
 5層 黒色土 ローム粒と径5mm大のロームブロック少含

- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒多含  
 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒少含 白色粘土粒微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒多含  
 4層 黒褐色土 ローム粒多含 白色粘土粒微含

- P7**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒と径5~10mm大のロームブロック少含  
 5層 黒褐色土 ローム粒と白色粘土粒微含

- P8**
- 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒少含  
 3層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒と径10mm大のロームブロック少含  
 4層 黒褐色土 ローム粒と径5~10mm大のロームブロック多含

- P9**
- 1層 黒色土 ローム粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒少含 焼土粒微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒多含  
 4層 黒褐色土 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム粒多含 径10mm大のロームブロック少含  
 6層 黒褐色土 ローム粒少含

- P10**
- 1層 黒褐色土 ローム粒と白色粘土粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含  
 3層 黒褐色土 ローム粒と径10mm大のロームブロック少含  
 4層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒と径10mm大のロームブロック少含

図288 B096



図289 B096 (2)

B095z

検出地区 L6-28・29gにて検出した。

遺構 P10・P11を一括した。柱穴規模はB095と同じであった。

所見 P10は東柱の、P11は出入口に伴うかもしれないが、判断できなかった。

B096

検出地区 L6-29・30gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.48m×短軸3.92m、方位はN-33°-Eを測る。柱痕はP1・P3・P4・P6～P10の8基で検出された。柱痕には白色粘土を少含する黒褐色土の覆土であったが、P3・P6は上下2層に分層できるほど白色粘土が多かった。柱穴の掘込みの深さは0.28～0.56mであるが、P5の0.28mが浅く、他の柱穴は0.36～0.52mに取まっている。

覆土は、ロームを包含した黒色土と黒褐色土が主体であるが、柱穴によって主体となる覆土は異なっていた。全体的に突固められた覆土であった。

遺物 一括して取り上げているが、全体としては少なかった。その中で、流込みである縄文早期・条痕文片が多かった。

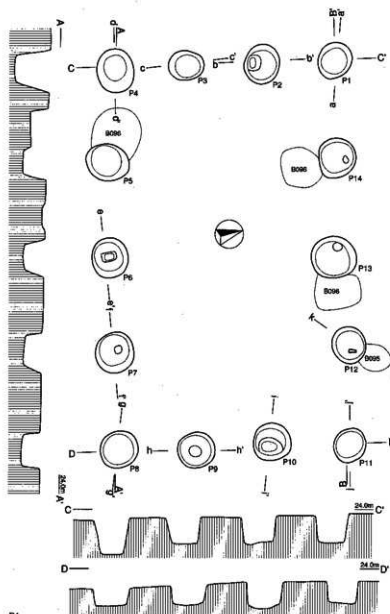
所見 B097と重複しているが、関連する遺構との新旧関係はB095→B096→B097と捉えられた。

P3・P6の柱痕上部への白色粘土が多く混合し、充填したような柱痕覆土はどのように捉えたらよいであろうか。Ⅳ地区に入って柱痕覆土への粘土混入が認められ始めたが、少量の混入ではない場合、しかもP3・P6のように柱痕覆土が上下2層に分層でき、色調的に白色化し、または、粘土純層化している。柱痕は乱れておらず、この場合、通常は柱の立腐れと捉えられる。しかし柱の立腐れの後に「穴」として残ったとしてもわざわざ粘土を投入するとは思えず、類例の増加をもって検討すべきであろう。

表71 B096遺物観察表

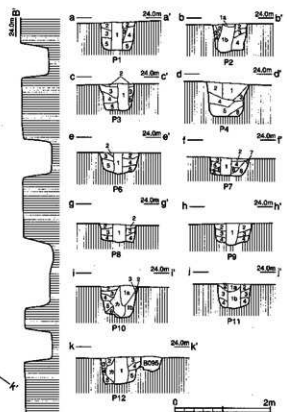
(単位mm)

No.	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	-X(68)×(32) ロクロ成形 外面は体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナゲ 底部は回転糸切り後周縁は手持ちヘラケズリ	橙褐色 良	雲母赤色スコリア細粒	体部～底部の1/4	墨書「西」 体部外面下半
2	土師器 杯	-X-X-X- 胴部外面はヘラケズリ 内面はヘラナゲ	外茶褐色 内橙褐色 良	長石類 赤色スコリア細粒	胴部片	墨書「口」 胴部外面
3	縄文 深鉢	外面横方向の貝殻条痕 内面横→斜め方向の擦痕の擦痕状の条痕 口唇部形態は角環状口唇上に貝殻を押しつけたキザミ	灰褐色	スコリア 細粒 繊維少量	口縁片	早期後半 条痕文系土器 野島式
4	縄文 深鉢	外面に条痕を施す 内面に条痕を施す 鋭角な尖底	外橙褐色 内茶褐色 良	スコリア 細粒繊維	底部片	早期後半 条痕文系土器 野島式



- P4**
- |    |      |                    |            |
|----|------|--------------------|------------|
| 1層 | 灰褐色土 | 白色粘土に黒褐色土が少量混入     | ローム粒と焼土粒微含 |
| 2層 | 暗褐色土 | ロームと黒褐色土が混合        | 黒色土少量混入    |
| 3層 | 黒褐色土 | 径5~10mm大のロームブロック少含 |            |
| 4層 | 黒褐色土 | 径5~10mm大のロームブロック少含 | 焼土粒少含      |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含             |            |
| 6層 | 黒褐色土 | 径5mm大のロームブロック少含    |            |
- P6**
- |    |      |                      |         |
|----|------|----------------------|---------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含               | 白色粘土粒微含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含               |         |
| 3層 | 黒色土  | 径5mm大のロームブロック多含      |         |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含               |         |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒と径5mm大のロームブロック少含 |         |
- P7**
- |    |      |                 |                         |
|----|------|-----------------|-------------------------|
| 1層 | 黒色土  | 径5mm大のロームブロック微含 |                         |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含          |                         |
| 3層 | 暗褐色土 | ロームと黒色土が混合      | ローム粒多含                  |
| 4層 | 黒色土  | 径5mm大のロームブロック少含 | ローム粒と                   |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含          | 焼土粒微含                   |
| 6層 | 黒褐色土 | ロームと黒色土が混合      | ローム粒と径5~30mm大のロームブロック多含 |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒微含          |                         |
| 8層 | 暗褐色土 | ソフトロームブロック      |                         |
| 9層 | 黒褐色土 | ローム粒少量混入        |                         |
- P8**
- |    |      |        |  |
|----|------|--------|--|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 |  |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |  |

- P9**
- |    |      |                      |  |
|----|------|----------------------|--|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含               |  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含               |  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒と径5mm大のロームブロック多含 |  |
| 4層 | 黒褐色土 | 径5~20mm大のロームブロック多含   |  |
- P10**
- |     |      |                         |                    |
|-----|------|-------------------------|--------------------|
| 1a層 | 灰色土  | 白色粘土主体                  |                    |
| 1b層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒少含            |                    |
| 2層  | 黒褐色土 | ローム粒少含                  |                    |
| 3層  | 黒褐色土 | ローム粒、径5~10mm大のロームブロック少含 |                    |
| 4層  | 黒褐色土 | ローム粒多含                  | 径5~10mm大のロームブロック少含 |
| 5層  | 黒褐色土 | ローム粒少含                  |                    |
| 6層  | 黒褐色土 | ローム粒、径10mm大のロームブロック少含   |                    |
- P11**
- |     |      |                      |        |
|-----|------|----------------------|--------|
| 1a層 | 灰色土  | 白色粘土主体               |        |
| 1b層 | 黒色土  | 白色粘土粒少含              | ローム粒微含 |
| 2層  | 黒褐色土 | ローム粒少含               |        |
| 3層  | 黒褐色土 | ローム粒と径5mm大のロームブロック少含 |        |
| 4層  | 黒褐色土 | ローム粒少含               |        |
- P12**
- |    |      |                    |        |
|----|------|--------------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | 白色粘土粒少含            | ローム粒微含 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含             |        |
| 3層 | 黒褐色土 | 径5mm大のロームブロック少含    |        |
| 4層 | 黒褐色土 | 径5~10mm大のロームブロック少含 |        |
| 5層 | 黒褐色土 | 径5mm大のロームブロック多含    |        |



- P1**
- |    |      |                       |        |
|----|------|-----------------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒、白色粘土粒少含          |        |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にロームと黒色土が少量混入     | ローム粒多含 |
| 3層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にロームが少量混入         | ローム粒多含 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒と径20mm大のロームブロック少含 |        |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                |        |
- P2**
- |     |      |                       |         |
|-----|------|-----------------------|---------|
| 1a層 | 灰褐色土 | 白色粘土主体                |         |
| 1b層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                | 白色粘土粒少含 |
| 2層  | 黒色土  | ローム粒少含                |         |
| 3層  | 黒褐色土 | 径10mm大のロームブロック少含      |         |
| 4層  | 黒褐色土 | ローム粒と径20mm大のロームブロック少含 |         |
| 5層  | 黒褐色土 | ローム粒少含                |         |
- P3**
- |    |      |                    |        |
|----|------|--------------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含             |        |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含             |        |
| 3層 | 黒褐色土 | 径5~10mm大のロームブロック少含 |        |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入       | ローム粒多含 |
| 5層 | 黒色土  | 径5~10mm大のロームブロック少含 |        |

図290 B097

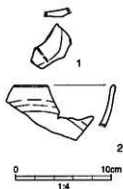


図291 B097 (2)

B097

検出地区 L6-19・29・30にて検出した。

遺物 3×4間の掘立柱建物跡である。長軸8.20m×短軸4.72m、方位はN-78°-Wを測る。IV地区においても大形の建物跡である。柱痕はP1・P3・P4・P6～P10の8基で検出し、柱痕覆土には全体的に白色粘土を混入していた。特にP2・P10・P11は柱痕覆土が上下2層に分かれ、白色粘土が主体であり「充填」されるようであった。柱穴の掘込みの深さは0.28～0.60mとなっているが、0.36～0.48mが中心であった。

覆土は、ロームを包含する黒色土、黒褐色土が主体である。

遺物 出土はするが、量は少ない。縄文早期・燃糸文や条痕文片も出土している。1は判読できないが、墨書土器片である。2はP12から出土している。

所見 B096と同様、柱痕覆土上層に白色粘土が充填されたように検出した、上谷遺跡においても大形の掘立柱建物跡である。B097と重複するが、関連遺構との覆土の状態から、本遺構が新しいものと捉えられている。

表73 B097遺物観察表

(単位:mm)

No	種別 形状	法量 成形・調整等の 特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 皿	-X-X- ロクロ成形体部外面下端は手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形後ヘラミガキ 底部は回転ヘラ切り	褐色色	長石類 スコリア 細粒緻密	底部片	墨書「口」 底部外面 赤彩か
2	土師器 坏	-X-X- ロクロ成形 体部外面下半は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	褐色色	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁・ 体部片	

P7  
1層 黒褐色土 ローム少量含 白色粘土微量含  
2層 黒褐色土 ローム少量含 白色粘土微量含  
3層 黄褐色土 ソフトロームブロック  
4層 黒色土 ローム粒少量含  
5層 黒褐色土 径5mm大のロームブロック少量含  
6層 黒色土 ローム粒微量 径5mm大のロームブロック少量含

P8  
1層 黒色土 黒褐色土主体 径5mm大のロームブロック少量含  
2層 黒褐色土 ローム粒多含  
3層 黒色土 ローム少量混  
4層 黒褐色土 ローム少量混 径20mm大のロームブロック少量含  
5層 黒褐色土 ローム少量含  
6層 黒色土 ローム少量含  
7層 黒褐色土 ローム少量含

P9  
1層 黒色土 ローム少量混  
2層 黒色土 ローム少量混  
3層 黒色土 ローム少量混  
4層 黒褐色土 黒色土主体 ローム少量混 ローム粒多量含  
5層 黒色土 ローム粒少量含  
6層 黒褐色土 ローム粒多含 径10～30mm大のロームブロック多含

P10  
1層 黒色土 ローム粒少量含  
2層 暗褐色土 ローム主体 黒褐色土少量含  
3層 黒褐色土 ローム粒多量含 径20mm大のロームブロック多量含  
4層 黒褐色土 ローム粒多量含  
5層 暗褐色土 ロームと黒褐色土が混含

P11  
1層 黒色土 ローム粒少量 径5mm大のロームブロック少量含  
2層 黒褐色土 ローム粒少量含  
3層 黒色土 ローム粒少量含  
4層 黒褐色土 径5～10mm大のロームブロック少量含  
5層 黒褐色土 ローム粒少量含  
6層 黒色土 ローム粒少量含 白色粘土微量

P12  
1層 黒色土 ローム粒少量含  
2層 黒色土 ローム粒微量含  
3層 黒色土 ローム粒少量含 白色粘土微量含  
4層 黒色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少  
5層 黒褐色土 ローム粒多含 径5～20mm大のロームブロック多  
6層 黒褐色土 ローム粒多量  
7層 黒褐色土 ローム粒多 径10～30mm大のロームブロック多  
8層 黒色土 ローム粒少 径5～10mm大のロームブロック少

P13  
1層 黒色土 ローム粒少量含 白色粘土微量含  
2層 黒褐色土 ローム粒微量  
3層 黒褐色土 ローム少量 径5mm大のロームブロック少量含  
4層 黒褐色土 ローム粒微量  
5層 黒褐色土 ローム少量含  
6層 黒色土 ローム少量含  
7層 黒色土 黒色土主体

P17  
1層 黒褐色土 ローム粒少量含  
2層 黒色土 ローム粒微 径10～20mm大のロームブロック少  
3層 黒色土 ローム粒少量含  
4層 黒褐色土 ローム粒少量含

図292 B098abc



**B098a**

検出地区 L6-19gにて検出した。

遺物 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.74m×短軸2.41m、方位はN-63°-Eを測る。P1～P10が属する柱穴である。柱穴はP1・P3～P6にて検出した。

柱穴覆土はロームを少含する黒褐色土であり、覆土はロームを含む黒色土・黒褐色土である。

遺構 土師器片などを少量出土している。

所見 柱痕には、白色粘土を若干含んでいた。

**B098b**

検出地区 L6-19gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.54m×短軸1.96m、方位はN-64°-Eを測る。属する柱穴はP16・P2s・P13・P10・P11a・P15である。

所見 柱痕には、白色粘土を若干含んでいる。

**B098c**

検出地区 L6-19gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.72m×短軸1.96m、方位はN-65°-Eを測る。属する柱穴は、P7～P9・P11b・P12である。

遺物 土師器片などを少量出土している。

所見 B098a・b・c重複は錯綜している。覆土よりB098b・c→B098aと捉えた。

**B099**

検出地区 L6-8・18・19gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.48m×短軸4.40m、方位はN-64°-Wを測る。A209と重複しており、P8は床面以下であったため検出されたが、P9・P10に相当する柱穴は捉えきれなかった。柱痕はP2～P6で検出し、柱痕覆土はロームを包含する黒色土である。柱穴の掘込みの深さは0.68～0.84mであり、0.70～0.76mが4基となっていた。

覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体であった。

遺物 出土量は少ない。縄文早期・燃糸文、条痕文片も出土している。

所見 A209・B101と重複しているが、B101→B099→A209が捉えられた。

**B100a**

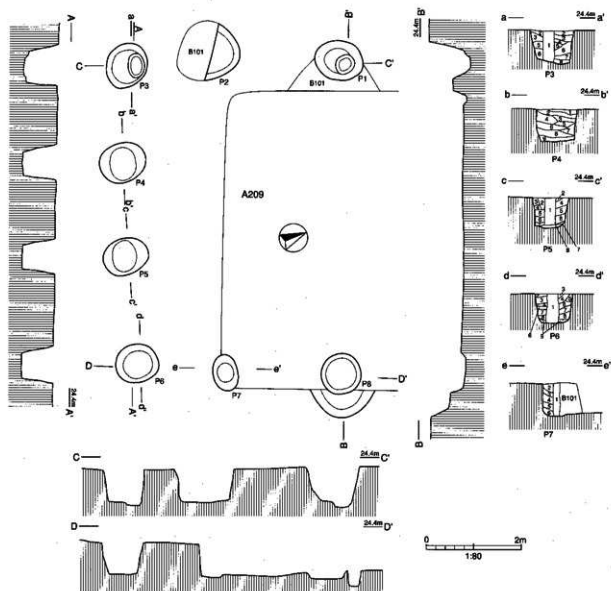
検出地区 L6-8・9gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.32m×短軸3.12m、方位はN-25°-Eを測る。本建物跡に属する柱穴は、P2～P10となっている。柱痕は、P2～P5・P8・P10の6基に検出した。白色粘土はP2・P6において認められた。

覆土は、ロームを包含する黒褐色土・黒色土が主体となっていた。

遺物 出土量は多くはないが、その中では縄文時代・燃糸文、条痕文片が多かった。黒曜石剥片も出土している。本遺構に関連する遺物は1～5で、2～4は土師器坏の墨書土器片である。断片であるが、いずれも「竹」と判読される。6～9は縄文早期の燃糸文及び条痕文である。

所見 B100bとは、ちょうど2/3程度重なって検出された。一見、複雑な柱穴配置に見えたが、整然とした2間四方の建物跡の重複である。建替えと捉えられた。B100bとの新旧関係は捉えられなかった。



- P3**
- |    |      |                  |                            |
|----|------|------------------|----------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒多含           | 径5~10mm大のロームブロック少含         |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含           |                            |
| 3層 | 黒褐色土 | 径10mm大のロームブロック多含 |                            |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多含           | 径5mm大のロームブロック少含<br>白色粘土粒層含 |
| 5層 | 黒褐色土 | 径5mm大のロームブロック少含  |                            |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒多含           |                            |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒少含           |                            |
| 8層 | 黒褐色土 | ローム粒多含           | 径5mm大のロームブロック少含            |

- P4**
- |    |      |        |                     |
|----|------|--------|---------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 |                     |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含 |                     |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含 |                     |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |                     |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 | 径10~20mm大のロームブロック多含 |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒多含 | 径10~20mm大のロームブロック多含 |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 | 径10~30mm大のロームブロック少含 |
| 8層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 |                     |
| 9層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 | 径5mm大のロームブロック少含     |

- P5**
- |    |      |        |                     |
|----|------|--------|---------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含 | 径10~20mm大のロームブロック少含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 |                     |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含 | 径5mm大のロームブロック少含     |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 | 径5~10mm大のロームブロック多含  |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |                     |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |                     |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 | 径5~10mm大のロームブロック多含  |
| 8層 | 黒褐色土 | ローム粒多含 | 径10mm大のロームブロック多含    |

- P6**
- |    |      |         |                             |
|----|------|---------|-----------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒多含  |                             |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含  |                             |
| 3層 | 黒色土  | ローム少量混入 | ローム粒多含                      |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム少量混入 | ローム粒多含                      |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒多含  |                             |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム少量混入 | ローム粒と<br>径5~10mm大のロームブロック多含 |
| 7層 | 黒色土  | ローム粒少含  |                             |
| 8層 | 黒色土  | ローム粒多含  |                             |
| 9層 | 黒褐色土 | ローム粒多含  |                             |

- P7**
- |    |      |                           |        |
|----|------|---------------------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含                    |        |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム少量混入                   | ローム粒少含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含                    |        |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム少量混入                   | ローム粒多含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                    |        |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒と径10mm大のローム<br>ブロック少含 |        |

図294 B099



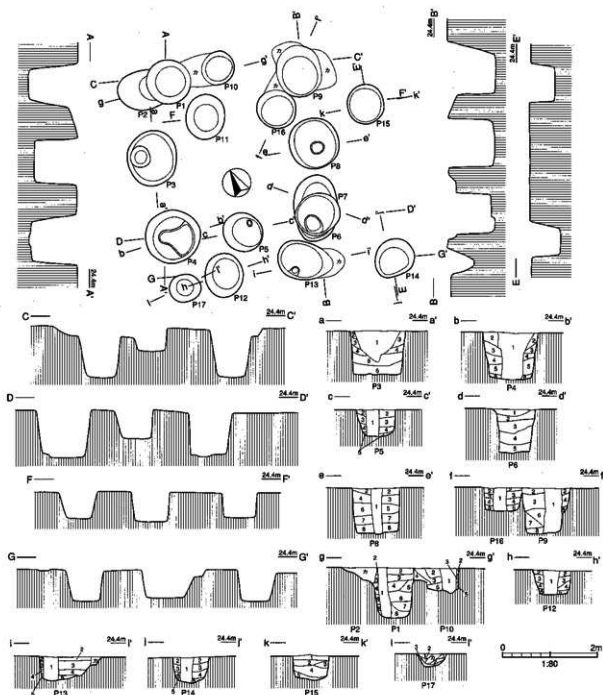


図295 B100a・b・z

### B100b

検出地区 L6-8・9gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.48m×短軸3.32m、方位はN-66°-Wを測る。本建物跡に属する柱穴は、P11～P16である。柱痕は、P11～P13・P15・P16において検出された。P13・P16の2基は、柱痕覆土に白色粘土が混入していた。柱穴の掘込みの深さは0.56～0.88mであり、0.56～0.64mに5基を占めていた。このため柱穴の掘込みの深さは全体として、0.60m前後が意識されていたようである。

覆土は、ロームを包含する黒色土・黒褐色土が主体を占めていた。

遺物 土師器片を中心として出土するが全体量は少ない。縄文早期・糸痕文片も出土している。

所見 B100aと大きく重なって重複する建物跡である。規模、形状などが近似することから、建替えと捉えた。新旧関係は、重複する柱穴がないため捉えられなかった。



## B100z

遺構 B100a・bから柱痕配置上で遺漏するものを一括した。P1・P14・P17の3基である。柱痕はP17で検出している。

所見 B100a・bを捉えることによって遺漏した柱穴である。今回報告した建物跡の把握と異なる、これら柱穴を用いた別の選択があるかも知れない。

表74 B100遺物観察表

(単位mm)

No	機器別形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 環	(110)×78×37 ロクロ成形 外面 体部下端は手持ちヘラケズリ 内面 ロクロナデ 底部は回転糸切り後周縁は手持ちヘラケズリ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁～ 体部の 3/5 欠損	
2	土師器 環	-X-X- ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭	橙褐色 良	スコリア 微粒 雲母細粒	口縁～ 体部片	墨書「竹」 口縁外面正位
3	土師器 環	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキこの後吸炭	淡褐色 良	雲母 スコリア 細粒微密	体部片	墨書「竹」 体部外面
4	土師器 環	-X-X- ロクロ成形 内面 ロクロナデ	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア細粒	口縁片	墨書「竹」 口縁外面 赤形ありか
5	土師器 壺	(242)×-×(95) 口縁端部はつまみ上げ 口縁内外面ともナデ外面の頸部から胴上半はヘ ラケズリ後ヘラナデ内面ヘラナデ	橙褐色 良	雲母 花崗岩 赤色スコ リア粒	口縁～ 胴部 上半の 1/5	常総型壺
6	縄文 深鉢	外面 沈線に沿った細隆起線で意匠を描く 内面 横方向を主とするややランダムな貝殻条痕 平縁か	橙褐色 良	スコリア 細粒繊維	口縁片	早期後半 条痕文系土器 野島式
7	縄文 深鉢	外面 縦方向を主とする貝殻条痕 内面 斜め方向の貝殻条痕後ナデ消す 口唇部は尖頭状 平縁	橙褐色 暗褐色 昔	スコリア 細粒繊維	口縁片	
8	縄文 深鉢	内外面 ケズリ後ナデ 鋭角気味の尖底	橙褐色 良	長石類 スコリア 細粒	底部片	草創期後半 熱余文系土器
9	縄文 深鉢	外面 2段RLの原体割面圧痕により 口縁部無文帯作出 内面 横方向のケズリ後口唇部はナデ 口唇部形態は内厚気味で丸棒状	淡褐色 良	砂目立つ スコリア 細粒	口縁片	草創期後半 熱余文系土器 花輪台式

## B101a

検出地区 L6-7・8・18にて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡とそれに伴う櫛列である。建物跡に属する柱穴はP1～P6・P9・P10・P16・P17であり、長軸5.60m×短軸5.44m、主軸方位はN-55°-Wを測る。南西側柱列は中間に柱穴が2基検出し、3間となった変則的な建物跡である。建物跡の全柱穴から柱痕を検出したが、柱痕の覆土は2層乃至3層に分層ができ、最上層は白色粘土が充填されたように多量に検出した。柱穴の掘込みの深さは0.43～0.83mであるが、大きく0.60m前後3基と、0.70m前後3基に分かれる。覆土は、ロームを包含する黒色土・黒褐色土・暗褐色土・暗黄褐色土が主体となっている。

櫛列は、P11～P15の5基であり、全長8.16mを測る。5基の柱穴から柱痕を検出し、柱痕覆土に白色粘土が充填されていた。このため建物跡と同一遺構と捉えた。

遺物 出土は無かった。

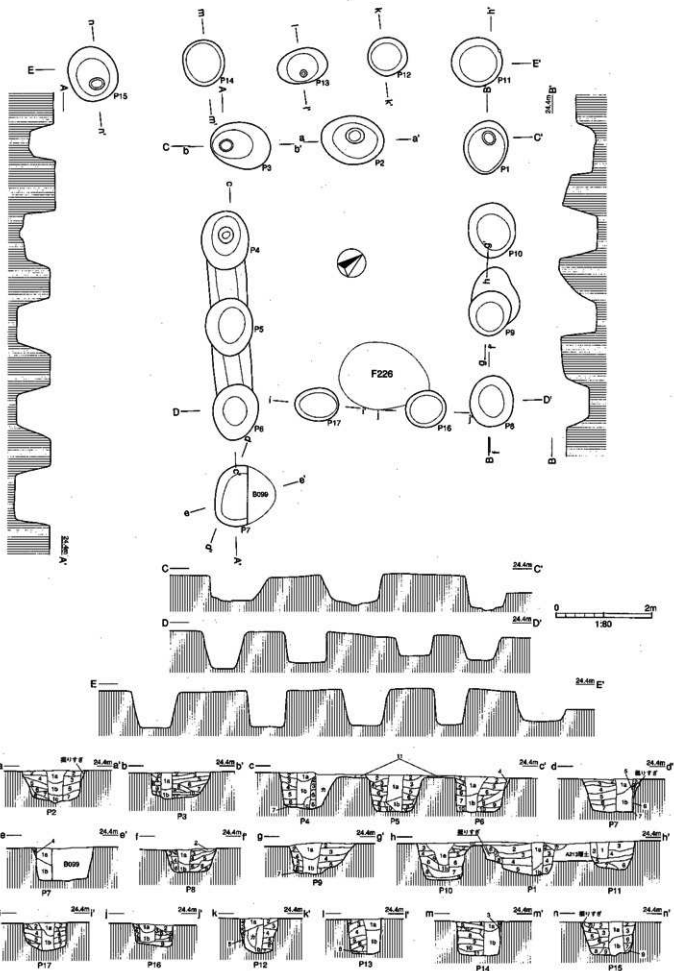


图297 B101a-z

P1		
1a	灰褐色土	白色粘土と黒色土が混合
1b	黒色土	ローム粒少含
2	黒色土	ローム粒少含
3	黒色土	径5mm大のロームブロック少含
4	黒色土	径5~20mm大のロームブロック少含
5	黒色土	径5~30mm大のロームブロック少含
6	暗黄褐色土	ローム粒多含
7	暗黄褐色土	径20mm前後のロームブロック多含
8	黒褐色土	黒色土とロームが粗く混合
		ローム粒多含
		ソフトロームブロック
		ローム粒少含

P2		
1a	灰白色土	白色粘土主体
1b	黒色土	ローム粒少含
1c	黒褐色土	白色粘土少含
2	暗褐色土	ローム粒少含
3	暗褐色土	白色粘土少含
4	暗褐色土	ソフトローム主体
5	暗褐色土	ローム多量混入
6	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
7	暗褐色土	ローム多含
8	黒色土	ローム多含

P3		
1a	灰褐色土	白色粘土と褐色土混合
1b	黒色土	ローム粒少含
2	黒褐色土	白色粘土とローム混合
3	暗褐色土	ローム粒少含
4	暗褐色土	径5~10mm大のロームブロック少含
5	暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合
6	暗褐色土	ローム多含
7	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
8	暗褐色土	ソフトローム主体
9	暗褐色土	ローム粒少含
10	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
11	暗褐色土	ローム粒少含

P4		
1a	灰白色土	白色粘土主体
1b	暗褐色土	黒褐色土と褐色土が粗く混合
1c	暗褐色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合
3	暗褐色土	黒褐色土主体
4	暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合
5	暗褐色土	ローム多含
6	暗褐色土	ローム多含
7	暗褐色土	ローム多含

P5		
1a	灰褐色土	白色粘土主体
1b	黒色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	ローム粒少含
3	暗褐色土	白色粘土粒少含
4	暗褐色土	ローム粒少含
5	暗褐色土	白色粘土粒少含
6	暗褐色土	ローム多含
7	暗褐色土	径20mm大のロームブロック少含
8	暗褐色土	ローム多含
9	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
10	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
11	暗褐色土	炭化粒微含
12	暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合

P6		
1a	灰褐色土	白色粘土と黒色土が粗く混合
1b	黒色土	ローム粒多含
2	暗褐色土	白色粘土粒少含
3	暗褐色土	ローム粒微含
4	暗褐色土	ソフトロームブロック
5	暗褐色土	ローム粒多含
6	暗褐色土	径5~10mm大のロームブロック少含
7	暗褐色土	ローム多含
8	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
9	暗褐色土	暗褐色土主体
10	暗褐色土	ローム多含
11	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
12	暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合

P7		
1a	灰白色土	白色粘土主体
1b	暗褐色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	ローム多含
3	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
4	暗褐色土	径10~30mm大のロームブロック多含
5	暗褐色土	径10~50mm大のロームブロック多量含
6	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
7	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
8	暗褐色土	径20mm大のロームブロック少含
9	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含

P8		
1a	灰褐色土	黒色土と白色粘土混合
1b	黒色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	ローム粒多含
3	暗褐色土	径5mm大のロームブロック少含
4	暗褐色土	白色粘土粒少含
5	暗褐色土	ローム多含
6	暗褐色土	径5~10mm大のロームブロック少含
7	暗褐色土	径5~10mm大のロームブロック少含
8	暗褐色土	ローム多含
9	暗褐色土	白色粘土粒少含
10	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
11	暗褐色土	ローム粒少含
12	暗褐色土	白色粘土粒少含
13	暗褐色土	ローム粒多含

P9		
1a	灰白色土	白色粘土主体
1b	黒色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	白色粘土粒少含
3	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
4	暗褐色土	径10~20mm大のロームブロック少含
5	暗褐色土	ローム多含
6	暗褐色土	径10~50mm大のロームブロック少含
7	暗褐色土	ローム少含
8	暗褐色土	白色粘土粒少含
9	暗褐色土	径5mm大のロームブロック少含

P10		
1a	灰白色土	白色粘土主体
1b	黒色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	ローム粒微含
3	暗褐色土	白色粘土と黒色土が粗く混合
4	暗褐色土	ローム粒と白色粘土粒少含
5	暗褐色土	ローム粒少含
6	暗褐色土	径5mm大のロームブロック多含
7	暗褐色土	ローム粒多含
8	暗褐色土	径5~30mm大のロームブロック多含
9	暗褐色土	ローム粒少含
10	暗褐色土	ローム少含
11	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
12	暗褐色土	ローム粒少含
13	暗褐色土	径20mm大のロームブロック少含
14	暗褐色土	ローム少含

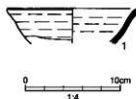
P11		
1	黒色土	ローム粒少含
2	欠香	白色粘土とロームが粗く混合
3	暗褐色土	ローム粒少含
4	暗褐色土	径10~30mm大のロームブロック多含
5	暗褐色土	白色粘土主体に黒色土少量混入
6	暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合
7	暗褐色土	ローム粒多含
8	暗褐色土	径20mm大のロームブロック少含

P12		
1a	暗褐色土	黒褐色土と白色粘土が混合
1b	暗褐色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	ローム粒少含
3	暗褐色土	径20mm大のロームブロック少含
4	暗褐色土	ローム粒微含
5	暗褐色土	白色粘土粒微含
6	暗褐色土	黒褐色土にローム粒少量混入
7	暗褐色土	ローム粒微含
8	暗褐色土	ローム粒少含

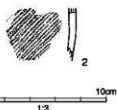
P13		
1a	暗褐色土	白色粘土と黒色土が混合
1b	暗褐色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
3	暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合
4	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
5	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少含
6	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
7	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
8	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
9	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
10	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
11	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
12	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
13	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
14	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
15	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
16	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
17	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
18	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
19	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含
20	暗褐色土	径10mm大のロームブロック多含

P14		
1a	暗褐色土	白色粘土と黒色土が混合
1b	暗褐色土	ローム粒少含
2	暗褐色土	ローム粒微含
3	暗褐色土	ソフトロームブロック
4	暗褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合
5	暗褐色土	ソフトローム主体
6	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
7	暗褐色土	ソフトロームブロック
8	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
9	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
10	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
11	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
12	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
13	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
14	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
15	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
16	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
17	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
18	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
19	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含
20	暗褐色土	径20mm大のロームブロック多含

- P15
- 1a層 褐色土 ローム粒少含 炭化粒微含
  - 1b層 黒褐色土 黒褐色土にローム粒多量混入 白色粘土粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒多含 径5~10mm大のロームブロック多含
  - 3層 暗褐色土 黒褐色土とロームが混合 ローム粒多含 径30mm大のロームブロック少含
  - 4層 暗褐色土 黒褐色土とロームが混合 ローム粒多含 径30mm大のロームブロック多含
  - 5層 黄褐色土 ローム主体 ローム粒多含 径20mm大のロームブロック多
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロック多含
  - 7層 黒色土 ローム粒少含
  - 8層 暗褐色土 黒褐色土とロームが粗く混合 径20mm大のロームブロック多
  - 9層 暗褐色土 ローム粒少含



- P16
- 1a層 灰白色土 白色粘土主体 黒色土微含 ローム粒微含
  - 1b層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒少含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 6層 黒色土 ローム粒微含
  - 7層 黒色土 ローム粒少含
  - 8層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 9層 暗褐色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含



- P17
- 1a層 灰褐色土 黒褐色土と白色粘土が混合 ローム粒少含
  - 1b層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒少含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒と白色粘土粒微含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 6層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
  - 7層 黒褐色土 ローム粒少含

図299 B101az (2)

所見 基本は2×3間の掘立柱建物跡であるが、短軸方向の片側3間の変則的建物跡である。それに楯列が付属した建物跡である。

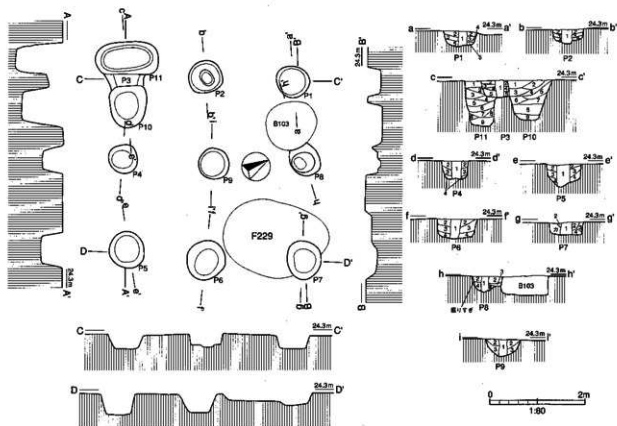
一方、各柱穴の柱痕覆土の上層から、白色粘土が充填したように検出された。柱痕は整然と残っており、全てが引抜かれたとは思えない状態である。同一建物で柱材が腐った後に一齐に充填したとは思えず、また、仮に腐った柱材の「穴」として残った所にわざわざ粘土を充填する必要があったのか捉えきれない。

仮に柱材の埋置時に充填するのならば、本遺構のようにすべての柱穴に行く場合と、同一建物跡内の柱穴のうち一部に行っている違いはどこにあるのか判然としない。柱痕覆土での白色粘土の検出状況は、縦には柱痕の幅に整然と入っている。柱痕覆土下層へは整然とする場合と、流れたような場合があり、柱材の立腐れに対して腐った部分に入っているような感じである。流込みなら理解できることであるが、これが上谷遺跡内の場合、IV地区・V地区にわたる掘立柱建物跡群の一部のものなのか、II地区に存在する掘立柱建物跡群と異なる点とともに検討したい。

表75 B101遺物観察表

(単位:mm)

No	種別形	法量 成形・調整等の特徴	色調 胎土	遺存	備考	
1	須恵器 坏	(136)××(37) ロクロ成形 体部下半は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	灰色 良	花崗岩 細粒 雲母少量	口縁~ 体部の 1/3 残存	常陸産
2	弥生壺	外面 附加糸縄文を施文 内面 ナデ	橙褐色 良	長石類 スコリア 類	副部片	弥生後期



- P1**
- |    |      |              |        |
|----|------|--------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含       |        |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入 | ローム粒少含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含       |        |
| 4層 | 黄褐色土 | ソフトロームブロック   |        |
| 5層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入 | ローム粒少含 |

- P2**
- |    |      |              |        |
|----|------|--------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含       |        |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入 | ローム粒少含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含       |        |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含       |        |

- P3**
- |    |      |        |             |
|----|------|--------|-------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含 |             |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒微含 | 焼土粒微含 炭化粒微含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含 |             |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少含 | 焼土粒微含 炭化粒微含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |             |

- P4**
- |    |      |              |        |
|----|------|--------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含       |        |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含       | 焼土粒微含  |
| 3層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入 | ローム粒多含 |
| 4層 | 黒色土  | 黒色土にローム粒微量混入 |        |

- P5**
- |    |      |              |        |
|----|------|--------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含       |        |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含       | 焼土粒少含  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含       |        |
| 4層 | 暗褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入 | ローム粒多含 |

- P6**
- |    |      |            |       |
|----|------|------------|-------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒と焼土粒微含 |       |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含     | 焼土粒微含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含     |       |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒と焼土粒微含 |       |

- P7**
- |    |      |              |        |
|----|------|--------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒と白色粘土粒微含 |        |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含       |        |
| 3層 | 黄褐色土 | ソフトロームブロック   | ローム粒少含 |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入 | ローム粒多含 |

- P8**
- |    |      |            |          |
|----|------|------------|----------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒と焼土粒微含 |          |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含     |          |
| 3層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体   | 黒褐色土少量混入 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含     | 焼土粒微含    |

- P9**
- |    |      |        |      |
|----|------|--------|------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含 |      |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含 | 焼土微含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |      |

- P10**
- |    |      |                  |        |
|----|------|------------------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒と白色粘土粒と焼土粒少含 |        |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒微含           |        |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含           |        |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒褐色土にローム少量混入     | ローム粒少含 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒微含           |        |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒多含           |        |
| 7層 | 黒褐色土 | ローム粒少含           |        |
| 8層 | 黒褐色土 | 径5mm人のロームブロック少含  | ローム粒少含 |
| 9層 | 黒色土  | ローム粒多含           |        |

- P11**
- |    |       |                 |        |
|----|-------|-----------------|--------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒微含          |        |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少含          |        |
| 3層 | 黒褐色土  | 径5mm人のロームブロック少含 | ローム粒少含 |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒少含          |        |
| 5層 | 黒色土   | 焼土粒微含           | ローム粒少含 |
| 6層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色土とロームが混合     | ローム粒多含 |
| 7層 | 黒色土   | ローム粒少含          |        |
| 8層 | 暗褐色土  | ローム粒少含          |        |
| 9層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色土とロームが混合     | ローム粒多含 |

図300 B102a・z

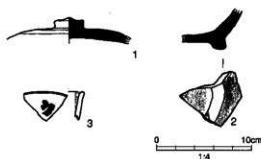


図301 B102az (2)

## B102

検出地区 L5-98・99gにて検出した。

遺構 2×2間の総柱式の掘立柱建物跡である。長軸3.76m×短軸3.72m、方位はN-60°-Wを測る。柱痕はP1～P9において検出し、P7・P10では柱痕覆土に白色粘土の混入を認めた。柱穴の掘込みの深さは0.24～0.44mであり、柱穴の深さとして0.30～0.40m前後を意識しているようである。柱痕覆土はロームを少し含む黒褐色土

であった。

柱穴の覆土はロームを包含した黒色土・黒褐色土を主体としていた。覆土の状況は、基本的に整然としたものであった。

遺物 土師器・須恵器を中心に小片が出土しているが、出土量は少なかった。墨書土器片1点が出土しているが、他の出土資料から「竹」と判読できた。

所見 3間四方の総柱式の掘立柱建物跡であるが、全体として小規模な建物跡でもある。また、北側柱列は、やや中に入り込んでいた。高床ではあるが、倉庫跡とするには柱穴の掘込みが浅く、荷重に耐えられるか疑問を持つものである。B103と重複しており、新旧関係、B103→B102となっている。

### B102z

遺構 B102の柱穴配置から遺漏する柱穴を一括した。P10・P11の2基であるが、P1と重複している。P10・P11の方が柱穴らしい深さをもつピットであるが、配置上ではつながらなかった。

遺物 土師器・須恵器を中心に小片が出土しているが、出土量は少なかった。

所見 P10・P11との新旧関係は、P11→B102→P10と覆土から捉えられた。

表76 B102遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 蓋	-X-X(28) ロクロ成形 外面大蓋部は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナガ宝珠部をジョイントする	灰色 良	雲母 白色粒	天蓋部の一部 宝珠部	常陸産
2	須恵器 長頸壺	-X-X-X ロクロで仕上げ付高台 胴下半及び高台内面に自然輪かかる	灰色 良	長石類 白色粒	底部片	
3	土師器 杯	-X-X-X ロクロ成形 外面は部分的にヘラミガキ 内面はロクロ成形後丁寧にヘラミガキその後焼炭	褐色土 良	雲母スコ リア長石 類細粒	口縁片	墨書 口縁外面「竹」 か

## B103

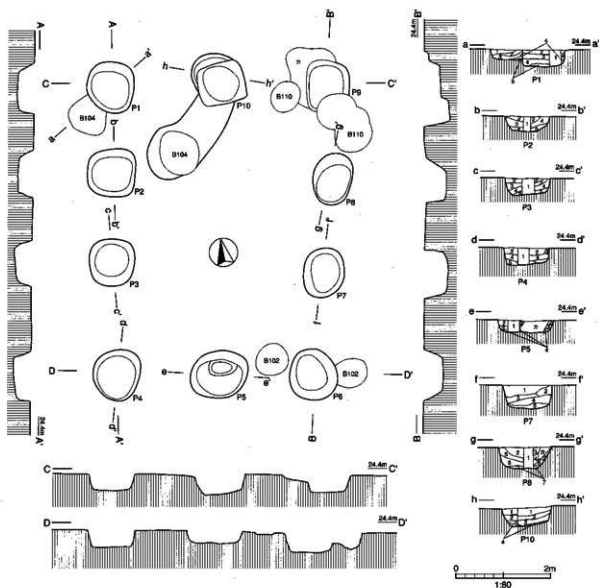
検出地区 L5-97・98gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.12m×短軸4.36m、方位はN-10°-Eを測る。柱痕は、P1～P8で検出した。柱痕覆土には、白色粘土は混入していなかった。柱穴の掘込みの深さは0.36～0.52mであり、0.40m前後が中心であった。柱穴覆土はロームを包含する黒褐色土・黒色土が主体である。

遺構 土師器杯・内黒片や須恵器片・縄文早期・条痕文片などが、少量出土している。

所見 重複する遺構との新旧関係は、B104→B103→B102・B110と捉えられた。南側柱列に対して、北側柱列はやや開く建物跡である。





- P1**
- |    |      |                    |
|----|------|--------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含             |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含             |
| 3層 | 黒色土  | 径5~20mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黄褐色土 | ソフトロームに黒色土が少量混入    |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒多含             |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少含             |
- P5**
- |    |       |            |
|----|-------|------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒少含     |
| 2層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが混含 |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒多含     |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒少含     |
| 5層 | 黒色土   | 黒色土にロームが混入 |
- P4**
- |    |      |            |
|----|------|------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含     |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒多含     |
| 3層 | 黄褐色土 | ソフトロームブロック |
| 4層 | 黒色土  | 黒色土少量混入    |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少含     |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒多含     |
- P5**
- |    |      |            |
|----|------|------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含     |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少含     |
| 3層 | 黄褐色土 | 黒色土とロームが混含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒微含     |

- P2**
- |    |       |               |
|----|-------|---------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒微含        |
| 2層 | 暗黄褐色土 | ソフトロームと黒色土が混含 |
| 3層 | 黄褐色土  | ソフトローム主体      |
| 4層 | 黒褐色土  | ローム粒微含        |
| 5層 | 黒色土   | ローム少量混入       |
| 6層 | 黒色土   | ローム粒少含        |
- P7**
- |    |      |                 |
|----|------|-----------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒多含          |
| 2層 | 黄褐色土 | ソフトローム主体        |
| 3層 | 黄褐色土 | 黄褐色土に黒色土少量混入    |
| 4層 | 黄褐色土 | ソフトローム          |
| 5層 | 黒色土  | 径20mm大ロームブロック多含 |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒多含          |
- P8**
- |     |       |                    |
|-----|-------|--------------------|
| 1層  | 黒色土   | ローム粒多含             |
| 2層  | 黒色土   | ローム少量混入            |
| 3層  | 黒色土   | ローム粒多含             |
| 4層  | 暗黄褐色土 | 径5mm大ロームブロック少含     |
| 5層  | 暗黄褐色土 | ローム粒少含             |
| 6層  | 暗黄褐色土 | ロームと黒褐色土が混含        |
| 7層  | 黄褐色土  | ソフトローム主体           |
| 8層  | 黒色土   | 黒色土が少量混入           |
| 9層  | 黒色土   | 径10mm大ロームブロック少含    |
| 10層 | 黒色土   | ローム粒少含             |
| 11層 | 黒色土   | 径10~30mm大ロームブロック多含 |
| 12層 | 黒色土   | ローム粒微含             |
- P10**
- |    |      |                |
|----|------|----------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含         |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含         |
| 3層 | 黒色土  | 径5mm大ロームブロック微含 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少含         |
| 5層 | 黒褐色土 | 径5mm大ロームブロック少含 |
| 6層 | 黒褐色土 | ローム粒少含         |

図302 B103

#### B104

検出地区 L5-97・98gにて検出した。

遺構 2×4間の掘立柱建物跡である。長軸7.85m×短軸3.66m、方位はN-36°Eを測る。P12に相当する柱穴は、A215によって失われている。柱痕はP1～P8を検出した。柱痕覆土はロームを少量含む黒色土であり、白色粘土の混入は認められなかった。柱穴の掘込みの深さは0.16～0.40mであり、0.30m前後が中心となっていた。覆土は、ロームを含む黒色土・黒褐色土が主体となっていた。

遺物 土師器・須恵器小片及び縄文時代早期の土器片が、少量出土している。

所見 2×4間の建物跡であり、その規模からやや細身の掘立柱建物跡となっている。また、建物跡としてはやや大きくなるにも関わらず、柱穴の掘込みが浅くなっている遺構である。A215と重複しており、新旧関係はB104→A215・B103となっていた。

#### B105

検出地区 L5-97gにて検出した。

遺構 2×2間の総柱式の掘立柱建物跡である。長軸3.92m×短軸3.48m、方位はN-48°Wを測る。柱痕はP1・P2・P4・P6・P8・P9にて検出した。柱痕覆土には、白色粘土の混入は無かった。柱穴の掘込みは、0.20～0.48mであり、0.30～0.40mが主体となっていた。覆土は、ロームを包含する黒色土・黒褐色土であった。

遺物 土師器などが、少量出土している。

所見 2×2間の小規模な総柱式の建物跡である。P9の東柱は、建物跡の中軸線の交差から若干ズレていた。

#### B105z

検出地区 L5-97にて検出した。

遺構 B105の柱穴配置上と、重複から遺漏したものである。P1の1基のみである。P1がP10をきっており、存在時間の異なりが捉えられている。

所見 1基だけであるが、B105より新しく、存在したピットである。柱穴配置上ではP10が都合がよいがP1とどちらが四隅の柱穴になるか判断に迷うものである。

#### B106a

検出地区 L6-2gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。本建物跡に属する柱穴はP1～P10であり、柱痕はP2・P5～P7・P10において検出した。柱痕覆土に、白色粘土の混入を認める建物跡である。柱穴の掘込みの深さは0.28～0.68mであるが、0.60m前後を中心とした柱穴の深さである。

覆土は、ロームを包含する黒色土・黒褐色土であるが、一部に粘土の混入を認めた。

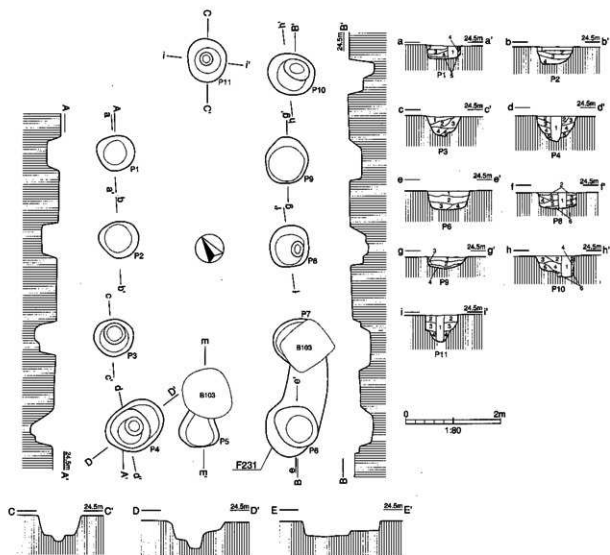
遺物 出土量は少ないが、縄文早期・奈良文片が比較的多かった。当該時期の遺物としては、1・2の土師器・須恵器の蓋が出土している。

所見 B106bとの新旧関係は不明瞭な所もあるが、本遺構が新しいものと捉えた。

#### B106b

検出地区 L6-7gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。総柱式かも知れない。長軸6.40m×短軸4.80m、方位はN-35°Eを測る。本建物跡に属する柱穴は、P11～P20である。柱痕は、P13～P16・P18・P20において検出した。柱痕には、白色粘土の混入を認めた。柱穴の掘込みの深さは0.40～0.72mとなっているが、0.56～0.72mで8基を数え、柱穴の深さは0.60m程度を意識したかも知れない。



- P1**
- |    |       |           |
|----|-------|-----------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒少量含   |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒多量含   |
| 3層 | 黒色土   | ローム粒少量混   |
| 4層 | 黒褐色土  | ローム少量含    |
| 5層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色土とローム混 |

- P2**
- |    |      |                         |
|----|------|-------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                 |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少量含                 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                 |
| 4層 | 黒色土  | ローム少量含 径5mm大のロームブロック少量含 |

- P3**
- |    |       |                          |
|----|-------|--------------------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含                  |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム少量混                   |
| 3層 | 暗黄褐色土 | ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量含 |
| 4層 | 黄褐色土  | ソフトローム主体 黒褐色土少量混         |
| 5層 | 暗黄褐色土 | ロームと黒褐色土が混               |

- P4**
- |    |      |                             |
|----|------|-----------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック微量含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック少量含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少量含                     |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少量含                     |
| 5層 | 黒褐色土 | ローム少量混 径5~10mm大のロームブロック微量含  |

- P5**
- |    |      |                             |
|----|------|-----------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック少量含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック少量含 |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少量含                     |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                     |

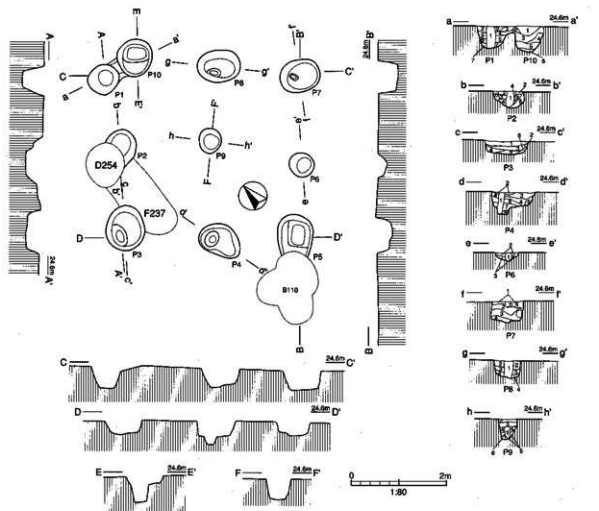
- P6**
- |    |      |                          |
|----|------|--------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含                  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒微量含 径5mm大のロームブロック少量含 |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                  |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量含 |
| 6層 | 黒色土  | ローム粒少量含                  |

- P9**
- |    |       |         |
|----|-------|---------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少量含 |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒微量含 |
| 3層 | 暗褐色土  | ローム粒微量含 |
| 4層 | 暗黄褐色土 | ローム粒多量含 |

- P10**
- |    |      |                             |
|----|------|-----------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微量含                     |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック少量含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒微量含 径5mm大のロームブロック少量含    |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少量含                     |
| 5層 | 黄褐色土 | ローム粒少量含                     |
| 6層 | 暗褐色土 | ローム粒少量含                     |

- P11**
- |    |      |                          |
|----|------|--------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量含                  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒微量含                  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含                  |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック微量含 |

図303 B104



- |            |          |                  |                 |
|------------|----------|------------------|-----------------|
| <b>P1</b>  | 1層 黒褐色土  | ローム粒少含           |                 |
|            | 2層 黒褐色土  | ローム少量混入          | ローム粒少含          |
|            |          | 焼土粒微含            |                 |
|            | 3層 黒褐色土  | ローム粒少含           | 焼土粒少含           |
|            | 4層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 5層 黒褐色土  | ローム粒少含           | 焼土粒微含           |
|            | 6層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 7層 黒色土   | ローム粒少含           | 径5mm大のロームブロック少含 |
| <b>P2</b>  | 1層 黒色土   | 黒色土主体にロームが少量混入   | ローム粒少含          |
|            | 2層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 3層 黒色土   | 黒色土主体にロームが少量混入   | ローム粒少含          |
|            | 4層 黒褐色土  | 黒褐色土主体にロームが少量混入  | ローム粒少含          |
|            | 5層 暗褐色土  | 暗褐色土主体にロームが少量混入  | ローム粒微含          |
| <b>P3</b>  | 1層 黒色土   | ローム粒少含           | 径5mm大のロームブロック微含 |
|            | 2層 黒褐色土  | ソフトロームブロック       |                 |
|            | 3層 黒色土   | ローム粒微含           |                 |
|            | 4層 黒褐色土  | 黒褐色土主体にロームが混入    | ローム粒少含          |
|            | 5層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 6層 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが混入       | ローム粒多含          |
| <b>P4</b>  | 1層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 2層 黒褐色土  | 黒褐色土にローム少量混入     | ローム粒少含          |
|            | 3層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 4層 黒色土   | ローム粒微含           |                 |
|            | 5層 暗黄褐色土 | ソフトロームブロック       |                 |
|            | 6層 暗褐色土  | 黒色土とロームが混入       | ローム粒多含          |
|            | 7層 黒色土   | 黒色土主体にローム少量混入    | ローム粒少含          |
|            | 8層 黒色土   | ローム粒少含           | 径5mm大のロームブロック少含 |
| <b>P6</b>  | 1層 黒色土   | 黒色土主体にローム少量含     | ローム粒微含          |
|            | 2層 黒褐色土  | 黒褐色土にローム少量含      | ローム粒少含          |
|            | 3層 暗褐色土  | ローム粒微含           |                 |
| <b>P7</b>  | 1層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 2層 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが混入       | ローム粒多含          |
|            |          | 径10mm大のロームブロック少含 |                 |
|            | 3層 黒色土   | 黒色土主体にローム少量混入    | ローム粒少含          |
|            | 4層 暗褐色土  | ローム粒少含           |                 |
| <b>P8</b>  | 1層 黒褐色土  | 黒色土主体にローム少量含     | ローム粒微含          |
|            | 2層 暗褐色土  | ローム粒微含           | 径5mm大のロームブロック少含 |
|            | 3層 黄褐色土  | 黒褐色土主体           | 暗褐色土少量含         |
|            | 4層 暗褐色土  | 暗褐色土主体にローム少量含    | ローム粒多含          |
| <b>P9</b>  | 1層 黒褐色土  | ローム粒少含           | 炭化粒微含           |
|            | 2層 黄褐色土  | 黒褐色土にロームが少量混入    | ローム粒少含          |
|            |          | 径5mm大のロームブロック少含  |                 |
|            | 3層 黒色土   | 黒色土とロームが少量混入     | ローム粒少含          |
|            |          | 焼土粒微含            |                 |
|            | 4層 暗黄褐色土 | ロームが粗く混入         | ローム粒多含          |
|            | 5層 黄褐色土  | ソフトローム主体         | 黒色土少量混入         |
|            | 6層 黒褐色土  | 褐色土にロームが少量混入     | ローム粒少含          |
| <b>P10</b> | 1層 黒色土   | ローム粒少含           |                 |
|            | 2層 暗黄褐色土 | 黒褐色土にローム混入       | ローム粒多含          |
|            | 3層 黄褐色土  | 黒色土主体に黒色土が少量混入   |                 |
|            | 4層 黒色土   | 黒色土主体にロームが少量混入   | ローム粒少含          |
|            | 5層 暗褐色土  | 黒色土主体にロームが少量混入   | ローム粒微含          |
|            | 6層 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが混入       |                 |

図304 B105az

覆土は、B106aと同様で、ロームを包含する黒色土・黒褐色土であるが、一部に粘土の混入を認めた。  
 遺物 土師器片などが出土したが、少量であった。  
 所見 柱穴規模や柱穴の平面形がダルマ状になるなど、覆土からは捉えられなかったが、2棟の重複の可能性を考えると出来る建物跡である。

#### B106 z

遺構 B106a・bから遺漏したP21・P22を一括した。  
 所見 この2基がB106aの東柱と捉えると、B106bは総柱式の掘立柱建物跡となる。軸線上では合致しているが小規模すぎるため、B106zとして扱った。また、B106bが柱穴規模や平面形から一部について建替えが行われた様子があり、どこに属しているかが判断できないためである。

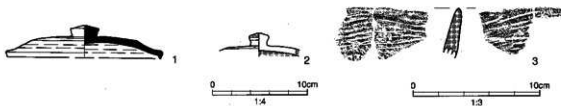


図305 B106abz

表77 B106遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 蓋	(160)×-×34 ロクロ成形 外面天蓋部は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ宝珠部は「螺旋」を切ってジョイントする	灰色 良	長石類 花崗岩粒	天蓋部 及び 宝珠部	あるいは常陸産か
2	土師器 蓋	-×-(21) ロクロ成形 外面天蓋部は回転ヘラケズリ 内面はロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭 宝珠部をジョイント	橙褐色 良	長石類 微粒スコ リア細粒	天蓋部 及び 宝珠部	
3	縄文 深鉢	外面 横方向を方向を主とする貝殻条痕 内面 横及び斜めの貝殻条痕 半縁で口縁部形態は尖頭状 角鉢か	橙褐色 普	スコリア 細粒繊維	口縁片	早期後半 縄文系土器

#### B107

検出地区 L6-17gにて検出した。

遺構 東柱が1基欠けるが、2×3間の総柱式の掘立柱建物跡である。長軸5.80m×短軸3.81m、方位はN-36°-Eを測る。本建物跡に属する柱穴はP1-P5・P13・P12・P6-P8であり、東柱となるP9である。柱痕は、P1-P8で検出された。柱痕覆土は、ロームを含む黒褐色土であったが、白色粘土の混入は、認められなかった。柱穴の掘込みの深さは0.44~0.88mであるが、0.68~0.80mが6基と多かった。

柱穴の覆土は、ロームを包含する黒褐色土・黒色土が主体であり、本建物跡では黒褐色土が多かった。

遺物 土師器片や、縄文早期後半の土器片が出土している。

所見 堅穴住居跡との重複が多く、不明瞭な掘立柱建物跡となってしまう。P9を本建物跡に入れ東柱とするか、独立させるかで、2×3間、或いはその総柱式、2×2間と判断に迷った。もう1基の東柱が見つからず、総柱式となるかも含めて検討したが、2×3間の隅柱のみの掘立柱建物跡として報告する。なお、遺構の重複における新旧関係は、A212→B107→A211と捉えた。

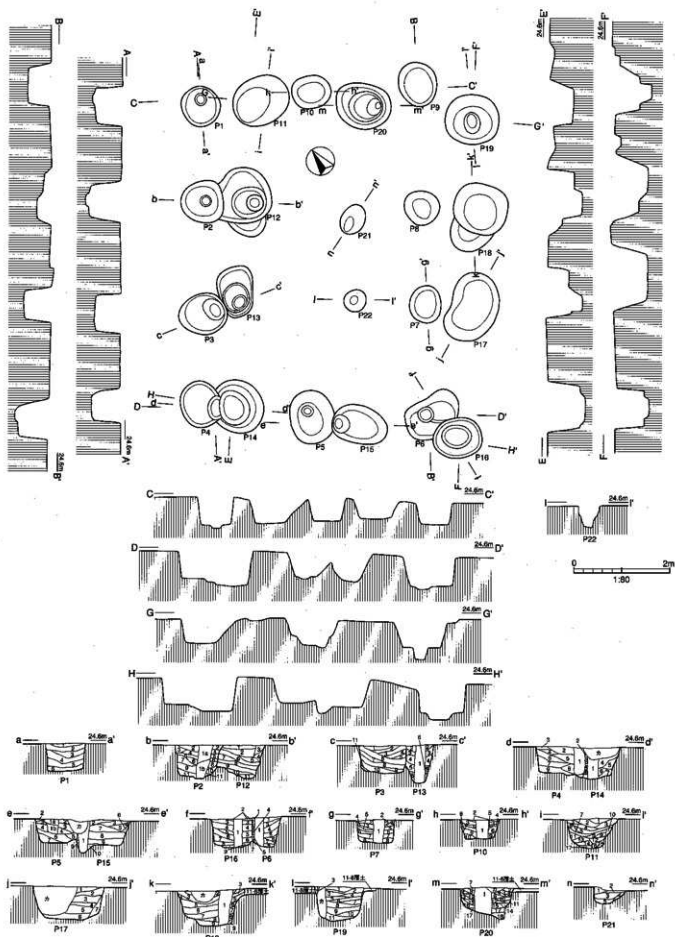


图306 B106a · b · z (2)



P18			
1層	黒色土	黒色土主体にロームが少量混入	ローム粒少含
2層	黒色土	ローム粒少含	
3層	黒褐色土	黒褐色土主体にロームが少量混入	ローム粒少含 白色粘土粒少含
4層	黒色土	ローム粒少含	
5層	黒褐色土	黒褐色土主体にロームが少量混入	ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
6層	黒色土	ローム粒少含	径5~30mm大のロームブロック少含
7層	黒褐色土	黒褐色土主体にロームが少量混入	ローム粒多含 径5~20mm大のロームブロック少含
8層	黒色土	黒色土主体にロームが少量混入	ローム粒多含
9層	黒色土	ローム粒微含	
P19			
1層	黒褐色土	ローム粒微含	白色粘土粒少含 焼土粒少含
2層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
3層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含 径5~20mm大の ロームブロック少含
4層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含
5層	暗灰褐色土	白色粘土主体に黒色土が混入	ローム粒少含
6層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
7層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含 径5~10mm大の ロームブロック少含
8層	黒褐色土	黒褐色土主体に白色粘土及びローム粒少量混入	焼土粒微含
9層	黒色土	ローム粒少含	径5mm大のロームブロック少含
10層	黒色土	ローム粒少含	
11層	黒色土	ローム粒少含	径5mm大のロームブロック少含

P20			
1層	黒色土	白色粘土主体に黒褐色土が少量混入	ローム粒少含 白色粘土粒少含
2層	黒色土	ローム粒微含	
3層	暗灰褐色土	黒色土と白色粘土が混合	ローム粒微含
4層	黒色土	ローム粒少含	
5層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
6層	暗灰褐色土	黒色土と白色粘土が混合	ローム粒少含 白色粘土粒少含
7層	黒色土	ローム粒微含	
8層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
9層	黒色土	ローム粒少含	
10層	黒色土	ローム粒少含	
11層	黒色土	黒色土と少量混入	
12層	暗灰褐色土	黒色土と白色粘土が混合	ローム粒微含
13層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含
14層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含
15層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
16層	黒色土	ローム粒微含	
17層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
18層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含
P21			
1層	黒褐色土	ローム粒微含	焼土粒微含
2層	黒褐色土	ローム粒少含	
3層	黒色土	ローム粒微含	
4層	暗灰褐色土	黒褐色土とロームが混入	
5層	黒褐色土	ローム粒少含	

図308 B106a・b・z (4)

B107z

遺構 B107aから遺漏した柱穴を一括した。P11とP15がこれに当たる。P11に柱痕を検出した。  
所見 P11はP9と対応する柱穴と一度は捉え、対応する柱穴を探しが見つからなかった。このためB107zとして扱うこととなったが、柱痕の検出は柱穴としての証左であり、判断できない形で掘立建物跡が存在した可能性を指摘しておく。掘立建物跡から飛び出るような形で、1基で存在している。上谷遺跡ではこのような例があり、本来は分離するのではなく、掘立建物跡の中に取り込んだ形で検討するべきかも知れない。

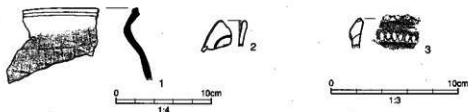


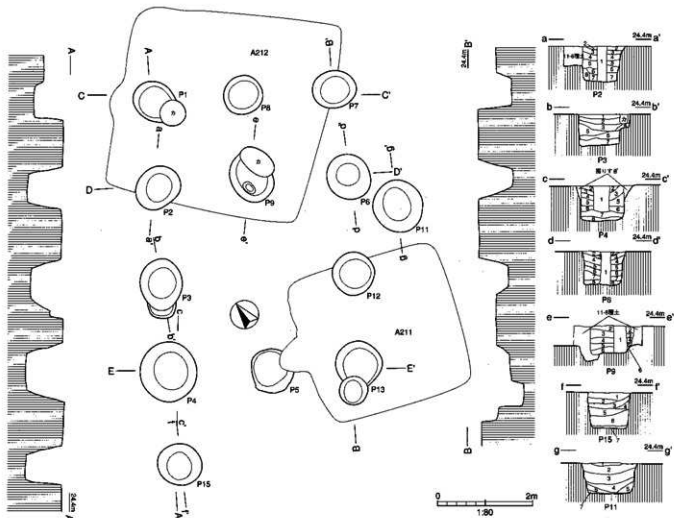
図309 B107z

表78 B107遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 壺	—×—×— 口縁端部はつまみ上げる タクキ整形 口縁部は内外面ナテ胴部外面は格子目タクキ 内面はあて具痕	橙褐色 良	長石類 赤色スコ リア凝粒	口縁— 胴上手の 1/8 残存	酸化変焼成 に近い
2	上野器 坏	—×—×— 口ロク成形 内面は口ロク成形後 密なヘラミガキの後吸炭か	橙褐色	雲母赤色 スコリア 微細粒		墨書「L」 口縁外面
3	弥生 壺	外周 口縁部及び胴部ナテ 内周 胴部細かいハケナテ 口縁は内側に肥厚させた複合口縁でキザミを施す	外橙褐色 内暗褐色 良	長石類 赤色スコ リア粒		中期後半 宮ノ台式 口縁ひだ状





- P4**
- 1層 黒褐色土 ローム粒多量含 径5~40mm大のロームブロック少量
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック少量
  - 3層 暗褐色土 ローム粒少量含 ロームブロック少量
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 5層 黒褐色土 ローム粒少量含 ロームブロック少量
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多量含 径5~30mm大のロームブロック少量
  - 7層 暗褐色土 ローム粒多量含 径5~30mm大のロームブロック多量
  - 8層 暗褐色土 ローム粒多量含 径5~30mm大のロームブロック少量
- P5**
- 1層 黒褐色土 ローム粒多量含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 3層 暗褐色土 ローム粒多量含
  - 径5mm大のロームブロック多量
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 5層 黒色土 ローム粒多量含
  - 6層 黄褐色土 ソフトローム主体
  - 径5~30mm大のロームブロック多量
  - 7層 暗褐色土 ローム粒多量含

- P6**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 2層 暗褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 3層 暗褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 5層 暗褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 6層 暗褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 7層 暗褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 8層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
- P9**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少量含 径5mm大のロームブロック少量
  - 3層 黒色土 ローム粒少量含 径5~10mm大のロームブロック少量
  - 4層 黒褐色土 ローム粒多量含 径5~10mm大のロームブロック少量
  - 5層 黒色土 ローム粒多量含 径5~10mm大のロームブロック少量
  - 6層 暗褐色土 ローム粒多量含 径5mm大のロームブロック少量

- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 4層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 径5mm大のロームブロック少量
  - 5層 黒色土 ローム粒多量含
  - 径5mm大のロームブロック少量
  - 6層 黒褐色土 ローム粒多量含
  - 径5~30mm大のロームブロック少量
  - 7層 黒褐色土 ローム粒少量含
  - 径5~20mm大のロームブロック少量
  - 8層 暗褐色土 ローム粒少量含
- P3**
- 1層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒少量含
  - 2層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒少量含
  - 径10mm大のロームブロック少量
  - 3層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒少量含
  - 4層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒少量含
  - 5層 黒褐色土 ローム粒 焼土粒多量含
  - 6層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒少量含
  - 7層 黒褐色土 ローム粒 焼土粒少量含

図310 B107a・z (2)

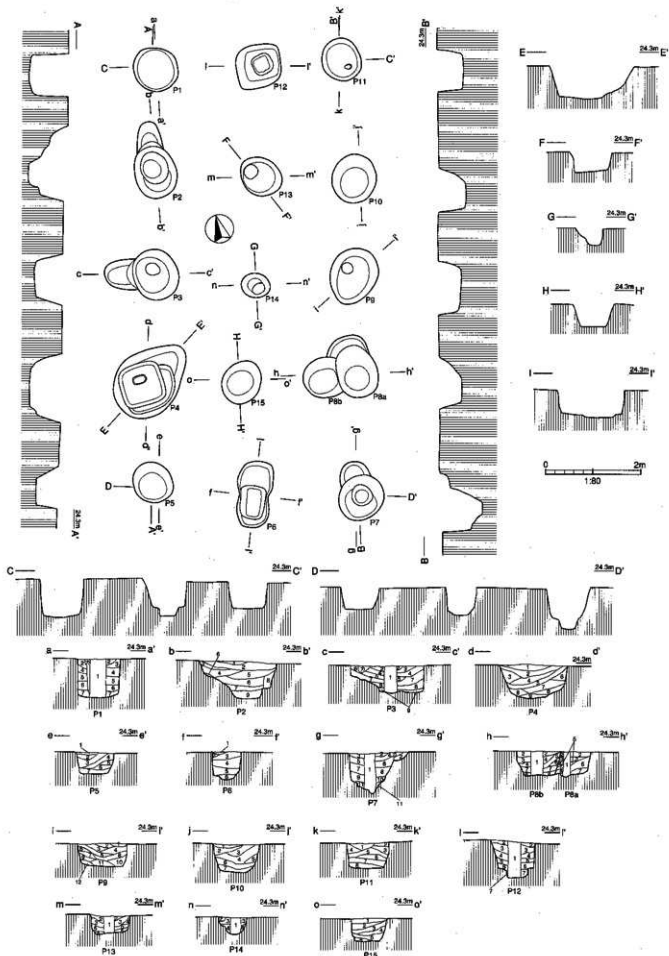


图311 B108

P1	黒褐色土	ローム粒微量含	
2層	暗灰褐色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
3層	暗黄褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
4層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
5層	黒色土	ローム粒多量含	
6層	黒色土	ローム粒多量含	
7層	黒褐色土	径5mm大のロームブロック少量含	
P2	黒褐色土	ローム粒少量含	
1層	暗灰褐色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
2層	暗灰褐色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
3層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
4層	暗灰褐色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
5層	暗灰褐色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
6層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
7層	暗灰褐色土	ローム粒微量含	白色粘土多量含
8層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
9層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
P3	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
2層	暗灰褐色土	ローム粒微量含	白色粘土多量含
3層	暗灰褐色土	ローム粒微量含	径30mm大のロームブロック多量含
4層	暗灰褐色土	ローム粒微量含	白色粘土多量含
5層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
6層	灰褐色土	径10~20mm大のロームブロック少量含	
7層	暗灰褐色土	白色粘土と黒褐色土が粗く混合	径10mm大のロームブロック少量含
8層	黒褐色土	黒褐色土主体と白色粘土多量含	径10mm大のロームブロック少量含
9層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
10層	暗灰褐色土	径5~30mm大のロームブロック少量含	
11層	暗灰褐色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
P4	暗灰褐色土	黒褐色土主体	ローム粒少量含 白色粘土多量含
2層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
3層	黒褐色土	径10mm大のロームブロック少量含	
4層	暗灰褐色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含
5層	暗灰褐色土	径30~50mm大のロームブロック多量含	
6層	黒褐色土	黒褐色土主体	ローム粒少量含 白色粘土多量含
7層	暗灰褐色土	径5~10mm大のロームブロック少量含	
8層	暗灰褐色土	黒褐色土主体	ローム粒少量含
9層	暗灰褐色土	白色粘土少量含	
10層	黒褐色土	白色粘土と黒褐色土が粗く混合	
11層	暗灰褐色土	ローム粒少量含	白色粘土多量含
12層	暗灰褐色土	径30mm大のロームブロック少量含	
P5	黒褐色土	ローム粒少量含	
2層	黒褐色土	ローム粒少量含	
3層	黒色土	ローム粒少量含	
4層	黒色土	ローム粒少量含	
5層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
6層	黒色土	ローム粒少量含	
7層	黒色土	ローム粒少量含	
P6	灰白色土	白色粘土主体	ローム粒少量含
2層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
3層	暗灰色土	ローム粒微量含	白色粘土多量含
4層	黒色土	径5~20mm大のロームブロック少量含	
5層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
6層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
7層	黒褐色土	径5~30mm大のロームブロック少量含	
8層	黒褐色土	ローム粒多量含	白色粘土微量含
9層	黒褐色土	径5~20mm大のロームブロック少量含	
P7	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
2層	黒褐色土	径10mm大のロームブロック少量含	
3層	黄褐色土	ローム粒多量含	白色粘土微量含
4層	黒褐色土	径30mm大のロームブロック多量含	
5層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
6層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
7層	黒褐色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
8層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
9層	黒色土	ローム粒少量含	
10層	黒褐色土	ローム粒微量含	
11層	黒褐色土	ローム粒少量含	
P8	黒褐色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含
2層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
3層	暗褐色土	ローム粒多量含	焼土微量含
4層	暗褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
5層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
6層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
7層	黒黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
P8b	1層	黒色土	ローム粒微量含 白色粘土少量含
2層	黒褐色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
3層	黒褐色土	ローム粒微量含	白色粘土微量含
4層	黒褐色土	ローム微少量含	白色粘土少量含
5層	黒褐色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
6層	黒色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
7層	暗色土	ローム粒微量含	白色粘土少量含
8層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
P9	1層	灰白色土	白色粘土主体
2層	黒褐色土	ローム微量含	白色粘土少量含
3層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
4層	黒褐色土	ローム微少量含	白色粘土少量含
5層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
6層	黒褐色土	径5mm大のロームブロック多量含	
7層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
8層	黒褐色土	径5~10mm大のロームブロック少量含	
9層	灰白色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含
10層	暗黄褐色土	白色粘土と黒色土が粗く混合	ローム粒少量含
11層	黒色土	ローム粒微量含	
12層	黒褐色土	ローム粒少量含	径30mm大のロームブロック少量含
13層	黒色土	ローム粒微量含	
P10	1層	暗黄褐色土	黒色土とロームが粗く混合 径10mm大のロームブロック多量含
2層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
3層	黒褐色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含
4層	暗黄褐色土	ローム多量含	径10mm大のロームブロック多量含
5層	黒褐色土	白色粘土多量含	径10mm大のロームブロック少量含
6層	黒色土	ローム粒多量含	
7層	黒褐色土	ローム粒少量含	
P11	1層	灰白色土	白色粘土主体
2層	黒褐色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含
3層	黒褐色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含
4層	暗黄褐色土	径10mm大のロームブロック多量含	
5層	黒褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
6層	黒色土	白色粘土多量含	径10~20mm大のロームブロック多量含
7層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
8層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土微量含
9層	暗黄褐色土	ロームと黒色土が粗く混合	
P12	1層	暗灰褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合
2層	灰褐色土	白色粘土多量 黒褐色土混合	
3層	灰褐色土	白色粘土多量 黒褐色土混合	
4層	黒色土	白色粘土多量	
5層	暗灰褐色土	白色粘土と黒褐色土が粗く混合	
6層	黒色土	白色粘土多量	
7層	暗褐色土	白色粘土多量	
8層	暗褐色土	径10mm大のロームブロック少量含	
P13	1層	黒褐色土	ローム粒少量含
2層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
3層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
4層	暗褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
5層	黒褐色土	ローム粒少量含	焼土少量含
6層	黒色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
P14	1層	黒褐色土	ローム粒少量含
2層	黄褐色土	ソフトロームブロック	
3層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
4層	暗褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
P15	1層	暗灰褐色土	白色土主体に黒褐色土混合
2層	暗灰褐色土	白色土主体に黒褐色土が粗く混合	
3層	黒褐色土	径5~10mm大のロームブロック少量含	
4層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
5層	黒褐色土	ローム粒少量含	白色粘土少量含
6層	黒褐色土	ローム粒多量含	白色粘土少量含

図312 B108 (2)

## B108a

検出地区 L6-27・28・37・38gにわたって検出した。

遺構 2×4間の総柱式の掘立柱建物跡と捉えた。長軸9.04m×短軸4.12m、方位はN-14°Eを測る。柱痕はP1・P3・P7・P8a・P8b・P12・P13・P14にて検出された。柱痕覆土に白色粘土を検出した柱穴と、検出しなかった柱穴に分かれた。柱穴の掘込みの深さは0.36~0.80mと異なりが大きいのが、0.48~0.60mが10基となっている。覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体であった。なお、P4・P5・P9は覆土の乱雑さから、柱の引抜きを行っていることを窺わせている。

遺物 全体的には出土量は少ないが、土師器・須恵器片や縄文早期・条痕文片などが出土している。1・2の土師器壺と坏が出土した。坏は灯明皿に転用していた。

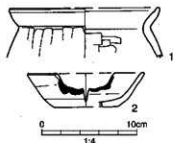


図313 B108 (2)

所見 2×4間の総柱式の掘立柱建物跡としたが、2×3間の重複かも知れない。覆土堆積から重複が窺える柱穴は、P2・P4・P5・P7・P8a・b・P9・P10であったが、確実に柱穴と捉えられるのはP8a・bのみである。また、柱穴規模が大きく、重複す柱穴が1基のように見えているかも知れない。覆土や柱穴の平面形から2棟はあると考えられるが、どの柱穴が対応するかも知れなかった建物跡である。このため2×4間の総柱式の掘立柱建物跡と報告しておくこととする。

表79 B108遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 壺	(156)×-×(52) 口縁外反し肩部は僅かにつまみ上げ 口縁 内外面ナデ 外面肩部はヘラケズリ 内面はヘラナデ	暗褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁~ 胴上半 の一部	
2	土師器 坏	(120)×(66)×36 ロクロ成形 外面体部下半は回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ 底部は静止ヘラ切り 破損面に灯明皿に灯芯を置いたらしく内外面にタールの付着あり	櫻褐色 淡褐色 良	長石類 スコリア 細粒	口縁~ 底部の 1/4 残存	灯明皿として 転用する

## B109

検出地区 L6-28・29・38・39gにわたって検出した。

遺構 2×2間と想定される掘立柱建物跡である。長軸-m×短軸2.80m、方位は不明である。A208と重複するため柱穴の大半が失われたと考えられ、柱穴は4基のみ確認されている。柱痕はP1~P3で検出した。柱穴の掘込みの深さは0.40~0.60mであった。柱穴の覆土はロームを包含した黒色土であった。他の掘立柱建物跡にみられる、褐色土の覆土は殆どみられなかった。

遺物 縄文早期・条痕文片が若干出土している。土師器・須恵器の小片も出土するが、条痕文片より少なかった。

所見 A208によって柱穴の大半が失われたであろうことから、規模を捉えることが出来なかった建物跡である。周辺の遺構の調査から、本建物跡に伴うと思われる柱穴は確認できなかったため、A208との重複範囲内での建物跡の規模と推定し2×2間の規模とした遺構である。

Ⅳ地区の掘立柱建物跡の柱穴覆土は、柱痕覆土を除き、ロームの包含の多寡はあるものの、黒色土と黒褐色土によって構成されていた。しかし本建物跡は覆土に黒褐色土の堆積が無く、黒色土が主体となっていた。このことはⅣ地区の他の掘立柱建物跡と異なる傾向を示しているわけだが、重複による遺構損壊が激しく、特別な傾向かどうかは窺い知れない。その事実を指摘し報告するにとどめたい。

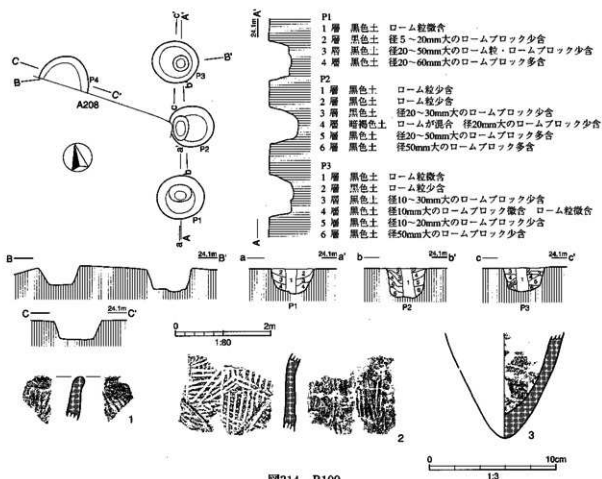


図314 B109

表80 B109遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	縄文 深鉢	外面 縦に近い斜め方向の貝殻条痕 内面 斜め方向の貝殻条痕 口唇部 外厚気味の丸棒状で平縁	外赤褐色 内橙褐色 青	スコリア 細粒繊維	口縁片	早期後半 条痕文系の土器
2	縄文 深鉢	外面 条痕を地に細隆起線と沈線で菱形の重戻 内面 縦方向を主とする貝殻条痕	橙褐色 青	スコリア 細粒繊維	頸部片	早期後半 条痕文系土器
3	縄文 深鉢	内外面 擦痕に近い条痕(二次焼成あり) 鋭角な尖底	外赤褐色 内黒褐色 青	スコリア 細粒繊維	底部のみ	早期後半条 痕文系土器 野鳥式か

B110a

検出地区 L5-97・98g、L6-7・8gにわたって検出した。

遺構 3×3間の掘立柱建物跡で、長軸5.40m×短軸5.28m、方位はN-63°-Wを測る。本建物跡に属する柱穴はP1~P12であり、柱痕はP1・P4・P12にて検出された。覆土は、ロームを包含している黒色土・黒褐色土が主体である。

遺物 土師器・須恵器片が少量出土。

所見 平面形は略方形であり、比較的整然とした掘立柱建物跡である。B110bとの新旧関係は、B110b→aと捉えられた。

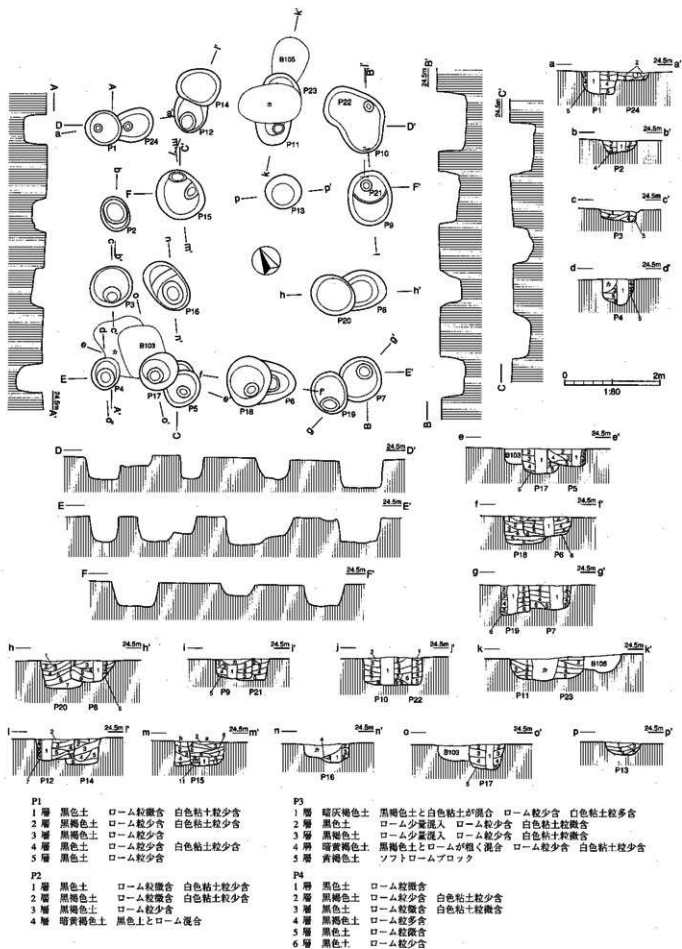
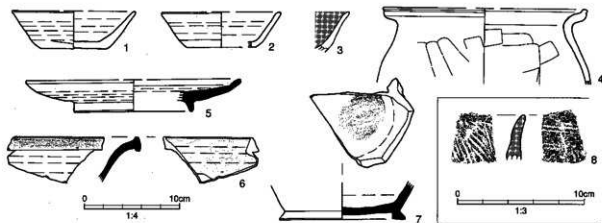


図314 B110a · b · z

P5				P15a				
1層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含	1層	黒褐色土	ローム粒少含		
2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含	2層	暗黄褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合	ローム粒多含	
3層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含			白色粘土粒多含		
4層	黒褐色土	ローム粒少含		3層	黒褐色土	白色粘土粒少含		
5層	黒色土	ローム粒少含		4層	暗色土	ローム粒少含	白色粘土粒多含	
P6				P15b				
1層	黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒少含	焼土粒微含	1層	黒褐色土	ローム粒微含	
2層	暗黄褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合		ローム粒微含	2層	黒色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合	
3層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒多含	焼土粒微含	3層	黒色土	白色粘土主体に黒色土が少量混入	
4層	暗黄褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合		ローム粒微含	4層	黒褐色土	ローム粒少含	
5層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒多含	焼土粒微含	5層	暗黄褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合	
6層	暗黄褐色土	黒褐色土と白色粘土が混合	ローム粒少含	白色粘土粒微含	6層	黒色土	ローム粒少含	
P7				P16				
1層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含	焼土粒微含	1層	黒褐色土	ローム粒少含	
2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含	焼土粒微含	2層	暗黄褐色土	ロームと黒褐色土が粗く混合	
3層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含	炭化粒微含			白色粘土粒微含	
4層	暗黄褐色土	黒褐色土と白色粘土が粗く混合		ローム粒微含	3層	黒色土	ローム粒少含	
5層	黒色土	ローム粒微含	白色粘土粒微含	焼土粒微含	4層	暗褐色土	ローム粒少含	
6層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含	焼土粒微含	5層	黒褐色土	ローム粒少含	
P8				P17				
1層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		1層	黒色土	白色粘土粒少含	
2層	黒褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含		2層	暗黄褐色土	ロームと黒褐色土が粗く混合	
3層	黒褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒微含				白色粘土粒微含	
4層	黒褐色土	ローム粒少含		白色粘土粒微含	3層	黒色土	ローム粒少含	
5層	暗黄褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含	径5mm大のロームブロック少含	4層	黒褐色土	ローム粒少含	
6層	黒褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含	径5-10mm大のロームブロック少含	5層	黒褐色土	ローム粒少含	
P9				P18				
1層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含		1層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
2層	黒色土	ローム粒多含					径5mm	
3層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		2層	黒褐色土	黒褐色土主体にローム少量混入	
4層	暗黄褐色土	ローム粒少含					大のロームブロック多含	
5層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		3層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
P10				P19				
1層	黒色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含	焼土粒微含	炭化粒微含	1層	黒色土	ローム粒少含
2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含			2層	暗黄褐色土	黒褐色土主体にローム少量混入
3層	黒褐色土	黒褐色土とロームが少量混入	ローム粒多含	白色粘土粒少含		3層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合
4層	黒色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含		4層	黒色土	ローム粒多含	
5層	黒褐色土	ローム粒、白色粘土粒少含	径5mm大のロームブロック少含		5層	暗褐色土	ローム粒多含	
6層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		6層	黒色土	黒褐色土主体にローム少量混入	
7層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	白色粘土粒少含		P20			
8層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒多含		1層	黒色土	ローム粒少含	
9層	黒褐色土	ローム粒多含			2層	暗褐色土	ローム粒多含	
P11				P21				
1層	暗黄褐色土	黒褐色土とローム粗く混合	白色粘土粒少含		3層	暗褐色土	ローム粒少含	
2層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		4層	暗褐色土	ローム粒多含	
3層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		5層	黒色土	ローム粒少含	
4層	黒褐色土	ローム粒少含			6層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
P12				P22				
1層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒少含		1層	黒褐色土	ローム粒多含	
2層	暗黄褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含		2層	黒色土	ローム粒多含	
3層	暗黄褐色土	黒褐色土とソフトロームが粗く混合	白色粘土粒微含		3層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが少量混入	
4層	黒褐色土	ローム粒少含	白色粘土粒微含		4層	暗褐色土	ローム粒少含	
5層	暗黄褐色土	黒褐色土とソフトロームが粗く混合	白色粘土粒少含		5層	黒色土	ローム粒多含	
6層	暗黄褐色土	黒褐色土とソフトロームが粗く混合	白色粘土粒少含		P23			
7層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	白色粘土粒少含		1層	黒褐色土	ローム粒少含	
8層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	白色粘土粒少含		2層	黒褐色土	ローム粒多含	
9層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	白色粘土粒少含		3層	黒褐色土	ローム粒少含	
P13				P24				
1層	黒褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒多含	焼土粒微含	1層	黒色土	ローム粒微含	
2層	黒色土	ローム粒多含	白色粘土粒多含		2層	暗黄褐色土	ローム粒微含	
3層	暗黄褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含	焼土粒少含	3層	黒色土	ローム粒少含	
4層	暗黄褐色土	ローム粒多含	白色粘土粒少含	焼土粒少含	4層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	
5層	暗黄褐色土	黒褐色土とロームが粗く混合	白色粘土粒少含	焼土粒少含				
6層	黒色土	ローム粒多含						

図316 B110a・b・z (2)



B110b

図317 B110abz (3)

検出地区 L5-97・98g, L6-7・8gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.01m×短軸3.52m、方位はN-36°Eを測る。本建物跡に属する柱穴はP11~20、柱痕はP15~P17・P19で検出された。覆土は、ロームを包含している黒色土・黒褐色土が主体である。

遺物 土師器・須恵器が少量出土している。

所見 長軸方向がB110aと大きく交差する掘立柱建物跡である。

B110z

遺構 P12・P24の2基の柱穴である。柱痕は検出されなかった。

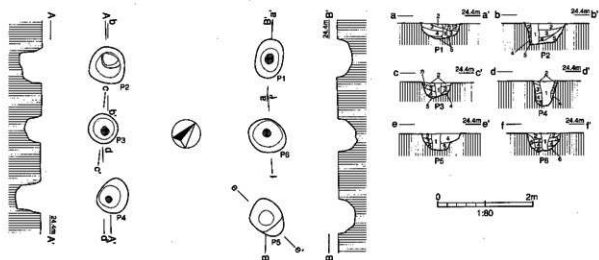
所見 重複する他の柱穴の平面規模から3棟目の掘立柱建物跡が存在したかもしれないが、捉えきれなかった。

表81 B110遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 成焼	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	(128)×70×40 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母長石 類スコリア ア微細粒	口縁～ 底部片 1/2弱	器外面に 「風の嘯み跡」 が見られる
2	土師器 杯	(124)×(74)×37 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ 底部周縁は回転ヘラケズリ	淡褐色 良	雲母長石 類スコリア ア細粒	口縁～ 底部の 1/4弱	器面の摩滅 日立つ
3	土師器 杯	—×—×— ロクロ成形 外面 体部下端は手持ちヘラケズリ部分的にミガキ入る 内面 ロクロ成形後密なヘラミガキその後吸炭か	外橙褐色 内淡褐色 良	長石類 スコリア 微細粒	口縁～ 体部の 1/6弱	
4	土師器 壺	(210)×—×(80) 最大径を胴上部に持ち口縁端はつまみ上げ口縁部頸部は内外面ナデ 外面 胴上部はヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ヘラナデ	淡褐色 良	長石類 花崗岩 雲母粒	口縁～ 高台部の 1/5	常態型壺
5	須恵器 高台付杯	(224)×(124)×34 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ付高台	灰色 良	雲母長石 類花崗岩 細粒	口縁～ 高台部の 1/5	
6	須恵器 壺	—×—×— 口縁外反し端部はつまみ上げ 内外面とも回転台によるナデが入る 口縁外面及び内面全体に自然釉がかかる	外暗褐色 内緑灰色 良堅緻	礫砂 白色粒 細密	口縁片	
7	須恵器 長頸壺	—×132×40 胴下半 回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ 瓶口で大きな高台をジョイントする 底部内面 自然釉がかかる	灰色 良	白色粒子 黒色粒子	胴下半～ 高台部の 1/6	
8	縄文 漆鉢	外面 斜め方向を主とする貝殻条痕 内面 横方向を主とする貝殻条痕 口唇部形態は外割き気味の丸縁状 平縁	茶褐色 普	横縞 赤色スコ リア微粒		





- P1**
- |    |      |                          |
|----|------|--------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                   |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒褐色土の上にローム少量混入<br>ローム粒微含 |
| 3層 | 暗褐色土 | 黒色土とロームが混入               |
| 4層 | 黒色土  | 黒褐色土主体                   |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒微含                   |

- P2**
- |    |       |                           |
|----|-------|---------------------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒微含                    |
| 2層 | 暗褐色土  | 黒褐色土の上にローム少量混入<br>ローム微粒多含 |
| 3層 | 黒色土   | 黒褐色土の上にローム少量混入            |
| 4層 | 黒色土   | ローム粒微含                    |
| 5層 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土とローム混入                |

- P3**
- |    |      |             |
|----|------|-------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含      |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒色土の上にローム混入 |
| 3層 | 黒色土  | ロームが少量混入    |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム少量混入     |
| 5層 | 暗褐色土 | 暗褐色土主体      |

- P4**
- |    |      |                |
|----|------|----------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒少含         |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム少量混入        |
| 3層 | 暗褐色土 | 暗褐色土主体         |
| 4層 | 黒褐色土 | 暗褐色土主体に黒色土少量混入 |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒微含         |

- P5**
- |    |       |              |
|----|-------|--------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少含       |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒少含       |
| 3層 | 黒色土   | 黒色土主体        |
| 4層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが極く混入 |
| 5層 | 黒色土   | ローム粒少含       |

- P6**
- |    |      |                          |
|----|------|--------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒微含                   |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒褐色土の上にローム少量混入<br>ローム粒微含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒少含                   |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒微含                   |
| 5層 | 暗褐色土 | 黒褐色土の上にローム少量混入<br>ローム粒微含 |
| 6層 | 黒褐色土 | 黒褐色土の上にローム少量混入<br>ローム粒微含 |

図318 B111

**B111**

検出地区 L5-67・77gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.36m×短軸3.14m、方位はN-39°-Wを測る。全ての柱穴に柱穴を検出した。柱穴の掘込みの深さは、0.28~0.52mであった。P1・P2・P4は6基の柱穴のうち深いものであるが、P5は最も浅かった。覆土は、ロームを包含した黒色土・黒褐色土が主体であった。

遺物 土師器・須恵器片を出土させている。縄文早期・条痕文片も出土している。

所見 小規模な1×2間の掘立柱建物跡である。

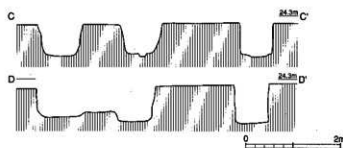
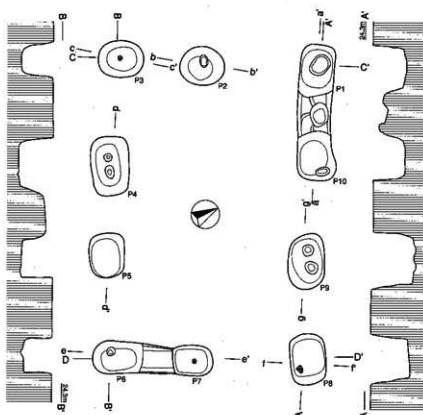
**B112**

検出地区 L5-67・77gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.34m×短軸4.26m、方位はN-61°-Wを測る。柱痕は、すべての柱穴で検出した。柱穴の掘込みの深さは0.60~0.88mであり、0.70m前後が中心であった。覆土は、ロームを包含した黒褐色土が主体である。

遺物 若干出土している。

所見 調査時に布掘の掘立柱建物跡と捉えられていたが、整理の段階で布掘とは考えにくい遺構と捉えた。図は布掘りの状態で掲載しているが、一部、攪乱も入り柱痕と捉えられる層もあり、掘過ぎと判断した。

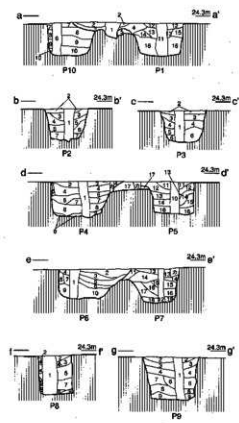


- PI.P10**
- |     |       |          |
|-----|-------|----------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム少含    |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 3層  | 黒褐色土  | ローム少含    |
| 4層  | 暗黄褐色土 | 黄褐色土主体   |
| 5層  | 黄褐色土  | 地山       |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム粒少含   |
| 7層  | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 8層  | 暗褐色土  | ローム粒少含   |
| 9層  | 暗黄褐色土 | 暗褐色土主体   |
| 10層 | 暗黄褐色土 | ローム粒多含   |
| 11層 | 黒褐色土  | 黒褐色土主体   |
| 12層 | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 13層 | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 14層 | 暗褐色土  | ロームブロック少 |
| 15層 | 黄褐色土  | 黄褐色土主体   |
| 16層 | 黄褐色土  | 黄褐色土主体   |

- P3**
- |    |       |         |
|----|-------|---------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒少含  |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒少含  |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム粒多含  |
| 4層 | 黒褐色土  | ローム粒多含  |
| 5層 | 黒色土   | ローム粒少含  |
| 6層 | 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土主体 |

- P4.P5**
- |     |       |          |
|-----|-------|----------|
| 1層  | 黒褐色土  | ローム少含    |
| 2層  | 黒色土   | 黒色土主体    |
| 3層  | 暗黄褐色土 | 暗黒色土主体   |
| 4層  | 黒色土   | ロームブロック少 |
| 5層  | 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土主体  |
| 6層  | 暗黄褐色土 | ローム多含    |
| 7層  | 暗褐色土  | ローム粒多含   |
| 8層  | 暗褐色土  | ロームブロック多 |
| 9層  | 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土主体  |
| 10層 | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 11層 | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 12層 | 黒色土   | ローム粒少含   |
| 13層 | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 14層 | 暗黄褐色土 | ローム粒多含   |
| 15層 | 暗黄褐色土 | ロームブロック多 |
| 16層 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土主体   |
| 17層 | 黄褐色土  | 地山       |

- P2**
- |    |      |        |
|----|------|--------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含 |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒多含 |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒多含 |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム粒少含 |
| 6層 | 暗褐色土 | 暗褐色土主体 |
| 7層 | 黒色土  | 黒色土主体  |



- P6.P7**
- |     |       |          |
|-----|-------|----------|
| 1層  | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 2層  | 暗褐色土  | ローム粒多含   |
| 3層  | 暗褐色土  | ローム粒多含   |
| 4層  | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 5層  | 暗黄褐色土 | 暗褐色土主体   |
| 6層  | 黒褐色土  | ローム少含    |
| 7層  | 暗褐色土  | ロームブロック少 |
| 8層  | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 9層  | 暗褐色土  | ローム粒多含   |
| 10層 | 暗黄褐色土 | 黒色土少量混じる |
| 11層 | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 12層 | 黒褐色土  | ローム粒少含   |
| 13層 | 黒褐色土  | ローム粒少含   |
| 14層 | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 15層 | 暗褐色土  | ローム少含    |
| 16層 | 暗黄褐色土 | 黒色土少量混じる |
| 17層 | 暗褐色土  | ローム少含    |
| 18層 | 暗褐色土  | ローム粒多含   |

- P8**
- |    |       |         |
|----|-------|---------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒多含  |
| 2層 | 暗褐色土  | ローム粒多含  |
| 3層 | 暗黄褐色土 | ローム粒多含  |
| 4層 | 黄褐色土  | 黄褐色土主体  |
| 5層 | 暗褐色土  | ローム粒少含  |
| 6層 | 黒色土   | ローム粒多含  |
| 7層 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土主体  |
| 8層 | 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土主体 |
| 9層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体  |

- P9**
- |    |       |          |
|----|-------|----------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒多含   |
| 2層 | 黒色土   | ローム粒多含   |
| 3層 | 黒褐色土  | ローム少含    |
| 4層 | 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土主体  |
| 5層 | 欠垂    |          |
| 6層 | 黄褐色土  | 黄褐色土主体   |
| 7層 | 暗黄褐色土 | 黒色土少量混じる |
| 8層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体   |
| 9層 | 黒褐色土  | ローム粒多含   |

図319 B112



図320 B112 (2)

表82 B112遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 構成	胎土	遺存	備考
1	土師器 甕	-X-X- 口縁は短く外反し端部はつまみ上げられる	茶褐色 良	雲母花崗 岩赤色 スコリア 細粒		常陸型甕
2	須恵器 甕	-X-X- 頸部を接合した後の調整時点でのヘラの痕跡あり 複合口縁 外面 口縁部ロクロナデか 内面 口縁部回転台によるナデか	灰色 良	雲母花崗 岩微粒		常陸重 「甕」か
3	縄文 深鉢	-X-X- 尖底深鉢 外面 口縁部痕状 内面 やや粗い研磨	淡黄褐色 良	砂長石類 スコリア 細粒		木の根1群 3b類か?
4	縄文 深鉢	-X-X- 尖底深鉢 外面 具数条斜方向 内面 具数条直主に新方向だがややランダム	淡褐色 普	砂やや日 立ち繊維		

B113

検出地区 L5-79gにて検出した。

遺 構 2×2間(片側3間)の掘立柱建物跡である。南東側柱列のみF246を掘込んでP6a・bの柱穴が検出され、4基の柱穴となっている。長軸5.24m×短軸3.30m、長軸方位はN-30°-Wを示している。柱穴はP1・P2・P3・P4・P7の5基に検出された。柱穴覆土はロームを包含した黒褐色土が主体であるが、P6のみ暗褐色土となり、本地区の掘立柱建物跡の中では色調的に異なっている様子が窺えた。柱穴の掘込みの深さは0.14~0.32mであるが、0.20m未満が4基となっていた。四隅の柱穴が深い分けではなく、全体として浅い柱穴である。

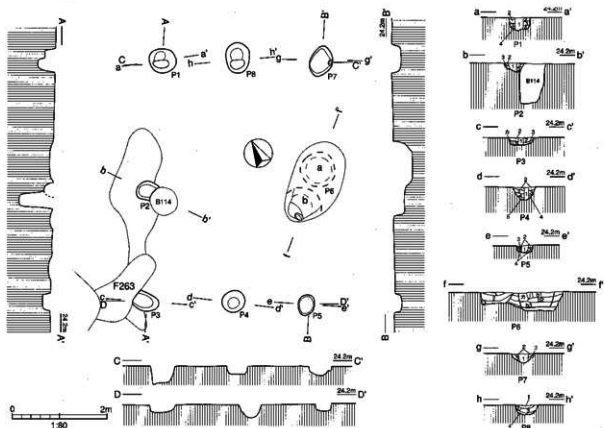
柱穴覆土はロームを包含した黒褐色土・黒色土が主体であった。

遺 物 土師器・須恵器などの小片と、縄文早期の条痕文が出土している。条痕文が比較的多く出土していた。1の長頸甕は、P7の柱痕から出土している。

2~4は縄文時代早期・条痕文片で2は口縁片で、外面は斜位を基本に横位の、内面は口縁多い、以下はランダムな縦位の条痕を施文している。補修孔を認める。3は胴部が屈曲する部分で、内外面とも縦に近い斜位の条痕を施文している。3は尖底部である。

所 見 2間四方でありながら、片側3間の不規則な掘立柱建物跡である。P6は布堀のように見えるが、炉穴を掘込んだためであり本来は別遺構となろう。また、南東側柱列のP5・P7間内に均等に配置されるのではなく、略中央に近接して掘込まれたものであった。

Ⅱ地区の掘立柱建物跡群域でも検出することが多かった片側3間の建物跡であるが、もし高床ならば床の載せ方が不明であり、平地の床の住居とも想定できるものかもしれない。



- P1**
- |    |       |                   |        |
|----|-------|-------------------|--------|
| 1層 | 黒褐色土  | ロームが少量混入          | ローム粒微含 |
| 2層 | 暗褐色土  | ロームと黒褐色土が軽く混入     |        |
| 3層 | 暗黄褐色土 | ローム主体の土に黒褐色土が少量混入 |        |
| 4層 | 暗褐色土  | 黒色土が少量混入          |        |

- P2**
- |    |      |            |  |
|----|------|------------|--|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム粒、炭化材少含 |  |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム粒少含     |  |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム粒多含     |  |

- P3**
- |    |       |            |        |
|----|-------|------------|--------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒少含     |        |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム少量混入    | ローム粒少含 |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 黒色土とロームが混入 |        |

- P4**
- |    |      |              |       |
|----|------|--------------|-------|
| 1層 | 黒褐色土 | 黒褐色土主体       |       |
| 2層 | 黒色土  | ローム少量混入      |       |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少量混入     |       |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒色土にロームが少量混入 | ローム微含 |
| 5層 | 暗褐色土 | 暗褐色土主体       |       |

- P5**
- |    |       |                  |  |
|----|-------|------------------|--|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム少量混入          |  |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム少量混入          |  |
| 3層 | 黒色土   | ローム少量混入          |  |
| 4層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体           |  |
| 5層 | 暗黄褐色土 | ローム主体の土に黒色土が少量混入 |  |

- P6**
- |     |       |          |            |
|-----|-------|----------|------------|
| 1層  | 暗褐色土  | ローム粒等含   |            |
| 2層  | 暗褐色土  | ロームが少量混入 | ローム粒、焼土粒微含 |
| 3層  | 暗褐色土  | ロームが少量混入 | ローム粒、焼土粒微含 |
| 4層  | 暗赤褐色土 | 焼土が少量混入  | 焼土粒微含      |
| b1層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体   |            |
| b2層 | 暗褐色土  | 黒色土少量混入  | ローム粒微含     |
| b3層 | 黒色土   | 暗褐色土少量混入 | ローム粒、焼土粒微含 |

- P7**
- |    |       |             |  |
|----|-------|-------------|--|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム粒微含      |  |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム粒少含      |  |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 黒褐色土とロームが混入 |  |

- P8**
- |    |      |          |        |
|----|------|----------|--------|
| 1層 | 黒褐色土 | ロームが少量混入 | ローム粒少含 |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒少含   |        |
| 3層 | 黒色土  | ロームが少量混入 | ローム粒少含 |
| 4層 | 暗褐色土 | 暗褐色土主体   |        |

図321 B113

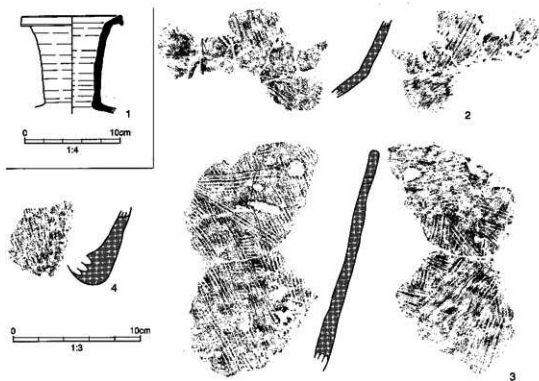


図322 B113 (2)

表83 B113遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の 特徴	口径×底径×器高	色調 焼	胎土	遺存	備考
1	須恵器 長頸壺	104×-×(104) ロクロ成形口縁やや外反する折り返し口縁頸部はやや広がる		緑灰色 良	砂粒	口縁片 ～ 頸部片	内外面ともに 自然軸がかかる

#### B114

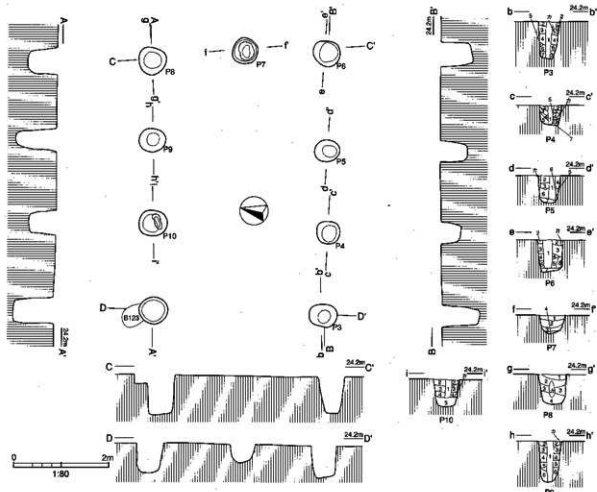
検出地区 L5-79gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.48m×短軸2.52m、方位はN-76°-Wを測る。P2に相当する柱穴を欠く遺構であり、全体的に細身の建物跡である。柱痕はP7・8においては確認できなかったが、他の柱穴では検出されている。柱穴の掘込みの深さは0.36～0.88mと深さに大きな差が生じているが、中間の柱穴はやや浅く、四隅は0.60～0.88mと中間の柱穴に比べ深くなっていた。また、全体としては0.40～0.66mの深さをもつ柱穴が、5基となっていた。

柱穴覆土はロームを包含した黒色土が主体であり、突固められた様子が窺えた。

遺物 出土した遺物は、流込みと判断される縄文早期の条痕文が1片だけであった。

所見 P2に相当する位置に攪乱が入り柱穴が検出されなかったが、本来は存在した側柱のみの掘立柱建物跡と捉えられた。そして長軸（桁行）方向では、西側に比べ東側がやや広がる建物跡である。P8の覆土中に攪乱が縦に部分的に入るが、柱痕の可能性も考えられた。P1においてB113P2と重複するが、覆土から新旧関係をB114→B113と捉えることができた。



- P3**
- |    |      |            |             |
|----|------|------------|-------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量含    | 粒子細かくボソボソな土 |
| 2層 | 暗黒色土 | 黒色土とロームが混合 |             |
| 3層 | 黒色土  | ローム少量含     |             |
| 4層 | 黒色土  | ローム等含まない   |             |
| 5層 | 灰褐色土 | ソフトロームブロック |             |
| 6層 | 黒色土  | ローム少量含     | ローム粒少量含     |
| 7層 | 黒色土  | ローム少量含     | 人為的堆積       |

- P4**
- |    |      |                        |         |
|----|------|------------------------|---------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含                |         |
| 2層 | 黒色土  | ローム少量含                 | ローム粒微量含 |
| 3層 | 黒褐色土 | 黒色土主体                  | ローム少量含  |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒微量含                | ローム粒多量含 |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム粒及び中5mm大のロームブロック少量含 |         |
| 6層 | 暗褐色土 | ローム粒微量含                |         |
| 7層 | 暗黄色土 | 黒色土とロームが混合             | 人為的堆積   |

- P5**
- |    |      |            |       |
|----|------|------------|-------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量含    |       |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒微量含    |       |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒等含んでない |       |
| 4層 | 暗黒色土 | 黒色土とロームが混合 |       |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒微量含    |       |
| 6層 | 暗褐色土 | 黒色土とロームが混合 |       |
| 7層 | 暗褐色土 | ローム粒微量含    | 人為的堆積 |

- P6**
- |    |      |               |            |
|----|------|---------------|------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量含       |            |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒色土と少量のロームが混合 | ローム粒少量含    |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒微量含       |            |
| 4層 | 黒色土  | ローム粒少量含       |            |
| 5層 | 暗黒色土 | 暗黒色土とロームが少量混合 | ローム粒微量含    |
| 6層 | 暗褐色土 | 暗黒色土とロームが少量混合 | ローム粒等含んでない |
| 7層 | 暗褐色土 | 暗黒色土とロームが少量混合 | ローム粒微量含    |

- P7**
- |    |      |            |  |
|----|------|------------|--|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒少量含    |  |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒少量含    |  |
| 3層 | 暗褐色土 | 黒色土とロームが混合 |  |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム少量含     |  |
| 5層 | 暗褐色土 | 人為的堆積      |  |

- P8**
- |    |      |            |         |
|----|------|------------|---------|
| 1層 | 黒色土  | ローム少量混     | ローム粒微量含 |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒色土と少量混    | ローム粒微量含 |
| 3層 | 暗褐色土 | ロームが少量混    | ローム粒微量含 |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒等含んでない | 人為的堆積   |

- P9**
- |    |      |            |       |
|----|------|------------|-------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量含    |       |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒等含んでない |       |
| 3層 | 黒色土  | ロームが少量混    |       |
| 4層 | 黒色土  | ロームが少量混    |       |
| 5層 | 黒色土  | ローム粒微量含    |       |
| 6層 | 暗褐色土 | ローム粒少量含    | 人為的堆積 |

- P10**
- |    |      |            |         |
|----|------|------------|---------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微量含    |         |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒色土と少量混    | ローム粒微量含 |
| 3層 | 暗黄色土 | ロームが少量混    | ローム粒微量含 |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒等含んでない | 人為的堆積   |



図323 B114

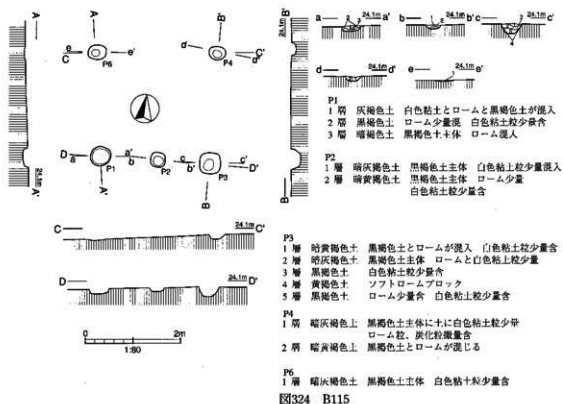


図324 B115

### B115

検出地区 L5-69gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸2.44m×短軸2.28m、方位はN-2°-Eを測る。P5に相当する柱穴は遺構確認の初期には確認されていたが、精査段階で失われた。掘込みの深さも0.06~0.20mと全体的な浅いものである。そのなかでP3のみが0.20mとやや深くなるだけで、他の4基は0.04~0.08mとソフトロームを掘り込んだといった柱穴である。このため柱痕は確認できなかった。

柱穴が浅く覆土は判然としなないものもあるが、1層には白色粘土が混入していた。

遺物 出土しなかった。

所見 掘込みが極めて浅い掘立柱建物跡である。図では1×2間乃至1×1間のどちらかに捉えられるが、P5に相当する柱穴が失われたもので、1×2間の建物跡である。覆土1層に白色粘土が混入していたことから、他の建物跡の例から1層が柱痕の可能性もあるが判然としなかった。

### B116

検出地区 M5-51・62・63gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.24m×短軸2.84m、方位はN-34°-Eを測る。柱痕はP2・6の2基に検出された。P1・4は覆土堆積の乱雑さから、P2は柱痕覆土上部の広がりから、柱は引抜かれたものもあることを窺わせている。柱穴の掘込みの深さは0.44~1.08mと一様ではないが、0.80m以上が4基となっており、東側柱列の深さが目立っていた。

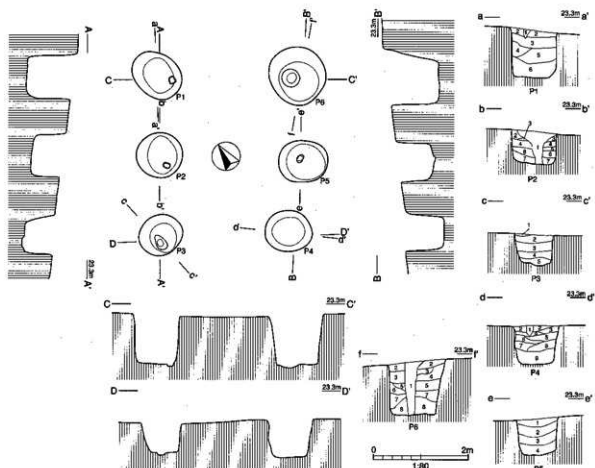
遺物 縄文早期・条痕文片が出土しているのみである。

所見 柱穴の平面規模は大きく、掘込みの深さもあることから、がっしりした建物跡と言えるが、調査時と測量時の時間差も考慮すべきかもしれない。

### B117

検出地区 L5-70g・M4-61gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.60m×短軸3.84m、方位はN-34°-Eを測る。柱痕



- P1**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の濁ったローム混合
  - 4層 褐色土 褐色土と濁ったローム混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と濁ったローム混合
- P2**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 濁ったロームが主体
  - 3層 暗褐色土 褐色土と褐色土が混合
  - 4層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
- P3**
- 1層 褐色土 褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土がほぼ均一に混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合
  - 5層 暗褐色土 濁ったローム主体 褐色土が少量混入

- P4**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 6層 暗褐色土 濁ったロームと褐色土が混合
  - 7層 褐色土 褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 8層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 9層 暗褐色土 濁ったロームが主体
- P5**
- 1層 褐色土 褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗褐色土 濁ったローム主体
- P6**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 褐色土 褐色土と濁ったロームが混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 5層 褐色土 褐色土と濁ったロームが混合
  - 6層 褐色土 褐色土と濁ったロームが混合
  - 7層 暗褐色土 濁ったロームが主体
  - 8層 暗褐色土 濁ったロームが主体

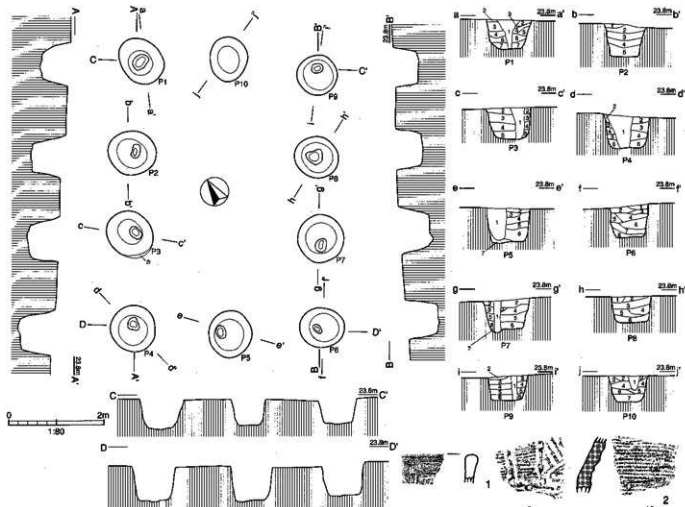
図325 B116

はP1・3・5・7・9・10の7基に検出した。柱穴の掘込みの深さは0.44~0.68mであり、0.50m前後のものが多かった。覆土は、ロームを包含した暗褐色土を主体としている。

遺物 縄文早期・燃承文系、条痕文系が若干出土したのみである。

所見 柱痕の下の柱のアタリに相当する位置に、粘土乃至山砂が坑底に圧着していた。平面規模は大きいが、径は0.78~0.84m程度であろうか。

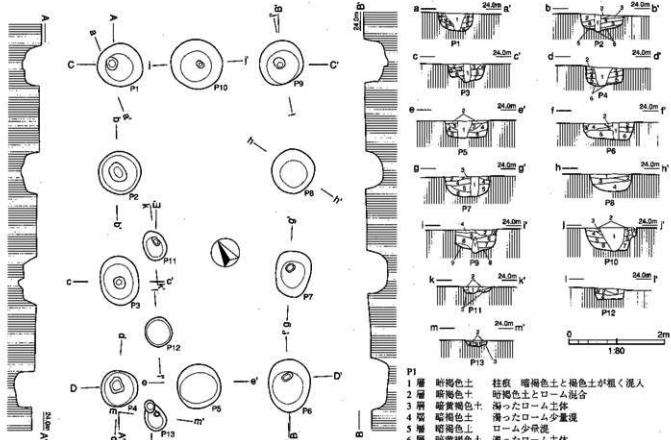




- P1**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土とローム混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の濡ったローム混合
  - 4層 黒褐色土 黒褐色と暗褐色土混合 ローム小粒含
  - 5層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 黒褐色土 黒褐色と暗褐色土混合 ローム少量含
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったローム混合
- P3**
- 1層 暗褐色土 褐色土少量混
  - 2層 褐色土 ローム少含
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合 ローム少含
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合 ローム少含
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土少量 ローム多含
- P5**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗黄褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
  - 4層 暗黄褐色土 濡ったロームとローム小粒多含
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったロームとローム小粒含
  - 7層 暗褐色土 濡ったローム主体
- P7**
- 1層 暗褐色土 ローム微粒含
  - 2層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったロームと混合
  - 3層 暗褐色土 褐色土と極少のローム混合
  - 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と極少のローム混合
  - 5層 暗褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 暗褐色土少量
  - 7層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 ローム大粒混合
- P9**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 褐色土少量混入
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム少量混入
  - 4層 暗褐色土 極少量のローム混入
  - 5層 暗褐色土 極少量のローム混入
  - 6層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったローム少量混入

- P2**
- 1層 褐色土 褐色土と少量の濡ったローム混合
  - 2層 褐色土 褐色土と暗褐色土混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の褐色土混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
- P4**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
  - 4層 褐色土 褐色土と濡ったローム混合
  - 5層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 褐色土少量含
- P6**
- 1層 褐色土 ローム微粒含
  - 2層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
  - 3層 褐色土 褐色土と極少量のローム混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と極少量のローム混合
  - 5層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 暗褐色土少量
  - 7層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 ローム大粒混合
  - 8層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
- P8**
- 1層 暗褐色土 ローム微粒含
  - 2層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったロームと混合
  - 3層 暗褐色土 褐色土と極少量のローム混合
  - 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と極少量のローム混合
  - 5層 暗褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 暗褐色土少量
  - 7層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 ローム大粒混合
- P10**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と極少量のローム混合
  - 3層 褐色土 褐色土十体
  - 4層 暗褐色土 ローム小粒含
  - 5層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土と極少量のローム混合

図326 B117



- P4**
- 1層 黒褐色土 柱状 黒褐色土と暗褐色土が粗く混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったロームが粗く混合
  - 3層 黒褐色土 黒褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 4層 黒色土 ローム微粒
  - 5層 黒褐色土 黒色土と少量のローム混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
- P5**
- 1層 暗褐色土 柱状 褐色土と暗褐色土が均一に混合
  - 2層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が均一に混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が均一に混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の黒色土が均一に混合
  - 5層 暗褐色土 黒色土と少量のロームに混合
- P6**
- 1層 暗褐色土 柱状 暗褐色土と褐色土が均一に混合
  - 2層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が均一に混合
  - 3層 暗褐色土 濡ったローム主体
  - 4層 褐色土 褐色土と少量の濡ったロームが均一に混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったロームが均一に混合
  - 6層 暗褐色土 少量の濡ったロームが均一に混合
- P7**
- 1層 褐色土 柱状 褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 4層 黒褐色土 黒褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 5層 暗褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 暗褐色土 少量の濡ったローム混合
- P8**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土混合 ローム微粒
  - 3層 褐色土 暗褐色土と主体 濡ったローム少量混
  - 4層 暗褐色土 濡ったロームと暗褐色土混合 黒色土少量混

- P9**
- 1層 暗褐色土 柱状 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 3層 褐色土 褐色土主体
  - 4層 暗褐色土 濡ったロームが主体 暗褐色土少量混
  - 5層 黒褐色土 黒色土と少量の濡ったローム混合
  - 6層 暗褐色土 黒色土少量混
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 8層 暗褐色土 濡ったローム主体 暗褐色土少量混
  - 9層 暗褐色土 黒褐色土主体
- P10**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合 ローム微粒
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土はほぼ同量 混 ローム微粒
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土はほぼ同量 混 ローム微粒
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 7層 暗褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土混合
- P11**
- 1層 褐色土 褐色土と少量の濡ったローム混合
  - 2層 暗褐色土 濡ったローム主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったローム混合
- P12**
- 1層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 3層 褐色土 褐色土主体
  - 4層 暗褐色土 濡ったロームと暗褐色土がほぼ均一に混合
- P13**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 3層 黒褐色土 黒褐色土主体
  - 4層 暗褐色土 濡ったローム主体

図327 B118ab



図328 B118a・b(2)

#### B118a

検出地区 L5-70gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.72m×短軸3.52m、方位はN-36°-Eを測る。柱痕は殆どの柱穴で検出されたが、P8には確認できなかった。しかしP1・4・10の3基は柱痕上部が広がることから、柱は引抜かれた可能性が高いと言えよう。柱穴の掘込みの深さは0.28～0.46mであるが、0.40m前後の深さが多かった。四隅及び中間柱穴によって、掘込みの深さの大きな異なりは認められなかった。覆土はロームを包含した黒褐色土・暗褐色土を主体とし、やや突固められた様子が窺えた。

遺物 縄文時代早期・撚糸文系、条痕文系の土器片が若干出土したのみである。

所見 やや長軸方向に長さのある掘立柱建物跡である。柱材は覆土からみると立腐れと引抜きが混在する建物跡である。また、各柱穴の長径は0.88～1.08mを測るが、調査時と測量時の時間差と捉えたい。坑底などの径からみると、0.76～0.84m程度と考えられる建物跡である。

#### B118b

遺構 B118a内に直線的に並んだ、小規模な柱穴3基の遺構である。柱痕はP11・13で検出された。いずれもソフトロームを、0.12～0.20mと浅く掘込んだ柱穴である。長径0.46～0.62mであり、掘込みの浅さに比べて平面規模は大きなものとなっている。覆土はロームを包含した暗褐色土を主体としているが、掘込みが浅く突固められた様子は捉えきれなかった。

遺物 出土した遺物は無かった。

所見 B118a内の西側柱列に一部、P2～4に沿う様に各柱穴の中間に検出された。掘込みが浅いため、補助柱穴とも想定されたが、判然としなかった。周囲にこの3基に対応する柱穴が検出されなかったため、B118bと独立させたが、掘込みの浅さから関連する柱穴が失われたことも否定できない建物跡である。現状では柱列となってしまっているが、本来は掘立柱建物跡であると考えて報告しておく。

#### B119

検出地区 L5-80g、M4-71gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸8.00m×短軸3.68m、方位はN-54°-Wを測る。柱痕はP1・3～5の4基に検出されたが、P8・11の覆土堆積の乱雑さから柱材は引抜かれたものもあったと判断された。柱穴の掘込みは最深0.78m、最浅0.12mと大きく異なるが、0.30m前後の深さが5基、0.45m前後が2基と比較的一定したものであった。東側柱列のP9～P11の3基は、0.48～0.74mと他の柱穴に対して掘込みは深くなっていた。覆土はロームを包含した暗褐色土・黒褐色土を主体として、突固められた様子も窺えた。

遺物 本遺構に伴う遺物はなく、縄文早期の条痕文系が若干出土している。1・2はいわゆるアクティブ押型文であった。

所見 梁行に比べ桁行が長大となる掘立柱建物跡であり、その比率は2.17倍となっている。P6は建物跡の柱穴とは異なり規模も小さく、また、掘込みも0.12mと浅いものであった。B119のP2・10の軸線からはずれており、P5・7の間にも配置されないなど束柱となるかは捉えられなかった。本来は別途の遺構かもしれない。

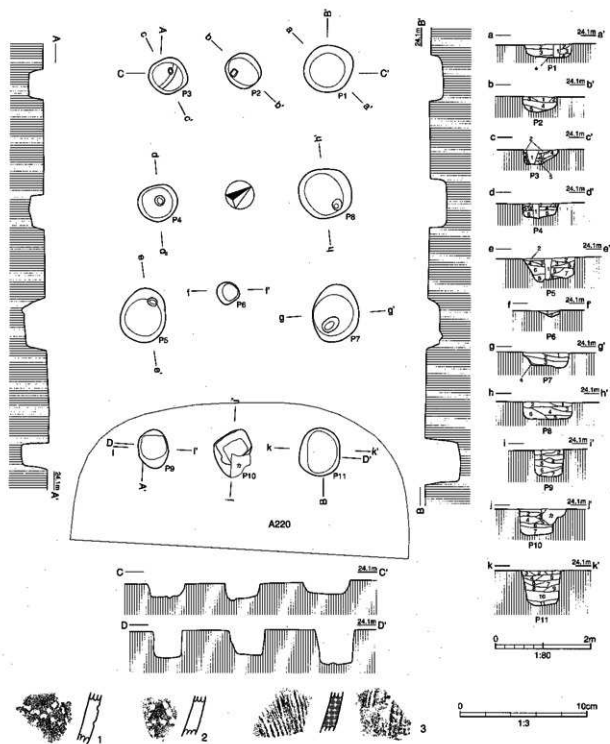


図329 B119

なお、本建物跡はA220と重複するが、重複する柱穴の覆土から遺構の新旧関係は、A220→B119と捉えられた。

一方、本遺構は長大な掘立柱建物跡だが、各柱穴の掘込みの浅さが気になるものである。東側柱列はA220の覆土を掘込んでいるため、P9は0.48m、P10は0.52m、P11は0.74mとより深く掘込んだものと捉えられるが、他の柱穴が0.24～0.44mの掘込みであり、長大な建物跡に対して各柱穴の深さで支えられたかは判然としなかった。

P1	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土がほぼ均一混合
	2層	黒褐色土	黒褐色土と少量の暗褐色土が粗く混入
	3層	黒褐色土	黒褐色土と少量の暗褐色土が粗く混入
	4層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の黒褐色土混合

P2	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	2層	暗褐色土	薄ったローム主体 少量の褐色土混入
	3層	暗褐色土	薄ったローム主体 少量の褐色土混入
	4層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の黒褐色土混合
	5層	暗褐色土	薄ったローム主体 褐色土少量含

P3	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合 柱痕
	2層	黒色土	暗褐色土少量混
	3層	黒色土	黒色土主体
	4層	黒褐色土	黒色土と暗褐色土少量混
	5層	黒褐色土	黒色土と暗褐色土少量混
	6層	暗褐色土	暗褐色土主体

P4	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合 柱痕
	2層	黒色土	暗褐色土少量混
	3層	褐色土	褐色土主体
	4層	黒褐色土	黒褐色土主体
	5層	黒褐色土	薄ったローム少量と黒色土混合
	6層	黒褐色土	黒褐色土主体

P5	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合 柱痕
	2層	黒褐色土	黒褐色土と暗褐色土 薄ったローム混合
	3層	暗褐色土	暗褐色土 薄ったローム混合
	4層	褐色土	褐色土と少量の暗褐色土混合
	5層	黒色土	黒色土と薄ったローム混合
	6層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	7層	黒褐色土	薄ったローム少量と黒色土混合
	8層	暗褐色土	薄ったローム主体

P6	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土と少量の褐色土が混合

P7	1層	暗褐色土	黒褐色土と少量の薄ったローム混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土主体
	3層	暗褐色土	薄ったローム少粒混
	4層	暗褐色土	薄ったローム主体

P8	1層	黒褐色土	黒褐色土と少量の薄ったローム混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土と少量の薄ったローム混合
	3層	黒褐色土	黒色土と薄ったローム多量混
	4層	黒褐色土	ローム少粒混
	5層	黒褐色土	黒褐色土と少量の暗褐色土混合
	6層	黒褐色土	薄ったロームと黒色土混合

P9	1層	暗褐色土	ローム微粒含
	2層	暗褐色土	ローム微粒多含
	3層	黒褐色土	ローム微粒含
	4層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の黒色土混合 ローム少量混
	5層	黒褐色土	黒色土と少量の暗褐色土混合
	6層	黒色土	少量の暗褐色土混合
	7層	黒褐色土	黒色土と少量の暗褐色土粗く混合

P10	1層	褐色土	褐色土と少量の薄ったローム混合
	2層	褐色土	褐色土と少量の薄ったローム混合
	3層	暗褐色土	暗褐色土主体
	4層	褐色土	褐色土と少量の薄ったロームが粗く混合
	5層	暗褐色土	暗褐色土主体
	6層	暗褐色土	少量の褐色土混合
	7層	黒褐色土	黒褐色土と少量の褐色土混合

P11	1層	黒褐色土	黒褐色土主体
	2層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の褐色土が粗く混合
	3層	褐色土	褐色土と少量の暗褐色土が粗く混合
	4層	褐色土	褐色土と少量の暗褐色土粗く混合
	5層	暗褐色土	暗褐色土と少量の黒色土が粗く混合
	6層	暗褐色土	暗褐色土と少量の褐色土が粗く混合
	7層	暗褐色土	暗褐色土と少量の黒色土が粗く混合
	8層	暗褐色土	暗褐色土と少量の黒色土が粗く混合
	9層	黒褐色土	黒褐色土主体
	10層	黒褐色土	黒褐色土と極少量の暗褐色土粗く混合
	11層	暗褐色土	薄ったロームと暗褐色土が粗く混合

図330 B119 (2)

## B120

検出地区 M5-71・72gにわたって検出した。

遺 構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.12m×短軸4.24m、方位はN-34°Eを測る。全体として強固な柱穴を有する建物跡である。柱痕はP1・3～10の7基に検出したが、P6・7の2基は柱穴覆土中で止まっていた。これらは柱穴を深く掘込み、投入土により埋戻した後に柱を建てたものと捉えた。また、P4・9も柱痕は検出できなかったが、坑底直上層が整然と堆積していることから、同様に投入が行われたものと判断した。

各柱穴の掘込みは0.68～1.00mとなるが、0.80～1.00mと深く掘込んだものが8基あり、全体的に深さを有する柱穴であった。なお、柱のアクリが検出された柱穴では、坑底に粘土乃至山砂の圧着が認められた。

覆土はロームを包含した暗褐色土を主体として、突固められた様子が窺えた。

遺 物 土師器坏片や、縄文時代早期・条痕文系が若干出土した。図示はできなかったが、内黒の土師器坏片も出土している。1は灯明皿として転用された土師器坏である。

所 見 やや短軸(梁行)が、長軸(桁行)に比べて短くなった掘立柱建物跡である。その比率は1.44倍であり、B119に比べても短軸の割合が大きく、幅のある建物跡となっている。また、柱痕が確実に残っていたものはP5・9のみであり、柱痕が検出された他の柱穴については、中断や上部広がりなどから柱の引抜きが行われたものではないかと想定した。しかし引抜きにおいて折損などの状態を覆土から見て取れるのは無いと思われる。いずれにしても柱穴覆土からは、柱の立腐れと引抜きの両

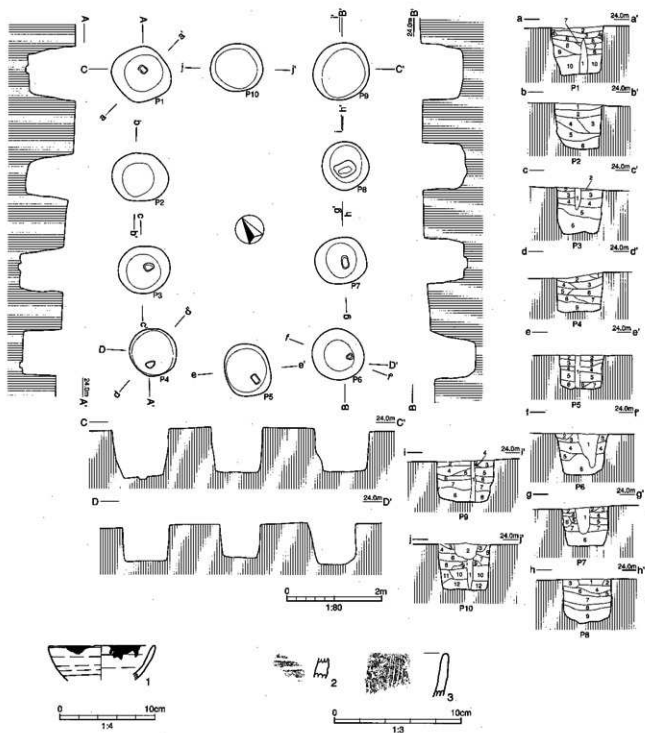


図331 B120

者が混在していることが捉えられた。

各柱穴は長径0.96~1.28mと大きく、P4を除きいずれも1.00mを超えるものであった。短径も0.96~1.20mと大きく、建物跡の規模からすると異常な大きさといえよう。当時の「地方」にあって、このような柱穴規模を窺って知らず頻例の増加を待ちたいが、調査時と測量時の時間差もあろうか。

また、柱穴坑底に圧着したように認めた、粘土及び山砂の捉え方が問題となってくる。柱痕が残る柱穴覆土からは掘込んだ後に人為的な投入により埋戻し、深さを調整してる様に見られる。これらが柱のアタリに相当するとすると、建替え乃至柱の取替えとも考えられ、重複した建物跡ともなってくる。重複した建物跡とし、柱穴を略同位置とした場合に、柱穴規模の大きさは理解できることになるが、ここでは単独の掘立柱建物跡として報告する。

P1	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	3層	褐色土	ローム小粒含
	4層	暗黄褐色土	濁ったローム主体
	5層	暗黄褐色土	濁ったローム主体
	6層	褐色土	褐色土と少量の濁ったローム混合
	7層	暗黄褐色土	濁ったロームと褐色土混合
	8層	暗黄褐色土	濁ったロームとローム小粒主体
	9層	暗黄褐色土	濁ったロームとローム小粒主体
	10層	暗黄褐色土	濁ったローム主体 ローム大中小粒多含
P2	1層	暗褐色土	ローム微粒含
	2層	暗褐色土	ローム微粒含
	3層	褐色土	ローム大・中・小粒多含
	4層	暗黄褐色土	ローム小粒含
	5層	暗黄褐色土	ロームブロック ローム大粒主体
	6層	暗褐色土	濁ったロームとロームブロック大が混合
P3	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	2層	褐色土	褐色土と少量のローム混合
	3層	褐色土	褐色土と濁ったローム混合
	4層	暗褐色土	暗褐色土とローム小粒混合
	5層	暗褐色土	暗褐色土とローム大粒 濁ったローム含
	6層	暗褐色土	濁ったローム 大型ロームブロックが混合
P4	1層	褐色土	褐色土主体
	2層	褐色土	褐色土とローム小粒混合
	3層	褐色土	褐色土とローム中粒混合
	4層	褐色土	褐色土主体
	5層	褐色土	褐色土とローム微粒含
	6層	暗褐色土	暗褐色土とローム大粒含
	7層	暗褐色土	暗褐色土と濁ったローム混合
	8層	暗褐色土	濁ったローム主体
	9層	暗黄褐色土	濁ったローム主体 ローム中大粒含
P5	1層	暗褐色土	柱状 暗褐色土と褐色土混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	3層	暗褐色土	暗褐色土と少量の褐色土混合
	4層	暗褐色土	暗褐色土と少量の褐色土混合
	5層	暗黄褐色土	濁ったロームと大小のローム含
	6層	暗褐色土	暗褐色土と濁ったローム混合
	7層	暗黄褐色土	濁ったローム主体

P6	1層	暗褐色土	暗褐色土少量の褐色土混合
	2層	褐色土	暗褐色土とローム小粒混合
	3層	褐色土	ローム小粒やや多
	4層	暗黄褐色土	濁ったロームと大中小粒のローム含
	5層	暗黄褐色土	黒色土ロームと大粒のローム含
	6層	暗褐色土	暗褐色土と濁ったローム混合
P7	1層	暗褐色土	暗褐色土少量の褐色土混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土少量の褐色土混合
	3層	暗褐色土	暗褐色土少量の褐色土混合
	4層	暗褐色土	暗褐色土と暗褐色土混合
	5層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	6層	暗褐色土	濁ったロームとロームの大粒主体
	7層	暗褐色土	暗褐色土と濁ったローム少量混
	8層	暗黄褐色土	濁ったロームとロームの大中小粒主体
P8	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	2層	褐色土	褐色土主体
	3層	褐色土	褐色土主体
	4層	褐色土	褐色土と少量の暗褐色土混合
	5層	褐色土	褐色土主体
	6層	暗褐色土	暗褐色土主体
	7層	暗褐色土	暗褐色土と少量の褐色土混合
	8層	暗褐色土	濁ったローム少量混
	9層	暗黄褐色土	濁ったローム主体 ローム大中小粒が粗く混合
P9	1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	2層	暗褐色土	暗褐色土とローム小粒混合
	3層	褐色土	褐色土主体
	4層	暗褐色土	暗褐色土とローム中粒混合
	5層	暗褐色土	ローム小粒少量含
	6層	暗褐色土	ローム小粒少量含
	7層	暗黄褐色土	濁ったローム少量と暗褐色土混合
	8層	暗黄褐色土	濁ったロームとローム大中小粒少量混
P10	1層	暗褐色土	暗褐色土主体
	2層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土混合
	3層	暗褐色土	ローム小粒含
	4層	暗褐色土	ロームブロック含
	5層	暗黄褐色土	濁ったローム主体
	6層	暗褐色土	ローム小粒多含
	7層	暗黄褐色土	濁ったロームと暗褐色土混合
	8層	黒色土	黒色土主体 ローム中粒含
	9層	暗褐色土	暗褐色土主体
	10層	黒褐色土	ローム小粒少量含
	11層	暗黄褐色土	暗褐色土とローム粒混合
	12層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濁ったローム混合

図332 B120 (2)

表84 B120遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 杯	(110)××(36) ロクロ成形 外面 ロクロ成形(ロクロナデ)ヘラケズリ 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	橙褐色 青	細砂赤色 スコリア 微粒子	口縁- 体部	灯明皿 として転用
2	縄文 深鉢	-×-×- 尖底土器(尖底部は鋭角で大きくなる) 外面 器面の乾燥が進んだ段階でケズリ調整し挟るように沈線を描く 内面 ケズリ後ミガキあり	外橙褐色 内黒褐色 良	スコリア 長石質	胴部片	
3	縄文 深鉢	-×-×- 外面 はば口縁直下より糸筒のまばらな捺糸R 内面 ケズリか(器面荒れていて不明)	淡褐色 青	砂目立ち 長石類 スコリア 粒の小確	口縁片	

**B121**

検出地区 M5-82・83・92・93gにわたって検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.80m×短軸4.40m、方位はN-52°-Eを測る。柱痕はP7・9に検出した。掘込みの深さは0.48～0.80mであり、0.52～0.68mが8基と0.60m前後が中心となっている。覆土はロームを包含した黒褐色土と暗褐色土が主体となっていた。

所見 長軸方向の北側柱列と南側柱列の長さが異なり、歪んだ形状となっている。柱穴はP7にみられるように柱痕が坑底まで達せず、掘込んだ後に投入土により深さを調節しているような柱穴である。

**B122**

検出地区 M5-82・92gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.72m×短軸3.44m、方位はN-56°-Wを測る。柱痕はP1～3・5・6・8・10の7基について認められた。掘込みの深さは0.26～0.60mの間であるが、P6～8が0.44～0.60mと北東柱列が深い傾向を示していた。覆土は暗褐色土を主体としている。

遺物 土師器の細片が、数点出土したのみである。

所見 B121と隣接している。柱穴の径は、本来は0.60～0.76m程度ではなかったかと捉えている。

**B123**

検出地区 M5-91・92、L6-1・2gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.20m×短軸4.04m、方位はN-72°-Eを測る。柱痕はP1・4・8・10にて検出された。深さは0.16～0.52mと柱穴により差が大きかったが、0.40m前後が8基となり、掘込みの深さは比較的均一化された建物跡である。覆土はロームを包含した黒色土・黒褐色土・暗褐色土が主体となっていた。

遺物 土師器細片と縄文時代早期・条痕文片が、混在して数点出土している。

所見 柱穴の平面規模が大きくなるが、本来は0.72～0.84m程度ではなかったかと想定している。

**B124**

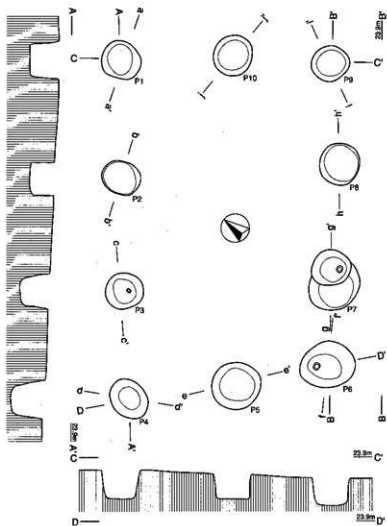
検出地区 M6-11g、L6-20・30gにて検出した。

遺構 2×3間の片面庇の掘立柱建物跡と捉えた。長軸6.44m×短軸4.04m、方位はN-74°-Wを測る。柱痕は10基の柱穴に認めたが、P2・9・10・12は覆土の乱雑さから柱材の引抜きと捉えた。掘込みの深さは建物跡の柱穴においては0.38～0.64mとなるが、P1～3・P6～8の梁方向の柱列が深い傾向を示している。また、P11～14は0.4m前後と浅くなっていた。覆土は暗褐色土を主体としている。

遺物 土師器細片と縄文時代早期・条痕文片が、混在して数点出土している。

所見 3間四方か、2×3間の総柱式の掘立柱建物跡とするか、判断に迷う遺構であった。P1～10の柱穴の深さ比べP11～14は浅くなり、側柱と捉えるには疑問があり片面庇の建物跡とした。





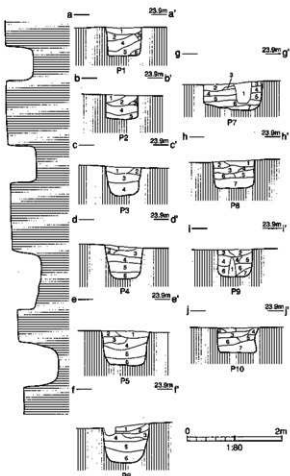
- P1**
- 1層 褐色土 暗褐色土と少量の濁ったローム混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土少量が強く混合
  - 3層 暗黄褐色土 濁ったローム主体 暗褐色土少量混
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったローム混合

- P2**
- 1層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 3層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量のローム小粒含

- P3**
- 1層 暗黄褐色土 濁ったローム少量と暗褐色土が強く混合
  - 2層 褐色土 褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土主体とローム粒含

- P4**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったローム混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 3層 暗黄褐色土 濁ったロームと極少量の暗褐色土が強く混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土主体

- P5**
- 1層 褐色土 ローム小粒含
  - 2層 褐色土 褐色土とローム小粒少量含
  - 3層 褐色土 褐色土と暗褐色土とローム小粒多含
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム粒含
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったロームとローム小粒含



- P6**
- 1層 黒褐色土 黒褐色土と褐色土が強く混合
  - 2層 黒褐色土 黒褐色土と少量の褐色土が強く混合
  - 3層 黒褐色土 黒褐色土と多量の褐色土が強く混合
  - 4層 黒褐色土 褐色土少量混入
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム多量とローム小粒が混合
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量のローム中粒粒含

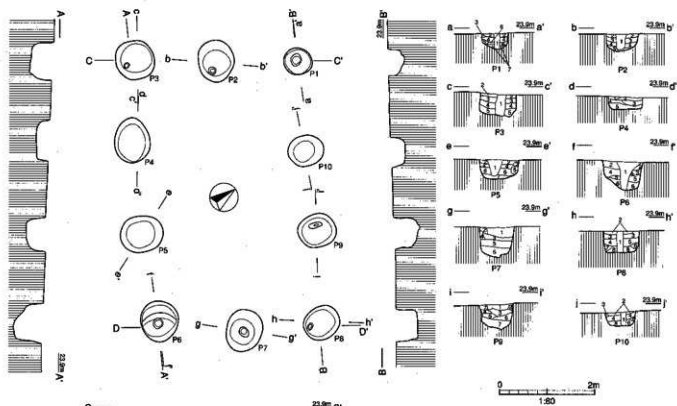
- P7**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が強く混合
  - 2層 褐色土 褐色土と少量のロームが強く混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が強く混合
  - 4層 褐色土 ローム小粒少量
  - 5層 褐色土 褐色土と暗褐色土混合
  - 6層 褐色土 ローム小粒少量
  - 7層 暗黄褐色土 濁ったローム主体 ローム微粒含

- P8**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の褐色土混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 4層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったローム混合

- P9**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 3層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の褐色土混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の濁ったローム混合
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム主体 暗褐色土少量混入
  - 6層 暗褐色土 褐色土少量混入
  - 7層 暗黄褐色土 濁ったローム主体 暗褐色土少量混入

- P10**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗褐色土 濁ったローム主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったローム混合
  - 4層 褐色土 褐色土と極少量の濁ったローム混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったロームと極少量の暗褐色土混合
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土主体

図333 B121



- P1**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 7層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合

- P2**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土が粗く混合

- P3**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 4層 褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合

- P4**
- 1層 褐色土 褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 3層 暗褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 4層 褐色土 褐色土主体
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム主体

- P5**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 褐色土 褐色土主体
  - 3層 褐色土 褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 5層 暗黄褐色土 ロームブロック
  - 6層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合
  - 7層 暗黄褐色土 濁ったローム主体 暗褐色土極少量混入

- P6**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が粗く混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合 ローム人粒少含
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 4層 暗黄褐色土 濁ったロームと褐色土が粗く混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったローム主体

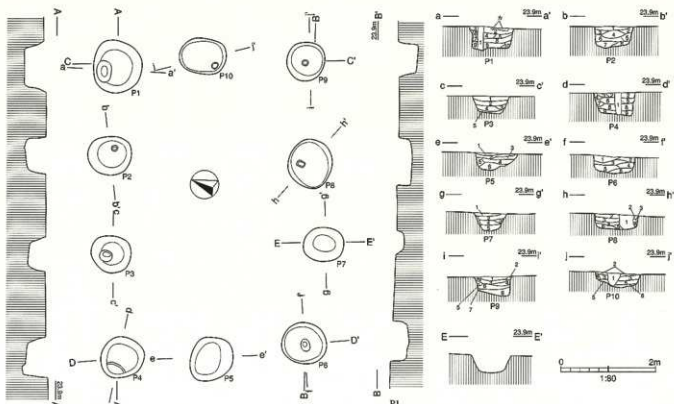
- P7**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合
  - 2層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったロームと極少量の暗褐色土が混合
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったローム主体

- P8**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗黄褐色土 褐色土と濁ったロームが粗く混合
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 6層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が粗く混合
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が粗く混合
  - 8層 暗黄褐色土 濁ったローム主体

- P9**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の褐色土が混合
  - 2層 暗黄褐色土 暗褐色土と極少量の濁ったロームが混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 6層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土主体

- P10**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の暗褐色土が混合
  - 3層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 5層 暗黄褐色土 濁ったローム主体
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の濁ったロームが混合

図334 B122

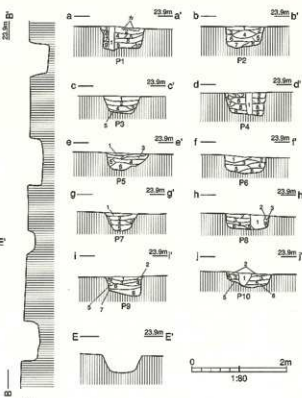


- P2**
- 1層 黒色土 黒色土と少量の濡ったローム混合
  - 2層 暗黄褐色土 濡ったローム少量と暗褐色土混合
  - 3層 黒黄色土 黒褐色土と少量の濡ったローム混合
  - 4層 黒色土 黒色土と少量の濡ったローム混合
  - 5層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 黒色土 黒色土と濡ったローム混合
  - 7層 黒色土 黒色土主体
  - 8層 暗黄褐色土 濡ったローム主体

- P3**
- 1層 黒褐色土 黒褐色土主体
  - 2層 黒褐色土 黒褐色土と少量の褐色土混合
  - 3層 黒褐色土 黒色土と少量の濡ったローム混合
  - 4層 黒色土 黒色土主体
  - 5層 暗褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土混合

- P4**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 3層 暗黄褐色土 濡ったロームと暗褐色土混合
  - 4層 褐色土 褐色土主体
  - 5層 黒色土 黒色土主体
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
  - 7層 褐色土 褐色土主体
  - 8層 黒色土 濡ったローム混合
  - 9層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったローム混合

- P5**
- 1層 黒褐色土 黒褐色土主体
  - 2層 黒褐色土 黒褐色土と少量の褐色土混合
  - 3層 黒褐色土 黒色土と少量の濡ったローム混合
  - 4層 黒色土 黒色土主体
  - 5層 暗褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土混合
  - 6層 暗褐色土 濡ったローム主体 暗褐色土少量混



- P1**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗黄褐色土 濡ったロームと暗褐色土が粗く混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 4層 暗黄褐色土 濡ったロームと暗褐色土が粗く混合
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 7層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 8層 暗褐色土 暗褐色土と極少量のローム混合
  - 9層 暗褐色土 一部分に黒褐色土混合
  - 10層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったロームが粗く混合

- P6**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 2層 褐色土 褐色土主体
  - 3層 褐色土 褐色土と少量のローム混合
  - 4層 褐色土 褐色土と極少量の黒色土混合
  - 5層 黒暗褐色土 黒色土と少量と褐色土混合
  - 6層 暗褐色土 濡ったローム主体

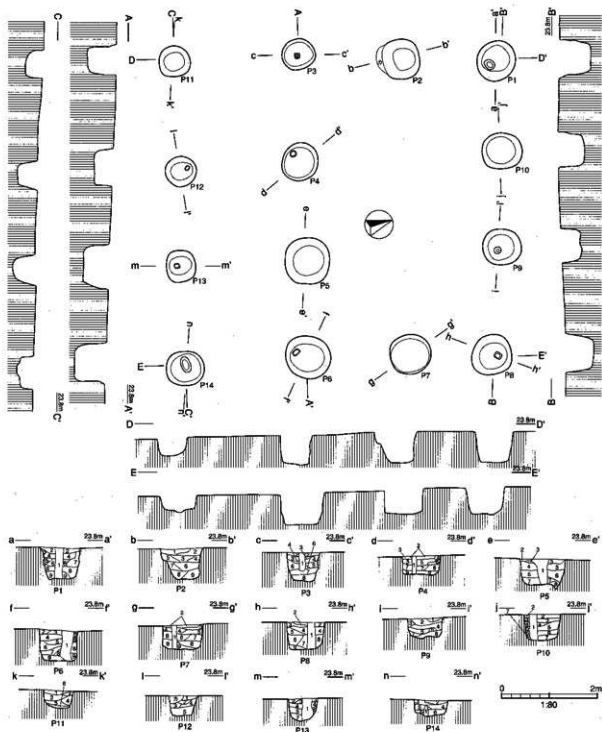
- P7**
- 1層 褐色土 褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合
  - 3層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったローム多量混
  - 4層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 5層 暗黄褐色土 暗褐色土と濡ったローム混合

- P8**
- 1層 黒褐色土 黒色土と暗褐色土が粗く混合
  - 2層 褐色土 褐色土主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 4層 褐色土 褐色土主体
  - 5層 暗褐色土 褐色土と少量の暗褐色土混合
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったロームと褐色土混合

- P9**
- 1層 黒色土 黒色土主体
  - 2層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 4層 黒褐色土 黒褐色土主体
  - 5層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濡ったローム混合
  - 7層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 8層 暗褐色土 暗褐色土主体

- P10**
- 1層 暗黄褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 2層 暗黄褐色土 暗褐色土と少量の褐色土混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の褐色土混合
  - 4層 褐色土 褐色土主体
  - 5層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土混合
  - 6層 暗褐色土 暗褐色土主体

図335 B123



- P1**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 3層 褐色土 褐色土主体
  - 4層 暗褐色土 ローム小粒少含
  - 5層 暗黄褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土が混合
  - 6層 暗褐色土 濡ったローム少量混入
  - 7層 暗黄褐色土 濡ったローム主体 極少量の暗褐色土混入
  - 8層 暗褐色土 濡ったロームが少量混入
  - 9層 暗黄褐色土 濡ったローム主
- P2**
- 1層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合
  - 2層 褐色土 褐色土主体
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と少量の濡ったロームが混合
  - 5層 暗黄褐色土 暗褐色土と少量の黒褐色土が混合
  - 6層 暗褐色土 濡ったローム主体
  - 7層 暗黄褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土が混合
  - 8層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の濡ったロームが混合
  - 9層 暗褐色土 暗褐色土と濡ったロームが軽く混合

- P3**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合
  - 2層 暗褐色土 暗褐色土と少量の褐色土が混合
  - 3層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 4層 暗褐色土 部分的に褐色土が少量混入
  - 5層 暗黄褐色土 少量の濡ったロームと暗褐色土が軽く混合
  - 6層 暗黄褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土とローム中粒が混合
  - 7層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 8層 暗黄褐色土 濡ったロームと少量の暗褐色土が混合
- P4**
- 1層 暗褐色土 暗褐色土主体
  - 2層 黒色土 ローム微粒多く混入
  - 3層 黒黄色土 濡ったロームと少量の黒色土が混合
  - 4層 暗黄褐色土 濡ったローム主体
  - 5層 黒色土 濡ったロームが部分的に少許混入
  - 6層 黒黄色土 黒色土と濡ったロームと少量の褐色土が混合
  - 7層 黒色土 黒色土主体
  - 8層 暗褐色土 暗褐色土と少量の黒色土と濡ったロームが軽く混合
  - 9層 黒色土 黒色土と少量の暗褐色土が混合

図336 B124

P8		
1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
2層	黒褐色土	黒褐色土主体
3層	黒褐色土	暗褐色土と少量の暗褐色土が混合
4層	黒褐色土	黒褐色土と極少量の濡ったロームが混合
5層	黒色土	ローム小粒少含
6層	暗褐色土	濡ったローム主体 暗褐色土極少量混入
7層	黒褐色土	黒褐色土主体
8層	暗褐色土	濡ったローム主体
9層	暗褐色土	濡ったロームと極少量の暗褐色土が混合

P5		
1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
2層	暗褐色土	濡ったローム主体
3層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
4層	暗褐色土	濡ったローム主体 ローム中粒少量混入
5層	暗褐色土	濡ったロームと暗褐色土と極少量の黒色土が粗く混合
6層	黒色土	濡ったローム極少量混入
7層	黒褐色土	黒褐色土と少量の濡ったロームが混合
8層	暗褐色土	濡ったローム主体

P6		
1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が粗く混合
2層	黒褐色土	黒色土と暗褐色土が混合
3層	褐色土	暗褐色土と褐色土と少量の黒色土が混合
4層	暗褐色土	濡ったロームと暗褐色土が粗く混合 ローム大粒少混
5層	黒褐色土	黒色土と少量の濡ったロームが混合
6層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濡ったロームが混合
7層	黒褐色土	濡ったロームが極少量混入
8層	暗褐色土	暗褐色土と少量濡ったロームが混合
9層	黒褐色土	黒色土とロームブロックと少量の濡ったロームが混合

P7		
1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
2層	黒褐色土	黒褐色土と暗褐色土が混合 ローム微粒少含
3層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濡ったロームとローム微粒が混合
4層	黒褐色土	黒褐色土と濡ったロームが混合
5層	暗褐色土	暗褐色土と少量の黒褐色土が混合 ローム中粒少含
6層	黒褐色土	黒褐色土主体
7層	暗褐色土	暗褐色土と少量濡ったロームが粗く混合
8層	暗褐色土	暗褐色土とローム大粒が粗く混合
9層	黒褐色土	黒色土と少量の濡ったロームが混合

P9		
1層	黒褐色土	黒色土と濡ったロームが粗く混合
2層	黒色土	黒色土と少量の暗褐色土が混合
3層	暗褐色土	濡ったロームと少量の暗褐色土が混合
4層	黒色土	黒色土と極少量の濡ったロームが混合
5層	黒色土	黒色土主体
6層	黒褐色土	濡ったロームと黒色土が混合
7層	黒色土	黒色土主体
8層	黒褐色土	濡ったロームと少量の黒色土が混合

P10		
1層	暗褐色土	暗褐色土と少量の褐色土が混合
2層	暗褐色土	暗褐色土主体
3層	黒褐色土	ローム小粒少含
4層	黒褐色土	濡ったロームが部分的に極少含
5層	黒色土	黒色土と極少量の濡ったローム混合
6層	黒色土	ローム小粒少含
7層	暗褐色土	濡ったロームと暗褐色土が少量混合

P11		
1層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濡ったロームが混合
2層	黒褐色土	黒色土と濡ったロームが粗く混合
3層	黒色土	褐色土が極少量混入
4層	黒褐色土	大量の濡ったロームと少量の黒色土が混合
5層	黒色土	黒色土と少量の暗褐色土混合
6層	暗褐色土	濡ったロームと少量の暗褐色土が混合

P12		
1層	暗褐色土	濡ったロームと褐色土が粗く混合
2層	黒褐色土	黒色土と濡ったロームが粗く混合
3層	暗褐色土	大量の濡ったロームと少量の黒色土が粗く混合
4層	黒褐色土	濡ったロームと少量の黒色土が混合
5層	暗褐色土	褐色土と大量の濡ったロームが粗く混合

P13		
1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が粗く混合
2層	暗褐色土	暗褐色土と濡ったロームが粗く混合
3層	暗褐色土	ローム小粒少含
4層	暗褐色土	濡ったロームと暗褐色土が粗く混合
5層	黒褐色土	黒色土と少量の暗褐色土が混合
6層	暗褐色土	ローム小粒少含
7層	黒褐色土	黒褐色土と少量の暗褐色土が混合

P14		
1層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
2層	暗褐色土	濡ったローム主体
3層	暗褐色土	暗褐色土と濡ったロームが粗く混合
4層	暗褐色土	濡ったローム主体
5層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濡ったロームが粗く混合
6層	黒褐色土	濡ったロームと黒褐色土が粗く混合

図337 B124 (2)

### 第3項 柱列

配置は直線の、柱穴規模も小規模である、掘立柱建物跡に伴わない柱穴群を2基検出した。いずれも「構」と判断されるが、ここでは柱列として報告することとする。

I002は掘立柱建物跡群と他の地区を遮断するように設けられ、M003と延長上で交差するように配置されていた。

#### I001

検出地区 L-75gにて検出した。

遺構 4基の柱穴による横列と捉えた。全体としては、長軸5.78m、方位はN-28°-Wを測る。しかし直線で結ぶと軸線にずれを生じており、2基ずつ測ると、北側は長軸2.08m・方位はN-23°-W、南側は長軸1.90m・方位はN-36°-Wとなっている。いずれも柱痕を検出し、柱穴の掘込みの深さは浅かった。

遺物 出土しなかった。

所見 掘立柱建物跡の個柱の柱列とも考えられた。しかし建物跡とする対応する柱穴が検出できず、また、掘込みも浅いことから柱列と判断した。

#### I002

検出地区 L6-30・49・50gにわたって検出した。

遺構 12基の柱穴による横列である。全体の長軸は21.12m、方位はN-40°-Eを測る。平面規模に比べ、全体的に掘込みの浅い柱穴である。覆上は黒色土主体で、突き固められたものであった。

遺物 土師器・須恵器、縄文早期・縄文後期の各小片が出土するが、僅かであった。

所見 南側から入る浅い谷頭とも遮断するような位置に、掘立柱建物跡と他の地区を分離するような配列の横列である。

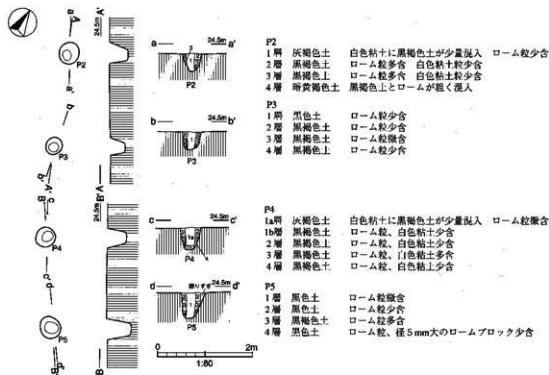
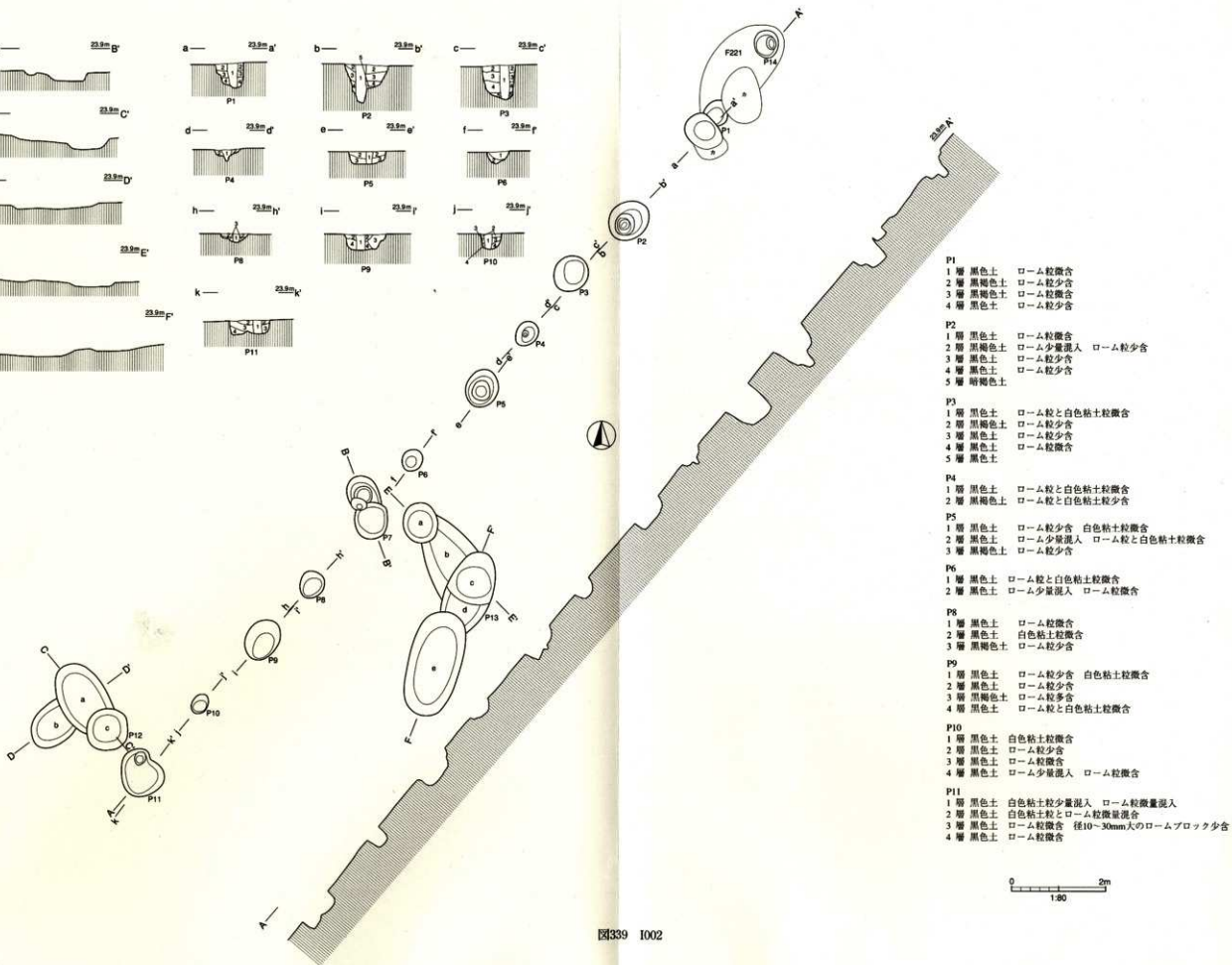
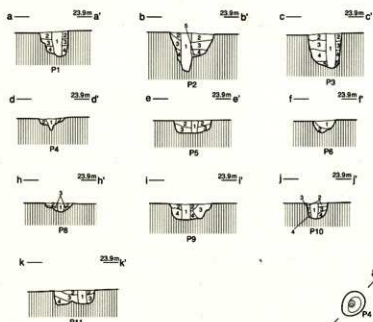
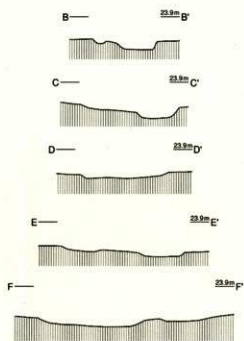


図338 I001



- P1**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
- P2**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒少含
  - 5層 暗褐色土
- P3**
- 1層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒少含
  - 4層 黒色土 ローム粒微含
  - 5層 黒色土
- P4**
- 1層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム粒と白色粘土粒少含
- P5**
- 1層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土粒微含
  - 2層 黒色土 ローム少量混入 ローム粒と白色粘土粒微含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含
- P6**
- 1層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒微含
  - 2層 黒色土 ローム少量混入 ローム粒微含
- P8**
- 1層 黒色土 ローム粒微含
  - 2層 黒色土 白色粘土粒微含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒少含
- P9**
- 1層 黒色土 ローム粒少含 白色粘土粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒多含
  - 4層 黒色土 ローム粒と白色粘土粒微含
- P10**
- 1層 黒色土 白色粘土粒微含
  - 2層 黒色土 ローム粒少含
  - 3層 黒色土 ローム粒微含
  - 4層 黒色土 ローム少量混入 ローム粒微含
- P11**
- 1層 黒色土 白色粘土粒少量混入 ローム粒微量混入
  - 2層 黒色土 白色粘土粒とローム粒微量混含
  - 3層 黒色土 ローム粒微含 径10~30mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒色土 ローム粒微含

表85 掘立柱建物跡一覧表

(単位:m)

遺構番号	間 敷		主軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)		備 考
	長軸	短軸					
B056a	2×4		N-63°-E		P1(1.16×0.84×0.44) P3(1.20×0.92×0.48) P5(1.24×1.00×0.40) P7(1.60×1.08×0.44) P9(0.96×0.72×0.52) P11(1.00×0.80×0.52)	P2(1.08×0.84×0.52) P4(1.04×0.80×0.40) P6(1.04×0.80×0.40) P8(1.00×0.84×0.60) P10(1.08×0.80×0.58) P12(1.04×1.00×0.46)	P2,4は白色粘土充填の圧痕 柱痕P1,2,4,8,9,12
	7.92	4.92					
B056b	2×3		N-29°-E		P23(0.80×0.72×0.48) P25(0.52×(0.44)×0.66) P27(0.92×0.68×0.36)	P24(1.28×0.96×0.52) P26(1.04×1.04×0.64) P28(0.92×1.08×0.60)	柱痕3基
	5.48	5.24					
B056c	2×3		N-24°-E		P13(1.00×0.88×0.40) P15(1.00×0.66×0.44) P18(1.68×0.92×0.40) P20(0.68×(0.48)×0.38) P22(0.68×(0.48)×0.38)	P14(0.80×0.76×0.40) P17(1.44×0.68×0.40) P19(0.96×0.80×0.48) P21(1.02×0.60×0.40) P26(0.92)×(0.92)×0.40)	柱痕P18~21
	6.32	4.52					
B056e					P33(0.88×0.68×0.20) P36(1.40×1.08×0.32) P40(1.12×(0.84)×0.11)	P34(1.08×0.96×0.16) P37(0.72×0.48×0.29)	柱痕P36
B057	2×3		N-50°-E		P1(0.80×0.60×0.36) P3(0.92×0.80×0.52) P5(0.86×0.84×0.69) P7(0.80×0.76×0.51) P9(0.89×0.79×0.59)	P2(0.80×0.80×0.36) P4(0.80×0.76×0.32) P6(0.81×0.68×0.17) P8(0.70×0.62×0.25)	柱痕P2,3,4,5,7,9 白色粘土
	5.77	1.59					
B058	2×2		N-78°-E		P1(1.28×1.04×0.56) P3(1.20×1.08×0.60) P4b(1.12×1.04×0.56) P6(1.16×(0.60)×0.72)	P2(1.00×0.92×0.76) P4a(1.16×1.08×0.68) P5(1.28×(0.60)×0.52) P7(1.12×1.04×0.36)	柱痕P1,2,3,4a,4b,6,7,8 柱面上層に白色粘土充填
	4.48	4.44					
B059	2×2		N-24°-E		P1(1.16×0.84×0.60) P3(1.20×1.08×0.56) P5(0.96×0.92×0.60)	P2(1.00×0.92×0.76) P4(0.84×0.72×0.44) P6(0.88×(0.80)×0.40)	柱痕P1,2,3,4,7,8 白色粘土
	4.08	3.98					
B060	2×3		N-57°-E		P1(0.91×0.83×0.09) P8(1.16×0.84×0.56) P14(0.84×0.74×0.41) P4(0.96×0.88×0.29) P6(0.76×0.72×0.41)	P7(1.12×1.04×0.36) P13(1.24×0.92×0.48) P10(0.95×0.88×0.33) P5(1.04×0.88×0.26) P11(0.80×0.68×0.29)	柱痕P5,6,9
	7.32	3.68					
B061a	2×2		N-58°-W		P1(0.72×0.72×0.32) P3(0.72×0.68×0.40) P5(1.00×0.96×0.48) P7(0.88×0.80×0.44)	P2(0.76×0.72×0.40) P4(0.72×0.64×0.40) P6(0.72×0.64×0.40) P8(0.80×0.68×0.32)	柱痕P1,3,5
	3.04	2.92					
B061b	2×3		N-76°-W		P9(0.80×0.64×0.24) P11(0.68×0.48×0.60) P14(0.84×0.48×0.28) P17(0.36×0.72×0.48) P8(0.80×0.68×0.32)	P10(0.80×0.80×0.36) P12(0.80×0.64×0.28) P15(1.00×0.84×0.28) P18(0.80×0.56×0.48)	柱痕P11
	6.12	6.00					
B061z					P16(0.88×0.76×0.29)	P19(0.46×0.42×0.10)	
B062a	3×3		N-6°-E		P1(1.00×0.84×0.36) P3(0.88×0.88×0.45) P5(0.92×0.80×0.23) P7(0.88×0.78×0.21) P9(1.08×1.00×0.47) P11(1.32×0.96×0.36) P12b(0.52×-×0.25)	P2(1.08×1.00×0.41) P4(1.20×1.12×0.20) P6(0.92×0.80×0.23) P8(0.92×0.92×0.32) P10(1.00×0.88×0.36) P12a(1.08×1.00×0.42) P13a(0.28×0.24×0.22)	柱痕P1,2,5,8,11~13
	7.48	6.96					
B062z					P21(0.88×0.80×0.42) P24(1.08×(0.88)×0.34) P26(0.72×0.64×(0.64))	P22(0.92×0.68×0.18) P25(2.28×1.04×0.42)	



選号番号	間 数		主軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)	備 考	
	長軸	短軸					
B063	2×3	N-56°-E	4.40	4.40	P1(1.12×1.08×0.80) P3(1.04×0.96×0.80) P5(1.00×0.92×0.68) P7(1.04×0.96×0.80) P9(1.08×1.04×0.76)	P2(0.92×0.92×0.80) P4(1.04×1.00×0.68) P6(1.16×1.04×0.88) P8(1.16×1.00×1.04) P10(1.40×1.24×0.56)	柱根P1,3,6,7
	6.40						
B064a	2×4	N-67°-W	8.56	5.52	P1(1.40×1.00×0.60) P3(1.44×1.12×0.60) P5(1.44×1.40×0.60) P7(1.60×1.00×0.72) P9(1.28×1.20×0.64) P11(1.28×1.04×0.60)	P2(1.40×0.92×0.64) P4(0.96×0.92×0.60) P6(1.32×1.00×0.68) P8(1.24×0.92×0.60) P10(1.28×1.20×0.64) P45(1.40×0.60×0.28)	2棟 (建替え) 柱根P4,9,11 P9は白色粘土充填
	8.56						
B064b	2×3	N-71°-W	8.04	5.04	P2(1.40×1.00×0.60) P12(0.92×0.80×0.64) P14(0.88×0.80×0.40) P6(1.28×1.04×0.64) P20a(0.96×0.86×0.88) P44(1.00×1.00×0.84) P28(0.76×0.68×0.32)	P3(1.44×1.16×0.56) P13(1.04×0.92×0.60) P15(1.00×0.88×0.40) P7(1.40×1.00×0.68) P20b(1.00×0.40×-) P27(1.40×0.40×0.52)	柱根P12,13,14,15
	8.04						
B064c	2×3	N-68°-W	6.52	4.40	P16(1.00×0.96×0.72) P18(0.60×0.38×0.12) P4(1.20×0.96×0.96) P20b(1.00×0.40×-) P22(1.36×0.92×0.76) P24(1.04×0.96×0.60)	P17(1.00×0.96×0.72) P44(1.00×1.00×0.96) P20a(0.96×0.88×0.76) P7(1.60×1.44×0.76) P23(0.88×0.84×0.23) P25(0.96×0.80×0.56)	柱根P7,19,20a,22,25
	6.52						
B064z					P31a(0.40×0.32×0.12) P32(0.32×0.30×0.15) P36(0.36×0.28×0.19) P43(0.46×0.43×0.23)	P31b(0.28×0.20×0.10) P34(0.48×0.36×0.11) P38(0.76×0.68×0.35)	柱根P43
B065a	2×6	N-67°-E	11.12	4.18	P1(1.04×0.32×0.12) P3(0.88×0.76×0.64) P5(1.12×0.88×0.52) P7(1.12×1.00×0.84) P9(1.08×1.04×0.40) P11(1.08×1.00×0.60) P13(0.96×0.96×0.56)	P2(0.96×0.84×0.44) P4(0.96×0.92×0.76) P6(0.92×0.72×0.48) P8(1.04×0.96×0.52) P10(1.08×1.04×0.40) P12(0.28×0.88×0.60) P14(1.12×1.12×0.76)	2×5 間の片面庇
	11.12						
B065z					P40(0.80×0.48×0.11) P44(0.40×0.88×0.33)		
B065b	3×4	N-12°-E	7.54	5.56	P23(1.08×0.81×0.49) P25(1.08×0.88×0.61) P27(0.92×0.84×0.56) P29(0.88×0.72×0.44) P31(0.80×0.72×0.44) P33(0.71×0.68×0.44) P35(0.88×0.72×0.51)	P24(1.08×0.96×0.44) P26(0.84×0.80×0.66) P28(0.72×0.64×0.28) P30(0.76×0.68×0.20) P32(0.80×0.64×0.26) P34(0.68×0.52×0.46) P36(1.16×0.84×0.58)	総柱式? 柱根P23,24,25,26,27,28,29,30, 31,32,33,34,35,36,37,45 P32柱根上層に白色粘土充填
	7.54						
B065c		N-70°-W	9.68		P37(1.00×0.84×0.42) P39(1.00×0.80×0.56) P17(0.76×0.68×0.20) P19(0.48×0.40×0.32) P21(0.92×0.56×0.24)	P38(0.88×0.84×0.44) P45(0.92×0.72×0.60) P18(0.60×0.48×0.52) P20(0.60×0.48×0.52) P22(0.76×0.60×0.28)	横列 B065aに伴うか? A~A' 3.34mm B~B' 4.16mm -B' 9.68mm
B066	2×2	N-39°-E	4.08	4.04	P1(1.00×0.56×0.76) P3(1.08×0.96×0.54) P5(1.12×0.96×0.72) P7(1.04×0.88×0.88)	P2(1.20×1.08×0.52) P4(1.12×1.00×0.96) P6(1.12×0.88×0.68) P8(1.04×1.00×0.76)	柱根P3,P4,5,7,8 B065並より古い
	4.08						
B067	1×2	N-36°-E	4.48	3.84	P1(0.60×0.56×0.24) P3(0.88×0.64×0.60) P5(0.64×0.48×0.52)	P2(0.72×0.60×0.22) P4(0.80×0.76×0.48) P6(0.76×0.68×0.48)	柱根P1,4,6
	4.48						
B068a	2×2	N-36°-E	3.92	3.84	P17(0.78×0.54×0.23) P19(0.74×0.64×0.26) P21(0.74×0.74×0.22) P11(0.75×0.53×0.46)	P18(0.88×0.41×0.49) P20(0.72×0.56×0.29) P4(0.40×1.05×0.23) P2(0.72×0.56×0.45)	柱根P1,4,6
	3.92						
B068b	2×2	N-63°-E	4.06	3.7	P2(0.72×0.56×0.45) P5(0.84×0.78×0.44) P7(0.76×0.76×0.46)	P4(0.40×1.05×0.23) P6(0.78×0.67×0.33) P8(0.76×0.76×0.24)	柱根P5
	4.06						

通稱番号	間 数		主軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)		備 考
	長軸	短軸	長軸	短軸			
B068z					P9(0.92×0.84×0.40) P16(0.27×0.72×0.51)	P10(0.81×0.75×0.61)	柱痕P10
B069	1×2	3.28	N-42-E		P1(1.12×0.88×0.48) P3(0.92×0.88×0.52) P5(1.08×1.06×0.52)	P2(0.92×0.88×0.56) P4(1.00×0.96×0.52) P6(1.20×0.96×0.52)	柱痕P6 A188住上重複
	3.28		3.12				
B070	1×1	4.08	1×1		P1(0.60×0.52×0.24) P3(0.60×0.48×0.36)	P2(0.68×0.48×0.24) P4(0.76×0.72×0.28)	
	4.08		4.08				
B071	2×3	5.52	2×3		P1(0.70×0.60×0.16) P3 欠番 P5(0.72×0.48×0.24) P7(0.64×0.46×0.12) P9(0.88×0.66×0.40)	P2(0.44×0.36×0.48) P4(0.72×0.60×0.24) P6(1.20×0.72×0.52) P8(0.88×0.62×0.52) P10(0.56×0.48×0.04)	
	5.52		5.52				
B072a	2×3	4.96	2×3		P1(0.76×0.72×0.28) P3(0.96×0.62×0.56) P5(1.00×0.52×0.60) P7(0.54×0.58×0.28) P9(0.82×0.80×0.40) P21(0.72×0.40×0.28)	P2(0.68)×0.64×0.16 P4(1.44×0.60×0.52) P6(0.88)×0.72×0.40 P8(0.80×0.62×0.20) P10(0.80×0.58×0.26)	柱痕P5,P7,P9
	4.96		4.96				
B072b	2×3	6.24	2×3		P11(0.84×0.80×0.56) P13(0.64×0.56×0.36) P15(1.28×1.00×0.50) P17a(0.72×0.64×0.64) P18(0.88×0.68×0.48) P20(0.80×0.78×0.52)	P12(1.00×0.70×0.60) P14(0.86)×0.80×0.48 P16(0.72×0.68×0.54) P17b(0.68)×0.56×0.40 P19(0.84×0.84×0.48)	柱痕P11,P12,P16,P17a,P18
	6.24		6.24				
B073a	2×3	5.78	2×3		P1(0.92×0.91×0.54) P3(1.06×0.87×0.49) P5(0.81×0.75×0.32) P7(0.88×0.76×0.35) P9(0.80×0.59×0.24)	P2(0.86×0.80×0.30) P4(0.83×0.81×0.41) P6(0.99×0.96×0.34) P8(0.92×0.92×0.48) P10(0.75×0.59×0.23)	柱痕P1,P2,P3,P4,P5,P9
	5.78		5.78				
B074a	2×4	3.48	2×4		P1(0.96×0.90×0.86) P3(1.04×0.96×0.80) P5(0.96×0.76×0.80) P7(0.88×0.84×0.68) P9(1.00×0.92×0.72) P11(0.92)×(0.72)×0.76)	P2(1.08×0.84×0.80) P4(1.24×1.00×0.74) P6(0.88)×0.80×0.76 P8(1.08×0.96×0.98) P10(0.88)×0.68×0.72 P12(1.12×0.80×0.76)	柱痕P1,P3,P4,P5,P6,P7,P8 P11P12
	3.48		3.48				
B074b	1×2	3.48	1×2		P13(0.80×0.72×0.40) P15(0.84×0.72×0.40) P25(-×-×-)	P14(0.80×0.72×0.40) P16(0.96×0.56×0.24) P24(0.44)×(0.36)×-	柱痕P15
	3.48		3.48				
B074z					P18(0.56×0.56×0.24) P22(0.72×0.64×0.42)	P19(0.52×0.52×0.41) P23(0.64×0.60×0.36)	柱痕 P18,P22
B075	2×3	4.24	N-43°-W		P1(0.64×0.54×0.38) P3(0.68×0.56×0.16) P5(0.52×0.48×0.28) P7(0.80×0.64×0.28) P9(0.44×0.36×0.08)	P2(0.52×0.40×0.28) P4(0.52×0.52×0.12) P6 欠番 P8 欠番	柱痕P1,P3,P7
	4.24		3.20				
B076a	2×3	7.10	N-48°-E		P1(-×-×-) P3(0.88×0.88×0.66) P7(0.88×0.62×0.60) P11(0.80×0.76×0.50) P14(1.20×1.00×0.56)	P2(1.04×0.80×0.44) P5(0.88×0.80×0.56) P9(0.88×0.76×0.56) P13(0.98×0.82×0.56)	柱痕P5,P9,P13
	7.10		5.00				
B076b	2×3	6.34	N-54°-E		P1(-×-×-) P3(0.88×0.88×0.66) P6(1.08×0.68×0.44) P9(-×-×-)	P2(1.04×0.80×0.44) P4(0.80×0.68×0.54) P8(0.80×0.76×0.36) P10(0.81×0.66×0.40)	
	6.34		3.84				
B077	2×3	6.36			P1(0.88×0.84×0.48) P3(0.96×0.80×0.60) P5(0.72×0.64×0.68) P7(0.56×0.56×0.14) P9(0.84×0.78×0.44)	P2(0.88×0.80×0.32) P4(0.88×0.64×0.68) P6(0.72×0.68×0.56) P8(0.78×0.68×0.56) P10(0.81×0.66×0.40)	柱痕P1,P2,P3,P4,P6,P8,P9,P10
	6.36		4.16				

遺構番号	間 数		主軸方位	柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)		備 考
	長軸	短軸				
B078	1×2	N-45°-E	P1(0.96×0.80×0.44) P3(1.00×0.78×0.32) P5(0.92×0.84×0.48)	P2(0.86×0.84×0.56) P4(1.08×1.08×0.48) P6(0.88×0.64×0.32)	柱痕P2,P4,P5,P6	
	2.52	2.48				
B079			P1(0.52×0.44×0.20) P3(0.52×0.44×0.48)	P2(0.72×0.64×0.62)	柱痕P2,P3	
B080	2×3	N-58°-E	P1(1.00×0.78×0.56) P3(0.92×0.88×0.56) P5(0.84×0.80×0.52) P7(0.86×0.48×0.56) P9(0.82×0.76×0.50)	P2(1.64×0.84×0.72) P4(0.80×0.72×0.56) P6(1.06×0.92×0.54) P8(0.88×0.80×0.52) P10(1.00×0.88×0.48)	柱痕P1,P7,P8,P9,P10	
	5.82	3.64				
B081	2×1	N-32°-E	P1(0.52×0.48×0.56) P3(0.52×0.36×0.40) P5(0.56×0.56×0.48)	P2(0.50×0.44×0.62) P4(0.40×0.40×0.52) P6(0.52×0.44×0.44)	柱痕P1,P2,P3,P4,P5,P6	
	2.62	2.52				
B082	2×1	N-28°-E	P1(0.72×0.72×0.60) P3(0.62×0.62×0.60) P5(0.68×0.60×0.60)	P2(0.68×0.68×0.52) P4(0.60×0.60×0.44) P6(0.76×0.68×0.62)	柱痕P1,P3,P4,P6	
	3.08	2.56				
B083a	1×2	N-40°-E	P1a(0.84×0.82×0.48) P3(0.80×0.48×0.60) P10(0.80×0.72×0.40)	P2(0.94×0.84×0.80) P4(0.96×0.72×0.88) P10(0.80×0.48×0.32)	柱痕P1a,P2,P3,P4	
	3.18	3.16				
B083b	1×2	N-42°-E	P1b(0.84×0.82×0.48) P5(0.76×0.52×0.40) P13(0.88×0.74×0.60)	P6(0.84×0.68×0.52) P12(0.80×0.80×0.66)	柱痕P1b,P6	
	2.72	2.48				
B084	2×3	N-39°-E	P1(0.76×0.72×0.56) P3(0.84×0.72×0.60) P5(0.64×0.60×0.44) P7(0.72×0.70×0.44) P9(0.76×0.48×0.26) P11(0.52×0.44×0.22)	P2(0.76×0.60×0.40) P4(0.68×0.68×0.52) P6(0.70×0.68×0.46) P8(0.70×0.74×0.42) P10 欠番 P12(0.80×0.68×0.36)	柱痕P1,P2,P3,P4,P5,P6,P7,P9, P11,P12 P1.4白色粘土	
	5.98	4.00				
B085	1×2	N-34°-W	P1(0.68×0.40×0.56) P3(0.76×0.68×0.52)	P2(0.92×0.80×0.60) P4(0.58×0.48×0.28)	柱痕P2,3,4 P2白色粘土	
	3.44	3.001				
B086a	3×4	N-32°-E	P37((1.12)×0.86×0.56) P11(1.20×1.04×0.56) P5a(0.76×0.76×0.48) P23(0.74×0.50×0.54) P25(0.28)×0.76×0.44) P27(0.88×0.78×0.54) P29(0.90×0.64×0.66)	P9(0.88×0.60×0.60) P12a(0.84×0.80×0.48) P6a(0.80×0.60×0.48) P24(0.80×0.76×0.56) P26(0.98×0.84×0.52) P28(0.88×0.88×0.54) P30(0.80×0.60×0.56)	柱痕P11,12,6,23,24,37	
	7.20	4.20				
B086b	2×3	N-29°-E	P13(1.04×1.02×0.60) P15(1.20×1.08×0.44) P17(1.00×0.88×0.50) P19(1.06×0.80×0.66) P21(1.08×0.72×0.64)	P14(1.10×1.08×0.50) P16(1.08×1.04×0.60) P18(1.16×0.80×0.52) P20(0.96×0.80×0.44) P33(1.04×0.78×0.22)		
	5.84	4.88				
B086c	3×4	N-35°-E	P10(1.00×0.68×0.52) P34(0.20)×0.52×0.49) P5b(0.32)×0.60×0.48) P36(0.72)×0.56×0.38)	P9(0.88×0.60×0.60) P12b((0.28)×0.56×-) P6b(1.00×(0.68)×0.52)	柱痕 P37,14,26,27,20,21,30,兼用か	
	6.72	4.24				
B086d	4×-	N-57°-E	P38(0.44×0.41×0.52) P2(0.44×0.40×0.48) P4(0.76×0.56×0.32)	P1(0.40×0.40×0.12) P3(0.40×0.36×0.32)	溝列7.40m 柱痕P1,2,38	
	7.40					
B086e			P8(0.37×0.32×0.24) P35(0.71×0.44×0.46)	P32(0.78×0.77×0.48) P39(0.46×0.39×-)	柱痕P32,35	
B087	2×3	N-67°-E	P1(1.08×0.96×0.48) P3(1.12×0.88×0.66) P5(1.00×0.96×0.62) P7(0.90×0.84×0.64) P9(1.10×1.00×0.62)	P2(1.08×1.00×0.56) P4(1.26×1.04×0.60) P6(0.96×0.96×0.60) P8(1.00×0.86×0.56) P10(0.96×0.92×0.54)	P4.7を除く柱穴 P2,3,5,6,8に白色粘土	
	7.16	4.76				

通稱番号	間 数		主軸方位	柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)		備 考
	長軸	短軸				
B063	2×3	N-56°-E	P1(1.12×1.08×0.80) P3(1.04×0.96×0.80) P5(1.00×0.92×0.68) P7(1.04×0.96×0.80) P9(1.08×1.04×0.76)	P2(0.92×0.92×0.80) P4(1.04×1.00×0.68) P6(1.16×1.04×0.88) P8(1.16×1.00×1.04) P10(1.40×1.24×0.56)	柱径P1,3,6,7	
	6.40	4.40				
B064a	2×4	N-67°-W	P1(1.40×1.00×0.60) P3(1.44×1.12×0.60) P5(1.44×1.40×0.60) P7(1.60×1.00×0.72) P9(1.28×1.20×0.64) P11(1.28×1.04×0.60)	P2(1.40×0.92×0.64) P4(0.96×0.92×0.60) P6(1.32×1.00×0.68) P8(1.24×0.92×0.60) P10(1.28×1.20×0.64) P45(1.40×0.60×0.28)	2棟 (詰替え) 柱径P4,9,11 P9は白色粘土充填	
	8.56	5.52				
B064b	2×3	N-71°-W	P2(1.40×1.00×0.60) P12(0.92×0.80×0.64) P14(0.88×0.80×0.40) P6(1.28×1.04×0.64) P20a(0.96×0.86×0.88) P44(1.00×1.00×0.84) P28(0.76×0.68×0.32)	P3(1.44×1.16×0.56) P13(1.04×0.92×0.60) P15(1.00×0.88×0.40) P7(1.40×1.00×0.68) P20b(1.00×0.40×-) ) P27(1.40×0.40×0.52)	柱径P12,13,14,15	
	8.04	5.04				
B064c	2×3	N-68°-W	P16(1.00×0.96×0.72) P18(0.60×0.28×0.12) P41(1.20×0.96×0.96) P20b(1.00×0.40×-) ) P22(1.36×0.92×0.76) P24(1.04×0.96×0.60)	P17(1.00×0.96×0.72) P44(1.00×1.00×0.96) P20a(0.96×0.88×0.76) P7(1.60×1.44×0.76) P23(0.88×0.84×0.23) P25(0.96×0.80×0.56)	柱径P7,19,20a,22,25	
	6.52	4.40				
B064z			P31a(0.40×0.32×0.12) P32(0.32×0.30×0.15) P36(0.36×0.28×0.19) P43(0.46×0.43×0.23)	P31b(0.28×0.20×0.10) P34(0.48×0.36×0.11) P38(0.76×0.68×0.35)	柱径P43	
B065a	2×6	N-67°-E	P1(1.04×0.32×0.12) P3(0.88×0.76×0.64) P5(1.12×0.88×0.52) P7(1.12×1.00×0.84) P9(1.08×1.04×0.40) P11(1.08×1.00×0.60) P13(0.96×0.96×0.56)	P2(0.96×0.84×0.44) P4(0.96×0.92×0.76) P6(0.92×0.72×0.48) P8(1.04×0.96×0.52) P10(1.08×1.04×0.40) P12(0.28×0.88×0.60) P14(1.12×1.12×0.76)	2×5 間の片面庇	
	11.12	4.18				
B065z			P40(0.80×0.48×0.11) P44(0.40×0.88×0.33)			
B065b	3×4	N-12°-E	P23(1.08×0.81×0.49) P25(1.08×0.88×0.61) P27(0.92×0.84×0.56) P29(0.88×0.72×0.44) P31(0.80×0.72×0.44) P33(0.71×0.68×0.44) P35(0.88×0.72×0.51)	P24(1.08×0.96×0.44) P26(0.84×0.80×0.66) P28(0.72×(0.64)×0.28) P30(0.76×0.68×0.20) P32(0.80×0.64×0.26) P34(0.68×0.52×0.46) P36(1.16×0.84×0.58)	総柱式? 柱径P23,24,25,26,27,28,29,30, 31,32,33,34,35,36,37,45 P32柱径上層に白色粘土充填	
	7.54	5.56				
B065c	—	N-70°-W	P37(1.00×0.84×0.42) P39(1.00×0.80×0.56) P17(0.76×0.68×0.20) P19(0.48×0.40×0.32) P21(0.92×0.56×0.24)	P38(0.88×0.84×0.44) P45(0.92×0.72×0.60) P18(0.60×0.48×0.52) P20(0.60×0.48×0.52) P22(0.76×0.60×0.28)	欄別 B065aに併つか? A-A' 3.34mm B-B' 4.16mm 一列 9.68mm	
	9.68	—				
B066	2×2	N-39°-E	P1(1.00×0.56×0.76) P3(1.08×0.96×0.54) P5(1.12×0.96×0.72) P7(1.04×0.88×0.88)	P2(1.20×1.08×0.52) P4(1.12×1.00×0.96) P6(1.12×0.88×0.68) P8(1.04×1.00×0.76)	柱径P3,P4,5,7,8 B065aより古い	
	4.08	4.04				
B067	1×2	N-36°-E	P1(0.60×0.56×0.24) P3(0.88×0.64×0.60) P5(0.64×0.48×0.52)	P2(0.72×0.60×0.22) P4(0.80×0.76×0.48) P6(0.76×0.68×0.48)	柱径P1,4,6	
	4.48	3.84				
B068a	2×2	N-36°-E	P17(0.78×0.54×0.23) P19(0.74×0.64×0.26) P21(0.74×0.74×0.22) P11(0.75×0.53×0.46)	P18(0.88×0.41×0.49) P20(0.72×0.56×0.29) P4(0.40×1.05×0.23) P2(0.72×0.56×0.45)		
	3.92	3.84				
B068b	2×2	N-63°-E	P2(0.72×0.56×0.45) P5(0.84×0.78×0.44) P7(0.76×0.76×0.46)	P4(0.40×1.05×0.23) P6(0.78×0.67×0.33) P8(0.76×0.76×0.24)	柱径P5	
	4.06	3.7				

選番番号	間 数		土軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)		備 考
	長軸	短軸					
B098b	1×2	N-65°-W	P16(0.92×0.68×0.60)	P2(1.20×0.84×0.52)	柱痕P2,13,11a,15		
	2.72		2.32	P13(0.84×0.60×0.16)		P10(0.76×0.72×0.76)	P15(0.60×0.48×0.48)
B098c	1×2	N-65°-E	P7(1.08×(0.64)×0.10)	P8(0.80×0.76×0.60)	柱痕P7~9,11,B12		
	2.72		2.32	P9(1.00×0.92×0.60)		P17(1.52×0.84×0.52)	P12(0.80×0.52×0.60)
B099	2×3	N-64°-W	P1(1.04×0.84×0.84)	P7(1.24×(0.60)×0.76)	柱痕P2~6		
	6.48		4.40	P3(1.00×0.84×0.68)		P4(0.98×0.84×0.72)	P6(0.088×0.80×0.70)
B100a	2×2	N-25°-E	P5(0.96×0.80×0.72)	P9(-X-X-X)	柱痕P3~5,8,10		
	3.32		3.12	P1(0.92×0.92×1.08)		P3(1.12×1.04×0.88)	P5(0.88×0.80×0.60)
B100b	1×2	N-66°-W	P4(1.20×1.12×1.04)	P6(0.92×0.84×0.88)	柱痕P11~13,P15,16		
	4.48		3.32	P9(1.08×0.52×1.04)		P10(0.72×0.68×0.52)	
B100z			P1(0.96×0.84×0.56)	P12(0.92×0.80×0.88)	柱痕P11~13,P15,16		
			P13(1.16×0.80×0.56)	P14(0.88×0.76×0.60)		P16(0.84×0.56×0.64)	
B101a	2×3	N-55°-W	P2(0.80×(0.69)×0.20)	P7(0.80×0.76×0.60)	柱痕P17		
	5.60		5.44	P17(0.64×0.56×0.08)			
B101z			P1(1.12×0.92×0.68)	P2(1.28×1.00×0.56)	全柱穴において柱痕検出 各柱痕覆土、白色粘土充填 P11~P15は8.16mmの剛列 柱痕覆土から017Aに伴うと 判明		
			P3(1.24×0.96×0.52)	P4(1.20×0.96×0.60)		P6(1.20×0.96×0.60)	
B102a	2×2	N-60°-W	P7(0.91×0.71×0.83)	P16(0.85×0.78×0.43)	裾柱式 柱痕1~9		
	3.76		3.72	P8(1.04×0.88×0.52)		P9(0.96×0.88×0.70)	P11(1.08×1.00×0.72)
B102z			P10(0.96×0.76×0.76)	P12(0.80×0.80×0.78)	新旧 P3→P10 新旧 P11→P3		
			P13(1.04×0.76×0.76)	P14(0.96×0.88×0.80)			
B103	2×3	N-10°-E	P7(0.84×0.72×0.28)	P2(0.72×0.68×0.24)	柱痕P1~8		
	6.12		4.36	P9(0.68×0.60×0.36)		P4(0.60×0.56×0.44)	P6(0.84×0.80×0.44)
B104	2×4	N-36°-E	P8(0.84×0.60×0.36)	P8(0.84×0.60×0.24)	柱痕P1,4,8,10,11		
	7.85		3.66	P10(0.88×0.76×0.87)		P11(1.31×0.68×0.99)	
B105a	2×2	N-48°-W	P1(1.16×1.00×0.38)	P2(1.00×1.00×0.36)	柱痕P1,2,4,6,8,9		
	3.92		3.48	P3(1.00×0.96×0.36)		P4(1.08×1.00×0.40)	P6(0.56×0.48×0.30)
B105z			P5(1.28×1.00×0.28)	P8(1.12×1.04×0.44)	P10→1		
			P7(1.04×0.88×0.52)	P9(1.08×0.80×0.48)		P10(1.00×0.88×0.44)	
			P1(0.80×0.76×0.28)	P2(0.84×0.80×0.32)			
			P3(0.84×0.80×0.28)	P4(1.24×0.96×0.36)			
			P5(0.84×(0.64)×0.20)	P6(1.00×0.84×0.40)			
			P7(0.76×(0.24)×0.16)	P8(0.84×0.84×0.28)			
			P9(0.96×0.88×0.24)	P10(1.00×0.84×0.28)			
			P11(0.88×0.80×0.44)	P12 欠番			
			P1(0.68×0.60×0.48)	P2(0.68×0.40)×0.20			
			P3(1.00×0.80×0.28)	P4(0.88×0.64×0.32)			
			P5(0.80×0.68×0.28)	P6(0.56×0.48×0.30)			
			P7(0.84×0.68×0.44)	P8(0.88×0.64×0.40)			
			P9(0.48×0.44×0.44)				
			P10(0.72×0.72×0.56)				

造橋番号	間 敷		主軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)	備 考	
	長軸	短軸	短軸	長軸			
B106a	2×3	N-36°-E	6.52	4.56	P1(0.84×0.80×0.60) P3(1.00×0.88×0.56) P5(1.12×0.96×0.52) P7(0.76×0.68×0.56) P9(0.88×0.80×0.48)	P2(0.96×0.92×0.68) P4(1.00×0.86×0.60) P6(1.28×0.68×0.60) P8(1.24×0.80×0.28) P10(0.84×0.68×0.44)	柱穴P2 白色粘土
	6.52				4.56		
B106b	2×3	N-35°-E	6.40	4.80	P11(1.24×1.00×0.52) P13(1.04×0.92×0.40) P15(1.20×0.80×0.56) P17(1.48×1.00×0.72) P19(1.12×1.04×0.60)	P12(1.20×1.08×0.56) P14(1.16×1.08×0.72) P16(1.00×0.84×0.60) P18(1.12×1.08×0.72) P20(1.20×0.96×0.60)	柱穴P13~16,18,20 白色粘土
	6.40				4.80		
B106c					P21(0.64×0.48×0.32) P22(0.44×0.44×0.44)		
B107a	2×3	N36°-E	5.80	3.80	P1(0.80×(0.68)×0.60) P3(1.24×0.84×0.68) P5(0.88×0.80×0.72) P7(0.84×0.68×0.44) P9(1.08×(0.48)×0.60)	P2(1.00×0.84×0.80) P4(1.28×1.20×0.78) P6(1.36×0.96×0.88) P8(1.00×0.88×0.72) P10(0.84×0.80×0.72)	柱穴P1~8
	5.80				3.80		
B107z					P11(1.12×1.04×0.64) P15(0.93×0.86×0.76)	総柱式 柱穴P11	
B108	2×4	N-14°-E	9.04	4.12	P1(1.00×0.92×0.80) P3(1.08×0.92×0.60) P5(0.88×0.80×0.48) P7(1.24×1.00×0.68) P9b(0.84×0.72×0.55) P10(1.00×0.92×0.60) P12(0.92×0.92×0.56) P14(0.60×0.48×0.36)	P2(1.60×0.76×0.76) P4(1.80×1.32×0.64) P6(1.40×0.60×0.60) P8a(1.12×0.88×0.48) P9(1.20×1.00×0.48) P11(0.92×0.80×0.60) P13(0.96×0.80×0.40) P15(0.92×0.80×0.48)	柱穴P1,3,7,8a,8b,12,13,14 1×3間の重複か? 一部柱穴に白色粘土
	9.04				4.12		
B109	2×2	-	-	2.80	P1(1.00×0.88×0.40) P3(1.00×0.88×0.40)	P2((0.80)×0.80×0.60) P4(1.00×(0.60)×0.40)	柱穴P1,3,7,8a,8b,12,13,14 2×3間の重複か?
	-				2.80		
B110a	3×3	N-63°-E	5.40	5.28	P1(0.76×0.56×0.48) P3(0.76×0.84×0.32) P5(0.72×0.72×0.32) P7(0.92×(0.88)×0.52) P9(1.12×0.92×0.48) P11(0.48)×0.48×0.40)	P2(0.72×0.48×0.32) P4(0.68×0.60×0.60) P6(0.80×(0.52)×0.40) P8(0.80×0.68×0.40) P10(1.28×0.96×0.60) P12(0.68×0.64×0.44)	柱穴P1,2,12
	5.40				5.28		
B110b	2×3	N-36°-E	6.01	3.52	P14(0.88×0.76×0.48) P16(1.16×0.76×0.44) P18(1.04×0.92×0.60) P20(0.96×0.80×0.58) P22(1.36×0.96×0.60)	P15(1.08×0.96×0.52) P17(0.84×0.72×0.52) P19(0.92×0.76×0.64) P21(0.68)×0.84×0.45) P23(0.64×(0.20)×0.46)	柱穴P15,16,17,19
	6.01				3.52		
B110z					P13(0.76×0.48×0.28) P24((0.68)×0.68×0.20)		
B111	1×2	N-39°-W	3.14	3.36	P1(0.76×0.56×0.52) P3(0.60×0.60×0.36) P5(0.84×0.68×0.28)	P2(0.76×0.72×0.40) P4(0.72×0.56×0.52) P6(0.80×0.64×0.36)	柱穴金柱穴
	3.14				3.36		
B112	2×3	N-61°-W	6.34	4.26	P1(1.08×0.72×0.72) P3(0.96×0.76×0.64) P5(0.92×0.72×0.64) P7(0.84×0.60×0.72) P9(1.20×0.76×0.88)	P2(0.92×0.80×0.64) P4(1.24×0.76×0.64) P6(1.04×0.68×0.60) P8(1.08×0.72×0.60) P10(1.04×0.80×0.68)	柱穴金柱穴
	6.34				4.26		
B113	2×2	N-30°-E	5.24	3.30	P1(0.56×0.48×0.24) P3((0.52)×0.36×0.16) P5(0.40×0.32×0.14) P7(0.64×0.44×0.19)	P2((0.40)×0.32×0.16) P4(0.44×0.44×0.26) P6(0.76×0.72×-) P8(0.64×0.48×0.32)	柱穴P1~4,7
	5.24				3.30		

通稱番号	間 数		上軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)		備 考
	長軸	短軸	短軸	長軸			
B114	2×3	5.48	N-76°-E	2.52	P1(0.60×0.56×0.88) P3(0.56×0.48×0.76) P5(0.52×0.48×0.56) P7(0.64×0.44×0.19) P9(0.60×0.48×0.86)	P2 欠番 P4(0.48×0.44×0.26) P6(0.76×0.72×-) ) P8(0.56×0.52×0.60) P10(0.56×0.52×0.32)	柱痕P7,8を除く柱穴
	1×2				N-2°-E	P1(0.40×0.36×0.08) P3(0.44×0.36×0.20) P5 欠番	
B115	1×2	2.44	N-34°-E	2.84	P1(1.08×0.84×0.96) P3(0.90×0.84×0.60) P5(1.02×0.87×0.80)	P2(0.94×0.93×0.44) P4(1.00×0.92×0.80) P6(1.22×1.16×1.04)	柱痕P2,6
	3.24				2.84	P1(1.04×0.84×0.44) P3(1.04×0.88×0.44) P5(1.00×0.90×0.68) P7(1.00×0.96×0.56) P9(0.84×0.82×0.48)	
B116	1×2	3.24	N-34°-E	2.84	P1(1.08×0.84×0.96) P3(0.90×0.84×0.60) P5(1.02×0.87×0.80)	P2(0.94×0.93×0.44) P4(1.00×0.92×0.80) P6(1.22×1.16×1.04)	柱痕P2,6
	3.24				2.84	P1(1.04×0.84×0.44) P3(1.04×0.88×0.44) P5(1.00×0.90×0.68) P7(1.00×0.96×0.56) P9(0.84×0.82×0.48)	
B117	2×3	5.60	N-34°-E	3.84	P1(1.04×0.84×0.44) P3(1.04×0.88×0.44) P5(1.00×0.90×0.68) P7(1.00×0.96×0.56) P9(0.84×0.82×0.48)	P2(1.00×0.92×0.46) P4(0.96×0.92×0.48) P6(0.92×0.84×0.64) P8(0.92×0.84×0.64) P10(0.92×0.78×0.59)	柱痕P1,3~5,7,9,10
	1×2				N-36°-E	P1(0.96×0.90×0.32) P3(1.00×0.84×0.32) P5(0.92×0.90×0.36) P7(0.96×0.92×0.36) P9(0.96×0.86×0.34) P11(0.62×0.46×0.10) P13(0.46×0.44×0.12)	
B118a,b	2×3	6.72	N-36°-E	3.52	P1(1.07×1.00×0.26) P3(0.84×0.76×0.28) P5(1.12×0.96×0.44) P7(1.24×1.00×0.36) P9(0.80×0.60×0.48) P11(1.00×0.84×0.74)	P2(0.72×0.68×0.32) P4(0.80×0.76×0.30) P6(0.44×0.44×0.12) P8(1.08×1.04×0.24) P10(1.04×0.72×0.52)	柱痕P1,2,3,4,5,6,7,9,10,11,13
	2×2				N-54°-W	P1(1.07×1.00×0.26) P3(0.84×0.76×0.28) P5(1.12×0.96×0.44) P7(1.24×1.00×0.36) P9(0.80×0.60×0.48) P11(1.00×0.84×0.74)	
B119	2×3	6.12	N-34°-E	4.24	P1(1.28×1.20×0.98) P3(1.08×1.00×0.88) P5(1.16×1.00×0.88) P7(1.04×0.96×0.84) P9(1.28×1.16×0.86)	P2(1.16×1.00×0.92) P4(0.96×1.00×0.92) P6(1.08×1.04×0.84) P8(1.00×0.96×0.80) P10(1.08×1.00×0.96)	柱痕P1,3,5,6,7,9,10
	2×3				N-52°-E	P1(0.82×0.80×0.60) P3(0.80×0.76×0.60) P5(1.00×0.90×0.36) P7(1.28×1.08×0.56) P9(0.76×0.72×0.56)	
B120	2×3	6.80	N-52°-E	4.40	P1(0.82×0.80×0.60) P3(0.80×0.76×0.60) P5(1.00×0.90×0.36) P7(1.28×1.08×0.56) P9(0.76×0.72×0.56)	P2(0.80×0.68×0.48) P4(0.96×0.92×0.48) P6(1.19×0.96×0.76) P8(0.88×0.84×0.52) P10(0.76×0.80×0.52)	柱痕P7,9
	2×3				N-56°-E	P1(0.76×0.60×0.32) P3(0.88×0.80×0.60) P5(0.92×0.76×0.28) P7(0.92×0.76×0.60) P9(0.76×0.92×0.48)	
B121	2×3	5.72	N-56°-E	3.44	P1(0.76×0.60×0.32) P3(0.88×0.80×0.60) P5(0.92×0.76×0.28) P7(0.92×0.76×0.60) P9(0.76×0.92×0.48)	P2(0.88×0.76×0.32) P4(0.92×0.72×0.40) P6(0.84×0.80×0.48) P8(0.76×0.68×0.44) P10(0.76×0.64×0.28)	柱痕P1,2,3,5,6,8,10
	2×3				N-72°-E	P1(1.12×0.84×0.40) P3(0.84×0.80×0.36) P5(1.00×0.84×0.36) P7(0.84×0.72×0.36)	
B122	2×3	6.20	N-72°-E	4.04	P1(1.12×0.84×0.40) P3(0.84×0.80×0.36) P5(1.00×0.84×0.36) P7(0.84×0.72×0.36)	P2(0.92×0.80×0.40) P4(0.92×0.88×0.40) P6(0.92×0.84×0.40) P10(0.96×0.76×0.31)	柱痕P1,3,5,6,8,10
	2×3				N-74°-W	P1(0.86×0.80×0.64) P3(0.68×0.64×0.60) P5(0.96×0.94×0.52) P7(0.84×0.84×0.52) P9(0.80×0.76×0.38) P11(0.60×0.58×0.32) P13(0.68×0.64×0.44)	
B123	2×3	6.44	N-74°-W	4.04	P1(0.86×0.80×0.64) P3(0.68×0.64×0.60) P5(0.96×0.94×0.52) P7(0.84×0.84×0.52) P9(0.80×0.76×0.38) P11(0.60×0.58×0.32) P13(0.68×0.64×0.44)	P2(1.10×0.88×0.64) P4(0.82×0.76×0.38) P6(1.00×0.88×0.60) P8(0.92×0.84×0.58) P10(0.84×0.76×0.52) P12(0.64×0.62×0.44) P14(0.78×0.72×0.28)	柱痕P2,9,10を除く
	2×3				N-74°-W	P1(0.86×0.80×0.64) P3(0.68×0.64×0.60) P5(0.96×0.94×0.52) P7(0.84×0.84×0.52) P9(0.80×0.76×0.38) P11(0.60×0.58×0.32) P13(0.68×0.64×0.44)	
B124	2×3	6.44	N-74°-W	4.04	P1(0.86×0.80×0.64) P3(0.68×0.64×0.60) P5(0.96×0.94×0.52) P7(0.84×0.84×0.52) P9(0.80×0.76×0.38) P11(0.60×0.58×0.32) P13(0.68×0.64×0.44)	P2(1.10×0.88×0.64) P4(0.82×0.76×0.38) P6(1.00×0.88×0.60) P8(0.92×0.84×0.58) P10(0.84×0.76×0.52) P12(0.64×0.62×0.44) P14(0.78×0.72×0.28)	柱痕P2,9,10を除く
	2×3				N-74°-W	P1(0.86×0.80×0.64) P3(0.68×0.64×0.60) P5(0.96×0.94×0.52) P7(0.84×0.84×0.52) P9(0.80×0.76×0.38) P11(0.60×0.58×0.32) P13(0.68×0.64×0.44)	

### 第3項 土 坑

上谷遺跡Ⅳ地区では奈良・平安時代の土坑を36基を検出している。台地平坦面に各時代の遺構が集中して検出されているため、その分布傾向を明確にすることはできなかった。現状では散在して検出していると言える。また、用途は捉えることは殆どできなかった。Ⅱ地区に比して土坑の遺構数は増加しているが、Ⅲ地区と同程度であった。

なお、掘立柱建物跡が集中して検出された本地区では、柱穴ではあるがその配列上において建物跡に伴うことができなかった遺構や、判然としない遺構を土坑として扱っていることがある。

以下に、すべてを報告することはできないが、奈良・平安時代の土坑を報告することとした。

#### D194

検出地区 L6-24gにて検出した。

遺 構 長軸0.88m×短軸0.88m×深さ0.41m、方位はN-14°-Eを測る。平面形は略円形である。坑底は平坦で、壁は坑底からやや急に立上がっている。覆土は、黒色土と黒褐色土を主体として、4層に分層できた。

遺 物 出土遺物は無かった。

所 見 時代・時期を決定する出土遺物はないが、覆土の状況から当該時期の所産とした。

#### D197

検出地区 L5-91gにて検出した。

遺 構 長軸0.66m×短軸0.66m×深さ0.06m、方位はN-64°-Wを測る。平面形は楕円形である。ソフトロームを僅かに掘り込んだだけの遺構であり、覆土は炭化粒などを包含する、黒褐色土の1層のみの把握であった。

遺 物 土師器甕片と黒曜石片が出土した。

所 見 凹み状の土坑であるが、覆土や土師器片の出土から奈良・平安時代の所産とした。

#### D198

検出地区 L6-15gにて検出した。

遺 構 長軸1.32m×短軸0.76m×深さ0.60m、方位はN-44°-Wを測る。平面形は長楕円形である。坑底は若干の凹凸があり、壁の立上がりは略垂直となっている。覆土は、ロームを包含する黒色土主体が主体であった。

遺 物 土師器及び縄文早期・条痕文の小片が僅かに出土している。

所 見 覆土から、2度にわたり使用された土坑と捉えられた。第1次の遺構廃絶後、5～8層が自然堆積し、再び掘込まれ1～4層の堆積であった。土師器小片の出土から、奈良・平安時代の所産と捉えた。

#### D200

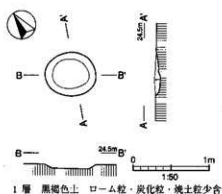
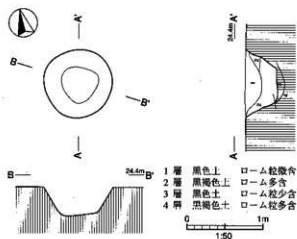
検出地区 L6-15gにて検出した。

遺 構 長軸1.54m×短軸1.28m×深さ0.16m、方位はN-1°-Wを測る。平面形は円形である。覆土は、ロームを包含する黒色土を主体としていた。

遺 物 須恵器・壺頸部小片が出土している。

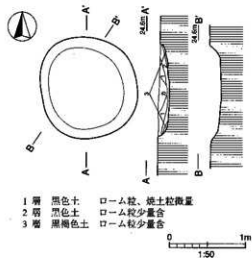
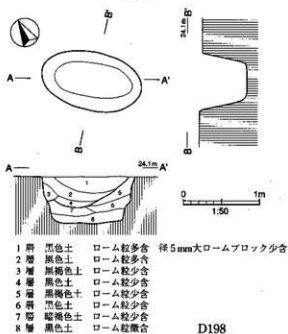
所 見 B068の柱穴位置に所在するが、掘込みが浅かった。覆土からも掘立柱建物跡の柱穴とは捉えられず、土坑として扱っている。





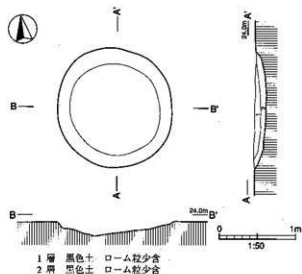
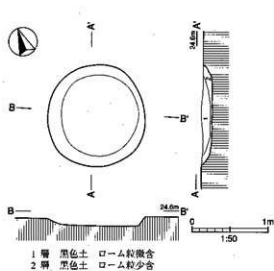
D194

D197



D198

D200



D201

D202

図340 D194・D197・D198・D200・D201・D202

#### D201

検出地区 L6-14gにて検出した。

遺構 長軸1.36m×短軸1.24m×深さ0.12m、方位はN-28°-Eを測る。平面形は略円形である。覆土は、黒色土を主体とした自然堆積と捉えた。

遺物 縄文早期・条痕文の小片が1点のみ出土した。本土坑に関連する遺物は認められなかった。

所見 ソフトローンを掘り込んだだけの、浅い土坑である。出土遺物は縄文時代早期・条痕文片であったが、覆土の色調などから奈良・平安時代の土坑と捉えた。

#### D202

検出地区 L6-56gにて検出した。

遺構 長軸1.58m×短軸1.48m×深さ0.16m、方位はN-4°-Eを測る。平面形は略円形である。皿状に近い坑底と壁の立上がりであった。覆土は自然堆積であり、ローンを包含した黒色土を2層に分層した。

遺物 縄文早期・条痕文の小片が1点のみ出土した。本土坑に関連する遺物は認められなかった。

所見 D201に比べ、更に浅くソフトローンを掘り込んだだけの土坑である。覆土の色調などから、奈良・平安時代の土坑と捉えた。

#### D203

検出地区 L6-57gにて検出した。

遺構 長軸1.68m×短軸1.40m×深さ0.14~0.28m、方位はN-1°-Eを測る。平面形は楕円形である。ソフトローンをやや凹凸をもって掘込まれた土坑である。坑底中央が更に掘込まれ段差を有し、断面形は摺鉢状となっている。覆土は黒褐色土を主体とした、自然堆積であった。

遺物 土師器小片が僅かに出土している。また、図示はできなかったが、輪端口の小片も出土している。

所見 坑底中央が攪乱を被るため、平坦な坑底面が存在したかは不明瞭であった。また、輪端口の出土から小鍛冶遺構の関連も検討されたが、焼土や鉄滓などが出土しなかったため流込みと捉えた。

#### D204

検出地区 L6-56gにて検出した。

遺構 長軸1.32m×短軸1.08m×深さ0.96m、方位はN-29°-Eを測る。平面形は楕円形である。ローンを深く掘込み、壁は急傾斜で坑底より立上がっている。覆土は色調とローンの含量量によって分層し、下層は暗褐色土、中層は黒褐色土、上層は黒色土であった。

遺物 縄文早期・条痕文片、弥生後期土器片、土師器片が若干出土した。土師器片が最も多く、8片を数えている。

所見 調査時には縄文時代早期・条痕文期の陥穴と捉えていたが、整理において覆土の色調や堆積状況が柱穴に近似するため、奈良・平安時代の土坑と捉えなおした。今後、時代の変更があるかもしれない。

#### D205

検出地区 L6-17gにて検出した。

遺構 長軸0.88m×短軸0.80m×深さ0.20m、方位はN-1°-Wを測る。平面形は略円形である。掘込みは浅く、覆土は人為堆積と捉えている。1層には白色粘土が混入していた。

遺物 流込みと捉えた、縄文早期・条痕文片が僅かに出土している。

所見 覆土1層に白色粘土が混入することから、掘立柱建物跡の柱穴覆土に近似した土坑である。

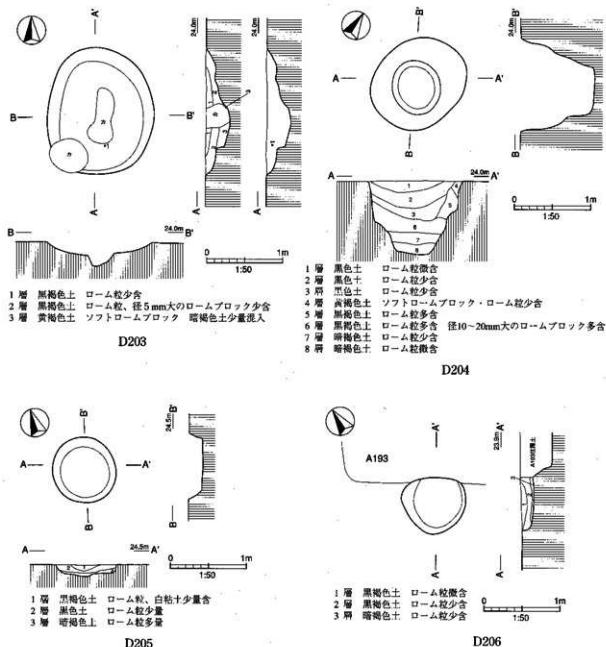


図341 D203・D204・D205・D206

このことから奈良・平安時代の土坑と捉えた。

**D206**

検出地区 L6-59gにて検出した。

遺構 長軸(0.76)m×短軸0.76m×深さ0.20m、方位はN-35°-Eを測る。平面形は略円形である。坑底は平坦で、掘込みは急であり、垂直に近いものとなっていた。覆土は黒色土を主体とする、自然堆積である。

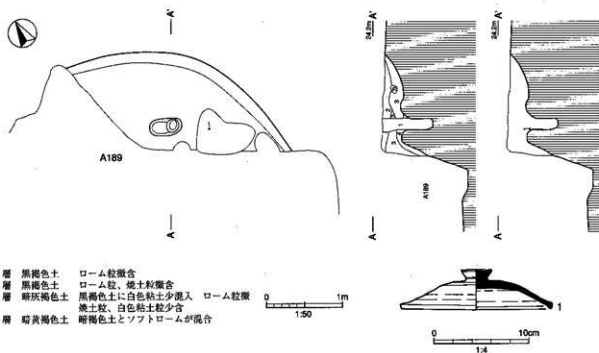
遺物 土師器・須恵器の小片が少量出土している。

所見 A193と重複し、新旧関係は本土坑が古い遺構と捉えた。

**D207**

検出地区 L6-47gにて検出した。

所見 長軸(1.24)m×短軸m×深さm、方位はN-41°-Eを測る。平面形は楕円形状である。坑



- 1層 黒褐色土 ローム粒散合  
 2層 黒褐色土 ローム粒、焼土粒散合  
 3層 暗灰褐色土 黒褐色土に白色粘土少混入 ローム粒散  
 焼土粒、白色粘土粒少含  
 4層 暗黄褐色土 暗褐色土とソフトロームが混合

図342 D207

底は緩やかな凹凸を有している。壁も坑底から彎曲をもって立上っている。覆土は、黒褐色土を主体としていた。

遺 構 土師器・須恵器の小片が少量出土している。1は坑底に傾いて、倒置で出土している。

所 見 A186の竈脇に検出された。本来は竪穴住居跡に伴う「棚状遺構」かもしれない。判断としないため、土坑として取扱うこととした。

表86 D207遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 蓋	167×55×31 把手合43 ロクロ成形 天蓋部は回転ヘラケズリ	青灰 青	長石類	2/3	

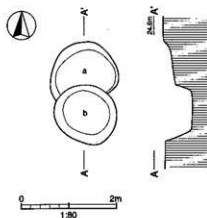


図343 D219

#### D219

検出地区 L5-82・83gにて検出した。

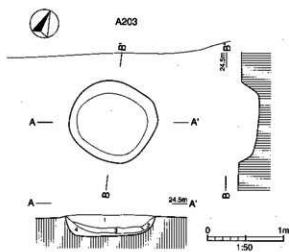
遺 構 重複した2基の土坑である。

a 坑は、長軸1.46m×短軸1.20m×深さ0.21m、方位はN-50°-Eを測る。平面形は不整楕円形である。坑底は、緩やかな傾斜をもって北から南に下っている。

b 坑は、長軸1.32m×短軸(1.20)m×深さ0.56m、方位はN-72°-Wを測る。平面形は略円形である。小規模なタライ状の土坑である。

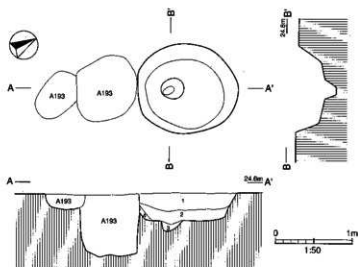
遺 物 出土は無かった。

所 見 B073内に検出された遺構であり、a・bの新旧関係は捉えられなかった。



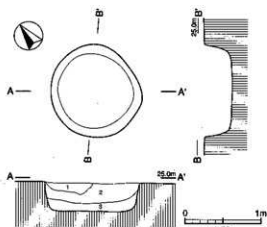
- 1層 黒褐色土 ローム粒多含 白色粘土粒多含
- 2層 暗褐色土 ローム粒多含
- 3層 黒色土 ローム粒多含 白色粘土粒少含
- 4層 黄褐色土 ソフトローム主体 白色粘土粒多含

D223



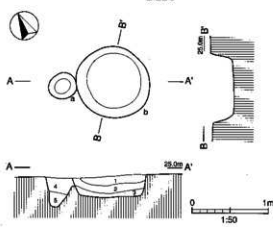
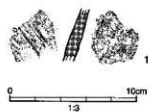
- 1層 黒色土 ローム粒微含
- 2層 黒色土 ローム粒少含
- 3層 黒色土 ローム粒微含 径5mm大のロームブロック微含
- 4層 暗褐色土 ローム粒多含

D224



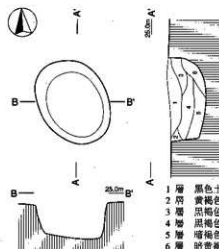
- 1層 褐色土 黒色土混入 ローム微粒含  
径2~5mm大のロームブロック多含
- 2層 黒色土 暗褐色土少量混入 ローム微粒含
- 3層 黒褐色土 褐色土混入 ローム微粒含

D227



- 1層 暗褐色土 黒色土混入 ローム粒多含
- 2層 暗褐色土 褐色土混入 ローム粒微含
- 3層 褐色土 黒色土混入 ローム粒微含
- 4層 黒色土 明褐色土混入 ローム粒微含
- 5層 暗褐色土 黒色土混入 ローム粒多含

D228



- 1層 黒色土 ローム粒少含 焼土粒微含
- 2層 黄褐色土 ソフトロームブロック
- 3層 黒褐色土 ローム粒多含
- 4層 暗褐色土 ローム粒少含
- 5層 暗褐色土 ローム粒多含
- 6層 暗黄褐色土 暗褐色土とロームが混含

図344 D223・D224・D227・D228・D229

D229

D222

検出地区 L5-64・65gにて検出した。

遺構 A206aの覆土を浅く掘込んだ遺構である。遺構規模はA206aのセクションから最大2.50m程度、深さは0.18mと想定される。方位は不明である。覆土は、黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物 A206aと混在し、明確にはできなかった。

所見 A206aの覆土を浅く掘込んでいることから、形成時期は新しくなるかもしれない。

D223

検出地区 L5-75gにて検出した。

遺構 長軸1.12m×短軸1.12m×深さ0.22m、方位はN-38°-Wを測る。平面形は隅丸方形である。壁の立上りは垂直に近く、坑底は平坦となる。覆土は自然堆積と捉えた。

遺物 土師器小片が少量出土している。

所見 覆土1層に白色粘土が多量に包含するため、掘立柱建物跡の柱穴かとも考えられたが、遺構規模や柱痕などが認められず、土坑として扱った。

D224

検出地区 L5-66gにて検出した。

遺構 長軸1.32m×短軸1.20m×深さ0.36m、方位はN-60°-Eを測る。平面形は略円形である。坑底は平坦であり、壁の立上りは急となっている。覆土は黒色土を中心に、自然堆積と捉えた。

遺物 須恵器片、縄文早期・条痕文片が少量出土した。

所見 B083と重複するが、本土坑が古い時代の所産と捉えられた。

D226

検出地区 L65-74gにて検出した。(B094と同図)

遺構 長軸1.06m×短軸1.04m×深さ0.32m、方位はN-55°-Wを測る。平面形は略円形である。平面規模に対して、掘込みの浅い土坑である。壁の立上りは垂直に近く、坑底は平坦である。覆土は色調で3層に捉え、自然堆積であった。

遺物 縄文早期・条痕文片が出土している。1は茎状工具によるナデを施されている。

所見 出土遺物は縄文土器であるが、覆土などから奈良・平安時代の土坑と捉えた。

D227

検出地区 L5-53gにて検出した。

遺構 長軸1.21m×短軸1.14m×深さ0.36m、方位はN-2°-Eを測る。平面形は略円形である。覆土は自然堆積である。

遺物 縄文早期・条痕文片が少量出土している。

所見 新旧関係を a 坑→坑 b と捉えることができた。覆土から奈良・平安時代の土坑と捉えた。

D228

検出地区 L5-53gにて検出した。

遺構 2基の土坑の重複である。

a 坑は、長軸0.37m×短軸0.34m×深さ0.38m、方位はN-78°-Wを測る。平面形は略円形である。

b 坑は、長軸1.00m×短軸0.72m×深さ0.28m、方位はN-18°-Wを測る。平面形は略円形である。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 新旧関係は覆土より、坑 a→坑 b と捉えられた。b 坑については、調査時には墓塚とも考えられた遺構であるが、判然とせず土坑として扱っている。

D229

検出地区 L5-44gにて検出した。

遺構 長軸1.20m×短軸0.90m×深さ0.44m、方位はN-31°-Wを測る。平面形は楕円形である。坑底は若干凹凸があり、壁は丸みを有して立上っている。覆土は色調と包含物の多寡を中心に、6層に分層下。層の乱雑さから人為堆積と捉えた。

遺物 土師器残片及び縄文早期・条痕文片が少量出土している。土師器残片は常総式である。

所見 土師器残の出土より、奈良・平安時代の土坑と捉えた。覆土堆積の乱雑さは、柱穴の柱材の引抜きを思わせるものであった。

D231

検出地区 L5-53gにて検出した。

遺構 長軸1.18m×短軸1.12m×深さ0.32m、方位はN-13°-Eを測る。平面形は隅丸方形である。覆土は黒褐色土を中心とした、自然堆積であった。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 F197と重複する。判然としない遺構であり、図示せず、説明にとどめた遺構である。

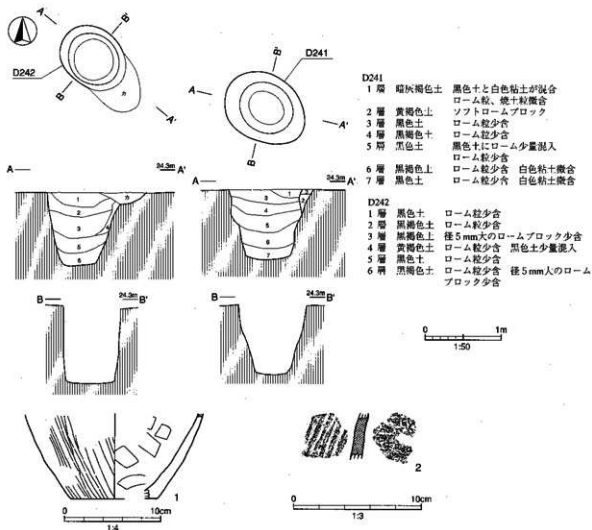


図345 D241・D242

D241

検出地区 L6-9gにて検出した。

遺構 2基の土坑の重複である。長軸1.12m×短軸0.88m×深さ0.92m、方位はN-80°-Wを測る。平面形は楕円形である。ハードロームまで垂直に近く掘込み、坑底は平坦である。覆土は人為堆積であり、色調及び包含物の多寡により7層と捉えた。1層には多量に白色粘土が混入していた。

遺物 土師器壺片や縄文早期・条痕文片などが出土しており、条痕文片が比較的多く認められる。この他に鉄滓も出土した。

所見 また、覆土1・2層にみられる様にかつて別の土坑が存在し、埋没後、再度掘込まれたことを示していた。また、調査においては、坑底は方形を意識しているかもしれないと考えられた土坑である。1層のみではなく、覆土下層の6・7層からも白色粘土の微量の包含をみていることから、短時間のうちに埋没した遺構ではないかと考えられる。

D242

検出地区 L5-99gにて検出した。

遺構 長軸0.92m×短軸0.72m×深さ1.00m、方位はN-52°-Wを測る。平面形は楕円形である。平面規模に対して深く、垂直に近い状態でハードロームを掘込んでいる。坑底は平坦である。覆土はロームを包含する黒色土を主体として、人為堆積を窺わせるものであった。

遺物 縄文早期・条痕文片や陶器片などが、僅かに出土するのみである。

所見 D241と無隣接した土坑であり、形状や覆土などが近似する。セットで掘込まれたかもしれない土坑である。覆土には、D241に包含されていた白色粘土は認められなかった。

D243

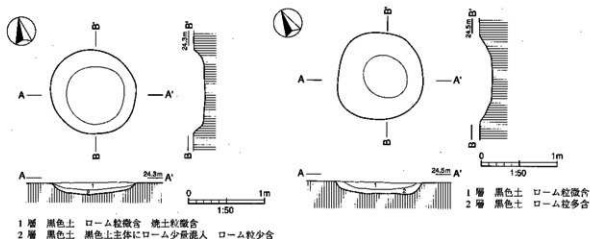
検出地区 L6-9gにて検出した。

遺構 長軸1.12m×短軸1.12m×深さ0.16m、方位はN-13°-Eを測る。平面形は略円形である。坑底は彎曲し、壁との境が判然としなくて立上っている。覆土は黒色土を主体として2層に捉えられ、自然堆積であった。

遺物 土師器片、須恵器坏片が少量出土している。

所見 ソフトロームを僅かに掘込んだ、浅い土坑である。出土遺物から、奈良・平安時代の土坑と捉えた。D244と近似する土坑である。





D243

D244

図346 D243・D244

表87 D243

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	須恵器 坏	(134)×(84)×41 ロクロ成形 外面の体部下半は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナダ 底部は回転ヘラ切り	灰色 良	雲母長石 燧花崗岩 繊維	口縁～ 底部 の1/3 残存	常陸産

## D244

検出地区 L6-8gにて検出した。

遺構 長軸1.16m×短軸1.16m×深さ0.10m、方位はN-11°-Eを測る。平面形は不整形である。坑底は西側から東側にかけて緩やかに下がるが平坦であり、壁も緩やかに立上っている。覆土は黒色土を主体として2層に捉えられ、自然堆積であった。

遺物 土師器片や縄文早期・条痕文片が若干出土している。

所見 ソフトロームを浅く掘込み、凹み状の土坑である。D243と隣接し、遺構規模や覆土などが近似している。出土遺物は縄文早期・条痕文片がやや多いが、覆土の色調などから奈良・平安時代の土坑と判断した。

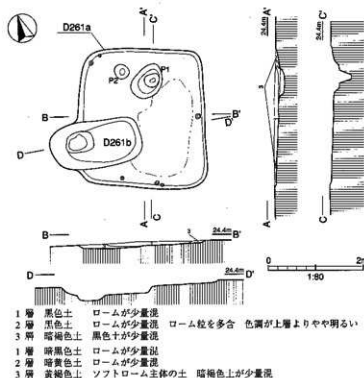
## D261

検出地区 L5-89gにて検出した。

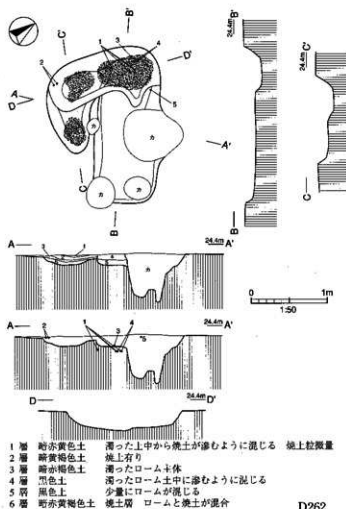
遺構 2基の土坑の重複である。

## D261a

遺構 長軸2.92m×短軸2.66m×深さ0.08m、方位はN-22°-Eを測る。平面形は隅丸方形である。ソフトロームと黒色土混合した坑底は全体的に軟弱であるが、坑底中央から南東にかけて感覚的に硬化しているかもしれない印象を得た。柱穴状のピットを2基検出した。



D261a・b



D262

図347 D261a・b・D262

遺物 土師器や縄文早期・条痕文片が5片のみ出土している。

所見 当初、遺構規模から竪穴住居跡として調査した遺構である。柱穴状のピットは検出されたが、焼焼施設の存在を想定する痕跡も認められなかったことから土坑とした。覆土の色調などから、奈良・平安時代の所産と捉えた。

#### D261b

遺構 長軸1.88m×短軸1.00m×深さ0.20m、方位はN-85°-Wを測る。平面形は長方形である。

遺物 D261aと一緒に取り上げたため、不明である。

所見 D261aの調査時に検出した遺構であり、形成時期は古くなるかもしれない。

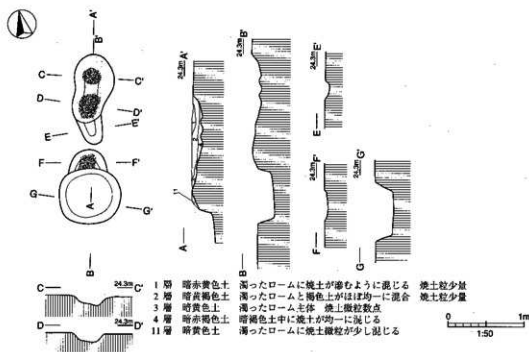
#### D262

検出地区 LS-67gにて検出した。

遺構 長軸(1.40)m×短軸0.76m×深さ0.14m、方位はN-50°-Wを測る。平面形は長方形である。坑底は平坦であり、壁の立上りはやや急である。覆土は図示できなかったが、黒色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 須恵器片が出土している。

所見 F248との重複や攪乱による損壊が大きく、全体を捉えられなかった。出土遺物や覆土の色調などより、奈良・平安時代の土坑と捉えた。



D264

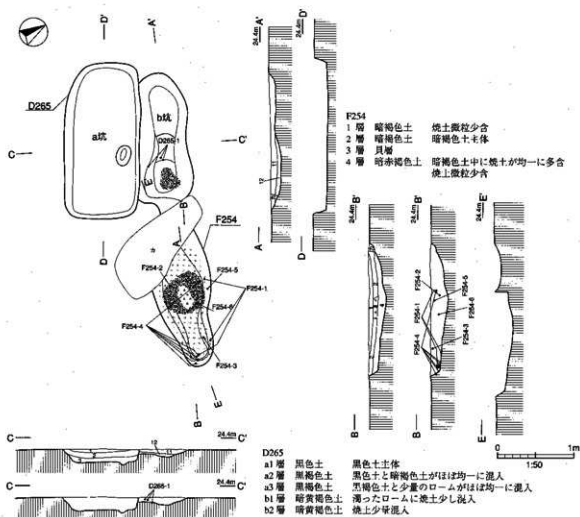
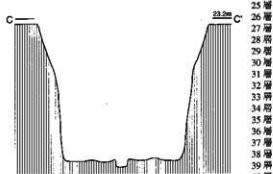
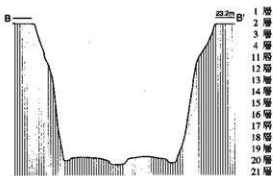
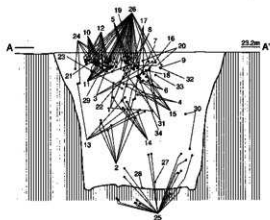
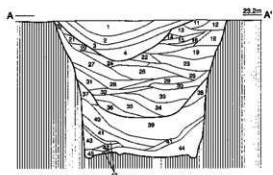
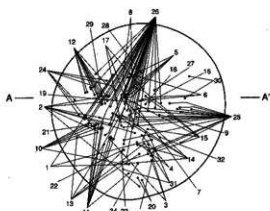
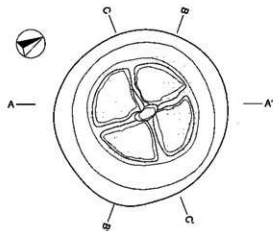


図348 D264・D265

D262・F254



- |     |       |                                      |
|-----|-------|--------------------------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の褐色土が混入 炭、焼土の微粒数点             |
| 2層  | 暗褐色土  | 炭、焼土の微粒数点                            |
| 3層  | 暗褐色土  | 少量の褐色土が混入 炭、焼土の微粒数点 部分的に白色粘土が少し混入    |
| 4層  | 暗褐色土  | 褐色土が混入 炭、焼土の微粒数点 部分的に白色粘土が少し混入       |
| 11層 | 暗褐色土  | ローム微粒多量が混入                           |
| 12層 | 暗褐色土  | 褐色土が混入する土にロームの微粒少量が混入                |
| 13層 | 褐色土系  | 褐色土と少量の暗褐色土とロームの微粒多量が混入              |
| 14層 | 暗褐色土  | 暗褐色土が主体となる土にロームの微粒が混入                |
| 15層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と極少量の黒色土が混入している土にロームの微粒や小粒が少量    |
| 16層 | 褐色土   | 褐色土と少量の暗褐色土とロームの大きな粒多量が混入            |
| 17層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の褐色土が混入 ロームの微粒がやや多量           |
| 18層 | 褐色土   | 褐色土と少量の暗褐色土が混入 ロームの微粒が極少量混入          |
| 19層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の黒色土が混入 ロームの粒径や中粒が大量に混入       |
| 20層 | 暗褐色土  | 暗褐色土の土体層                             |
| 21層 | 暗褐色土  | ロームの微粒が少し混入                          |
| 22層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と極少量の褐色土が混入                      |
| 23層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の黒褐色土が混入 ロームの微粒や小粒がやや多量       |
| 24層 | 暗褐色土  | 褐色土少し混入 ロームの微粒も少し混入                  |
| 25層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と極少量の黒色土が混入 大量のローム小粒やロームの微・大粒が混入 |
| 26層 | 黒色土   | 黒褐色土と暗褐色土が混入 ローム小粒が大量に混入する ロームの微粒が   |
| 27層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と多量のローム微粒が混入 ロームの小粒少             |
| 28層 | 黒褐色土  | 暗褐色土と少量混入 ローム微粒もやや多量                 |
| 29層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と褐色土が少量混入 ローム微粒が多量混入             |
| 30層 | 暗褐色土  | ローム大粒多量 ローム微粒多量                      |
| 31層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の褐色土が混入 ローム微粒が少量              |
| 32層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の褐色土が混入 ローム微粒が少量混入 ローム小粒多     |
| 33層 | 暗褐色土  | ロームブロック、ローム大粒、ローム微粒が大量に混入 少量の褐色土が混入  |
| 34層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と褐色土が混入 大粒のローム粒とブロックがやや多量混入      |
| 35層 | 黒色土   | 黒色土と少量の暗褐色土が混入 大粒のローム粒とブロックがやや多量混入   |
| 36層 | 暗褐色土  | 少量の褐色土に混入する ロームは極少量の微粒と小粒が混入         |
| 37層 | 暗褐色土  | 濡ったロームと暗褐色土が混入 混入したロームと暗褐色土がほぼ均一に混入  |
| 38層 | 暗褐色土  | 濡ったロームと暗褐色土がほぼ均一に混入                  |
| 39層 | 暗褐色土  | ローム微粒が少量混入 濡ったロームが部分的に少量混入           |
| 40層 | 暗褐色土  | 濡ったロームが主体の土 暗褐色土が少量混入 ロームの方が多        |
| 41層 | 暗褐色土  | 濡ったロームが極少量混入する                       |
| 42層 | 赤褐色焼土 | 黒色土が少量混入し細かな炭化材を多量                   |
| 43層 | 暗褐色土  | ローム粒多量 焼土少 白色粘土微                     |
| 44層 | 暗褐色土  | ローム粒少 白色粘土微                          |
| 45層 | 黒色土   | 黒色土が少量混入し細かな炭化材を多量 焼土微               |

図349 D268

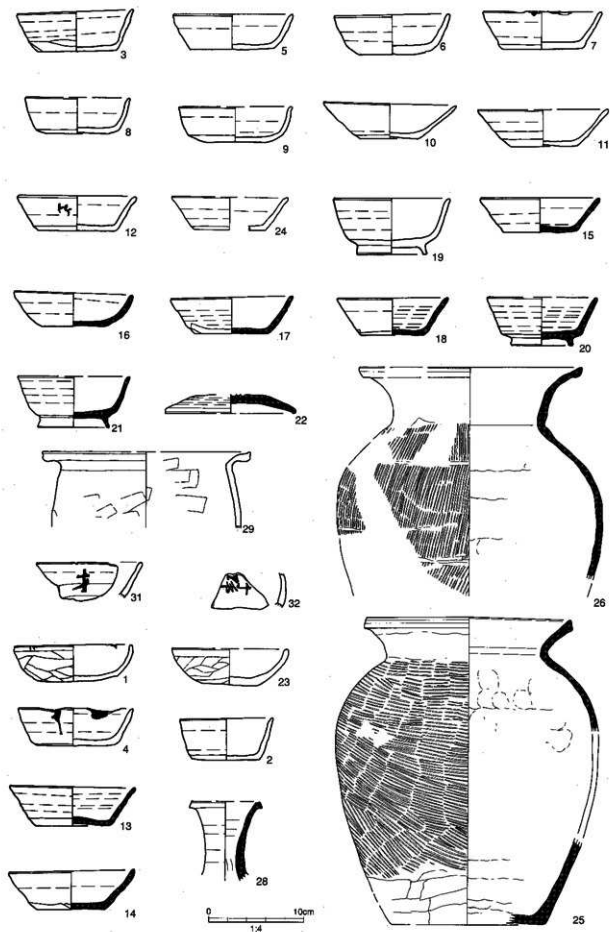


图350 D268 (2)

D264

検出地区 L5-67gにて検出した。

遺構 長軸0.89m×短軸0.73m×深さ0.23m、方位はむN-81°Wを測る。平面形は略円形である。坑底は平坦であり、壁はやや急に立上っている。

遺物 重複する炉穴と一括で取り上げたため、不明瞭ではあった。

所見 当初、孤立柱建物跡の柱穴と捉えた土坑である。

D265

検出地区 L5-67gにて検出した。

遺構 長軸2.04m×短軸0.96m×深さ0.16m、方位はN-60°Wを測る。平面形は長方形である。坑底は平坦で、東壁中央部に小ピットを検出した。ソフトロームを掘込んだ、浅い土坑である。覆土は自然堆積であり、色調色と包含物により3層に分層した。

遺物 重複する炉穴と一括で取り上げたため、不明瞭ではあった。

所見 覆土から、奈良・平安時代の土坑と捉えた。

D268

検出地区 M6-12gにて検出した。

遺構 長軸3.66m×短軸3.56m×深さ2.88m、方位はN-4°Eを測る。平面形は円形である。壁は垂直に近く、坑底には十文字に溝が掘込まれていた。また、壁際に全周して溝が巡っていた。坑底から0.30m程度の高さに焼土と炭化材を認め、坑底から壁に炭化したカヤ材が貼付く様に出土している。更に坑底から0.70mの高さに焼土を認めた。覆土は複雑な体積状況を示すが、大きく1〜4層、11〜36層、37〜45層の3段階に捉えられており、人為的な投入によって埋没したと判断した。

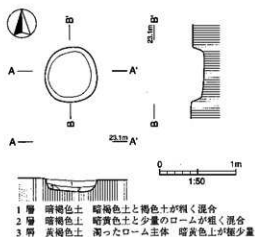
表87 D268遺物観察表

(単位mm)

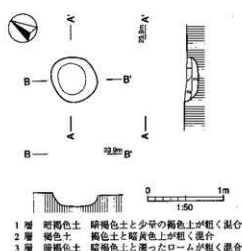
No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の 特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏 (灯明皿 転用)	125×85×39 底部は丸底、口縁は内湾気味に立ち上がる ロクロ未使用(巻き上げモ作り) 外面 口縁、口唇部が磨かれている 底部全体、体部上半中位下半下端ヘラケズリ後部分的ヘラミガキ 内面 底部全体、胴部上半中位下半下端ナデ後部分的ヘラミガキ 94×71×44	外黄褐 内暗茶褐 良	細砂赤色 スコリア 細粒		灯明皿としても 転用
2	土師器 坏	小形で楕形に近いロクロ成形で回転系切りによる底部切り磨し右回転 口縁、頸部、胴部上半中位下半下端、ロクロ成形で、かつロクロ ナデに近い調整 底部口縁回転ヘラケズリ 内面 口縁、頸部、胴部上半中位下半下端、 底部全体ロクロナデに近い調整	外内淡褐 良	細粒 赤色 スコリア		
3	土師器 坏	122×83×42 全体 ロクロ成形後静止糸切による底部切り磨し 内面 下端手持ちヘラケズリ 底部静止糸切後底縁は手持ちヘラケズリ 外面 口縁、頸部、胴部上半中位下半下端、底部全体ロクロナデ	外内淡褐 部分的に 黒灰 良	細粒赤 白色粒子 赤色 スコリア		
4	土師器 坏 (灯明皿 転用)	120×78×40 やや楕形に近い全体ロクロ成形後(静止ヘラ切りか)切り磨し 外面 下端回転ヘラケズリか 底部全体手持ちヘラケズリ (静止ヘラ切りか) 内面 欠換部の灯芯を置いた	外内淡褐 良	細粒 白色粒子 赤色 スコリア		灯明皿で転用 赤彩の可能性有 体部下端から底 部中心部減目立
5	土師器 坏	127×90×37 全体にロクロ成形後回転ヘラ切り 外面、内面 全体に日立って周縁調整は見られず	外内淡褐 普通	砂長石類 赤色 スコリア 細粒		内外面とも 磨減目立
6	土師器 坏	122×70×42 体部はやや楕形に近い底部は周辺は丸みをおび、ゆるい段を有いて底部 にいたる ロクロ成形で回転糸切り(右回転) 外面 下端磨減目立つ 底部全体回転糸切り後、底部は回転ヘラケズリ 内面 全体に丁寧なロクロナデ	外内淡褐 良	細粒雲母 スコリア 緻密な 胎土		

7	土師器 坏 (灯明皿 転用)	125×85×40 ロクロ成形には切離しは静止糸切り 外面 下廻回転ヘラケズリ(モミの圧痕)底部全体切り離し静止ヘラ切り 内面 欠損部の脇に灯芯を置く。ロクロナデ近い	外内淡褐色 良	細粒 長石類 赤色 スコリア	灯明皿としても 転用
8	土師器 坏	(110)×65×35 箱形に近い。水田、不入窯? ロクロ成形で回転ヘラ切り 外面 口縁、頸部、胴部上半中位下半ロクロド廻回転ヘラケズリ 内面 全体ロクロナデ	淡褐色 良	極めて 緻密	破換面は磨滅
9	土師器 坏	(120)×62×36 箱形に近い。水田、不入窯? ロクロ成形で回転ヘラ切り 外面 口縁、頸部、胴部上半中位下半ロクロ下廻回転ヘラケズリ 内面 全体ロクロナデ	淡褐色 良	極めて 緻密	破換面は磨滅 内外面とも 磨滅目立
10	土師器 坏	(139)×62×36 ロクロ成形後回転糸切り(右回転) 外面 ロクロ目を消すためにヘラミガキ 下廻ヘラケズリ後ミガキ 底縁回転ヘラケズリ 内面 丁寧にヘラミガキ	淡褐色 良	極めて 緻密	細石 長石類 赤色 スコリア
11	土師器 坏	138×68×39 外面 口縁、頸部上半中位下半ロクロ成形後ヘラミガキ 下廻回転ヘラミガキ 底部全体回転糸切り(右回転)後ヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形後、丁寧にヘラミガキ	淡褐色 良	細石 長石類 赤色 スコリア	内黒
12	土師器 坏	125×83×37 ロクロ成形 外面、内面 胴部全体ロクロ成形及び(ロクロナデ) 底部全体ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	褐色 良	微細粒 含む 緻密	墨書「口」 外体
13	須恵器 坏	132×81×42 ロクロ成形 外面 胴部全体ロクロ成形後回転ヘラケズリ 底部全体回転ヘラケズリ後、手持ちヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形	灰 良	細粒 長石類 赤色 スコリア 黒色粒子	常陸産
14	須恵器 坏	133×71×41 ロクロ成形 外面 ロクロ成形 (ロクロナデ)後手持ちヘラケズリ 底部全体切り離しは静止ヘラ切り 内面 全体ロクロ成形(ロクロナデ)	灰 并	花崗岩 雲母 長石類 細粒	破換面は 磨滅している
15	須恵器 坏	126×78×36。ロクロ成形 外面 胴部全体ロクロ成形。底部全体切り離しは静止ヘラ切り 内面 全体ロクロ成形(ロクロナデ)	暗灰 良	白色粒 細粒	底面外面に磨れ がみられる
16	須恵器 坏	124×78×36ロクロ成形 外面 胴部全体ロクロ成形(ロクロナデ) 底部切り離しは回転糸切り(右回転)底縁回転ヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形(ロクロナデ)	灰 良 極めて 緻密	白色粒 他の微細 粒を含む 緻密	完形 完形品
17	須恵器 坏	130×80×39 外面 ロクロ成形下端手持ちヘラケズリ 底部切り離し後(回転ヘラケズリ)手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形	灰 并	雲母 長石粒 花崗岩 細粒	内外面とも (火だすき) 常陸産
18	須恵器 坏	116×67×39 外面 ロクロ成形(ロクロナデ)底部最終的には静止ヘラ切り (切り離し回転ヘラケズリ) 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	灰 良	雲母 黒色粒 花崗岩 細粒	外面は 磨れあり 常陸産?
19	土師器 高台付坏	123×75×60 坏部は箱形、高坏は径が大きい目のもの ロクロ成形切り離し後付高台 外面 ロクロ成形(ロクロナデ)回転ヘラケズリ 底縁切り離し後回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	褐色 良	砂 スコリア 細粒	破換面には磨れ が見られる
20	須恵器 高台付坏	(115)×(64)×51 坏部は箱形、付高台 ロクロ成形 外面 ロクロ成形(ロクロナデ)下廻回転ヘラケズリ底部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	濃灰 良 堅緻		
21	須恵器 高台付坏	(118)×(75)×54 坏部は箱形、付高台。ロクロ成形 外面 ロクロ成形 下廻回転ヘラケズリ底部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	灰 良	雲母 長石粒 花崗岩 細粒	坏部内面に磨れ が見られる
22	土師器 蓋	(136)××(20) 天蓋部はロクロ成形 回転ヘラケズリ切り離し後宝珠部をジョイント 外面 天蓋部は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	褐色 良	細粒 長石類 赤色 スコリア	胎土、成形、 調整、技法とも 須恵器と同一 宝珠部欠損
23	土師器 坏	(122)×60×39 内湾気味に立ち上がる 輪轆成形ロクロ未使用 外面 口縁ナデ 胴部ヘラケズリ(部分的にヘラナデ) 底部全体ヘラケズリ 内面 全体ヘラミガキ	褐色 良	細粒 長石類 赤色 スコリア	
24	土師器 坏	(121)×(75)×35ロクロ成形 外面 ロクロ成形(ロクロナデ)底部回転ヘラケズリ後 底縁部分に手持ちヘラケズリ 内面 全体ロクロ成形(ロクロナデ)	外褐色 内淡褐色 良	砂白色粒 黒色粒 砂 スコ リア粒	体部外面に 「?」状の へら痕有り

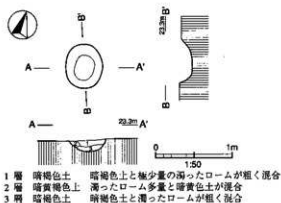
25	須恵器 甕	215×163×326 口縁外反、口唇断面三角状折り返し口縁 肩部が張る 外面 口縁頸部ヨコナデ 胴部上下半タタキ下端底部ヘラケズリ 内面 口縁頸部ヨコナデ 胴部ナデ一部指張仄輪積痕	灰色 青	粗砂粒 雲母	3/4	
26	須恵器 甕	(232)×—×(255) 外反する折り返し口縁 肩部が張る 外面 口縁頸部ヨコナデ 胴部上半タタキ 内面 口縁ヨコナデ頸部ヘラナデ胴部上半ナデ一部輪積痕	暗茶褐色 青	砂粒	1/3	
27	須恵器 坏	—×80×34 体部下端少しはり出す 外面 ロクロ成形(ロクロナデ)底部全体 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	外灰 内暗灰 青	雲母 花崗岩 細粒		底部外面ヘラ青 「×」内外面に 磨れ体部外面ス ス付着 常陸産
28	須恵器 長頸壺	(72)×—×84 ロクロ成形で頸部がひねり上げた時のらせん状のしぼり込みが見られる 外面 ロクロ成形	外暗赤褐 内暗褐 良	黒色粒 白色粒		意図的に欠いて おり火熱により (はじけ) あり
29	土師器 甕	—×—×(71) 口縁部はつまみ上げ胴上半に最大径を持つ。輪積痕 外面 口縁ナデ、頸部胴部上半ヘラケズリ後ナデ 内面 口縁ナデ、頸部胴部上半ヘラナデ	淡褐 青	雲母 長石類 細粒		常陸型甕
30	土師器 甕	—×—×— 口縁部はつまみ上げ胴上半に最大径を持つ 外面 口縁ナデ、頸部胴部上半ヘラケズリ後ナデ 内面 口縁ナデ、頸部胴部上半ヘラナデ	淡褐 良	雲母 長石類 花崗岩 細粒		常陸型甕
31	土師器 坏	—×—×— やや楕円に近い器形か。ロクロ成形 外面 口縁頸部胴部上半中位ロクロ成形(ロクロナデ) 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	淡褐 良	細粒 白色粒 赤色 スコリア		口縁片 体部外面 墨書「才」
32	土師器 坏	—×—×— 小片のため詳細不明。ロクロ成形 外面 ロクロ成形(ロクロナデ) 内面 ロクロ成形(ロクロナデ)	橙褐 良			体部下面の下半 墨書「竹野」
33	土師器 坏	—×—×— 小片のため詳細不明。ロクロ成形 外面 胴部下端ヘラケズリ 底部底縁手持ヘラケズリ 内面胴部下端ロクロ成形(ロクロナデ)	橙褐 良	細粒 スコリア 微細粒 鐵屑		墨書 「口」



D273



D275



D276

図351 D273・D275・D276



遺物 900点に近い破片数の出土である。投入土の覆土とともに廃棄されたもので、出土傾向は覆土と同様に大きく垂直分布としての3段階に分けられた。図示できたものは土師器・須恵器の坏が多いが混在しており、出土層による時間的な差はあまりないと言える。土師器甕は常総型の口縁片も認められた。この他に鉄滓も出土している。

所見 井戸状遺構である。本来の用途が「井戸」であるかは捉えられなかったが、遺構廃絶後に、人為的に土器の廃棄とともに最低3段階によって埋戻された遺構である。

#### D273

検出地区 M6-31gにて検出した。

遺構 長軸0.52m×短軸0.48m×深さ0.16m、方位はN-2°-Wを測る。平面形は略円形である。掘込みは浅く、坑底は平坦である。覆土は色調から3層と捉えたが、暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物 土師器細片が3点のみ出土している。

所見 調査時には掘立柱建物跡の柱穴かと考えられたが、判然と死せず、土坑として扱った。

#### D275

検出地区 M6-2gにて検出した。

遺構 長軸0.64m×短軸0.60m×深さ0.16m、方位はN-0°-Eを測る。平面形は略円形である。坑底は比較的平坦であり、壁へは丸みをもって立上っている。覆土は色調・包含物で分層したが、ロームが多く混在することから投入土であり、人為堆積と捉えた。

遺物 出土遺物はなかった。

所見 D273と同様、調査時には掘立柱建物跡の柱穴かと考えたが、判然と死せず、土坑として扱った。

#### D276

検出地区 M6-3g似て検出した。

遺構 長軸0.80m×短軸0.48m×深さ0.16m、方位はN-16°-Wを測る。平面形は楕円形である。坑底は丸みを帯び、壁には彎曲して立上っている。覆土は色調などで捉えたが、ロームが多く混在することから投入土であり、人為堆積と捉えた。

遺物 出土遺物はなかった。

所見 D273と同様、調査時には掘立柱建物跡の柱穴かと考えたが、判然と死せず、土坑として扱った。

## 第5項 溝状遺構

上谷遺跡Ⅳ地区では溝状遺構が2条検出されている。Ⅰ地区では、近世から近代にかけての畑地と林地を区分する「籾切り(根切り)」の溝状遺構が検出されているが、本遺跡では溝状遺構の検出は少なく不明なことが多い。

個々に報告するⅣ地区での溝状遺構は、奈良・平安時代の主たる遺構である竪穴住居跡や掘立柱建物跡を区画するように検出している。また、実測可能な土師器などの溝底及び溝底付近からの出土をみていることから、当該時期のとして報告することとする。

### E003

検出地区 L5-98・99g、L6-9・19gにわたって検出した。

遺 構 長軸28.84m×幅0.56～0.76m×深さ0.24～0.28m、方位は略N-60°-Wを測る。やや南側に緩く弓なり状に彎曲する、長大な遺構である。掘込みは浅いため、両端は途切れている。断面形は丸底から箱形である。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積であり、焼土や炭化粒を包含するが流込みと捉えられた。

遺 物 土師器や須恵器片が出土している。須恵器片の出土は土師器片に比べ量的には少なく、少量であった。また、縄文早期・条痕文片も認められた。図示した遺物は、いずれも溝底から0.10m程度高い位置において出土している。また墨書土器が2点出土しているが、いずれも「竹」と判読できるものであった。

所 見 台地平坦面と緩斜面が始まる境界位置に検出し、掘立柱建物跡の密集地区の南側に位置している。この密集した掘立柱建物跡を区画するように、東西に横走している。時代・時期を決定づける遺物には乏しいが、遺構配置などとともに奈良・平安時代の所産と捉えた。

### E004

検出地区 M5-83・84gにて検出した。

遺 構 長軸6.60m×幅1.24m×深さ0.36～0.88m、方位はN-36°-Eを測る。全体的に直線的な溝状遺構である。台地斜面部から谷津に向かって南下しているため、谷津方向に向かって幅が広くなり、溝底の角度は始点から5°→9°→15°と傾斜はきつくなっている。断面形は丸みを帯びている。覆土は褐色土を主体として、自然堆積と捉えられた。

遺 物 30点弱の出土であり、土師器甕・坏を中心とする。1は墨書された土師器坏であるが、溝底直上に正置で出土している。「寺竹」と判読した場合、竹の字の間が空きすぎていることが気になっている。

所 見 溝底から土師器坏の墨書土器が出土したことから、奈良・平安時代の所産の遺構と捉えたが、把握時代は移動するかもしれない。斜面部から谷津に向かって掘込まれていることから、排水溝の様な印象もうけるが、水を被った痕跡は確認できなかった。

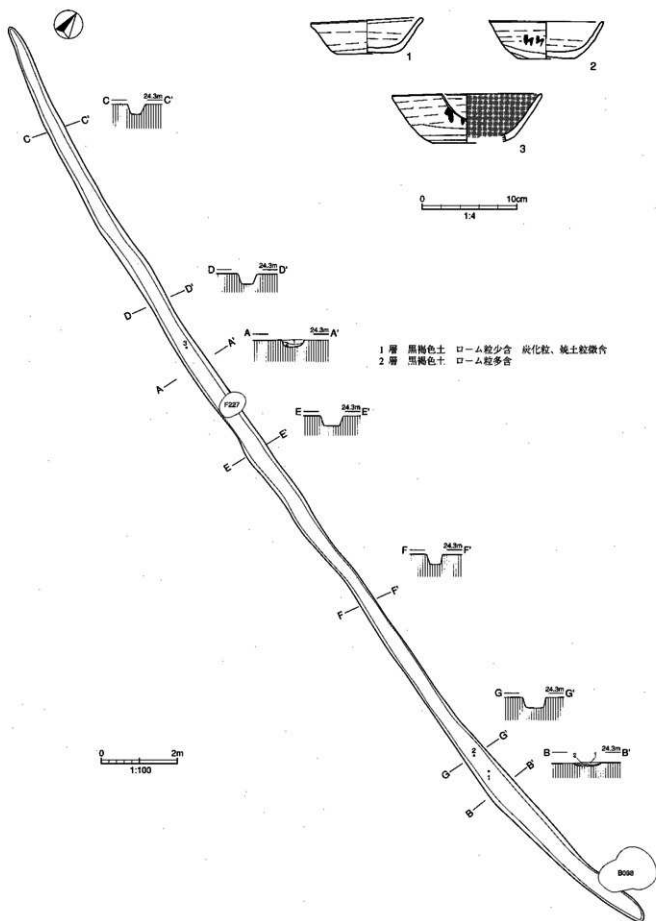


図352 E003

表90 E003遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	115×63×35 ロクロ成形 外面 体部下端は回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ 底部 回転糸切り後周縁回転ヘラケズリ	橙褐色 良	赤色スコリア 細粒 雲母少量	口縁の 1/3を 欠損	内面は僅い込ま れ「手ずれ」 目立つ
2	土師器 坏	118×60×40 ロクロ成形 外面の体部下端は回転ヘラケズリ 内面はロクロナデ 底部は回転糸切り後 周縁は回転ヘラケズリ	淡褐色 良	雲母赤色 スコリア 細粒	口縁の 一部を 欠く のみ	墨書「竹」 体部外面正位
3	土師器 坏	156×—×52 ロクロ成形外面の体部下端は回転ヘラケズリで部分的にヘラミガキ 内面は密なヘラミガキ この後吸炭 底部は回転ヘラケズリ	橙褐色 良	雲母スコ リア微細 粒少量	全体の 3/5 残存	墨書「竹」 体部外面

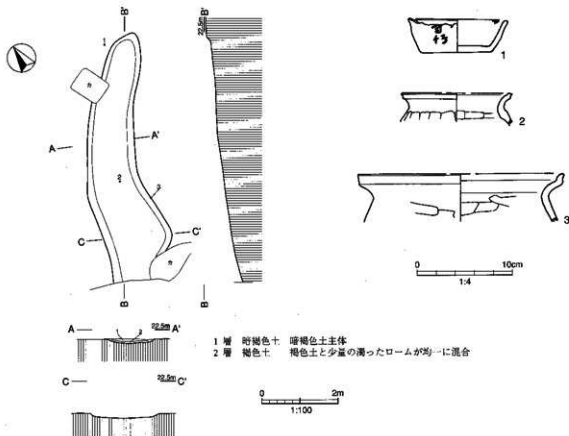


図353 E004

表91 E004遺物観察表

(単位mm)

No	種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1	土師器 坏	101×74×35 箱形を呈するロクロ成形 外面 口縁ロクロ成形底部全体回転ヘラ切り 底縁手持ちヘラケズリ 内面 縦割り見通し	淡褐色 良		略完形	墨書2ないし3 文字「寺竹」な いし「寺々3」
2	土師器 甕	(114)×—×(30) 口縁短く反し端部をつまみ上げる 外面 口縁頸部ナデ 胴部上半ヘラケズリ 内面 口縁ナデ頸部胴部上半ヘラナデ	外暗茶褐 内茶褐色	砂小色ス コリア細 粒黒色粒	口縁片	
3	土師器 甕	(214)×—×(50) 口縁端部はつまみ上げ蓋受け状となる 最大径は胴上部 外面 口縁頸部ナデヘラケズリ後ヘラナデ 内面 ナデヘラナデ	外淡褐色 内茶褐色 雲	長石顕花 崗岩細粒 目立つ 雲母少	口縁片	常態甕

## 第3章 小 結

以上、上谷遺跡Ⅳ地区の調査の成果を報告してきた。本遺跡の場合、整理・報告は全体を5地区に分割して行うこととなっており、各時代・時期及び遺構が分断され全体の姿が見えにくくなっている。特に舌状台地の東側半分を調査した状態の上谷遺跡の場合は、縄文時代早期・炉穴群や弥生時代、また、奈良・平安時代の遺構は全地区にわたっているため顕著である。

ここでは上谷遺跡Ⅳ地区の調査成果のうち、その一部について概要をまとめておきたい。

### 第1節 縄文時代

**概 要** 上谷遺跡Ⅳ地区における縄文時代の遺構は、竪穴住居跡は検出されず、炉穴と土坑の検出にとどまった。炉穴は番号を付与したもののみで166基、土坑63基に上っている。炉穴や土坑の形成時期は早期・条痕文期に主体をおくが、炉穴かもしれない遺構も不明瞭なものは土坑として報告した。また、中期・五領ヶ台期の墓塚と判断される土坑も検出している。

遺物は縄文時代の遺構を中心に出土するが、他の時代の遺構覆土からも撚糸文系や条痕文系土器が出土している。撚糸文系は夏島Ⅱ式から花輪台Ⅱ式まで確認されている。

#### 第1項 炉 穴

**遺 構** Ⅳ地区での炉穴は166基の検出を見た。大きく付与した遺構番号からの数値なので実数はこれ以上に増加するが、Ⅱ地区106基、Ⅲ地区25基に比し遺構数は大きく増加している。弥生時代や奈良・平安時代の竪穴住居跡からも早期・条痕文片が出土することから、早い段階で失われた炉穴も多数あったであろうことが窺える。

Ⅲ地区はⅡ地区と隣接する地点に多く検出しており、Ⅲ地区において炉穴の空白帯が生じている。このことは、条痕文期の炉穴の占地状況を物語っている。Ⅳ地区のこの傾向が今後整理が進むⅣ地区の西側のⅤ地区にどのように続くのか、全体を未だ示せないが、炉穴群の形成主体の地として、本地区が選択されていたといえよう。

**遺 物** 条痕文は野鳥式を中心に前後、子母口式、茅山下層などが明らかになってきている。Ⅰ地区では微隆起区画内に集合沈線を施す野鳥式が出土しているが、Ⅱ・Ⅲ地区は条痕文のみ施すものが多かった。しかしⅣ地区に入ると、微隆起区画による条痕文が若干出土する傾向があった。また、微隆起区画ではなく沈線区画によるものも出土している。

#### 第2項 中期・五領ヶ台式期について

中期・五領ヶ台式期の遺構は1基検出したのみである。小形のタライ状の土坑に完形土器が2点埋置された遺構であるが、1点は正位に置かれ、1点は倒置の状態であった。八王子市神谷原遺跡の例から墓塚と捉えた。

五領ヶ台式はⅡ・Ⅲ・Ⅳ地区と整理上、遺構の検出地区が分断されてしまっており、全体が把握できない状況である。調査区出土資料もありⅤ地区の整理とともに全体を進めていきたいと考えている。

Ⅱ～Ⅲ地区の遺構検出状況は、Ⅱ地区東側及びⅢ地区の北東地区を中心に竪穴住居跡と土坑を検出しており、集落として捉えられるものであった。そしてⅣ地区の墓塚と捉えられたD192は、その住居跡からやや離れた場所に検出され、居住地域と墓域との選地を示していると考えられた。

## 第2節 弥生時代

**遺構** 本地区における弥生時代の遺構は、竪穴住居跡9軒（中期1軒、後期8軒）を検出した。中期は時期を決定する資料が無いが、大型住居であること、また、蛤刃石斧の出土から判断した。宮ノ台期と思われる。当該時期の住居跡がV地区に展開するものと考えられる。

**遺物** 後期については、印旛沼周辺に特有な土器や北関東系とともに、南関東系の土器の出土を見ている。

## 第3節 奈良・平安時代

**概要** IV地区においては竪穴住居跡38軒、掘立柱建物跡106棟、土坑36基、櫓列2基、溝2条が検出された。特に掘立柱建物跡はII地区で報告した掘立柱建物跡群より集中しており、2×3間を主体として、様々な規模の建物跡が検出した。

この掘立柱建物跡群はV地区へ続いており、全体の把握はできなかった。ただ、当該地区での竪穴住居跡と掘立柱建物跡は混在しており、南側の谷津と調査区北側に西から入り込む谷頭に挟まれた、台地平坦面が帯状に広がる地区に展開していることをが捉えられた。

**遺物** 土師器・須恵器を中心に出土している。墨書土器は143点が確認された。また、長文墨書と人面刻書が出土した。

### 第1項 墨書土器について

千葉県全体としては墨書土器の出土は多いが、地域的にその出土は限定性を持っている。その中で八千代市の新川流域に所在する奈良・平安時代の遺跡からは、数多くの墨書土器が出土している。現在、把握されている八千代市域から出土したの墨書土器は2,000点（推定点数は2,500～3,000点余）を越えているが、この数は千葉県全体の推定総点数の約10%を占めている。千葉県内の調査事例の増加とともに、墨書土器の点数も増加しているが、この間においても八千代市域の点数は常に10%程度を占めてきたこととなっている。このことから調査事例の多寡ではなく、この地域がそういった文化の受容があった地域であると理解しなければ、出土点数の偏在性は捉えられないであろう。

また、八千代市域の墨書土器の特徴として、1乃至2文字の単文字の墨書だけではなく、長文の墨書が多く出土していることである。これには人名が多く記されていることにも起因するであろうが、在所・部姓・名前・目的・紀年・月日の様々な組み合わせによって記されることが多く、それに加えて人面も墨書されることがあるからであろう。そのような土器が単体で出土するのではなく、数点単位で出土することから他の地域に比して多くなってきたのであろう。

### 第1項 上谷遺跡IV地区の墨書土器

上谷遺跡IV地区の墨書土器を記すにあたっては、表91及び図354・355を参照していただきたい。IV地区においては遺漏もあろうが、143点の墨書土器が図345の遺構から出土した。墨書土器の大半が断片であり、文字を判読することはできないものが多いが、墨書の痕跡を認めた点数である。判読できる文字は長文墨書を除くと、「竹」「竹野」（以上、文字数20点）「西」（以上、文字数8点）「万」「新」「山」「才」「寺」であり、記号化されたものには「×」が確認されている。

上谷遺跡ではI地区・II地区・III地区北側（II地区隣接部分）において数多く出土した文字は「得」「万」であった。II地区の一部からIII地区・IV地区へと「竹」が多く、III地区から次第に「西」が出土始めてきた。IV地区において「西」と「竹」は殆ど混在しないが、（図参照）「万」は1点のみであり、「得」に至っては皆無となっている。

整理を進めているV地区が「西」となるのか「新たな文字」が出土するかは不明であるが、このように上谷遺跡では同一台地上に所在する、当時の地区或いは集団によって「共有する文字」の異なりが見て取ることができる。

台地が異なる八千代市・萱田遺跡群でも集団による文字の異なりが指摘されており、それを更に狭い範囲で表している。しかし、上谷遺跡のように同一台地においてさえも「共有する文字」が異なりを示すことは集団の異なりなのか、時間的経過なのか、上谷遺跡が分割整理を行っている関係からV地区の整理に待つしかないが、今後は、文字のみにとらわれずに土器編年を踏まえた墨書土器の整理が必要となってこよう。

## 第2項 上谷遺跡IV地区の長文・人面土器

本地区からは、人面紀年銘墨書と人面線刻がそれぞれ1点出土している。

前者は、

「(人面)

下総國印播郡村神郷

丈マ廣刀自呼召代進上

延暦十年十月廿二日」

と土師器甕(常総型)に墨書されたものである。甕は底部を抜かれており、底縁の破断面を磨って瓶状としているものである。千葉県内での出土文字資料としては「下総國」と記されたものは2点のみである。「(人面) 国名+郡名+郷名+部姓+名前+目的+紀年+月日」の所謂「フルセット」の墨書は国内でも類例を見ない資料となった。

人面の目的は不明だが、「住所+名前+目的+祭儀年月日」と解釈することができたと見え、このように細かく記されない長文墨書の解釈の参考となる資料であった。

また、「人面刻書」土器が出土したことは、人面墨書と異なった問題を提示したと言えよう。

この土器は焼成前に人面を刻書しており、土器が製品となる以前から使用目的が定められていたこととなる。墨書土器の場合、焼成後の土器の使用が最大前提となり、日常使用した土器の転用も可能だが、この土器は既に用途が定められていたと言える土器である。この「人面」が平川南氏の言う「延命」祈願の土器かは即断できかねるが、その可能性は高く、「ある用途のために土器が製作されることがある」別の資料的な価値も高いといえよう。

いずれにしてもこの2点の土器は、IV地区の出土としてこの地区の祭儀形態を示していると言える。出土した墨書資料を以下に資料価値を高めるかが問題となろうが、この2点の資料は上谷遺跡で出土した長文墨書土器とは異なった資料といえる。それを踏まえて整理を進行させていきたい。

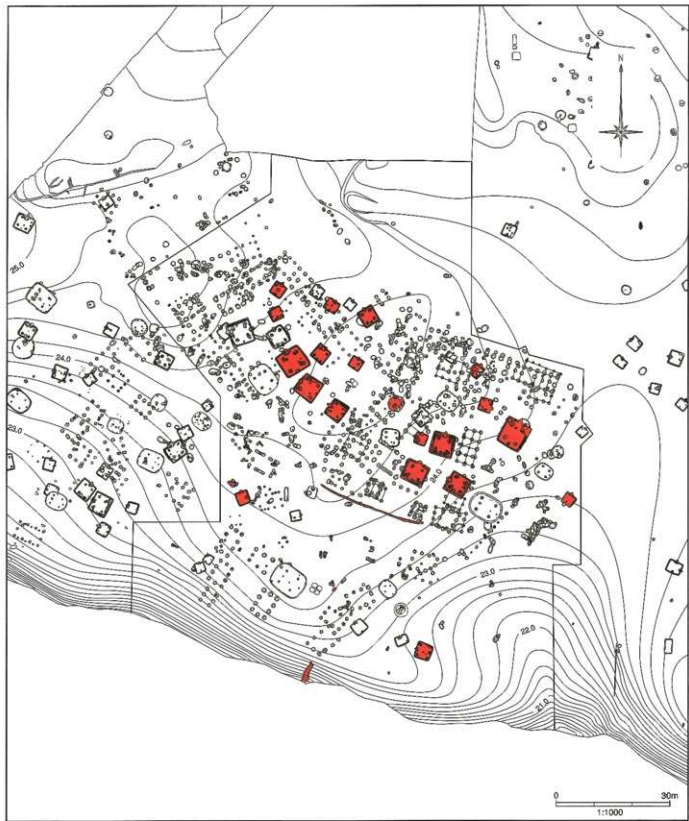


图354 上谷IV地区黑书土器出土遗構



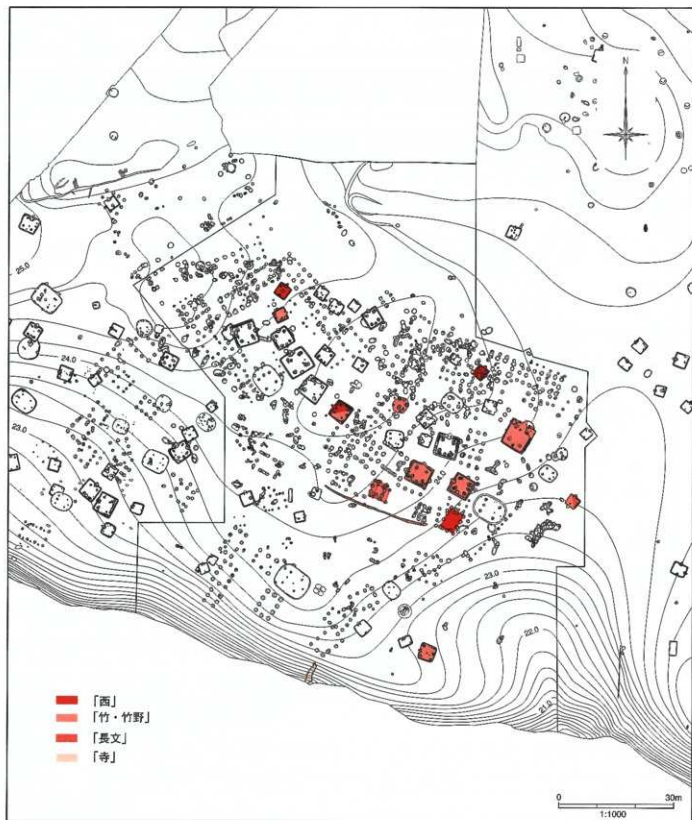


图355 上谷Ⅳ地区墨書土器「西」「竹・竹野」「長文」「寺」出土遺構

表91 出土墨書土器文字資料一覽

	釈文	種別	器種	部位	出土遺構	備考
1	西	墨書	土師器・坏	体外	A187-7	
2	□	墨書	土師器・坏	体外	A188-7	
3	□	ヘラ書			A189-14	
4	□	墨書	土師器・高坏	体外	A190-18	内黒・外面赤彩
5	□	墨書	土師器・坏	体外	A191-19	内黒・外面赤彩
6	×	線刻	須恵器・坏	底外	A192-20	
7	×	線刻	土師器・坏	底内	A193-36	
8	×	ヘラ書	須恵器・甕	腹外	A194-40	
9	□竹	墨書	土師器・坏	体外	A195-41	
10	竹	墨書	土師器・坏	体外	A196-42	
11	□	墨書	土師器・坏	底外	A197-43	
12	竹	墨書	土師器・坏	体外	A198-7	
13	竹	墨書	土師器・坏	体外	A199-19	
14	(人面) 下総國印旛郡村神郷 文マ旗刀白呼台代進 上 延暦十年十月十二日	墨書	土師器・甕	腹外	正位	A200-36
15	清人?	墨書	土師器・坏	底外	B-060-1	
16	□	墨書	土師器・坏	体外	B-061-3	
17	□	墨書	土師器・坏	体外	B-061-5	
18	□	墨書	土師器・坏	体外	B-065-2	
19	□	墨書	土師器・坏	体外	B-065-3	
20	□	墨書	土師器・坏	底内	A-194-3	底外スス
21	□	線刻	土師器・坏	底内	A-194-4	
22	□・西	墨書	土師器・坏	体外 底内	A194-13	
23	西	墨書	土師器・坏	底内	A194-14	
24	西	墨書	土師器・坏	底内	A-194-15	
25	□	墨書	土師器・坏	体外	A-194-17	
26	西	墨書	土師器・皿	体外	A-194-18	
27	西	墨書	土師器・坏	体外	A-194-19	
28	□	墨書	土師器・坏	体外	A-194-20	
29	□	墨書	土師器・坏	底内	A-194-21	
30	□	墨書	土師器・坏	体外	A-194-22	内黒
31	□	墨書	土師器・坏	体外	A-194-23	内黒
32	□	ヘラ書	土師器・坏	底外	A-194-24	内黒
33	□	ヘラ書	須恵器・坏	底外	A-194-25	

	形状	種別	器種	部位	出土遺構	備考
34	×	刻	須恵器・坏	底内		A-196-5
35	□	ヘラ書	須恵器・壺	底内		A-198-15
36	□	墨書	土師器・坏	体外		A-199-8
37	×	刻	須恵器・坏			A200-3
38	□	墨書	須恵器・坏	底外		A201-6
39	□	墨書	土師器・坏	体外		A201-10
40	□	墨書	土師器・甕	底内		A201-11
41	×	線刻	須恵器・坏			A202-8
42	×	線刻	須恵器・坏	底外		A203-9
43	□	墨書	土師器・坏	底外		A203-14
44	竹	墨書	土師器・坏	体外		A203-15
45	竹	墨書	土師器・坏	体外		A203-16
46	竹	墨書	土師器・坏	体外		A208-14
47	□	墨書	土師器・坏	底外		A208-15
48	□	墨書	土師器・坏	体外		A208-16
49	□	墨書	土師器・坏	山縁部 片		A208-17
50		墨書?	土師器・坏			A209-1
51		墨書?	土師器・坏			A209-2
52	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-3
53	竹	墨書	土師器・坏	体外		A209-4
54		墨書?	土師器・坏			A209-7
55	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-8
56	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-11
57	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-12
58	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-13
59	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-14
60	□	墨書	土師器・高皿	体内		A209-22
61	竹	墨書	土師器・皿	体内		A209-24
62	□	墨書	土師器・皿	体内		A209-25
63	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-38
64	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-39
65	□	線刻	土師器・坏	底内		A209-40
66	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-41
67	□	墨書	土師器・坏	体外		A209-42

	釈文	種別	器種	部位	出土遺構	備考
68	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-43	内黒
69	竹	墨書	土師器・坏	体外	A209-44	内黒
70	竹	墨書	土師器・坏	体外	A209-45	
71	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-46	
72	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-47	
73	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-48	内黒
74	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-49	内黒
75	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-50	
76	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-51	
77	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-52	
78	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-53	
79	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-54	
80	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-55	
81	万	墨書	土師器・坏	体外	A209-56	
82	□	ヘラ書	土師器・坏	底外	A209-57	
83	□	線刻	土師器・坏	底外	A209-58	内黒
84	□	墨書	土師器・坏	体外	A209-76	
85	□	墨書	土師器・坏	体外	A210-18	
86	□	墨書	土師器・壺		A210-19	
87	山	墨書	土師器・坏	体外	A211-2	
88	□	墨書	土師器・坏	体外	A211-9	
89	□	墨書	土師器・坏	体外	A211-10	
90	竹野	墨書	土師器・坏	体外	A214-1	底内スス?
91		墨書	土師器・坏	底外?	A215-2	
92	西	墨書	土師器・坏	底内	A215-6	内黒
93	□	墨書	土師器・坏		A215-11	内黒
94	□	墨書	土師器・坏		A215-12	
95	□	墨書	土師器・坏		A215-13	
96	□	墨書	土師器・坏		A215-14	
97	新	墨書	土師器・坏	体外	A215-15	
98	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-16	
99	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-17	
100	竹	墨書	土師器・坏	体外	A215-18	
101	竹	墨書	土師器・坏	体外	A215-19	

	釈文	種別	器種	部位	出土遺構	備考
102	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-20	
103	竹	墨書	土師器・坏	体外	A215-21	内黒
104	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-22	
105	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-23	
106	□	墨書	土師器・坏	体内	A215-24	外面?
107	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-25	
108	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-26	
109	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-27	
110	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-28	
111	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-29	
112	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-30	
113	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-31	内黒
114	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-32	
115	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-33	
116	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-34	
117	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-35	
118	□	墨書	土師器・坏	体外	A215-36	
119	□	墨書	土師器・坏	底外	B095-1	
120	西	墨書	土師器・坏	底外	B096-1	
121	□	墨書	土師器・甕	胴部片	B096-2	
122	□	墨書	土師器・坏	底外	B097-1	
123	竹	墨書	土師器・坏	体外	B100-2	
124	竹	墨書	土師器・坏	体外	B100-3	
125	竹	墨書	土師器・坏	体外	B100-4	
126	□	墨書	土師器・坏		B102-3	
127	□	墨書	土師器・坏	体外	B107-2	
128		墨書?	土師器・坏		B108-2	体外ケール
129		墨書?	土師器・坏		B110-2	
130		墨書?	土師器・坏		B110-3	
131	竹	墨書	土師器・坏	体外	E003-2	
132	□	墨書	土師器・坏	体外	E003-3	
133	□	ヘラ書	須恵器・坏	底外	A216-4	
134	□	線刻	須恵器・高坏	底外	A216-9	
135	□	墨書	土師器・坏		F247-5	

	积文	種別		器種	部位	出土遺構	備考
136	□	墨書		土師器・坏		F247-6	
137	□	墨書		土師器・坏	体外	D268-12	
138	才	ヘラ書		須恵器・坏	体外	D268-27	
139	才	墨書		土師器・坏	体外	D268-31	
140	□□	墨書		土師器・坏	体外	D268-32	
141	□	墨書		土師器・坏	体外	D268-33	
142	竹野	墨書		土師器・坏		A225-1	
143	寺□	墨書		土師器・坏		B004-1	

写 真 图 版



上谷遺跡全景（南側から）

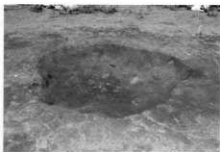


上谷遺跡Ⅳ地区遺構検出状況





F151



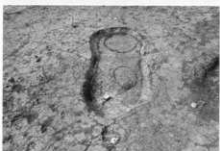
F152



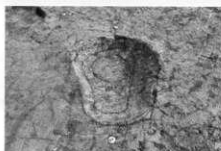
F153



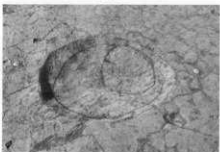
F154



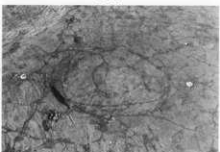
F155



F156



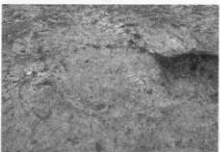
F157



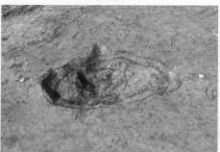
F158



F159



F160



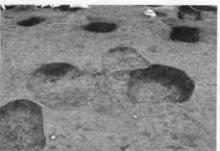
F161



F162



F163



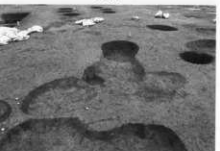
F164



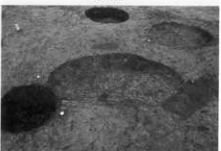
F165



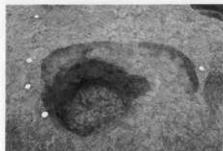
F166



F167



F168



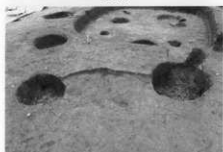
F169



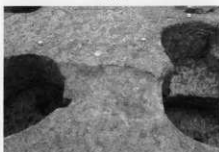
F170



F171



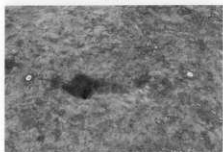
F172



F173



F174



F175



F176



F177



F178



F179



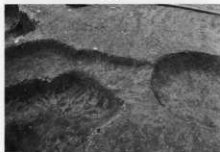
F180



F181



F182



F183



F184



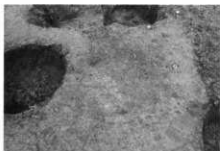
F185



F186



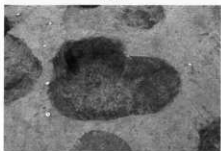
F187



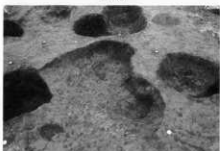
F188



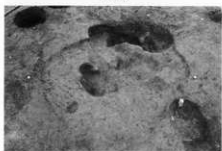
F189



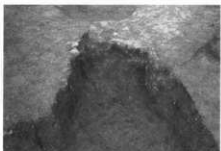
F190



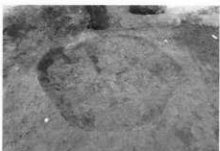
F191



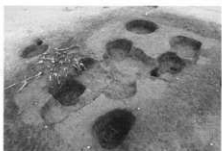
F193



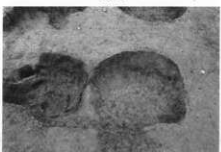
F194



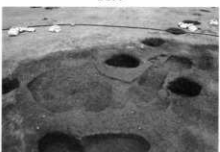
F195



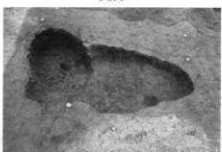
F196



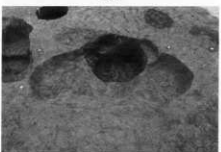
F197



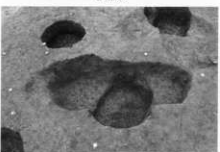
F198



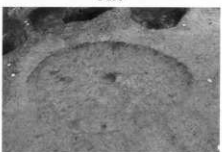
F199



F200



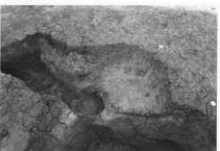
F201



F202



F203



F204



F205